

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第154集  
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第18集

# 神保富士塚遺跡

《本 文 編》

1 9 9 3

群 馬 県 教 育 委 員 会  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
日 本 道 路 公 団





（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第154集  
関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第18集

# 神保富士塚遺跡

《本文編》

1 9 9 3

群 馬 県 教 育 委 員 会  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
日 本 道 路 公 団





調査前遠景（西より）



遺跡遠景（西より）



土坑出土の弥生土器

## 序

西毛の鍋川流域は、武蔵国から信濃国への交通の要路として早くからひらけてきました。その要路に高速道の上信越自動車道が建設されることになり、工事によって消滅するところの埋蔵文化財の発掘調査が昭和61年度よりはじまりました。

高速道が通過する吉井町神保の上神保地区も、埋蔵文化財調査の対象となりました。上神保地区は、上毛三山を始め上信国境の山々が一望できる景観の良き地があります。当地区は、吉井町内にある特別史跡「多胡碑」と関連する辛科神社が鎮座、また100基よりなる神保古墳群も存在し、古墳時代後期から平安時代にかけて大いに栄えた地区でありました。

発掘調査は、昭和62年10月から63年10月までの間行われましたが、丘陵上の遺跡より、古墳時代から平安時代までの竪穴住居跡173軒、弥生時代中期の土坑等貴重な遺構・遺物が発見され、この地域の歴史を解明する上で大いなる成果がありました。これら貴重な遺構・遺物等の資料は、平成3・4年度に報告書刊行のための整理作業を行い、計画どおりに作業が終了したので、調査報告書を上梓することにしました。

発掘調査から報告書刊行に至るまで日本道路公団東京第2建設局、群馬県教育委員会、吉井町教育委員会、地元関係者等より種々のご援助、ご指導、ご協力を賜りました。ここに深甚なる感謝の意を表し、本報告書が本県の歴史の解明および資料として、広く活用されることを願ひ序とします。

平成5年3月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小寺弘之



## 例 言

1. 本書は、関越自動車道（上越線）建設工事に伴い事前調査された「神保富士塚遺跡」の発掘調査報告書である。
2. 神保富士塚遺跡は、群馬県多野郡吉井町大字神保字富士塚・仁賀久保・地神木・門出・比良他に所在する。
3. 発掘調査は、日本道路公団の委託を受けた群馬県教育委員会が、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して行われた。

### 4. 調査期間及び担当者

- (1) 発掘調査期間 昭和62年10月15日～昭和63年11月15日  
担 当 者 昭和62年度 小林敏夫、小野和之、鹿沼栄輔  
昭和63年度 小林敏夫、小野和之、飯塚初子
- (2) 整理期間 平成3年4月1日～平成5年3月31日  
担 当 者 小野和之
- (3) 事 務 常務理事 白石保三郎（昭和62～63年度）、邊見長雄（平成3・4年度）  
事務局長 井上唯雄（昭和62年度）、松本浩一（昭和63～平成3年度）  
近藤 功（平成4年度）  
管理部長 田口紀雄（昭和62年度）、佐藤 勉（平成3・4年度）  
研究部長 上原啓巳（昭和62～63年度）、神保侑史（平成元年度～平成4年度）  
庶務課 課 長 斎藤俊一  
主任 国定 均、笠原秀樹、須田朋子、吉田有光  
主事 柳岡良宏、船津 茂、高橋定義  
非常勤職員 松下 登  
臨時職員 野島のお江、今井もと子、角田みづほ、松井美智代、塩浦ひろみ  
関越道上越線調査事務所長 井上 信（昭和62～63年度）、高橋一夫（平成元・2年度）  
阿部千明（平成3年度）、吉田 肇（平成4年度）  
総括次長 片桐光一（昭和62～平成元年度）、大沢友治（平成2～3）  
次 長 原田恒弘（昭和62年度）、徳江紀（昭和63～平成2年度）  
課 長 鬼形芳夫（昭和63年度）、依田治雄（平成3年・4年度）  
庶務課 係長代理 黒沢重樹（昭和62～63年度）  
主任 国定均、笠原秀樹、  
臨時職員 山崎郁夫、神戸市四郎、町田康子、本城美樹、後関玲子、田中智恵美

### 5. 報告書作成関係者

- 本文執筆 関口博幸（第3章、第1節）、小野和之（前記以外）  
編集担当 小野和之  
遺構写真 小林敏夫、小野和之、鹿沼栄輔、飯塚初子  
遺物写真 佐藤元彦  
保存処理 関 邦一、土橋まり子、小村浩一、樋口一之

整理補助員 平野麗美、大友幸江、笠井初子、筑井弘子、大野容子、掛川智子、吉沢やよい、  
吉原清乃

6. 石材鑑定は（群馬地質研究会）飯島静男氏に依頼した。
7. 馬歯の鑑定は（大間々高等学校）宮崎重雄氏に依頼した。
8. 発掘調査および報告書作成にあたり下記の方々より種々のご協力、ご教示をいただいた。記して感謝する次第である。（敬称略）

吉井町教育委員会、鍋川用水管理組合、吉井町農業共同組合、滝上東一、柿沼恵介、田口一郎、若狭徹、五十嵐信、東野治之、仲野泰裕、小山岳夫、山口明、利根川章彦

9. 本書を作成するにあたり事業団職員諸氏により多くのご教示を受けた。記して感謝する次第である。



## 凡 例

1. 遺構図の方位記号は国家座標の北を表している。座標系は国家座標第IX系である。
2. 遺構断面図、等高線に付した数字は標高を表す。
3. 遺構実測図の縮尺は基本的に次の通りである。  
住居、掘立柱建物跡は1/60、竈1/30、土坑1/40（一部1/20）
4. 遺物実測図の縮尺は次の通りである。  
土器1/3、石器1/3または1/2 小形石製品1/1 鉄製品1/2 土器の拓影図1/3 これら以外については図中に記した。
5. 欠番の遺構については、番号を記載し欠番と明示してある。
6. 遺構の位置を示すグリッドの表記は、その遺構が面積的に最も多く掛かるグリッド名を示した。
7. 遺構図中のスクリーン・トーンおよび記号は下記のことを示す。

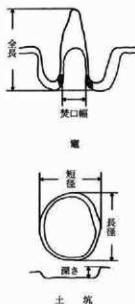
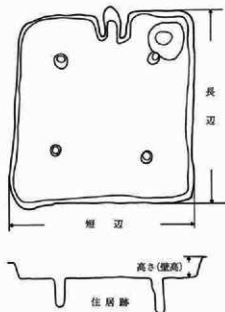


8. 遺物図中のスクリーン・トーンは下記のことを示す。



これら以外については図中に明記した。

9. 各遺構の計測は下記のように行なった。



# 目 次

序	
例 言	
凡 例	
抄 録	

## 第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経過	3
第2節 調査の方法と経過	5
第3節 調査日誌抄	6

## 第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境	8
第2節 歴史的環境	9
第3節 基本土層	12

## 第3章 検出された遺構と遺物

第1節 旧石器時代の遺構と遺物	13
第2節 縄文時代の遺構と遺物	18
1. 住居跡	18
2. 土 坑	22
第3節 弥生時代の遺構と遺物	33
1. 土 坑	33
第4節 古墳時代の住居跡と遺物	74
第5節 奈良・平安時代の住居跡と遺物	177
第6節 掘立柱建物跡	475
第7節 溝	486
第8節 土坑	513
第9節 ビット	549
第10節 土器集積	551
第11節 グリッド出土遺物	571

## 第4章 ま と め

第1節 縄文時代	581
第2節 弥生時代	583
第3節 古墳・奈良・平安時代	589

## 挿 図 目 次

第 1 図	試掘トレンチ配置図	4	第 60 図	162号土坑及び出土遺物	49
第 2 図	グリッド設定図	6	第 61 図	165号土坑及び出土遺物	50
第 3 図	周辺の地形	8	第 62 図	166号土坑及び出土遺物	50
第 4 図	周辺の遺跡	9	第 63 図	170号土坑	51
第 5 図	基本土層図	12	第 64 図	170号土坑出土遺物(1)	51
第 6 図	旧石器試掘グリッド配置図	13	第 65 図	170号土坑出土遺物(2)	52
第 7 図	旧石器時代調査範囲	14	第 66 図	170号土坑出土遺物(3)	53
第 8 図	石器・礫出土分布図	15	第 67 図	171号土坑	54
第 9 図	出土遺物(1)	16	第 68 図	171号土坑出土遺物(1)	55
第 10 図	出土遺物(2)	17	第 69 図	171号土坑出土遺物(2)	56
第 11 図	縄文時代の遺構分布図	18	第 70 図	171号土坑出土遺物(3)	57
第 12 図	28号住居跡	19	第 71 図	172号土坑及び出土遺物	57
第 13 図	28号住居跡出土遺物(1)	20	第 72 図	173号土坑	58
第 14 図	28号住居跡出土遺物(2)	21	第 73 図	173号土坑出土遺物(1)	58
第 15 図	153号住居跡及び出土遺物	22	第 74 図	173号土坑出土遺物(2)	59
第 16 図	158号住居跡	22	第 75 図	174号土坑	60
第 17 図	158号住居跡出土遺物	23	第 76 図	174号土坑出土遺物(1)	61
第 18 図	35号土坑及び出土遺物	23	第 77 図	174号土坑出土遺物(2)	62
第 19 図	80号土坑及び出土遺物	23	第 78 図	175号土坑	63
第 20 図	104号土坑及び出土遺物	24	第 79 図	175号土坑出土遺物	63
第 21 図	121号土坑及び出土遺物	24	第 80 図	177号土坑	64
第 22 図	138号土坑及び出土遺物	25	第 81 図	177号土坑出土遺物(1)	65
第 23 図	143号土坑及び出土遺物	26	第 82 図	177号土坑出土遺物(2)	66
第 24 図	160号土坑及び出土遺物	26	第 83 図	177号土坑出土遺物(3)	67
第 25 図	161号土坑及び出土遺物	27	第 84 図	178号土坑及び出土遺物	68
第 26 図	164号土坑及び出土遺物	27	第 85 図	180号土坑	68
第 27 図	179号土坑及び出土遺物	28	第 86 図	182号土坑及び出土遺物	69
第 28 図	グリッド出土遺物(1)	29	第 87 図	グリッド出土土器(1)	70
第 29 図	グリッド出土遺物(2)	29	第 88 図	グリッド出土土器(2)	71
第 30 図	グリッド出土遺物(3)	31	第 89 図	グリッド出土土器(3)	72
第 31 図	グリッド出土遺物(4)	32	第 90 図	1号住居跡(折り込み)	75-76
第 32 図	弥生時代の遺構分布	33	第 91 図	1号住居跡炭化材出土状態	77
第 33 図	1区弥生土坑分布	34	第 92 図	1号住居跡竈	77
第 34 図	25号土坑	34	第 93 図	1号住居跡出土遺物(1)	78
第 35 図	25号土坑出土遺物	35	第 94 図	1号住居跡出土遺物(2)	79
第 36 図	30号土坑	35	第 95 図	1号住居跡出土遺物(3)	80
第 37 図	30号土坑出土遺物	36	第 96 図	15号住居跡	82
第 38 図	39号土坑及び出土遺物	37	第 97 図	15号住居跡竈	82
第 39 図	105号土坑及び出土遺物	38	第 98 図	15号住居跡出土遺物(1)	83
第 40 図	106号土坑及び出土遺物	39	第 99 図	15号住居跡出土遺物(2)	84
第 41 図	107号土坑	39	第100 図	27号住居跡	84
第 42 図	107号土坑出土遺物	40	第101 図	27号住居跡出土遺物	85
第 43 図	108号土坑及び出土遺物	40	第102 図	29号住居跡	85
第 44 図	109号土坑	41	第103 図	29号住居跡竈	86
第 45 図	109号土坑出土遺物(1)	41	第104 図	29号住居跡出土遺物	86
第 46 図	109号土坑出土遺物(2)	42	第105 図	30号住居跡	87
第 47 図	110号土坑	42	第106 図	30号住居跡竈	88
第 48 図	110号土坑出土遺物	43	第107 図	30号住居跡出土遺物	88
第 49 図	139号土坑及び出土遺物	43	第108 図	31号住居跡	89
第 50 図	140号土坑	44	第109 図	31号住居跡出土遺物	90
第 51 図	140号土坑出土遺物	44	第110 図	33号住居跡及び出土遺物	90
第 52 図	141号土坑及び出土遺物	44	第111 図	34号住居跡	91
第 53 図	142号土坑及び出土遺物	45	第112 図	34号住居跡竈	91
第 54 図	145号土坑及び出土遺物	45	第113 図	34号住居跡出土遺物	92
第 55 図	154号土坑及び出土遺物	45	第114 図	35号住居跡	93
第 56 図	155号土坑	46	第115 図	35号住居跡竈	94
第 57 図	155号土坑出土遺物(1)	47	第116 図	35号住居跡出土遺物(1)	94
第 58 図	155号土坑出土遺物(2)	48	第117 図	35号住居跡出土遺物(2)	95
第 59 図	159号土坑及び出土遺物	49	第118 図	36号住居跡	95

第119回	36号住居跡電	96	第181回	108号住居跡出土遺物	154
第120回	36号住居跡出土遺物	96	第182回	117号住居跡遺物出土状態	155
第121回	38号住居跡	97	第183回	117号住居跡	156
第122回	38号住居跡電	98	第184回	117号住居跡出土遺物(1)	157
第123回	38号住居跡出土遺物	98	第185回	117号住居跡出土遺物(2)	158
第124回	40A号住居跡(1)	100	第186回	120号住居跡(1)	159
第125回	40A号住居跡(2)	101	第187回	120号住居跡(2)	160
第126回	40A号住居跡出土遺物(1)	102	第188回	120号住居跡電	160
第127回	40A号住居跡出土遺物(2)	103	第189回	120号住居跡出土遺物(1)	161
第128回	43号住居跡(1)	104	第190回	120号住居跡出土遺物(2)	162
第129回	43号住居跡(2)	105	第191回	120号住居跡出土遺物(3)	163
第130回	43号住居跡電	105	第192回	126号住居跡	165
第131回	43号住居跡出土遺物	106	第193回	126号住居跡電	165
第132回	44号住居跡	107	第194回	126号住居跡出土遺物	166
第133回	44号住居跡電	108	第195回	143号住居跡	167
第134回	44号住居跡出土遺物(1)	109	第196回	143号住居跡電	168
第135回	44号住居跡出土遺物(2)	110	第197回	143号住居跡出土遺物(1)	168
第136回	44号住居跡出土遺物(3)	111	第198回	143号住居跡出土遺物(2)	169
第137回	46号住居跡	113	第199回	143号住居跡出土遺物(3)	170
第138回	46号住居跡電	114	第200回	150号住居跡(1)	171
第139回	46号住居跡出土遺物	114	第201回	150号住居跡(2)	172
第140回	48号住居跡(1)	115	第202回	150号住居跡電	172
第141回	48号住居跡(2)	116	第203回	150号住居跡出土遺物	173
第142回	48号住居跡電	116	第204回	164号住居跡	173
第143回	48号住居跡出土遺物	116	第205回	164号住居跡出土遺物	174
第144回	52号住居跡	117	第206回	169号住居跡	174
第145回	52号住居跡出土遺物	118	第207回	169号住居跡出土遺物	175
第146回	54号住居跡	119	第208回	170号住居跡	175
第147回	54号住居跡電	119	第209回	170号住居跡出土遺物	176
第148回	54号住居跡出土遺物	120	第210回	2号住居跡(1)	177
第149回	55号住居跡	121	第211回	2号住居跡(2)	178
第150回	55号住居跡電(1)	122	第212回	2号住居跡電	178
第151回	55号住居跡電(2)	122	第213回	2号住居跡出土遺物(1)	179
第152回	55号住居跡出土遺物(1)	123	第214回	2号住居跡出土遺物(2)	180
第153回	55号住居跡出土遺物(2)	124	第215回	3号住居跡及び竈	181
第154回	58号住居跡(折り込み)	125・126	第216回	3号住居跡出土遺物(1)	182
第155回	58号住居跡電	127	第217回	3号住居跡出土遺物(2)	183
第156回	58号住居跡出土遺物	128	第218回	3号住居跡出土遺物(3)	184
第157回	61B号住居跡	130	第219回	4号住居跡	185
第158回	61B号住居跡電	130	第220回	4号住居跡電	186
第159回	61B号住居跡出土遺物	131	第221回	4号住居跡出土遺物	186
第160回	64号住居跡(1)	132	第222回	5号住居跡	187
第161回	65号住居跡(2)	133	第223回	5号住居跡電	188
第162回	65号住居跡電	134	第224回	5号住居跡出土遺物(1)	188
第163回	65号住居跡出土遺物(1)	135	第225回	5号住居跡出土遺物(2)	189
第164回	65号住居跡出土遺物(2)	136	第226回	6号住居跡	190
第165回	72号住居跡(1)	140	第227回	6号住居跡電	191
第166回	72号住居跡(2)	141	第228回	6号住居跡出土遺物	191
第167回	72号住居跡電	141	第229回	7号住居跡	192
第168回	72号住居跡出土遺物(1)	142	第230回	7号住居跡電	192
第169回	72号住居跡出土遺物(2)	143	第231回	7号住居跡出土遺物	193
第170回	72号住居跡出土遺物(3)	144	第232回	8号住居跡	194
第171回	73号住居跡(1)	146	第233回	8号住居跡電	195
第172回	73号住居跡(2)	147	第234回	8号住居跡出土遺物(1)	195
第173回	73号住居跡出土遺物	147	第235回	8号住居跡出土遺物(2)	196
第174回	74B号住居跡(1)	148	第236回	9号住居跡	197
第175回	74B号住居跡(2)	149	第237回	9号住居跡電	198
第176回	74B号住居跡電	149	第238回	9号住居跡出土遺物(1)	198
第177回	74B号住居跡出土遺物	150	第239回	9号住居跡出土遺物(2)	199
第178回	94号住居跡及び竈(折り込み)	151・152	第240回	9号住居跡出土遺物(3)	200
第179回	94号住居跡出土遺物	153	第241回	10号住居跡	202
第180回	108号住居跡	154	第242回	10号住居跡電	202

第243圖	10号住居跡出土遺物(1)	203
第244圖	10号住居跡出土遺物(2)	204
第245圖	11号住居跡	205
第246圖	11号住居跡	205
第247圖	11号住居跡出土遺物	206
第248圖	12号住居跡	207
第249圖	12号住居跡	208
第250圖	12号住居跡出土遺物(1)	208
第251圖	12号住居跡出土遺物(2)	209
第252圖	13号住居跡	211
第253圖	13号住居跡	211
第254圖	13号住居跡出土遺物	212
第255圖	14号住居跡	213
第256圖	14号住居跡	213
第257圖	14号住居跡出土遺物(1)	214
第258圖	14号住居跡出土遺物(2)	215
第259圖	16号住居跡	216
第260圖	16号住居跡	217
第261圖	16号住居跡掘り方	217
第262圖	16号住居跡出土遺物	218
第263圖	17号住居跡	219
第264圖	17号住居跡	219
第265圖	17号住居跡出土遺物	220
第266圖	18号住居跡	221
第267圖	18号住居跡	221
第268圖	18号住居跡出土遺物	222
第269圖	19号住居跡	224
第270圖	19号住居跡出土遺物	224
第271圖	20号住居跡及び竈	225
第272圖	20号住居跡出土遺物	225
第273圖	21号住居跡	226
第274圖	21号住居跡出土遺物(1)	226
第275圖	21号住居跡出土遺物(2)	227
第276圖	22号住居跡	228
第277圖	22号住居跡出土遺物	228
第278圖	23号住居跡	229
第279圖	23号住居跡出土遺物	229
第280圖	24号住居跡	230
第281圖	24号住居跡	230
第282圖	24号住居跡出土遺物	231
第283圖	25号住居跡	232
第284圖	25号住居跡	233
第285圖	25号住居跡出土遺物	233
第286圖	26号住居跡	234
第287圖	26号住居跡	234
第288圖	26号住居跡出土遺物	235
第289圖	32号住居跡	235
第290圖	32号住居跡	236
第291圖	32号住居跡出土遺物	236
第292圖	37号住居跡	237
第293圖	37号住居跡	238
第294圖	37号住居跡出土遺物	239
第295圖	39号住居跡	241
第296圖	39号住居跡	242
第297圖	39号住居跡出土遺物	242
第298圖	41号住居跡	243
第299圖	41号住居跡	244
第300圖	41号住居跡出土遺物	244
第301圖	45号住居跡	245
第302圖	45号住居跡	246
第303圖	45号住居跡出土遺物	246
第304圖	47号住居跡	247

第305圖	47号住居跡	247
第306圖	47号住居跡出土遺物	248
第307圖	49号住居跡	249
第308圖	49号住居跡	250
第309圖	49号住居跡出土遺物	250
第310圖	50号住居跡	251
第311圖	50号住居跡	251
第312圖	50号住居跡出土遺物	252
第313圖	51号住居跡	252
第314圖	51号住居跡	253
第315圖	51号住居跡出土遺物(1)	254
第316圖	51号住居跡出土遺物(2)	255
第317圖	53号住居跡	257
第318圖	53号住居跡出土遺物	257
第319圖	56号住居跡	258
第320圖	56号住居跡	258
第321圖	56号住居跡出土遺物	259
第322圖	57号住居跡	261
第323圖	57号住居跡	261
第324圖	57号住居跡出土遺物	262
第325圖	59号住居跡	263
第326圖	59号住居跡	263
第327圖	59号住居跡出土遺物	264
第328圖	60号住居跡	265
第329圖	60号住居跡	265
第330圖	60号住居跡出土遺物	266
第331圖	61A号住居跡	267
第332圖	61A号住居跡	268
第333圖	61A号住居跡出土遺物	269
第334圖	62号住居跡	270
第335圖	62号住居跡出土遺物	271
第336圖	63A・B号住居跡	272
第337圖	63A号住居跡出土遺物	273
第338圖	63B号住居跡	274
第339圖	63B号住居跡出土遺物	274
第340圖	64号住居跡(1)	275
第341圖	64号住居跡(2)	276
第342圖	64号住居跡	276
第343圖	64号住居跡出土遺物	277
第344圖	66号住居跡	278
第345圖	66号住居跡	279
第346圖	66号住居跡出土遺物	280
第347圖	67号住居跡	279
第348圖	67号住居跡	281
第349圖	67号住居跡出土遺物	281
第350圖	68号住居跡	282
第351圖	68号住居跡	283
第352圖	68号住居跡出土遺物	283
第353圖	70号住居跡	284
第354圖	70号住居跡出土遺物	284
第355圖	71号住居跡	285
第356圖	71号住居跡出土遺物	286
第357圖	74A号住居跡	287
第358圖	74A号住居跡	287
第359圖	74A号住居跡出土遺物	288
第360圖	75号住居跡	290
第361圖	75号住居跡	291
第362圖	75号住居跡出土遺物(1)	291
第363圖	75号住居跡出土遺物(2)	292
第364圖	75号住居跡出土遺物(3)	293
第365圖	76号住居跡	296
第366圖	76号住居跡出土遺物	296

第367回	78号住居跡及び出土遺物	296	第429回	104号住居跡出土遺物	334
第368回	79号住居跡	296	第430回	105号住居跡	334
第369回	80号住居跡	297	第431回	105号住居跡電及び出土遺物	335
第370回	80号住居跡電	298	第432回	106号住居跡	335
第371回	80号住居跡出土遺物	298	第433回	106号住居跡電	336
第372回	81号住居跡	299	第434回	106号住居跡出土遺物	336
第373回	81号住居跡電	300	第435回	107号住居跡	337
第374回	81号住居跡出土遺物(1)	300	第436回	107号住居跡電	338
第375回	81号住居跡出土遺物(2)	301	第437回	107号住居跡床下土坑	338
第376回	82号住居跡	302	第438回	107号住居跡出土遺物(1)	339
第377回	82号住居跡電	302	第439回	107号住居跡出土遺物(2)	340
第378回	82号住居跡出土遺物	303	第440回	109号住居跡	342
第379回	83号住居跡(1)	305	第441回	109号住居跡電	342
第380回	83号住居跡(2)	306	第442回	110号住居跡	343
第381回	83号住居跡電	306	第443回	110号住居跡電	343
第382回	83号住居跡出土遺物	306	第444回	110号住居跡出土遺物	344
第383回	84号住居跡	307	第445回	111号住居跡	345
第384回	84号住居跡出土遺物	307	第446回	111号住居跡電	345
第385回	86号住居跡	308	第447回	111号住居跡出土遺物	346
第386回	86号住居跡電	308	第448回	112号住居跡	347
第387回	86号住居跡出土遺物(1)	309	第449回	112号住居跡電	348
第388回	86号住居跡出土遺物(2)	310	第450回	112号住居跡出土遺物	348
第389回	87号住居跡	311	第451回	113号住居跡	349
第390回	87号住居跡電	311	第452回	113号住居跡電	349
第391回	87号住居跡出土遺物	312	第453回	113号住居跡出土遺物	350
第392回	88号住居跡	313	第454回	114号住居跡	351
第393回	88号住居跡出土遺物	313	第455回	114号住居跡電	351
第394回	89号住居跡	314	第456回	114号住居跡出土遺物(1)	352
第395回	89号住居跡電及び出土遺物	314	第457回	114号住居跡出土遺物(2)	353
第396回	90号住居跡	315	第458回	115号住居跡	354
第397回	90号住居跡出土遺物	315	第459回	115号住居跡電	355
第398回	91号住居跡	316	第460回	115号住居跡出土遺物	355
第399回	91号住居跡出土遺物	317	第461回	116号住居跡	356
第400回	92号住居跡	317	第462回	116号住居跡電	357
第401回	92号住居跡電	318	第463回	116号住居跡出土遺物(1)	357
第402回	92号住居跡出土遺物	318	第464回	116号住居跡出土遺物(2)	358
第403回	93号住居跡	319	第465回	116号住居跡出土遺物(3)	359
第404回	93号住居跡電	320	第466回	118号住居跡	361
第405回	93号住居跡出土遺物(1)	320	第467回	118号住居跡電	361
第406回	93号住居跡出土遺物(2)	321	第468回	118号住居跡出土遺物	362
第407回	95号住居跡	321	第469回	119号住居跡	363
第408回	96号住居跡	322	第470回	119号住居跡電	363
第409回	96号住居跡出土遺物	322	第471回	119号住居跡出土遺物	364
第410回	97号住居跡	323	第472回	121号住居跡	365
第411回	97号住居跡出土遺物	323	第473回	121号住居跡電	366
第412回	98号住居跡	324	第474回	121号住居跡出土遺物	366
第413回	98号住居跡出土遺物	324	第475回	122号住居跡	367
第414回	99号住居跡	325	第476回	122号住居跡出土遺物(1)	367
第415回	99号住居跡電	325	第477回	122号住居跡出土遺物(2)	368
第416回	99号住居跡出土遺物	325	第478回	122号住居跡出土遺物(3)	369
第417回	100号住居跡	326	第479回	123号住居跡	370
第418回	100号住居跡電	327	第480回	123号住居跡出土遺物	370
第419回	100号住居跡出土遺物	327	第481回	124号住居跡	371
第420回	101号住居跡	328	第482回	124号住居跡出土遺物	371
第421回	101号住居跡電	329	第483回	125号住居跡	372
第422回	101号住居跡出土遺物(1)	329	第484回	125号住居跡電及び出土遺物	373
第423回	101号住居跡出土遺物(2)	329	第485回	127号住居跡	374
第424回	102号住居跡	331	第486回	127号住居跡電	374
第425回	102号住居跡電	332	第487回	127号住居跡出土遺物(1)	375
第426回	102号住居跡出土遺物	332	第488回	127号住居跡出土遺物(2)	376
第427回	103号住居跡	333	第489回	128号住居跡	377
第428回	104号住居跡	333	第490回	128号住居跡電	378

第491區	128号住居跡出土遺物	378	第553區	150号住居跡	421
第492區	129号住居跡	379	第554區	150号住居跡電	422
第493區	129号住居跡電	379	第555區	150号住居跡出土遺物	422
第494區	129号住居跡出土遺物(1)	379	第556區	151号住居跡	423
第495區	129号住居跡出土遺物(2)	380	第557區	151号住居跡電	424
第496區	129号住居跡出土遺物(3)	381	第558區	151号住居跡出土遺物(1)	424
第497區	130号住居跡	382	第559區	151号住居跡出土遺物(2)	425
第498區	130号住居跡出土遺物	382	第560區	152号住居跡	425
第499區	131号住居跡	383	第561區	152号住居跡出土遺物	426
第500區	131号住居跡電	384	第562區	154号住居跡	427
第501區	131号住居跡出土遺物(1)	384	第563區	154号住居跡電	427
第502區	131号住居跡出土遺物(2)	385	第564區	154号住居跡出土遺物(1)	428
第503區	131号住居跡出土遺物(3)	386	第565區	154号住居跡出土遺物(2)	429
第504區	132号住居跡	389	第566區	155号住居跡	430
第505區	132号住居跡電	390	第567區	155号住居跡電	430
第506區	132号住居跡出土遺物	390	第568區	155号住居跡出土遺物	431
第507區	133号住居跡	391	第569區	156号住居跡	432
第508區	133号住居跡電	391	第570區	156号住居跡電	433
第509區	133号住居跡出土遺物	391	第571區	156号住居跡出土遺物	433
第510區	134号住居跡	392	第572區	157号住居跡	434
第511區	134号住居跡電	392	第573區	157号住居跡出土遺物	434
第512區	135号住居跡	393	第574區	160号住居跡	435
第513區	135号住居跡電及び出土遺物	393	第575區	160号住居跡電	435
第514區	136号住居跡	394	第576區	160号住居跡出土遺物	436
第515區	136号住居跡電及び出土遺物	394	第577區	161号住居跡	436
第516區	137号住居跡	395	第578區	162号住居跡	437
第517區	137号住居跡電	395	第579區	162号住居跡電	437
第518區	137号住居跡出土遺物	396	第580區	162号住居跡出土遺物	438
第519區	138号住居跡及び電	397	第581區	163号住居跡	439
第520區	138号住居跡出土遺物	397	第582區	163号住居跡電	440
第521區	139号住居跡	398	第583區	163号住居跡出土遺物	440
第522區	139号住居跡電	399	第584區	166号住居跡	441
第523區	139号住居跡出土遺物	399	第585區	165号住居跡出土遺物	441
第524區	140号住居跡	400	第586區	166号住居跡	442
第525區	140号住居跡出土遺物	400	第587區	166号住居跡出土遺物	442
第526區	141号住居跡	401	第588區	167号住居跡	443
第527區	141号住居跡電	401	第589區	167号住居跡電	444
第528區	141号住居跡出土遺物	402	第590區	168号住居跡	444
第529區	142号住居跡	402	第591區	168号住居跡電	445
第530區	142号住居跡電	403	第592區	168号住居跡出土遺物	445
第531區	144号住居跡	403	第593區	171号住居跡	446
第532區	144号住居跡出土遺物	404	第594區	171号住居跡電	446
第533區	145号住居跡	405	第595區	171号住居跡出土遺物(1)	447
第534區	145号住居跡電	405	第596區	171号住居跡出土遺物(2)	448
第535區	145号住居跡出土遺物(1)	406	第597區	172号住居跡	449
第536區	145号住居跡出土遺物(2)	407	第598區	172号住居跡電	450
第537區	145号住居跡出土遺物(3)	408	第599區	172号住居跡出土遺物(1)	450
第538區	146号住居跡	409	第600區	172号住居跡出土遺物(2)	451
第539區	146号住居跡電	410	第601區	173号住居跡	453
第540區	146号住居跡出土遺物	410	第602區	173号住居跡電	453
第541區	147号住居跡	411	第603區	173号住居跡出土遺物	454
第542區	147号住居跡電	412	第604區	174号住居跡	455
第543區	147号住居跡出土遺物(1)	413	第605區	174号住居跡電	455
第544區	147号住居跡出土遺物(2)	414	第606區	175号住居跡	456
第545區	147号住居跡出土遺物(3)	415	第607區	175号住居跡電	456
第546區	148号住居跡	416	第608區	175号住居跡出土遺物	457
第547區	148号住居跡電	417	第609區	176号住居跡	458
第548區	148号住居跡出土遺物(1)	417	第610區	176号住居跡電	459
第549區	148号住居跡出土遺物(2)	418	第611區	176号住居跡出土遺物(1)	459
第550區	149号住居跡	419	第612區	176号住居跡出土遺物(2)	460
第551區	149号住居跡電	420	第613區	177~179号住居跡	462
第552區	149号住居跡出土遺物	420	第614區	177号住居跡出土遺物	463

第615図	179号住居跡出土遺物	463	第677図	土 坑(7)	520
第616図	180号住居跡	465	第678図	土 坑(8)	521
第617図	180号住居跡出土遺物(1)	465	第679図	土 坑(9)	522
第618図	180号住居跡出土遺物(2)	466	第680図	土 坑(10)	523
第619図	181号住居跡及び出土遺物	466	第681図	土 坑(11)	524
第620図	182号住居跡及び出土遺物	467	第682図	土 坑(12)	525
第621図	183号住居跡	468	第683図	土 坑(13)	526
第622図	183号住居跡竈	468	第684図	土 坑(14)	527
第623図	183号住居跡出土遺物	469	第685図	土 坑(15)	528
第624図	184号住居跡	470	第686図	土 坑(16)	529
第625図	184号住居跡竈	470	第687図	土 坑(17)	530
第626図	184号住居跡出土遺物	471	第688図	土 坑(18)	531
第627図	185号住居跡	472	第689図	土 坑(19)	532
第628図	185号住居跡出土遺物	473	第690図	土 坑(20)	533
第629図	186号住居跡	473	第691図	土 坑(21)	534
第630図	186号住居跡竈	474	第692図	土 坑(22)	535
第631図	186号住居跡出土遺物	474	第693図	土 坑(23)	536
第632図	1号獨立柱建物跡	475	第694図	土 坑(24)	537
第633図	2号獨立柱建物跡	476	第695図	土 坑(25)	538
第634図	3号獨立柱建物跡	477	第696図	土 坑(26)	539
第635図	4号獨立柱建物跡	478	第697図	土 坑(27)	540
第636図	5号獨立柱建物跡	479	第698図	土坑出土遺物(1)	541
第637図	5号獨立柱建物跡出土遺物	480	第699図	土坑出土遺物(2)	542
第638図	6号獨立柱建物跡	482	第700図	Ⅰ区 ビット群	549
第639図	7号獨立柱建物跡	483	第701図	Ⅲ区 ビット群	550
第640図	8号獨立柱建物跡	484	第702図	ビット出土遺物	551
第641図	9号獨立柱建物跡	484	第703図	1号土器集積出土状態	552
第642図	10号獨立柱建物跡	485	第704図	1号土器集積出土遺物(1)	553
第643図	溝全体図	487	第705図	1号土器集積出土遺物(2)	554
第644図	1号 溝	488	第706図	2号土器集積出土遺物(1)	556
第645図	1号溝馬歯・馬骨出土状態(折り込み)	489・490	第707図	2号土器集積出土遺物(2)	557
第646図	1号溝出土馬歯(1)	491	第708図	2号土器集積出土遺物(3)	558
第647図	1号溝出土馬歯(2)	492	第709図	2号土器集積出土遺物(4)	559
第648図	1号溝出土馬歯(3)	493	第710図	2号土器集積出土遺物(5)	560
第649図	2号 溝	495	第711図	2号土器集積出土遺物(6)	561
第650図	3号 溝	495	第712図	2号土器集積出土遺物(7)	562
第651図	5号 溝	496	第713図	2号土器集積出土遺物(8)	563
第652図	6号溝出土遺物	496	第714図	2号土器集積出土遺物(9)	564
第653図	6号 溝	497	第715図	2号土器集積出土遺物(10)	565
第654図	7号溝及び出土遺物	498	第716図	グリッド出土遺物(1)	572
第655図	8号 溝	498	第717図	グリッド出土遺物(2)	573
第656図	8号溝出土遺物	499	第718図	グリッド出土遺物(3)	574
第657図	9号 溝	499	第719図	黒瓦・磨崖式土器出土分布	582
第658図	11号溝出土遺物	499	第720図	時期別出土土器集・石器組成	582
第659図	10・11号溝	500	第721図	弥生土器出土量分布	583
第660図	12号 溝	501	第722図	土坑断面集成	584
第661図	12号溝出土遺物	502	第723図	弥生土器遺構関係図	585
第662図	13号 溝	502	第724図	土器集成図	587
第663図	15・16号溝(折り込み)	503・504	第725図	時代別住居軒数	589
第664図	15号溝遺物出土状態(折り込み)	505・506	第726図	住居実測図(1)	590
第665図	15号溝出土遺物(1)	507	第727図	住居実測図(2)	591
第666図	15号溝出土遺物(2)	508	第728図	時代別滑石製品出土数	592
第667図	15号溝出土遺物(3)	509	第729図	滑石製品出土遺構	593
第668図	16号溝出土遺物	510	第730図	県内出土の磁石	595
第669図	17・18・19号溝	511	第731図	時代別出土鉄物数	596
第670図	20・21・22・23号溝	512	第732図	時代別出土磁石数及び石材別グラフ	596
第671図	土 坑(1)	514	第733図	出土鉄製品種類別一覧	597
第672図	土 坑(2)	515	第734図	農圃(別冊)土器出土分布図	599
第673図	土 坑(3)	516			
第674図	土 坑(4)	517			
第675図	土 坑(5)	518			
第676図	土 坑(6)	519			



## 表 目 次

表 1	周辺の主要道路	10	表 5	溝 一 覧	513
表 2	石器・礫一覧	15	表 6	土坑一覧	545
表 3	孤立柱建物跡一覧	486	表 7	住居一覧	577
表 4	馬歯計測表	494	表 8	墨書(刻書)一覧	600

## 抄 録

### 1. 遺跡の概略

本遺跡は群馬県多野郡吉井町大字神保字富士塚他に所在する。遺跡の調査は昭和62年7月から開始され、昭和63年11月に終了した。東流する鍋川によって形成された東西に連なる河岸段丘は上部、下部に分かれ、これらの丘陵上には多くの遺跡が知られており、本遺跡の周辺部でも上信越自動車道開通の調査を初めとして各時代の遺跡が調査され、地域の歴史解明に新たな資料を加えつつある。

本遺跡では、調査の結果、旧石器時代から近世にかけての遺構、遺物を検出した。住居跡は古墳時代初頭から奈良・平安時代のものを中心に186軒が検出されており、その他掘立柱建物跡、溝、土坑が検出されているが、注目されるものとしては、弥生時代中期の土坑が調査区内東側、標高の比較的高い場所複数まともて検出されている。

### 2. 遺構数量

種 別	時 代	数 量	備 考
竪 穴 住 居	縄文前期	3	遺構 b・c
	古墳前期	4	竪、小形甕、翡翠製勾玉、碧玉製管玉
	古墳後期～平安	170	
掘 立 柱 建 物 跡	古墳後期～平安	10	
	平安～近世	23	馬歯
溝	平安～近世	186	弥生中期、江戸時代
土 坑	縄文～近世	2	土器多数、滑石製特殊遺物
土 器 集 積	平安	多数	若干の遺物
ピ ッ ト	縄文～近世	多数	若干の遺物

### 3. ま と め

- ・旧石器時代 東の丘陵上で彫刻器1点を含む黒曜石片、礫を検出している。層位的にはAS-1Pの前後と考えられる。
- ・縄文時代 遺構は住居跡3軒、土坑10基である。このうち住居2軒は遺存状態が悪く、掘込み等明確ではない。時期はいずれも諸磯期に属し、出土遺物はあまり多くない。
- ・弥生時代 調査区の東部分、高い場所土坑が30基まともて検出されている。時期は中期で、土器類を多く出土しているものも見られる。
- ・古墳時代 前期の住居跡4軒、後期のもの32軒である。前期に属す117号住居跡からまともた出土器の他、大形の翡翠製勾玉と碧玉製の管玉が出土している。後期のものは東側の丘陵上と西側の比較的平坦な場所と比較的まともて検出されているが、西側の一群の方がやや古い様相を示す。
- ・奈良・平安時代 総数144軒を検出した。遺跡地内全域で検出されているが、幾つかのまともまりが考えられる。西または北に傾斜した場所でもかなり多く検出されている。  
また2カ所の土器集積がありこのうち一つは小谷地に完形品を含む多量の土器が投げ入れられた状況で出土している。
- ・中・近世 溝、土坑、ピットを検出しているが、このうち溝は馬歯を出土した薬研堀のものと、辛科神社に向かって走る2本の溝は注目される。また丘陵上で検出された2基の方形土坑(竪穴状遺構)は江戸時代のもので、内1基は中央に焼土、炭化物を含む炉状の小ピットを持つ。いずれも少量の陶磁器片と石英片などが出土している。

じんぼ ふじづか  
神保富士塚遺跡



## 第1章 調査の概要

### 第1節 調査に至る経過

昭和47年に関越自動車道新潟線の藤岡から分岐し、県西部を通り長野県佐久市に抜ける高速道路（当初、関越自動車道直江津線、後に関越自動車道上越線、現在は通称、上信越自動車道）の基本計画が策定された。これに伴い昭和59年度より群馬県教育委員会は、日本道路公団の依頼を受け、路線内の埋蔵文化財分布調査を実施、同60年に関越自動車道上越線地域埋蔵文化財発掘調査計画を策定した。

予定路線は藤岡市、多野郡吉井町、甘楽郡甘楽町、富岡市、下仁田町、妙義町、松井田町の各市町村を通過し、長野県に至っている。神保富士塚遺跡はこの内の多野郡吉井町大字神保地内に所在している。付近の地形は鯉川の造る上位河岸段丘と、これに連なる丘陵と北に開けた小谷地が連続した地形で、路線はこうした起伏に富んだ場所を横断する形で東西に走る。先行して行われた分布調査によっても一部山間部、谷地部分を除き、その大部分が埋蔵文化財の包蔵地であることが確認されていた。

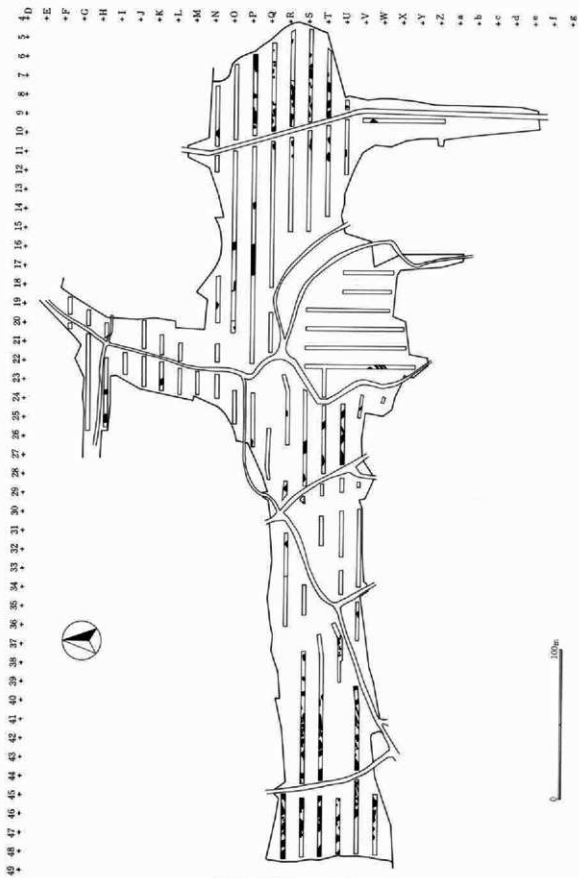
本遺跡については、発掘調査着手に先立ち、先行調査を行っていた長根・羽田倉遺跡の最終段階時において、同班の担当者により正確な範囲の確定を行うべく調査対象地のほぼ全域において試掘調査を行った。

試掘方法は、基本的には、幅2mのトレンチ東西方向に路線に沿った形で20m間隔で配置して調査を行った。さらに必要に応じて南北方向にも開け、遺構を確認した。（第1図）試掘作業は担当者1名が先行して入り、表土除去、遺構確認作業を行い羽田倉遺跡が終了した10月からは全員で調査を行った。

この試掘の結果、調査区東側部分の丘陵地では耕作土が比較的薄く、かなり削平された状況であったが縄文時代から平安時代にかけての若干の住居跡、および土坑の存在が確認された。調査区中央部分は、富士塚北斜面部分を除き、あまり濃密ではなかったものの住居跡、溝などが確認された。また長根羽田倉遺跡寄りの調査区西側部分はわずかに北に傾斜を持つものの比較的平坦部分でもあり、重複したものも見られ、かなりの数の住居の存在が予想された。また調査区を横断する谷地部分においては遺構ははっきりしなかったものの、黒色土中より土師器壺、坏、須恵器の壺、坏、蓋類が数多く認められた。

その後試掘調査の結果を踏まえ関係者による協議を行い、最終的な調査区範囲の確定を行い本調査部分の範囲を決定した。調査面積は25,400㎡で、調査期間は約1年を予定した。

第1章 調査の概要



第1図 試掘トレンチ配置図

## 第2節 調査の方法と経過

**調査の方法** 前節で述べたように、試掘調査によって確定した調査区はかなりの高低差に富み、このため調査区の幅が切り土部分で最大で60m以上もあり、更に取り付け道路部分が含まれており調査区はやや複雑な形になっている。

本調査開始にあたり、基本グリッドは国家座標に合わせて設定を行った。基点を調査区の北東に取り、対象地全体を覆うように方眼を組み、最小グリッドの呼称単位を2mとした。グリッドの呼称方法は横軸が基点から南へ10m毎にA、B、C、・・・Y、Z、a、b・とし、縦軸は西方向に同じく10m毎に0、1、2、3・・・と設定し、その北東の交点をもってグリッド名とした。さらにこの10m方眼内を縦横2mグリッドで分割しやはり北東を基点としてa b c・・・で呼称した。

調査にあたって、遺構図の平面図および断面図は20分の1を原則とし、一部竈、土坑、遺物集中部分等に付いては10分の1とした。また最終的な遺構全体図は100分の1で図化を行った。

**経過** 発掘調査は道路公団側からの要望で調査対象地北側の工所用道路部分の調査を先行して欲しいとの要望があり、谷を隔てて西に隣接する長根羽田倉遺跡が終了した10月より、調査区の北側部分幅約20m、長さ約500mに渡って調査を開始した。なお調査区が細長いために、調査は担当3名が3カ所に分かれて受け持つこととし、遺構の密集状況や、地形などから便宜的に、東の丘陵部分をI区、中央部分をII区、西側平坦部分をIII区としそれぞれを受け持つ形で調査を行った。

I区では古墳時代から平安時代にかけての住居跡を中心に検出し、遺構の分布状況は比較的真らであったが、西側斜面部では平安時代の住居が複数重複して検出され、さらには斜面を降りた谷地部分では多量の土器が散布する場所が確認された。

またこのI区では弥生時代中期の土坑がかなりまとまって検出されており、さらに平安時代の土坑墓2基、江戸時代の堅穴状遺構が2基それぞれ近接して検出された。縄文時代の住居跡、土坑も少数ながら検出されている。

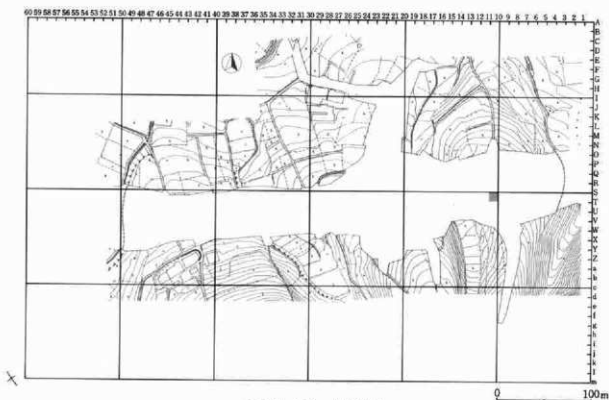
II区はやや地形的に低くやや入り組んでおり、農道や小さい沢が見られる。地山の状態も悪かったために住居の検出数は少なかった。ここでも土器の集中して出土した場所が見られた。

III区は最も遺構が集中して検出された調査区である。地形的にも緩く北に傾斜をもつものの平坦な地形で、検出された遺構は古墳時代から奈良・平安時代の住居跡を中心にその他、土坑、溝などである。

調査は北側の道路部分を3月までにほぼ終了させ、翌年度も引き続き継続調査を行い、住居跡、土坑、溝などを検出した。こうして翌年度の4月以降調査を進め、最終的には縄文時代から平安時代にかけての住居跡186軒(このうち欠番としたもの 軒)、やはり縄文時代から近世にかけての土坑約190基。その他掘立柱建物跡10棟、溝23条、ピット多数、土器集積2箇所を検出した。

調査は10月以降、上部の遺構終了部分から先土器時代の試掘調査を行った。その結果I区において遺物の出土が見られ、拡張して調査を行った結果、黒曜石製の彫刻器、剃片、および安山岩の礫を検出した。

調査は11月中旬をもって全ての作業を終了した。



第2図 グリッド設定図

### 第3節 調査日誌抄

昭和62年度

- 7月20日 本日より試掘準備。試掘トレンチの設定および調査区内の安全柵作り。
- 7月24日 N、O、P、Qライン調査、O-18付近にて須恵器の蓋出土。記録的な猛暑、前橋市での最高気温38.9度。8月4日 R、S、T、Uライン調査。
- 8月11日 試掘トレンチの全体図作成。
- 8月19日 試掘結果を踏まえ、調査区の最終決定。調査対象地は一部の急傾斜地を除いたほぼ全面となり、調査工程等の打ち合わせを県文化財保護課と行う。
- 8月24日 調査事務所用地の整地および、重機による表土剥ぎを開始する。
- 9月18日 表土剥ぎ継続、平行して遺構の確認作業を開始する。
- 10月15日 調査事務所完成。羽田倉遺跡より引越しを行う。
- 10月19日 遺構の確認作業終了。遺構分布図の作成。
- 10月22日 本日より遺構の掘り下げを開始する。調査区が長い為、地形の変化などからⅠからⅢ区に分け、3班に別れて調査を行う。なお調査は工事の工程から北側約20m部分の工事用道路の範囲から先行して行った。
- 11月6日 次長来訪、今後の調査計画について打ち合わせ。
- 11月20日 Ⅰ区の西側斜面にて平安時代の住居がまとめて検出された。電の付く東壁に棚状の中段をもつものが見られる。
- 12月2日 住居の調査継続。午後より風が強くなる。



- 12月16日 10、11号溝の平面図。
- 12月25日 年内の作業終了、遺構のシート掛けおよび道具整理、調査区内の整理、安全対策を行う。
- 1月6日 年明けの作業開始。
- 1月12日 I区、谷地部 2号土器集積周辺の遺構確認作業を始める。
- 1月28日 I区、2号土器集積部分を残し、側道部分の調査終わりに近づく。南側部分の遺構確認作業。
- 2月3日 県文化財保護課長視察。風強く寒さ厳しい。
- 2月17日 10時まで空撮に向けての清掃。10時より撮影、午後遺構の遠景写真。
- 3月5日 本日、6日の両日現地説明会を行う。近隣の方々を中心に見学者数870名。
- 3月23日 昭和62年度の発掘作業最終日。調査区内整理、遺構のシート掛け。
- 昭和63年度
- 4月12日 昨年度の継続で作業を開始する。
- 4月26日 I区谷地部掘り下げ、遺物平面図、取り上げを行う。湧水が著しい。
- 4月28日 北側工用道路部旧石器の試掘調査を終了、遺物の検出は無かった。
- 5月9日 側道部分の明け渡しを行う。
- 5月18日 I区、II区遺構確認作業を行う。III区住居跡の調査続行。1
- 5月27日 I区、遺構概念図作成（100分の1）。
- 6月2日 雨のため室内にて遺物洗滌、注記、図面整理を行う。
- 6月8日 100、102号土坑（近世）の調査、陶磁器片、炭化物、石英の破片出土。
- 6月23日 I区は住居および土坑の調査。III区、一部掘り方の調査を行う。
- 7月4日 隣の植松城遺跡に作業員の応援を行う。
- 7月7日 117号住居跡（古墳時代前期）の調査継続、壺、小形甕などの他に着製の大形勾玉出土。
- 7月20日 III区終了、引き渡し。
- 8月5日 II区斜面部分において小形の住居跡が検出される。
- 8月15日 雨のため室内作業、連続5日。今季は非常に雨が多い。
- 8月30日 昼頃セスナ機による空中写真撮影。
- 9月8日 取り付け道路部分の調査を開始。住居数軒を確認するがいずれも削平が著しい。
- 9月14日 前回の撮影不良のため、空中写真撮影の撮り直し。
- 9月21日 II区旧石器の試掘を開始。
- 10月8日 本日より事業団創立10周年記念の野外展開催（矢田遺跡）。16日まで。
- 10月11日 モニタリングカメラ2台搬入。
- 10月18日 I区西斜面部にて住居が検出される。かなり下の部分にも遺構が広がる。
- 10月20日 I区にて弥生中期の土坑群調査。
- 10月26日 弥生の土坑群遺物取り上げ継続。
- 11月1日 午前中空撮。午後よりI区旧石器試掘調査開始。
- 11月4日 I区P-7グリッドより黒曜石の剥片出土。周囲への拡張を行う。
- 11月10日 西斜面下部において185、186号住居跡の調査を行う。旧石器試掘継続、P-7グリッド周辺以外では遺物は検出されず。
- 11月15日 186号住居跡最終平面図。旧石器遺物取り上げ。本日をもって上神保遺跡の発掘作業を終了する。

## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 地理的環境

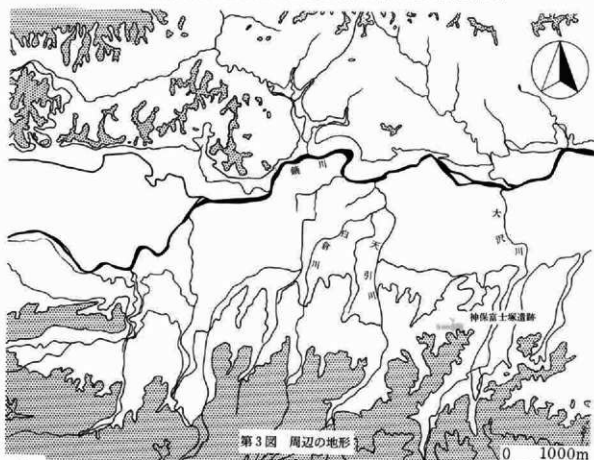
神保富士塚遺跡は、群馬県多野郡吉井町大字神保富士塚他に所在する。遺跡は北側約3kmを東流する鍋川の右岸上位段丘上に広がる。この段丘は下位丘陵への変換点にあたり東の大沢川、西の安坪川などの小河川によって侵食の結果形成された舌状台地であり、遺跡はこの台地の先端から縁辺に占地している。

遺跡地内には幾つかの小谷地が見られ、一部には湧水が観察される。また起伏に富んだ遺跡地内の標高差は30mを測り、遺跡内には西部分を除いて平坦な場所は見られない。調査区は東西に細長く延び、前述したように場所により地形が異なり、検出された遺構の時期や、種類等に違いが認められる。

鍋川は長野県との境にその源を発し、群馬県西部をやや蛇行しながら西から東に流れ、高崎市倉賀野付近で烏川と合流して利根川に至る。この鍋川が作用して形成されたのが、下仁田町、富岡市、甘楽町、吉井町、藤岡市の各市町が所在する通称「甘楽の谷」である。遺跡の所在する吉井町は国指定史跡である多胡碑で知られ、古代史研究の上からも注目されて来た地域でもある。また遺跡の北方約200mには、711(和銅4年)年にこの地に置かれたと言われる韓級郷の名を残すと思われる辛科神社が鎮座している。

現在の吉井町は人口約23,000人で、近年まで町の近傍は養蚕業などを中心とした静かな農村地帯であった。

本遺跡周辺もこうした典型的な農村地域であったが、今次の高速道路の建設に伴い、住宅団地の造成やゴルフ場の建設などで、にわかに開発の波が押し寄せて来ている。自然的にも、気候的にも恵まれ商業都市高崎に隣接した地でもあり、高速道路の開通後はさらに開発の勢いが増すことが予想される。



## 第2節 歴史的環境

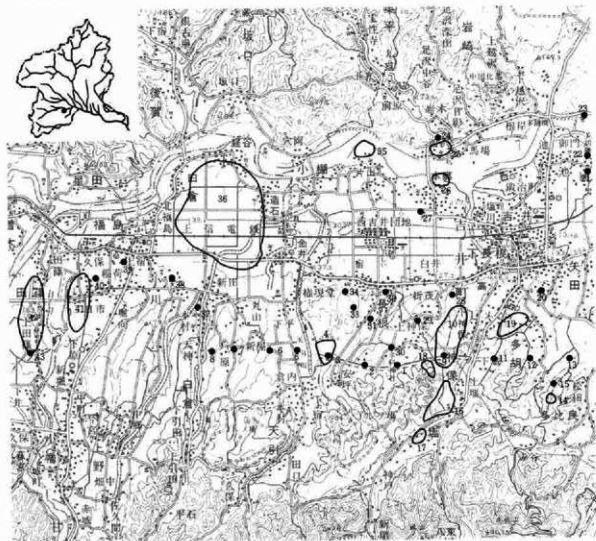
## 周辺の遺跡

上神保遺跡は地形的に見ると鍋川の右岸上位段丘上に位置する、南から北に下る幾つかの丘陵の北端部を横切る形で調査区が延びている。調査総面積は26,890㎡である。調査区は地形の状況や沢によって便宜上東よりⅠ・Ⅱ・Ⅲ区に分けた、標高はⅠ区の最高位が約195mで一番高く、Ⅱ区、Ⅲ区は180m前後である。

## ・旧石器時代

これまで群馬県内西部地域ではあまり調査例がなかったが、上信越線の調査により多くの遺跡が知られるようになった。本遺跡は上越線関連の発掘調査において、層位的に検出された最初の例であり、以後天引・狐崎遺跡、天引向原遺跡、白倉下原遺跡（注）などで検出例が相次いだ。本遺跡のものは比較的上層のAS-SPの前後からの出土であるが、上記の遺跡ではAT層下より遺物が出土している。

・縄文時代 該期の遺跡は前期、中期のものが鍋川の兩岸上位段丘上において、点々と確認されている。神保富士塚遺跡の周辺部では、同じ関越自動車道上越線関連の、神保植松遺跡、長根羽田倉遺跡、長根安坪遺



第4図 周辺の遺跡

## 第2章 遺跡の環境

跡で前期から中期にかけての住居跡や土坑など、数は少ないが検出されている。また本遺跡の東側には散布地として知られる稲荷山遺跡が所在する。また鍋川対岸の段丘上には中期の香炉型土器を出土した東吹上遺跡が知られる。

・弥生時代 谷を隔てて東に位置する神保植松遺跡では中期の住居跡、土坑が検出されている。東にある稲荷山遺跡では、以前から中期の土器片などが多く採集されており、本遺跡を含めた一帯が中期の生活域であった可能性が高い。また東方約2kmにある川内遺跡では中期の土坑、後期の住居跡が調査されている。また調査例ではないが、甘梁町の白倉遺跡では中期の筒形土器が出土している。

後期の遺跡としては長根安坪遺跡で住居跡、周溝墓が確認されている。神保植松遺跡でも後期の住居跡が1軒検出されており、さらに東の入野遺跡でも住居が、さらに北に位置する祝神遺跡でもやはり後期の住居が調査されている。黒熊遺跡群では住居と方形周溝墓が調査されている。

・古墳時代 本遺跡の周辺部はかなり起伏に富んだ地形を呈しており、広い平坦地は少ないがそうした場所にはかなりまとまった集落が形成されており、これらの集落の周辺部には多少の規模の差はあるが、古墳群が作られている。本遺跡の周辺でも東には神保古墳群、多胡古墳群、西には安坪古墳群が作られている。また山を越えた南には規模は小さいが塩Ⅰ・塩Ⅱ古墳群が見られる。いずれも後期の群集墳で特に神保古墳群は大規模で百数十基が造られていたものと思われる。さらに本遺跡から北側、鍋川までの間は幅1km近い下位段丘が広がっており、東原古墳群、北原古墳群、上池古墳群など比較的小規模な古墳群が点在する。

こうした中で注目される古墳として1991年8月に調査された吉井町65号墳（上毛古墳総覧）は、粘土椀を持つ古墳で主体部からは鏡、剣、鏃、葬などの鉄製品、斧形滑石製模造品などが出土している。

集落跡としては長根羽田倉遺跡、長根安坪遺跡、神保植松遺跡、折茂東遺跡、多胡蛇黒遺跡、矢田遺跡などで6世紀後半を中心とした時期の住居が調査されている。神保植松遺跡と長根安坪遺跡では方形周溝墓とこれとほぼ同時期の住居跡が調査されている。また神保下條遺跡では2基の小形円墳が調査され、人物、馬、太刀、盾などの形象埴輪を含む多くの埴輪が出土している。さらにこの古墳の下から検出された古墳時代前期の住居跡からは、直径約6cmの小形銅鏡が出土している。

・奈良・平安時代 本遺跡を含む周辺の多くの遺跡で住居跡、掘立柱建物跡、溝などが検出されている。西に隣接する長根羽田倉遺跡では69軒、植松遺跡でも30軒の住居跡が調査されている。

矢田遺跡、多胡蛇黒遺跡、などで多数検出されている。この時期、ここ甘梁の地はかなり計画的に村作りが行われており、多胡碑（註）に見られるように、古代における多胡郡韓級郷の比定地とされている場所でもあり、近年の調査で急速に新しい資料が加えられつつある。

・中・近世 東に位置する神保植松遺跡は室町時代の城跡であり堀や土塁が確認されている。また近世の屋敷跡も調査されている。辛科神社がある場所は中世の館跡でもある。

表1 周辺の主要遺跡

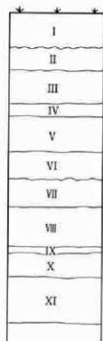
No	遺跡名	遺跡の概要	備考
1	神保富士塚遺跡	本報告書	
2	長根羽田倉遺跡	本遺跡の西方約100mから西に延びる遺跡である。古墳時代後期から平安時代にかけての住居跡、土壇、溝、井戸などが検出されている。古墳時代後期の祭祀遺構と、これに伴う滑石製模造品群が出土。	昭和61・62年 群像文調査
3	長根安坪遺跡	竪穴住居跡111軒。6世紀代の古墳、弥生時代の住居跡、方形周溝墓、古墳時代の住居跡、銅時代の配石遺構、住居跡等。	昭和63・平元年 群像文調査
4	安坪古墳群	後期の群集墳。上毛古墳総覧では44基を上げている。	
5	天引川明塚遺跡	後期古墳2基。中・近世の方形竪穴式遺構。	平成2年 群像文調査
6	天引狐崎遺跡	弥生時代後期の住居跡、方形周溝墓4基	
7	天引向原遺跡	近世水田址、畠址。	
8	白倉下原遺跡	縄文時代の敷石住居、弥生時代後期の住居跡、方形周溝墓および古墳へ平安時代にかけての住居跡。	
9	神保橋松遺跡	戦国時代の城郭、江戸期の建物跡、奈良・平安時代の住居跡30軒、古墳時代の住居跡17軒、弥生時代の住居跡7軒、土坑約50基、再葬墓5基、縄文時代の住居跡13軒。	昭和62年 群像文調査
10	神保古墳群	南の谷あきから鏡川にむきむき大沢川の左岸段丘上の縁辺に70基以上が分布していた。	
11	神保下流遺跡	竪穴住居7軒、方形周溝墓2基、古墳3基、AS-A下の水田、畠跡。	平成元年 群像文調査
12	多胡蛇屋遺跡	旧石器時代の遺物、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての集落。	昭和63年 群像文調査
13	矢田遺跡	古墳時代から平安時代にかけての集落。「八田郷」の隴奥のある訪庫車出土。	昭和61年 群像文調査
14	山ノ神古墳群	後期の群集墳。上毛古墳総覧では7基を上げている。	
15	松田萬寺	詳細は不明	
16	塩ノ古墳群	後期の古墳群。上毛古墳総覧では16基を上げている。	
17	塩ノ古墳群	後期の群集墳。上毛古墳総覧では12基を上げている。	
18	稲荷山遺跡	弥生時代中期の土器が多く散布している。本遺跡で同時期の土坑が検出された丘陵の南側斜面。	
19	多胡古墳群	大沢川をはきみ神保古墳群と対峙する。約50基が確認されるが、かつては280基以上あったものと思われる。	
20	川内遺跡	縄文時代の土坑、弥生時代の住居跡、方形周溝墓、古墳時代、奈良・平安時代の住居跡等。	昭和57年 吉井町教委調査
21	岡崎寺	8世紀代前半の寺跡か。	
22	多胡碑	和暦4年3月9日甲寅 織茂(おりも)、織敏(からしな)、矢田(やた)、大家(おおやけ) 武美(むみ)、山等(やまな)の六郷を置いたことが記されている。日本三古碑の一つ。	国指定史跡
23	川福遺跡	奈良・平安時代の遺構。	昭和59年 吉井町教委調査
24	東吹上遺跡	縄文時代の香炉型土器の発見が契機になり、昭和45年に群馬県立博物館と吉井町教育委員会とによって調査が行われた。調査面積は少なかったが古墳時代後期および平安時代の住居跡を検出した他、縄文土器、弥生土器が出土している。	
25	岩崎古墳群	後期の群集墳。上毛古墳総覧では6基を上げている。	
26	本郷古墳群	後期の群集墳。上毛古墳総覧では21基を上げている。	
27	道六神遺跡	一部にAS-B下水田、平安時代の住居。	昭和60年 吉井町教委調査
28	下高原庵寺	9～10世紀代の寺院址か。	
29	新茂東遺跡	弥生後期の住居・方形周溝墓。古墳時代、平安時代の住居。昭和61年吉井町教育委員会調査。	昭和61年 吉井町教委調査
30	早科神社・神保町	・上野神名板(永仁6年)に記載、多胡郡の筆頭に上げられている。群馬県古城址の研究・早科神社の東北に接する早野城で、東北から南西120m、西北から東南100mの規模を持つ、早科神社境内にも郷を巡らす。植松城との関連が考えられる。	
31	東脇場庵寺	9～10世紀代の寺院か。	
32	長根城跡	小幡氏の家臣、長根氏の居城か。	
33	西脇場・長根沼遺跡	古墳時代前期の住居跡、平安時代の住居跡。昭和61年吉井町教育委員会調査。	昭和61年 吉井町教委調査
34	恵行寺裏古墳	径約40m、高さ約8mの円墳。6世紀代の構築か。	
35	片山古墳群	後期の群集墳。上毛古墳総覧では7基が上げられている。内1基(片山1号墳)は平成3年8月に吉井町教育委員会により調査が行われ主体部に粘土持を持つ前期古墳と判明。鏡、鉄器、滑石製模造品、櫛などが出土。	

## 第2章 遺跡の環境

36	甘菜条里遺跡	古墳時代・平安時代の条里水田・江戸時代の水田跡。堰状遺構、井戸、土坑、溝が検出されている。住居の中では埴石製の白玉工厨下が注目される。	
37	白倉遺跡	鍋川の上位段丘上、北に延びた舌状台地にある。弥生中期の筒形土器の完形品が出土している。	考古学雑誌50巻4号(1965)
38	笹遺跡	弥生時代後期から奈良時代にかけての住居跡14軒が調査された。石製構造物の工房跡。	
39	天王塚古墳	前方後円墳。前方部が未発達な古い形態で、主体部は壘穴系と思われる。前期末、ないしは中期初期に位置づけられる。	
40	張森稲荷古墳	甘菜地方最大規模の前方後円墳で全長は100m、両袖型横穴石室を持つ。築造は6世紀後半。	
41	二日市古墳群	現在20基程の小円墳が残る。5世紀後半からの築造か。	
42	上田藤古墳群	後期の古墳群。現在30数基存在。富岡市教育委員会により5基が調査されている。	
43	田藤中原遺跡	縄文時代中期末の環状列石。配石遺構。	

## 第3節 基本土層

本遺跡は鍋川の右岸、神保丘陵と呼ばれる上位段丘面上に在り、基盤層は吉井層と呼ばれる泥岩層から成り、その上に上部に粘性土層、下部に砂質土層の段丘体積物層が在り、その上に火山噴出物の体積、いわゆる関東ローム層が載っている。その上の表土は20～40cmで下層の状態で若干色調は異なるが、おおよそ暗褐色を呈す。基本土層はロームの状態の良好な、丘陵部と黒色土の堆積の厚い谷地部とに大別される。丘陵部では以下のように分層される。谷地部分では黒色土の下層は、いわゆるローム層上部は流れている部分もあり、すぐ下に粘土が堆積している。



- I. 黒色土……………耕作土(軽石)AS-A<sup>(注1)</sup>を含む。
- II. 暗褐色土……………やや砂粒(軽石)AS-B<sup>(注2)</sup>を含み、締まりに欠ける。
- III. 暗褐色土……………ロームを多く含み、砂粒の混入はほとんど見られない。
- IV. 明褐色土……………ローム層、田層に似るが、さらに締まっている。
- V. 暗黄褐色土……………黄色軽石(AS-YP<sup>(注3)</sup>)をやや混入する、軟質なローム層。
- VI. 明黄褐色土……………少量の白色粒子(AS-SP<sup>(注4)</sup>)含み、締まりのよいロームでやや粘性を示す。
- VII. 淡褐色土……………白色、黄色粒子を多く含む若干の炭化物を含む。締まりは弱い。
- VIII. 暗茶褐色土……………(AS-BP<sup>(注5)</sup>)層、粗粒の軽石層(AS-MP)
- IX. 暗褐色土……………粒子細かくやや灰色を帯びる。
- X. 灰褐色粘質土……………粗粒で締まりがあり、砂粒、軽石を少量含む。

註

- (注1) AS-A (浅間A軽石) 天明3年(1783)降下。  
 (注2) AS-B (浅間B軽石) 天仁元年(1108)降下とされる。  
 (注3) AS-YP (浅間坂鼻黄色軽石) 浅間山を給源とする火山灰、約13,000年前降下。  
 (注4) AS-SP (浅間山白糸軽石) 浅間山を給源とする火山灰、約15,000年前降下。  
 (注5) AS-BP (浅間坂鼻黄褐色軽石) 浅間山を給源とする火山灰、約21,000年前降下。

第5図 基本土層図

### 第3章 検出された遺構と遺物

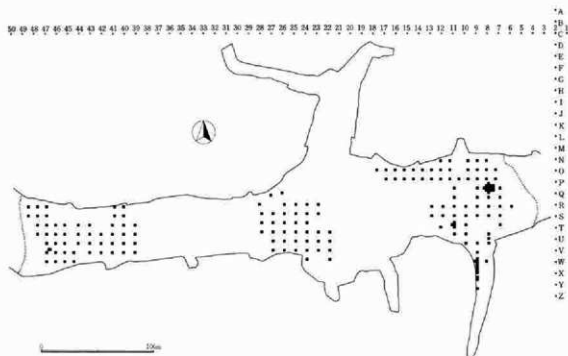
本遺跡において検出された遺構および遺物は、旧石器時代から近世にわたっている。前述したように、調査区は起伏にとみ、平坦部分が比較的少なかったにもかかわらず、住居跡は古墳時代から平安時代にかけて186軒を検出した（このうち4軒は欠番である）。土坑は縄文時代のもものが10基、弥生時代のもものが30基検出されている。その他、古墳時代以降、時期不明なものも含めて180基を数えた。溝については23条、掘立柱建物跡10棟、その他多くのピットを検出している。また谷地部分において多くの土器の集積した場所も検出されている。

本書では、縄文、弥生、古墳、奈良・平安時代、中・近世に分け、それぞれの遺構について記載を行っている。ただし土坑、掘立柱建物跡、溝等、時期の確定ができなかったものについては、それぞれの項目の中で説明を行った。

#### 第1節 旧石器時代の遺構と遺物

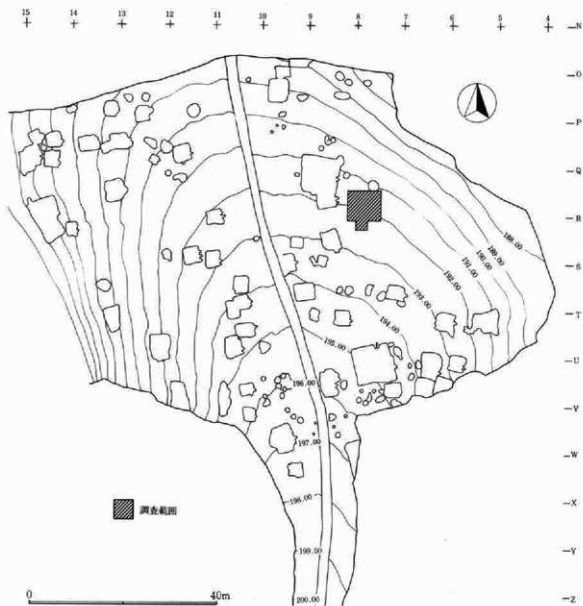
##### 1. 概要

P-7グリッドから石器5点（接合後4点）と礫6点が出土したのみで、他のグリッドからの出土はなかった。これらの石器、礫は散漫なかたちで分布し、ブロックと礫群を形成していた。出土石器の内訳は彫刻刀形石器1点、槍先形尖頭器の未製品2点（接合後1点）、二次加工のある剝片1点、剝片（ポイントフレイク）1点、磨石1点で、石材はすべて黒曜石である。出土層準は調査時点での所見ではY P層準として捉えたが、出土地点は傾斜がきつい台地斜面のためローム層の堆積は良好ではなく、特にY P、B Pの堆積は非常に薄いうえで乱堆積しており、本石器群の層的位置付けには不明確な部分を残している。



第6図 旧石器試掘グリッド配置図

### 第3章 検出された遺構と遺物



第7図 旧石器時代調査範囲

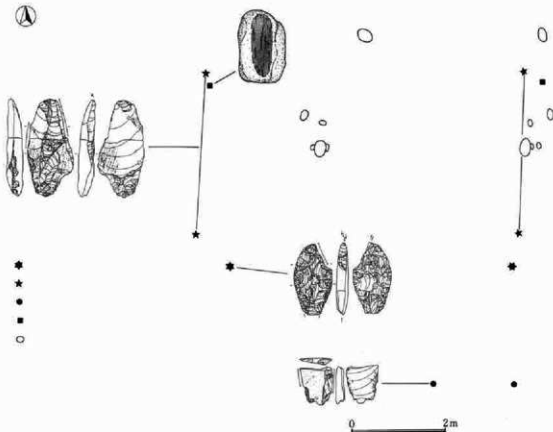
## 2. 石器 (第9図)

### 彫刻刀形石器 (第9図1)

彫刻刀形石器で、堤隆氏のいう「尖頭形彫刻刀形石器」(堤1989)に該当する。入念な押圧剥離による両面調整の槍先形尖頭器を素材とする。右肩部に種状剥離が2条、シンメトリカルな器体を断ち切るように施されている。この種状剥離に際しては、左肩部に裏面からの急斜な調整加工によって「く」の字状の打面が用意されている。縁辺部角度は2条ともほぼ90度という急斜で、縁辺部には微細剥離痕が認められる。また、さらに器体表面にはこの種状剥離の他に、上半部右側に2条(前述の種状剥離面に殆ど切られている)と下半部右側に1条の種状剥離が施された剥離跡が看取される。これらの種状剥離の縁辺部角度は上半部の種状剥離面はほとんど切られているため不明な部分が多いが、他の器体調整加工と同じ鋭角な縁辺部を形成していたと思われ、また下半部の種状剥離も調整加工に切られる部分があるものの、同様に鋭角な縁辺部を形



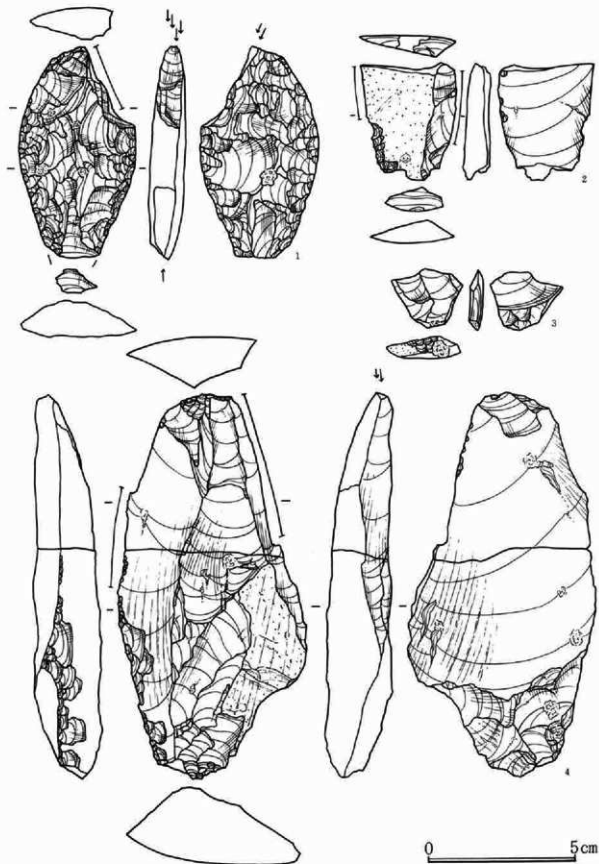
成している。このように前者と後者の楕状剥離では縁辺部角度が前者=鈍角(急斜)、後者=鋭角というように明瞭に異なり、さらに前者の楕状剥離はシメトリカルな器体側縁部を断ち切るのに対して、後者の楕状剥離はその器体側縁部を保持するように作出しており、その施し方は対照的である。



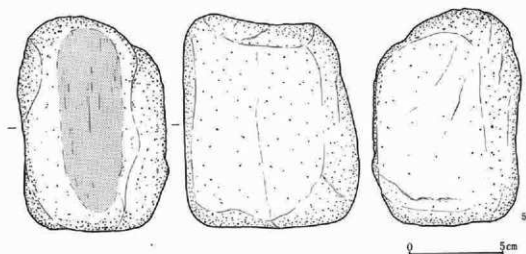
第8図 石器・雑出土分布図

表2 石器・礫一覧

番号	器種	折断面	石材	母岩番号	プロップ	検合	X	Y	No	N-S (cm)	E-W (cm)	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	検出番号
1	彫刻刀形石器		黒耀石	ob-1	1	P	7	1	519	780	191.656	6.9	4.0	1.2	28.30	1	
2	輪先形尖頭器	○	黒耀石	ob-2	1	○	P	7	2	483	817	191.596	12.5	6.4	2.3	152.30	4
3	輪先形尖頭器	○	黒耀石	ob-2	1	○	P	7	3	315	805	191.518					4
4	礫		粗粒安山岩		1	P	7	4	395	683	191.455	17.2	12.6	6.5	1,947.00		
5	礫		粗粒安山岩		1	P	7	5	392	689	191.479	2.1	2.8	1.5	10.00		
6	礫		粗粒安山岩		1	P	7	6	369	680	191.465	5.4	3.1	3.7	74.00		
7	礫		粗粒安山岩		1	P	7	7	275	635	191.279	17.7	13.0	9.4	2,802.00		
8	二次加工のある岩片	○	黒耀石	ob-3	1	P	7	8	645	565	191.638	3.9	3.3	0.7	9.76	2	
9	礫		粗粒安山岩		1	P	7	9	393	678	191.358	5.3	5.3	2.4	117.00		
10	礫		粗粒安山岩		1	P	7	10	360	699	191.250	9.7	8.2	6.9	910.00		
11	磨石		粗粒安山岩		1	P	7	11	329	801	191.288	11.4	8.0	9.1	1,069.00	1	
12	剥石		黒耀石	ob-4	1	P	7	-	-	-	-	-	2.0	2.5	0.7	2.13	3



第9図 出土遺物(1)



第10図 出土遺物(2)

このように前後者それぞれの槌状剥離は「男女倉技法」によるものとして評価できるが、本石器は当初器体側縁保持型の「男女倉型有槌尖頭器」(堤1988)として製作された後に、最終的に彫刻刀形石器へと器種レベルでの転化を起こして再加工されている。しかも、「男女倉型有槌尖頭器」と彫刻刀形石器としてそれぞれ機能している間にも、何回かの槌状剥離の再生を行っている。なお、本石器は単独母岩別資料であり、遺跡内では上記の「男女倉型有槌尖頭器」から彫刻刀形石器へと一連の工程は行っておらず、彫刻刀形石器として再加工された後に遺跡内に搬入して廃棄している。器体素材は調整加工が器体全面を覆うため不明である。石材は黒曜石で、1mm以下と2～5mm程の不純物を若干含むものの概して良質である。

#### 槍先形尖頭器未製品 (第9図4)

器体中央部で半分欠損する。大型の縦長剥片を素材とし、調整加工が先端部と主要剥離面の下半部に施される。後者は押圧剥離とは異なり、粗い調整加工による。背面右側縁部には、明らかに主要剥離面を切る槌状剥離と評価できる剥離面が2条看取される。この槌状剥離は槍先形尖頭器製作工程における初期段階に施されているが、「男女倉技法」として評価することが可能で、本石器は「男女倉型有槌尖頭器」の未製品として理解できる。なお、本石器は破片類を伴わない単独母岩別資料で、遺跡内では石器(器種)製作を行った痕跡は認められず、そのまま遺跡内に廃棄されている。また、左右縁辺部には微細剥離痕が観察されるが、これが使用痕として認識可能であるならば、未製品の状態で既に機能していたことになり、未製品としての概念の適用を再考しなければならない。石材は黒曜石で、1の彫刻刀形石器と同様1mm以下と2～5mmの不純物を含んでいるが、概して良質の石材である。

#### 二次加工のある剥片 (第9図2)

上下両端は折断面である。折断面を切って左側面端部に二次加工が施される。また、左右両側縁部には微細剥離痕が観察される。石材は黒曜石である。

#### 剥片 (第9図3)

ポイントフレイクで石材は黒曜石であるが1・2・4とは母岩別資料は異なる。P-7グリッド出土であるが、原位置は不明である。

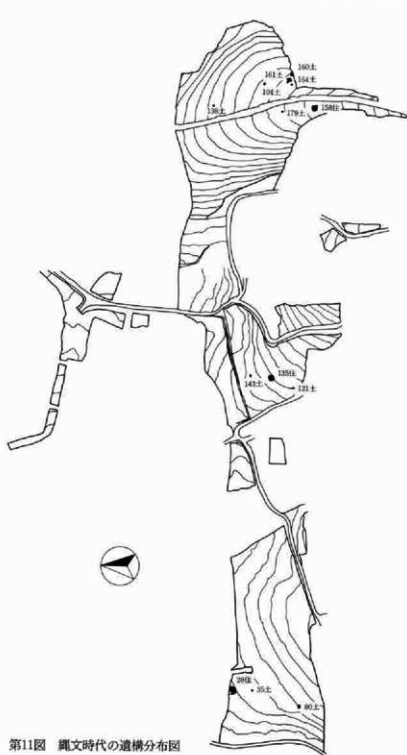
#### 磨石 (第10図5)

粗粒安山岩製の亜角礫を素材として用い、平坦面に擦痕と考えられる平滑面が認められる。

第2節 縄文時代の遺構と遺物

概 要

本遺跡において検出された縄文時代の遺構は住居跡3軒、土坑10基(出土遺物により時期の認定を行っているために出土遺物の無い土坑については、該期に含めていない)である。調査した3軒の住居跡は調査区内において直線距離にして、150m離れて検出されている。このうち2軒は削平等により、遺存状態が極めて悪く、



第11図 縄文時代の遺構分布図

壁、床面、および炉に関しても明確には検出できなかった。

時期は、いずれも前期後半のものである。土坑はI区にやや集中して見られるが、掘方があまりはっきり検出できなかったものもあり、風倒木痕、木の根などの人為的でないものも含まれている可能性がある。

土坑の時期については、中期のものが1基認められるが、他はおおむね前期に比定される。

また調査区全域で前期から後期にかけての土器片、石器等がグリッド内、および後世の遺構覆土中より出土している。

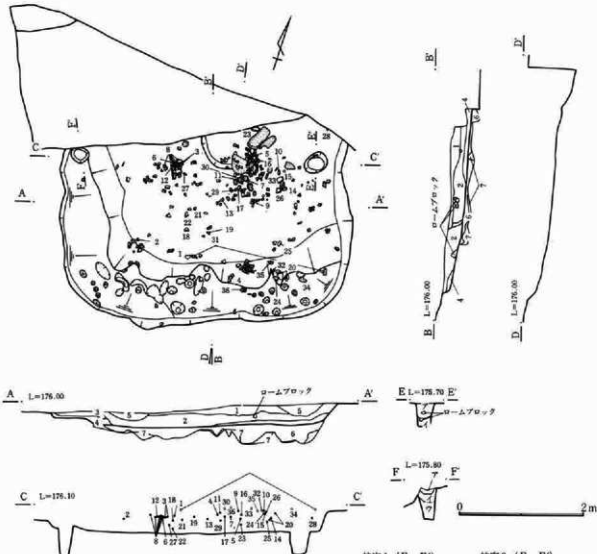
1. 住居跡

本遺跡において検出された3軒の住居跡は、それぞれ南から北に延びた丘陵上に単独に位置する。これらの丘陵間には小さな谷地

が南から北に向かって開いている。住居の位置する標高は、調査区の最も東よりにおいて検出した158号住居跡が高く、153号住居跡・28号住居跡の順に低くなる。各住居の周辺では、少数ではあるが、ほぼ同時期の土坑も検出されている。

### 28号住居跡 (第12～14図、PL4)

Q-45グリッドに位置する。形状は隅丸方形を呈すと思われるが、全体の形状は不明である。北側部分を27号住居に切られている。各壁は緩やかに立ち上がり壁面は凹凸を持つ。床面は面としてはやや不明瞭である。中央がややくぼみ、特に踏み締められた状態ではなかった。27号住居跡の南壁に接した部分に若干の焼土が見られ、炉跡と考えられるが、ほとんど壊されている状況であった。時期は踏張り式期である。



#### 28号住居跡

1. 暗茶褐色土 黒褐色土ブロックとローム粒混入。細粒で粘質。
2. 茶褐色土 暗褐色土ブロックとローム粒混入。細粒で締る。
3. 暗黄褐色土 暗褐色土ブロック混入。細粒で締る。
4. 黄褐色土 ローム層移層。
5. 濃茶褐色土 暗褐色土ブロック、軽石混入。細粒で締りなし。
6. 暗茶褐色土と黒褐色土の混合土 細粒で締る。
7. 汚れたローム層

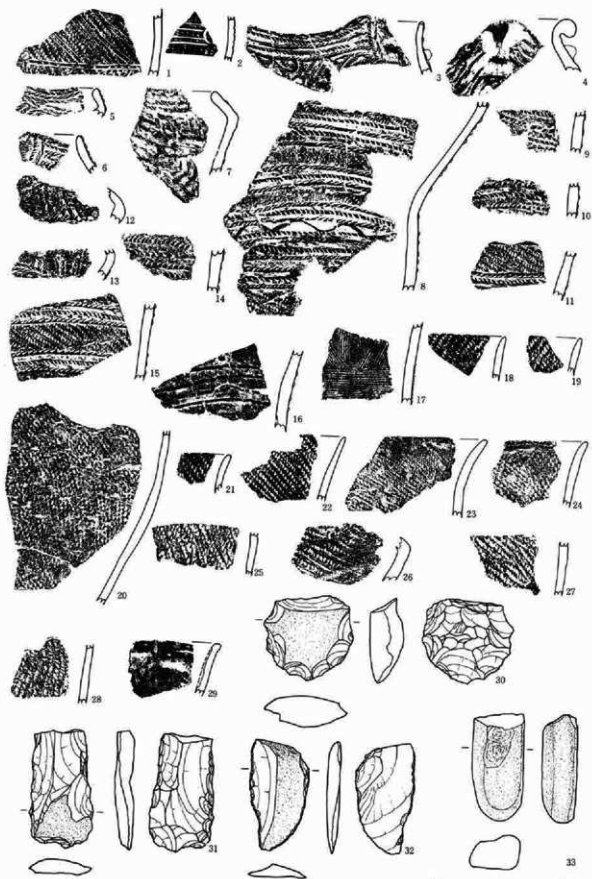
#### 柱穴1 (E-E')

- A. 黒褐色土 ローム粒、炭化物粒少量混入。細粒で強い。
- I. 暗褐色土 ローム粒、1層より多量に混入。細粒で強い。

#### 柱穴2 (F-F')

- A. 暗褐色土 ローム粒、炭化物粒少量混入。細粒で締る。
- I. 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック混入。細粒で締り弱い。
- ウ. 黒褐色土 ローム粒少量混入。細粒で締る。

第12図 28号住居跡



第13図 28号住居跡出土遺物(1)



第14図 28号住居跡出土遺物(2)

出土遺物 1・2は縄文地文に半載竹管による平行沈線文様を描く。3～16は浮線文土器である、3・4は口縁部で波頂部が強く外反し、下位に小瘤が付付けられている。いずれも浮線文上に矢羽根状の刻みを施す。17は横位、縦位、斜位の集合沈線が見られる。18～28は縄文施文の土器である。18～20はLR、他はRLが施文されている。29は無文。

石器2は厚手のスクレイパー、円形を呈し、1面に自然面を残す。刃部の作りは粗い。3は打製石斧、やや薄手の短冊型で基部を欠く。4は砂岩製の凹石である。偏平な礫の1面に浅くやや不定形なくぼみを3カ所有す。6は剥片を利用したスクレイパーである。片面の半分程に自然面が残る。両側縁に刃部を作る。7は砂岩製の砥石である。両面を利用しており、表面は溝状に僅かにくぼむ。裏面には1～2本の条線が見られる。9は磨石である。円礫で使用面を何度か替えて使っている。31は棒状の礫を用いた凹石、裏面は平坦で表に2カ所のくぼみ穴が見られる。欠損品である。

#### 153号住居跡 (第15回、PL4)

T-26グリッドに位置する。北斜面に在り、住居の形状は方形を呈すものと思われるが、北側半分以上を削平されている。壁は東、南側の立ち上がりが確認されており、壁高は20～30cmで、かなり急角度である。床は比較的平らであるが、やや北に傾斜している。柱穴、炉などは確認されなかった。出土遺物は極めて少なく、少量の土器片、石片が見られたのみである。時期は諸磯a式期である。

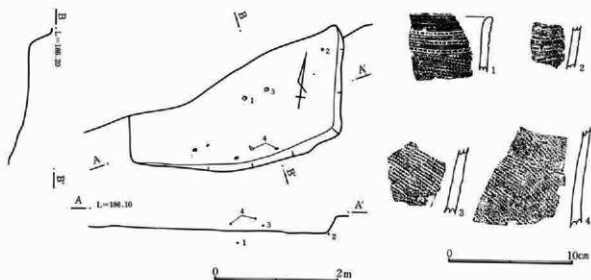
出土遺物 1は緩い波状を持つ深鉢の口縁部片である。口縁下に3本の半載竹管による連続結節文が見られ、その下にはRLの縄文が施される。2は半載竹管による平行線が見られる。3・4はRLの縄文が施される。

#### 158号住居跡 (第16・17回、PL4)

V-9グリッドに位置する。I区の中では最も高所に位置しており、試掘時に存在が確認されていた。形状はおおよそ方形を呈すと思われ、規模は3.1m×3.0m程であるが、壁はかなり不明瞭な部分が多い。掘り込みも浅く、床面も堅い明確な面は確認できなかった。炉、柱穴などの施設も検出されなかった。遺物の出土は少ないが、時期は諸磯c式期と思われる。

出土遺物 1は口縁部内屈し、綾杉状の集合沈線の地文に、耳状突起、瘤状の張り付け文が付く。2は僅かに肥厚した口唇部を持ち横位、斜位の沈線と縦長の耳状突起が付く。また口唇部には半載竹管による刺突文が施される。3・8は同一個体の口縁部と底部片である。4はX字状になった部分の上に縦長の貼り付け

### 第3章 検出された遺構と遺物



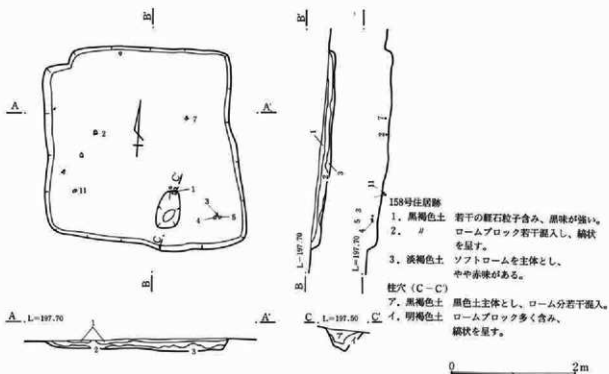
第15図 153号住居跡及び出土遺物

文が付く。5～7は集合沈線が横位に施されている。9～12は縄文が施文されている1群で、少量の繊維を含む。12は底部片である。13も縄文が見られるが繊維の混入は無い。

## 2. 土 坑

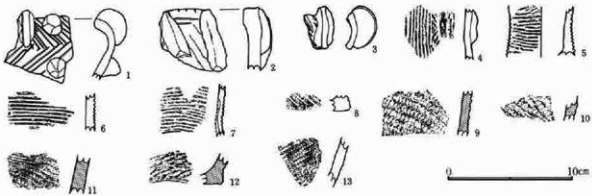
### 35号土坑 (第18図、PL4)

S-45グリッドに位置する。ほぼ円形を呈し、深さ0.35mである。南東部分が一部深くなっている。出土遺物 1は深鉢の口縁部。「く」の字に折れて外反する。横位の集合沈線。



第16図 158号住居跡



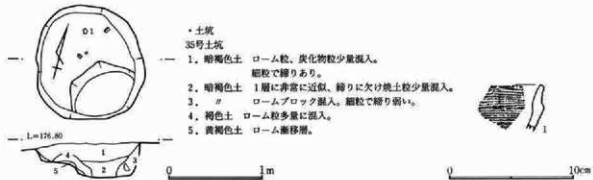


第17図 158号住居跡出土遺物

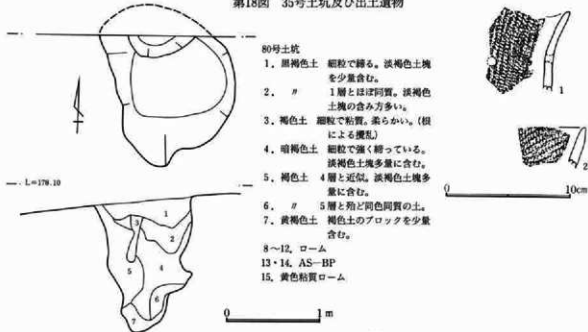
80号土坑 (第19図、PL 4)

V-46グリッドに位置する。ブレの試掘トレンチに掛かり検出されたものである。不定形を呈し、深さ約1.3mを測る。土器片2点が出土。

出土遺物 1・2ともにRLの縄文が施文される口縁部片。1は波状口縁で補修孔が見られる。



第18図 35号土坑及び出土遺物



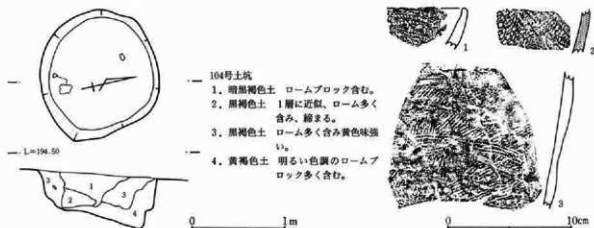
第19図 80号土坑及び出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 104号土坑 (第20図、PL4)

S-7グリッドに位置する。円形を呈し、径1.2mを測る。

出土遺物 1は口縁部片、RLの縄文。2もRLの縄文が施文される。含繊維土器。3はやや雑な成形である。地文にLの無節縄文を施し、半截竹管による平行沈線を横位に複数巡らす。

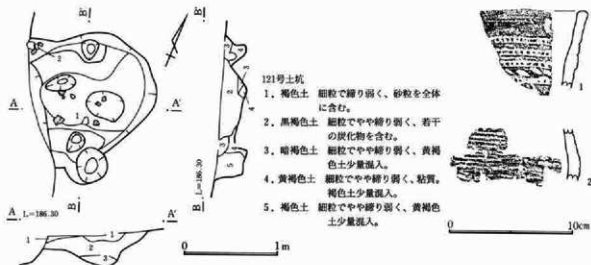


第20図 104号土坑及び出土遺物

#### 121号土坑 (第21図、PL4)

U-26グリッドに位置する。長円形を呈すと思われる。129号住居跡と重複する。

出土遺物 1は口縁部片。半截竹管による連続爪形文を横位に多段施文、その間の微隆起部分に斜めに棒状工具を連続して押し付けている。2は横位に半截竹管による平行沈線を多段施文する。石器は打製石斧が1点出土している。小形の短冊型で厚みがある。

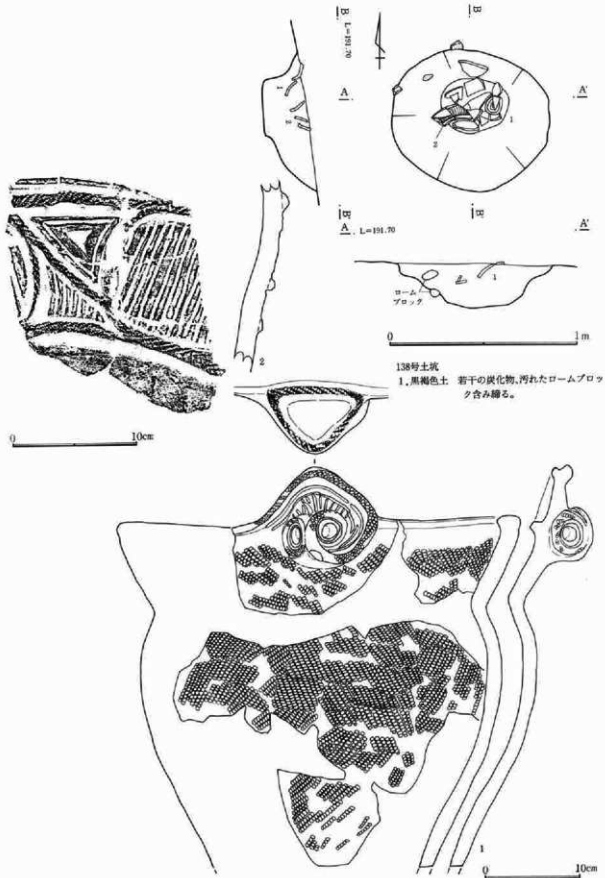


第21図 121号土坑及び出土遺物

#### 138号土坑 (第22図、PL5)

O-9グリッドに位置する。表土を除去した際に土器の1部が露呈していたために存在が確認された。遺構は径0.8m、深さ0.25m程に掘り込まれ、やや浮いた状態で土器が敷かれたような状況で出土している。土器は2個体であるが、いずれも部分しかなかった。時期は中期中葉である。

第2節 縄文時代の遺構と遺物



138号土坑  
1. 黒褐色土 若干の炭化物、汚れたロームブロック  
が含まれる。

第22図 138号土坑及び出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物

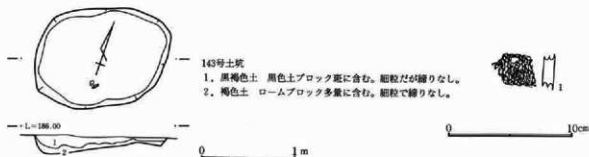
出土遺物 1 はかなり大型で厚手の深鉢である。頸部で「く」の字に曲がり胴部は丸味をもつ。口縁部は三角形に高まった部分から右回りに中央が突き出した眼鏡状の突起となる。突起の上位口縁部との間には沈線が文様が充填されている。器面および隆帯上にLRの縄文を施文している。また突起の真側、三角形を呈す隆帯上にも縄文が施文されている。口縁部から胴部にかけて全面にRLの縄文が施されている。2 は深鉢の胴部片、詳しい器形は不明である。上下の隆帯で区画された中に楕円、三角形の組み合わせ文が見られ、さらにそれらの区画の中に並行沈線、三角文が施される。また隆帯上にはLRの縄文が見られる。

#### 143号土坑 (第23図、PL5)

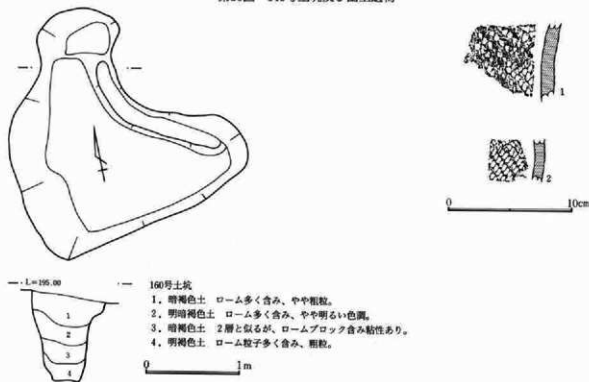
R-26グリッドに位置する。長円形を呈し、規模は1.5m×1.05mで深さは0.2mである。出土遺物 1 は破片でRLの縄文が施文される。

#### 160号土坑 (第24図)

T-7グリッドに位置する。不定形で深さは0.9mである。

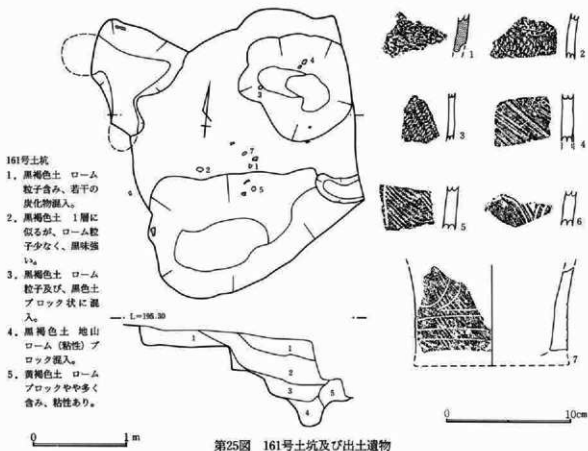


第23図 143号土坑及び出土遺物



第24図 160号土坑及び出土遺物

第2節 縄文時代の遺構と遺物

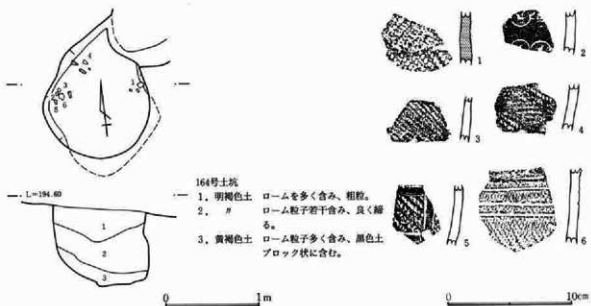


第25図 161号土坑及び出土遺物

出土遺物 1・2ともに含纖維土器で、RLの縄文が施文されている。

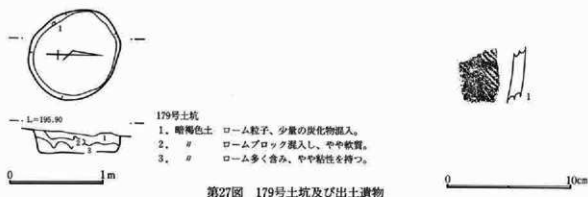
161号土坑 (第25図、PL5)

T-7グリッドに位置する。不定形でかなり大形、深さ約1mである。土器片、打製石斧が出土している。



第26図 164号土坑及び出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物



第27図 179号土坑及び出土遺物

118号住居跡と重複。

出土遺物 1はRLの縄文が施文される含繊維土器。2・3はRLの縄文。4は半截竹管による集合沈線文。円形貼付文が見られる。5・7は地文にRLの縄文。沈線で平行線文、円形文を描く。6は5・7と同一個体か、三角陰刻文が見られる。

#### 164号土坑 (第26図、PL 5)

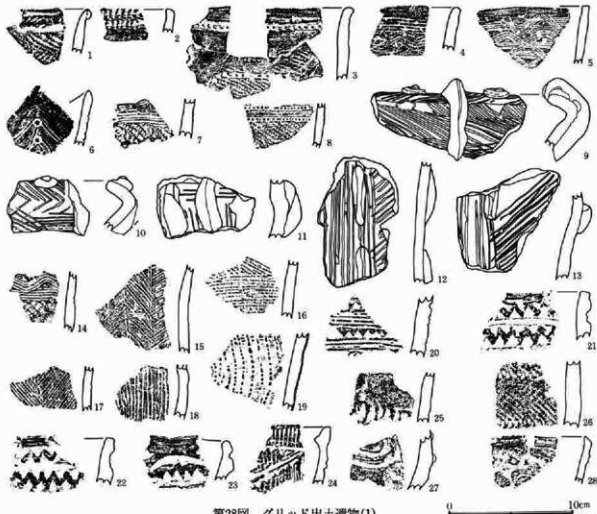
T-7グリッドに位置する。不定形で、162号土坑と重複する。 出土遺物 1は繊維土器、羽状縄文を持つ。2は繊維を含み2段のコンパス文が見られる。3・4はRLの縄文が施文される。5はRL地文に多截竹管による矩形を描き、交点に押圧文。6はRL地文に横位の平行沈線。

#### 179号土坑 (第27図)

T-9グリッドに位置する。円形を呈し、径は約1mである。1は無節Rの縄文。

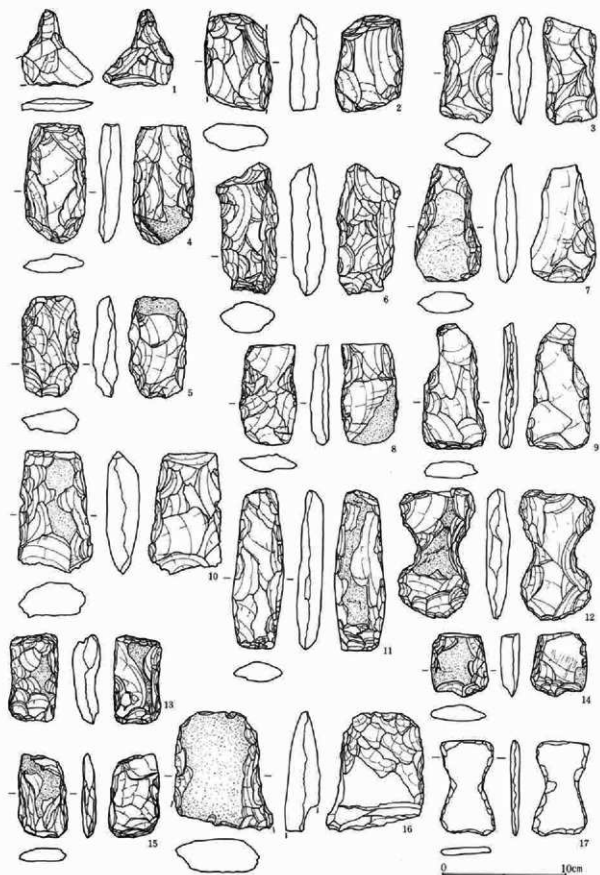
#### 4. グリッド出土遺物 (第28～31図PL88～90)

グリッド出土の縄文土器 1は口縁部片、口唇部は外に丸く肥厚、RL、LRの縄文が羽状に施される。2は口縁部片、櫛状工具による連続刺突文。3は口縁部片、口唇部は短く外反、口唇下に連続爪型文、その下に連続爪型文により区画文を作り中をRLの縄文で充填。口縁下に焼成前の穿孔が見られる。4は口縁部片、口唇部下に横位、波状の沈線。5は口縁部片、横位に4本1単位の細沈線を多段施文し上から同じ工具による不規則な波状文を施す。6は波状口縁の端部、半截竹管文による平行線、縦列に円形竹管文。7はRL地文に縦位の沈線と縦列に円形竹管文。(14は同一個体片) 8はRLの地文に横位に連続爪形文を配し、その間は磨り消している。9・10は「く」の字に内屈する口縁部片、矢羽、横位の集合沈線に耳状、円形の貼り付け文。11は横位、縦位の粗い沈線地文に耳状の貼り付け文。12・13は縦位、斜位の集合沈線に縦長の貼り付け文。14はRLの縄文地文に横位、波状の集合沈線文。15・17は半截竹管による綾杉文。16は縦位、斜位の集合沈線。18は縦位の集合沈線。19は地に粗く横位沈線を施文、同心円状に細い浮線文を貼り付ける。20は横位の集合沈線間に三角陰刻文を横位に配す。21・22は2段に連続山形文状に三角陰刻文を配す。23は口縁部片、沈線、三角陰刻文が見られる。21・22と同一個体と思われる。24は口縁部片口唇部は三角に肥厚。内側は稜を持ち、その上に沈線、刻みを配す。外面には斜位に沈線、三角状の刺突文が見られる。25は微隆帯、大形の横位連続爪型文。26は不規則な羽状縄文、砂粒の目立つ土器である。27は隆帯文を持つ。金雲母混入。28は口縁部片、口唇部はやや内屈、口縁下の微隆線上に刻み小「8」の字文、下位に沈線文を配す。



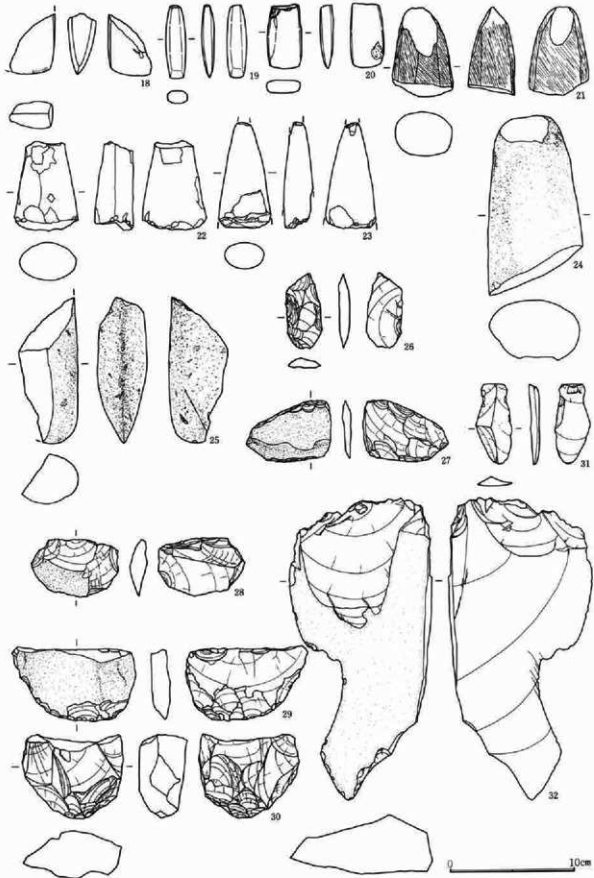
第28図 グリッド出土遺物(1)

グリッド出土の石器 1は石匙。三角形を呈し、刃部破損。2～15は打製石斧。2は刃部、基部を欠く。側縁の刃潰しは顕著。3は短冊型、厚手で1端を欠く。4は撥型、刃部は丸味を持ち、使用痕顕著。5は小形の撥型。刃部の作りは粗い。6は短冊型、厚みを持ち、作りは荒く刃部を欠く。7は撥型。刃部は厚く下方が広がる。8は短冊型。側縁の調整は粗い。刃部摩滅。9は不定型な撥型。刃部摩滅し、基部を欠く。10は刃部を欠く。11はやや細長い撥型を呈す、刃部を欠く。12は分銅型。刃部はやや丸味を持つ。片方の刃部1部欠損。13は小形の短冊型。やや厚みを持つ。14は刃部のみ、かなり摩滅している。15は基部欠損。刃部が僅かに広がる。16は大型で、半分を欠く。片面に自然面を残す。17は板状で、糸巻き状を呈す。打製石斧か。18は磨製石斧。定角式。刃部のみ。19は磨製石斧。基部、刃部がやや狭くなる。丁寧な仕上げ。20は磨製石斧。刃部が僅かに広がる。基部欠損。21は磨製石斧。基部のみ。22は磨製石斧。刃部、基部を欠く。23は磨製石斧。基部は細く刃部を欠く。24は磨製石斧。刃部、基部の1部を欠く。25は磨製石斧。半分以上を欠く、厚みがあり、刃部の摩滅が著しい。26はスクレイパー。粗い刃部調整がなされる。27はスクレイパー。半月状を呈し、刃部は丸味を持つ。片面に自然面を残す。28はスクレイパー。半月状で、刃部の作り出しは明確ではない。29はスクレイパー。半月状を呈し、刃部は弧状を呈す。30は石核。全面からの剝離。31は石匙。縦型、片面に稜を持つ。えぐりは弱く、刃部調整もほとんど見られず。32は大型剥片。片面に自然面を残す。33～55は石鏃。33は黒曜石製で大型品、無茎凹基。34は黒曜石製、無茎凹基。側縁がやや膨らむ。35は黒曜



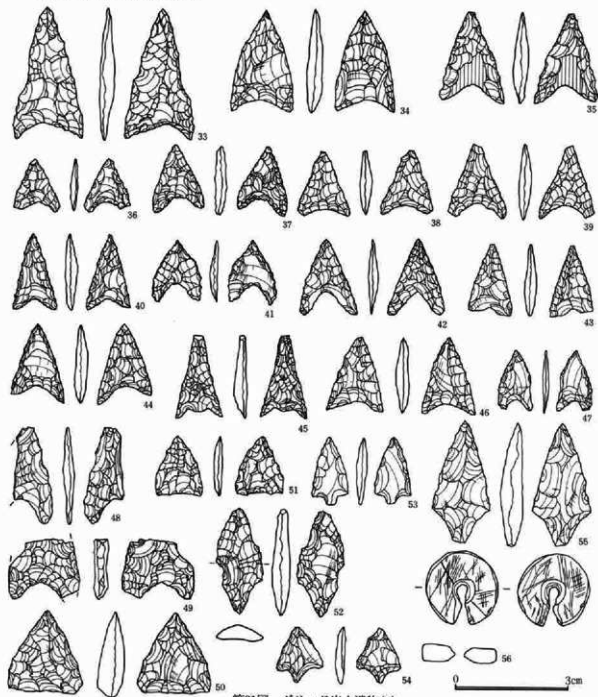
第29図 グリッド出土遺物(2)





第30図 グリッド出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物

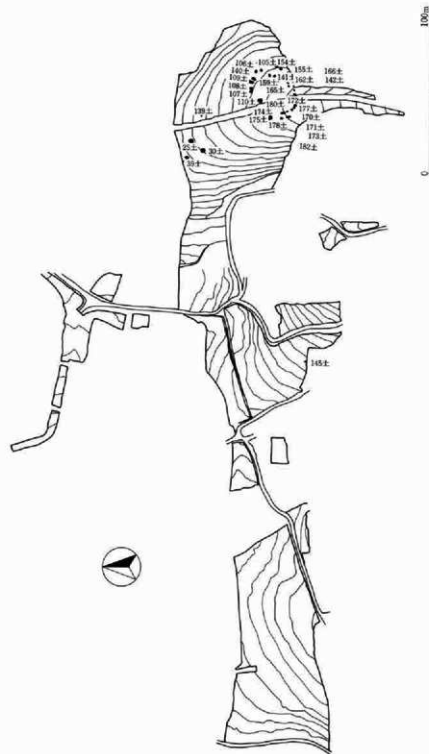


第31図 グリッド出土遺物(4)

石製、無茎凹基。基部研磨痕あり。36は黒耀石製の小型品、無茎凹基。37は黒耀石製、無茎凹基。38は黒耀石製、無茎凹基。39は黒耀石製、無茎凹基。先端部を欠く。40は黒耀石製、無茎凹基。41は黒耀石製、無茎凹基。側縁がやや膨らむ。42は黒耀石製、無茎凹基。43は黒耀石製、無茎凹基。両脚を欠く。44は黒耀石製、無茎凹基。45は黒耀石製、有茎銼。先端部欠損。46は黒耀石製、無茎凹基。47は黒耀石製、無茎凹基。48は黒耀石製、無茎凹基。約半分を欠く。49は黒耀石製、無茎凹基。先端部を欠く。50はチャート製、無茎平基。ほぼ正三角形を呈し、厚みを持つ。51はチャート製、小型平基。52は黒耀石製、有茎式。反り部欠損。53は有茎平基。小型品。54は黒耀石製、無茎平基。小型で幅広い。55はチャート製、有茎凸基。56はけつ状耳飾り、円形でやや薄手。穴は両面から穿孔。切れている部分は外に向かってやや開き、斜めに削られている。

## 第3節 弥生時代の遺構と遺物

住居跡は検出されていない。I区の高い場所を中心に中期の土坑26基を検出した。形状は円形を主とするが、その他長円形、不定形のものも見られる。出土遺物は壺形土器を中心に、若干の石器が見られる。覆



土中に炭化粒子が混入しているものも見られた。貯蔵穴、または再葬墓の可能性はある。

分布の状況を見ると、径約30mのほぼ円形に廻る一群と、その北西約30m程に散在する1群が見られる。後世の住居等により壊されているものも多くあり、住居の覆土中より多くの土器片が検出されている。

1. 土坑 I区の比較的高い部分、標高190～197mの間において検出されている。幾つかがまとめてグループを作るようで、もっとも多くの土坑が検出されているのはT-9グリッド付近を中心とした部分である。

第32図 弥生時代の遺構分布



第33図 I区弥生土坑分布

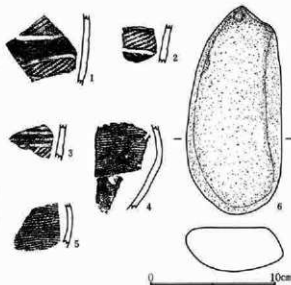


第34図 25号土坑

25号土坑 (第34・35図、PL 6)

N-11グリッドに位置する。円形で底はやや狭くなる、深さは約0.7mを測る。出土遺物は少なく、弥生の甕、壺の小破片が出土している。風倒木痕の可能性もある。

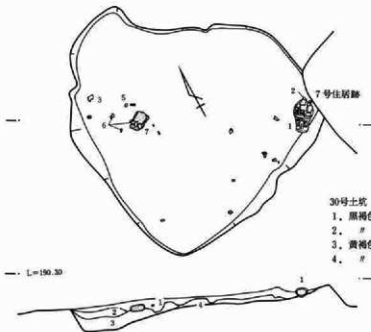
出土遺物 1・2は同一個体片、比較的薄手で焼きは良い。条が横方向に走るLRの縄文が見られる。3・5は地文LRに沈線による磨り消し文様を持つ。4はLR地文に集合沈線。6は磨石である。やや扁平で細長の礫を利用、全面平滑でタール状のものが僅かに付着している。



第35図 25号土坑出土遺物

30号土坑 (第36・37図、PL 6)

O-12グリッドに位置する。規模は2.4m×2.2m×0.2mで、不定形を呈す。東側の一部を7号住居跡が切る。1の筒形土器は横倒して、押し潰された状態で出土した。また2は1の胴部に重なるような状態で出土している。出土遺物 1は甕形土器、器高(現高)24.1cm、底径7.1cm、最大径14.9cmを計る。胴部はやや丸味を持ち、頸部に向かって次第に締め、再び口縁部分は開き気味となる。口縁部は欠損しており、欠け口は摩耗している。底部の端部は僅かに張り出している。胴部の下半部は無文で良く磨かれている。文様は沈線で描かれている。胴部の無文部と文様部の境に連続山形文を1周させており、4単位の重四角文を上下2段に描く、また下段の重四角文間に縦に連続山形文が描かれ、その上端上下それぞれの四角文の交点には、

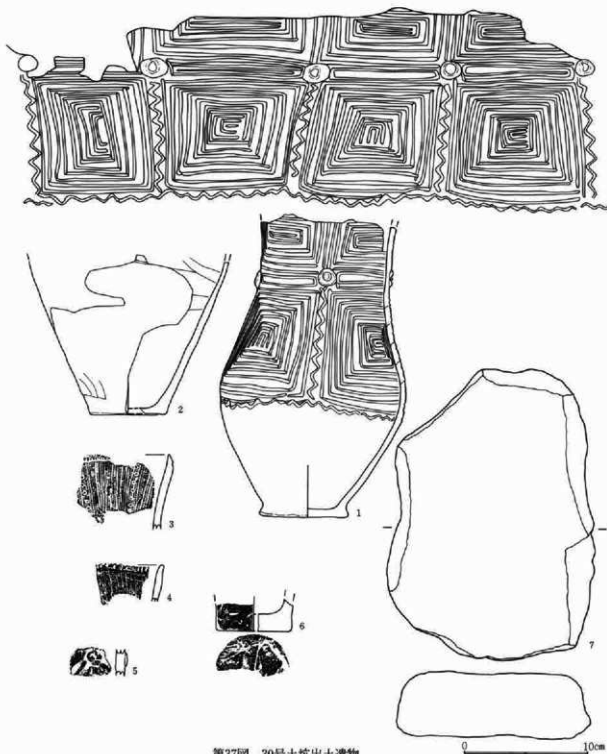


30号土坑

- 1. 黒褐色土 若干の炭化粒子、ローム粒子含む。
- 2. # ロームブロック多く含む。
- 3. 黄褐色土 ローム多量に含み、ややフカフカしている。
- 4. # ロームブロック含み、固く締っている。

— L=150.30

第36図 30号土坑



第37図 30号土坑出土遺物

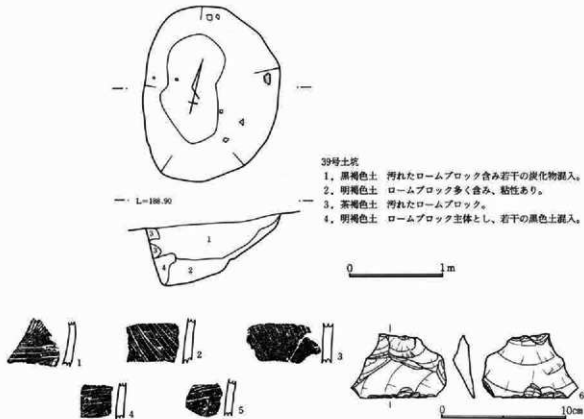
中央にくぼみのある瘤状の貼り付文が付く。土器は器内が薄く比較的堅い焼きである。成形は幅2～2.5cmの粘土帯で輪積されている。胎土は精製されており少量の径1～2mmの石英粒が含まれている。色調は内外面共に黒褐色を基調としている。2は甕形土器、底部片で約半周する。底径6.0cm。No.1の胴下半部分の上に重なって出土した。底部の端部がやや張り、胴部はやや開き気味に立ち上がる。文様は上端部に沈線の1部が認められるが他には見られない。外面は磨かれ、僅かに彫状の工具による擦痕が見られる。内面は撫でられ

ている。比較的薄手の作りで焼きは良い。色調は明褐色で上端部は黒くなる。胎土は少量の砂粒を含んでいる。3は底部片、無文で底部木炭痕。4は口縁部片縦方向の条痕文、口唇部はやや薄くなり細かな波状を呈す。口縁下に連続の爪形文が横定更にその下に細い燃糸の圧痕文が見られる。また口縁から円形竹管文が縦に施文される。焼きは良い。5は口縁部片、鋭い工具による縦位の線条文、口唇端部にも刻み。6は壺型土器の頸部片、LRの縄文、太沈線を横位、斜位に施し、交点に円形文を持つ貼り付け文。7は台石である。扁平な體で火を受けている。

39号土坑 (第38図、PL6)

N-12グリッドに位置する。長円形を呈し、深さは0.6mである。

出土遺物 1・2・3は条痕文が見られる。4はLRの縄文と横位、斜位の条痕文。5はやや繊細な感じのする斜位条痕。6はスクレイパーである。台形で刃部を下に持ち直線的。



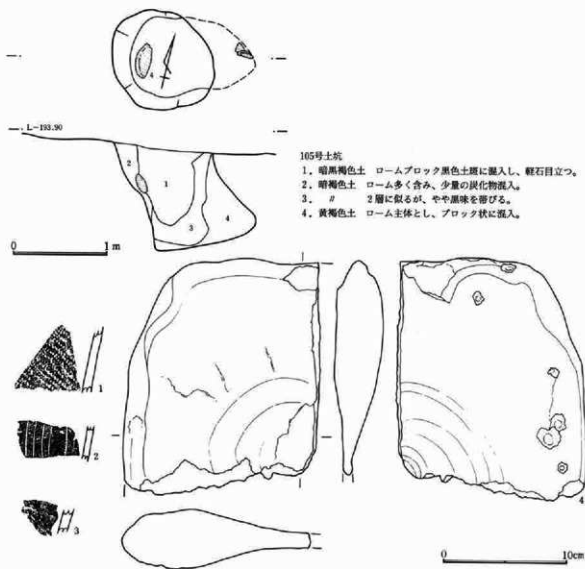
第38図 39号土坑及び出土遺物

105号土坑 (第39図、PL6)

R-6グリッドに位置する。円形で、惣方はかなり不規則。北東部がオーバーハングする。

出土遺物 1はRLの縄文が施文される。2は縦位の平行沈線。3は無文。小破片である。4は大型の石皿片である。破損しており、両面はかなり擦り減っている。中央部分は薄くなっている。

第3章 検出された遺構と遺物



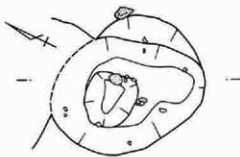
第39図 105号土坑及び出土遺物

106号土坑 (第40図、PL 6)

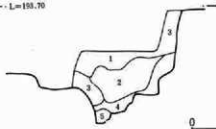
R-7グリッドに位置する。北側の一部を平安時代の住居が切っている。平面形は長円で深さは約1mである。掘方面が極めて不明瞭で壁面、底面には凹凸が目立つ。

出土遺物 1は頸部無文部下にLRの縄文。2は縄文地文に沈線文。3は横位集合沈線。4は斜位の条痕文。5・6は斜位方向の細沈線文。7は底部片細条痕文、底部網代痕。8は砥石片。





--- L=153.70



106号土坑

1. 暗褐色土 細粒で若干の炭化物含む。
2. # 1層に似るが、やや黒っぽい。
3. # ロームブロック若干混入。
4. # ロームブロック、黒色土ブロックの混入。
5. 淡褐色土 ローム多く含む、粘性あり。

0 1m



0 10cm

第40図 106号土坑及び出土遺物

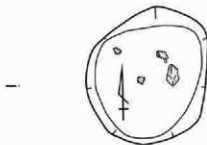
107号土坑 (第41・42図、PL6)

R-8グリッドに位置する。円形を呈し、比較的急角度に掘り込まれている。出土遺物は土器片の他に砥石、石皿の破片等が出土している。

出土遺物 1・2は横位の磨り消し帯を持つ。1は口縁部片。3・4は縄文土器。3は縦位の集合沈線で縦長の貼り付け文を持つ。4は無文で表面荒れている。

出土石器 5は縦長の礫を利用した凹石で、破損している。6は石皿の破片である。厚みもち、側面、裏面に多くの凹穴が見られる。

7は扁平な礫を利用した砥石である。側縁部がやや薄く、片面に溝状の使用痕が複数認められる。



--- L=194.20



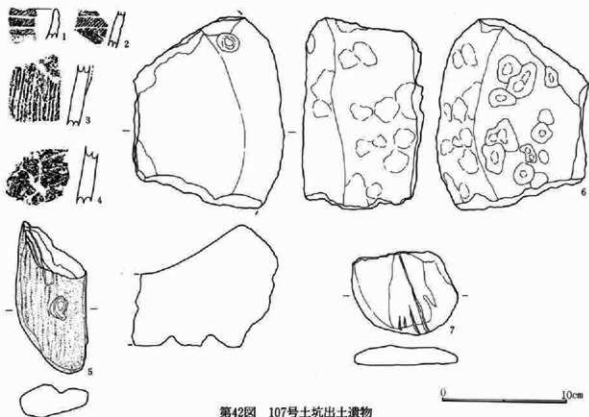
107号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒子混入。
2. 暗褐色土 ロームブロック含む、締まる。
3. 明褐色土 黄色ロームブロック多く混入。

0 1m

第41図 107号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

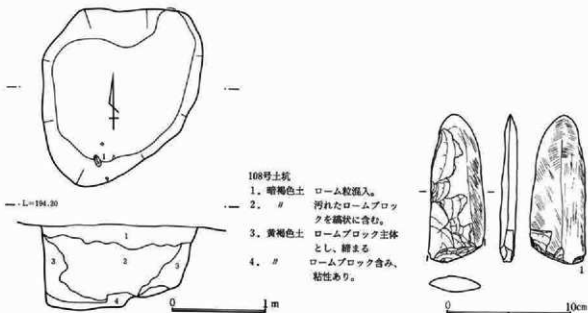


第42図 107号土坑出土遺物

108号土坑 (第43図、PL 6・7)

R-8グリッドに位置する。不定形でやや大形、深さも約1mを測る。

出土遺物 1は石剣であろうか、覆土最上層で出土。先端部のみで他は欠失、片面に稜を持ち、全面丁寧に研磨されている。表面の1部が剝離しており、火を受けている。



108号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒混入。
2. # 汚れたロームブロックを塊状に含む。
3. 黄褐色土 ロームブロック主体とし、締まる
4. # ロームブロック含み、粘性あり。

第43図 108号土坑及び出土遺物

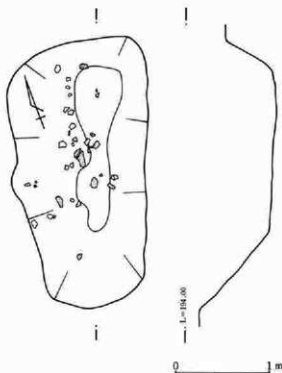
## 109号土坑 (第44~46図, PL 7)

R-7グリッドに位置する。ほぼ長円形を呈し、規模は2.8m×1.4mで深さ0.8mである。出土遺物は土器片に混じり石剣が1点検出されている。

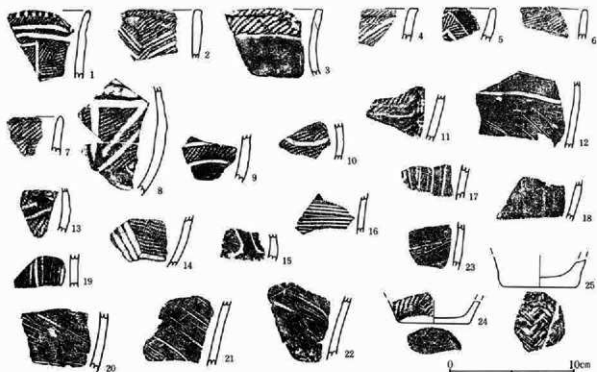
出土遺物 1は壺型土器片、LR地文に縦位、斜位方向の太沈線で区画文。2は条痕文地に沈線で区画された無文帯。3は口縁部折り返し、LRの縄文を横位施文。4は口唇部に棒状工具による刻み文、沈線を二本横走させLR地に沈線による区画文。5は底部片、LRの縄文。6は条痕文。7は带状の磨り消し縄文。8は縦方向の沈線。

9は浅い条痕文。10は横位の集合沈線。11はLR縄文地に太めの沈線。12は粗い斜位方向の条痕文。14は縦方向の沈線。15は口縁部片矩形の磨り消し縄文。口唇部にも縄文施文。16は条痕文。17は口縁部片でLRの縄文。18は口縁部片、LRの縄文。口縁端部やや肥厚し縄文が施文されている。19は底部片、網代痕。20は縦位の粗い条痕文。21はLR縄文地に沈線文。22はLR地に山形の集合沈線。23は沈線文。24は縄文地に沈線文。25はLRの地文に沈線文。

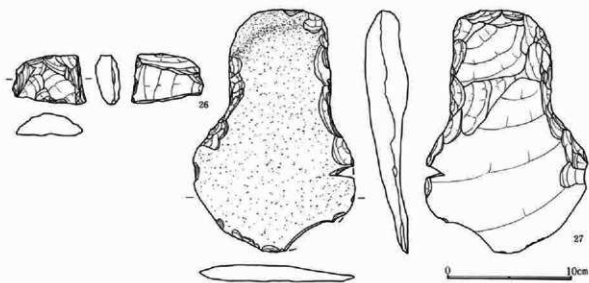
26は打製石斧の破損品であろう。27は石剣。刃部は丸味を持って広がり薄手。基部は厚みを持つ。



第44図 109号土坑



第45図 109号土坑出土遺物(1)



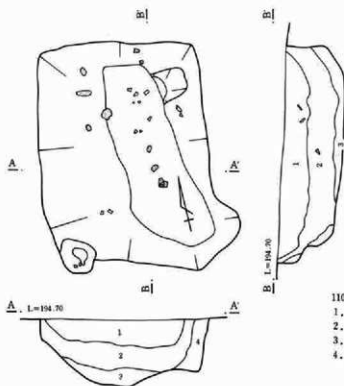
第46図 109号土坑出土遺物(2)

110号土坑 (第47・48図、PL 7)

R-8グリッドに位置する。不正方形を呈し、深さは約0.7mである。

出土遺物 1は口縁部片、LRの縄文、横位沈線が見られる。口唇部指先により内側への押圧。2は沈線文。3はLRの縄文地に横位の磨消帯。4は縦方向に、棒状工具による集合沈線。5は条痕文。6は壺型土器の頸部片。横の太沈線と円形文、その中にLRの縄文が施文されている。

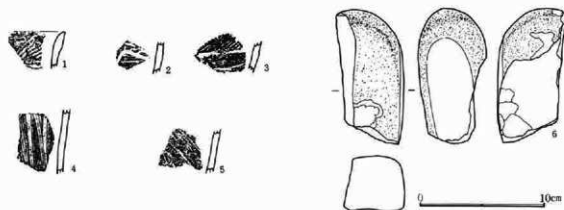
6は磨石である、破損品。円礫を利用し、使用面はかなり使い込まれ平坦で平滑である。



110号土坑

1. 暗褐色土 ローム分含み、若干の軽石散入。
2. # ローム粒子若干含む。
3. # ロームブロック混入し、粘性あり。
4. 黄褐色土 地山のローム崩落土多く混入。

第47図 110号土坑

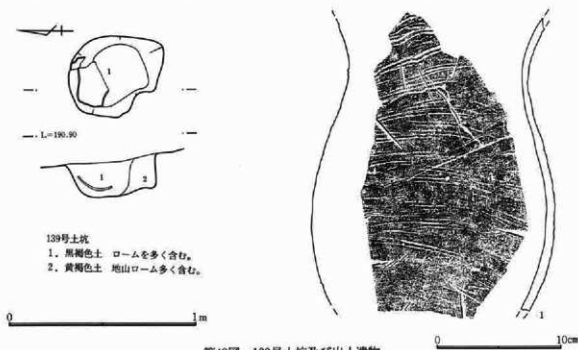


第48図 110号土坑出土遺物

139号土坑 (第49図、PL 7)

〇-9 グリッドに位置する。円形で径0.6m、深さは約0.25mで規模はかなり小さい。

出土遺物 1は胴部が膨らみ、頸部がやや締めまり口縁に向かって外反する。頸部以下は右下がりの条痕文。



第49図 139号土坑及び出土遺物

139号土坑

- 1. 黒褐色土 ロームを多く含む。
- 2. 黄褐色土 地山ローム多く含む。

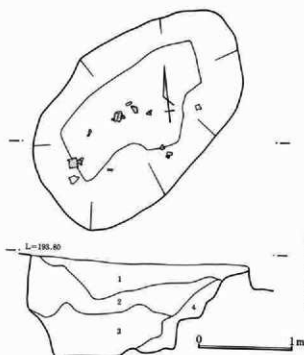
上位は横位の沈線でやや波状を呈す。胴部外面に僅かに炭化物が付着。4分の1程の破片である。

140号土坑 (第50・51図、PL 7)

R-7 グリッドに位置する。長円形を呈し、底面形はやや不定形であるが、面は比較的平坦である。112号住居跡によって東側の一部が切られている。

出土遺物 1はかなり摩滅しているが、LRの縄文が施文されている。2はLR地文に沈線の痕跡。

3は砥石である。大型の破損品、3面の使用面が認められる。4は板状の砥石である。偏平な小礫を利用して。使用面は平坦。



第50図 140号土坑

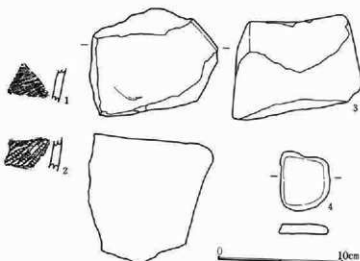
140号土坑

1. 暗褐色土 ローム含み、軽石、若干の炭化物含む。
2. # 1層に近似、軽石粒含まず。黒色土ブロック混入。
3. # 2層より黒味強く粘性あり。黒色土ブロック混入。
4. 黄褐色土 ロームブロック多く含み、粘性あり。
5. # ローム含みが、薄れた感じ。

141号土坑 (第52図)

S-7グリッドに位置する。やや長円形で119・120号住居跡が重複する。深さは0.3m程で底面はわずかに丸味を呈す。

出土遺物 1はLR地文に沈線文。2は異方向の条痕文。

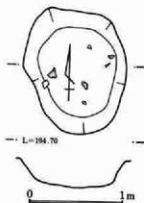


第51図 140号土坑出土遺物

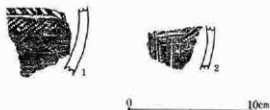
142号土坑 (第53図、PL 7)

U-8グリッドに位置する。

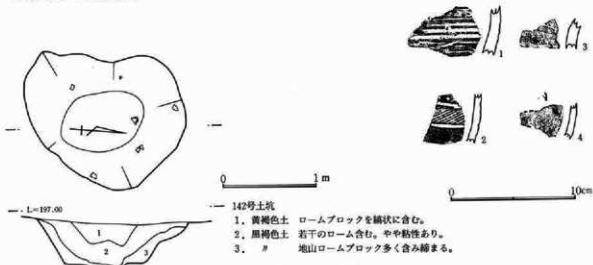
不正円形を呈す。



第52図 141号土坑及び出土遺物



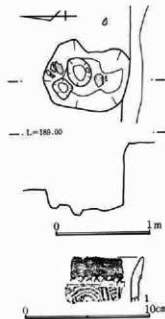
出土遺物 1は横位に複数の沈線。2は平行沈線内にLRの縄文施文。両側は無文。3・4はともに無文。3は頸部片、4は胴部片。



第53図 142号土坑及び出土遺物

145号土坑 (第54図、PL 7)

V-25グリッドに位置する。長円形を呈し、16号溝に一部切られている。出土遺物 1は口縁部片、口唇部は薄く尖る。沈線による円形文、口縁部との境に刻み。



第54図 145号土坑及び出土遺物

154号土坑 (第55図、PL 7)

S-6グリッドに位置する。長円形で114号住居跡が重複する。

出土遺物 1は口縁部片、斜位方向の太沈線と竹管端部による刺突文。2は表面が大きく剝がれている。波状沈線文。3は小型土器の口縁部で無文。4は帯状の磨り消し縄文。



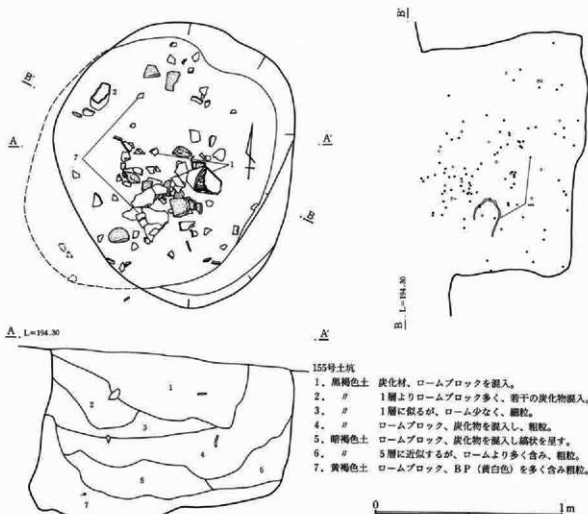
第55図 154号土坑及び出土遺物

155号土坑 (第56～58図、PL.8)

T-6グリッドに位置する。円形を呈し、規模は1.45×1.3×0.85mである。南西部はオーバーハングしている。出土遺物は比較的多い。

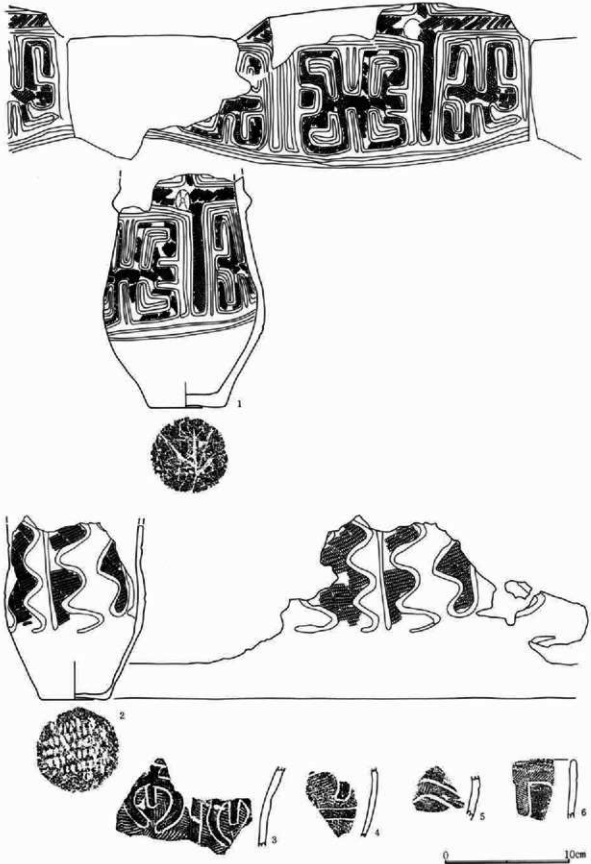
出土遺物 1は壺形土器、器高(現高)17.8cm、底径6.1cm、胴部はやや丸味を持ち上方で締まり、再び直に立ち上がる、頸部から上を欠いている。胴部の膨らむ部分に、上部の文様帯の始まりを区画する2本の並行沈線がやや斜めに廻る。文様は大きく上下2段の4区画に分けられており、下段の4区画の内1区画は他のものとややモチーフを異にする。地文に縄文を施し、区画内の対角に沈線でL字を描きそれを囲んで沈線を巡らし、区画中央には沈線を持つ舌状文が上下から描かれ、左中央には矩形文、右にはコの字文が描かれている。他の区画には4単位に重矩形文が描かれる。また上下の区画文の交点には瘤状の張り付け文を持つ。底面に木葉痕が見られる。色調は茶褐色で胎土には少量の石英粒を含む。

2は壺型土器、頸部から口縁部を欠く。器高(現高)14.7cm、底径6.5cmで胴部はやや膨らみ、上部がややすばまる。文様は上から下に向かう曲線文様の磨り消し縄文が施される。色調は淡褐色で石英の小砂礫を含む。底面には網代痕が見られる。また内面に赤色顔料の付着痕が見られる。3は筒型土器の胴部片。LR地文に沈線による磨り消し文様を描く。4は縄文地文に沈線による磨り消し文様。赤色塗彩土器。5は沈線による文様を描く磨り消し文様。6は鉢型土器片。細かいLR縄文地文。沈線による磨り消し文様を描く。赤色塗



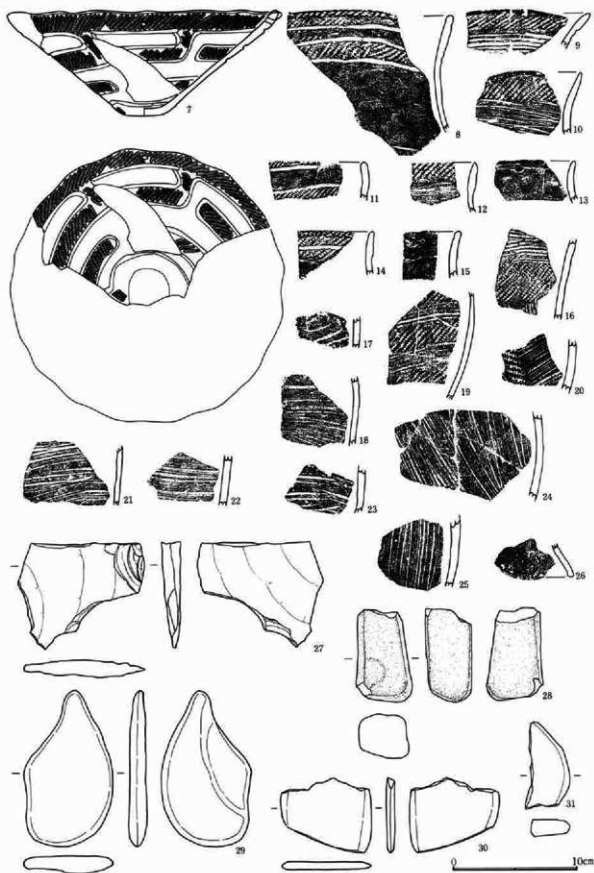
第56図 155号土坑





第57図 155号土坑出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



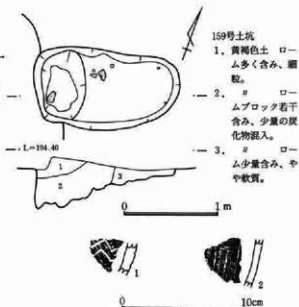
第58図 155号土坑出土遺物(2)

彩土器。7は鉢型土器、口径21.5cm、器高8.2cm、底径3.4cmである。大きく逆「ハ」の字に開き、底径は小さい。口縁部は緩く波状を呈し、口縁部下に焼成前の穿孔が見られる。文様はLRの地文縄文に隅丸長方形を横並びに配した磨り消し縄文である。内面は丁寧に磨かれている。ほとんど剝がれているが赤色塗彩土器である。8は壺型土器の口縁部片である。口縁部にLRの縄文を施文、沈線を横走させ磨り消し帯を作る。口唇部にも縄文を付す。9・10・12は壺型土器の口縁部片。9はLR縄文帯と集合沈線。10は口縁部にLR縄文を施文、以下条痕文。11はLRの縄文地文に沈線で画された横位無文帯。12は口唇部やや肥厚、LR縄文を帯状施文。14は口縁部に沈線を持つLR縄文帯。口唇端部にも施文。13・15は無文の口縁部片。15は口唇端部に指頭痕。16はLRの縄文地文に横位集合沈線。17は沈線による重四角文文様、縄文が施文されているようであるが摩滅している。19はLR地文に5本単位の沈線。18・21・22・23は横位条痕文。20は斜位条痕文とLRの縄文。24は斜位方向の条痕文。25は縦位条痕文。26はハの字に開く台の破片か。

出土石器 27は石鎌刃部の破片である。28は敲石である。破損品。角棒状で端部に打痕。29・30・31は砥石である。29はなすび形で全面平滑。30は薄い板状で両側縁が刃部様に薄くなっている。31は薄手の礫を利用しており破損している。

159号土坑 (第59図、PL 8)

S-7グリッドに位置する。120号住居跡に西側の一部を切られる。平面形は長円で深さは0.85cmである。  
出土遺物 1は山形の平行沈線文。2は粗い条痕文。



第59図 159号土坑及び出土遺物

162号土坑 (第60図、PL 8)

T-7グリッドに位置する。不正長円形で164号土坑と重複する。掘方はあまり明確ではない。  
出土遺物 1は斜位方向の条痕文。



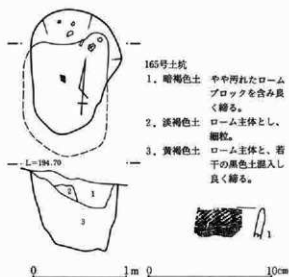
第60図 162号土坑及び出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

165号土坑 (第61図、PL 9)

T-7グリッドに位置する。やや南北に長い長円形を呈す。南側が大きくオーバーハングしている。

出土遺物 1は口縁部片、LR縄文を帯状施文する。

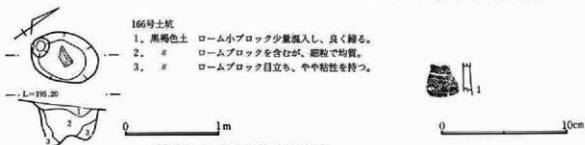


第61図 165号土坑及び出土遺物

166号土坑 (第62図、PL 9)

U-8グリッドに位置する。長円形を呈す小形の土坑である。

出土遺物 1は横位の条痕文。

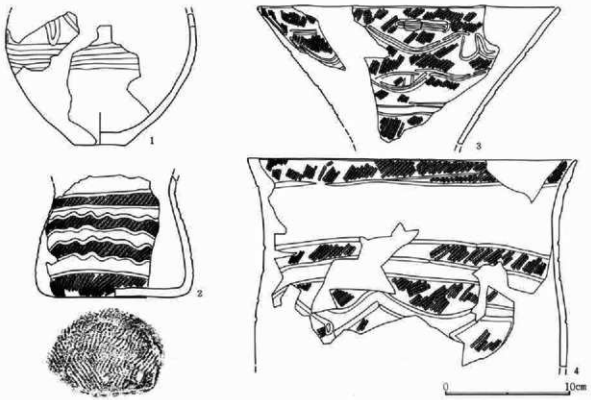
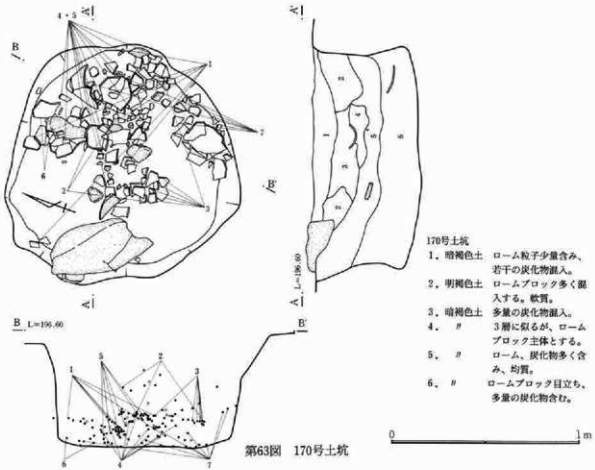


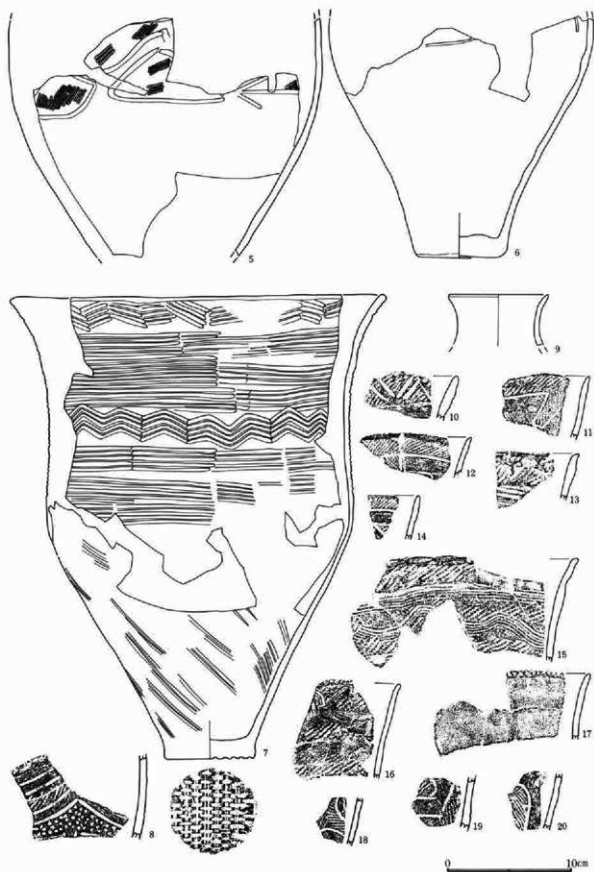
第62図 166号土坑及び出土遺物

170号土坑 (第63~66図、PL 9・10)

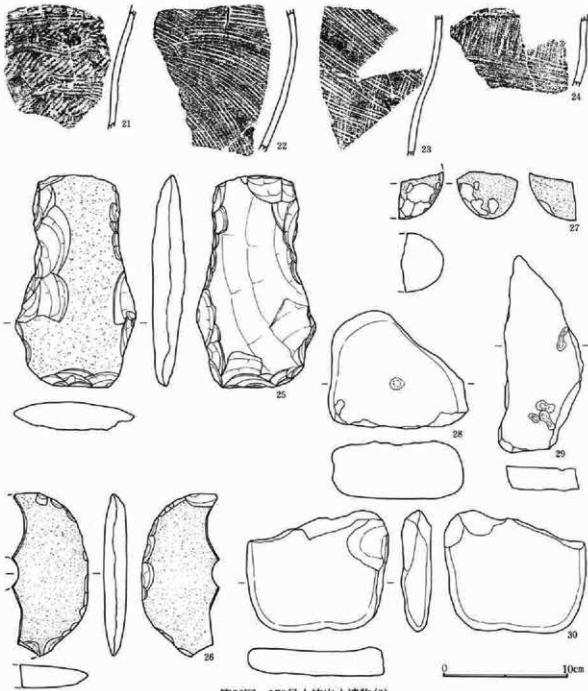
U-9グリッドに位置する。

1は壺型土器の胴下半部片である。沈線により胴中位に平行線文、舌状文が描かれる。下半は磨き残しの条痕が見られる。内面は磨かれている。2は筒型土器である。底径10.5cm。胴下半部のみ。下膨れの器形で上部がやや縮まる。地文にRLの縄文を施文し、棒状工具で平行線、波状文を描き、一段おきに縄文を磨り消している。底面にも縄文が充填される。3は大きく外に開く鉢型土器である。口縁部LRの縄文地文、沈線により波状、木葉状、舌状文が描かれている。外面は赤色塗彩されている。内面は丁寧な磨きがなされている。4・5は壺型土器である。口縁部LRの縄文帯。頸部にも沈線で区画された縄文帯。胴部は縄文地文に沈線で波状文、楕円文を描く。6は壺型土器の胴下半部片底径は小さく。やや外反しながら立ち上がり、中位で丸く内湾する。胴下半部無文で良く磨かれている。上端に沈線文が一部観察される。内面はやや荒れている。砂粒含み茶褐色。7は壺型土器。口径31.2cm 器高35.5cm 底径7.2cm。小さめの底部から外反して立ち上がり、頸部は僅かにくびれ、口縁部は外反する。5本1単位の工具による沈線で口縁部と頸部中位に連続山形文。他は横方向に多段施文する。淡黄褐色で砂粒含む。底面には網代痕が明瞭に残る。8は地文に無節Lの縄文、沈線による平行線文、三角文を描き、三角文内には爪形刺突文。9は小型土器の口縁部片で無文。10は壺型土器の口縁部片、口唇部やや肥厚しLR地文に2本の沈線を山形に配す。11は口縁部片LR縄文地文に沈線による磨り消し文様。器面やや荒れている。12は口縁部片LR地文に沈線による磨り消し工字文。赤色塗彩土器。13は口縁部片。LR縄文が横位施文され、下に沈線が見られる。口唇にも縄文が施文される。14・18・





第65図 170号土坑出土遺物(2)



第66図 170号土坑出土遺物(3)

20はLR地文に沈線による磨り消し文様。赤味のある土器で焼きは良い。15は壘形土器の口縁部片。口唇部肥厚しLRの縄文が施文され、以下LR地文に横位、波状の集合沈線を巡らす。16は口縁部片、地文にLRの縄文、口縁に波状文、口唇部に縄文の押圧痕を付す。17は壘形土器の口縁部片、無文で口唇部に刻み。19はLR縄文地文に沈線による磨り消し文様。21はLR縄文地文に横位にやや波状を呈す複数の沈線。22は斜位方向の条痕文。23・24は縦位、横位の条痕文。23はやや粗い。

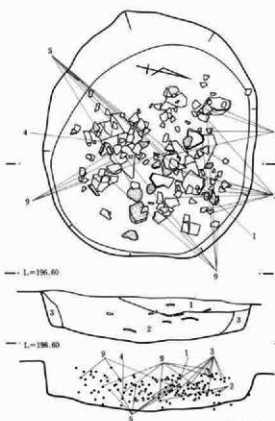
出土石器 25は石鋸である。刃部はやや広がり、1面に大きく自然面を残す。26は環状石斧。刃部に向かってやや薄くなる。外縁刃部は摩滅、約半分を欠く。27は磨石である。破損品で、円礫を利用。28は台石である。使用面の中央部に小穴が見られる。29は台石である。板状で片面は平坦、小さい凹穴が見られる。30は

石皿である。薄手で方形を呈す、両面を使用。

171号土坑 (第67~70図、PL10)

T-9 グリッドに位置する。

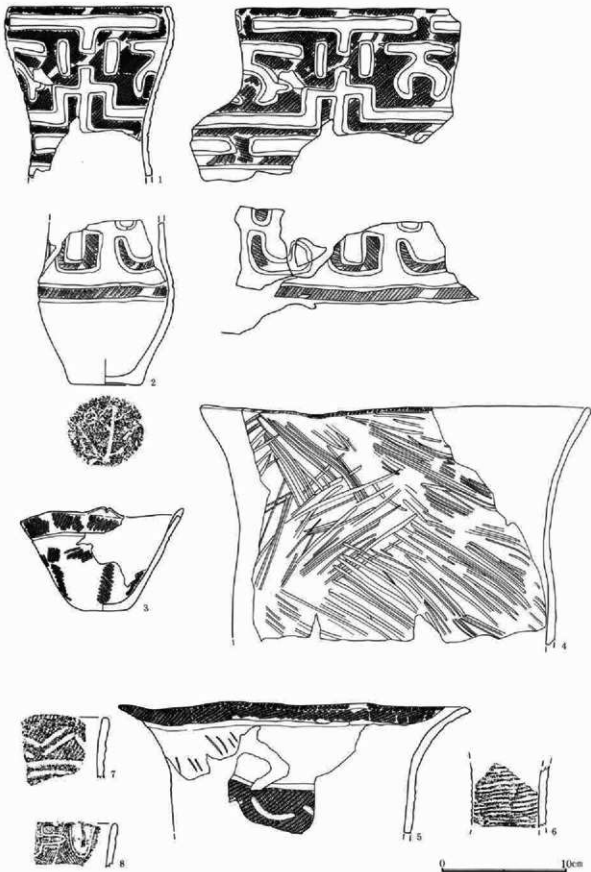
1は壺型土器胴部上半部である。口縁部はやや丸味を持って膨らんだ後口唇部は僅かに内傾する。口径12.8cm。地文にLR縄文を施文、L字状、T字状、下向きC字状などのモチーフを組み合わせた磨り消し縄文文様を持つ。2は小形の甕形土器であるが、頸部から口縁部を欠損する。胴部がやや膨らむ、胴中位上半に文様を持つ。2本の沈線で区画された縄文帯の上に沈線によるU字状文を横並びに描く。底部木炭痕。3は鉢形土器である。小さく角の取れた底部から外に開きながら立ち上がる。口縁の1部がやや突起し、先端部に刻みが入る。口縁下にはLR縄文を施文し沈線で画す。以下は縄文を施文しているがLRを帯状に横位施文し、そこから6本の縦位施文を行っている。4は甕形土器の胴上半部である。頸部でやや締まり、口縁部は外反。条痕文がやや乱雑に矢羽状に施される。また口唇部には縄文が施文されている。5は甕形土器の口縁部片である。直立気味の頸部から口縁部は大きく外反する。口唇、口縁部下にLRの縄文帯を作り、沈線で区画。無文帯の下に沈線で区画された、縄文地文の文様帯が見られる。6は壺型土器の頸部片、横位の沈線が充填される。7は壺型土器の口縁部片。8は壺型土器の口縁部片。無筋Lの施文後沈線による磨り消し文様を描く。さらに耳状の貼付文がつく。9は浅鉢形土器ある。推定口径21cm。地文にLR、沈線による磨り消し文様を描く。口縁部に2箇所焼成前の穿孔。外面には赤色塗彩痕。10は甕形土器の口縁部片でかなり摩滅している。LR縄文が施文される。11は無文の口縁部片。LR縄文地文に太めの沈線による山形文、平行線文を描く。12は甕形土器の口縁部片、口縁部やや肥厚しLR縄文が施文されている。13は口縁部片、LRの縄文が横位施文され、



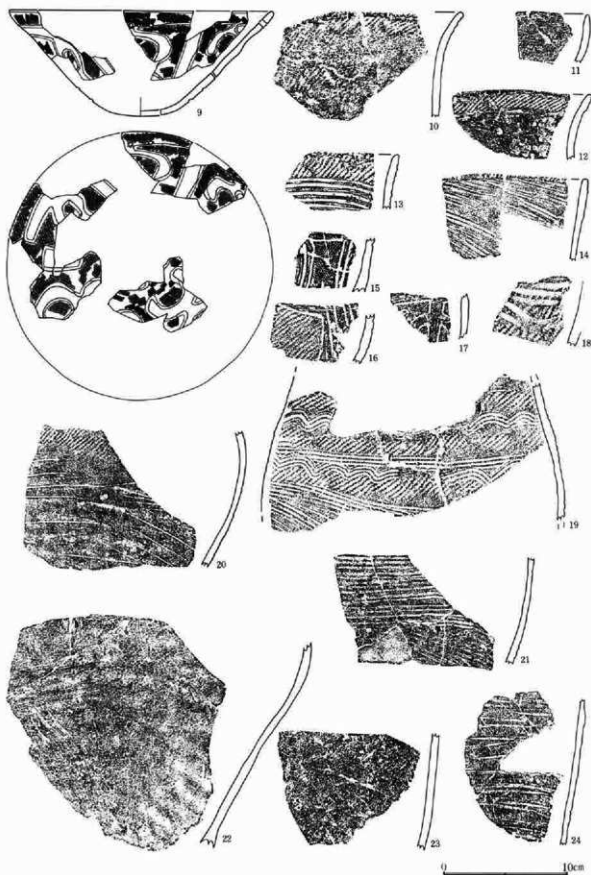
- 171号土坑  
 1, 暗褐色土 ローム含む、少量の炭化物混入。  
 2, 黄褐色土 ローム、炭化物混入し、軟質。  
 3, 黄褐色土 ローム主体とし、粘性を持つ。

第67図 171号土坑

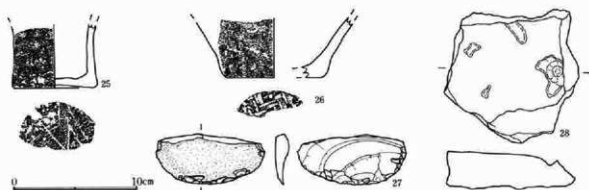




第68図 171号土坑出土遺物(1)



第69図 171号土坑出土遺物(2)



第70図 171号土坑出土遺物(3)

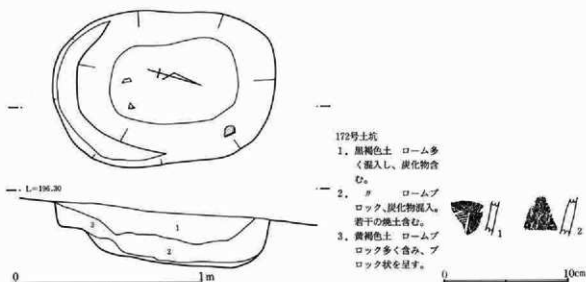
下に集合平行線文。口唇部にも縄文が施文されている。14は口縁部片、斜位方向の条痕文。口唇部には縄文が施文されている。15は細かい無節の縄文地文に沈線により文様を描く。16はLR縄文地文に沈線で矩形文様。17は口縁部片、沈線による文様を描く。18はLR縄文に沈線により文様を描く。19はLR縄文地文に4本単位の沈線で波状文、平行線文を描く。下位には斜位方向の条痕文。20は上位にはLR縄文、以下には粗く条痕文が見られる。21は横位条痕文。22・23は僅かに条痕文が見られる。24は薄手の土器で粗い平行沈線が横位施文されている。25・26は底部片、いずれも無文で25は底面に木葉痕、26は網代痕が見られる。

出土石器 27はスクレイパーである。半月状を呈し、刃部は弧状をなし、片面に自然面を残す。28は凹石である。破損品。偏平で片面は平坦。

172号土坑 (第71図、PL10)

T-9 グリッドに位置する。長円形を呈す。

出土遺物 1は磨り消し縄文。2は無文の胴部片。



第71図 172号土坑及び出土遺物

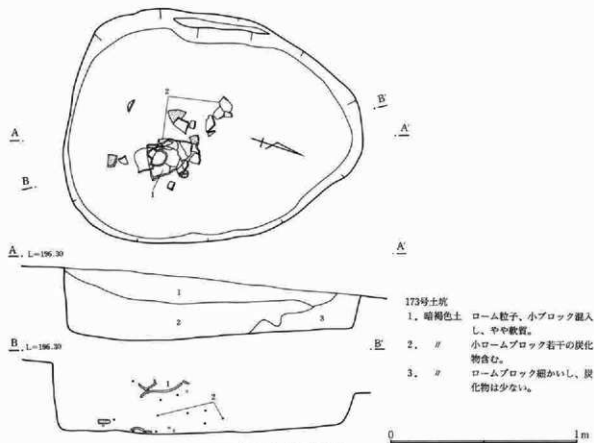
172号土坑

1. 黒褐色土 ローム多く混入し、炭化物含む。
2. 赤 ロームブロック、炭化物混入。若干の焼土含む。
3. 黄褐色土 ロームブロック多く含む、ブロック状を呈す。

第3章 検出された遺構と遺物

173号土坑 (第72~74図、PL10)

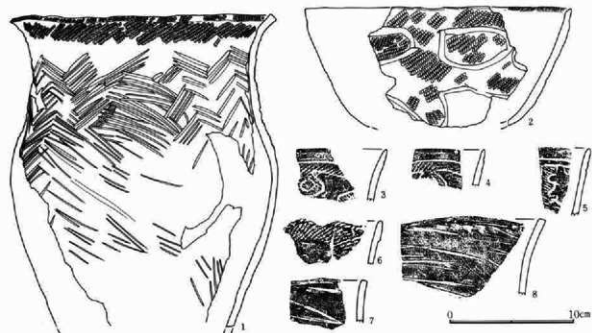
1は壘形土器である。口径21.0cm。胴部から頸部にかけて、シャープな施文具による綾杉文がやや乱雑に施されている。胴下半部には斜位の条痕文が見られる。口唇、口縁にはLRの縄文が横位施文されている。胴



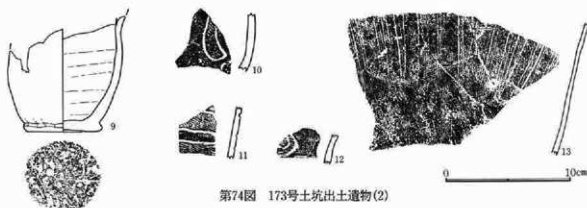
173号土坑

- 1. 暗褐色土 ローム粒子、小ブロック混入し、やや軟質。
- 2. # 小ロームブロック若干の灰化物含む。
- 3. # ロームブロック細かいし、灰化物は少ない。

第72図 173号土坑



第73図 173号土坑出土遺物(1)



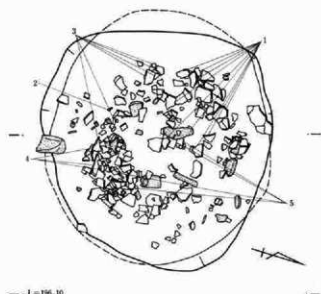
第74図 173号土坑出土遺物(2)

下半部に若干の炭化物の付着が見られ、二次火熱を受けている。肩部外面に靱の圧痕が見られる。2は鉢形土器である。LR縄文地に楕円文、不定形文が見られ、不定形文内は磨り消されている。口唇部にLの無節縄文が施文されている。赤色塗彩土器。3・4・10・12は鉢型土器片。地文にLRを施文、沈線による曲線の磨り消し文様。5は筒形土器片。無節のR縄文地文に平行線、曲線文の磨り消し文様を描く。6は口縁部片。口唇、口縁外端に帯状にLR施文。7・8は口縁部片。口唇平坦に撫でられ、篋状工具による横位方向の条痕文。9は小形変形土器である。無文で底は端部が張り出す。底径は6.0cmである。11は細かいLR縄文に沈線による磨り消し縄文。13は胴下半部片、縦位の条痕文。

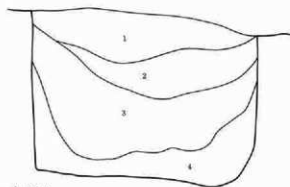
## 174号土坑 (第75～77図、PL10)

1は壺型土器である。胴部から頸部にかけてのころ。全面にLRの縄文を施文。胴部には3本の太沈線で山形文を描き、中央に7～8個の刺突を持つ円形文を配す。頸部とのくびれ部に4本の沈線を巡らし、頸部には3本の沈線で山形文を2段にわたって描く。橙褐色を呈す。2は小形土器の口縁部である。口径8.7cm。やや肥厚した口縁部外面に、LRの縄文が横位に施文される。3は丸底の鉢形土器の下半部である。太めの沈線で、重三角文文様をLR地文の上に横並びに描き、文様間に上から縦位の舌状文が下がる。底部は円く沈線で区画する。4は変形土器の口縁部である。口唇部、口縁部にLRの縄文を横位施文し、頸部に無文帯をつくり、頸部下位に、LRの縄文地文に沈線で区画された横位の、磨り消し帯を持つ。石英粒の混入目立つ。5は鉢形土器である。口径14.0cm器高8.7cm底径4.2cmで約半分を欠く。器形は小さい底部から逆ハの字に開く。口唇部は薄く仕上げられ外反する。口縁下に縄文LRを施文、棒状工具によりやや乱れた山形文を2本描き懸ぎ、下部で横に直線、さらに平行して丸味をもった山形文を描く。6はLR縄文に沈線による無文帯。7はLR縄文地文に沈線による楕円文、平行線文を描く。8はLR縄文が施文され、平行沈線が横位に走る。9は口唇、口縁にLRの縄文、以下波状の集合沈線が充填される。10・14は変形土器の口縁部片、口縁にLR縄文、無文帯をもうけた後再び縄文が施文される。11は口縁部片、縦位の条痕文。12は鉢形土器の口縁部、無文である。13はLR地文に沈線により楕円文、平行線により磨り消し文様を描く。赤色塗彩土器。15・16・17・18・19・20はLR縄文に沈線による磨り消し文様を描く。21は横位波状文、LR縄文、条痕文が施文される。22はLR縄文

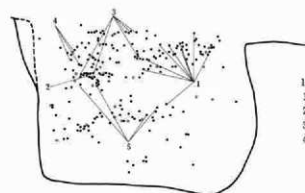
第3章 検出された遺構と遺物



L=196.10



L=196.10



174号土坑

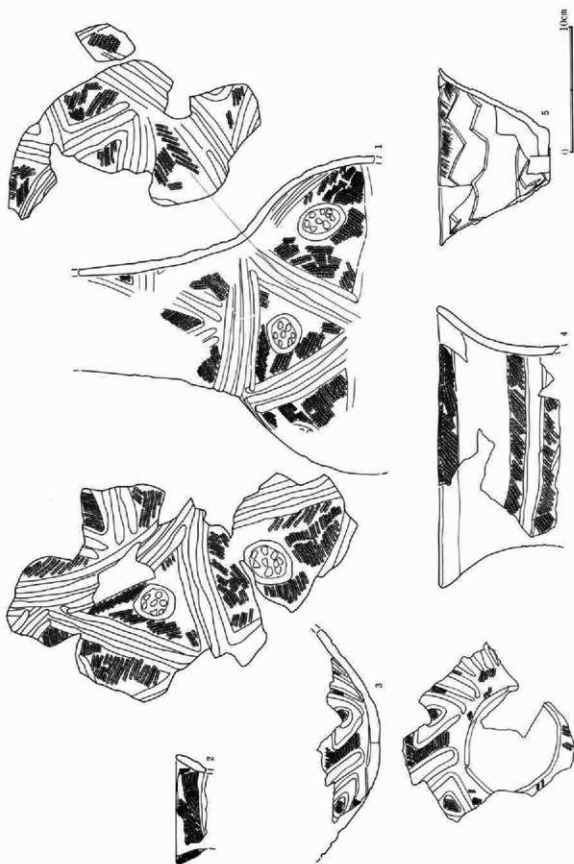
- 1. 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック含む。
- 2. # ロームブロック、炭化物含み、縞状を呈す。
- 3. 暗褐色土 多量のロームと若干の炭化物混入。
- 4. # ローム多量に含み、粘性強い、やや軟質。

0 1m

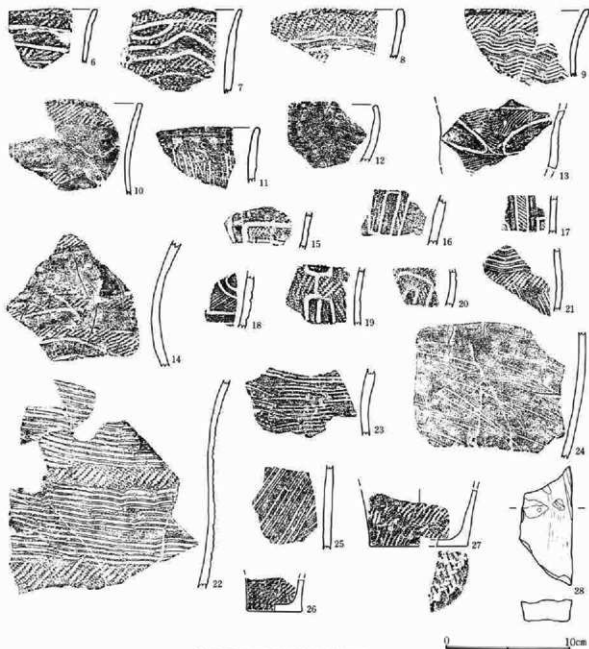
第75図 174号土坑

帯と横位集合沈線を交互に施文。23は横位集合沈線。24は粗く条痕文。25は斜位条痕文。26・27は底部片、LR縄文が施文される。27は底面に網代痕。

出土石器 28は凹石である。破損品。磔を利用、浅い凹穴を持つ。



第76図 174号土坑出土土遺物(1)

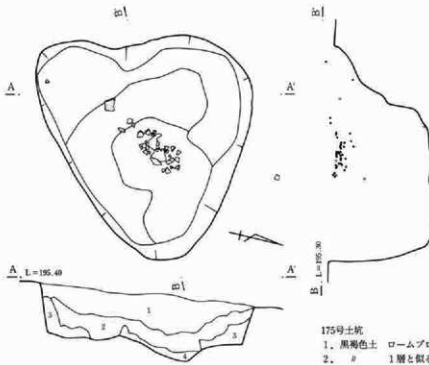


第77図 174号土坑出土遺物(2)

175号土坑 (第78・79図、PL11)

1は甕形土器の口縁部片、口縁部に沈線による山形文を持つ縄文帯、頸部無文で下位に沈線、LR縄文。表面に炭化物が付着。2は無文の口縁部片。3はLR縄文地文に沈線文。4は粗い条痕文。5は細い無節Lの地文に横方向の沈線。6は甕形土器の胴下半部片である。上位は横位の条痕文、下位は粗い縦位の条痕が見られる。外面に炭化物の付着が見られる。砂粒含む。7は甕形土器の胴下半部片、6と同一個体か。横位、斜位の条痕文が見られる。砂粒含む。8はLR地文に4本単位の波状沈線文。9はLR縄文地文に斜め方向に4本の沈線。10は胴下半部片、縦位、斜位の条痕文。11は横方向の条痕文。

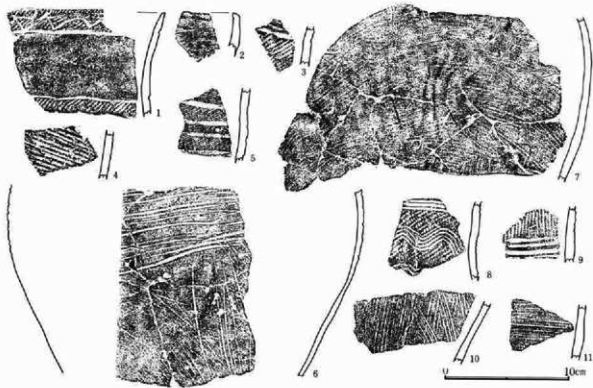




- 175号土坑
- 1. 黒褐色土 ロームブロック、炭化物若干含み、良く締る。
  - 2. # 1層と似るが、ローム分多く、炭化物細かい。
  - 3. 明褐色土 地山のロームを多量に含み、軟質。
  - 4. # ロームを主体とし、若干の黒色土を混入。

第78図 175号土坑

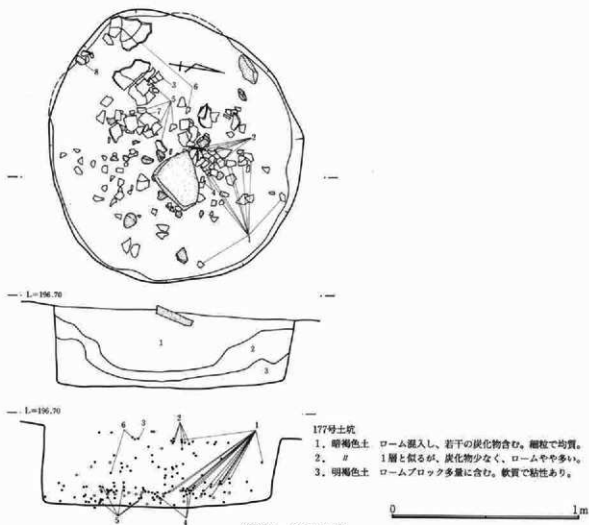
0 2m



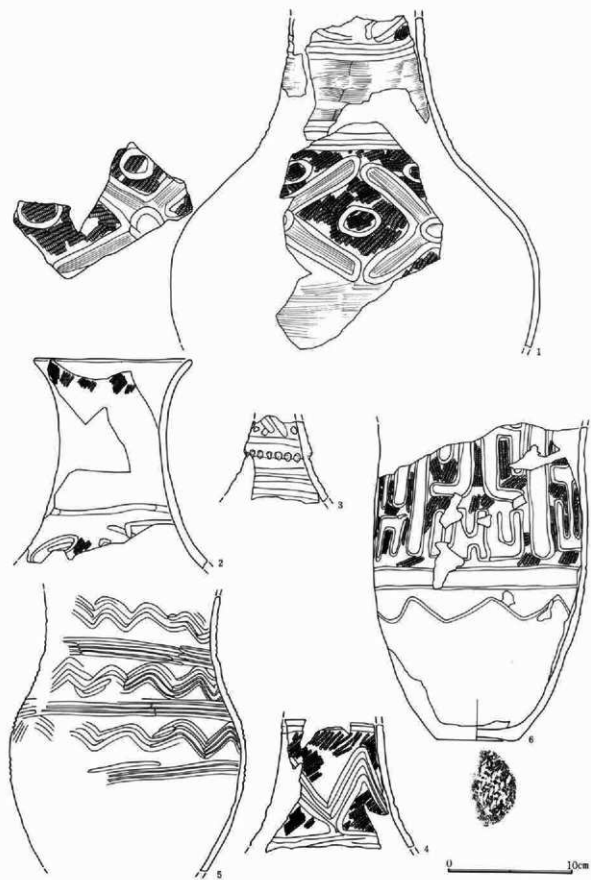
第79図 175号土坑出土遺物

177号土坑 (第80～83図、PL10・11)

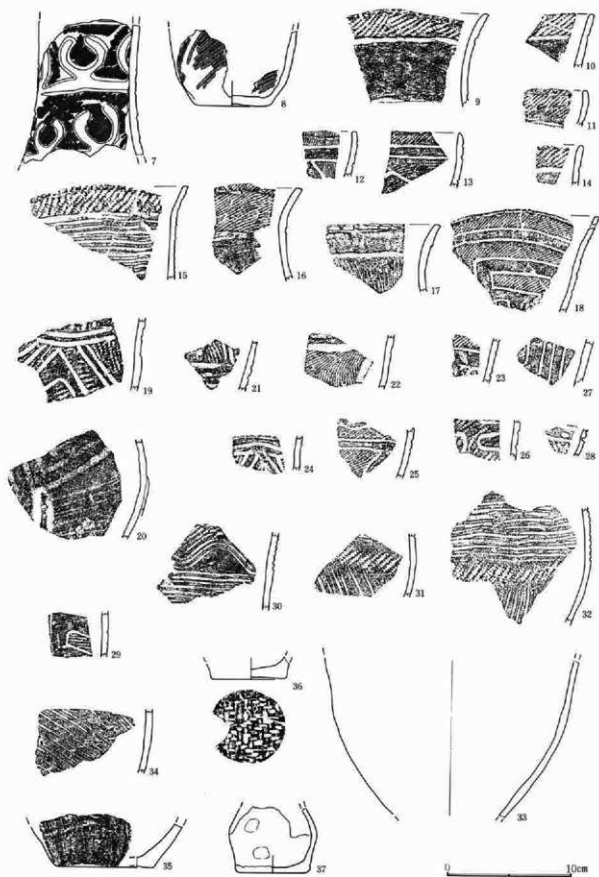
1は壺型土器である。胴部は太沈線によるX字状文を配し、その間に円形文を描き込む。地にはLRの縄文。頸部下位には横位の沈線文、上位には横位、斜位の沈線文が見られ、地文にLRが施文されている。また無文部は刷毛状工具による整形痕が顕著に見られる。砂粒の目立つ土器である。2は壺型土器の頸部から口縁にかけてである。口径12.5cm。口縁部下にLRの縄文帯、以下無文部で、沈線で区画した後やはり沈線による文様を描く。3は壺型土器の頸部である。上がややすぼまり、太めの沈線で、浅く横位の平行線文、三角文を描き、中央に刺突文が通る。4は壺型土器の頸部片である。上下を沈線で区画、重三角文文様を横に配す。地文にLRを施文。5は甕形土器、底部、口縁部を欠く。胴部丸味をもって膨らみ頸部はやや締まる。4本単位の沈線で波状文、横位文を交互に施文する。二次火熱を受けており、器面荒れている。6は甕形土器である。口縁部を欠く。胴部中位上半部にL字状、コの字状、H状などのモチーフで磨り消し文を組み合わせている。地文には縄文LRが横位、縦位に施文されている。文様下には横位沈線、山形文が描かれており以下は無文。砂粒含み茶褐色を呈す、焼きの良い土器である。底面に網代痕。7は筒形土器の胴部片である。LRの地文に、横並びに下向きC字状の磨り消し文様が多段に描かれている。外面に炭化物が付着する。黒褐色で焼きの良い土器である。8は甕形土器の底部片である、LR縄文が施文されている。9は口縁、口唇にLRの縄文、頸部は無文。10・11は口縁部片、LRの横位帯状施文。12は口縁部片、疑似縄文地文に沈線による文



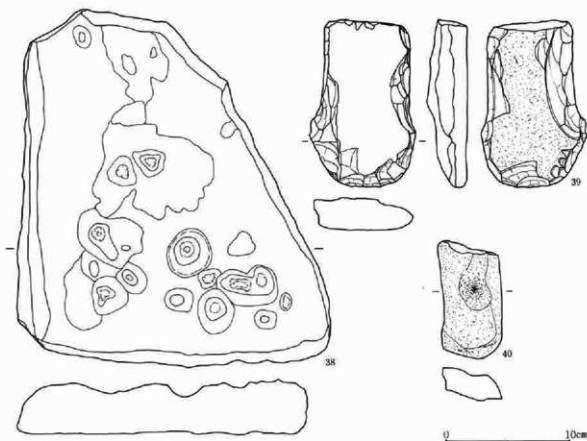
第80図 177号土坑



第81図 177号土坑出土遺物(1)



第82図 177号土坑出土遺物(2)



第83図 177号土坑出土遺物(3)

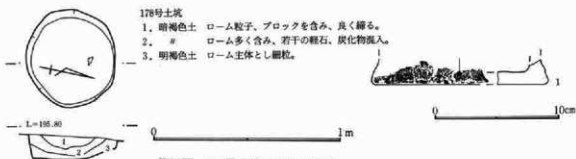
様を描く。13はLR地文に磨り消し文をもつ。14は口縁部にLRの縄文、沈線以下無文。15は壺形土器の口縁部片、口縁端部肥厚し、LRの縄文が施文され、以下は横位の集合線文。16は壺型土器の口縁部片、口唇部にLRの縄文が横位施文される。17は口縁部折り返されて肥厚、口唇部には押圧痕、頸部には縦位の条痕文。18はLR縄文地文に沈線により、横方向基調の磨り消し文様。19は壺型土器の胴部片屈曲部に2本の沈線、以下FLR縄文地文に斜位方向の沈線。20は条痕地文、浅い沈線文と細長い貼付文を持つ。21・23はLR縄文地文に沈線による磨り消し文様。22は細かいLR縄文地文に太めの沈線。24は横位、斜位方向の沈線。25・26はLR地文に磨り消し文様。27は縦方向の平行沈線。28は縄文地文に平行沈線。表面に粉殻の圧痕が見られる。29は矩形の磨り消し文様。30は集合沈線により横位、波状文を描く。31はLRの縄文を横位施文し、以下斜め方向の条痕文。32は横位の集合沈線を描き雜ぎ、以下FLR縄文。斜位方向の条痕文。33は壺形土器の胴部片、無文である。34は細い線条文。35・36は無文の底部片。36は網代痕。37は小型の粗製土器である。作りはやや雑で無文。出土石群 38は多孔石である。ほぼ三角形を呈す、板状の砂岩を用いている。片面に径3～5cmの凹穴が十数個穿たれている。39は石蹠である。基部の側縁は直線的で、刃部が僅かに広がる。厚手で片面に自然面を残す。40は凹石である。一部破損している。細長い礫を利用、浅い凹穴を持つ。

第3章 検出された遺構と遺物

178号土坑 (第84図)

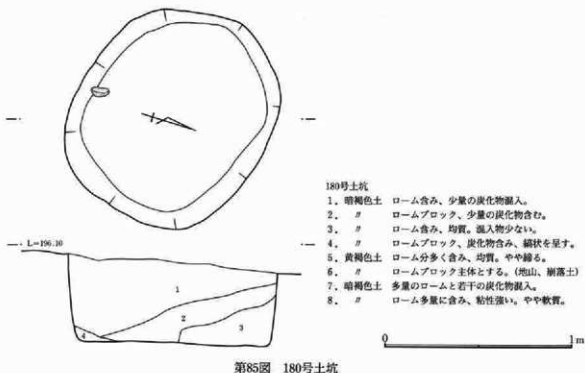
T-9 グリッドに位置する。円形を呈し、径約1mで深さは0.25mである。

1は無文の底部片である。



180号土坑 (第85図、PL11)

T-9 グリッドに位置する。円形を呈し、径は約1mで深さ0.45mである。

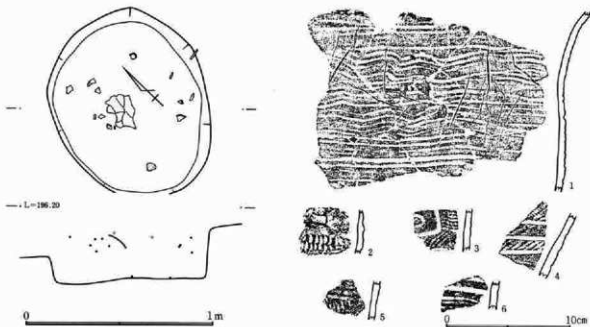


出土遺物は小片の為に図示できなかった。

182号土坑 (第86図、PL12)

T-9 グリッドに位置する。長円形を呈し、規模は1.0m×0.8m、深さ0.3mである。

1は壺形土器の頸部から口縁にかけての部分である。沈線により横位平行線文、および緩やかな波状文が多段施文されている。2は壺型土器の胴部片か、幅広の2本の凹線と連続爪形文。3は地文にLRの縄文を横位、縦位に施文。沈線による矩形の磨り消し文。4はLRの縄文帯と無文帯が交互に見られる。5はLR地文に斜位の沈線。6は横位の沈線文。



第86図 182号土坑及び出土遺物

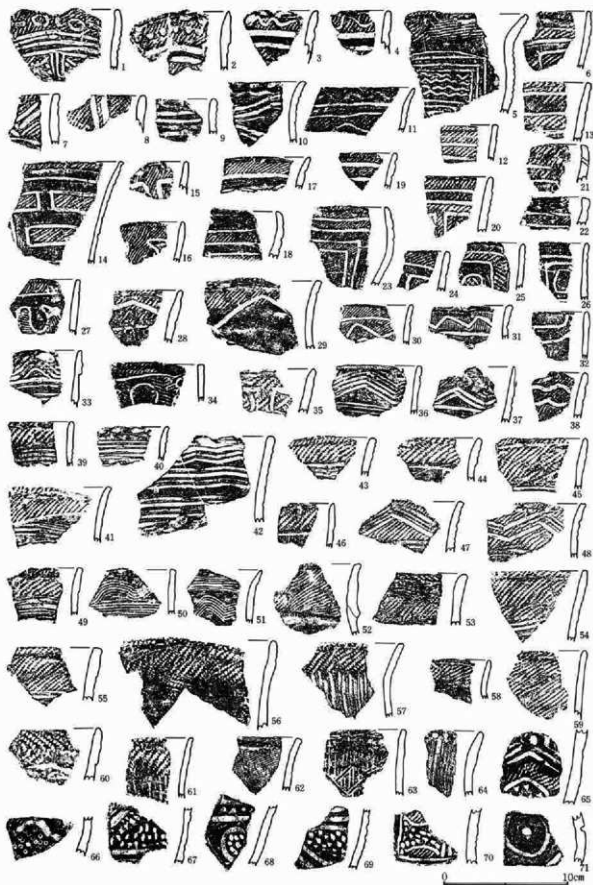
## グリッド出土土器 (第87~89図, PL101~102)

ここに図示した弥生土器は遺構(弥生時代の土坑)から出土以外のものを取り上げている。ただし遺構に伴わないもの他に、後世の遺構(住居・土坑・溝等)の覆土より出土したのも、グリッド出土土器として扱っている。

1~64は口縁部片である。1~4・7・8は壺型土器の口縁部片である。地文にLRの縄文が施文され、横位沈線、円形文、波状文が見られる。5は小形の壺形土器口縁部くの字に折れ、8~13は口縁部、口唇端部にLRの縄文が施文されている。1・2には沈線、3にはやや巾広の条痕が見られる。5は口唇部にLRの縄文が施文される、鉢形土器である。7は集合沈線による山形文、および横位施文が見られ、口唇部は平らに撫でられている。8・9はLRの縄文。10・12は縄文部下に横位沈線。11は縄文の上に平行沈線による山形文。

14は沈線による工字文様の磨り消し縄文、口唇部に回転縄文。15・16は浅鉢の口縁部片、地文LRに沈線文。17~26は地文LR。口縁に沿って1ないし2本の沈線を引き、以下矩形的文様を描く。27は上向きC字状文。

28・29はLR地文に山形文。30・31も同様のモチーフであるが、31は地文に縦方向の条痕文をもつ、また口唇部に指頭による押圧痕。32も地文に細条痕。33・36・37は波状文と横方向の集合沈線。33は折り返し口縁。34・35は縄文地文に沈線文。38は縄文地文に2本の曲線文。39・41・43~49は口縁に横位縄文、下位には横位条痕。47・48は縄文部分に複数沈線による山形文。40・42はやや太めの横位条痕、口唇部に指頭による連続押圧。50・51は集合沈線による波状文、横位文。52~59は口縁部に縄文LRを帯状施文。52は折り返し。いずれも口唇端部に縄文が施文される。60は口縁部折り返しており、縄文が羽状に施文される。57・61は口縁部縄文以下に縦の条痕文。62は細かな縄文が口唇端部にも施文される。63・64は縦方向にやや粗い条痕文。63は斜め方向に多数竹管による平行線文。65~69・71は壺型土器の胴部片、太めの沈線で文様を描く、空隙には刺突文、縄文が施される。70・72は頸部片。70は直線と曲線で区画し縄文、刺突文が施文される。72は段を持ち、上段は縄文地に縦、横方向に太い沈線文。下段は横方向に集合沈線。73・74は同一個体片。LR縄文地に沈線により平行線を引き中に斜方向に短沈線。75~109は菱形、L字、四角、工字文などのモチーフを持つ

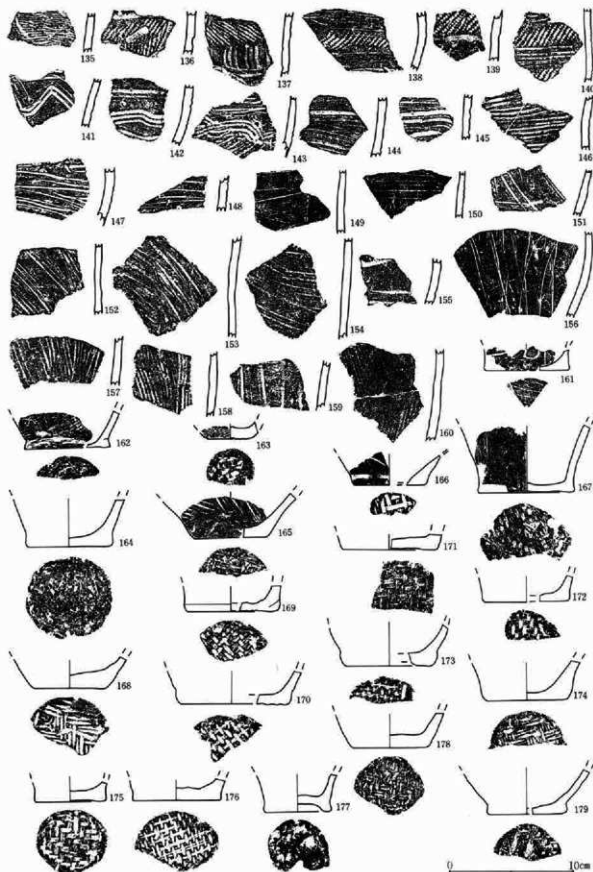


第87図 グリッド出土土器(1)





第88図 グリッド出土土器(2)



第89図 グリッド出土土器(3)

つ磨り消し縄文。92～95・97は地文に細条痕文。110は壺型土器の肩部片。LR縄文と沈線による三角文と交点部に円形文。111・112・114～117・120は縄文地文に沈線による平行線。113は壺型土器片、太い沈線で文様を描く。地文には粗い条痕。118は細いLR縄文と条痕文。119は縄文。121は沈線による曲線文。122～133・141～143は沈線による波状文および集合横線。124・130・132は山形文に近い。134は縦方向の沈線。135・136は縄文地文に沈線。137～140は縄文および沈線文。144～154・156～160は条痕文を持つ。144～147はやや太めで横方向。148～150は細く粗い。151～154は斜め方向。155は無文地に沈線文。156は細く粗い。157～160は縦方向。161～179は底部片。161は磨り消し文、底面には条痕文。162は縄文施文、端部が外へ張り出す。163は縄文を持つ、そこは縄の圧痕文。165は条痕文、底面網代痕。166は網代痕。167は条痕文。底面には粗い縄目が見られる。168～179は底面に網代痕。

## 第4節 古墳時代の住居跡と遺物

### 1. 概要

本遺跡において検出した古墳時代の住居跡は35軒である。およその時期は前期および後期に比定されるが、中期のものは見られない。その分布をみると、比較的平坦なⅢ区において最も多く検出されており、後期前半代のもものが集中している。竪穴住居はⅠ区において数は少ないが後期の大型のものが2軒、前期のものが4軒検出されている。多くは一辺4m程のものである。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁周溝を持つものも見られる。

ほとんどの住居において、貯蔵穴が電右側のコーナーに設けられている。形状は長方形あるいは円形で深さはいずれも数十cm以上ある。また周囲がやや高くなっているものも見られる。柱穴は対角線上に掘られているものが多い、径は20~30cmで深さは50cm内外である。何件かの住居は立て替え、あるいは拡張した痕跡が認められた。

竈は北または東壁に作られているものがほとんどである。袖は粘土およびロームを用いて構築されており、芯材として細長い石などを埋め込んでいるものも見られる。さらに焚口の天井部分に幅15~20cmで、長さ数十cmの板状の緑泥片岩を葺いたものも検出されている。煙道は、ほぼ同時代の他地域のものに比較して、やや短めである。

掘り方を見ると、中央部分に床下土坑を持つものが見られたが、その他に中央部分がやや高まり、周辺部が低く掘られているものも複数確認された。

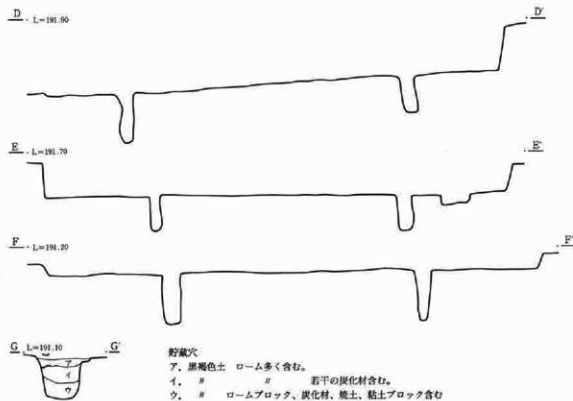
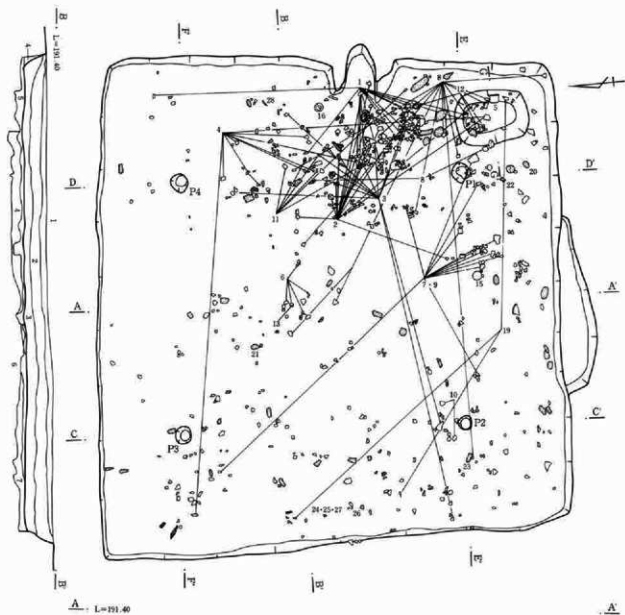
出土遺物は須恵器、および土師器の甕、甗及び坪類が中心で、僅かに高環、埴形土器などが見られた。土器類の他には紡錘車、鉄製品、滑石製の白玉などが集中して出土した住居も見られる。

#### 1号住居跡 (第90~95回、PL13)

O-8グリッドに位置する。本遺跡において調査した住居跡中最大規模を持つ、一辺約8mでほぼ正方形を呈す。6号住居跡、107号住居跡が中央から南壁部分にかけて重複する。やや北に下る斜面にあるために北壁は削平され、ほとんど残っていない。各壁はほぼ垂直に掘り込まれている。床面は平坦で中央から電前面にかけては、かなり硬く締まっている。

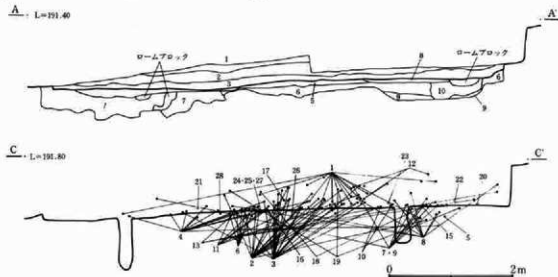
また本住居は焼失家屋と思われ、床面直上ほぼ全面にわたって炭化材が見られた。ほとんどが丸太材で径5~10cmである。その多くは壁側から中央へ向かって倒れ掛かった状況を示している。出土土器は余り多くはなく、いずれも床面よりやや浮いた状態で検出されたものが多い。主なものは長胴甕、坏などであるが、未製品と思われるやや大型の石製紡錘車が1点出土している。

竈は東壁の中央近くに設けられており、規模は長さ72cm、焚口巾50cmである。貯蔵穴は南東の隅に掘り込まれており、規模は95cm×85cmで深さ80cm、平面形はほぼ長方形を呈す。柱穴は4本で、ほぼ対角線上にある。深さはP1が52cm、P2が55cm、P3が80cm、P4が80cmである。なお本住居跡は拡張による建て替えがなされており、東側の柱穴はやや斜め内側に並んで、旧柱穴が検出されている。また貯蔵穴も北西内側に控して長方形でほぼ同規模のものが検出されている、掘り方の観察から東側へ50cm程広げていることが判る。また床面も部分的には2~3cmの厚さの張り床の層が観察された。時期は出土遺物から見て、6世紀代末から7世紀初頭に位置付けられる。出土遺物は甕、甗、坏、高環類と紡錘車の小破片等が見られた。

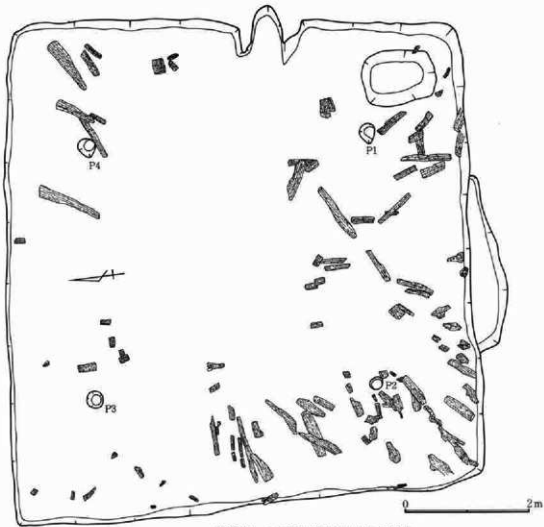


貯蔵穴  
 ア、黒褐色土 ローム多く含む。  
 イ、# 若干の炭化材含む。  
 ウ、# ロームブロック、炭化材、焼土、粘土ブロック含む

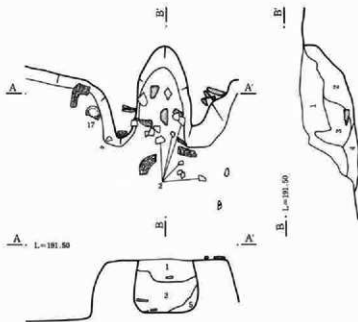
1. 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。
2. # # 若干の炭化粒を混入。
3. 黒褐色土 # 炭化材多く含む。
4. # # ローム主体とし、若干の炭化物含む。
5. 黄褐色土 ロームブロック、ローム粒子含む、締る。
6. # # ローム粒子を多く混入し、均質。
7. 暗褐色土 汚れたロームを混入。
8. 明黄褐色土 ローム粒子を多く混入し固く締る。(貼り床)
9. 灰褐色土 灰褐色のローム粒子を多く含むやや砂質。
10. 明暗褐色土 黒色土ブロックを混入含む。







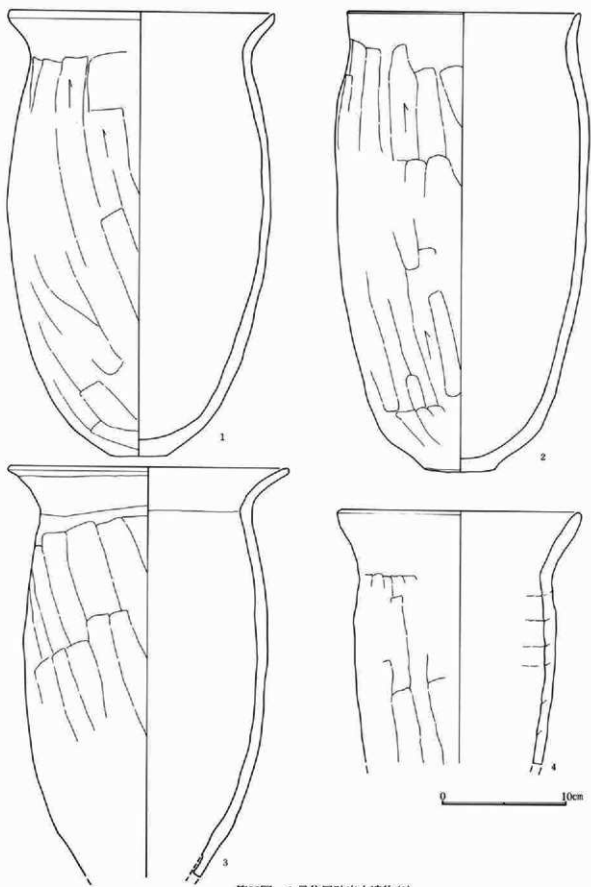
第91図 1号住居跡炭化材出土状態



- 電
1. 黄褐色土 ローム多量に含み、若干の焼土ブロックを混入。
  2. 赤褐色土 多量の焼土ブロックを含み、若干の粘土粒を含む。
  3. # 焼土ブロック、ロームブロック、炭化物類を含む。
  4. 暗赤褐色土 焼土ブロック、粘土ブロック、灰、炭を混入。
  5. 白黄色土 白黄色粘土を主体とする。(柏材か)

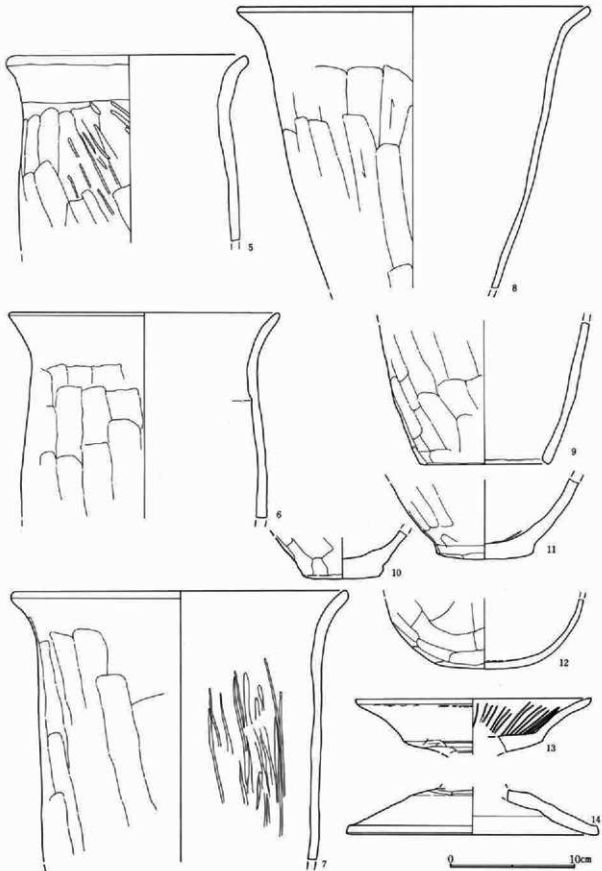
0 1m

第92図 1号住居跡電



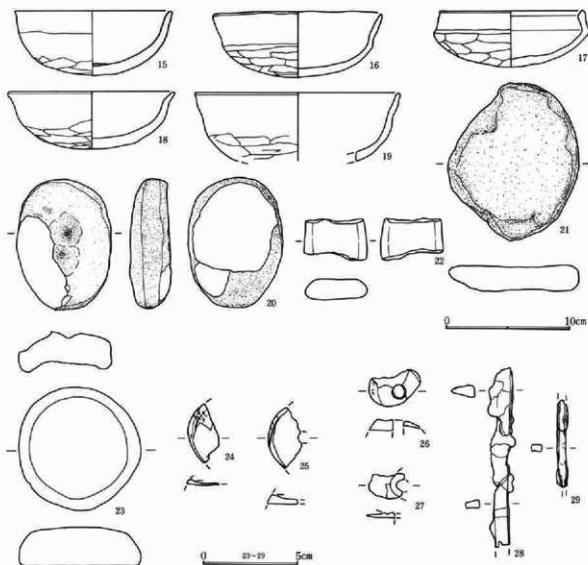
第93図 1号住居跡出土遺物(1)





第94図 1号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第95図 1号住居跡出土遺物(3)

1号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	底部 (cm)	高 (cm)	胎土 色成	色調	成・整形の特徴	備考	
1	土師器 壺	床面	21.0	4.5	35.4	砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部寛削り 体部寛撫で	
2	土師器 壺	床面	18.5	5.5	36.7	微砂粒含む 良	淡赤褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部寛削り 体部寛撫で	
3	土師器 壺	床面	22.3			砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部寛削り 体部寛撫で	石灰粒目立つ
4	土師器 壺	床面	19.4			砂粒含む 普通	淡黄褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部寛削り 体部寛撫で	
5	土師器 壺	床面	19.6			砂粒含む 普通	淡黄褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部寛削り 体部寛撫で	
6	土師器 壺	床面	22.0			砂粒含む 普通	淡黄褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部寛削り 体部寛撫で	
7	土師器 壺	床面	27.3			砂粒含む 良	黒褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部寛削り 体部寛撫で後磨き	胴上半部

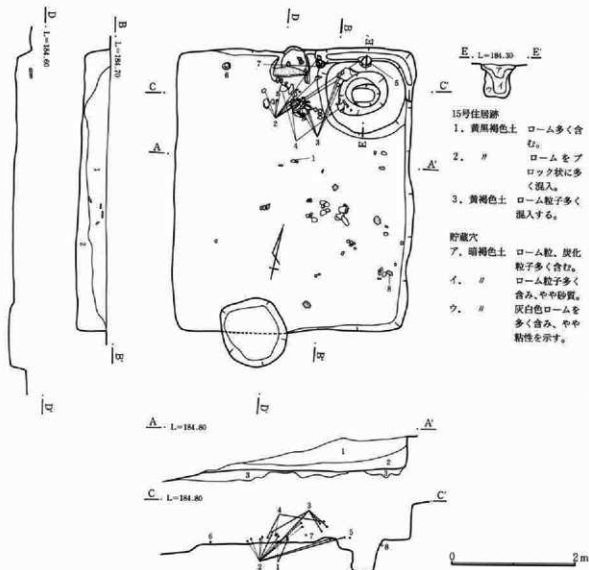
## 第4節 古墳時代の住居跡と遺物

8	土師器 甕	床面	28.5	砂粒含む 普通	橙褐色	外 内	口縁部横撫で 口縁部横撫で	体部寛削り 体部寛撫で	
9	土師器 甕	床面	10.1	砂粒含む 良	黒褐色	外 内	胴部窪削り 胴部寛撫で		胴下部分、7と同一 體体か
10	土師器 甕	床面	6.2	砂粒含む 普通	淡黄褐色	外 内	寛削り 寛撫で		底部片
11	土師器 甕	床面	7.8	砂粒含む 良	淡黄褐色	外 内	寛削り 寛撫で		底部片
12	土師器 甕	床面		細砂粒含む 良	淡黄褐色	外 内	寛削り 面撫で		底部片
13	土師器 高 坏	床面	19.0	微砂粒含む 良	淡赤褐色	外 内	口縁部横撫で 口縁部横撫で	体部寛磨き	坏部のみ
14	土師器 高 坏	覆土	20.0	微砂粒含む 良	橙褐色	外 内	胴部横撫で 横撫で	上部寛削り	胴部のみ
15	土師器 坏	床面	12.6	5.0	細砂粒含む 良	暗赤褐色	外 内	口縁部横撫で 口縁部横撫で	体部窪削り
16	土師器 坏	床面	13.6	5.1	細砂粒含む 良	淡黄褐色	外 内	口縁部横撫で 口縁部横撫で	体部寛削り 体部撫で
17	土師器 坏	+11	5.8	4.4	細砂粒含む 良	暗赤褐色	外	口縁部横撫で	体部寛削り
18	土師器 坏	床面	13.6	4.5	微砂粒含む 良	赤褐色	外 内	口縁部横撫で 口縁部横撫で	体部窪削り 体部寛撫で
19	土師器 坏	床面	(16.6)		微砂粒含む 良	淡褐色	外 内	口縁部横撫で 口縁部横撫で	体部窪削り 体部撫で
20	凹 石	床面	長さ10.2cm、幅7.4cm、厚さ3.3cm、重さ369g。石材は東武玄岩。表面に2カ所の凹み、両端部に打痕。表面、裏面の一部が剥離欠損。						
21	磨 石	+8	長さ12.4cm、幅10.2cm、厚さ1.9cm、重さ415g。石材は緑色玄岩。扁平な體を利用、使用面は平面。						
22	砥 石	+7	長さ3.4cm、幅4.9cm、厚さ1.7cm。石材は牛伏砂岩。重さ36g。両端が欠けている。側縁は丸味を持ち、両面使用されている。						
23	紡錘車	+7	径6.4cm、厚さ2.0cm、重さ101.8g。石材は砂岩。未製品と思われる。断面やや丸味を持つ扁平な台形を呈す。						
24	紡錘車	床面	長さ(3.1)cm、幅(1.6)cm、厚さ(0.2)cm、重さ2.7g。石材は滑石質蛇紋岩。破片。25と同一個体片。						
25	紡錘車	床面	長さ(3.2)cm、幅(1.8)cm、厚さ(0.5)cm、重さ1.7g。石材は滑石質蛇紋岩。破片、円孔の一部が見られる。						
26	紡錘車	床面	長さ(2.8)cm、幅(1.5)cm、厚さ(0.5)cm、重さ2.1g。石材は滑石。破片。円孔部残る。表面はかなり擦り減っている。27と同一個体片。						
27	紡錘車	床面	長さ(1.9)cm、幅(1.3)cm、厚さ(0.2)cm、重さ0.8g。石材は滑石。円孔部の周辺が肥厚する。						
28	鉄製品	床面	刀子。長さ(9.3)cm、幅1.2cm、厚さ0.6cm。錆化がかなり著しい。基部に欠損している。						
29	鉄製品	覆土	釘。長さ(4.6)cm、幅0.6cm、厚さ0.4cm。両端に欠損している。断面やや長方形で、鏃の基部の可能性もある。						

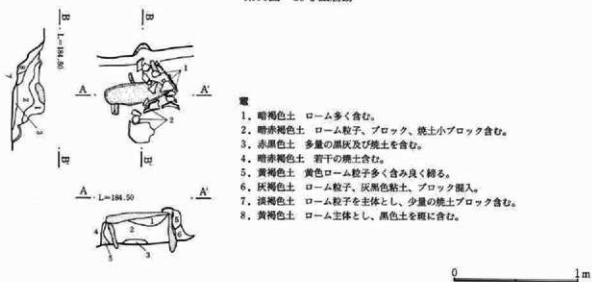
## 15号住居跡 (第96～99図、PL13)

O—15グリッドに位置する。東部分に14号住居跡が重複するが、かなり上面部分であるために東壁の残りは比較的良好である。しかし、西半分に付いては、斜面部にあたるために西壁は殆ど残っていない。各壁はほぼ垂直に立ち上がる。竈は北壁のやや西隅寄りに設けられており、袖部分は粘土混じりの土で作られている。また扁平な川原石で鳥居状に組まれている、その上部より長甕が潰れた状態で出土している。壁外への煙道部の作り出しは短い。竈内には細長い石が2本並んで突き立てられている。遺物は甕、坏類が竈付近から出土している。

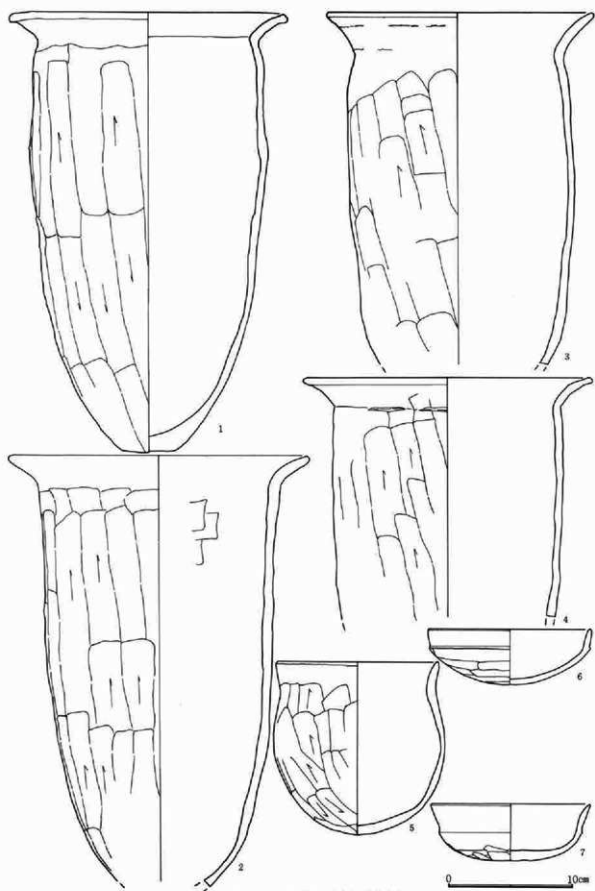
第3章 検出された遺構と遺物



第96図 15号住居跡

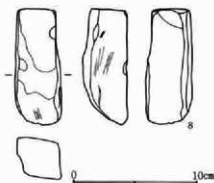


第97図 15号住居跡竈



第98図 15号住居跡出土遺物(1)

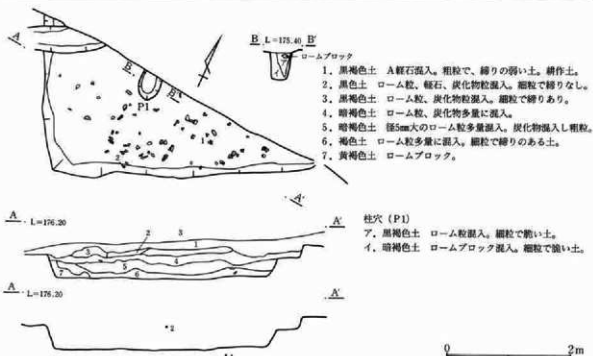
第3章 検出された遺構と遺物



第99図 15号住居跡出土遺物(2)

15号住居跡出土遺物観察表

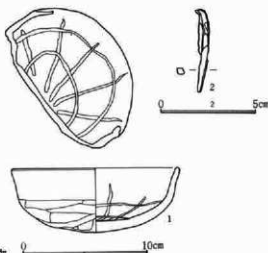
図番号	遺種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	器 高 (cm)	胎 土 成 色	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 甕	+4	22.0	35.2	砂粒含む 良	灰褐色	外 口縁部横撫で 胴部縦磨り 内 口縁部横撫で 体部縦撫で	
2	土師器 甕	床面	23.8		細砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横撫で 胴部縦磨り 内 口縁部横撫で 体部縦撫で	
3	土師器 甕	+1	21.0		砂粒含む 良	暗赤褐色	外 口縁部横撫で 胴部縦磨り 内 口縁部横撫で 体部縦撫で	底部欠く
4	土師器 甕	+7	22.8		砂粒含む 良	茶褐色	外 口縁部横撫で 胴部縦磨り 内 口縁部横撫で 体部縦撫で	
5	土師器 小型甕	貯蔵穴	13.2	13.7	細砂粒含む 良	暗赤褐色	外 口縁部横撫で 胴部縦磨り 内 口縁部横撫で 体部縦撫で	
6	土師器 環	+2	13.2	4.4	微砂粒含む 良	黄褐色	外 口縁部横撫で 体部縦磨り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
7	土師器 環	+12	12.9	4.5	微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 体部縦磨り 内 口縁部横撫で 体部撫で	二次火熱を受ける
8	砥石	床面	長さ9.1cm, 幅3.6cm, 厚さ2.9cm, 重さ147g。				石材は砥沢石。一端が丸そぎ落とされる。4面かなり擦り減っている。	



第100図 27号住居跡

29号住居跡 (第102・103図、PL14)

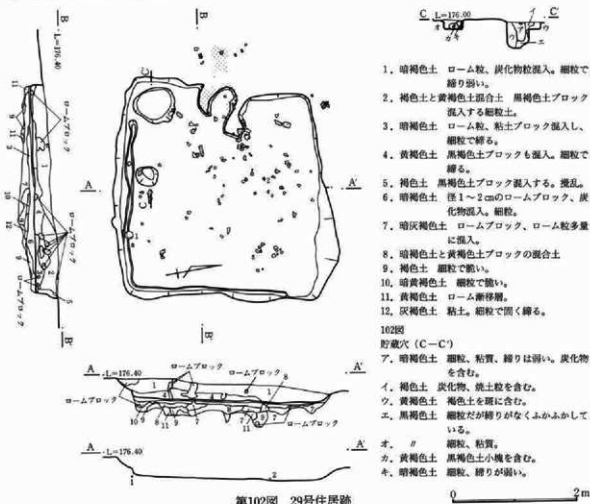
R-46グリッドに位置する。方形であるが、南辺がやや長くなる。規模は3.3m×3.3mである。各壁は床面に対してほぼ垂直に立ち上がり、高さは北壁が約15cm、南壁が約50cmである。床面は南半分は固い張り床が認められたが、北半分は耕作による攪乱を受けている。竈は西壁に在り状況は悪く、床面と同レベルに焼土が確認されている。貯蔵穴は南西隅に確認された。また周溝が東南壁下に検出されている。出土遺物は坏類が見られたが少ない。



第101図 27号住居跡出土遺物

27号住居跡出土遺物観察表

図番号	図種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	口径 (cm)	高さ (cm)	胎土焼成	色調	成・形状の特徴	備考
1	土師器 坏	床面	13.2	5.2		微砂粒含む	赤褐色	外口縁部横溝で 体部窪内り 内口縁部横溝で 体部窪で	内面暗文
2	鉄製品	+35				釘。長さ4.3cm、幅0.3cm、厚さ0.3cm、重さ2.5g。上端がやや折れ曲がる。			

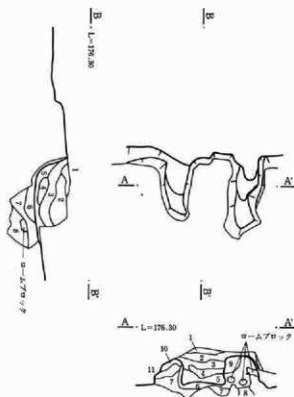


第102図 29号住居跡

1. 暗褐色土 ローム粒、炭化物粒混入。細粒で締り強い。
2. 褐色土と黄褐色土混合土 黒褐色土ブロック混入する細粒土。
3. 暗褐色土 ローム粒、粘土ブロック混入し、細粒で締る。
4. 黄褐色土 黒褐色土ブロックも混入。細粒で締る。
5. 褐色土 黒褐色土ブロック混入する。攪乱。
6. 暗褐色土 径1~2cmのロームブロック、炭化物混入。細粒。
7. 暗灰褐色土 ロームブロック、ローム粒多量に混入。
8. 暗褐色土と黄褐色土ブロックの混合土
9. 褐色土 細粒で強い。
10. 暗黄褐色土 細粒で強い。
11. 黄褐色土 ローム層移積。
12. 灰褐色土 粘土。細粒で固く締る。

- 102図  
貯蔵穴 (C-C')
- ア. 暗褐色土 細粒、粘質、締りは弱い。炭化物を含む。
  - イ. 褐色土 炭化物、洗土粒を含む。
  - ウ. 黄褐色土 褐色土を斑に含む。
  - エ. 黒褐色土 細粒だが締りがなくふかふかしている。
  - オ. # 細粒、粘質。
  - カ. 黄褐色土 黒褐色土小塊を含む。
  - キ. 暗褐色土 細粒、締りが強い。

### 第3章 検出された遺構と遺物



#### 電

1. 暗褐色土 ローム粒、焼土粒少量混入し強い。
2. # 1層に近似するが、焼土の混入し少なく締りある。
3. 黒褐色土 焼土粒、粘土ブロック少量混入し締りある。
4. 暗赤褐色土 焼土。崩落か燃焼部床面か不明。
5. 黒褐色土 ローム粒、焼土粒少量混入。細粒で強い。
6. 濃茶褐色土 ローム粒、焼土粒混入。細粒で締りがある。
7. 明茶褐色土 ローム粒、焼土粒混入。細粒で締りなし。
8. 濃茶褐色土と黄褐色土の混合土 細粒で強い。
9. 暗赤褐色土 焼土粒少量混入。細粒で砂質。
10. 暗褐色土 ローム粒少量混入。
11. 濃茶褐色土 ロームブロック少量混入。

第103図 29号住居跡電



第104図 29号住居跡出土遺物

#### 29号住居跡出土遺物観察表

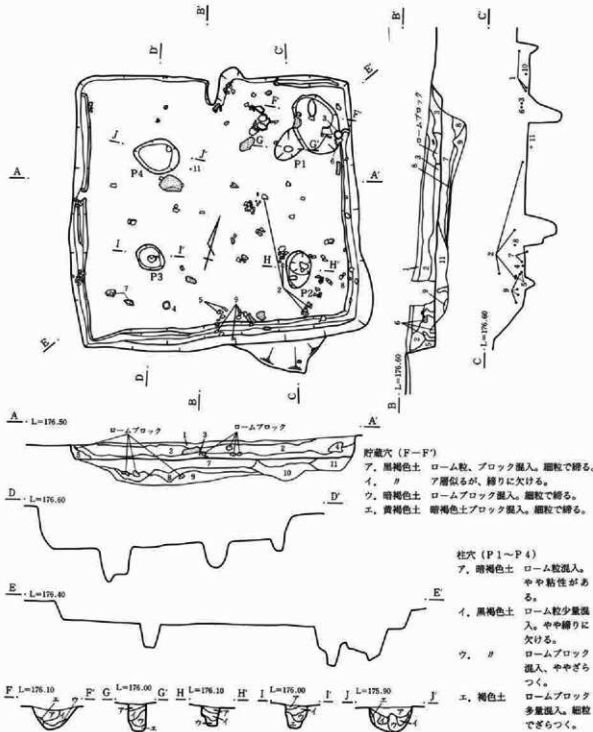
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	器 高 (cm)	胎土 焼 成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 杯	床面	11.8	4.8	細砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 体部削り 内 口縁部横線で 体部削き	
2	滑石製 品	床面	有孔円盤。長さ2.9cm、幅2.4cm、厚さ0.3cm。重さ4.7g。石材は滑石。表面がかなり風化、層状の肌理を持つ。やや端に寄った部分に穴が開けられている。					

#### 30号住居跡 (第105~107図、PL14)

S-46グリッドに位置する。方形を呈し、規模は4.6m×4.2mである。31号住居跡と重複する。壁高は20~30cmで北西部を除き周溝が廻る。床面はほぼ平坦な張り床で、柱穴は、ほぼ対角線上に4本が検出された。貯蔵穴は北東部隅に在る。

電はプラン確認時には北と西に在る様に見えたが、掘り上げた結果、西側のものははっきりしなかった。北辺の電は北西から力加わったように南側に右側の袖石が倒れ、壑が潰れた状態で検出された。袖材の粘土が崩れ、南側に広範囲に広がっていた。出土遺物は壑、坏類の他に、土製の玉が出土している。





30号住居跡

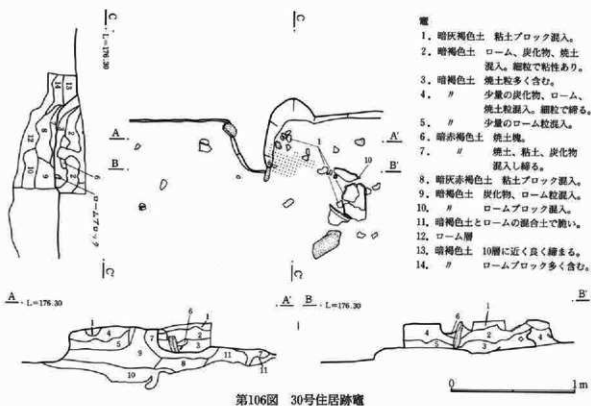
1. 黒褐色土 ローム粒、軽石少量含む。細粒で締りあり。
2. 暗褐色土 ロームブロック、機土、炭化物含み細粒。
3. 黒褐色土 径2~3cmのローム混入。上層に焼土塊混入。
4. # 少量のローム粒混入。細粒で締りあり。
5. 黄褐色土 ローム層。

6. 暗黄褐色土 ローム粒多量に混入。細粒だが硬い。
7. 黒褐色土 ロームブロック混入。炭化物含み細粒で締る。
8. 暗褐色土と黄褐色土の混合土。細粒で締り弱い。
9. 黄褐色土 ローム層。
10. 黒褐色土 8層に近似。小ロームブロックが多くなる。
11. 黄褐色土と黒褐色土が互層をなす。

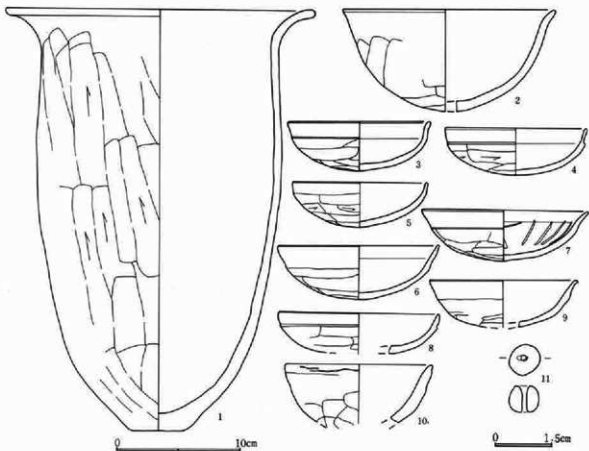
0 2m

第105図 30号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



- 竈
1. 暗灰褐色土 粘土ブロック混入。
  2. 暗褐色土 ローム、炭化物、焼土混入。細粒で粘性あり。
  3. 暗褐色土 焼土粒多く含む。
  4. # 少量の炭化物、ローム、焼土粒混入。細粒で締る。
  5. # 少量のローム粒混入。
  6. 暗赤褐色土 焼土塊。
  7. # 焼土、粘土、炭化物混入し締る。
  8. 暗灰赤褐色土 粘土ブロック混入。
  9. 暗褐色土 炭化物、ローム粒混入。
  10. # ロームブロック混入。
  11. 暗褐色土とロームの混合土で脆い。
  12. ローム層
  13. 暗褐色土 10層に近く良く締まる。
  14. # ロームブロック多く含む。



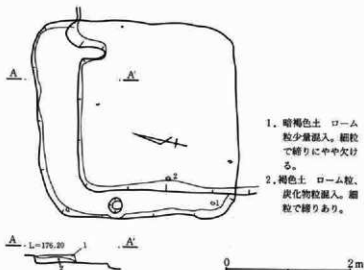
30号住居跡出土遺物観察表

図番号	遺種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考	
1	土師器 壺	+4	24.4 4.2	33.8	細砂粒含む 良	暗褐色	外 口縁部横撫で 胴部貫削り 内 撫で		
2	土師器 鉢	+6	(17.0)	(8.1)	微砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横撫で 胴部貫削り 内 口縁部横撫で 体部撫で		
3	土師器 杯	+10	11.5	3.9	微砂粒含む 良	暗褐色	外 口縁部横撫で 体部貫削り 内面撫で	欠形	
4	土師器 杯	+3	11.5	3.7	細砂粒含む 良	暗褐色	外 口縁部横撫で 体部貫削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	欠形	
5	土師器 杯	+5	11.0	3.5	細砂粒含む 良	暗褐色	外 口縁部横撫で 体部貫削り 内 口縁部横撫で 体部撫で		
6	土師器 杯	+11	13.0	4.3	微砂粒含む 良	暗褐色	外 口縁部横撫で 体部貫削り 内 口縁部横撫で 体部撫で		
7	土師器 杯	床面	13.4	4.0	微砂粒含む 良	暗褐色	外 口縁部横撫で 体部貫削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	内面暗文	
8	土師器 杯	+20	13.0		微砂粒含む 良	黒色	外 口縁部横撫で 体部貫削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	内外面黒色処理	
9	土師器 杯	+7	11.9		微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 体部貫削り 内 口縁部横撫で 体部撫で		
10	土師器 鉢	+6	(11.8)		微砂粒含む 良	灰褐色	外 口縁部横撫で 胴部貫削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	手捏ね	
11	土製品 玉	床面	径0.8cm 高さ0.7cm 重さ0.5g 両端面がやや平坦をなす。穴は細く、両面方向からの穿孔。						

## 31号住居跡 (第108・109図、PL14)

S-47グリッドに位置する。30号住居跡にほとんどが切られているため、掘り込み等は不明瞭であるが、形状は1辺約3mの、ほぼ正方形を呈すものと思われる。壁の残りも悪く、床面も不明瞭である。竈は確認されず、貯蔵穴など他の施設も検出されなかった。

出土遺物は杯が1点と石器類が出土している。

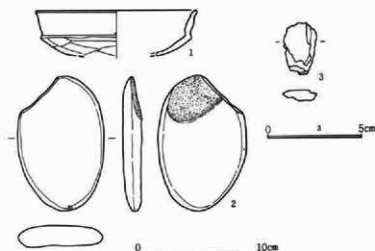


第108図 31号住居跡

31号住居跡出土遺物観察表

図番号	遺種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考	
1	土師器 杯	覆土	13.0		微砂粒含む 普通	暗褐色	外 口縁部横撫で 体部貫削り 内 口縁部横撫で 体部撫で		
2	砥石	覆土	長さ10.5cm、幅6.7cm、厚さ1.5cm、重さ133g。石材は半状砂岩。一部が欠けた長円形の偏平な礫を利用。両面平滑である。						
3	滑石片	覆土	長さ2.7cm、幅1.7cm、厚さ0.6cm。やや細長い刺片で特に加工度は見られない。重さ3.5g。						

第3章 検出された遺構と遺物

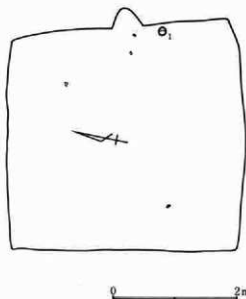


第109図 31号住居跡出土遺物

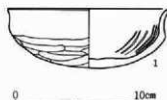
33号住居跡 (第110図、PL14)

T-47グリッドに位置する。耕作等により、ほとんど削平されておりプラン、規模共におよその推定であるが、1辺約3.5m程の正方形を呈すものと思われる。東壁の竈位置と推定される所に若干の焼土が検出された。貯蔵穴は検出されなかった。

出土遺物は環が1点竈右脇より出土している。



第110図 33号住居跡及び出土遺物



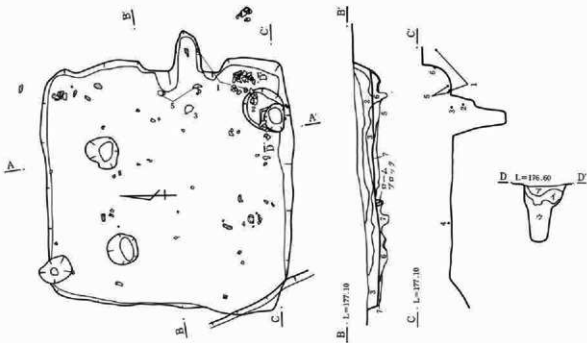
33号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径径(cm)	径 高	胎土 質	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 環	—	12.8	4.8	微砂粒含む 良	黄褐色	外口縁部横撫で 体部直削り 内口縁部横撫で 体部撫で	内部暗文

34号住居跡 (第111~113図、PL15)

T-46グリッドに位置する。1号溝が南西部に、4号掘立柱建物跡が北側に重なる。形状はほぼ方形を呈し、規模は3.9m×3.9mである。壁の立ち上がりは垂直に近く、特に南東部分の残りが良好であった。高さは平均40cm程である。床面は比較的平坦で、ロームと黒褐色土の混土を張り床としている。柱穴は4本確認されたが、床面調査時では無く、掘方調査時点で確認したもので、全体にやや南に偏って掘り込まれている。竈は東壁に作られていた。住居内への袖の張り出しは無く、焚口幅50cmで長さ180cmである。中央に河原石を用いた支脚が検出されている。

出土遺物は甕、台付甕、坏類の他に手捏ね土器が出土している。



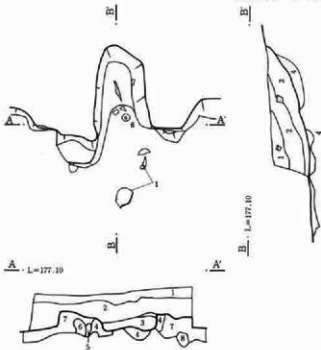
貯蔵穴 (D-D')  
 7. 黒褐色土 ローム粒、炭化物粒少量混入。細粒で締り弱い。  
 4. 暗褐色土 ローム粒多量に混入。細粒でやや脆弱。  
 7. 褐色土 細粒でざらつく。ローム漸移層。

1. 黒褐色土 ローム粒少量混入。細粒で締り弱くざらつく。
2. # ローム粒、ブロック少量混入。1層より締る。
3. 暗褐色土と褐色土の混合土 細粒で締り弱い。
4. 黒褐色土 2層に近似。ローム粒の混入少ない。

5. 暗褐色土と黄褐色土の混合土。ざらざらしている。
6. 黒褐色土と黄褐色土の混合土。細粒で締りあり。
7. 黄褐色土 ローム層

第111図 34号住居跡

0 2m



**A**, L=177.10

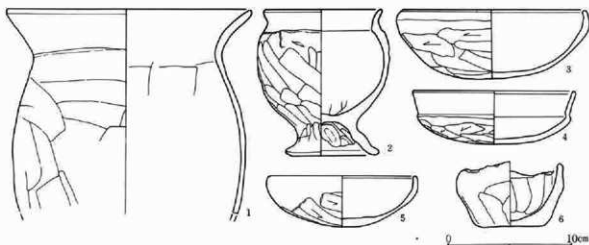
**B**, L=177.10

- 竈
1. 暗褐色土 ローム粒、炭化物粒混入。細粒で脆い。
  2. 黒褐色土 ローム粒、炭化物粒混入。細粒で締り弱い。
  3. 暗赤褐色土 焼土粒、炭化物粒多量に混入。細粒で脆い。
  4. # 3層に近似するが黒味強く細粒で脆い。
  5. 明赤褐色土 焼土塊。
  6. 褐色土 粘土塊。
  7. 暗褐色土 焼土粒、炭化物粒少量混入。細粒で締る。
  8. 黒褐色土 ロームブロック混入。細粒で脆い。

0 1m

第112図 34号住居跡竈

### 第3章 検出された遺構と遺物



第113図 34号住居跡出土遺物

34号住居跡出土遺物観察表

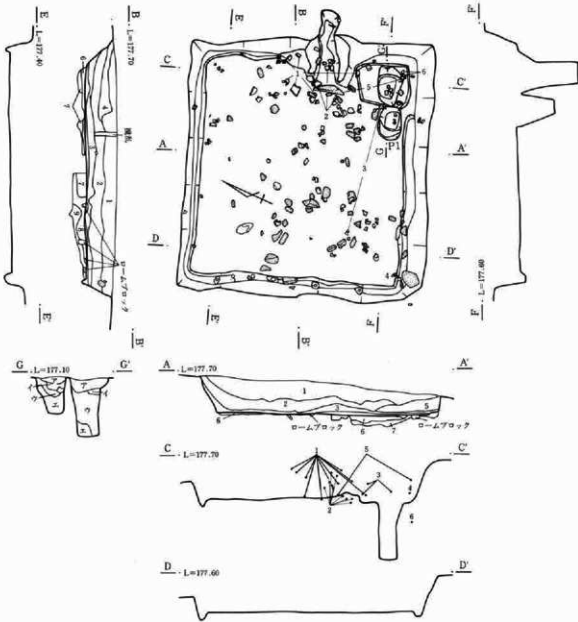
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径(cm)	径 部(cm)	高	胎土 焼 成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	床面	19.7			微砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 体部削撫で	上平分のみ
2	土師器 台付甕	貯蔵穴	9.6 7.6	11.4		微砂粒含む 良	暗赤褐色	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 体部削撫で	
3	土師器 坏	甕	15.0	5.7		微砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部削撫で	
4	土師器 坏	+6	13.1	4.2		微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部削撫で	
5	土師器 坏	+5	12.0	4.0		微砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部削撫で	
6	手捏ね 小型鉢	甕	8.0 5.2	5.1		微砂粒含む 普通	淡褐色	外 指撫で 内 指撫で	

### 35号住居跡 (第114~117図、PL15)

T-46グリッドに位置する。形状はほぼ正方形を呈し、規模は4.1m×3.8mである。壁はほぼ垂直に掘り込まれ、高さは40~50cmである。床面は張り床がなされ、ローム混じりの黒褐色土で堅く踏み締められている。僅かに凹凸が見られるもののかなり平坦になっている。断面U字状の周溝がほぼ全周している。貯蔵穴は南東隅に検出されている。掘り込みの平面形は方形であるが下方は円形になる。

甕は東壁に作られており煙道部が良く残っている、内部に甕が煙道の一部として転用されていた。規模は、焚口幅32cmで、長さ110cmである。

出土遺物は甕前面部を中心に甕、坏類が出土している。



1. 暗褐色土 ローム混入。細粒で締り弱い。
2. 黒褐色土 ローム、炭化物混入。締りなし。
3. # ローム、焼土粒多量に混入。脆い。
4. 暗褐色土 1層に近似。1層以上にローム粒多く含む。
5. 黒褐色土 2層に近似。ローム粒少なく黒色に近い。
6. # ロームブロック多量に混入。貼り床。
7. 暗褐色土と黄褐色土の混合土 細粒で脆い。
8. 7層に非常に似ているが締りあり。
9. 暗褐色土 ロームブロック少量混入。細粒で締る。

貯蔵穴 (G-G')

- ア. 黒褐色土 ローム粒少量混入。細粒で締り強い。  
 イ. # ロームブロック、黒色土の混入。  
 ウ. # ロームブロック混入。細粒で脆い。  
 エ. 灰褐色土 脆い粘質土。

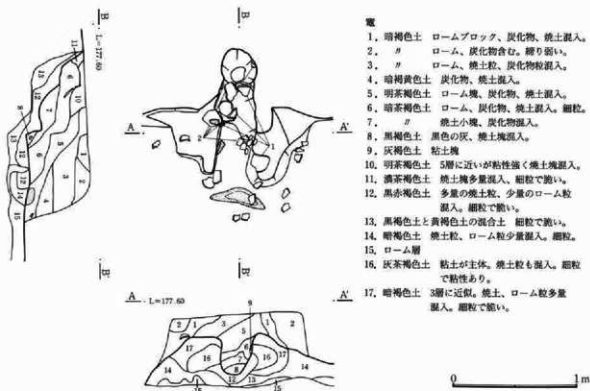
柱穴 (P1)

- ア. 暗褐色土と黄褐色土の混合土。(貼り床)  
 イ. 黒褐色土 ロームブロック混入。細粒で脆い。  
 ウ. 暗褐色土 ローム粒少量混入。イ層より締るが脆い。  
 エ. 黒褐色土 イ層に似るがロームブロック多く混入。

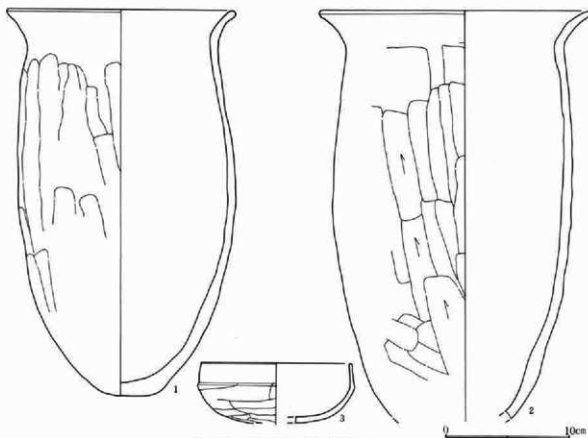
第114図 35号住居跡

0 2m

第3章 検出された遺構と遺物



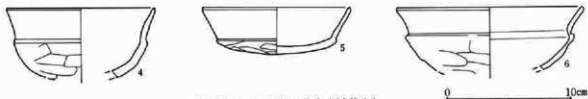
第115図 35号住居跡電



第116図 35号住居跡出土遺物(1)



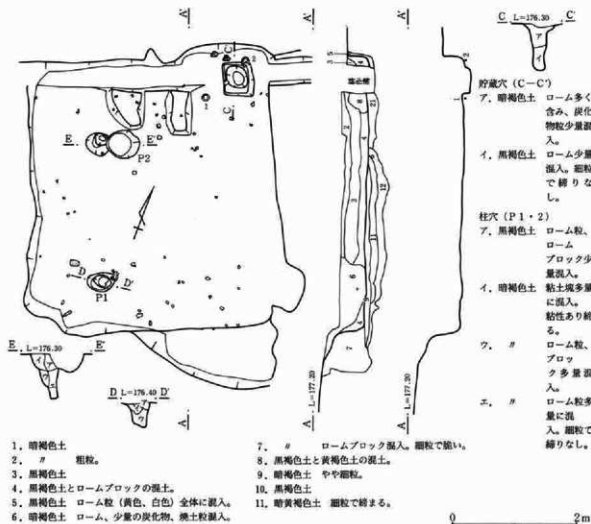
第4節 古墳時代の住居跡と遺物



第117図 35号住居跡出土遺物(2)

35号住居跡出土遺物観察表

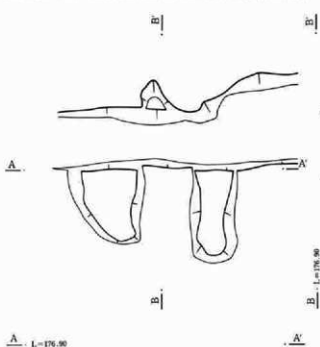
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径(cm)	器 高	胎土 色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	床面	18.0	30.9	砂粒含む 良	外 口縁部横線で 胴部莖削り 内 口縁部横線で 体部莖削り	
2	土師器 甕	■	21.4		砂粒含む 良	外 口縁部横線で 胴部莖削り 内 口縁部横線で 体部莖削り	
3	土師器 甕	+12	(12.3)		微砂粒含む 良	外 口縁部横線で 体部莖削り 内 口縁部横線で 体部莖削り	
4	土師器 甕	+10	12.0		微砂粒含む 良	外 口縁部横線で 体部莖削り 内 口縁部横線で 体部莖削り	
5	土師器 甕	床面	12.0	3.6	微砂粒含む 良	外 口縁部横線で 体部莖削り 内 口縁部横線で 体部莖削り	
6	土師器 甕	床面	15.0		微砂粒含む 良	外 口縁部横線で 体部莖削り 内 口縁部横線で 体部莖削り	



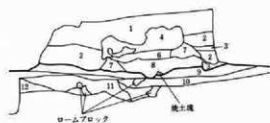
第118図 36号住居跡

36号住居跡 (第118~120図、PL15)

S-46グリッドに位置する。37号住居跡、82号住居跡と重複する。規模は4.3m×3.9mである。壁は垂直に立ち上がり、最も高い部分では80cmと遺存状況は良い。床面は平坦で比較的締まっているが、確実な面として確認されたのは北側のおよそ3分の1ほどである。柱穴は南東の1本を除き3本が確認されている。竈は北壁に作られているが、燃焼部分は耕作溝により壊されている。袖部は住居内に張り出し粘土、ロームの混土で築かれている。出土遺物は坏と若干の破片である。



- 
1. 暗褐色土 ローム、焼土、炭化物各粒混入。細粒で締りあり
  2. 黒褐色土 ローム、焼土、炭化物粒少量混入。細粒で締る。
  3. 黄褐色土 細粒で締り弱い。
  4. 暗灰褐色土 粘土多量に、焼土粒も混入。細粒で粘性強い。
  5. 赤褐色土 焼土塊、崩落焼土。
  6. 暗褐色土 焼土塊多量に、炭化物粒も少量混入。細粒で締る
  7. # 焼土塊、灰褐色の粘土塊混入。細粒で粘性強い。
  8. 黒褐色土 焼土粒、炭化物粒多量に混入。細粒で弱い。
  9. 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒多量に混入。細粒強い。
  10. 黄褐色土と暗褐色土の混合土 細粒で締る。
  11. 黒褐色土 ローム粒少量混入。細粒で締る。
  12. 黒褐色土と黄褐色土の混合土 細粒で締り弱い。
  13. 暗褐色土と黄褐色土の混合土 細粒で硬く締る。



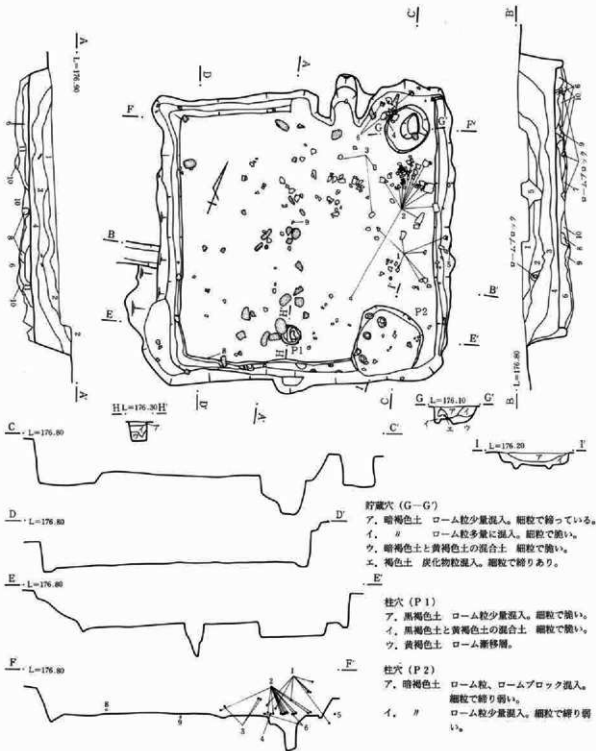
第119図 36号住居跡竈



第120図 36号住居跡出土遺物

36号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	径 高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	床面	11.4	3.7	微砂粒含む 良	暗褐色	外 口縁部横溝で 体部窪削り 内 口縁部横溝で 体部削で	
2	土師器 坏	床面	11.4	3.7	微砂粒含む 良	暗褐色	外 口縁部横溝で 体部窪削り 内 口縁部横溝で 体部削で	

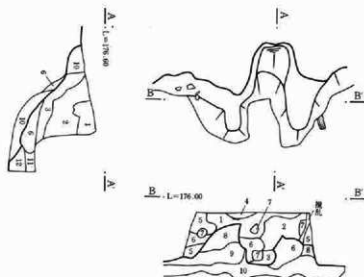


- |                  |                         |                        |                   |
|------------------|-------------------------|------------------------|-------------------|
| 1. 暗褐色土          | ローム粒、炭化物粒混入。細粒で締る。      | 7. 暗褐色土                | 砂質土。              |
| 2. 褐色土           | ローム粒、ロームブロック多量に混入。      | 8. 灰褐色土                | 粘土ブロック。           |
| 3. 黒褐色土          | 焼土、炭化物粒、ロームブロック混入。細粒締る。 | 9. 黄褐色土                | 黒褐色土ブロック混入。細粒で脆い。 |
| 4. #             | 黒味強く焼土粒、炭化物粒少量混入。細粒で締る。 | 10. #                  | ローム層。             |
| 5. #             | ロームブロック混入し、締り強い。        | 11. 6層に近似し、粘土塊(灰褐色)混入。 |                   |
| 6. 黒褐色土と黄褐色土の混合土 | 細粒で締りあり。                |                        |                   |

0 2m

第121図 38号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

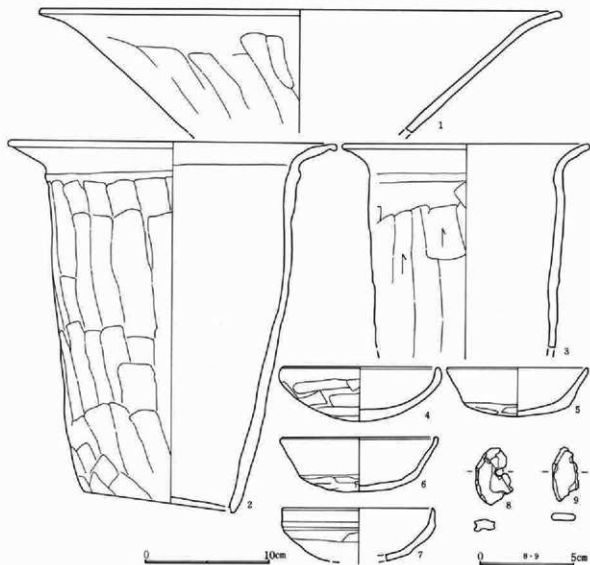


第122図 38号住居跡竈

竈

1. 暗灰褐色土 少量のローム粒混入。細粒で粘性強い。
2. # ローム、焼土、炭化物、粘土混入。
3. 暗赤褐色土 焼土ブロック多量に混入。粗粒。
4. 黒褐色土 ローム粒、焼土粒混入。細粒で粘性あり。
5. 暗褐色土 ローム、焼土粒、炭化物粒混入。細粒締り強い。
6. 暗赤褐色土 3層に近似。焼土粒が少量となる。
7. 灰褐色土 粘土ブロック。
8. 暗褐色土 焼土、ローム粒、炭化物混入。細粒で締りあり。
9. # ロームブロック混入。細粒で締り弱い。
10. 暗褐色土と黄褐色土の混泥土 細粒で締り弱い。
11. 黒赤褐色土 焼土粒多量に混入。細粒で強い。
12. 黒褐色土 焼土粒、炭化物粒少量混入。細粒で締り弱い。

0 1m



第123図 38号住居跡出土遺物

38号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	径	高	胎土 色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 鉢	床面	(41.0)			微砂粒含む 暗褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛作り 内 口縁部横撫で 体部寛撫で	大型品
2	土師器 甌	+2	26.0 11.7	29.0		細砂粒含む 暗赤褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛作り 内 口縁部横撫で 胴部寛撫で	
3	土師器 壺	+2	20.1			砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛作り 内 口縁部横撫で 胴部寛撫で	
4	土師器 杯	+5	12.8	4.2		微砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 体部寛作り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
5	土師器 杯	床面	11.4	3.8		微砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 体部寛作り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
6	土師器 杯	+4	12.8	4.2		精製 淡黄褐色 良	外 口縁部横撫で 体部寛作り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
7	土師器 杯	覆土	12.4			微砂粒含む 淡黄褐色 良	外 口縁部横撫で 体部寛作り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
8	滑石製 品	+8	有孔円盤。長さ2.9cm、幅1.9cm、厚さ0.6cm、孔径0.3cm。側縁は面取されている。					
9	滑石片	床面	長さ2.75cm、幅1.35cm、厚さ0.6cm、重さ4.3g。側縁は丸味を持ち、斜めに研削痕が走る。					

## 38号住居跡 (第121～123図、PL15)

S-45グリッドに位置する。長方形を呈し、規模は4.5m×4.5mである。南東部に41号住居跡が重複、さらに南東部分に34号土坑が重複している。各壁はほぼ垂直に掘り込まれ、最も残りの良い南壁では65cmを測る。貯蔵穴は北東部隅に検出されている。規模は径50cm、深さおよそ60cmに掘り込まれている。

床面はほぼ平坦で比較的堅致である。周溝は貯蔵穴部分を除き、ほぼ全周する。柱穴は明確には検出できなかったが、南壁際に小ピットが見られた。

竈は北壁中央に作られており、袖部分にはローム、粘土が多く用いられている、燃焼部から煙道にかけてはかなりの急角度で立ち上がる。全体に遺存状況はあまり良くない。

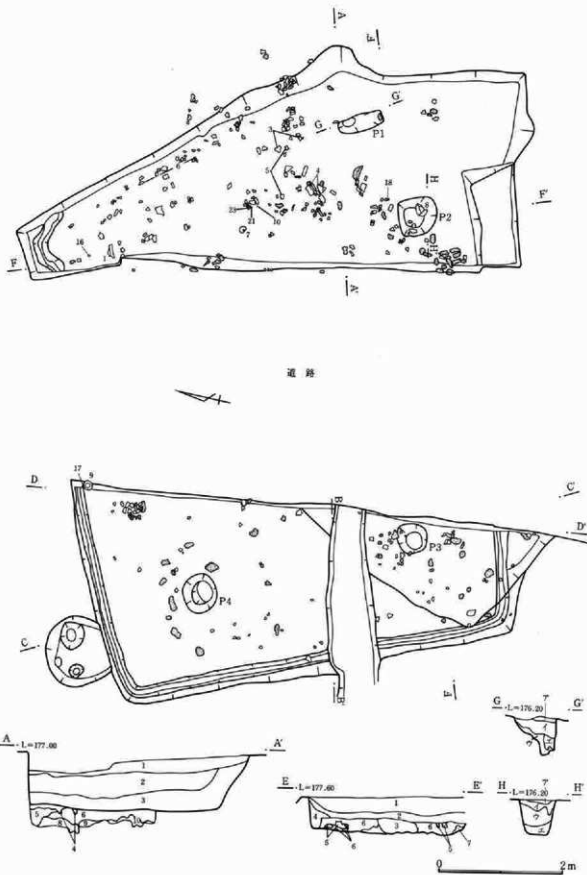
出土遺物は竈の前面、および貯蔵穴周辺部において比較的多く見られた。甕、杯類の他に手捏ね土器が数点出土している。

## 40A号住居跡 (第124～127図、PL15)

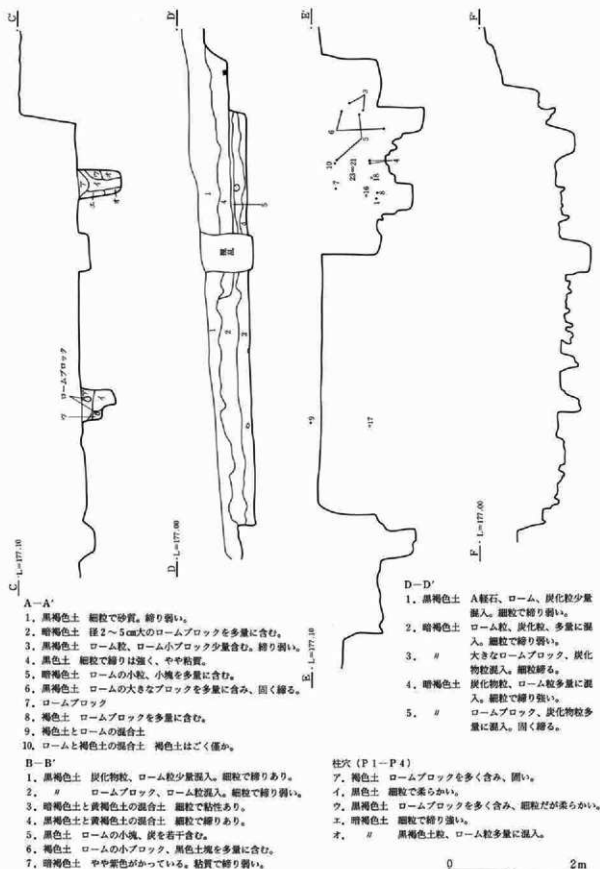
R-44グリッドに位置する。農道が中央に走っているために分断された状態で調査した。規模は9.0m×7.8mで、方形を呈す。壁高は35cmで、ほぼ垂直に掘り込まれている。

床面は北と南でややレベル差が有り、さらに南部分では掘り下げて行く過程で上にもう1枚の床面を確認したが、本跡を切って1軒存在することが確認された(40B号住居跡)。しかしながらこの住居に関しては規模、形状等が明確には確認できず、図示することはできなかった。両住居の床面はいずれも黒色土混じりのロームを用いた貼り床である。

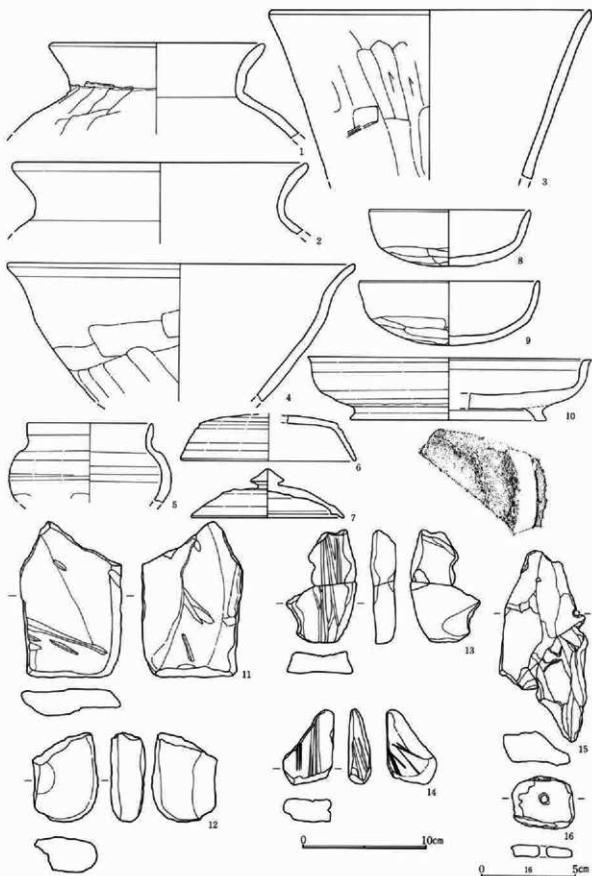
竈は農道下あるいは調査区外に在ると思われる検出されていない。出土遺物は甕、杯類の他に滑石製の有孔円盤、勾玉および滑石片が出土している。



第124図 40A号住居跡(1)



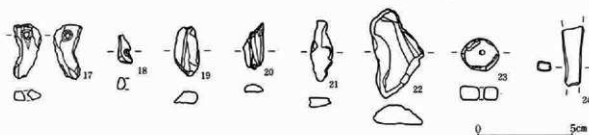
第125図 40A号住居跡(2)



第126図 40A号住居跡出土遺物(1)



第4節 古墳時代の住居跡と遺物

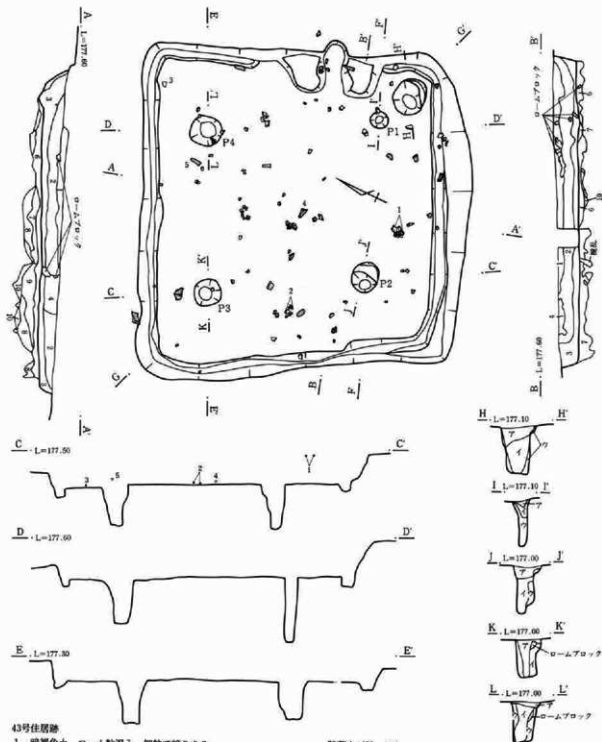


第127図 40A号住居跡出土遺物(2)

40号住居跡出土遺物観察表

図番号	図種	出土位置 (cm)	口徑 底径 (cm)	高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	床面	17.5		細砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横線で 胴部篋削り 内 口縁部横線で 胴部篋削り	口縁部片
2	土師器 甕	覆土 (23.4)			細砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横線で 胴部篋削り 内 口縁部横線で 胴部篋削り	口縁部片
3	土師器 甕	+19	26.0		細砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 胴部篋削り 内 口縁部横線で 胴部篋削り	
4	土師器 鉢	+9	28.0		細砂粒含む 普通	淡褐色	外 口縁部横線で 胴部篋削り 内 口縁部横線で 胴部篋削り	器表面の剥落顯著
5	須恵器 短頸壺	+25	10.0		細砂粒含む 良	灰色	口縁部横線で 胴部篋削り	
6	須恵器 蓋	+63	(14.0)		細砂粒含む 良	灰白色	外 天井部回転篋削り	
7	須恵器 蓋	+51	12.0	4.0	細砂粒含む 良	灰色	外 天井部篋削り	
8	土師器 坏	貯蔵穴	13.1	4.4	細砂粒含む 良	淡赤褐色	外 口縁部横線で 胴部篋削り 内 口縁部横線で 胴部篋削り	
9	土師器 坏	+102	14.5	5.0	細砂粒含む 良	淡赤褐色	外 口縁部横線で 胴部篋削り 内 口縁部横線で 胴部篋削り	
10	須恵器 蓋	+51.3	(22.2) (15.5)	4.8	細砂粒含む 良	灰色	底部篋削り調整 付け高台	
11	磁石	覆土	長さ12.2cm, 幅7.9cm, 厚さ2.0cm, 重さ212g.				石材は牛伏砂岩。やや扁平な礫を利用。両面に刃ならし溝が彫られる。	
12	凹石	掘方	長さ7.0cm, 幅5.2cm, 厚さ2.7cm, 重さ96g.				石材は牛伏砂岩。欠損品。やや扁平な礫を利用。一面に浅い凹みあり。	
13	磁石	覆土	長さ8.7cm, 幅5.2cm, 厚さ2.0cm, 重さ71g.				石材は牛伏砂岩。やや縦長で中央がくぼむ。縦方向に複数の刃ならし溝が見られる。2片が接合。	
14	磁石	掘方	長さ5.8cm, 幅4.0cm, 厚さ1.8cm, 重さ31g.				13と同種の製品。刃ならし溝が両面、側縁に見られる。	
15	滑石片	覆土	長さ10.0cm, 幅4.5cm, 厚さ1.6cm, 重さ70.1g.				2片が接合、やや大型の石片。側縁に円孔痕。一部に金属器で削った痕跡が見られる。	
16	滑石製品	+12	有孔円盤。長さ3.2cm, 幅2.6cm, 厚さ0.6cm, 孔径0.3cm, 重さ9.5g.				やや丸味を持つ、長方形を呈す。刃物による組成形の後に研磨による仕上げ。片面からの穿孔。	
17	滑石製品	+9	勾玉。長さ2.8cm, 幅1.4cm, 厚さ0.5cm, 重さ2.7g.				孔徑0.2cm, 両面からの穿孔。刃物による成形。穿孔。板状で作りは雑である。	
18	滑石製品	+4	白玉。未製品。長さ1.5cm, 幅0.7cm, 厚さ0.6cm, 重さ0.8g.				ほぼ四角形を呈す。両面からの穿孔。製作途中での破損か。	
19	滑石片	掘方	長さ2.5cm, 幅1.2cm, 厚さ0.6cm, 重さ2.4g.				縦長の小片、特に加工痕は見られない。	
20	滑石片	+20	長さ2.2cm, 幅1.0cm, 厚さ0.4cm, 重さ1.2g.				縦長の小片、特に加工痕は見られない。	
21	滑石片	+3.5	長さ3.1cm, 幅1.1cm, 厚さ0.4cm, 重さ1.4g.				縦長の小片。	
22	滑石片	覆土	長さ4.6cm, 幅2.5cm, 厚さ1.0cm, 重さ13.7g.				側縁に削り痕、研磨痕あり。	
23	滑石製品	+3.5	白玉。比較的大形。径1.7cm, 厚さ0.7cm, 重さ3.7g.				孔徑0.3cm, 不定円形を呈す。側面に研磨痕。	
24	鉄製品	覆土	煙管の喉い片真鍮製か。長さ3.1cm, 幅1.2cm, 厚さ0.5cm, 重さ3.0g.				潰れており両端を欠く。鋳入品である。	

第3章 検出された遺構と遺物



43号住居跡

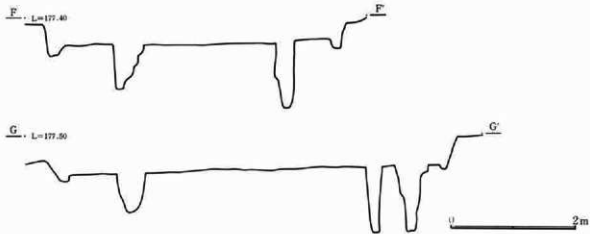
1. 暗褐色土 ローム粒混入。細粒で締りあり。
2. 黒褐色土 ローム粒、ブロック、炭化物、焼土粒混入。
3. # ローム、焼土、炭化物粒多量に混入。細粒で締る。
4. # ローム粒混入。細粒で締り弱い。
5. 黄褐色土と黒褐色土との混合土 締り弱い。
6. 黒褐色土 ローム粒、ブロック多量混入。焼土粒、炭化物粒少量混入。細粒で締りあり。貼り床。
7. 黄褐色土と暗褐色土の混合土 細粒で粘性あり。貼り床。
8. 暗褐色土 ロームブロック多量に混入。細粒で締り弱い。
9. 黒褐色土 ローム粒、焼土粒混入。細粒で締りあり。
10. 黄褐色土 ローム層。

貯蔵穴 (H-H')

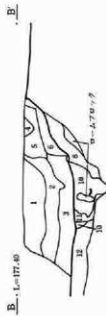
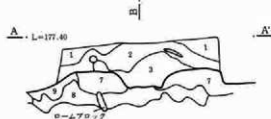
- ア. 黒褐色土 ローム粒、ブロック混入。炭化物少量混入。
  - イ. # ローム粒多量に混入。細粒で締り弱い。
  - ウ. ローム漸移層
- 柱穴 (P1~4)
- ア. 黒褐色土 ローム粒、ブロック混入。細粒で締り弱い。
  - イ. 暗褐色土と黄褐色土の混合土 細粒で締る。
  - ウ. 暗褐色土 ロームブロック混入。細粒で粘性あり。

第128図 43号住居跡(1)

第4節 古墳時代の住居跡と遺物



第129図 43号住居跡(2)



電

1. 黒褐色土 ローム粒、炭化物粒少量混入。焼土粒全体に混入。
2. 黒褐色土 1層に近似するが、焼土粒多量に混入。
3. 暗褐色土 ローム粒、粘土、焼土塊混入。細粒で粘性あり。
4. 黒赤褐色土 焼土粒多量に混入。粗粒で締り弱い。
5. 黒褐色土 2層に近似。焼土粒少量混入。
6. 暗褐色土 ローム粒、焼土粒、炭化物粒混入。粘性あり。
7. 暗赤褐色土 焼土粒混入。ローム粒も混入。細粒で締りあり。
8. 暗褐色土 ロームブロック、焼土粒少量混入。粘性あり。
9. 黒褐色土 ローム粒、炭化物粒少量混入。細粒で締りなし。
10. 明赤褐色土 焼土塊、ローム粒多量に混入。細粒で締りあり。
11. 黒褐色土 擾乱。
12. 黒褐色土と黄褐色土の混合土 細粒で粘り強い。

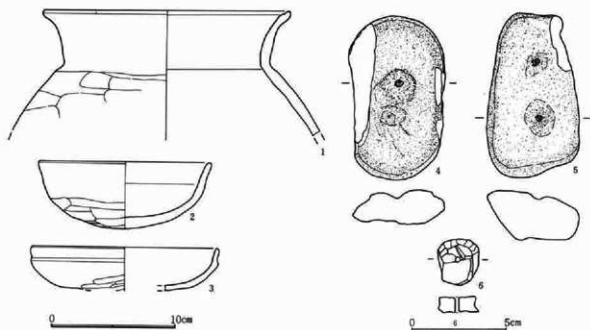
0 2 m

第130図 43号住居跡電

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 43号住居跡 (第128～131図、PL15)

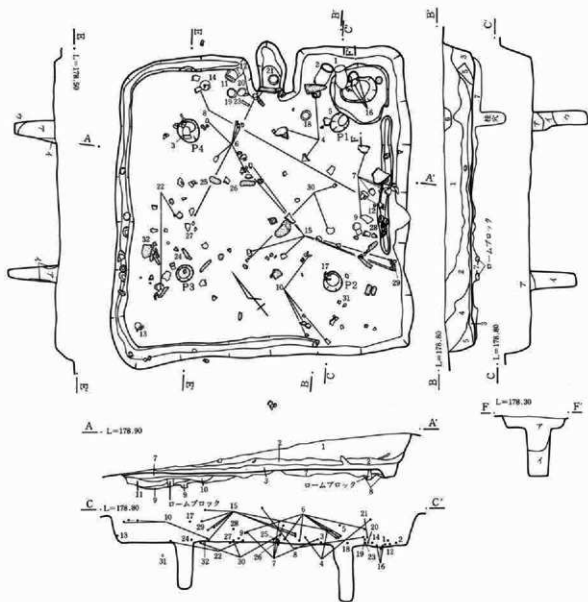
S-45グリッドに位置する。方形を呈し、規模は5.2m×5.1mである。壁は、ほぼ垂直に掘り込まれているが、南壁は斜めに立ち上がる。床面は平坦をなし、ほぼ全面にわたって焼土、炭化物が散在していた。貯蔵穴は南東隅にある。所どころに小ピットが見られる周溝が廻る。柱穴は対角線上にある。貯蔵穴は南東隅にあり、竈は東壁中央や南寄りにつられ、焚口幅38cmで、長さ89cmである。竈前面に焼土塊、粘土塊が多量混入した土が見られた。出土遺物は比較的少ない。なお、掘り方面の調査を行ったところ、新たに4本の柱穴が既存の南側に確認され、建て替えを行ったものと考えられる。出土遺物は壺、坏などが見られた。



第131図 43号住居跡出土遺物

#### 43号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	器 高 (cm)	胎 土 成 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 壺	+43	20.0		細砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 胴部寛撫で	
2	土師器 坏	床面	14.0	5.3	細砂粒含む 普通	赤褐色	外 口縁部横撫で 体部寛削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	器面の荒れ顕著
3	土師器 坏	+2	15.0		細砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 体部寛削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
4	凹石	+4	長さ12.8cm、幅7.6cm、厚さ2.7cm、重さ400g。石材は緑色変岩。長円形の轡を利用。片面に2カ所の凹穴。一部欠損している。		石材は緑色変岩。長円形の轡を利用。片面に2カ所の凹穴。一部欠損している。			
5	凹石	+5	長さ12.9cm、幅7.3cm、厚さ3.8cm、重さ626g。石材は緑色変岩。台形状を呈し、片面に2カ所の凹穴。		石材は緑色変岩。台形状を呈し、片面に2カ所の凹穴。			
6	滑石製品	覆土	有孔円盤。長さ2.4cm、幅2.2cm、厚さ0.8cm、重さ6.6g。孔径0.15cm。刃物による成形痕、および研削痕が見られる。		有孔円盤。長さ2.4cm、幅2.2cm、厚さ0.8cm、重さ6.6g。孔径0.15cm。刃物による成形痕、および研削痕が見られる。			



1. 暗褐色土 微量の焼土、炭化物、ローム粒混入。細粒で軟質。
2. 黒褐色土 炭化物粒、比較的多量に混入。細粒で締りあり。
3. 暗褐色土と黄褐色土の混合土 細粒で粘性あり。
4. 黒褐色土 ローム粒多量に混入。細粒で脆い。
5. # ローム粒少量混入。細粒で脆い。
6. 暗赤褐色土 焼土粒、炭化物粒多量混入。細粒で粘性あり。
7. 暗褐色土と黄褐色土の混合土 細粒で締りあり。
8. 黒褐色土 ロームブロック混入。細粒で締りなし。
9. 黒褐色土と黄褐色土の混合土 細粒で粘性あり。
10. # 褐色土ブロック混入。細粒で締りあり。
11. # 10層に近似、斑状の褐色土混入。細粒で粘性あり。

貯蔵穴 (F-F')

- ア、暗褐色土 ローム粒、炭化物粒混入。細粒で脆い。  
 イ、黒褐色土 ローム粒少量混入。細粒で脆い。

柱穴 (P1)

- ア、暗褐色土 ローム粒、ブロック、炭化物粒混入。細粒で脆い。  
 イ、# ローム粒混入。細粒で脆い。  
 ウ、# イ層に非常に近いがローム粒より多量に混入。

柱穴 (P2)

- ア、黒褐色土 ローム粒、ロームブロック混入。細粒で脆い。  
 イ、# ローム粒混入。細粒で脆い。

柱穴 (P3)

- ア、暗褐色土 ローム粒混入。細粒で締り弱い。  
 イ、暗褐色土と褐色土の混合土 細粒で締りあり。

柱穴 (P4)

- ア、黒褐色土 ローム粒混入。粗粒で大変脆い。  
 イ、黒褐色土と褐色土の混合土 細粒で脆い。  
 ウ、暗褐色土 ローム粒多量に混入。細粒で脆い。

0 2m

第132図 44号住居跡

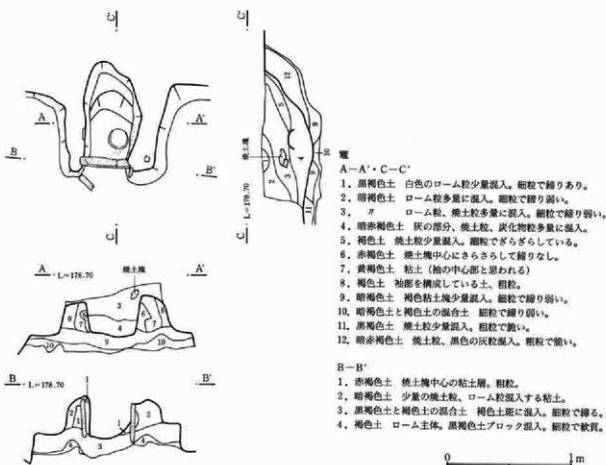
### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 44号住居跡 (第132~136図、PL16)

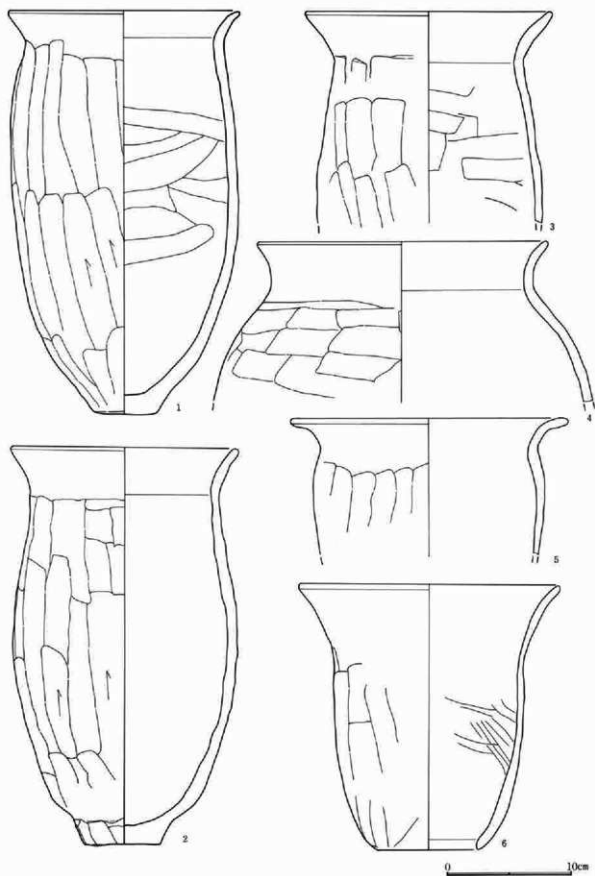
U-45グリッドに位置する。方形を呈し、規模は4.8m×4.6mである。緩やかな北斜面に在るために、壁は南側は遺存状態は良いが、北壁はほとんど削平されている。各壁はほぼ垂直に掘り込まれている。

床面はほぼ平坦で、黒褐色土と黄褐色土の混土で張り床がなされている。周溝は幅20cm程で、南隅、貯蔵穴部分を除きほぼ全周している。貯蔵穴は隅丸長方形を呈し、長さ60cm、幅40cm、深さ80cm程である。

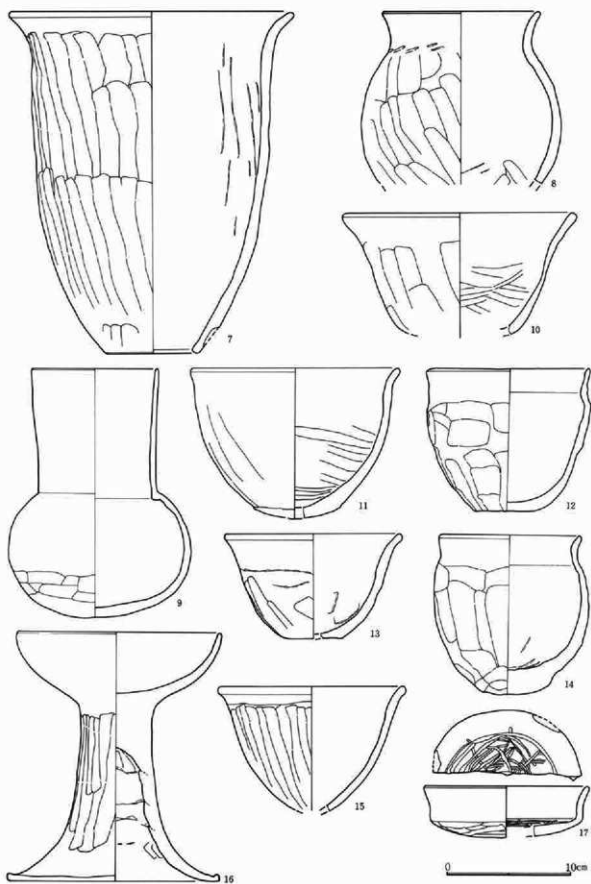
柱穴は、ほぼ対角線上に4本検出されている。竈は東壁に作られており、両袖の焚口に河原石が使用されており、上に渡した天井石が折れて落ち込んだ状態で出土している。出土遺物は完形品がかなり多く、甕、坏、高坏、埴などが竈、貯蔵穴周辺で出土している。多くが床面直上の出土である。またほぼ中央に床下土坑が検出されている。



第133図 44号住居跡竈



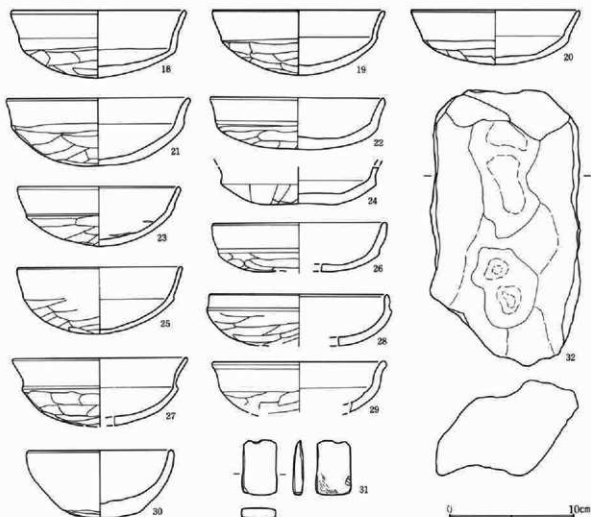
第134図 44号住居跡出土遺物(1)



第135図 44号住居跡出土遺物(2)



第4節 古墳時代の住居跡と遺物



第136図 44号住居跡出土遺物(3)

44号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	器 高 (cm)	胎土 質 色調	成・整形の特徴	備考	
1	土師器 壺	+3	18.3 5.6	32.2	砂粒含む 暗褐色	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	割部瓦割り 割部瓦無で	
2	土師器 壺	+5	18.0 6.0	32.0	砂粒含む 黄褐色	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	割部瓦割り 割部瓦無で	
3	土師器 壺	+4	19.4		砂粒含む 普通	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	割部瓦割り 割部瓦無で	
4	土師器 壺	+9	23.4		細砂粒含む 黄褐色	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	割部瓦割り 割部瓦無で	
5	土師器 壺	+31	22.4		砂粒含む 普通	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	割部瓦割り 割部瓦無で	
6	土師器 瓶	+5	20.5 7.8	21.2	砂粒含む 普通	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	割部瓦割り 割部瓦無で	輪痕み痕明顯
7	土師器 瓶	+2	22.5 7.4	27.3	微砂粒含む 黄褐色	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	割部瓦割り 割部瓦無で	後底磨き
8	土師器 小形壺	+13	12.8		砂粒含む 普通	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	割部瓦割り 割部瓦無で	
9	土師器 丸底壺	+5	10.0	19.9	微砂粒含む 黄褐色	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	割部瓦割り 割部瓦無で	器面荒れている
10	土師器 小型壺	+4	19.0		砂粒含む 普通	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	割部瓦割り 割部瓦無で	器面荒れている

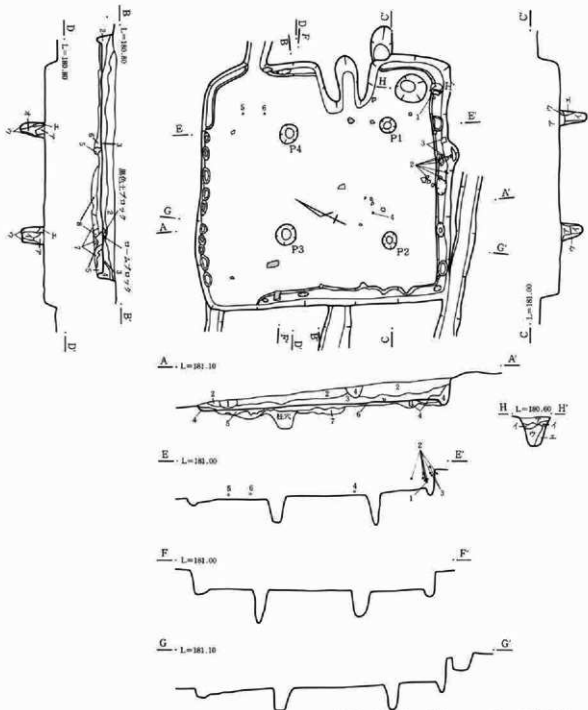
第3章 検出された遺構と遺物

11	土師器 小型壺	+4	17.0		砂粒含む 普通	淡黄褐色	外 内	口縁部横線で 口縁部横線で	胴部寛削り 胴部寛削り			
12	土師器 小型壺	+6	13.2	11.2	細砂粒含む 良	灰黄色	外 内	口縁部横線で 口縁部横線で	胴部寛削り 胴部寛削り			
13	土師器 瓶	+4	14.4	8.2	砂粒含む 普通	淡赤褐色	外 内	口縁部横線で 口縁部横線で	胴部寛削り 胴部寛削り		縦な作り	
14	土師器 小型壺	+5	11.5	12.5	砂粒含む 普通	暗赤褐色	外 内	口縁部横線で 口縁部横線で	胴部寛削り 胴部寛削り		先形	
15	土師器 鉢	床面	15.2		微砂粒含む 良	淡黄褐色	外 内	口縁部横線で 口縁部横線で	胴部寛削り 胴部寛削り			
16	土師器 高 杯	床面	16.2	20.0	微砂粒含む 良	淡褐色	外 内	口縁部横線で 口縁部横線で	脚部寛削り 脚部寛削り		輪積み痕明顯	
17	土師器 杯	+32	13.0		微砂粒含む 良	淡褐色	外 内	口縁部横線で 口縁部横線で	体部寛削り 体部寛削り		内面底に螺旋状暗文	
18	土師器 杯	+4	14.1	5.2	微砂粒含む 良	橙褐色	外 内	口縁部横線で 口縁部横線で	体部寛削り 体部寛削り			
19	土師器 杯	+9	14.0	5.0	微砂粒含む 良	橙褐色	外 内	口縁部横線で 口縁部横線で	体部寛削り 体部寛削り			
20	土師器 杯	+4	13.6	4.2	微砂粒含む 良	淡褐色	外 内	口縁部横線で 口縁部横線で	体部寛削り 体部寛削り			
21	土師器 杯	電	14.8	5.3	微砂粒含む 良	黒褐色	外 内	口縁部横線で 口縁部横線で	体部寛削り 体部寛削り			
22	土師器 杯	床面	14.2	4.0	微砂粒含む 良	黒褐色	外 内	口縁部横線で 口縁部横線で	体部寛削り 体部寛削り			
23	土師器 杯	+4	13.2	4.6	微砂粒含む 良	橙褐色	外 内	口縁部横線で 口縁部横線で	体部寛削り 体部寛削り			
24	土師器 杯	+5			微砂粒含む 良	暗赤褐色	外 内	口縁部横線で 口縁部横線で	体部寛削り 体部寛削り		厚手の土器	
25	土師器 杯	+3	13.3	5.2	微砂粒含む 良	橙褐色	外 内	口縁部横線で 口縁部横線で	体部寛削り 体部寛削り			
26	土師器 杯	床面	14.2		細砂粒含む 良	淡褐色	外 内	口縁部横線で 口縁部横線で	体部寛削り 体部寛削り			
27	土師器 杯	床面	14.1		微砂粒含む 良	赤褐色	外 内	口縁部横線で 口縁部横線で	体部寛削り 体部寛削り			
28	土師器 杯	+19	14.5		微砂粒含む 良	淡褐色	外 内	口縁部横線で 口縁部横線で	体部寛削り 体部寛削り			
29	土師器 杯	+31	14.2		微砂粒含む 良	暗褐色	外 内	口縁部横線で 口縁部横線で	体部寛削り 体部寛削り			
30	手捏ね 鉢	床面	11.9	5.3	微砂粒含む 良	淡褐色	外 内	口縁部横線で 口縁部横線で	体部寛削り 体部寛削り			
31	砥 石	床面	長さ4.3cm、幅2.8cm、厚さ0.8cm、重さ15g。石材は砥沢石。薄手で、長方形を呈し、片側が薄く掘り減っている。全面良く使われている。									
32	襷 籠	床面	長さ21.4cm、幅11.6cm、厚さ7.3cm、重さ1772g。石材は牛伏砂岩。不定形を呈す。									

46号住居跡（第137～139図、PL17）

U-42グリッドに位置する。ほぼ方形を呈し、規模は4.0m×3.8mである。壁高は南側で30cmを測るが、北側は削られており、ほとんど残らない。床面はやや凹凸があり締まりは余り無い。柱穴は対角線上に4本が確認されている。貯蔵穴は南東隅に在り円形を呈す。径約50cmで深さは50cm程である。周溝は一部分途切れるが、ほぼ全周し中の所どころに深さおよそ10cmの小ピットが見られる。

竈は両袖が住居内に張り出し、焚口幅約40cmで、長さ約90cmである。出土遺物は杯、変型の他に鎌、滑石製玉の未製品が2点出土している。



1. 灰褐色土 耕作土。
2. 褐色土 細粒で締りが弱く、大豆大のローム小塊を多く含む。
3. 暗褐色土 細粒で締る。ロームブロック、炭化物少量含む。
4. 黄褐色土 細粒で締り弱く、ロームの大ブロックを多く含む。
5. ロームと褐色土の混合土
6. ロームと褐色土の混合土だがロームの量が多い。
7. 6層とほぼ同質。ロームブロック多い。
8. 暗褐色土 ロームの小塊を多く含む。

- ウ. 褐色土 細粒で締りが強く、ロームブロックを多く含む。
- エ. 黄褐色土 粘性が強くロームブロックを多く含む。
- オ. 淡褐色土 細粒だが締りが弱い。

貯蔵穴 (H-H')

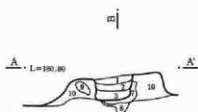
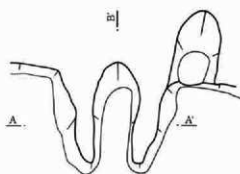
- ア. 黒褐色土 細粒でやや粘性あり、あまり締らず炭化物を含む。
- イ. 褐色土 細粒で粘性が弱く、ローム小ブロックを多く含む。
- ウ. 暗褐色土 細粒、締りが弱い。炭化物を少量含む。
- エ. 淡褐色土 細粒、粘性が弱く、締りが弱い。

- 柱穴 (P1~4)
- ア. 暗褐色土 細粒だが締りが弱い。ローム粒を若干含む。
  - イ. 黒褐色土 細粒だが締りが弱い。ア層より粘性が強い。

0 2m

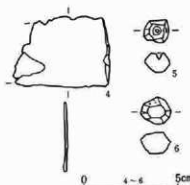
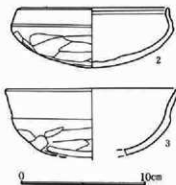
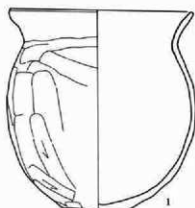
第137図 46号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



- 観
1. 黄色粘土 褐色土小塊を若干含む。
  2. 褐色土 焼土塊、粘土塊を多量に含み、締りが弱い。
  3. 暗褐色土 焼土粒、炭化物を多量に含み、粗粒。
  4. 灰白色粘質土 細粒で締りが弱い。
  5. 黒褐色土 細粒で締りが弱い。
  6. 暗褐色土 黄色粘土大塊、焼土粒、炭化物を少量含み、粘質。
  7. 焼土
  8. 暗褐色土 焼土、炭を多く含む。締り強い。
  9. 暗赤褐色土 焼土を多量に含む。
  10. 黄色粘土

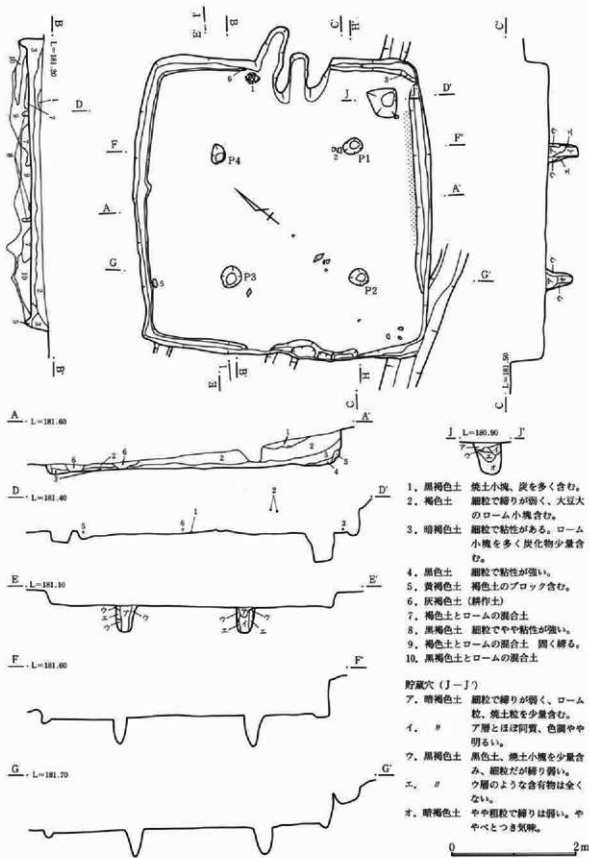
第138図 46号住居跡竈



第139図 46号住居跡出土遺物

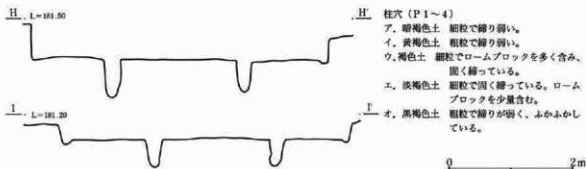
46号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考	
1	土師器 壺	+11	14.8 5.2	15.7	細砂粒含む 良	黒褐色	外 □縁部横線で 胴部笠形 内 □縁部横線で 胴部椀で		
2	土師器 杯	+12	12.0	4.7	細砂粒含む 良	赤褐色	外 □縁部横線で 体部笠形 内 □縁部横線で 体部椀で		
3	土師器 杯	+32	14.0		細砂粒含む 良	赤褐色	外 □縁部横線で 体部笠形 内 □縁部横線で 体部椀で		
4	鉄器 鏝	覆土	長さ5.1cm、幅3.5cm、厚さ0.3cm、重さ10.6g。装着部分。						
5	滑石製品	+7	白玉宋製品。長さ1.2cm、幅1.3cm、厚さ1.0cm、重さ2.2g。研磨による成形。孔は未貫通。						
6	滑石製品	+8	長さ1.4cm、幅1.6cm、厚さ1.1cm、重さ3.0g。刃物による成形。						

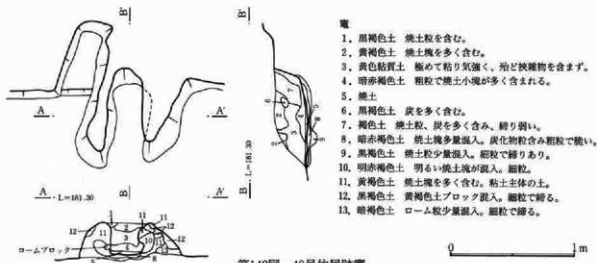


第140図 48号住居跡(1)

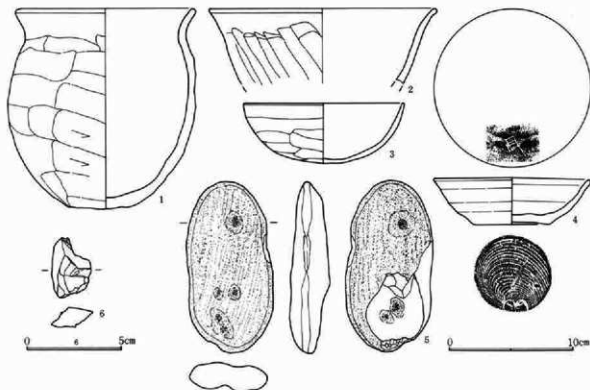
第3章 検出された遺構と遺物



第141図 48号住居跡(2)



第142図 48号住居跡電



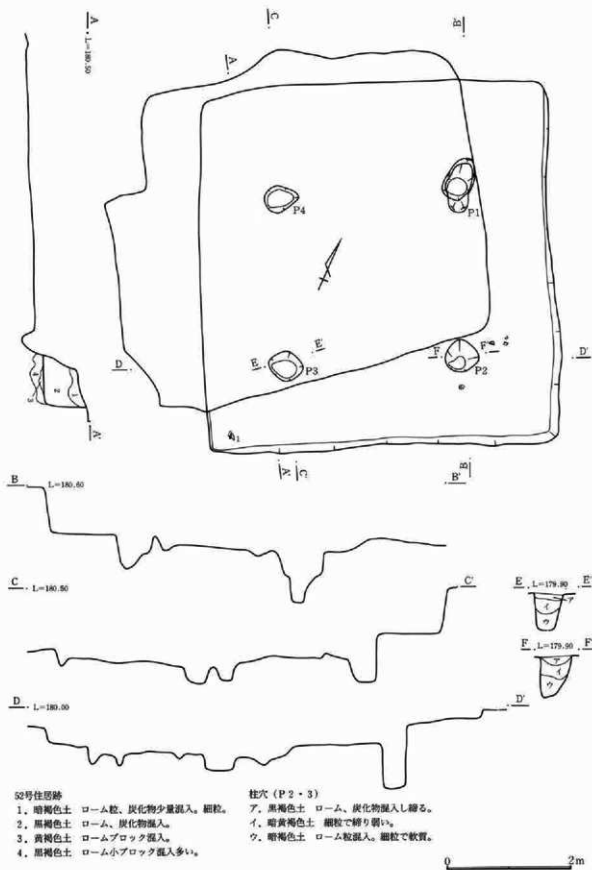
第143図 48号住居跡出土遺物

H 柱穴 (P1~4)

- ア. 暗褐色土 細粒で締り弱い。  
 イ. 黄褐色土 粗粒で締り弱い。  
 ウ. 褐色土 細粒でロームブロックを多く含み、固く締っている。  
 エ. 淡褐色土 細粒で固く締っている。ロームブロックを少量含む。  
 オ. 黒褐色土 粗粒で締りが弱く、ふかふかししている。

電

1. 黒褐色土 炭土粒を含む。
2. 黄褐色土 炭土塊を多く含む。
3. 黄色粘質土 極めて粘り気強く、殆ど採掘物を含まず。
4. 暗赤褐色土 粗粒で炭土小塊が多く含まれる。
5. 焼土
6. 黒褐色土 炭を多く含む。
7. 褐色土 炭土粒、炭を多く含み、締り弱い。
8. 暗赤褐色土 炭土塊多量混入。炭化物粒含み粗粒で脆い。
9. 黒褐色土 炭土粒少量混入。細粒で締りあり。
10. 明赤褐色土 明るい炭土塊が混入。細粒。
11. 黄褐色土 炭土塊を多く含む。粘土主体の土。
12. 黒褐色土 黄褐色土ブロック混入。細粒で締る。
13. 暗褐色土 ローム粒少量混入。細粒で締る。



第144図 52号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 48号住居跡 (第140～143図、PL17)

V-42グリッドに位置する。方形を呈し、規模は3.4m×2.8mである。壁は垂直に掘り込まれ高さの壁高は40～50cmである。床面は平坦でかなり締まっている。柱穴は対角線上に4本確認された。周溝がほぼ全周し幅は15cmである。貯蔵穴は南東隅にあり不正円形を呈す。規模は径42cm深さ50cmである。竈は東壁ほぼ中央に在り、袖はローム、粘土の混土で作られ住居内に張り出している。焚口幅30cmで長さ80cmである。

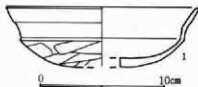
出土遺物は環、鉢が見られるが数は少ない。

48号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	器 高	胎 土 焼 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 小形甕	床面	14.6	15.6	砂粒含む	暗赤褐色	外 口縁部横無で 胴部削り 内 口縁部横無で 胴部削り	二次火熱受け器面荒 れている
2	土師器 鉢	+35	18.4	4.7	微砂粒含む	明褐色	外 口縁部横無で 胴部削り 内 口縁部横無で 胴部削り	
3	土師器 環	+5	12.9	4.6	微砂粒含む	明褐色	外 口縁部横無で 胴部削り 内 口縁部横無で 胴部削り	
4	須恵器 環	床面	12.4	3.7	細砂粒含む	灰色	口縁部横無で 胴部削り 口縁部横無で 胴部削り	体部内面に刻書 堀入品である
5	凹石	+9	長さ13.3cm、幅3.3cm、厚さ6.7cm、重さ361g、石材は貫母石英片岩。細長い河原石を利用、両面に凹穴が見られる。					
6	滑石片	+5	長さ3.1cm、幅2.1cm、厚さ1.2cm、重さ8.4g。断面菱形を呈す。					

#### 52号住居跡 (第144・145図、PL17)

V-44グリッドに位置する。45号、81号住居跡に切られている。方形を呈し、規模は(5.7m)×(5.5m)である。壁は垂直に掘り込まれており、壁高は約60cmである。床は暗褐色土と黄褐色土の混土を客土して張り床としている。やや軟質である。柱穴は4本確認されたが内2本は掘り方調査時に検出されたものである。竈は検出されなかった。出土遺物はほとんど無い。



第145図 52号住居跡出土遺物

52号住居跡出土遺物観察表

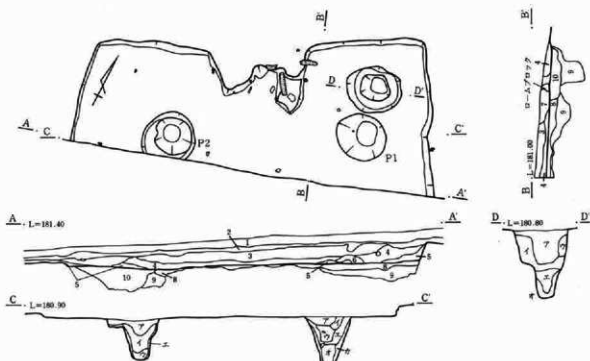
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	器 高	胎 土 焼 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 環	+27	15.5		微砂粒含む	淡黄褐色	外 口縁部横無で 体部削り 内 口縁部横無で 体部削り	

#### 54号住居跡 (第146～148図、PL17)

V-44グリッドに位置する。平面形状は方形を呈すと思われるが、南側半分以上が調査区外にあるため、全容は不明である。壁はほとんど削平されており、竈の位置する北および西、東壁の一部で10～5cm程の立ち上がりが確認されたのみである。床面はロームと若干の黒色土の混土で形成されており、やや凹凸があるもののほぼ平坦で締まる。柱穴2本、および貯蔵穴が北東隅に検出されている。竈は北壁中央に作られており、両袖に石を持つ。内部は焼土化が著しい。

出土遺物は甕の破片の他、滑石製の模造品が出土している。

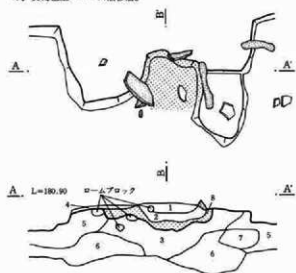




1. 黒褐色土 A 軽石多量に混入。粗粒で脆い。耕作土。
  2. # A 軽石混入。この層の上部に茶褐色をした層あり。
  3. 暗褐色土 ローム粒少量。炭化物粒少量混入。細粒で締り弱い。
  4. # ローム粒、ロームブロック少量混入。細粒で締り弱い。
  5. 暗褐色土と黄褐色土の混合土 細粒で締り弱い。
  6. # 褐色土ブロック、黒褐色土ブロック混入。
  7. # ローム粒少量混入。3層に近似するが粗粒で脆い。
  8. 褐色土 黒褐色土ブロック、灰褐色土粘土ブロック混入。
  9. 灰褐色土 灰褐色土粘土ブロック多量に混入。細粒で粘性あり。
  10. 黒褐色土 焼土粒、ロームブロック混入。細粒で締り弱い。
- 貯蔵穴 (D-D')
- ア. 黒褐色土 ローム多量に混入。細粒で締り弱い。
  - イ. 黄褐色土 黒褐色土ブロック混入。細粒で締りあり。
  - ウ. 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック混入。細粒で締りあり。
  - エ. # ア層と非常に近似するが、更に脆い。
  - オ. 黄褐色土 ローム断移層。

- 柱穴 (P 1)
- ア. 灰暗褐色土 ローム粒、炭化物粒混入。細粒で脆い。
  - イ. 黒褐色土 ロームブロック少量混入。細粒で締りあり。
  - ウ. # ローム粒、ロームブロック多量混入。細粒で締る。
  - エ. 暗褐色土 ローム粒多量に混入。細粒で締り弱い。
  - オ. 褐色土 細粒で締り弱い。柱跡か?
  - カ. 黄褐色土 ローム層。
- 柱穴 (P 2)
- ア. 暗褐色土 ローム粒少量。炭化物粒少量混入。細粒で締り弱い。
  - イ. 暗褐色土と黄褐色土の混合土 細粒でア層よりも締りあり。
  - ウ. 褐色土 細粒でさらさらしている。
  - エ. ローム層

第146図 54号住居跡



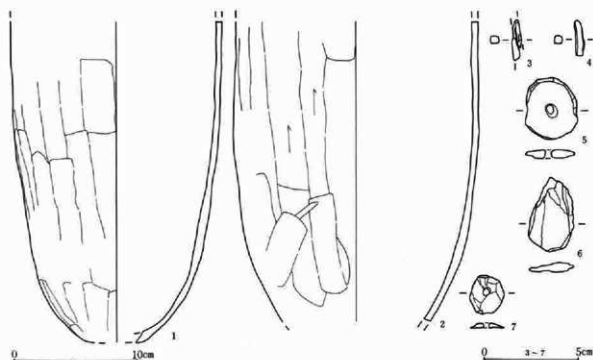
第147図 54号住居跡電

0 2m

- 電
1. 暗灰褐色土 粘土ブロック、焼土粒、ロームブロック混入。細粒。
  2. 濃黒赤褐色土 焼土粒多量に混入。細粒で脆い。
  3. 黒褐色土 ローム粒、焼土粒混入。細粒で脆い。
  4. 暗褐色土 ローム粒混入。ロームブロックも混入。細粒。
  5. # ローム粒、ブロック混入。焼土、炭化物粒少量混入。
  6. 黄褐色土と黒褐色土の混合土 細粒で締り弱い。
  7. 黄褐色土と暗褐色土の混合土 細粒で脆い。
  8. 赤褐色土 焼土。粗粒でさらさらしている。

0 1m

### 第3章 検出された遺構と遺物



第148図 54号住居跡出土遺物

#### 54号住居跡出土遺物観察表

図番号	図種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 甕		(4.5)		砂粒含む 良	暗赤褐色	外 胴部磨削り 内 胴部磨削り	胴下半部のみ
2	土師器 甕				砂粒含む 良	赤褐色	外 胴部磨削り 内 胴部磨削り	
3	鉄製品	覆土					釘。長さ2.1cm、幅0.5cm、厚さ0.35cm、重さ0.5g。	
4	鉄製品	覆土					釘。長さ1.8cm、幅0.4cm、厚さ0.4cm、重さ0.8g。	
5	磨石製 品	+2					有孔円盤。長さ3.1cm、幅2.8cm、厚さ0.4cm、重さ6.6g。板状で側縁は刃物により成形。孔は中央にあり両面穿孔	
6	磨石製 石片	床面					長さ3.8cm、幅2.2cm、厚さ0.4cm、重さ5.9g。薄手の石片。	
7	磨石製 品	床面					有孔円盤。長さ2.2cm、幅1.7cm、厚さ0.3cm、重さ1.5g。上面、面取りされている。両面穿孔。薄手の作り。	

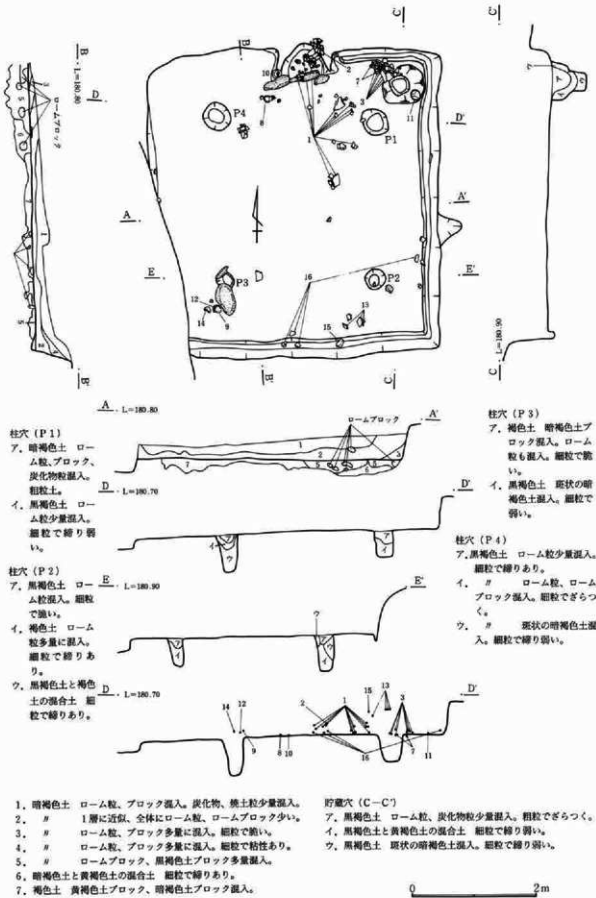
#### 55号住居跡 (第149～153図、PL17)

V-44グリッドに位置する。方形を呈し、規模は4.9m×4.1mである。52号住居跡に西側の一部を切られている。壁高は最大70cmで、ほぼ垂直に掘り込まれているが、北壁についてはほとんど削平されている。

床面は平坦でかなり踏み締められている。

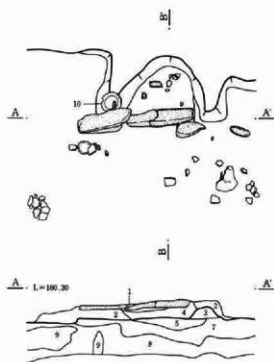
貯蔵穴は北東隅に検出された、平面形はほぼ円形を呈し、大きさは径約60cm、深さ約60cmである。周溝が東、南壁下に見られたがほぼ全周していたものと思われる。柱穴は対角線上に4本検出された。竈は北壁中央に作られており、袖石と横に渡された天井石が東側から押し倒された状態で検出された。また東壁の中央やや南寄りに竈の痕跡と思われる焼土、粘土塊が検出されている。

出土遺物は甕、甔、小形甕、環などが竈、貯蔵穴周辺において出土している。



第149図 55号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

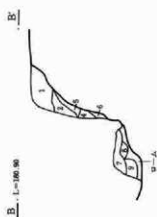
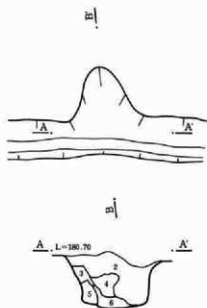


竈(1)

1. 暗赤褐色土 焼土粒多量に混入。細粒でさらさらしている。
2. 暗褐色土 ローム粒、炭化物粒少量混入。細粒で締り強い。
3. # 粘土塊多量に混入。袖付か？
4. 黒赤褐色土 焼土、炭化物粒多量混入。細粒で締りなし。
5. 暗赤褐色土 軽石、焼土粒混入する攪乱土。
6. # 5層に似ているが、軽石混入せず。細粒で締る。
7. 黒褐色土 ローム粒、少量のロームブロック混入。細粒で締る。
8. 暗褐色土と黄褐色土の混合土 細粒で締りあり。
9. 暗褐色土 黒褐色土、黄褐色土ブロック少量混入。細粒で締り弱い。
10. 褐色土 ロームブロック多量に混入。細粒で締りあり。
11. 黒褐色土 ローム粒少量混入。細粒で締りあり。

第150図 55号住居跡竈(1)

0 ————— ] m

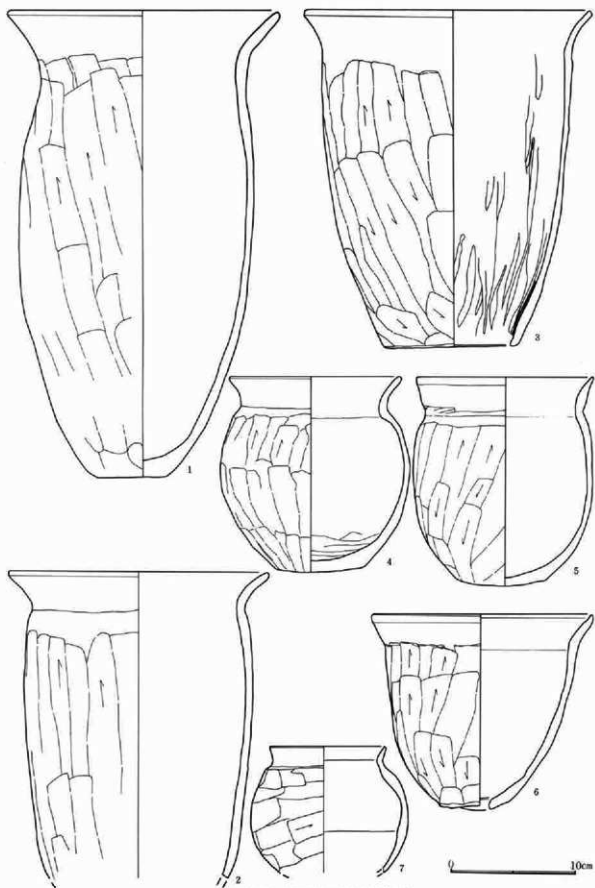


竈(2)

1. 暗褐色土 A軽石混入。細粒で強い。耕作土。
2. # ローム粒、炭化物粒、少量の焼土粒混入。細粒で強い。
3. 黒褐色土 炭化物粒、ローム粒混入。細粒で強い。
4. 暗赤褐色土 焼土塊、粒多量に混入。細粒でさらさらしている。
5. 暗褐色土と黄褐色土の混合土 焼土粒少量混入。細粒で締りあり。
6. 黒赤褐色土 焼土塊混入。細粒で締りあり。
7. 暗褐色土 焼土塊、ロームブロック混入。細粒で締り弱い。
8. 黒褐色土 ロームブロック、焼土粒混入。細粒で締りあり。
9. 黒褐色土と黄褐色土の混合土 炭化物粒少量混入。細粒で締る。

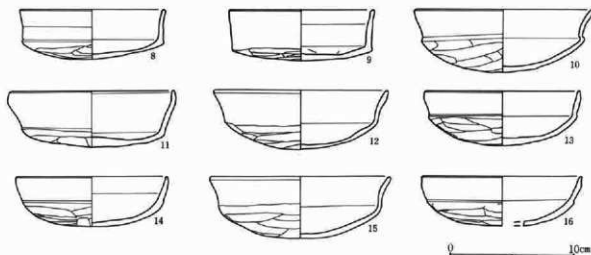
0 ————— ] m

第151図 55号住居跡竈(2)



第152図 55号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



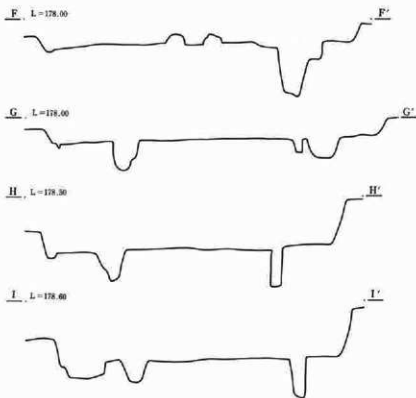
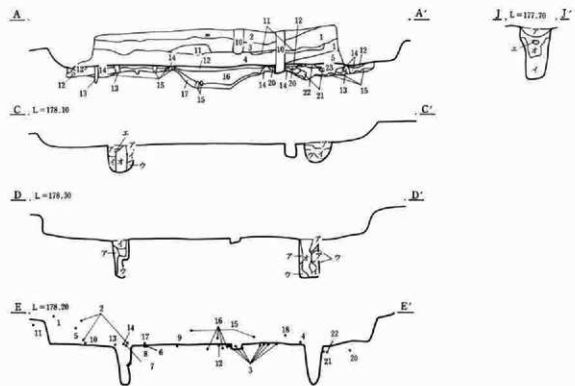
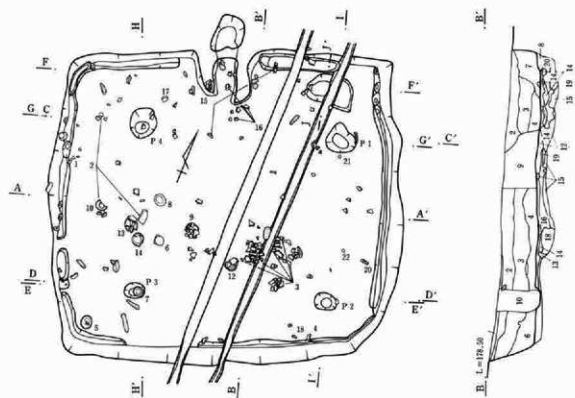
第153図 55号住居跡出土遺物(2)

55号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考	
1	土師器 甕	+2	21.4 5.4	35.9	砂粒含む 普通	赤褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部窪削り 胴部窪撫で	
2	土師器 甕	+17	20.5		砂粒含む 普通	赤褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部窪削り 胴部窪撫で	
3	土師器 甕	窟	22.6 10.2	26.7	細砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部窪削り 胴部窪撫で後寛磨き	
4	土師器 甕	窟	13.9 7.0	15.3	砂粒含む 普通	黒褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部窪削り 胴部窪撫で	
5	土師器 甕	床面	14.2 7.2	16.4	細砂粒含む 普通	褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部窪削り 胴部窪撫で	
6	土師器 甕	窟	17.8 3.0	15.4	細砂粒含む 普通	褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部窪削り 胴部窪撫で	
7	土師器 小型甕	床面	9.4		細砂粒含む 普通	暗褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部窪削り 胴部窪撫で	
8	土師器 坏	床面	11.7	3.9	細砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部窪削り 体部撫で	平底状
9	土師器 坏	+10	11.8	3.9	細砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部窪削り 体部撫で	平底状
10	土師器 坏	床面	14.3	4.9	細砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部窪削り 体部撫で	
11	土師器 坏	床面	13.2	4.4	細砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部窪削り 体部撫で	
12	土師器 坏	+9	14.1	4.6	細砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部窪削り 体部撫で	
13	土師器 坏	+28	12.5	4.2	細砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部窪削り 体部撫で	
14	土師器 坏	+2	12.2	3.9	細砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部窪削り 体部撫で	
15	土師器 坏	+33	14.5	4.8	細砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部窪削り 体部撫で	
16	土師器 坏	+2	12.9		細砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部窪削り 体部撫で	

58号住居跡 (第154~156図、PL18)

T-44グリッドに位置する。ほぼ方形を呈し、規模は5.6m×5.0mである。壁はほぼ垂直に掘り込まれ壁高は30~50cmである。床面は張り床で中央部が固く締っている。周溝は西、北、南壁下に見られ、一部小ピットの連続として検出された。柱穴はほぼ対角線上に4本検出された。貯蔵穴は甕右側に在り、隅丸長方形を



#### 58号住居跡

1. 褐色土 粗粒で締り強く、白色軽石、小石を全体に含む。覆土。
2. 暗褐色土 締り強く、白色軽石、黄色軽石、焼土粒、炭化物を含む。
3. # 締り弱く、軽石、ロームブロック、炭化物、焼土を含む。
4. 褐色土 粘質で、締り弱く、ロームブロック多く含む。
5. # 粗粒で締り弱く、軽石、炭化物を全体に含む。
6. 黒褐色土 細粒で締り弱く、炭化物、焼土を若干含む。褐色土混入。
7. 褐色土 締り弱く、軽石、焼土粒、炭化物を全体に多く含む。
8. # 細粒で締り弱く、やや粘質。焼土粒、炭化物を多く含む。
9. # 粗粒で軽石、焼土、炭化物を全体に含む。
10. 黄褐色土 粗粒で締り弱く、ロームブロックを多く含む。覆土。
11. 褐色土 粗粒で締り弱く、軽石を多く含む。黄褐色土混入。
12. 暗褐色土 粗粒だが締り弱く、黄色軽石を含み、黄褐色土少量混入。
13. # 細粒でやや締り弱く、軽石を上層に含む。
14. 褐色土 粗粒で締り強く、軽石を含み、黄褐色土混入。
15. 黄褐色土 粗粒でやや締り弱く、粘質、砂を全体に含む。
16. 暗褐色土 粗粒で締り弱く、軽石を含み、黄褐色土焼土混入。
17. # 16層に互換。黄褐色土の混入やや多い。
18. 褐色土 粗粒で締り弱く、黄色軽石多く含む。暗褐色土少量混入。
19. 黒褐色土 細粒で1mm程度の軽石を少量含む。
20. 暗褐色土 粗粒で締る。軽石を含み、黒褐色土、黄褐色土混入。
21. 黄褐色土 粗粒で締り強く、1cm大の軽石を含む。
22. 灰褐色土 細粒で締り弱く、粘質、焼土を全体に含む。
23. 暗褐色土 細粒で締り弱く、焼土、炭化物を含み、黄褐色土混入。

#### 貯蔵穴 (J-J')・柱穴 (P1~4)

- ア. 暗褐色土 締り弱く、粘質。黄色軽石、焼土、炭化物少量含む。
- イ. 褐色土 粗粒で粘質。黄色軽石を含み、焼土、炭化物を若干含む。
- ウ. 黄褐色土 粗粒で締り弱く、粘質。黄色軽石含む。
- エ. # 粗粒で粘質。締り弱く、黄色軽石を多く含む。
- オ. 暗褐色土 粗粒で粘質。締り弱く、黄色軽石、黄色軽石若干含む。

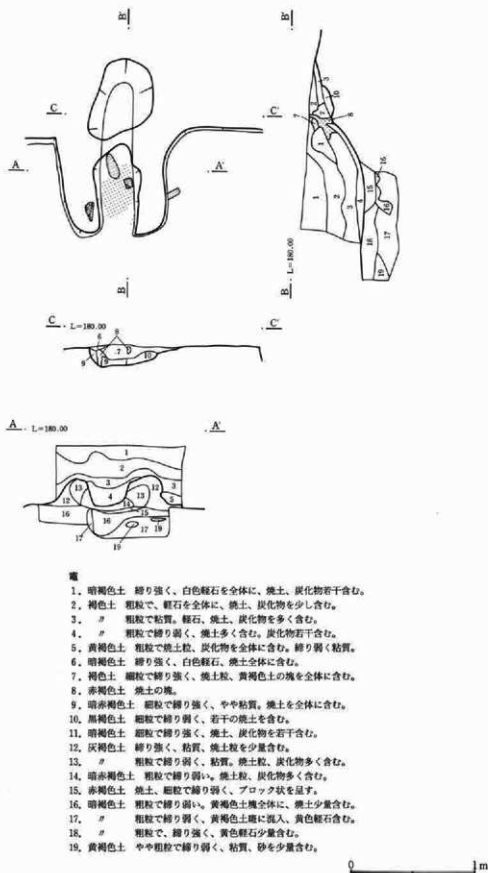
第154図 58号住居跡

0 2m

0 2m



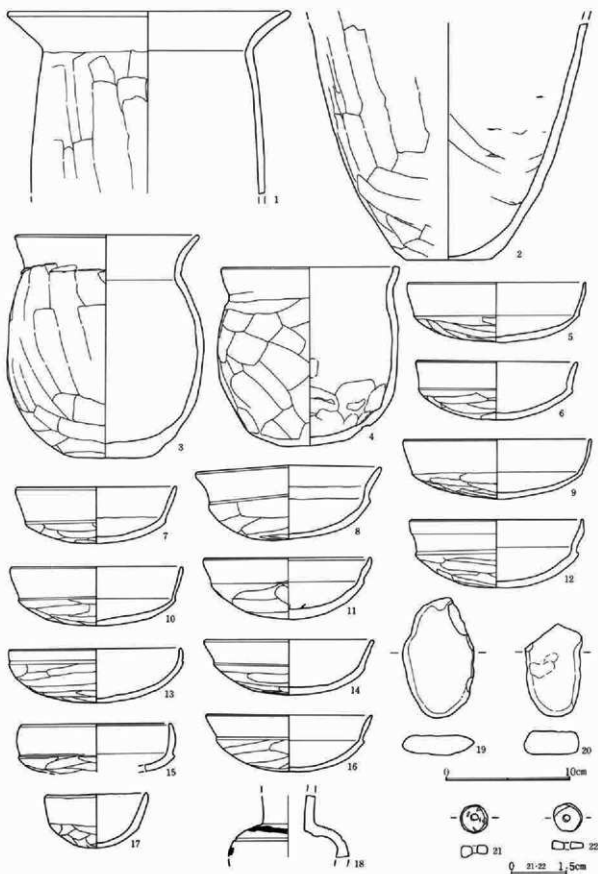




■

1. 暗褐色土 締り強く、白色軽石を全体に、焼土、炭化物若干含む。
2. 褐色土 粗粒で、軽石を全体に、焼土、炭化物を少し含む。
3. # 粗粒で粘質。軽石、焼土、炭化物を多く含む。
4. # 粗粒で締り弱く、焼土多く含む。炭化物若干含む。
5. 黄褐色土 粗粒で焼土粒、炭化物を全体に含む。締り弱く粘質。
6. 暗褐色土 締り強く、白色軽石、焼土全体に含む。
7. 褐色土 細粒で締り強く、焼土粒、黄褐色土の塊を全体に含む。
8. 赤褐色土 焼土の塊。
9. 暗赤褐色土 細粒で締り強く、やや粘質。焼土を全体に含む。
10. 黒褐色土 細粒で締り弱く、若干の焼土を含む。
11. 暗褐色土 細粒で締り強く、焼土、炭化物を若干含む。
12. 灰褐色土 締り強く、粘質、焼土粒を少量含む。
13. # 粗粒で締り弱く、粘質。焼土粒、炭化物多く含む。
14. 暗赤褐色土 粗粒で締り弱い。焼土粒、炭化物多く含む。
15. 赤褐色土 焼土、細粒で締り弱く、ブロック状を呈す。
16. 暗褐色土 粗粒で締り弱い。黄褐色土塊全体に、焼土少量含む。
17. # 粗粒で締り弱く、黄褐色土塊に混入、黄色軽石含む。
18. # 粗粒で、締り強く、黄色軽石少量含む。
19. 黄褐色土 やや粗粒で締り弱く、粘質、砂を少量含む。

第155図 58号住居跡■



第156図 58号住居跡出土遺物

58号住居跡出土遺物観察表

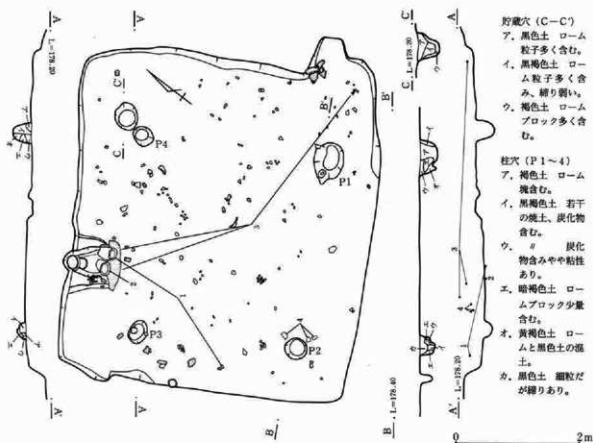
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	高	胎 土 焼 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 甕	+42	22.7		砂粒含む 良	褐色	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部寛削り	
2	土師器 甕	+2	6.8		砂粒含む 良	黒褐色	外 寛削り 内 寛削り	底部片 木炭痕あり
3	土師器 小壺型 埴輪	床面	14.8 6.3	17.5	砂粒含む 良	淡赤褐色	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部寛削り	
4	土師器 小壺型 埴輪	+3	14.3	14.0	砂粒含む 良	暗赤褐色	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部寛削り	
5	土師器 埴輪	+25	14.3	4.7	砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り	
6	土師器 埴輪	床面	13.0	4.6	砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り	
7	土師器 埴輪	床面	12.9	4.5	砂粒含む 良	褐色	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り	
8	土師器 埴輪	床面	15.0	5.9	砂粒含む 良	黒色	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り	
9	土師器 埴輪	床面	15.1	4.7	砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り	
10	土師器 埴輪	+2	13.9	4.7	砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り	
11	土師器 埴輪	床面	13.5	4.8	砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り	
12	土師器 埴輪	床面	13.9	5.3	砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り	
13	土師器 埴輪	+3	14.0	4.3	砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り	
14	土師器 埴輪	床面	13.7	4.4	砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り	
15	土師器 埴輪	+10	12.3		砂粒含む 良	灰黒色	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り	
16	土師器 埴輪	床面	13.4	4.5	砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り	
17	手捏ね 土器	+2	8.3	4.2	砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 底部寛削り 内 口縁部横線で 胴部寛削り	
18	須恵器 甕	+10			緻密 良	灰色	外 横線で 肩部波状文、沈線 内 指溝	
19	砥石	覆土	長さ9.5cm、幅5.7cm、厚さ1.5cm、重さ80g。石材は牛伏砂岩?扁平な長円形の礫を利用。					
20	砥石	床面	長さ7.3cm、幅4.4cm、厚さ1.8cm、重さ70g。石材は牛伏砂岩。小礫を利用。1部を欠く。					
21	滑石製 白玉	ピット内	径1.5cm、厚さ0.7cm、重さ2.8g。側縁は研磨痕。上面には刃物による成形痕。					
22	滑石製 白玉	床面	径1.5cm、厚さ0.4cm、重さ1.5g。側縁。上面は研磨による成形、裏面は未調整。					

呈し、垂直に掘られ、底面は平らである。竈は北壁の中央に在り、燃焼部の焼け方は強く、焼土が多量混入していた。出土遺物は須恵器甕、土師器甕、壺、埴輪などの他に滑石製の白玉が2点出土している。

#### 61B号住居跡(第157~159図、PL18)

S-43グリッドに在り、61A号住居跡に切られ、62号住居跡を切っている。平面形は方形を呈し、規模は5.2m×4.7mである。壁高は25cm程である。床面は張り床で竈前面は固く締まる。柱穴は4本検出されているが、掘り込みははっきりしない。

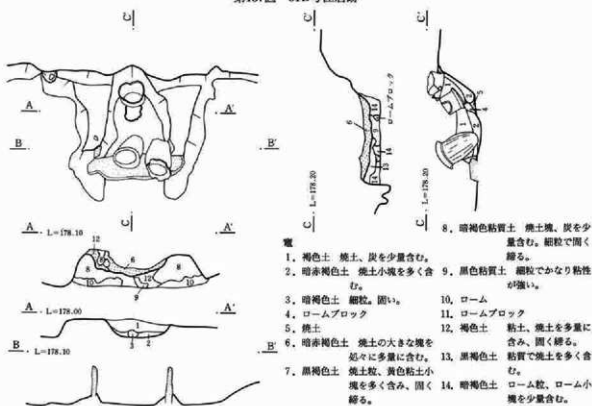
竈は北壁やや西寄りに在り、粘土混じりのロームで作られている。両袖に板状の片岩が埋め込まれ、この石の手前に長さ60cm程の板状の片岩が置かれていた。出土遺物は甕が2個体竈に架けられた状態で出土している。



第157図 61B号住居跡

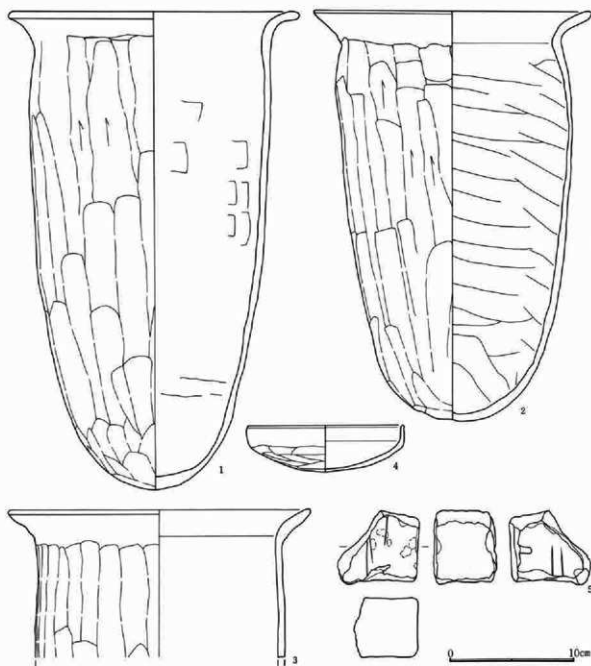
貯蔵穴 (C-C')  
 ア. 黒色土 ローム  
 粒子多く含む。  
 イ. 黒褐色土 ローム  
 粒子多く含む。  
 細り細かい。  
 ウ. 褐色土 ローム  
 ブロック多く含む。

柱穴 (P1~4)  
 ア. 褐色土 ローム  
 残含む。  
 イ. 黒褐色土 若干  
 の焼土、炭化物  
 含む。  
 ウ. # 炭化  
 物含むやや粘性  
 あり。  
 エ. 暗褐色土 ローム  
 ブロック少量  
 含む。  
 オ. 黄褐色土 ローム  
 と黒色土の混  
 土。  
 カ. 黒色土 細粒  
 が細りあり。



第158図 61B号住居跡竈

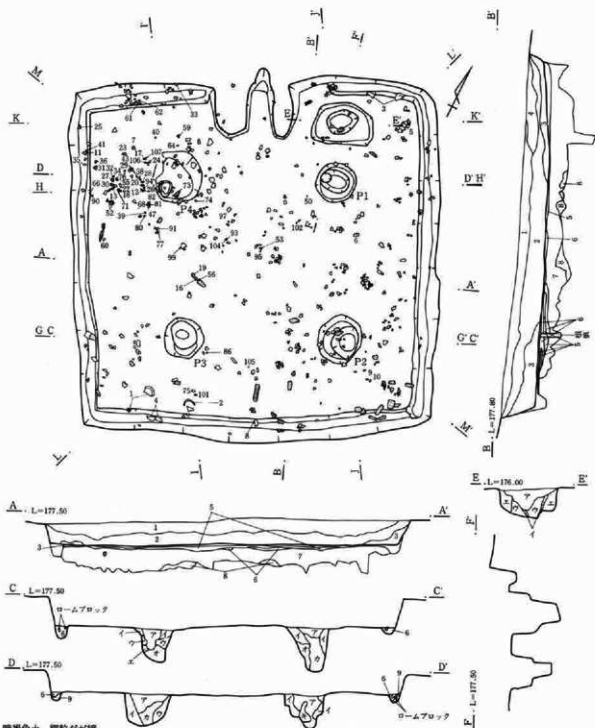
- 竈
1. 褐色土 焼土。炭を少量含む。
  2. 暗赤褐色土 焼土小塊を多く含む。
  3. 暗褐色土 細粒。固い。
  4. ロームブロック
  5. 焼土
  6. 暗赤褐色土 焼土の大きな塊を  
 絶々に多量に含む。
  7. 黒褐色土 焼土粒、黄色粘土小  
 塊を多く含む。固く  
 締る。
  8. 暗褐色粘質土 焼土塊、炭を少  
 量含む。細粒で固く  
 締る。
  9. 黒色粘質土 細粒でかなり粘性  
 が強い。
  10. ローム
  11. ロームブロック
  12. 褐色土 粘土、焼土を多量に  
 含む。固く締る。
  13. 黒褐色土 粘質で焼土を多く含  
 む。
  14. 暗褐色土 ローム粒、ローム小  
 塊を少量含む。



第159図 61B号住居跡出土遺物

61B号住居跡出土遺物観察表

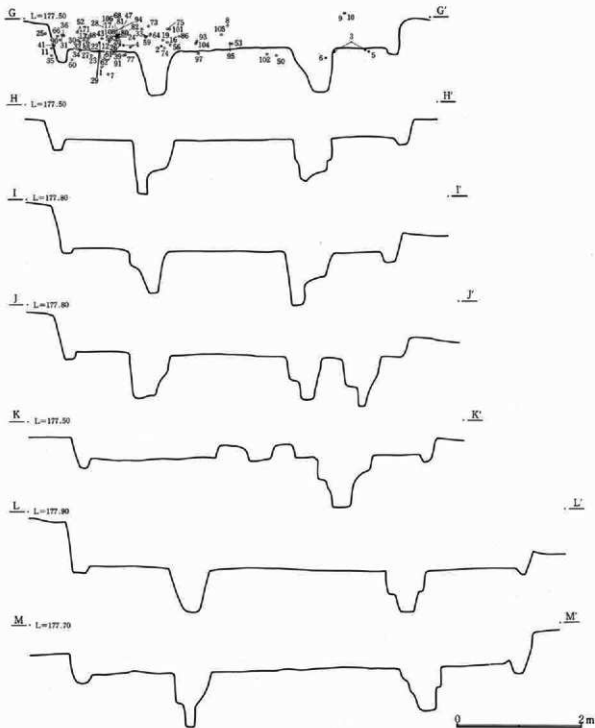
図番号	器種	出土位置 (cm)	口・底径 (cm)	器高 (cm)	胎土 色調	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	竈・床面	22.9	38.0	砂粒含む 良	暗茶褐色	外 口縁部横無で 胴部瓦削り 内 口縁部横無で 胴部瓦削り	
2	土師器 甕	竈・床面	21.8	32.6	少量の砂粒含む 良	暗褐色	外 口縁部横無で 胴部瓦削り 内 口縁部横無で 胴部瓦削り	完形
3	土師器 甕	+9	24.3		砂粒含む 普通	暗茶褐色	外 口縁部横無で 胴部瓦削り 内 口縁部横無で 胴部瓦削り	
4	土師器 坏	+15	12.8	3.7	微砂粒含む 良	褐色	外 口縁部横無で 体部瓦削り 内 口縁部横無で 体部無で	
5	磁石	覆土	長さ5.8cm、幅6.5cm、厚さ4.7cm、重さ179g。		石材は砂岩。欠損品。両面に刃ならし溝見られる。			



- |                                |                 |            |                                 |                                   |                         |                             |
|--------------------------------|-----------------|------------|---------------------------------|-----------------------------------|-------------------------|-----------------------------|
| 1. 暗褐色土 細粒だが締り弱い。炭化物、焼土粒を少量含む。 | 6. 黒色土          | 貯蔵穴 (E-E') | ア. 暗褐色土 やや粗粒で締り弱い。炭化物を若干含む。     | イ. 黒色土 細粒だが締り弱く、ローム粒を少量含む。        | 柱穴 (P1~4)               | ア. 暗褐色土 細粒だが締り弱く、ローム粒を少量含む。 |
| 2. 褐色土 細粒で粘質。炭化物多く含む、焼土粒を少量含む。 | 7. ロームと黒褐色土の混合土 |            | ウ. 黒褐色土 ロームの大きなブロックを含み、固く締っている。 | エ. #                              | エ. # 細粒でやや粘質。ローム粒を若干含む。 | オ. ロームと黒褐色土の混合土             |
| 3. 黒褐色土 細粒で粘質。黒土塊、ロームブロック多く含む。 | 8. #            |            | イ. ローム                          | カ. 黒色土 細粒だがフカフカしている。ロームブロックを若干含む。 | キ. ロームと黒褐色土の混合土         | キ. ロームと黒褐色土の混合土             |
| 4. 明褐色土 粒子やや粗く、黄白色粘土を少量含む。     | ローム多く含む。        |            | ウ. 褐色土 ロームブロックを多く含む。            | エ. 暗褐色土 ローム小ブロックを多く含む、ア層よりやや明るい。  | ア. #                    | ア. #                        |
| 5. ローム                         |                 |            |                                 |                                   |                         |                             |

第160図 65号住居跡(1)

0 2m



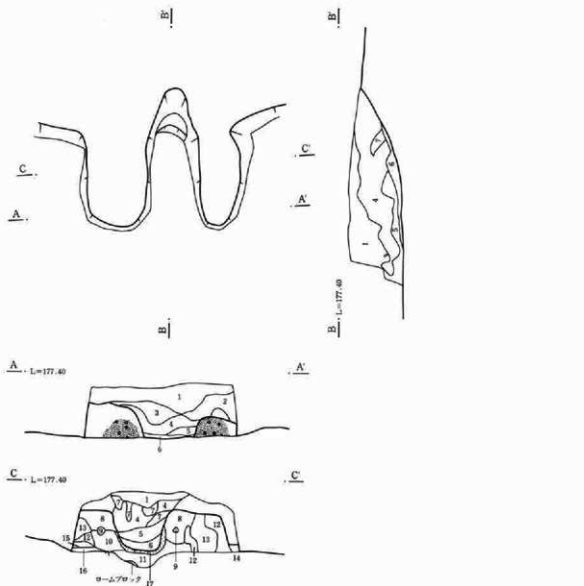
第161図 65号住居跡(2)

## 65号住居跡 (第160～164図、PL18)

R-43グリッドに位置する。正方形を呈し、規模は5.8m×5.7mで比較的大形の住居である。壁は垂直に掘り込まれ、かなりしっかりとしている。床面は平坦で中央部から竈にかけてのかなり広い範囲で踏み締められた面が確認された。周溝は幅10～20cm、深さ10～15cmで竈の部分を除き1周する。貯蔵穴は北東隅に在り、平面は長方形、下部は円形を呈す。柱穴は対角線上に4本検出されている。竈は北壁の中央に作られている、

第3章 検出された遺構と遺物

黄褐色粘土と黒色土の混土を用いて構築され、袖は住居内に張り出す。内部は良く焼けており、長期の使用が窺われる。出土遺物は甕、坏などの土器類の他に、滑石片が西北部分を中心に多量に出土している。



竈

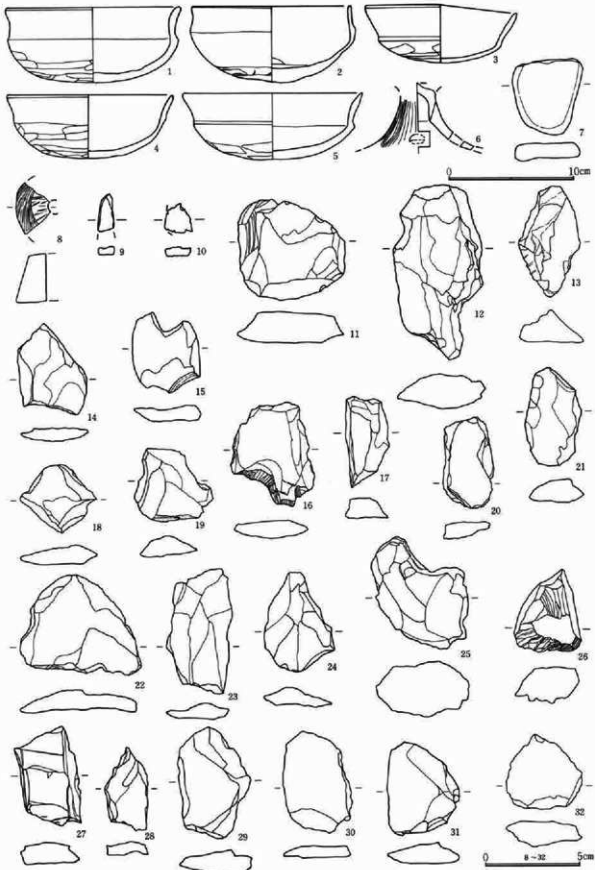
1. 暗褐色土 細粒で固く締る。若干、粘土塊、炭化物を含む。
2. 褐色土 細粒。締り強い。炭化物を多く含む。
3. 淡褐色土 粘土小塊を多く含む、かなり強く締っている。
4. 灰褐色粘土 炭化物少量含む。
5. 褐色土 焼土塊、炭化物、粘土塊をかなり多く含む、粘質。
6. 暗赤褐色土 ブログロした感じの黒っぽい焼土。
7. 暗褐色粘土 焼土粒、炭化物を若干含む。細粒。締り強い。
8. 黄褐色粘土 焼土粒を少量含む。竈袖造作材。

9. 灰褐色粘土 一部焼けていて赤褐色土を呈する。
10. 暗褐色土、黄褐色粘土、焼土の混合土
11. 暗赤褐色土 10層に近似、焼土の混入多い。
12. 黄褐色土 8層より更に粘土の混入多い。
13. 暗褐色土 黄褐色粘土の塊、焼土を多く含む。
14. 褐色土とロームの混合土
15. 黄褐色粘土 部分的に焼土が入る。
16. 暗褐色土 ロームブロックが多量に混入。
17. 焼土 粘土が焼けたもの。

第162図 65号住居跡竈

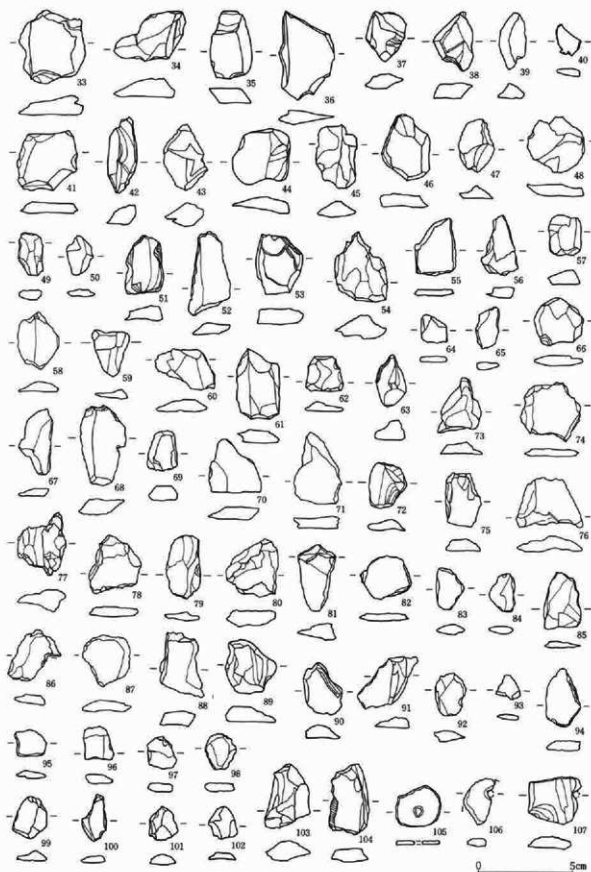


第4節 古墳時代の住居跡と遺物



第163図 65号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第164図 65号住居跡出土遺物(2)

65号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 口径 (cm)	器高 高さ (cm)	胎土 土質 色調	成・整形の特徴	備考	
1	土師器 環	+10	13.8	5.8	微砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 体部窪削り 内 口縁部横撫で 体部窪で		
2	土師器 環	+8	12.9	5.9	微砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 体部窪削り 内 口縁部横撫で 体部窪で		
3	土師器 環	床面	12.1	4.5	微砂粒含む 灰黄色 良	外 口縁部横撫で 体部窪削り 内 口縁部横撫で 体部窪で		
4	土師器 環	+10	13.3	5.0	砂粒含む 淡黄褐色 良	外 口縁部横撫で 体部窪削り 内 口縁部横撫で 体部窪で		
5	土師器 環	床面	14.4	5.0	砂粒含む 淡黄褐色 良	外 口縁部横撫で 体部窪削り 内 口縁部横撫で 体部窪で		
6	土師器 高環	P.3内			砂粒含む 暗淡褐色 良	外 野原さ 内 横撫で	脚部片 透かし穴あり	
7	磁石	床面	長さ5.8cm、幅1.3cm、厚さ5.5cm、重さ53g。石器は牛伏砂岩。扁平な小鏡を利用。					
8	紡錘車	+36	径一、厚さ2.5cm、重さ14.9g。滑石。破損品(82号住居跡の19と同じ)。					
9	鉄製品	+55	鏝。長さ2.2cm、幅1.0cm、厚さ0.5cm、重さ3.1g。					
10	鉄製品	+55	鏝。長さ1.8cm、幅1.7cm、厚さ0.5cm、重さ2.1g。破損品。					
11	滑石片	床面	石片。長さ5.7cm、幅5.4cm、厚さ1.6cm、重さ67.4g。					
12	滑石片	+15	石片。長さ9.2cm、幅4.7cm、厚さ1.8cm、重さ89.0g。大型の石片。					
13	滑石片	+20	石片。長さ7.8cm、幅3.3cm、厚さ1.7cm、重さ28.6g。一部に刃物による削り痕。					
14	滑石片	覆土	石片。長さ4.8cm、幅3.6cm、厚さ0.7cm、重さ14.0g。					
15	滑石片	覆土	石片。長さ4.3cm、幅3.5cm、厚さ0.8cm、重さ16.0g。					
16	滑石片	+11	石片。長さ5.3cm、幅4.3cm、厚さ0.85cm、重さ24.2g。一部に刃物による削り痕。					
17	滑石片	+31	石片。長さ4.8cm、幅2.3cm、厚さ1.0cm、重さ13.5g。					
18	滑石片	覆土	石片。長さ4.1cm、幅3.6cm、厚さ1.0cm、重さ13.0g。					
19	滑石片	+14	石片。長さ4.1cm、幅3.7cm、厚さ1.0cm、重さ16.4g。					
20	滑石片	+25	石片。長さ4.8cm、幅2.6cm、厚さ0.9cm、重さ14.9g。					
21	滑石片	覆土	石片。長さ5.5cm、幅3.0cm、厚さ1.3cm、重さ22.0g。					
22	滑石片	+2	石片。長さ6.5cm、幅5.3cm、厚さ1.3cm、重さ42.7g。					
23	滑石片	床面	石片。長さ6.6cm、幅3.5cm、厚さ0.8cm、重さ24.8g。					
24	滑石片	+22	石片。長さ5.2cm、幅3.1cm、厚さ0.9cm、重さ22.8g。刃物による削り痕あり。					
25	滑石片	床面	石片。長さ5.9cm、幅4.9cm、厚さ2.9cm、重さ78.1g。一部に刃物による削り痕あり。					
26	滑石片	床面	石片。長さ4.3cm、幅3.5cm、厚さ1.9cm、重さ36.8g。					
27	滑石片	床面	石片。長さ5.3cm、幅3.0cm、厚さ1.5cm、重さ30.0g。刃物による削り切り痕あり。					
28	滑石片	+28	石片。長さ4.4cm、幅2.2cm、厚さ0.7cm、重さ8.1g。					
29	滑石片	床面	石片。長さ5.9cm、幅3.9cm、厚さ1.2cm、重さ30.1g。					
30	滑石片	+14	石片。長さ5.3cm、幅3.7cm、厚さ0.6cm、重さ17.9g。					
31	滑石片	+24	石片。長さ5.0cm、幅3.8cm、厚さ1.0cm、重さ23.4g。					
32	滑石片	+14	石片。長さ4.0cm、幅4.0cm、厚さ1.4cm、重さ19.4g。					
33	滑石片	+35	石片。長さ3.8cm、幅3.4cm、厚さ1.0cm、重さ15.8g。					
34	滑石片	床面	石片。長さ3.1cm、幅2.5cm、厚さ1.0cm、重さ9.6g。擦り切り痕あり。					
35	滑石片	床面	石片。長さ3.6cm、幅2.1cm、厚さ0.8cm、重さ8.3g。					
36	滑石片	+22	石片。長さ4.7cm、幅2.9cm、厚さ0.7cm、重さ9.9g。					

### 第3章 検出された遺構と遺物

37	滑石片	覆土	石片。長さ2.5cm、幅2.0cm、厚さ0.7cm、重さ0.3g。
38	滑石片	覆土	石片。長さ3.1cm、幅2.0cm、厚さ0.8cm、重さ0.4g。
39	滑石片	床面	石片。長さ2.9cm、幅1.4cm、厚さ0.8cm、重さ3.2g。
40	滑石片	覆土	石片。長さ2.8cm、幅2.8cm、厚さ0.6cm、重さ0.1g。
41	滑石片	床面	石片。長さ3.2cm、幅2.2cm、厚さ0.6cm、重さ8.0g。
42	滑石片	覆土	石片。長さ3.8cm、幅1.5cm、厚さ1.0cm、重さ0.8g。
43	滑石片	+20	石片。長さ3.5cm、幅2.0cm、厚さ1.2cm、重さ6.9g。
44	滑石片	+23	石片。長さ2.7cm、幅1.8cm、厚さ0.5cm、重さ10.8g。
45	滑石片	覆土	石片。長さ3.3cm、幅2.2cm、厚さ0.8cm、重さ0.5g。
46	滑石片	覆土	石片。長さ3.5cm、幅2.6cm、厚さ0.7cm、重さ0.8g。
47	滑石片	+22	石片。長さ2.7cm、幅1.8cm、厚さ0.7cm、重さ3.1g。
48	滑石片	+20	石片。長さ3.0cm、幅2.9cm、厚さ0.7cm、重さ7.1g。
49	滑石片	覆土	石片。長さ2.6cm、幅1.4cm、厚さ0.5cm、重さ0.2g。
50	滑石片	床面	石片。長さ2.1cm、幅1.4cm、厚さ0.4cm、重さ1.7g。
51	滑石片	覆土	石片。長さ3.0cm、幅1.9cm、厚さ0.7cm、重さ0.5g。
52	滑石片	+28	石片。長さ4.4cm、幅2.1cm、厚さ0.6cm、重さ6.9g。
53	滑石片	+9	石片。長さ3.2cm、幅2.5cm、厚さ0.8cm、重さ8.5g。
54	滑石片	覆土	石片。長さ3.6cm、幅2.8cm、厚さ1.2cm、重さ12.0g。
55	滑石片	+5	石片。長さ3.0cm、幅2.1cm、厚さ0.3cm、重さ2.9g。
56	滑石片	+11	石片。長さ3.1cm、幅1.8cm、厚さ0.55cm、重さ4.0g。
57	滑石片	覆土	石片。長さ2.1cm、幅1.7cm、厚さ0.8cm、重さ0.4g。
58	滑石片	+27	石片。長さ3.0cm、幅2.1cm、厚さ0.5cm、重さ4.1g。
59	滑石片	+23	石片。長さ2.2cm、幅1.8cm、厚さ0.5cm、重さ2.5g。
60	滑石片	床面	石片。長さ3.2cm、幅2.2cm、厚さ0.65cm、重さ4.5g。
61	滑石片	床面	石片。長さ3.8cm、幅2.3cm、厚さ0.7cm、重さ7.4g。
62	滑石片	床面	石片。長さ2.0cm、幅1.9cm、厚さ0.5cm、重さ2.5g。
63	滑石片	覆土	石片。長さ2.7cm、幅1.6cm、厚さ1.1cm、重さ0.4g。
64	滑石片	+25	石片。長さ1.9cm、幅1.3cm、厚さ0.35cm、重さ1.0g。
65	滑石片	覆土	石片。長さ3.4cm、幅1.7cm、厚さ0.5cm、重さ0.1g。
66	滑石片	+20	石片。長さ2.6cm、幅2.5cm、厚さ0.5cm、重さ5.0g。側縁部調整、ほぼ円形を呈す。
67	滑石片	覆土	石片。長さ3.4cm、幅1.7cm、厚さ0.45cm、重さ0.3g。
68	滑石片	+25	石片。長さ4.2cm、幅2.4cm、厚さ0.8cm、重さ9.4g。端部に穿孔。
69	滑石片	覆土	石片。長さ2.1cm、幅1.6cm、厚さ0.8cm、重さ0.4g。
70	滑石片	+31	石片。長さ2.8cm、幅2.8cm、厚さ0.6cm、重さ7.3g。
71	滑石片	+25	石片。長さ3.8cm、幅2.5cm、厚さ0.6cm、重さ7.1g。
72	滑石片	覆土	石片。長さ2.4cm、幅2.0cm、厚さ0.5cm、重さ0.2g。
73	滑石片	覆土	石片。長さ2.9cm、幅2.3cm、厚さ0.6cm、重さ0.2g。三角形を呈す。
74	滑石片	+6	石片。長さ3.1cm、幅3.1cm、厚さ0.4cm、重さ6.8g。
75	滑石片	+36	石片。長さ2.8cm、幅1.9cm、厚さ0.6cm、重さ5.2g。
76	滑石片	+10	石片。長さ3.6cm、幅2.6cm、厚さ0.8cm、重さ8.8g。
77	滑石片	床面	石片。長さ3.3cm、幅2.5cm、厚さ1.2cm、重さ8.4g。

78	滑石片	覆土	石片。長さ3.0cm、幅2.8cm、厚さ1.2cm、重さ0.7g。
79	滑石片	覆土	石片。長さ3.3cm、幅1.7cm、厚さ0.5cm、重さ0.4g。
80	滑石片	+26	石片。長さ3.05cm、幅2.8cm、厚さ0.8cm、重さ0.9g。
81	滑石片	+25	石片。長さ3.5cm、幅2.0cm、厚さ0.9cm、重さ0.8g。
82	滑石片	+26	石片。長さ2.7cm、幅2.2cm、厚さ0.45cm、重さ0.31g。
83	滑石片	覆土	石片。長さ2.9cm、幅1.9cm、厚さ0.3cm、重さ0.2g。
84	滑石片	覆土	石片。長さ2.0cm、幅1.4cm、厚さ0.4cm、重さ0.1g。
85	滑石片	覆土	石片。長さ2.7cm、幅2.5cm、厚さ0.6cm、重さ0.2g。
86	滑石片	+23	石片。長さ2.8cm、幅2.8cm、厚さ0.5cm、重さ3.6g。刃物による削り痕あり。
87	滑石片	+14	石片。長さ2.7cm、幅2.5cm、厚さ0.6cm、重さ4.9g。
88	滑石片	覆土	石片。長さ3.4cm、幅2.3cm、厚さ0.8cm、重さ0.7g。
89	滑石片	覆土	石片。長さ2.8cm、幅2.7cm、厚さ0.8cm、重さ0.8g。
90	滑石片	+15	石片。長さ2.7cm、幅2.1cm、厚さ0.7cm、重さ4.7g。
91	滑石片	床面	石片。長さ3.8cm、幅1.7cm、厚さ0.55cm、重さ4.2g。
92	滑石片	覆土	石片。長さ2.3cm、幅1.6cm、厚さ0.6cm、重さ0.2g。
93	滑石片	+15	石片。長さ1.2cm、幅1.3cm、厚さ0.3cm、重さ0.6g。
94	滑石片	+29	石片。長さ3.1cm、幅1.8cm、厚さ0.5cm、重さ3.9g。
95	滑石片	+9	石片。長さ1.4cm、幅1.2cm、厚さ0.4cm、重さ1.2g。
96	滑石片	覆土	石片。長さ1.8cm、幅1.5cm、厚さ0.5cm、重さ0.1g。
97	滑石片	床面	石片。長さ1.7cm、幅1.5cm、厚さ0.4cm、重さ1.4g。
98	滑石片	覆土	石片。長さ1.9cm、幅1.7cm、厚さ0.5cm、重さ0.2g。
99	滑石片	+27	石片。長さ2.2cm、幅1.8cm、厚さ0.5cm、重さ2.2g。
100	滑石片	+38	石片。長さ2.9cm、幅2.3cm、厚さ0.6cm、重さ4.6g。三角形を呈す。
101	滑石片	+35	石片。長さ1.3cm、幅1.4cm、厚さ0.5cm、重さ1.3g。
102	滑石片	床面	石片。長さ1.7cm、幅1.1cm、厚さ0.4cm、重さ1.3g。
103	滑石片	覆土	石片。長さ3.3cm、幅2.5cm、厚さ1.0cm、重さ0.8g。
104	滑石片	+12	石片。長さ3.7cm、幅1.9cm、厚さ0.7cm、重さ7.9g。
105	滑石製品	+22	有孔円盤。長さ2.3cm、幅2.2cm、厚さ0.2cm、孔径0.3cm、重さ2.5g。薄く、全面研磨。滑石製。
106	滑石製品	+30	有孔円盤。長さ2.4cm、幅1.5cm、厚さ0.3cm、重さ1.7g。破損品。
107	滑石製品	+26	有孔円盤。長さ2.7cm、幅2.5cm、厚さ0.6cm、重さ6.2g。未製品。

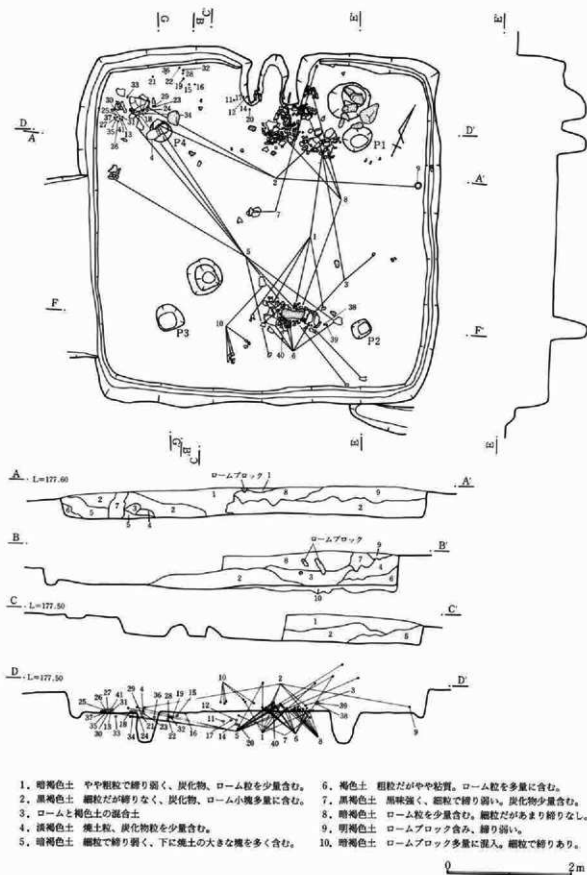
## 72号住居跡（第165～170図、PL18・19）

R-42グリッドに位置する。87および、71号住居跡が南西部分に重複する。形状はほぼ正方形を呈し、規模は5.6m×5.6mである。壁高は30cm程でほぼ垂直に掘り込まれている。床面はわずかに凹凸を持つが、比較的堅致である。壁周溝は幅20cm、深さ数cm程で、竈部分を除きほぼ全周する。貯蔵穴は竈の右脇に在り、上部からは土が落ち込んだ状態で出土している、平面形は円形を呈し深さは約1mである。柱穴は対角線上に4本検出されている。

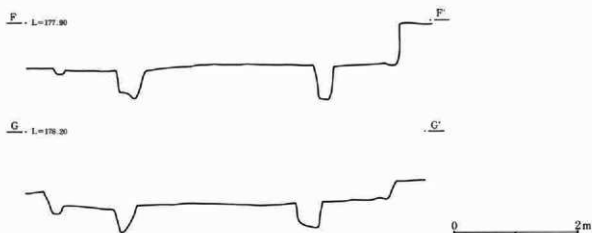
竈は北壁中央部分にあり、黄褐色粘土で作られ、両袖には石が使われ、かなり住居内に張り出した作りである。

出土遺物は壺、小型甕、坏類が竈周辺を中心に出土している。また滑石製の白玉が床面に散乱した状態で出土している。

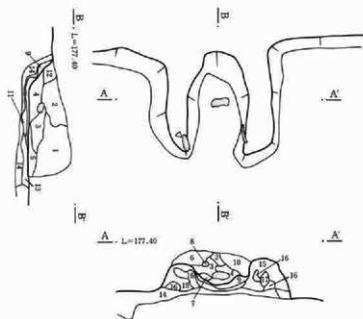
第3章 検出された遺構と遺物



第165図 72号住居跡(1)



第166図 72号住居跡(2)

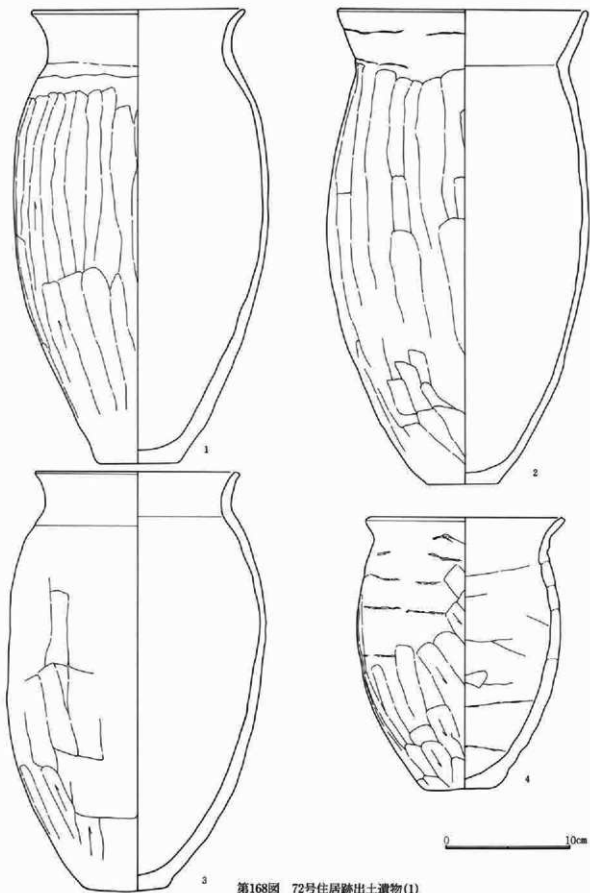


■

1. 暗褐色土 ロームを多量に含み、やや粗粒で締り弱い。
2. 褐色土 ロームブロックを多く含み、やや粘質で締り強い。
3. 黒褐色土 ロームブロック、焼土粒を少量含む。
4. 暗赤褐色土 焼土小塊、炭化物を少量含む。
5. 暗褐色土 1層よりもやや暗く、細粒で炭を多く含む。
6. # ローム粒、焼土小塊、炭を少量含む。
7. ロームブロック
8. 黒色粘質土

9. 暗赤褐色土 焼土小塊、炭を多く含む。締り弱い。
10. 黒褐色土 粘土小塊、焼土粒を多く含む。粘性強く、固く締る。
11. 焼土
12. 黒褐色土 焼土小塊を多く含む。細粒だが締り弱い。
13. # ロームブロックを含む。
14. ロームと褐色土の混合土
15. 黄色粘土 竈軸の横造材。
16. 焼土と黄色粘土の混合土
17. ロームブロック

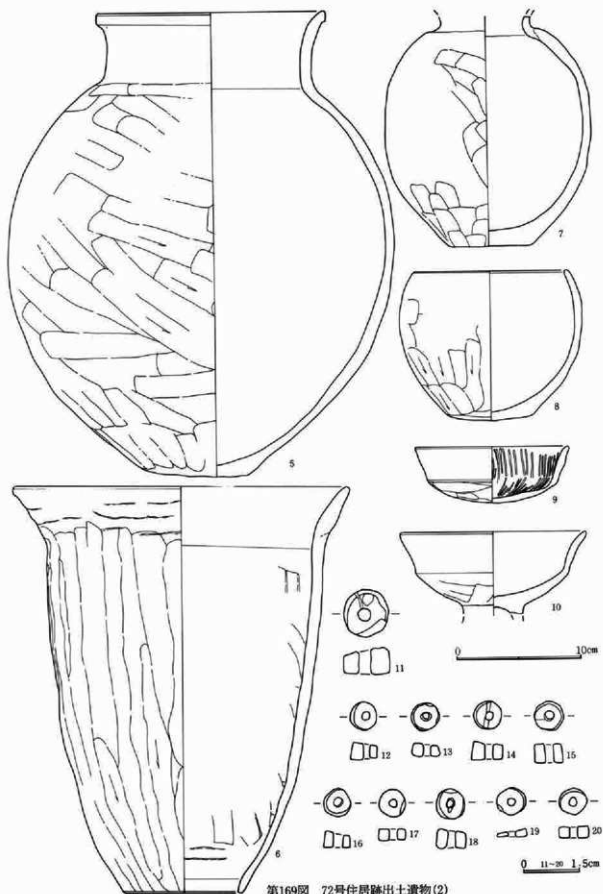
第167図 72号住居跡電



第168図 72号住居跡出土遺物(1)

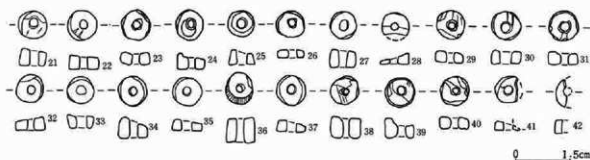


第4節 古墳時代の住居跡と遺物



第169図 72号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第170図 72号住居跡出土遺物(3)

72号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 壺	床面	16.8 6.5	36.3	砂粒含む 普通	暗赤褐色	外 口縁部横無で 体部寛削り 内 口縁部横無で 胴部寛削り	
2	土師器 壺	床面	19.8 5.6	37.8	砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横無で 胴部寛削り 内 口縁部横無で 胴部寛削り	
3	土師器 壺	+8	16.1 6.8	33.7	砂粒含む 良	灰褐色	外 口縁部横無で 胴部寛削り 内 口縁部横無で 胴部寛削り	
4	土師器 壺	+4	15.8 5.5	21.8	砂粒含む 良	淡明褐色	外 口縁部横無で 胴部寛削り 内 口縁部横無で 体部寛削り	
5	土師器 壺	床面	18.2 8.0	36.5	砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横無で 胴部寛削り 内 口縁部横無で 胴部寛削り	
6	土師器 甕	+5	26.7 9.4	32.7	微砂粒含む 良	黄褐色	外 口縁部横無で 胴部寛削り 内 口縁部横無で 胴部寛削りで下部寛削り	
7	土師器 壺	床面	6.4		砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横無で 胴部寛削り後磨き 内 口縁部横無で 胴部寛削り	胴部木塞痕
8	土師器 鉢	床面	12.0 6.8	12.0	砂粒含む 普通	暗赤褐色	外 口縁部横無で 胴部寛削り 内 口縁部横無で 胴部寛削り	割痕あり
9	土師器 坏	床面	12.4 4.4		微砂粒含む 良	暗赤褐色	外 口縁部横無で 体部寛削り 内 口縁部横無で 体部無で	内面放射状暗文
10	土師器 高坏	+10	15.0		砂粒含む 普通	橙褐色	外 口縁部横無で 体部寛削り 内 口縁部横無で 体部無で	脚部欠損 器面摩減
11	滑石製 品	床面	白玉。径1.2cm。厚さ0.7cm。孔径0.2cm。重さ1.5g。側面に研磨痕。両面汚物による磨り痕。滑石製。					
12	滑石製 品	床面	白玉。径0.7cm。厚さ0.45cm。孔径0.3cm。重さ0.4g。側面に研磨痕。滑石製。					
13	滑石製 品	+3	白玉。径0.7cm。厚さ0.4cm。孔径0.2cm。重さ0.3g。側面に研磨痕。滑石製。					
14	滑石製 品	床面	白玉。径0.7cm。厚さ0.5cm。孔径0.2cm。重さ0.4g。側面に研磨痕。滑石製。					
15	滑石製 品	床面	白玉。径0.8cm。厚さ0.5cm。孔径0.2cm。重さ0.5g。側面に研磨痕。滑石製。					
16	滑石製 品	床面	白玉。径0.8cm。厚さ0.45cm。孔径0.2cm。重さ0.4g。側面に研磨痕。滑石製。					
17	滑石製 品	床面	白玉。径0.7cm。厚さ0.3cm。孔径0.2cm。重さ0.2g。側面に研磨痕。滑石製。					
18	滑石製 品	+2	白玉。径0.7cm。厚さ0.5cm。孔径0.2cm。重さ0.5g。側面に研磨痕。滑石製。					
19	滑石製 品	床面	白玉。径0.7cm。厚さ0.2cm。孔径0.2cm。重さ0.1g。側面に研磨痕。滑石製。					
20	滑石製 品	床面	白玉。径0.7cm。厚さ0.3cm。孔径0.2cm。重さ0.2g。側面に研磨痕。滑石製。					
21	滑石製 品	床面	白玉。径0.75cm。厚さ0.45cm。孔径0.2cm。重さ0.4g。側面に研磨痕。滑石製。					
22	滑石製 品	床面	白玉。径0.8cm。厚さ0.4cm。孔径0.2cm。重さ0.4g。側面に研磨痕。滑石製。					

## 第4節 古墳時代の住居跡と遺物

23	滑石製品	床面	白玉。径0.8cm、厚さ0.3cm、孔径0.2cm、重さ0.3g。側面に研磨痕。滑石製。
24	滑石製品	+2	白玉。径0.7cm、厚さ0.4cm、孔径0.2cm、重さ0.3g。側面に研磨痕。滑石製。
25	滑石製品	+4	白玉。径0.75cm、厚さ0.4cm、孔径0.2cm、重さ0.3g。側面に研磨痕。滑石製。
26	滑石製品	+2	白玉。径0.7cm、厚さ0.2cm、孔径0.2cm、重さ0.2g。側面に研磨痕。滑石製。
27	滑石製品	+4	白玉。径0.7cm、厚さ0.35cm、孔径0.2cm、重さ0.4g。側面に研磨痕。滑石製。
28	滑石製品	床面	白玉。径0.7cm、厚さ0.3cm、孔径0.2cm、重さ0.2g。側面に研磨痕。両面刃物により削られ、一端が薄くなる。滑石製。
29	滑石製品	床面	白玉。径0.7cm、厚さ0.3cm、孔径0.2cm、重さ0.3g。側面に研磨痕。滑石製。
30	滑石製品	+2	白玉。径0.8cm、厚さ0.35cm、孔径0.2cm、重さ0.3g。側面に研磨痕。滑石製。
31	滑石製品	+3	白玉。径0.7cm、厚さ0.3cm、孔径0.2cm、重さ0.4g。側面に研磨痕。穴は中央よりややずれる。滑石製。
32	滑石製品	床面	白玉。径0.8cm、厚さ0.3cm、孔径0.2cm、重さ0.2g。側面に研磨痕。滑石製。
33	滑石製品	床面	白玉。径0.7cm、厚さ0.35cm、孔径0.2cm、重さ0.3g。側面に研磨痕。滑石製。
34	滑石製品	+2	白玉。径0.7cm、厚さ0.55cm、孔径0.2cm、重さ0.4g。側面に研磨痕。断面斜め。滑石製。
35	滑石製品	+2	白玉。径0.8cm、厚さ0.2cm、孔径0.2cm、重さ0.3g。側面に研磨痕。滑石製。
36	滑石製品	床面	白玉。径0.7cm、厚さ0.7cm、孔径0.2cm、重さ0.6g。側面に研磨痕。滑石製。
37	滑石製品	+2	白玉。径0.8cm、厚さ0.35cm、孔径0.2cm、重さ0.3g。側面に研磨痕。滑石製。
38	滑石製品	+11	白玉。径0.7cm、厚さ0.5cm、孔径0.2cm、重さ0.5g。側面に研磨痕。滑石製。
39	滑石製品	+12	白玉。径0.7cm、厚さ0.5cm、孔径0.2cm、重さ0.4g。側面に研磨痕。滑石製。
40	滑石製品	+5	白玉。径0.7cm、厚さ0.3cm、孔径0.2cm、重さ0.3g。切断面荒れている。側面に研磨痕。滑石製。
41	滑石製品	+2	白玉。径0.7cm、厚さ0.25cm、孔径0.2cm、重さ0.1g。一部欠損。側面に研磨痕。滑石製。
42	滑石製品	覆土	白玉。径(0.8)cm、厚さ0.4cm、孔径(0.2)cm、重さ0.1g。側面に研磨痕。破損品。滑石製。

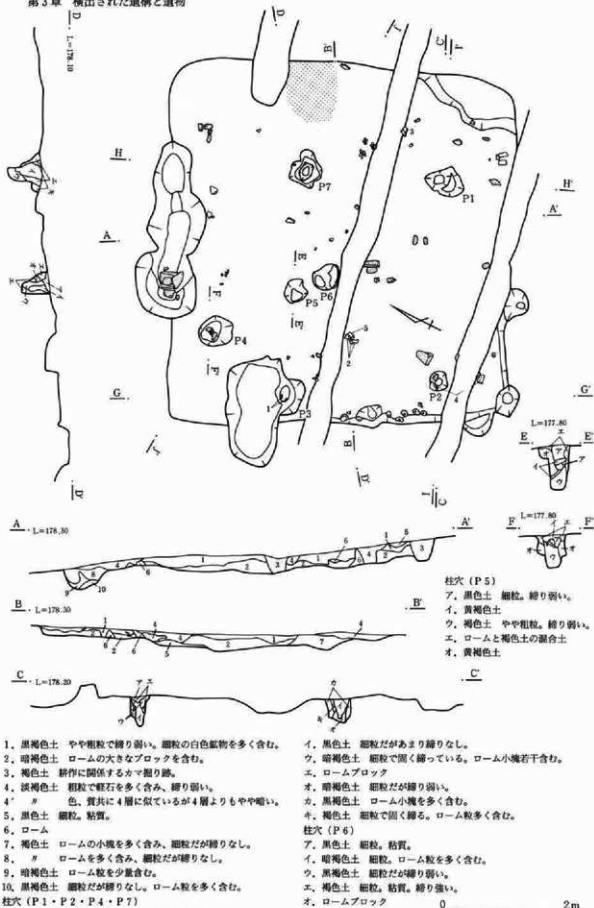
## 73号住居跡（第171～173図、PL19）

R-41グリッドに位置する。全体的に耕作溝などによる削平が著しく、各壁の遺存状況は極めて悪い。住居の平面形状は方形を呈すと思われる。およその規模は5.7m×5.4mである。床面は部分的には比較的しっかりした面が押さえられたが平坦ではない。7カ所のピットが検出されているが、2穴を除いて位置が対応しない。

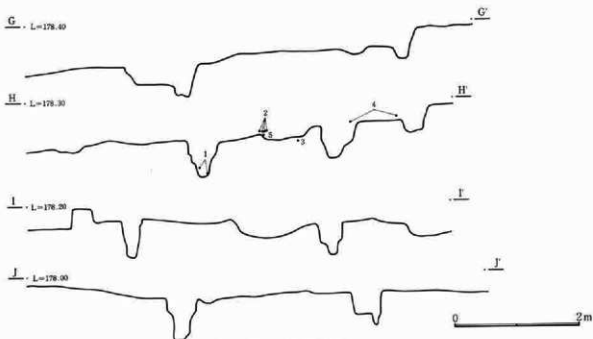
周溝は南および西壁部分に一部見られる。竈は形としては、ほとんど確認できなかったが、東壁中央やや北寄りに壁に接して焼土痕が確認されている。北壁、および西壁に不定形の土坑が重複している。

出土遺物は少なく、甕、環類が見られたが時代的に下るものも混入している。

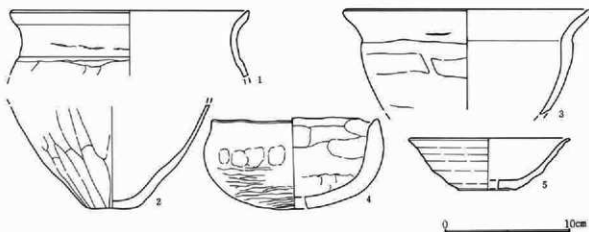
第3章 検出された遺構と遺物



第171図 73号住居跡(1)



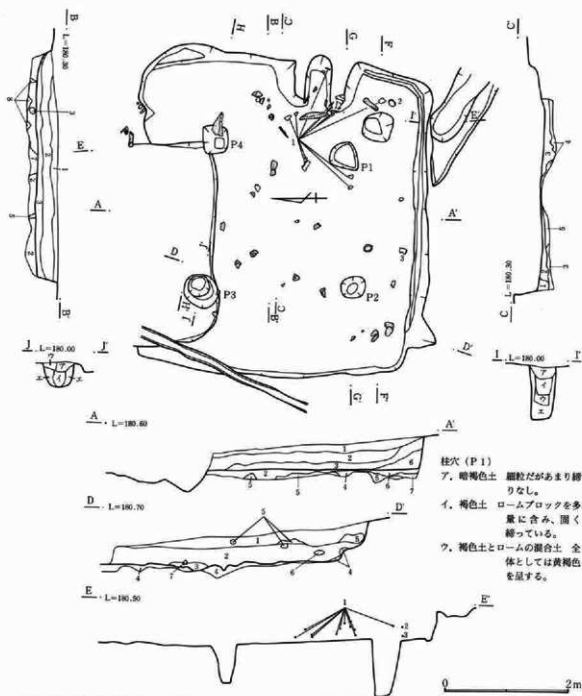
第172図 73号住居跡(2)



第173図 73号住居跡出土遺物

73号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土 成 色 調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 壺	ピット内	(19.2)		微砂粒含む 茶褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部荒削り 内 口縁部横撫で 胴部荒削り	
2	土師器 壺	+5	4.0		微砂粒含む 暗褐色 良	外 荒削り 内 撫で	底部のみ
3	土師器 鉢	床面	19.9		微砂粒含む 淡黄褐色 普通	外 口縁部横撫で 体部荒削り 内 口縁部横撫で 胴部荒削り	器面荒れている
4	土師器 杯	床面	13.5 (7.4)		精製 良	外 口縁部横撫で 体部荒削り後荒削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	器内厚い
5	須恵器 杯	床面	(13.0) (4.8)	4.0	精製 良	口クロ成形	



1. 暗褐色土 細粒だが締り弱く、やや粘質。
2. 黒褐色土 # 炭化物、焼土粒を少量含む。
3. 褐色土 細粒でやや粘質。ローム小塊を少量含む。
4. 暗褐色土 細粒だがやや粘質。焼土小塊を少量含む。
5. 黒褐色土 細粒で粘性が強い。焼土小塊を少量含む。
6. # 黄褐色土の小粒を少し含む。
7. 褐色土 暗褐色、黄褐色が混入し、軽石を多く含む。
8. # 暗褐色土が混入し、小粒の軽石を多く含む。
9. 暗褐色土 褐色土が混入し、軽石を含み、固い。
10. 褐色土 固い、暗褐色土、黄褐色土が少し混入し、軽石を含む。
11. 暗褐色土 黒褐色土、暗褐色土混入し、大粒の軽石を一部含む。
12. 褐色土 まめが細かく、黄褐色に近い。
13. # やや固く、暗褐色土が少し混入。

柱穴 (P1)

- ア、暗褐色土 細粒だがあまり締りなし。  
 イ、褐色土 ロームブロックを多量に含み、固く締っている。  
 ウ、褐色土とロームの混合土 全体としては黄褐色を呈する。

柱穴 (P3)

- ア、黒褐色土 細粒で締り弱い。ローム粒を若干含む。  
 イ、褐色土 細粒で締り弱い。黄褐色土塊を含む。  
 ウ、黒褐色土 細粒で締り強い。ローム小塊を少量含む。  
 エ、ロームと褐色土の混合土 固く締っている。

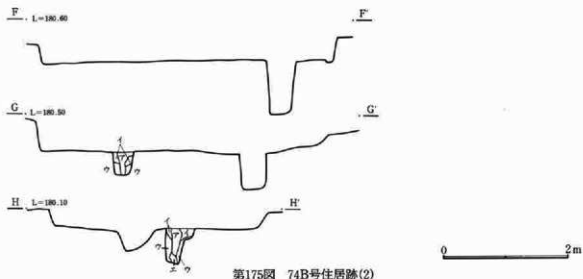
柱穴 (P4)

- ア、暗褐色土 細粒だがあまり締りなし。  
 イ、褐色土 ロームブロックを多量に含み、固く締っている。  
 ウ、褐色土とロームの混合土 全体としては黄褐色を呈する。  
 エ、黄褐色土 粗粒で締り弱い。

貯蔵穴 (I-I')

- ア、黒色土 細粒でやや粘性が強い。締り弱い。  
 イ、暗褐色土 細粒で締り弱い。ローム粒を多く含む。  
 ウ、褐色土 粗粒で締り強い。ローム粒を多く含む。  
 エ、明褐色土 ローム粒を多く含む。粗粒で締り弱い。

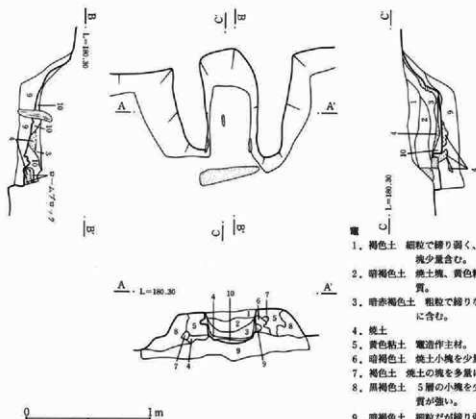
第174図 74B号住居跡(1)



第175図 74B号住居跡(2)

74B号住居跡 (第174~177図、PL19)

U-43グリッドに位置する。北辺に74-A号住居跡が重なり、規模は5.0m×4.8mである。形状は方形を呈す。壁高は40~30cmを測り、東、南壁の残りが比較的良く、垂直に掘り込まれている。床面は平坦で中央部分を中心に良く締まる。貯蔵穴は南東隅に在り、径は40cmと比較的小さい。柱穴は対角線上に4本検出され、掘方もしっかりしている。竈は東壁中央やや南寄りに在り袖部分は住居内に張り出し、焚口に渡してあった石が手前に落ちた状態で検出された。出土遺物は甕、坏類である。

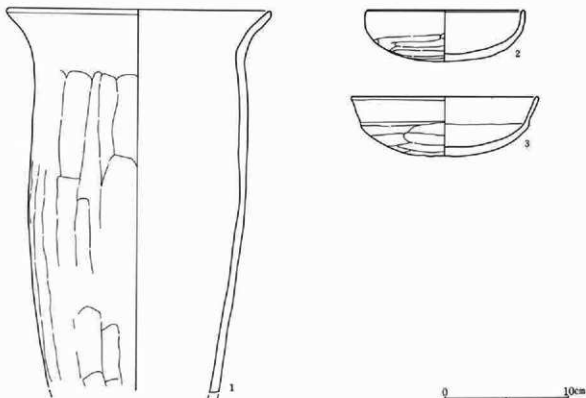


第176図 74B号住居跡竈

竈

1. 褐色土 細粒で締り弱く、黄色粘土塊を多く、焼土塊少量含む。
2. 暗褐色土 焼土塊、黄色粘土塊少量含む、細粒で軟質。
3. 暗赤褐色土 粗粒で締りなし。焼土粒、炭化物多量を含む。
4. 焼土
5. 黄色粘土 竈造作主材。
6. 暗褐色土 焼土小塊を少量含む。締り弱い。
7. 褐色土 焼土の塊を多量に含む。
8. 黒褐色土 5層の小塊を少量含む、細粒でかなり軟質が強い。
9. 暗褐色土 細粒だが締り弱い。
10. 褐色土 焼土塊、炭を多量に含む。ガサガサしている。

第3章 検出された遺構と遺物



第177図 74B号住居跡出土遺物

74B号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 壺	+5		21.0	小礫含む 良	暗赤褐色	外 口縁部横無で 胴部削り 内 口縁部横無で 胴部削り	
2	土師器 杯	+22	12.7	4.0	微砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横無で 体部削り 内 口縁部横無で 体部削り	ほぼ完形
3	土師器 杯	+8	15.0	4.7	微砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横無で 体部削り 内 口縁部横無で 体部削り	

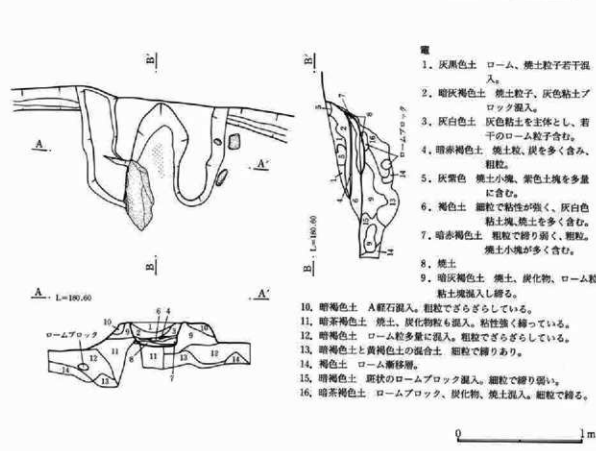
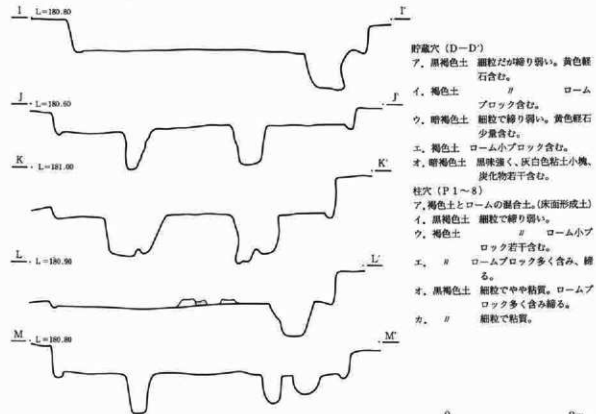
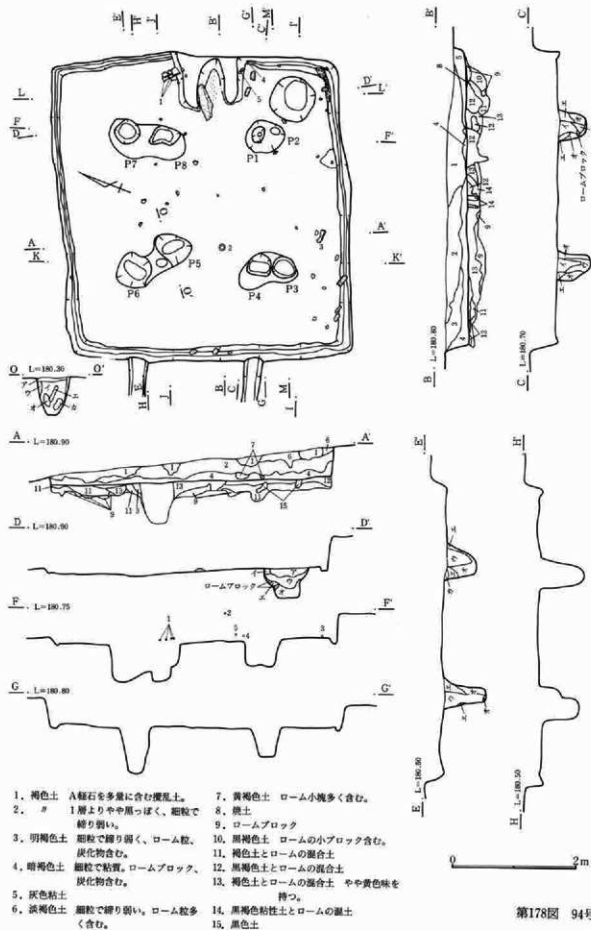
94号住居跡 (第178・179図、PL19)

T-41グリッドに位置する。ほぼ正方形を呈し、規模は4.8m×4.8mである。北斜面にあるため、北壁の遺存状態は悪く、壁高は10cm程度である。南壁は高さ50cmを測りほぼ垂直に立ち上がる。床面はかなり平坦で、固くしまっている。貯蔵穴は南東隅に在り、平面形は円形を呈し、径70cm、深さ約60cmで、比較的深い掘り込みである。柱穴はほぼ対角線上に4本検出され、それぞれ2穴が接して掘られており、建て替えの可能性はある。

竈は東壁のほぼ中央に作られており、袖が馬蹄形に壁内に張り出す。粘土、ロームの混土で作られ、かなり崩れた状態で検出された。焚口部に横に渡されていたと思われる細長い板状の石が落ち込んだ状態で検出されている。

出土遺物は比較的少ないが竈周辺において壺、杯、大形の磁石などがみられた。この他に白玉が2点出土している。

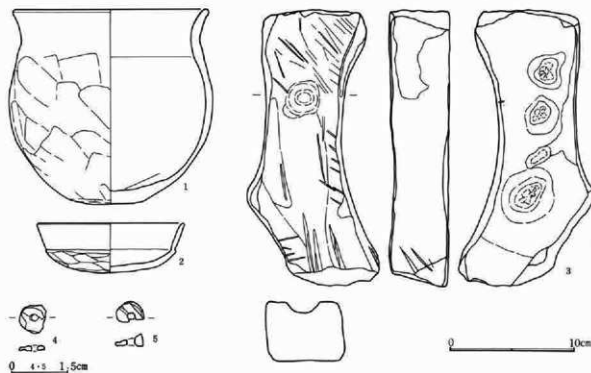




第178図 94号住居跡及び竈 (折り込み)



第4節 古墳時代の住居跡と遺物



第179図 94号住居跡出土遺物

94号住居跡出土遺物観察表

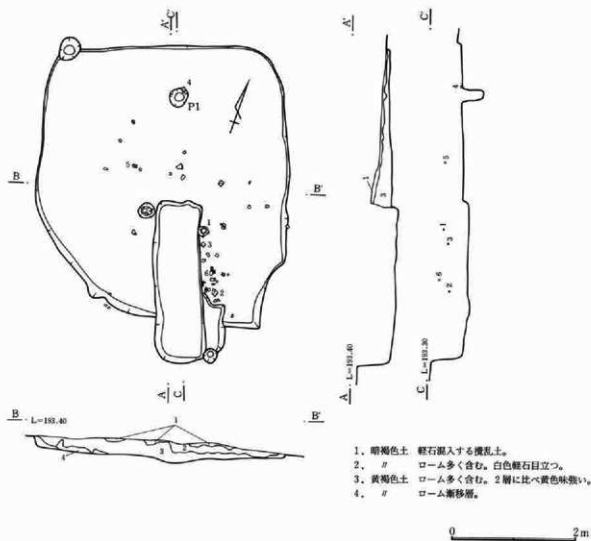
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	器 高 (cm)	胎 土 焼 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 甕	+7	15.7	15.2	小織含む 普通	暗褐色	外 口縁部横撫で 胴部蔑削り 内 口縁部横撫で 胴部蔑撫で	
2	土師器 坏	+42	11.8	3.9		褐色	外 口縁部横撫で 体部蔑削り 内 口縁部撫で 体部撫で	定形
3	石器 砥石	+4	長さ21.6cm, 幅10.9cm, 厚さ4.7cm, 重さ1192g。石材は牛伏砂岩。両面、両側縁を使用。比較的大きな凹穴が見られる。火を受けている。					
4	滑石製 品	+9	白玉。径1.5cm, 厚さ0.3cm, 孔径0.35cm, 重さ0.8g。側面に研磨痕。薄手の作り。破損品。					
5	滑石製 品	+11	白玉。径1.55cm, 厚さ0.6cm, 孔径0.35cm, 重さ1.1g。側面に研磨痕。厚さにむらがある。破損品。					

108号住居跡 (第180・181図、PL19)

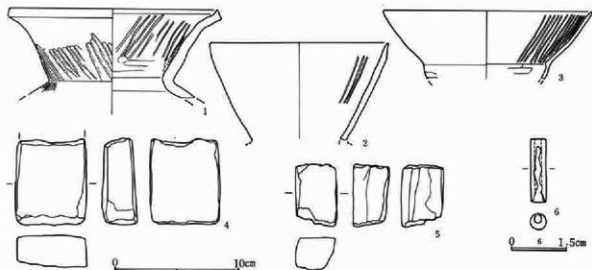
Q-8グリッドに位置する。時代的には古墳時代前期に比定される。住居跡としたが、その不明瞭さからやや疑問も残る。形状は瓢丸長方形と思われるが各辺は明確には検出できなかった。ことに南側部分については確認できなかった。また住居の南には平安時代の長方形土坑が重複している。床面、いわゆる生活面は明確には検出できなかった。凹凸が顕著で、中央部がややくぼんでいる。柱穴、炉などは確認できなかった。

出土遺物は少ない、住居のやや南に寄った部分で、甕の口縁部および底部、埴形土器の小破片などが出土している。このほか碧玉製管玉が1点出土している。

第3章 検出された遺構と遺物



第180図 108号住居跡



第181図 108号住居跡出土遺物

108号住居跡出土遺物観察表

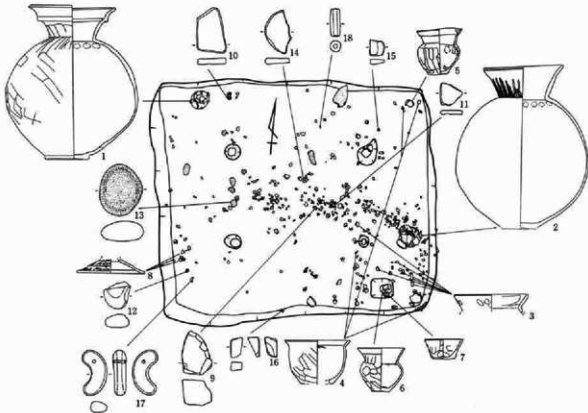
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	器 高 底高 (cm)	胎 土 焼 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師師 壺	+39	17.2		砂粒含む 良	明褐色	外 口縁部横線で 縦磨き 内 口縁部横線で 縦磨き	口縁部のみ
2	土師師 埴 壇	+28	(14.4)		砂粒含む 良	明褐色	内外面縦磨き	口縁部片
3	土師師 埴 壇	+32	(17.6)		微砂粒含む 良	灰褐色	外 口縁部横線で 縦磨き 内 口縁部横線で 縦磨き	口縁部片
4	砥 石	ピット内	長さ7.2cm、幅5.9cm、厚さ2.5cm、重さ158g。				石材は砥沢石。全面を使用。破損品。	
5	砥 石	+27	長さ4.85cm、幅3.4cm、厚さ2.55cm、重さ60g。				石材は砥沢石。棒状の礫を利用。使用面は一面。破損品。	
6	管 玉	+44	長さ1.7cm、径0.4cm、孔径0.15cm、重さ0.4g。				石材は珪質凝灰岩。やや小形形で穿孔が偏ったために、一部破損している。	

## 117号住居跡 (第182～185図、PL20・21)

R-9グリッドに位置する。古墳時代初期の住居跡である。東西にやや長い長方形を呈し、四隅は丸みを持つ、各壁はほぼ垂直に立ち上がる。柱穴は4本対角線上に検出された。径15cm程で深さは30cmである。

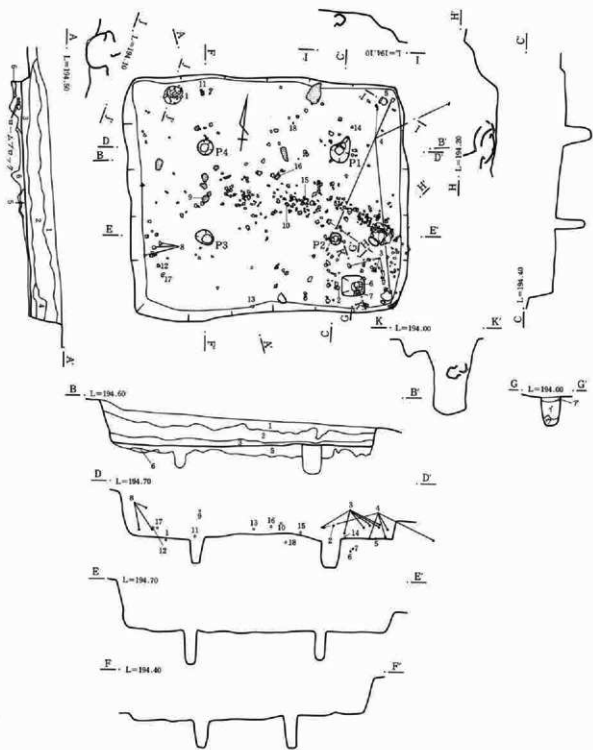
炉跡は中央北寄りに川原石が置かれ、炭化物が周辺部に僅かながら認められたが、焼土は殆ど確認されていない。貯蔵穴と考えられる掘り込みが南東隅に見られる。

出土遺物は完形の壺型土器2点(内1点は二重口縁)、小型の壺2点のほか破片多数が出土している。また特殊遺物としてはヒスイ製の大型勾玉、凝灰岩製の管玉が出土している。



第182図 117号住居跡遺物出土状態

第3章 検出された遺構と遺物

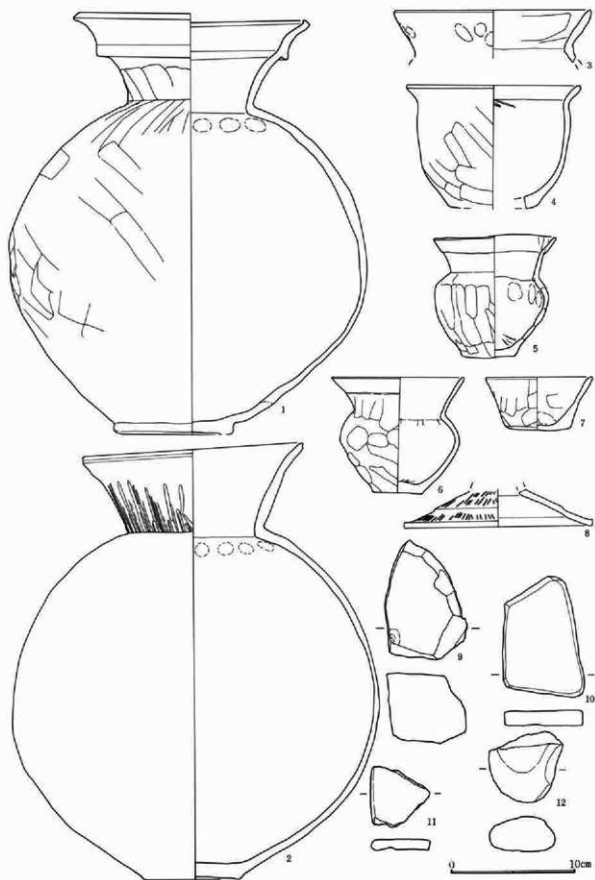


- |         |                      |           |               |
|---------|----------------------|-----------|---------------|
| 1. 黒褐色土 | 汚れたロームブロックを塊状に含む。    | 貯蔵穴 (G-G) |               |
| 2. 暗褐色土 | ローム多く含み、粘性あり。        | ア. 黄褐色土   | ローム多く含み、粘性あり。 |
| 3. #    | 2層に似るが、ローム分多く粘性あり。   | イ. 暗褐色土   | # 若干の炭化物混入。   |
| 4. #    | ローム多く含み、2・3層より明るい色調。 | ウ. #      | # BP粒子混入。     |
| 5. #    | ローム小ブロック含み、黒色土を硬に含む。 |           |               |
| 6. 黄褐色土 | ローム主体とし、若干の黒色土混入。    |           |               |

0 2m

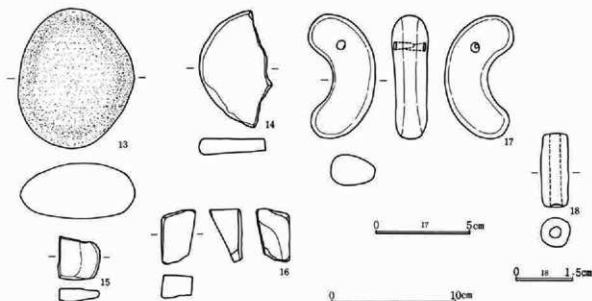
第183図 117号住居跡

第4節 古墳時代の住居跡と遺物



第184図 117号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物

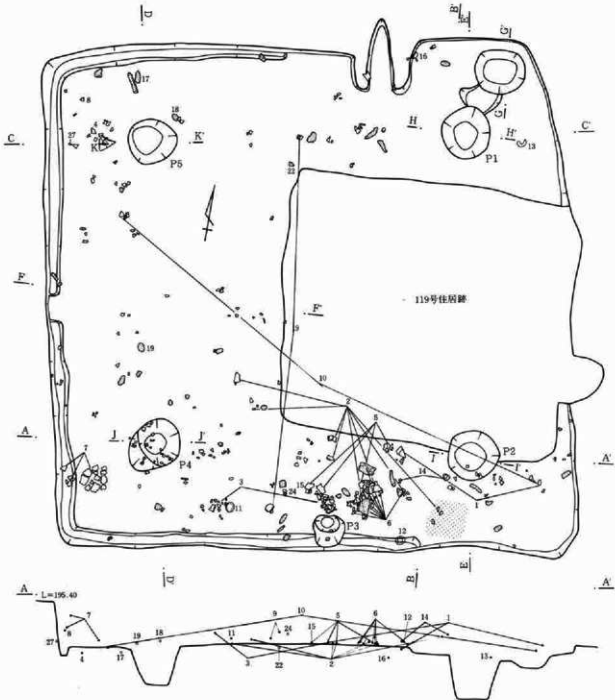


第185図 117号住居跡出土遺物(2)

117号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	器 高 (cm)	胎土 焼 成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 壺	貯蔵穴	18.3 9.4	33.5	砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横撫で 胴部刺毛目状発削り 内 口縁部横撫で 胴部発削り	二重口縁 宛形
2	土師器 壺	+18	17.4 7.5	34.4	微砂粒含む 良	黄白色	外 口縁部横撫で 胴部発削り 内 口縁部横撫で 胴部発削り	宛形
3	土師器 壺	床面	15.7		微砂粒含む 良	明褐色	外 口縁部横撫で 胴部発削り 内 口縁部横撫で 胴部発削りおよび削り	頸部~口縁部
4	土師器 壺	+14	14.0	9.5	微砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横撫で 胴部発削り 内 口縁部横撫で 胴部発削り	
5	土師器 小型壺	床面	9.8 4.3	9.6	砂粒含む 良	明褐色	外 口縁部横撫で 胴部発削り 内 口縁部横撫で 胴部発削り	
6	土師器 小型壺	床面	10.6 4.0	9.0	砂粒含む 良	明褐色	外 口縁部横撫で 胴部発削り 内 口縁部横撫で 胴部発削り	外面剥落
7	土師器 鉢	貯蔵穴	8.6 4.5	4.1	微砂粒含む 良	明黄褐色	外 刺毛目状撫で 内 撫で	
8	土師器 高杯	+10	15.2		微砂粒含む 良	淡褐色	外 帯で発削り 内 横撫で	
9	砥石	+40	長さ9.2cm, 幅6.4cm, 厚さ5.4cm, 重さ334g。石材は牛伏砂岩。破損品。					
10	砥石	+15	長さ9.3cm, 幅6.6cm, 厚さ1.2cm, 重さ98g。石材は凝結質砂岩。板状の石を利用。使用面は磨きではない。					
11	砥石	床面	長さ4.5cm, 幅4.8cm, 厚さ0.9cm, 重さ20g。石材は牛伏砂岩。破損品。					
12	砥石	+14	長さ5.5cm, 幅5.8cm, 厚さ2.8cm重さ90g。石材は牛伏砂岩。					
13	磨石	+6	長さ10.9cm, 幅9.4cm, 厚さ4.3cm, 重さ637g。石材は朝飯山山岩。円盤を利用。					
14	砥石	床面	長さ9.2cm, 幅(4.0)cm, 厚さ1.3cm, 重さ68g。石材は砂岩。板状の一面を使用。縁辺部を丸く仕上げている。					
15	砥石	+2	長さ3.3cm, 幅3.2cm, 厚さ1.0cm, 重さ14g。石材は牛伏砂岩。一面使用。破損品。					
16	砥石	+10	長さ3.8cm, 幅2.5cm, 厚さ2.4cm, 重さ30g。石材は砂岩。三面使用。使用面は磨らな。					
17	勾玉	+15	大形品。長さ6.4cm, 幅3.5cm, 厚さ1.9cm, 重さ69.1g。翡翠製。かなり丁寧に磨かれている。穿孔は両側より行われているが、中央でずれが見られる。色調は薄い緑白色を呈す。					
18	管玉	床面	長さ2.0cm, 径0.75cm, 孔径0.35cm, 重さ1.1g。石材は凝灰岩か。両端はやや磨り減って丸味を帯びる。表面はかなり風化している。					





1. 黄褐色土 ローム粒子、ブロックを斑に混入し纏る。
2. # ロームブロック斑に混入、やや軟質。
3. 暗褐色土 汚れたロームと若干の炭化物含み、粘性を持つ。

貯蔵穴 (G-G)

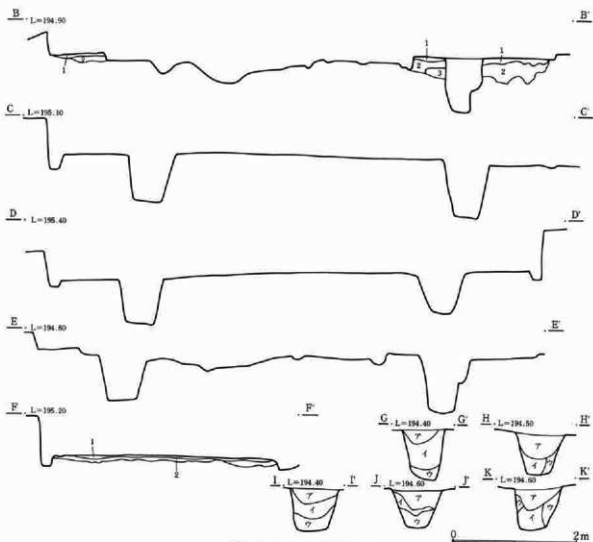
- ア. 暗褐色土 細粒のロームを多く含み、若干の炭化物を含む。
- イ. # ロームブロック少量含み、炭化物少量含む。
- ウ. 淡黄褐色土 ローム粒子 (B P) を混入し、ざらつく。

柱穴 (P1~4)

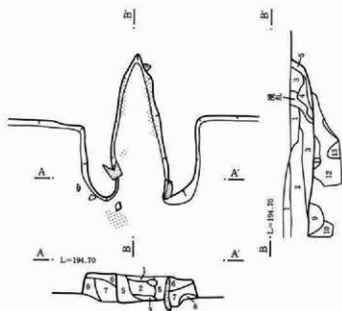
- ア. 暗褐色土 焼土粒、軽石粒混入する。
- イ. # ア層を基調とするが、炭化物を極少量含む。
- ウ. 明褐色土 ロームブロック、粒子多く含む。

0 2m

第186図 120号住居跡(1)



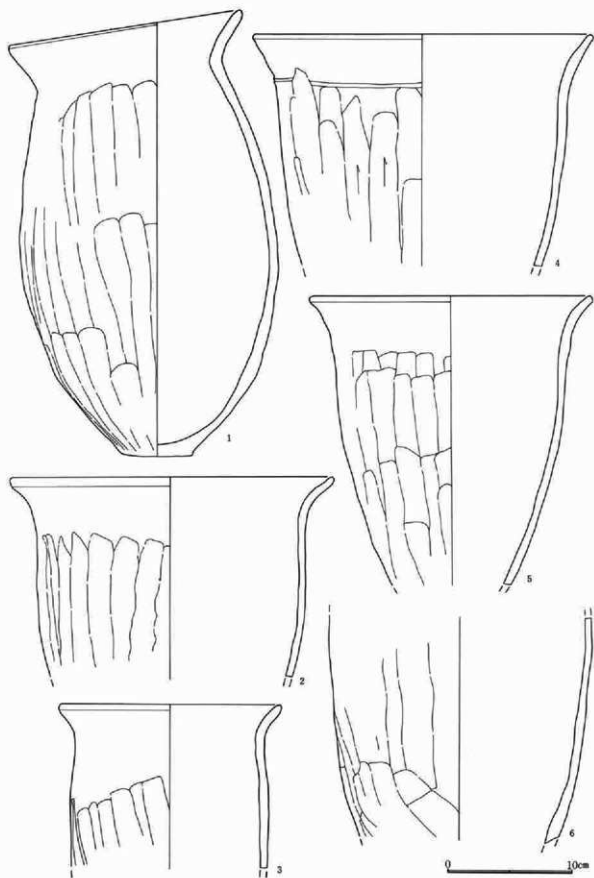
第187図 120号住居跡(2)



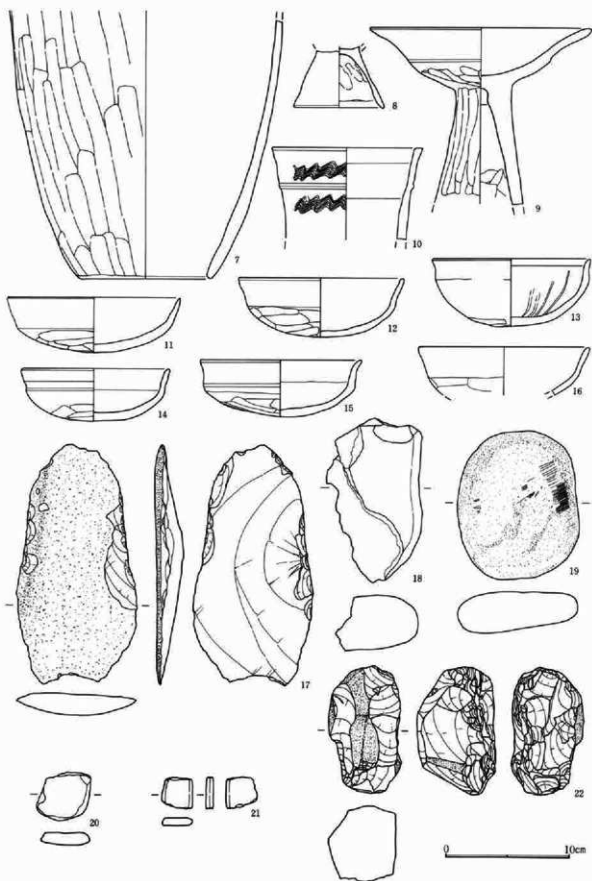
第188図 120号住居跡竈

竈

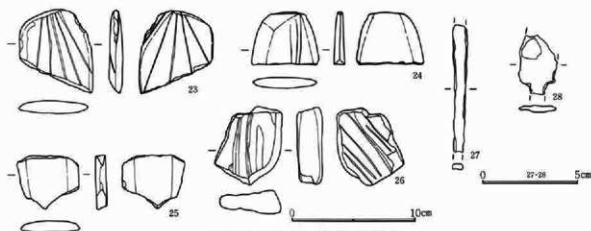
1. 黒褐色土 焼土粒、軽石粒混入する。
2. # 1層を基調とするが、ローム分やや多く粘性ある。
3. 暗褐色土 粘性ロームブロック、炭化物、焼土粒多く混入。
4. 赤褐色土 焼土ブロック。
5. 暗褐色土 3層に似るが、粒子細かく、粘性強い。
6. 黒褐色土 軽石混入。やや焼土含む。
7. 暗褐色土 焼土ごく少量含む、均質。
8. # ローム多く含む、細粒。
9. # ローム粒子多く含む、やや粗粒。
10. # 9層に似るが、ブロック状にローム含む。
11. 赤褐色土 焼土をブロック状に含む。
12. 暗褐色土 焼土粒、ロームブロックの混入。
13. 黄色土 黄色ローム主体とし、若干の黒色土混入する。



第189図 120号住居跡出土遺物(1)



第190図 120号住居跡出土遺物(2)



第191図 120号住居跡出土遺物(3)

## 120号住居跡 (第186~191図、PL21・22)

S-7グリッドに位置する。大形の住居跡である。119号住居跡が重複する。平面形状は正方形を呈し、規模は7.9m×7.9mで壁高は最大で約70cmである。傾斜地に位置しているために東壁の残りは悪い。床面は平坦で、比較的固く締まっている。貯蔵穴は円形で北東隅に検出された。竈は袖部分がやや開くような形に住居内に張り出し、両側端部には袖石が見られる。煙道部の住居外への掘り出しは少ない。出土遺物は、甕、坏、高坏などである。

## 120号住居跡出土遺物観察表

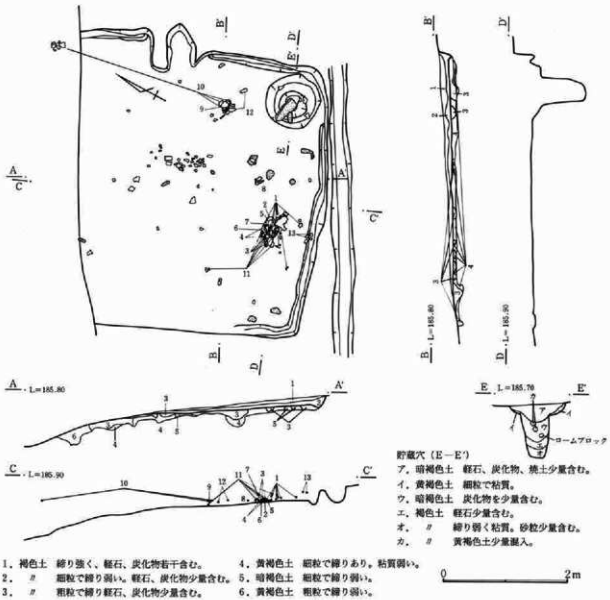
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	器 高 (cm)	胎土 色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	床面	18.6 5.8	35.7	砂粒含む 普通 淡褐色	外 口縁部横線で 胴部窪削り 内 口縁部横線で 胴部窪削り	
2	土師器 甕	床面	26.2		砂粒含む 良 橙褐色	外 口縁部横線で 胴部窪削り 内 口縁部横線で 胴部窪削り	下半部欠
3	土師器 甕	+2	18.0		石粒含む 普通 淡褐色	外 口縁部横線で 胴部窪削り 内 口縁部横線で 胴部窪削り	
4	土師器 甕	床面	27.45		砂粒含む 良 橙褐色	外 口縁部横線で 胴部窪削り 内 口縁部横線で 胴部窪削り	
5	土師器 甕	床面	22.35		砂粒含む 良 淡褐色	外 口縁部横線で 胴部窪削り 内 口縁部横線で 胴部窪削り	
6	土師器 甕	+2			砂粒含む 良 橙褐色	外 胴部窪削り 内 胴部窪削り	
7	土師器 甕	+9	10.5		砂粒含む 良 橙褐色	外 胴部窪削り 内 胴部窪削り	上半部欠
8	土師器 台付甕	+15	7.3		微砂粒含む 良 黄褐色	外 甕で 内 甕で	脚台部のみ
9	土師器 高坏	+9	17.85		微砂粒含む 良 淡黄褐色	外 口縁部横線で 坏・胴部窪削り 内 甕で	
10	須恵器 長頸甕	灰面	(12.2)		微砂粒含む 良 灰色	横線で 断面三角の縁帯、波状文2段	口縁部片
11	土師器 坏	+9	13.8	4.3	砂粒含む 良 橙褐色	外 口縁部横線で 体部窪削り 内 口縁部横線で 体部窪削り	完形
12	土師器 坏	+8	13.3	4.6	砂粒含む 良 橙褐色	外 口縁部横線で 体部窪削り 内 口縁部横線で 体部窪削り	完形
13	土師器 坏	+4	12.8	5.3	精製 良 淡黄褐色	外 口縁部横線で 体部窪削り 内 口縁部横線で 体部窪削り	
14	土師器 坏	+7	11.9	4.1	微砂粒含む 良 橙褐色	外 口縁部横線で 体部窪削り 内 口縁部横線で 体部窪削り	
15	土師器 坏	+2	13.1	4.45	砂粒含む 良 淡褐色	外 口縁部横線で 体部窪削り 内 口縁部横線で 体部窪削り	

### 第3章 検出された遺構と遺物

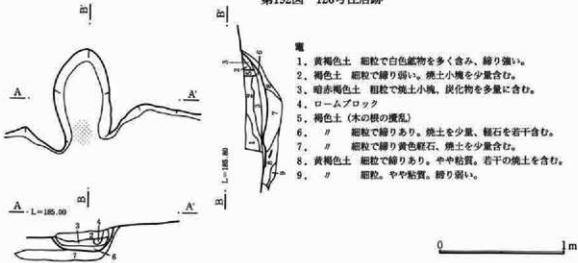
16	土師器 坏	床面	13.8	砂粒含む 灰	橙褐色	外 内	口縁部横線で 口縁部横線で	体部縦溝り 体部横で
17	石 兼	床面	長さ18.0cm、幅1.6cm、厚さ9.6cm、重さ410g。					
18	台 石	+7	長さ12.9cm、幅4.2cm、厚さ7.4cm、重さ381g。					石材は実質安山岩。一面に自然面を大きく残す、先端部僅かに欠損。
19	磨 石	+4	長さ11.6cm、幅10.0cm、厚さ3.2cm、重さ569g。					石材は安輝緑石。やや偏平な礫を利用。
20	砥 石	覆土	長さ3.8cm、幅4.1cm、厚さ1.0cm、重さ20g。					石材は牛伏砂岩。平たい礫を利用。使用面は一面。
21	砥 石	覆土	長さ2.4cm、幅2.5cm、厚さ0.6cm、重さ5g。					石材は牛伏砂岩。偏平で縁辺部は丸味を持つ。
22	礫 核	床面	長さ10.0cm、幅5.7cm、厚さ5.9cm、重さ465g。					石材は細粒安山岩。自然面は平滑。ほぼ全面から剝離している。
23	砥 石	覆土	長さ5.7cm、幅5.8cm、厚さ1.0cm、重さ36g。					石材は牛伏砂岩。偏平で縁辺部は薄くなる。両面に縁部から放射状に条線が走る。
24	砥 石	+15	長さ4.1cm、幅0.75cm、厚さ5.3cm、重さ19g。					石材は砂岩。偏平で縁辺部は薄くなる。
25	砥 石	覆土	長さ4.2cm、幅5.0cm、厚さ0.8cm、重さ19g。					石材は牛伏砂岩。偏平で縁辺部は薄くなる。
26	砥 石	覆土	長さ6.0cm、幅5.0cm、厚さ2.0cm、重さ59g。					石材は牛伏砂岩。二面を使用、刃研溝が見られる。
27	鉄製品	+7	刀子。長さ6.7cm、幅0.8cm、厚さ0.3cm、重さ3.8g。					両端部を欠く。
28	鉄製品	覆土	鉄鏃?。長さ3.05cm、幅2.1cm、厚さ0.3cm、重さ2.9g。					偏平で基部、先端部を欠く。

#### 126号住居跡 (第192～194図、PL22)

T-27グリッドに位置する。北部分がかなり削られている。長方形を呈すと思われる、推定規模は4.7m×(4.0)mである。壁は垂直に立ち上がる、高さは約20cmである。床面は比較的固く締まるが、北部分は荒れている。貯蔵穴は南東隅にあり、摺鉢状を呈す。竈は東壁に作られ、馬蹄形を呈す、袖部は比較的残っているが上部はかなり失われている。出土遺物は甕、坏などである。

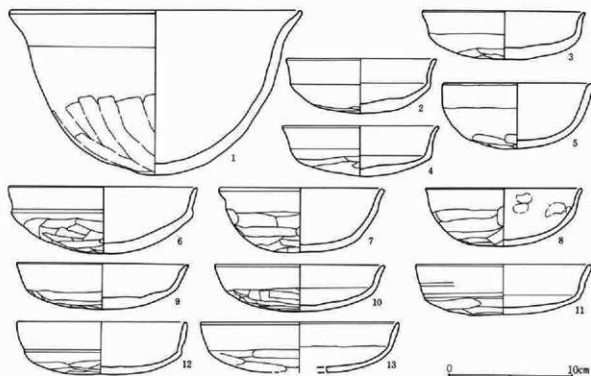


第192図 126号住居跡



第193図 126号住居跡竈

第3章 検出された遺構と遺物



第194図 126号住居跡出土遺物

126号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径	口径 高	胎土 色調	成・整形の特徴	備考	
1	土師器 鉢	+3	23.5	12.8	礫含む 普通 茶褐色	外 口縁部横線で 内 口縁部横線で	胴部窪削り 胴部窪削り	
2	土師器 坏	+2	12.0	4.3	微砂粒含む 良 褐色	外 口縁部横線で 内 口縁部横線で	体部窪削り 体部横で	完形
3	土師器 坏	+4	13.1	3.8	微砂粒含む 良 淡褐色	外 口縁部横線で 内 口縁部横線で	体部窪削り 体部横で	
4	土師器 坏	+2	12.5	3.9	礫を混入 普通 淡褐色	外 口縁部横線で 内 口縁部横線で	体部窪削り 体部横で	
5	土師器 坏	+3	12.0	5.1	礫を混入 普通 灰黄褐色	外 口縁部横線で 内 口縁部横線で	体部窪削り 体部横で	粗雑な作りで歪みをもつ
6	土師器 坏	+2	15.0	5.2	微砂粒含む 良 褐色	外 口縁部横線で 内 口縁部横線で	体部窪削り 体部横で	完形
7	土師器 坏	+4	13.2	5.0	礫を含む 普通 淡黄褐色	外 口縁部横線で 内 口縁部横線で	体部窪削り 体部横で	粗雑な作り
8	土師器 坏	+6	12.5	4.5	礫を含む 普通 黒色	外 口縁部横線で 内 口縁部横線で	体部窪削り 体部横で	粗雑な作り
9	土師器 坏	+7	13.8	3.6	砂粒含む 良 赤褐色	外 口縁部横線で 内 口縁部横線で	体部窪削り 体部横で	
10	土師器 坏	+8	13.7	3.7	砂粒含む 良 淡褐色	外 口縁部横線で 内 口縁部横線で	体部窪削り 体部横で	
11	土師器 坏	床面	14.1	3.9	砂粒含む 良 にぶい褐色	外 口縁部横線で 内 口縁部横線で	体部窪削り 体部横で	
12	土師器 坏	+5	13.7	4.1	砂粒含む 良 にぶい褐色	外 口縁部横線で 内 口縁部横線で	体部窪削り 体部横で	
13	土師器 坏	+12	16.0		砂粒含む 良 にぶい褐色	外 口縁部横線で 内 口縁部横線で	体部窪削り 体部横で	

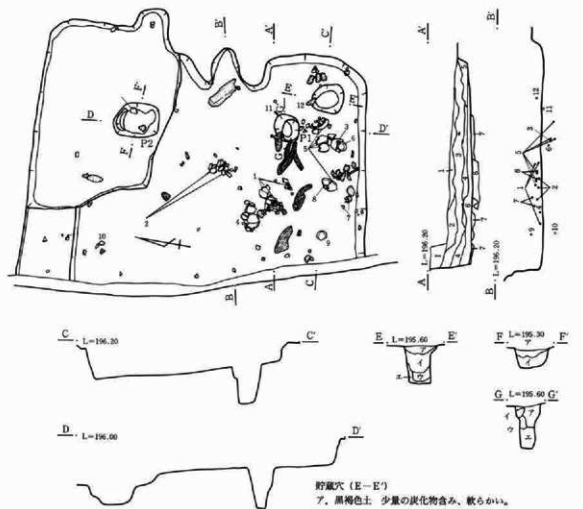
143号住居跡 (第195～199図、PL23)

T-8グリッドに位置する。137号住居跡が北東部分に重複し、また西側3分の1程は道路下に入り込んで



いるために未調査である。形状は方形を呈すと思われ、推定規模は4.7m×(3.4)mである。壁は南壁部で約30cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。床面はかなり凹凸を持ち、中央部が僅かに下がっている。貯蔵穴は南東隅に在り、円形で掘方もしっかりしている。柱穴は2本確認された。

竈は東壁に作られ、袖はほとんど残らず、燃燒部は馬蹄形に壁外に掘り出されている。焚口天井部にに渡されていたと思われる平石が落ちた状態で出土している。出土遺物は甕、鉢、環類などである。



1. 黄褐色土 細粒だが締り弱い。ロームブロックを含む。
2. 褐色土 細粒で締り弱く、やや粘質。炭粒を若干含む。
3. 暗褐色土 細粒だが締り弱い。炭を多く含む。
4. # 3層とほぼ同質だがやや色が暗く、炭の量が多い。
5. 赤褐色土 灰褐色粘土塊、炭土塊多含。粘質。焼土多量の為、全体に赤褐色呈す
6. 黒褐色土 炭化物多く含み、ロームブロックを混入。
7. 暗褐色土 ローム分多く含み、軟質。
8. # 7層と似るが、若干の炭化物含み、やや黒味帯びる。

貯蔵穴 (E-E')

- ア、黒褐色土 少量の炭化物含み、軟らかい。  
 イ、# ア層に似るが、ロームブロック含み、粘性あり。  
 ウ、# ローム多く含み、粘性強い。  
 エ、黄褐色土 地山ローム多く混入し、粘性強い。

柱穴 (P1)

- ア、黄褐色土 ローム粒子、炭化物混入。  
 イ、# ロームブロック主体とする。  
 ウ、# ローム多く含み、粒子均一。  
 エ、# ローム多く含み、粘性強い。

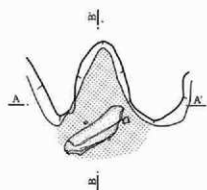
柱穴 (P2)

- ア、黒褐色土 ロームを若干含み、ごく少量の炭化粒子混入。  
 イ、# ロームを少量混入し、やや粘性あり。

0 2m

第195図 143号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



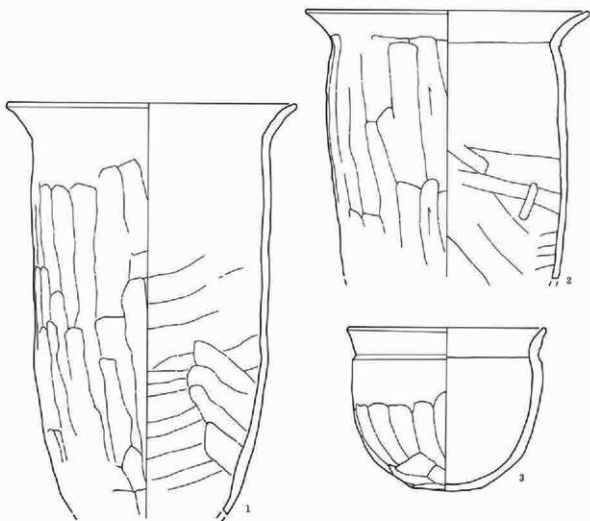
竈

1. 暗褐色土 ローム多く含み、細粒。
2. # ローム、粘土ブロック若干含む。
3. 橙褐色土 ローム、焼土粒、灰を多量に混入。
4. 淡褐色土 ローム多く含み、若干の焼土粒混入。



0 1m

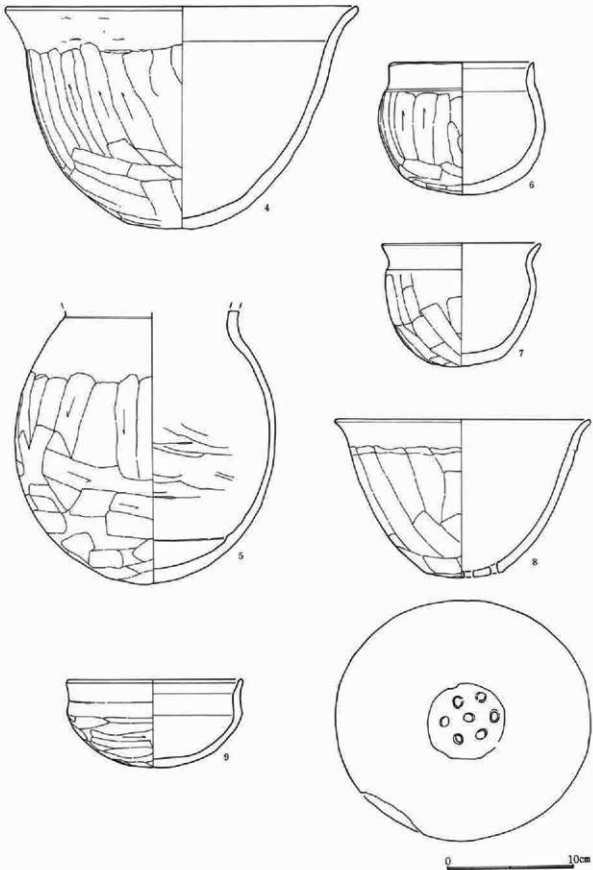
第196図 143号住居跡竈



0 10cm

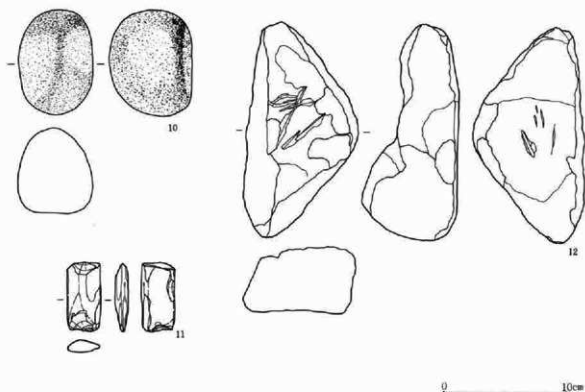
第197図 143号住居跡出土遺物(1)

第4節 古墳時代の住居跡と遺物



第198図 143号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



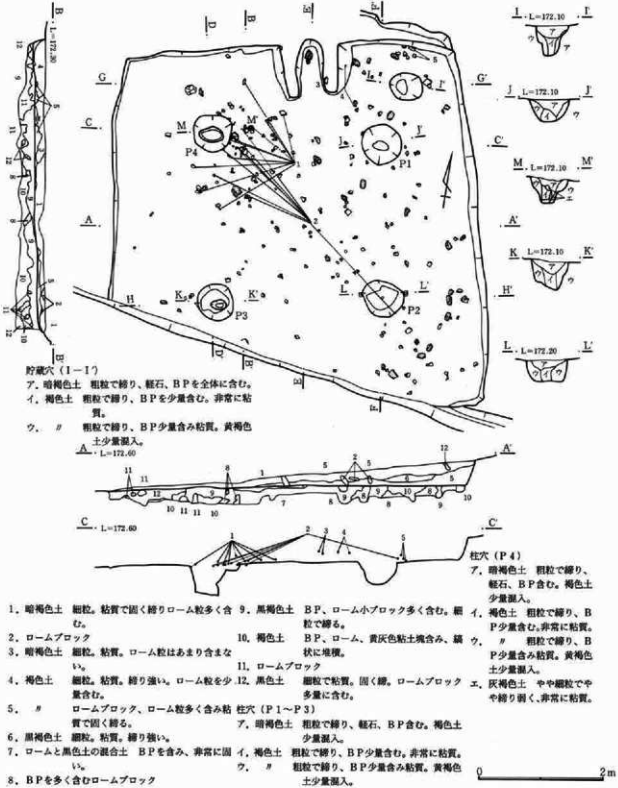
第199図 143号住居跡出土遺物(3)

143号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 器 高 底径 (cm)	胎 土 色 調 成	成・形状の特徴	備 考	
1	土師器 壺	+5	23.0	砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部直削り	
2	土師器 壺	+3	22.4	砂粒含む 良	暗茶褐色	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部直削り	
3	土師器 小型壺	床面	16.0 12.8	砂粒含む 良	茶褐色	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部直削り	
4	土師器 鉢	+3	28.5 17.4	砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部直削り	
5	土師器 壺	床面		微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部直削り	
6	土師器 小型壺	床面	11.5 10.3	微砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部直削り	完形
7	土師器 小型壺	+12	12.7 9.6	砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部直削り	
8	土師器 甗	+8	20.1 12.6 6.1	砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部直削り	底部?穴
9	土師器 坏	+18	14.2 6.9	砂粒含む 良	淡茶褐色	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部直削り	
10	磨 石	床面	長さ8.2cm, 幅5.9cm, 厚さ6.7cm, 重さ459g。			石材はアイサイト。内側を利用、一端が平坦をなす。	
11	磨製石 器	床面	長さ6.6cm, 幅2.8cm, 厚さ1.0cm, 重さ24g。石材は緑色変岩。やや中央部の膨れた棒状を呈す、両側縁は磨かれている。未製品か。				
12	砥 石	+9	長さ16.9cm, 幅9.3cm, 厚さ7.7cm, 重さ775g。			石材は牛伏砂岩?不定形で、三面使用、一面はV字状にへこみ、刃研溝見られる。	

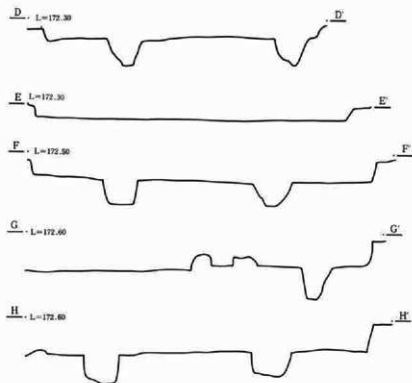
159号住居跡 (第200~203図、PL23)

F-27グリッドに位置する。一部分道路に掛かり未調査である。方形を呈し、規模は5.8m×5.5mである。壁高は遺存状態の良い東壁で約20cmを測る。床面は平坦で、比較的締まる。貯蔵穴は北東隅に検出。柱穴は対角線上に4本検出されている。竈は北壁にあり袖は壁内に張り出す。出土遺物は壺、坏類が中心である。

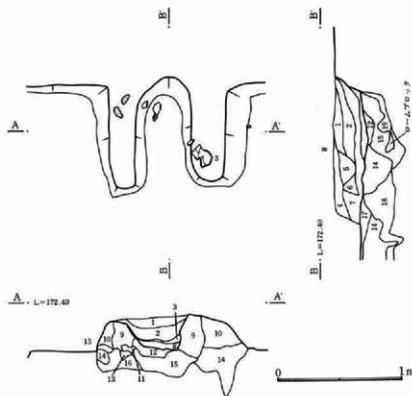


第200図 159号住居跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第201図 159号住居跡(2)

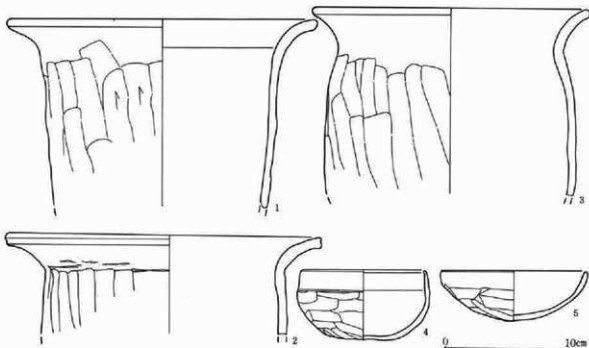


第202図 159号住居跡竈

0 2m

竈

1. 黒褐色土 細粒。粘質。固く締る。灰白色粘土多く含む。
2. 暗褐色土 細粒。灰白色粘土、焼土を少量含む。
3. 暗赤褐色土 粗粒。焼土小塊、灰を多く含む。
4. 暗褐色土 粗粒。固く締っている。
5. 灰白色粘土 褐色土を多少含む。
6. 黒褐色土 細粒。粘質。締り弱い。
7. 褐色土 ロームの大ブロック含む。粗粒で締り弱い。
8. 焼土 灰白色粘土小塊を含む。
9. 黒灰色粘質土 焼土小塊を多く含む。
10. 黒灰色粘質と黒褐色土の混合土
11. 黄褐色土 B P 軽石を多く含む。
12. 黒褐色土 焼土小塊、灰白色粘土を少量含む。
13. 褐色土 粘質で固い。
14. 黒褐色土とロームの混合土
15. 粘土、焼土、ロームの混合土 全体的に暗褐色を呈す。
16. ローム、B P 層土の粗粒ローム
17. 14層と同様な混合土だが、全体的に黒っぽい。
18. 14層と同様な混合土 ローム多く全体的に黄色っぽい。
19. 黄褐色土 黒褐色土のブロックを含む。(混合土)



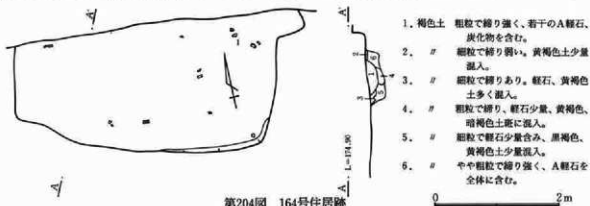
第203図 159号住居跡出土遺物

159号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・形状の特徴	備考
1	土師器 甕	床面	24.8		砂粒含む 良	茶褐色	外 口縁部横溝で 胴部寛削り 内 口縁部横溝で 胴部寛削り	
2	土師器 甕	床面	25.4		砂粒含む 良	茶褐色	外 口縁部横溝で 胴部寛削り 内 口縁部横溝で 胴部寛削り	
3	土師器 甕	+8	22.2		砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横溝で 胴部寛削り 内 口縁部横溝で 胴部寛削り	
4	土師器 埴	+12	10.0	5.5	微砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横溝で 体部寛削り 内 口縁部横溝で 体部寛削り	外面やや荒れている
5	土師器 杯	床面	11.8	4.0	微砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横溝で 体部寛削り 内 口縁部横溝で 体部寛削り	

164号住居跡 (第204・205図、PL23)

F-24グリッドに位置する。ほとんど削平されており、規模、形状は不明瞭である。壁高も1部で数cm確認できただけである。床面も明確にはつかめない。竈、その他の施設も検出されなかった。



第204図 164号住居跡



0 10cm

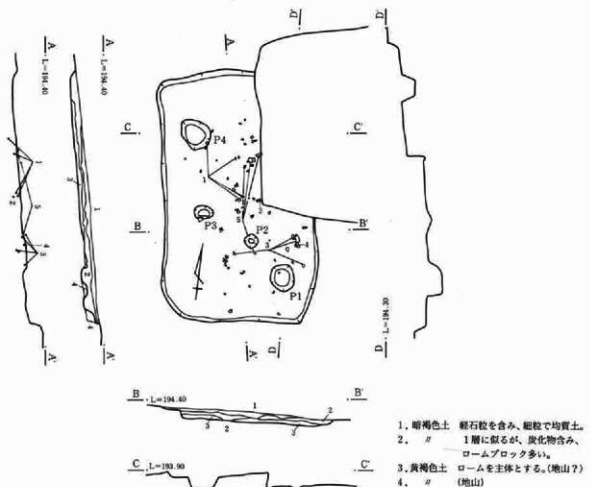
第205図 164号住居跡出土遺物

164号住居跡出土遺物観察表

図番号	図種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	高 度 (cm)	胎土 焼 成	色調	成・形状の特徴	備考
1	土師器 環	—	11.3	3.5	微砂粒含む 普通	暗褐色	外 口縁部横撫で 体部縦用り 内 口縁部横撫で 体部撫で	外面荒れている

169号住居跡 (第206・207図、PL23)

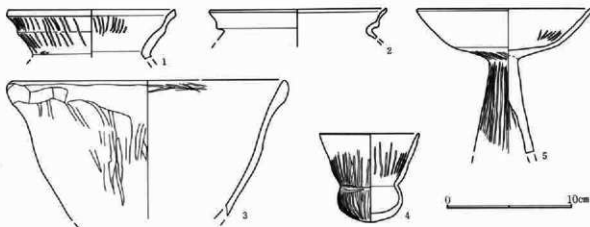
R-10グリッドに位置する。149号住居跡が東壁に重複している。長方形を呈し、規模は4.0m×2.4mである。壁は平均20cmを測り、床面はかなり固く締まり、中央部分がやや下がる。炉は明確なものは確認できなかった。出土遺物は壺、高環、埴型土器などである。古墳時代前期の住居跡である。



第206図 169号住居跡



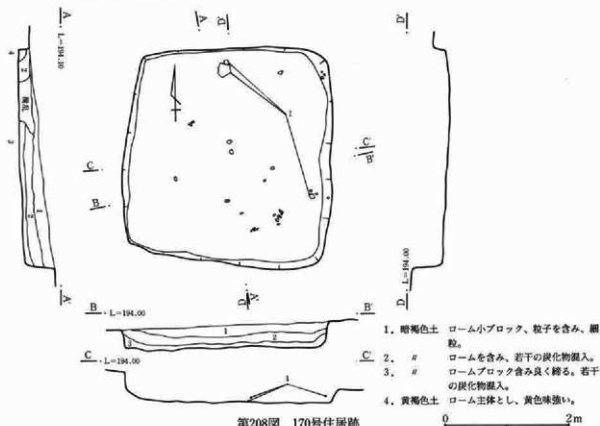
第4節 古墳時代の住居跡と遺物



第207図 169号住居跡出土遺物

169号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口・径 底径 (cm)	器高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 椀	床面		13.6		砂粒含む 良	淡褐色 外 口縁部横撫で後磨き 内 磨き	二段口縁
2	S字口 縁 壺	床面		14.4		微砂粒含む 良	淡黄褐色 口縁部横撫で	
3	土師器 鉢	床面		22.75		砂粒含む 良	淡黄褐色 外 口縁部横撫で 胴部磨き 内 口縁部横撫で 胴部磨き	
4	土師器 小型塔 高 杯	床面		8.1	6.9	微砂粒含む 良	淡褐色 外 縦磨き 内 指撫で後磨き	完形
5	土師器 高 杯	床面		14.1		微砂粒含む 良	茶褐色 外 口縁部横撫で 杯部、胴部磨き 内 口縁部横撫で 杯部、磨き	



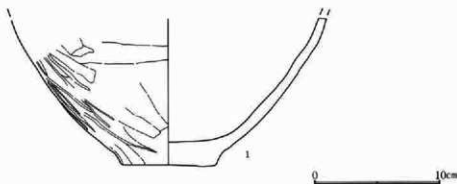
第208図 170号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 170号住居跡 (第208・209図、PL23)

R-10グリッドに位置する。ほぼ方形を呈し、規模は3.4m×3.3mである。壁高は20～30cmを測り、部分的に立ち上がりが明確でないところがある。床面は比較的平坦でしっかりしている。床面を調査したが炉は検出されなかった。

出土遺物は壺の胴下半部片と、小破片がわずかに見られたのみである。



第209図 170号住居跡出土遺物

#### 170号住居跡出土遺物観察表

図番号	副種	出土位置 (cm)	口 径 径 (cm)	器 高 (cm)	胎 土 成 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 壺	床面		7.6	砂粒含む 良	灰褐色	外 胴部無で後段磨き 内 胴部無熟で	胴下半部片

## 第5節 奈良・平安時代の住居跡と遺物

奈良・平安時代の住居跡は調査区内のほぼ全域においておよそ130軒が検出されている。軒数はⅢ区が最も多く集中している。奈良時代のもは数件と数は少なく、特にまとまって検出された場所もなかった。

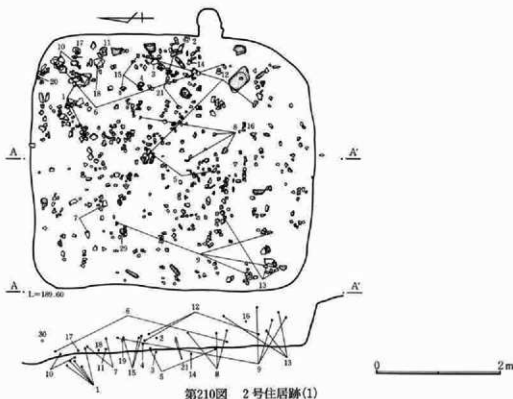
平安時代のものに関しては、Ⅰ区の西斜面部分で数件が重複して検出されており注目される。時期を見るとⅠ区の比較的高所部分に見られた一群がやや古い様相を示す。

住居の形状や規模は、前代のものに比較していずれも小形のもが主流となり、方形あるいは長方形を呈するものが多い。竈は東壁に作られているものが多く、河原石を組んで構築しているものも見られる。また、煙道部分に底部を欠いた臺を繋げて、煙道としているものが数例検出されている。

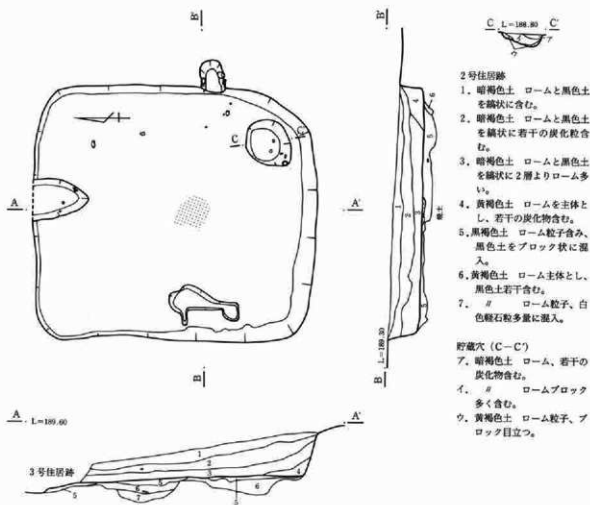
その他、構造的に特色あるものとしては、竈の両脇がテラス状に一段掘り下げた住居が、やはり数例検出されている。

## 2号住居跡 (第210～214図、PL24)

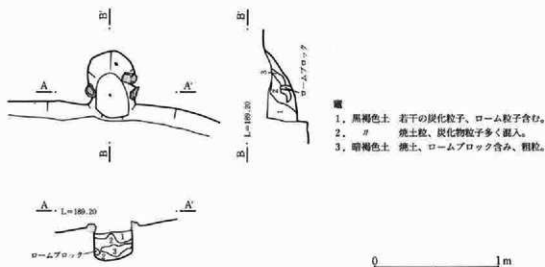
N-9グリッドに位置する。平面形は隅丸方形で、特に各コーナーの丸みが強い。規模は4.5m×4.0mである。北壁は遺存状況が悪く、3号住居跡の竈部分が重複する。壁は垂直に近い形に掘り込まれている。床面は平坦をなし中央部に径約30cmの範囲に焼土が認められる。柱穴は検出されず、貯蔵穴は南東隅に不定方形を呈し、深さ17cmで掘り込まれている。出土遺物は比較的多く、壺、坏、蓋類が検出されているが、覆土上層からのものが多い。竈は東壁中央やや南に寄った所に在り、焚口幅は約26cm、長さ55cmである。袖は殆ど確認されず、壁外への掘り出しも短い。竈内両側に河原石を立て掛けて使用している。掘り方は中央がやや高まり、周辺部が低くなっており、中央部には径80cm程の円形の床下土坑が見られる。



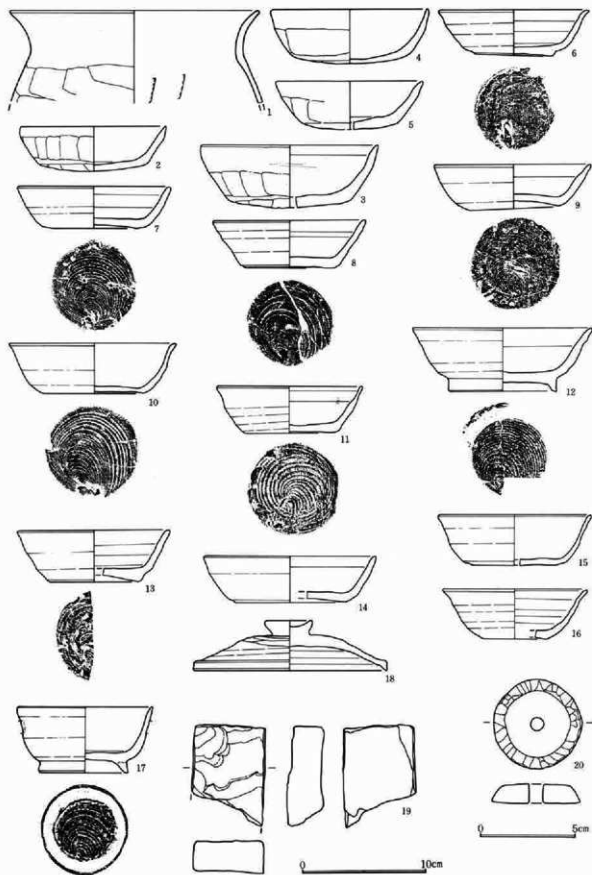
第210図 2号住居跡(1)



第211図 2号住居跡(2)

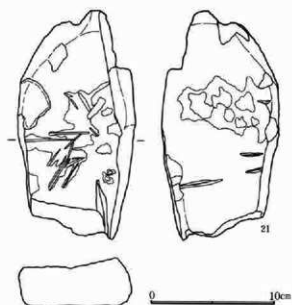


第212図 2号住居跡竈



第213図 2号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第214図 2号住居跡出土遺物(2)

2号住居跡出土遺物観察表

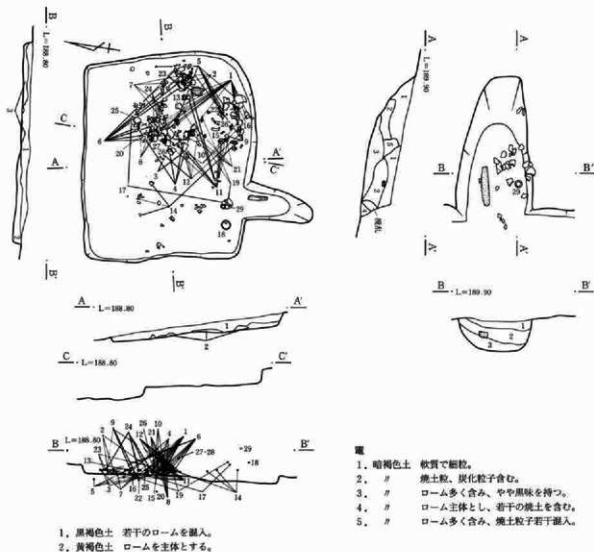
調査号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土 構成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 壺	床面		20.1	微砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 体部寛撫で	
2	土師器 環	+18	11.6	3.5	微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 体部寛削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
3	土師器 環	床面	(14.0)	5.0	細砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 体部寛削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
4	土師器 環	床面	12.6	4.3	微砂粒含む 普通	淡褐色	外 口縁部横撫で 体部寛削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
5	土師器 環	+11	(11.6)	3.8	微砂粒含む 普通	橙褐色	外 口縁部横撫で 体部寛削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
6	須恵器 環	+8	11.8 6.2	3.6	白色粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
7	須恵器 環	床面	12.2 7.1	3.3	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
8	須恵器 環	+22	(12.2) 7.2	3.8	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
9	須恵器 環	+22	12.4 7.0	3.3	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
10	須恵器 環	床面	13.0 7.3	4.1	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
11	須恵器 環	+5	(11.6) 7.4	3.7	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
12	須恵器 環	+15	(14.0) 8.4	5.0	細砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
13	須恵器 環	+24	(12.0) 7.6	4.1	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
14	須恵器 環	床面	(13.6) 9.0	3.7	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
15	須恵器	+18	(12.0) (6.8)	4.0	微砂粒含む 普通	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
16	須恵器 環	+40	(11.4) (5.0)	3.9	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
17	須恵器 環	+4	10.6 7.1	5.2	白色粒子含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	外面対に把手の欠落 痕有り

18	須恵器 蓋	+4	(15,4) つまみ3. #	4.0	細砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形 天井部回転置削り	
19	砥石	+22	長さ7.9cm, 幅2.7cm, 厚さ3.7cm, 重さ156g, 石材は牛伏砂岩, 四面平らで両面、側面を使用。				
20	紡錘車	+35	径4.7cm, 厚さ1.0cm, 重さ36.6g, 石材は蛇紋岩。				
21	砥石	+15	長さ18.0cm, 幅9.4cm, 厚さ3.7cm, 重さ770g, 石材は牛伏砂岩, 両面、側面を使用。表面は 打痕で見れる。				

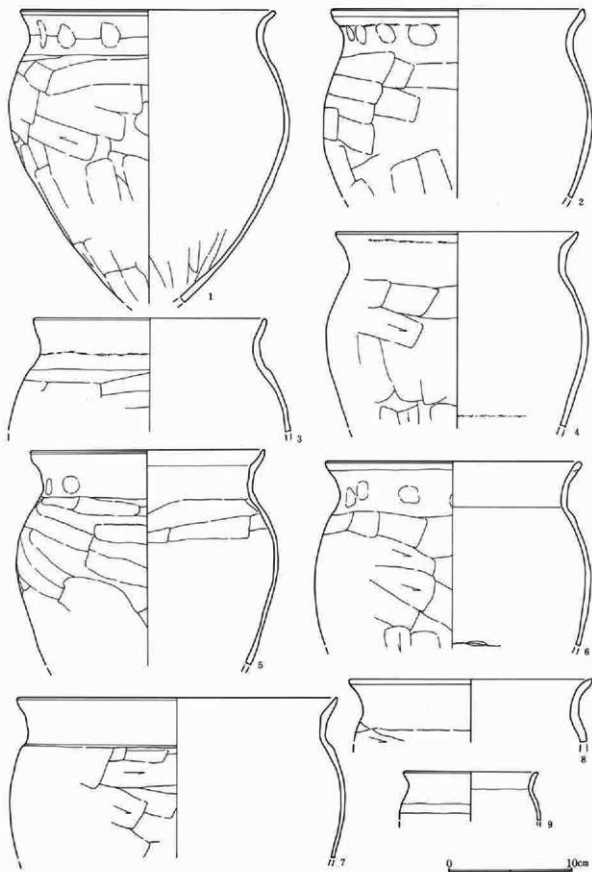
## 3号住居跡 (第215~218図, PL24)

M-9グリッドに位置する。規模3.2m×2.7mで隅丸方形を呈す、小形の住居跡である。壁はほとんど削られている。竈は先端部が2号住居跡に重複している。南壁中央部分に設けられており、規模は焚口幅40cm、奥行き70cmであるが上部はかなり削られた状況を示している。焼土は壁面、火床面にかかなり多く認められた。床面は面的な確認が難しかったが、若干堅く締まった部分が斑に見受けられた。

出土遺物は土器類の他、竈内から石製紡錘車が一点出土している。

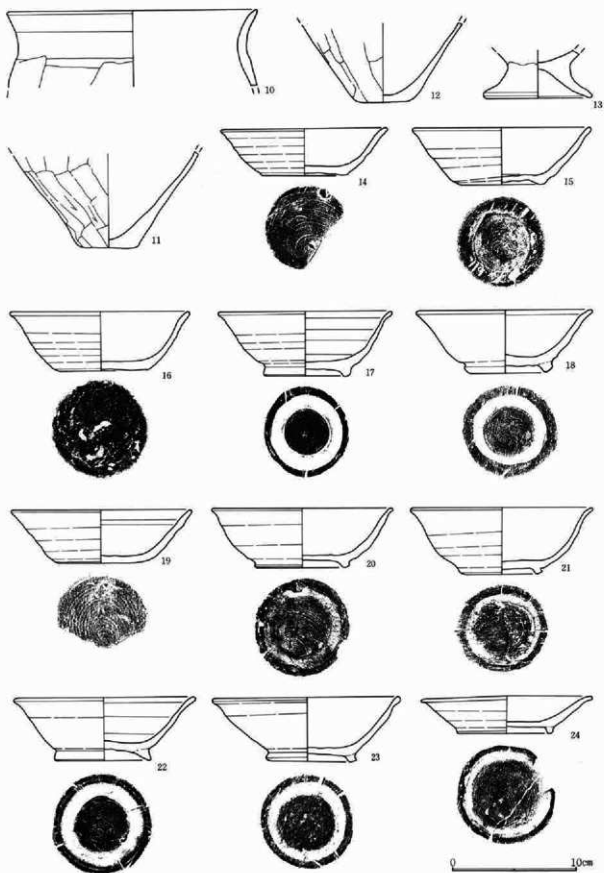


第215図 3号住居跡及び竈



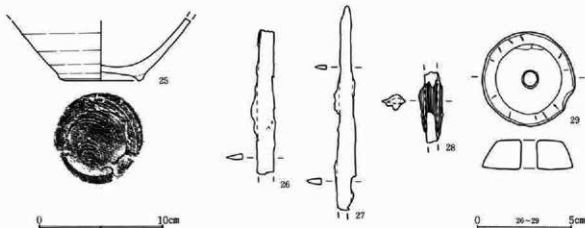
第216図 3号住居跡出土遺物(1)





第217図 3号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第218図 3号住居跡出土遺物(3)

3号住居跡出土遺物観察表

図番号	図種	出土位置 (cm)	口 径径(cm)	深 高	胎土 色調	成・形状の特徴	備考
1	土師器 甕	+3	20.1		微砂粒含む 暗赤褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 体部寛撫で	
2	土師器 甕	+4	20.5		微砂粒含む 橙褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 体部寛撫で	
3	土師器 甕	+5	18.4		微砂粒含む 明赤褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 体部寛撫で	
4	土師器 甕	+2	19.7		微砂粒含む 橙褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 体部寛撫で	
5	土師器 甕	床面	19.0		微砂粒含む 明赤褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 体部寛撫で	(木口板)
6	土師器 甕	床面	20.7		微砂粒含む 明赤褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 体部寛撫で	
7	土師器 甕	+4	25.9		微砂粒含む 明赤褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 体部寛撫で	
8	土師器 甕	床面	19.6		微砂粒含む 暗赤褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 体部寛撫で	
9	土師器 台付甕	床面	(10.6)		微砂粒含む 明褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 体部寛撫で	薄手作り
10	土師器 甕	+2	20.1		微砂粒含む 明褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 体部寛撫で	
11	土師器 甕	床面			微砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 体部寛撫で	底部片
12	土師器 甕	+4	4.5		微砂粒含む 淡褐色 良	外 胴部寛削り 内 体部寛撫で	底部片
13	土師器 台付甕	+5	8.5		微砂粒含む 暗赤褐色 良	外 横撫で 内 横撫で	台部のみ
14	須恵器 坏	+8	13.2 5.8	3.7	微砂粒含む 灰黒色 普通	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
15	須恵器 坏	床面	14.2 6.9	4.4	微砂粒含む 茶褐色 普通	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	酸化焙焼成
16	須恵器 坏	床面	14.2 7.2	4.8	砂礫含む 明茶褐色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 底部撫で調整	酸化焙焼成
17	須恵器 坏	床面	13.8 6.7	5.1	微砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
18	須恵器 坏	+30	13.8 7.0	5.0	微砂粒含む 暗赤褐色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	酸化焙焼成
19	須恵器 坏	+5	14.2 7.5	4.2	微砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
20	須恵器 坏	床面	(14.4) 7.4	4.7	微砂粒含む 暗赤褐色 普通	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	酸化焙焼成

21	須恵器 環	床面	14.4 6.6	5.2	微砂粒含む 灰黄色 普通	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り (右)	酸化焙焼成
22	須恵器 環	床面	14.4 7.5	5.0	微砂粒含む 黒色 普通	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り (右)	
23	須恵器 環	+5	(15.0) 7.2	5.0	微砂粒含む 褐灰色 普通	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り (右)	
24	須恵器 環	+2	13.4 7.5	3.2	細砂粒含む 灰黄色 良	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り (右)	酸化焙焼成
25	須恵器 環	床面	(6.6)		細砂粒含む 灰黄色 良	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り (右)	
26	鉄製品	+30	刀子。長さ7.5cm, 幅1.2cm, 厚さ0.4cm, 重さ7.9g, 先端部が折れている。					
27	鉄製品	+28	刀子。長さ10.5cm, 幅1.05cm, 厚さ0.4cm, 重さ7.0g, 細身で基部が折れている。					
28	鉄製品	+28	刀子。長さ3.6cm, 幅1.2cm, 厚さ0.7cm, 重さ2.7g, 基部、木質部が残る。					
29	紡錘車 甎		径4.9cm, 厚さ1.5cm, 重さ63.0g, 孔径0.8cm, 全体的にかなり摩耗している。石材は蛇紋岩。					

## 4号住居跡 (第219~221図, PL24)

M-9グリッドに位置する。北側半分は調査区外にあるために、調査が行えたのは南側半分である。

平面形は隅丸方形になると思われ、規模は4.2m×(1.7)mである。壁の高さは60cm程でやや斜めに掘り込まれている。西部分には幅約30cmのテラス状の中段を設けている。

床面は平坦であるが、壁際はやや高まりを持つ。あまり踏み締められた状況は見られない。

竈は東壁に作られているが、左袖部分は調査区外である。焚口幅は約50cm, 長さ80cmで煙道は緩やかに立ち上がる。内部はロームブロック、焼土を含む粘性を持った土で埋まる。

出土遺物は須恵器環が竈周辺で多く検出されている。

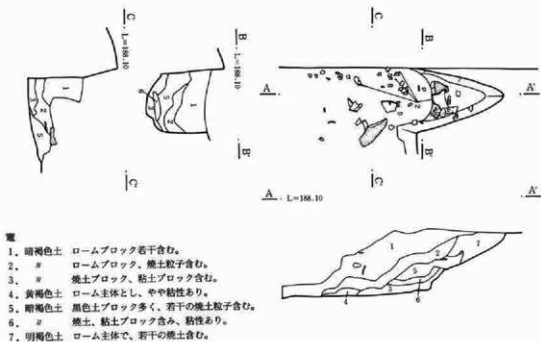
## 5号住居跡 (第222~225図, PL24)

N-12グリッドに位置し、隅丸方形を呈す。規模は3.1m×3.1mで、東壁北半分から竈の左半分にかけて近世の耕

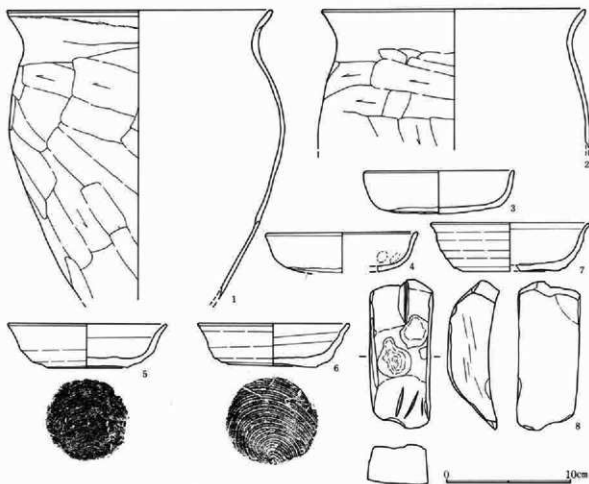


第219図 4号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第220図 4号住居跡電

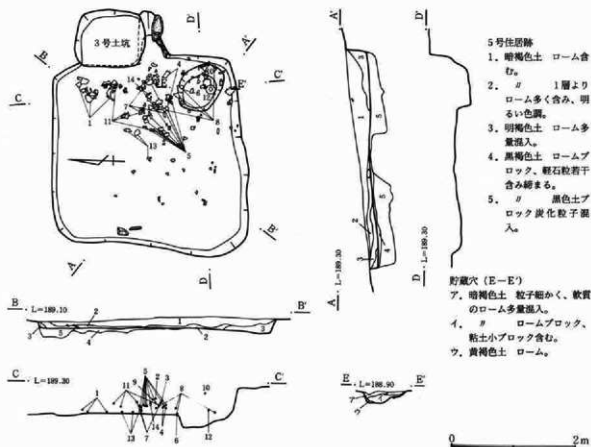


第221図 4号住居跡出土遺物

4号住居跡出土遺物観察表

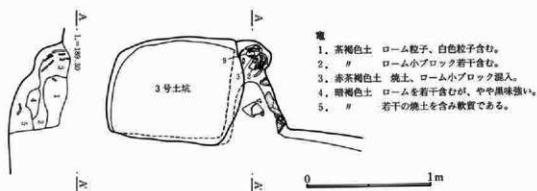
図番号	遺物	出土位置 (cm)	口 径径 (cm)	径 高 (cm)	胎 土 成 色 調	成・整形の特徴	備 考	
1	土師器 甕	+4	21.6		微砂粒含む 黄褐色 良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り		
2	土師器 甕		21.3		細砂粒含む 赤褐色 良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り		
3	土師器 杯	床面	12.1	3.3	微砂粒含む 赤褐色 良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り		
4	土師器 杯	床面	12.2		微砂粒含む 赤褐色 良	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り		
5	須恵器 杯	+10	(12.6) 6.6	3.5	砂粒含む 灰褐色 普通	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)		
6	須恵器 杯	+4	12.0 7.1	3.1	砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)		
7	須恵器 杯	+23	(12.6) (7.8)	3.8	砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)		
8	砥石	+23	長さ11.7cm, 幅4.9cm, 厚3.3cm, 重さ258g。石材は砥石。一面は薄曲、両端は斜めに掘り減る、刃ならし 溝。					

作穴で壊されている。各壁は20~40cmの高さが見られるが北西コーナー部分はかなり削平されており遺存状態は悪い。床面はやや凹凸があるもののがかなり平坦で、比較的踏み締められた状況が観察された。柱穴は見られず貯蔵穴が南東隅に掘り込まれている。甕は半分を失っていたが埋没状況は比較的明瞭に観察された。右側に河原石2個が立て掛けられており、煙出し部には甕の口縁部を転用している。



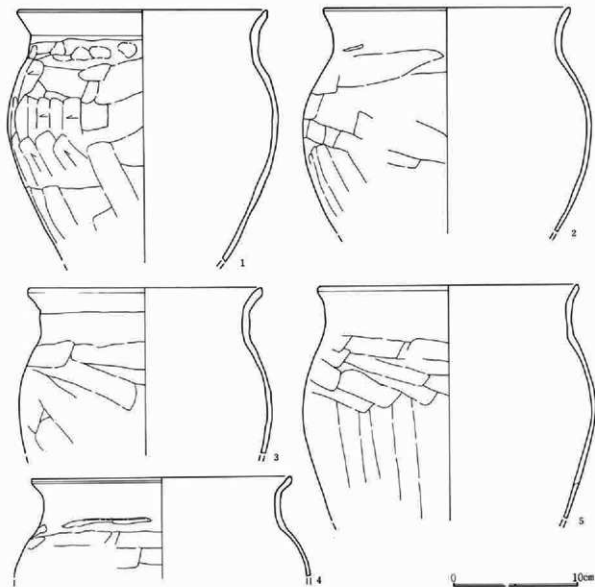
第222図 5号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

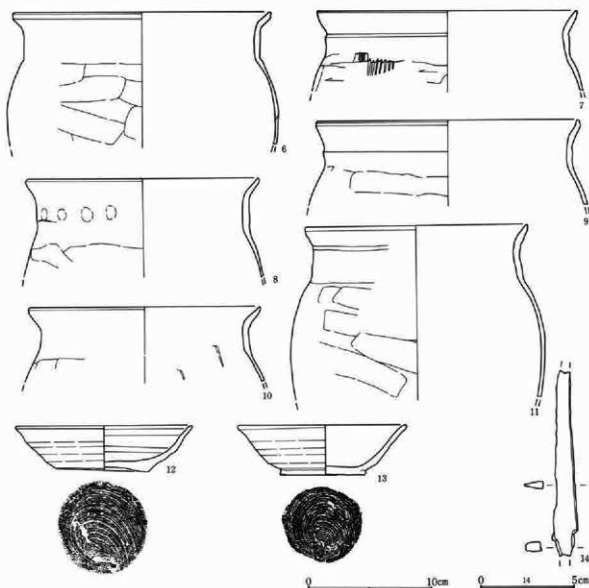


- 遺
1. 茶褐色土 ローム粒子、白色粒子含む。
  2. # ローム小ブロック若干含む。
  3. 赤茶褐色土 焼土、ローム小ブロック混入。
  4. 暗褐色土 ロームを若干含むが、やや黒味強い。
  5. # 若干の焼土を含み軟質である。

第223図 5号住居跡竈



第224図 5号住居跡出土遺物(1)



第225図 5号住居跡出土遺物(2)

5号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土 色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 壺	+1	20.2		微砂粒含む 茶褐色 良	外 口縁部横無で 体部並削り 内 口縁部横無で 胴部並削り	
2	土師器 壺	竈	19.9		微砂粒含む 赤褐色 良	外 口縁部横無で 体部並削り 内 口縁部横無で 胴部並削り	
3	土師器 壺	竈	19.0		微砂粒含む 赤褐色 良	外 口縁部横無で 体部並削り 内 口縁部横無で 胴部並削り	
4	土師器 壺	+10	20.9		微砂粒含む 赤褐色 良	外 口縁部横無で 胴部並削り 内 口縁部横無で 胴部並削り	
5	土師器 壺	+4	21.0		微砂粒含む 暗褐色 良	外 口縁部横無で 胴部並削り 内 口縁部横無で 体部並削り	
6	土師器 壺	+1	20.9		微砂粒含む 橙褐色 良	外 口縁部横無で 胴部並削り 内 口縁部横無で 体部並削り	
7	土師器 壺	+13	21.0		微砂粒含む 淡黄褐色 良	外 口縁部横無で 胴部並削り 内 口縁部横無で 体部並削り	
8	土師器 壺	+1	18.9		微砂粒含む 赤褐色 良	外 口縁部横無で 胴部並削り 内 口縁部横無で 体部並削り	

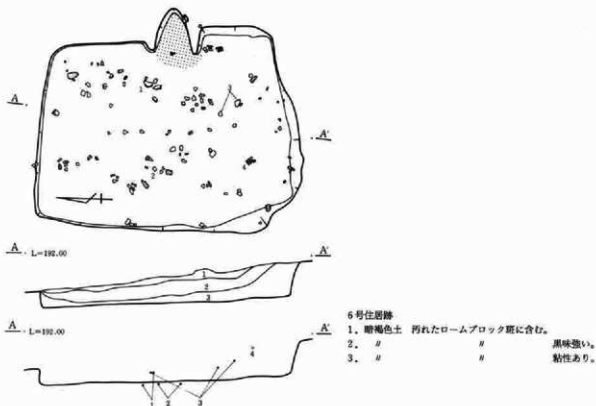
第3章 検出された遺構と遺物

9	土師器 壺		21.2	微砂粒含む 暗赤褐色 良	外 □縁部横断で 胴部直断り 内 □縁部横断で 体部直断り		
10	土師器 甕	+33	18.8	微砂粒含む 橙褐色 良	外 □縁部横断で 胴部直断り 内 □縁部横断で 体部直断り		
11	土師器 甕	+10	18.0	微砂粒含む 暗褐色 良	外 □縁部横断で 胴部直断り 内 □縁部横断で 体部直断り		
12	須恵器 坏	貯蔵穴内	14.0 7.9	3.5 良	微砂粒含む 灰黄色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
13	須恵器 坏	+2	(13.3) (6.8)	4.0 良	微砂粒含む 灰黄色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
14	鉄製品	+15	刀子。長さ9.7cm。幅1.4cm。厚さ5.0cm。重さ9.4g。両端部欠く。				

6号住居跡 (第226~228図、PL25)

P-8グリッドに位置する。1号住居跡、107号住居跡に重複して検出された。大部分が1号住居と重なっていたため、東、西、および北壁は確実な範囲を押さえられなかったが、床面、および断面にておおよその範囲を確定した。規模は4.1m×2.7mで、隅丸長方形を呈す。床面は不明瞭な部分が多かったが、竈前面でロームと黒色土を混じた貼り床面を検出している。竈は東壁中央やや南寄りに造られており、袖部の残りはあまり良くない、内面はかなり焼土化が著しい。

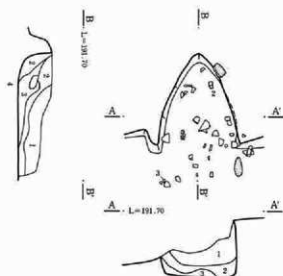
出土遺物は余り多くはなく、甕、坏の破片等が出土している。



第226図 6号住居跡

0 2m



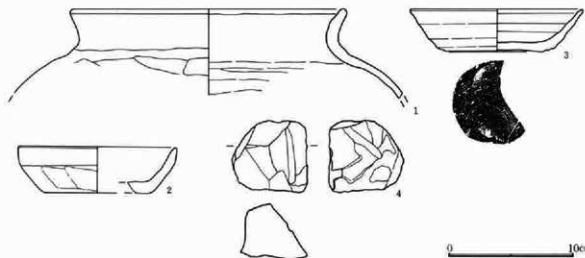


■

1. 暗褐色土 炭化材、焼土粒、ローム粒子多く含む。
2. 赤褐色土 焼土、炭化材多く含む。
3. 黒褐色土 焼土、炭を多く含む。黒味強い。
4. 黒色土 焼土ブロック、炭を主体とする。

第227図 6号住居跡電

0 1m



第228図 6号住居跡出土遺物

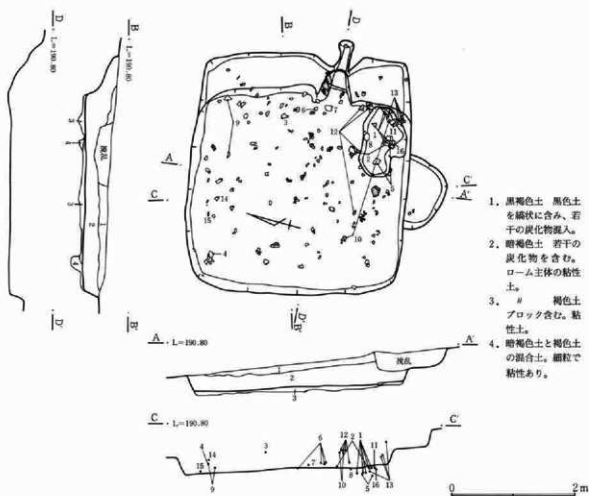
0 10cm

6号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	床面	22.3		微砂粒含む 良	明褐色	外 口縁部横線で 胴部溝で 内 口縁部横線で 体部寛無で	
2	土師器 坏	+14	(12.6) (8.4)	3.6	微砂粒含む 良	明褐色	外 口縁部横線で 体部寛有り 内 口縁部横線で 体部寛無で	
3	須恵器 坏	+14	(13.6) (7.2)	3.2	微砂粒含む 普通	明褐色	ロクろ成形 底部回転糸切り (右)	炭化船焼成
4	磁石	+45	長さ5.4cm、幅6.0cm、厚さ4.1cm、重さ118g。				石材は砂岩。不定形。	

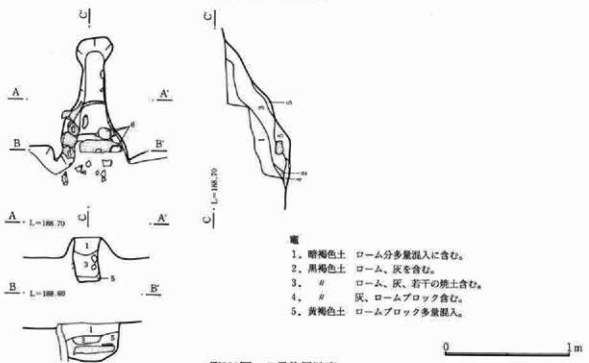
7号住居跡 (第229~231図、PL25)

O-11グリッドに位置する。形状は隅丸方形で規模は3.8m×3.5m、壁の高さは平均40cmである。東壁の竈両側がテラス状に1段低く張り出している。床面は比較的平坦で、竈前面を中心に硬く締まっている。南東隅に貯蔵穴が作られている。壁間溝が西壁下に見られる。竈は東壁中央や南寄りに築かれている。



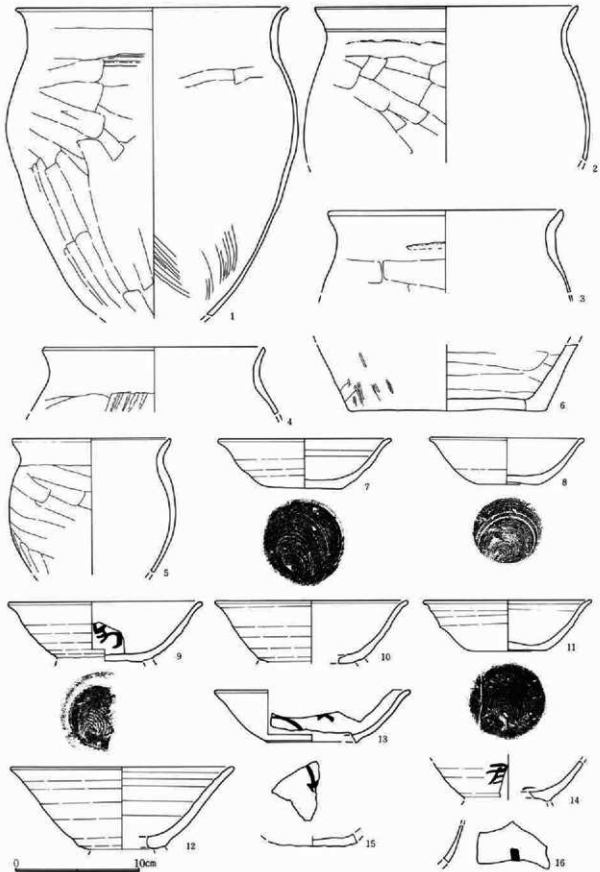
1. 黒褐色土 黒色土を線状に含み、若干の炭化物混入。
2. 暗褐色土 若干の炭化物を含む。ローム主体の粘性土。
3. # 褐色土 ブロック含む。粘性土。
4. 暗褐色土と褐色土の混合土。細粒で粘性あり。

第229図 7号住居跡



- 窟
1. 暗褐色土 ローム分多量混入を含む。
  2. 黒褐色土 ローム、灰を含む。
  3. # ローム、灰、若干の粘土含む。
  4. # 灰、ロームブロック含む。
  5. 黄褐色土 ロームブロック多量混入。

第230図 7号住居跡窟

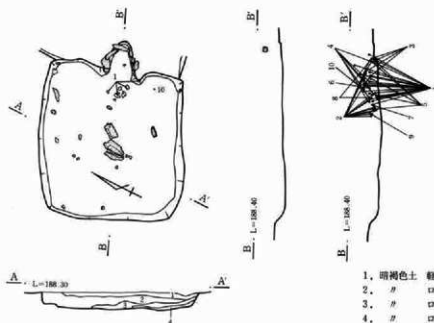


第231图 7号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

7号住居跡出土遺物観察表

図番号	遺構	出土位置 (cm)	口底径 (cm)	口徑	器高	胎土 焼	色調	成・形状の特徴	備考
1	土師器 甕	床面	22.0			赤色胎土含む 良	淡赤褐色	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り	
2	土師器 甕	床面	21.1			微砂粒含む 良	淡赤褐色	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り	
3	土師器 甕	+27	18.6			微砂粒含む 良	淡赤褐色	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り	
4	土師器 甕	+13	18.0			微砂粒含む 良	淡赤褐色	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り	
5	土師器 小型甕	床面	12.5			細砂粒含む 良	淡赤褐色	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り	
6	須恵器 甕		16.0			黄緑の小礫含む 良	灰色	外 横線で 底部寛削り	底部片
7	須恵器 坏	+6	13.8 6.1	3.9		微砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
8	須恵器 坏	床面	(12.0) 7.2	3.7		微砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り(左)	
9	須恵器 埴	+10	(15.4)			微砂粒含む 良	黒褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	内面墨書
10	須恵器 坏	床面	(15.2)			細砂粒含む 良	黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り(左か) 付け高台	高台欠
11	須恵器 坏	床面	13.0 6.0	4.0		細砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
12	須恵器 埴	+16	(17.7)			細砂粒含む 普通	黄褐色	ロクロ成形	
13	須恵器 坏	床面	(15.4) (7.3)	4.1		細砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	内面墨書
14	須恵器 埴	+22				微砂粒含む 良	明灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	内外面墨書 破片
15	須恵器 埴	+4	5.0			微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	底部片 墨書
16	須恵器 埴	床面				微砂粒含む 良	明淡褐色	ロクロ成形	外周墨書 破片

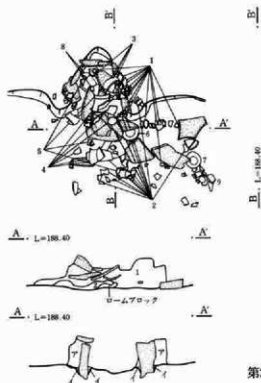


1. 暗褐色土 軽石粒、ロームブロック若干含む。
2. # # # ロームブロック多く含む。
3. # # # ローム小ブロック、炭化物若干混入。
4. # # # ロームブロック含む、粘性持つ。

第232図 8号住居跡

8号住居跡 (第232~235図、PL25)

O-13グリッドに位置する。平面形は隅丸方形で規模は1.5m×1.5mと非常に小型の住居である。9号住居跡の西壁を一部切って作られている。床面は中央部が僅かに窪み、良く踏み締められている。出土遺物は竈部分で小礫に混じり藁の破片が多く散在していた。竈は袖部に河原石を用いており一部鳥居状に残っている。内部は焼土が少なく火床面に若干の灰層が認められた。柱穴、貯蔵穴は検出されなかった。

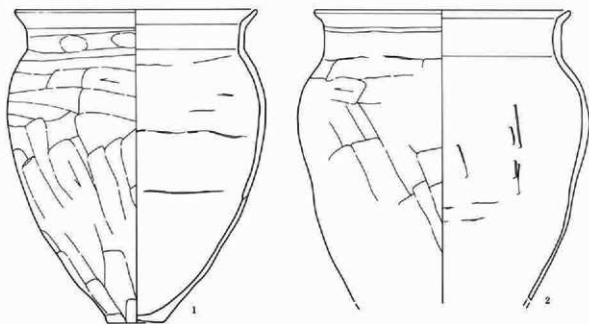


竈

1. 黄褐色土 ローム多量に混入。
2. 黒褐色土 若干のロームブロック含むが黒味強い。
3. 黄褐色土 粉っぽいローム多量に混入。
- ア. 細粒のローム粒子を主体とする。
- イ. 暗褐色土 黒味を帯びたロームを主体とする。

第233図 8号住居跡竈

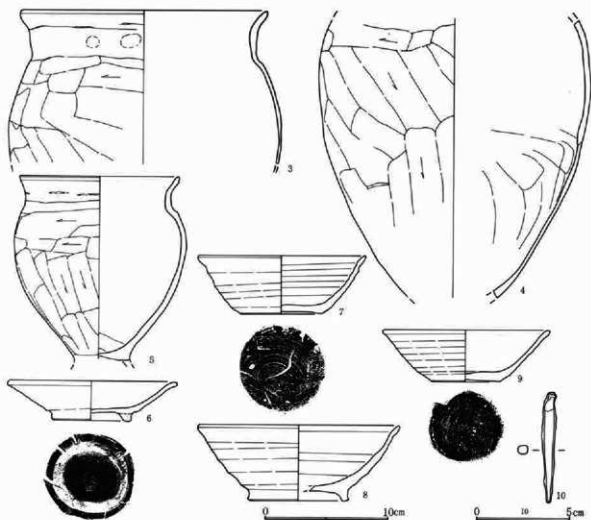
0 1m



第234図 8号住居跡出土遺物(1)

0 10cm

第3章 検出された遺構と遺物



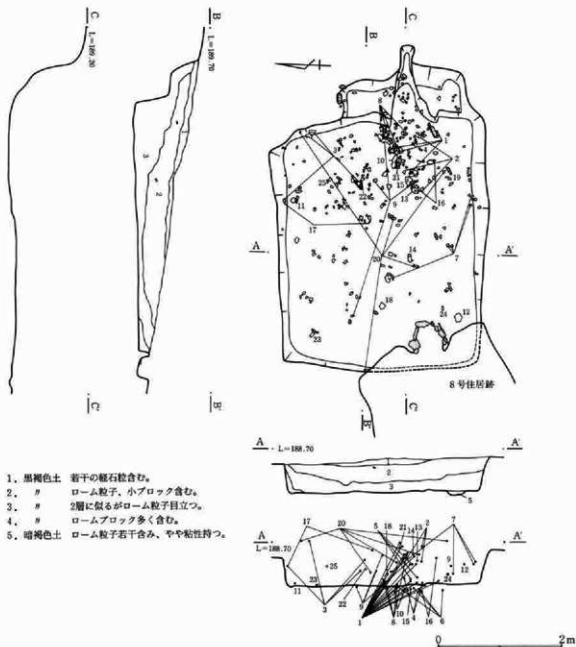
第235図 8号住居跡出土遺物(2)

8号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 底径 (cm)	径 器高 (cm)	胎土 焼成 色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 壺	竈	19.2	25.2	赤褐色粒合 によい 赤褐色 良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り	
2	土師器 壺	+8	20.3		微砂粒合む 灰褐色 良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り	胴部のみ
3	土師器 壺	竈	20.0		微砂粒合む によい赤褐 色 良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り	
4	土師器 壺	竈			微砂粒合む によい赤褐 色 良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り	
5	土師器 台付壺	+10	12.9		微砂粒合む によい赤褐 色 良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 体部寛削り	台部欠く
6	須恵器 坏	竈	13.5 (6.6)	3.3	微砂粒合む 灰黄色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	完形
7	須恵器 坏	+10	13.4 6.6	4.5	微砂粒合む 灰黒色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
8	須恵器 埴	竈	(16.0) (8.0)	6.8	微砂粒合む 暗茶褐色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
9	須恵器 坏	+15	13.3 5.2	4.1	微砂粒合む 灰黒色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
10	鉄製品	+24				釘。長さ5.8cm, 幅0.6cm, 厚さ0.5cm, 重さ9.4g, 両端部を欠く。	

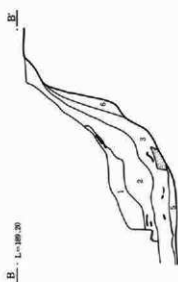
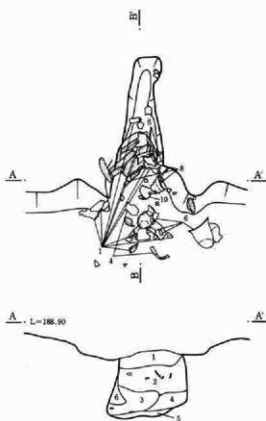
## 9号住居跡 (第236~240図, PL25)

〇-13グリッドに位置する。南西部に8号住居跡が重複。東西に長い長方形を呈し、壁の高さは50~80cmである。各壁は垂直に掘り込まれているが、西斜面に作られているために、西壁はほとんど残っていない。東壁の竈両脇に棚状の張り出し部がある。床は平坦であるが、中央から竈寄りにかけては、やや下がっている。中央部分を中心に硬く締まっている。柱穴、貯蔵穴は見られない。竈は東壁ほぼ中央に作られているが、壁の中位に階段状の平坦面が設けられている。竈の主体部は地山のロームを掘り抜いて作られており、煙道部はかなり急角度で立ち上がっている。内部からは甕の破片等が出土している。さらに煙道部の補強材として用いられていたと思われる石が数個、火床面に落ちた状態で出土している。出土遺物は竈前面から坏などが床面直上より出土している。中央やや東寄りに2基の床下土坑が接して検出されている。



第236図 9号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

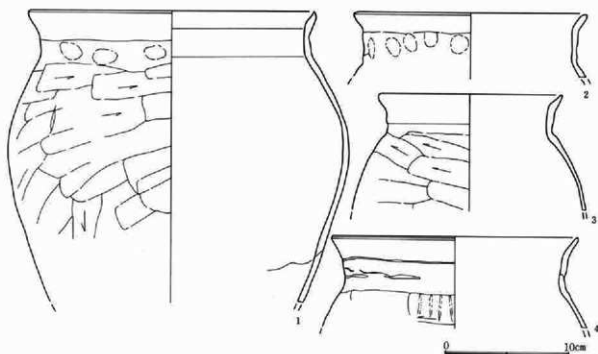


窟

1. 暗褐色土 汚れたロームを含み、若干の炭化物含む。
2. 明褐色土 ローム粒子、ブロック多く含む焼土混入。
3. 暗褐色土 ロームブロック、焼土を主体とする。
4. 灰褐色土 灰白色ローム粒、焼土粒を混入。
5. 黒色土 多量の灰を含む。
6. 黄褐色土 黄白色のロームブロック含む崩落土。

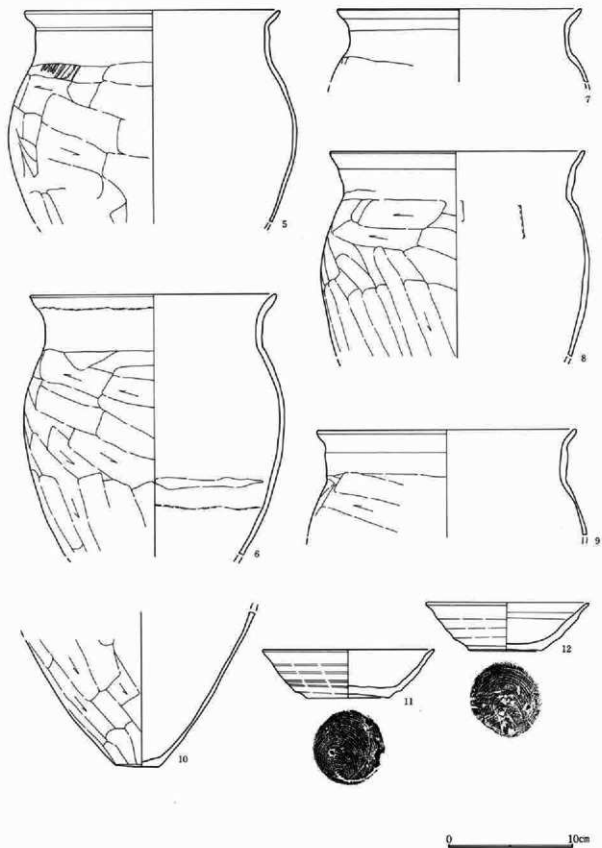
0 1m

第237図 9号住居跡窟



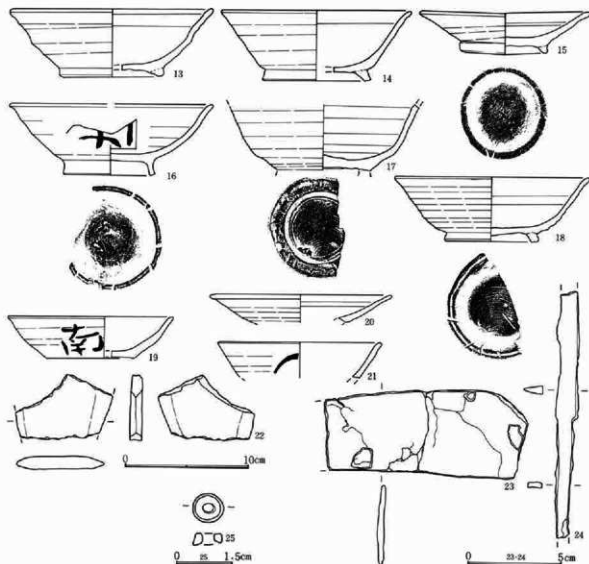
第238図 9号住居跡出土遺物(1)





第239図 9号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第240図 9号住居跡出土遺物(3)

9号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	電	23.3		微砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部寛削り 体部窪撫で
2	土師器 甕	+32	18.8		微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部寛削り 体部窪撫で
3	土師器 甕	+23	14.9		微砂粒含む 良	暗赤褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部寛削り 体部窪撫で
4	土師器 甕	電	19.9		微砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部寛削り 体部窪撫で
5	土師器 甕	電	20.6		微砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部寛削り 体部窪撫で
6	土師器 甕	電	20.0		微砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部寛削り 体部窪撫で
7	土師器 甕	+16	19.6		微砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部寛削り 体部窪撫で

## 第5節 奈良・平安時代の住居跡と遺物

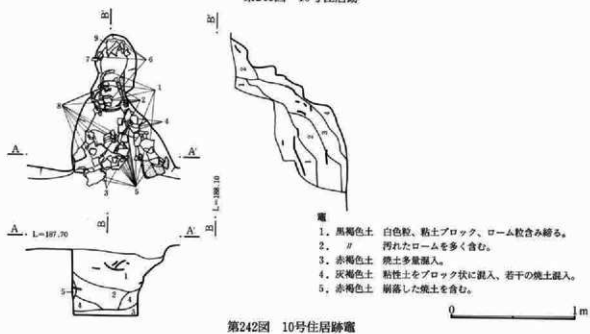
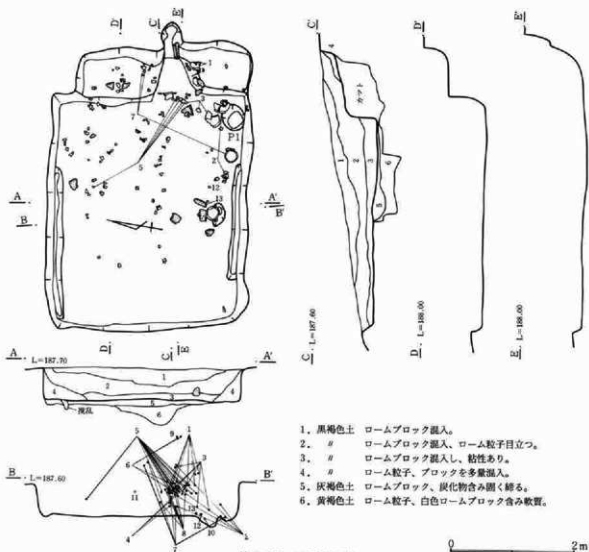
8	土師器 壺	床面	20.5	微砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部窪削り 体部寛撫で	
9	土師器 壺	床面	21.0	微砂粒含む 良	暗赤褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部窪削り 体部寛撫で	胴下半部
10	土師器 壺	床面	3.6	微砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部窪削り 体部寛撫で	
11	須恵器 坏	+5	(13.6) 6.6	3.8 良	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
12	須恵器 坏	+31	12.8 5.7	3.8 良	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
13	須恵器 埴	+36	(16.0) (8.3)	5.3 良	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り(右)
14	須恵器 坏	+47	(15.0) (8.6)	5.5 普通	微砂粒含む 普通	明灰色	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り(右)
15	須恵器 坏	床面	13.6 7.0	3.7 良	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り(右)
16	須恵器 埴	床面	(16.0) (7.3)	5.6 良	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り(右) 内面黒色処理 外面黒書
17	須恵器 坏	+34			微砂粒含む 良	黒色	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り(右) 口縁部、高台欠
18	須恵器 埴	+26	(15.4) (7.3)	(5.1) 良	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り(右)
19	須恵器 坏	+29	13.0 (7.0)	3.3 良	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り(右) 外面黒書「南」
20	須恵器 坏	+20	(14.4)		微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 良	破片
21	須恵器 坏	+59	(13.0)		微砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形 良	破片、外面黒書
22	磁石	+26	長さ5.1cm、幅7.7cm、厚さ1.0cm、重さ40.6g。石材は牛伏砂岩。扁平で両面を使用。側縁は尖り、刃部を呈す。					
23	鉄製品	床面	鎌。長さ10.8cm、幅4.6cm、厚さ0.3cm、重さ46.5g。巾広で先端部折れている。					
24	鉄製品	+17	刀子。長さ14.7cm、幅1.1cm、厚さ0.4cm、重さ8.8g。先端部を欠く。					
25	磨石製 品	+33	白玉。径0.8cm、厚さ0.3cm、孔径0.25cm、重さ0.3g。側面研磨痕。片断面はやや丸味持つ。					

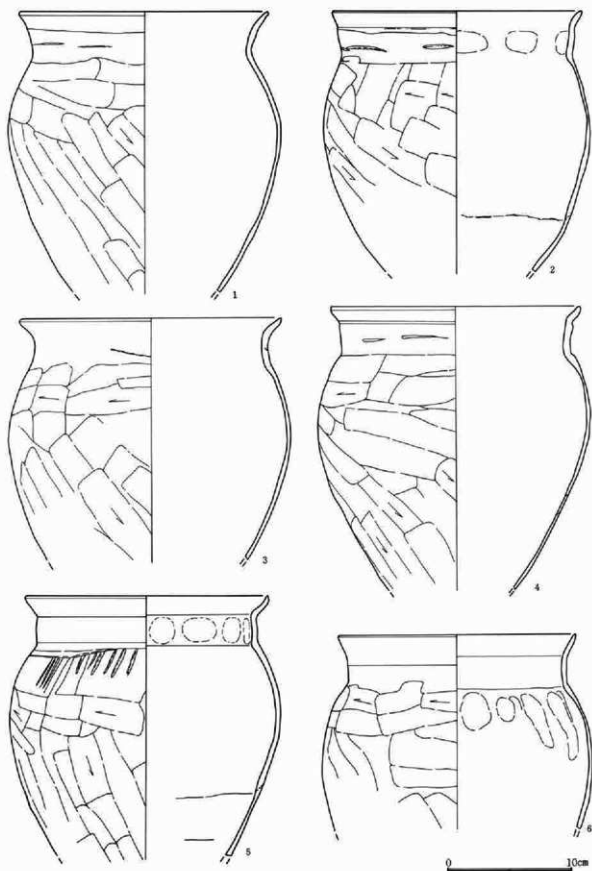
## 10号住居跡(第241~244図、PL26)

O-13グリッドに位置する。規模は4.4m×3.2mである。長方形を呈し、9号住居跡と同様に東側の竈脇部分に中段を持つ。竈は東壁中央に作られており、焚口幅1.1mで長さ70cmである。袖部分の住居内への張り出しは殆ど無く、本体部分は地山のロームを掘り込んで作られている。煙道部は壁に沿ってかなり急角度で立ち上がっている。竈内からは多くの壺の破片が出土しているが口縁部が多いことや、底部がほとんど見られないことなどから、煙道の補強に使われていたものと考えられる。

床面は平坦で非常に固く締まっている。遺物は覆土上層から出土したものが多く、南東隅に径30cm、深さ40cm程のピットが検出されている。貯蔵穴にしては規模が小さすぎるようである。柱穴は見られない。

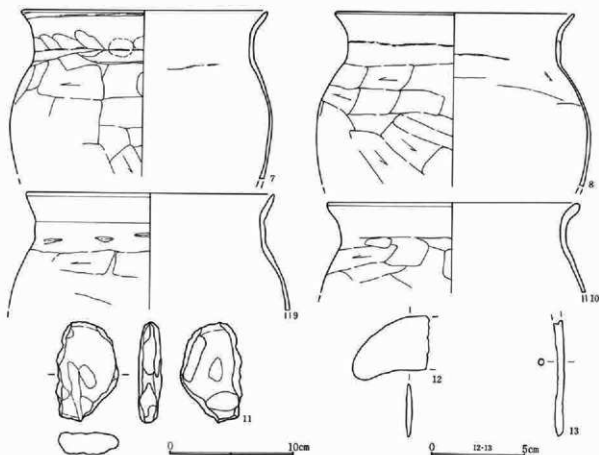
出土遺物は壺類の他石器、鉄製品が若干見られた。





第243図 10号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



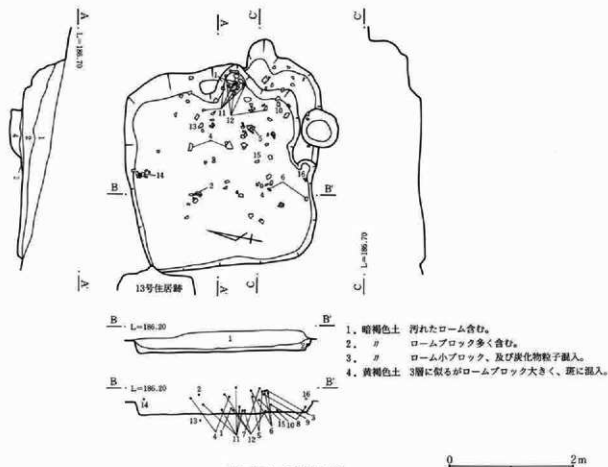
第244図 10号住居跡出土遺物(2)

10号住居跡出土遺物観察表

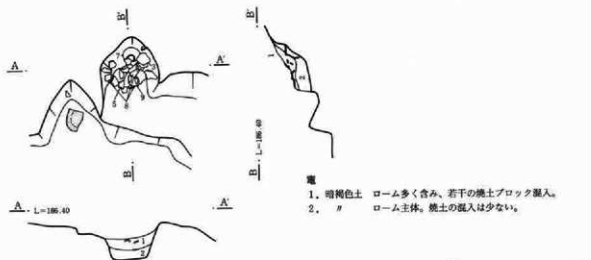
図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土 焼成	色調	成・形状の特徴	備考
1	土師器 甕	+44	20.2		微砂粒含む 良	暗赤褐色	外 口縁部横撫で 胴部窪削り 内 口縁部横撫で 体部窪撫で	
2	土師器 甕	+14	20.0		微砂粒含む 良	明赤褐色	外 口縁部横撫で 胴部窪削り 内 横撫で	底部欠く
3	土師器 甕	+21	21.1		微砂粒含む 良	暗褐色	外 口縁部横撫で 胴部窪削り 内 口縁部横撫で 体部窪撫で	外面に炭化物付着
4	土師器 甕	+14	19.7		微砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横撫で 胴部窪削り 内 口縁部横撫で 体部窪撫で	
5	土師器 甕	+30	19.7		微砂粒含む 良	明赤褐色	外 口縁部横撫で 胴部窪削り 内 口縁部横撫で 体部窪撫で	胴部窪の当たり痕顕著 底部欠く
6	土師器 甕	+48	19.2		微砂粒含む 良	赤黄褐色	外 口縁部横撫で 胴部窪削り 内 口縁部横撫で 体部窪撫で	
7	土師器 甕	+5	20.0		微砂粒含む 良	暗褐色	外 口縁部横撫で 胴部窪削り 内 口縁部横撫で 体部窪撫で	下部を欠く
8	土師器 甕	+21	19.2		微砂粒含む 良	明赤褐色	外 口縁部横撫で 胴部窪削り 内 口縁部横撫で 体部窪撫で	
9	土師器 甕	+123	20.0		微砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横撫で 胴部窪削り 内 口縁部横撫で 体部窪撫で	
10	土師器 甕	+7	20.4		微砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横撫で 胴部窪削り 内 口縁部横撫で 体部窪撫で	口縁部のみ
11	石器	+38	長さ7.9cm、幅5.0cm、厚さ1.8cm、重さ60g。石材は牛伏砂岩。					
12	鉄製品	+10	鏝。長さ4.0cm、幅2.8cm、厚さ0.35cm、重さ5.5g。先端部片。					
13	鉄製品	+5	棒状製品。長さ6.0cm、径0.45cm、重さ2.4g。紡錘車の軸か。					

11号住居跡 (第245～247図、PL.26・27)

〇—14グリッドに位置する。平面形状は隅丸方形で、規模は3.2m×3.0mである。斜面部分に作られており、西壁はほとんど削平されている。竈は作り替えられている。古いほうは東壁中央に在り、南にほぼ接して新しい竈が作られている。どちらの竈も焼土、灰は少ない。床面は平坦で、柱穴、貯蔵穴は見られない。

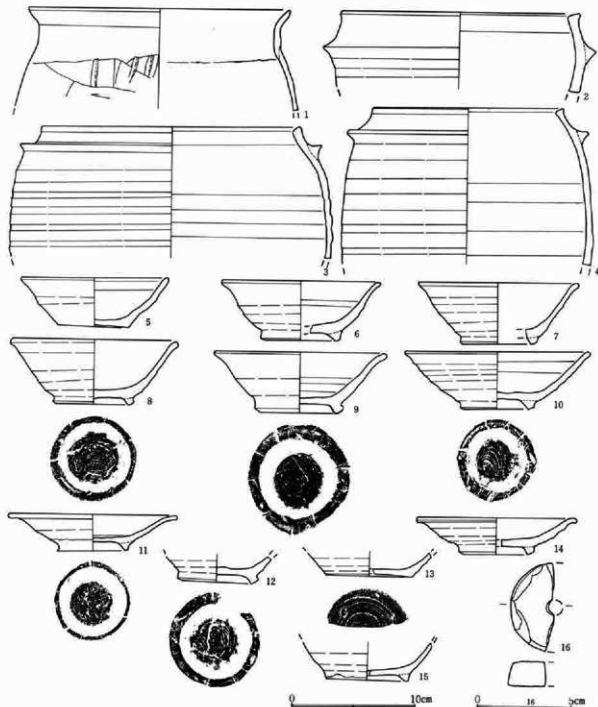


第245図 11号住居跡



第246図 11号住居跡竈

第3章 検出された遺構と遺物



第247図 11号住居跡出土遺物

11号住居跡出土遺物観察表

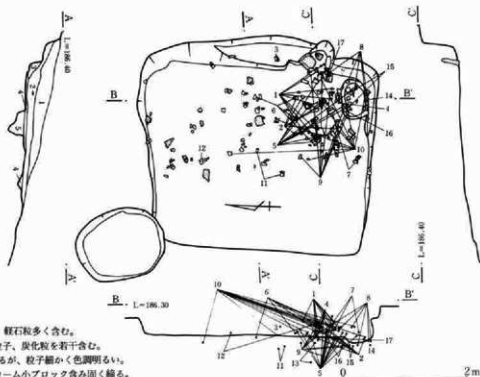
図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	径 高	胎土 色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 甕		(21.0)		砂粒含む 良	赤褐色 外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で 胴部縦撫で	
2	羽 釜	+28	19.4		砂粒含む 良	橙黄褐色 ロクロ成形	
3	羽 釜	甕	(21.0)		砂粒含む 良	橙黄褐色 ロクロ成形	



4	須恵器 盆	+25	(15.4)	細砂粒含む 黄褐色	ロクロ成形			
5	須恵器 坏	甗	12.0 5.8	3.9 普通	微砂粒含む 灰黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)		
6	須恵器 坏	+8	(13.0) (6.5)	4.7 普通	微砂粒含む 灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	付け高台	
7	須恵器 坏	甗	(13.1) (6.2)	5.0 普通	微砂粒含む 灰黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	酸化焙焼成 付け高台	
8	須恵器 坏	甗	(13.6) (6.2)	5.1 普通	微砂粒含む 灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)		
9	須恵器 坏	甗	14.0 6.2	4.8 普通	微砂粒含む 淡茶褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	酸化焙焼成	
10	須恵器 坏	+2	(15.0) 6.0	4.5 普通	細砂粒含む 灰色青	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	付け高台	
11	須恵器 坏	甗	(13.7) 5.9	2.9 普通	細砂粒含む 黄褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)		
12	須恵器 坏	床面		6.6	微砂粒含む 明褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	酸化焙焼成	
13	須恵器 坏	床面		7.0	微砂粒含む 黄褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)		
14	須恵器 坏	+25	(13.0) (6.2)	2.9 普通	細砂粒含む 灰黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	付け高台	
15	須恵器 坏	+21	(6.7)		細砂粒含む 黄褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	酸化焙焼成 付け高台	
16	紡錘車	+20	径(4.7)cm、厚さ1.3cm、重さ18.4g。やや扁平で両面は平皿、石材は砂岩。約半分を破壊。					

## 12号住居跡 (第248~251図、PL.26・27)

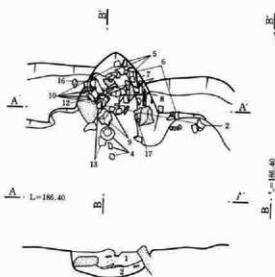
O-14グリッドに位置する。形状は隅丸長方形になると考えられる。南および北壁はほぼ垂直に立ち上がり、西壁は削平されている、また東壁に棚状の中段を持つが、幅が狭い。床面は平坦であるが、西側部分は



1. 暗褐色土 ローム、軽石粒多く含む。
2. # # ローム粒子、炭化粒を若干含む。
3. # # 2層に似るが、粒子細かく色調明るい。
4. # # 若干のローム小ブロックを含み固く締る。
5. 黄褐色土 ローム多量に混入する。

第248図 12号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

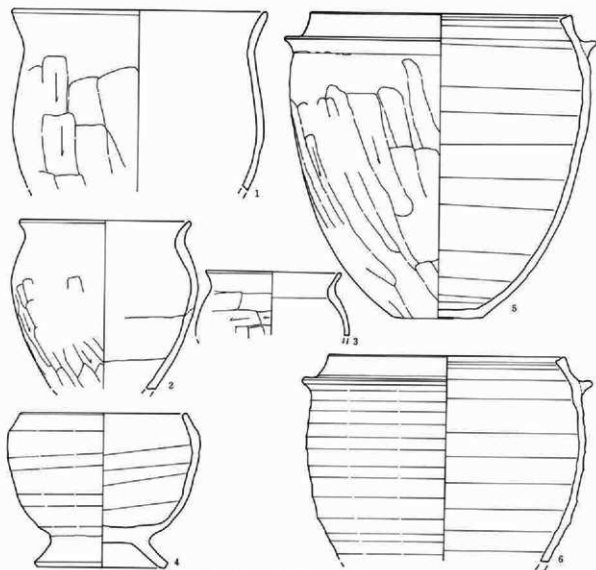


■

1. 暗褐色土 ローム主体とし、若干の焼土粒子含む。
2. 黄褐色土 ローム多量混入。

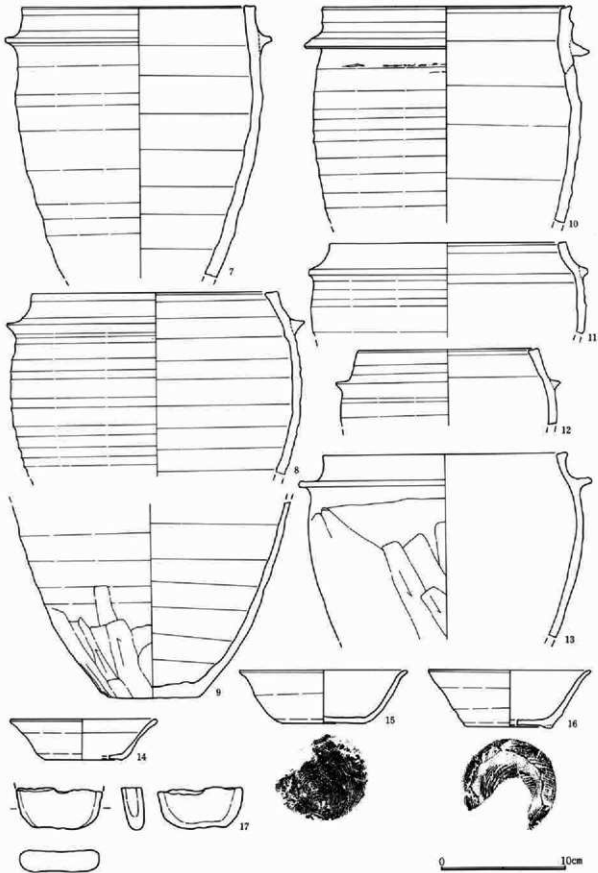
第249図 12号住居跡竈

0 \_\_\_\_\_ ] m



第250図 12号住居跡出土遺物(1)

0 \_\_\_\_\_ 10cm



第251図 12号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

12号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	器 高 (cm)	胎 土 規 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 甕	+10	20.6		砂粒含む 良	明褐色	外 □縁部横撫で 胴部寛削り 内 □縁部横撫で 体部趾撫で	
2	土師器 小型甕	床面	13.9		微砂粒含む 普通	黒褐色	外 □縁部横撫で 胴部寛削り 内 □縁部横撫で 体部趾撫で	
3	土師器 小型甕	+15	(11.0)		微砂粒含む 良	暗褐色	外 □縁部横撫で 胴部寛削り 内 □縁部横撫で 体部趾撫で	
4	土師器 台付甕	床面	13.5 10.7	11.6	微砂粒含む 良	赤褐色	口クロ成形 底部回転糸切り (右)	
5	須恵器 羽 釜	床面	29.5 7.0 口径24.6	24.5	細砂粒含む 良	灰色	口クロ成形 胴下半部寛削り 内 □縁部横撫で 胴部横撫で	
6	須恵器 羽 釜	床面	(19.45)		微砂粒含む 良	赤褐色	口クロ成形	
7	須恵器 羽 釜	+5	(19.0)		緻密 良	明赤褐色	口クロ成形	
8	須恵器 羽 釜	床面	(20.0)		微砂粒含む 良	淡黄褐色	口クロ成形	
9	土師器 羽 釜	床面	7.2		微砂粒含む 良	明赤褐色	口クロ成形 胴下半部寛削り	11と同一個体か
10	須恵器 羽 釜	床面	(20.0)		微砂粒含む 普通	橙褐色	口クロ成形	器面荒れている
11	須恵器 羽 釜	床面	19.2		微砂粒含む 良	赤褐色	口クロ成形	酸化焙焼成 蹄端部 面取り
12	須恵器 羽 釜	+4	14.8		細砂粒含む 良	淡黄褐色	口クロ成形 胴下半部寛削り 内 横撫で	酸化焙焼成
13	須恵器 羽 釜	床面	19.8 口径23.6		細砂粒含む 良	灰色	口クロ成形 胴下半部寛削り 内 横撫で	
14	須恵器 環	床面	(12.0) (6.1)	8.1	細砂粒含む 良	淡褐色	口クロ成形 底部回転糸切り (右)	酸化焙焼成
15	須恵器 環	床面	13.6 6.6	4.2	微砂粒含む 良	灰黒色	口クロ成形 底部回転糸切り (右)	
16	須恵器 環	床面	(13.0) (7.3)	4.5	微砂粒含む 良	淡黄色	口クロ成形 底部回転糸切り (右) 付け高台	高台欠 二次火熱を受ける
17	砥 石	+5	長さ3.1cm、幅6.2cm、厚さ1.7cm、重さ39g。石材は牛伏砂岩。欠損部、使用面は、ややざらついている。					

削平を受けている。甕は袖部が石で補強されており、貯蔵穴と思われる径約40cmの浅い掘り込みが南東隅に検出されている。遺物は甕、および周辺に集中して甕、羽釜、環などが多く出土している。

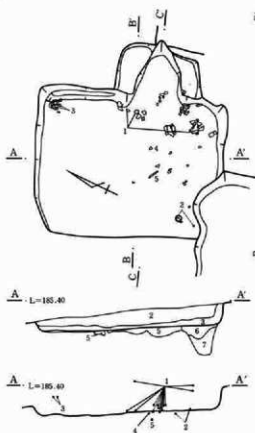
13号住居跡 (第252～254回、PL26・27)

O-14グリッドに位置する。比較的小型の住居跡である。規模は3.0m×2.4mで、隅丸長方形を呈す。壁はほぼ垂直に立ち上がるが、斜面部分に作られているために、西側は削平されている。南側に一部14号住居跡が重複する。床は平坦で、南東隅に径60cm×50cm、深さ約30cmの貯蔵穴が検出されている。

甕は東壁中央やや南寄りで作られており、焚口幅80cmで長さ1.1mである。火床面は床とほぼ同レベルで、先端部は垂直に近い角度で立ち上がる。甕内面の両壁はかなりの火を受けたと思われる、焼土化が著しい。甕の両脇部分が四角くテラス状に掘り下げられている。

掘方調査の時点で住居の南東隅に径40cm、深さ30cm程のピットが検出されているが、貯蔵穴であった可能性もある。

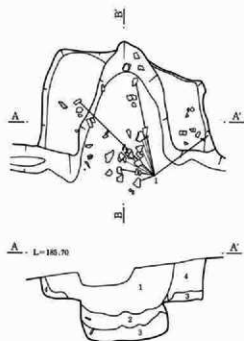
出土土器は少なく、甕および環の破片が若干出土しているが、いずれも覆土の上層からのものである。破片ではあるが黒書土器が1点見られる。また刀子が1点、ほぼ床面に着いた状態で出土している。



第252図 13号住居跡

1. 黒褐色土 軽石粒含み、根による擾乱顯著。
2. 黄褐色土 ロームブロック多く混入する。
3. 黒褐色土 ロームブロック若干含み、少量の炭化物混入。
4. 赤褐色土 焼土多く含む。
5. 黒褐色土 ロームブロック若干含み固く締る。
6. 暗褐色土 ローム多く含み、若干の軽石粒、炭化物混入。
7. # ローム粒子多く混入する。

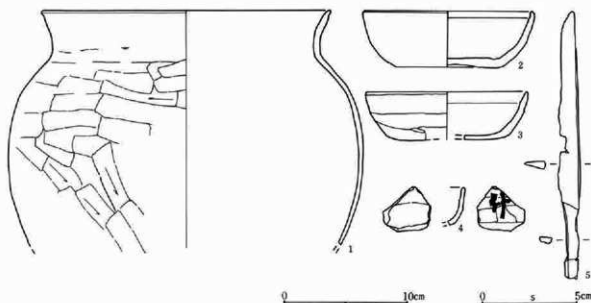
0 2m



第253図 13号住居跡竈

1. 暗褐色土 粉っぽいローム主体とする。
2. # 1層に似るが若干の焼土粒、炭化物混入。
3. 暗赤褐色土 焼土、炭化物多く含む。
4. # ローム多く含み、軽石粒子目立つ。

0 1m



第254図 13号住居跡出土遺物

13号住居跡出土遺物観察表

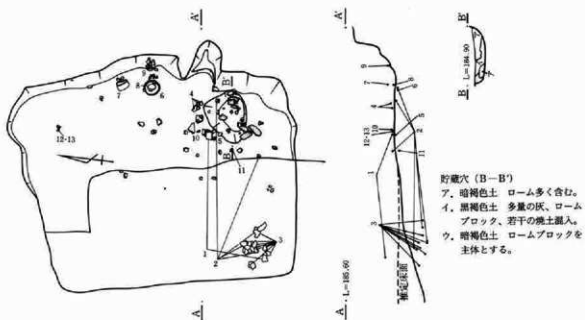
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 徑 (cm)	器 高 (cm)	胎土 焼 成	色調	成・整形の特徴	備考	
1	土師器 甕		23.4		微砂粒含む 良	暗赤褐色	外 □縁部横線で 胴部寛削り 内 □縁部横線で 体部寛削り		
2	土師器 坏	床面	(14.0) (8.4)	4.4	微砂粒含む 普通	淡黄褐色	外 □縁部横線で 体部寛削り 内 □縁部横線で 体部削り		
3	土師器 坏	+27	13.1	3.7	微砂粒含む 普通	淡黄褐色	外 □縁部横線で 体部寛削り 内 □縁部横線で 体部削り		
4	土師器 坏	床面	(12.7)		微砂粒含む 良	淡褐色	外 □縁部横線で 体部寛削り 内 □縁部横線で 体部削り	外周墨書「什」	
5	鉄製品	床面	刀子。長さ14.0cm、幅1.2cm、厚さ0.45cm、重さ11.0g。ほぼ完全な状態。						

14号住居跡 (第255～258図、PL27)

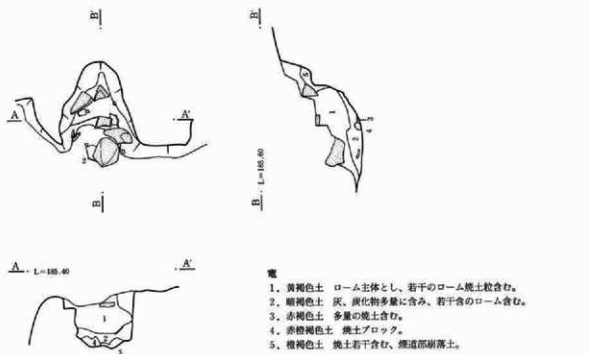
I区西斜面、O-14グリッドに位置する。北側は僅かに13号住居跡と重複し、西側は15号住居跡の東側部分に重複するが、床面のレベルはかなり高い。住居の規模は4.3m×(3.6)mで、西側はかなり削平されており、壁、床面の一部を失っている。形状は隅丸長方形を呈すが、東側の壁は僅かに外へ膨らんでいる。

竈は東壁中央やや南寄りに築かれている。両袖は地山ローンを掘り残した状態で、煙道部はかなり急角度で立ち上がる。内面の焼土はあまり確認されなかった。床面は多少の凹凸はあるものかなり平坦で、ローム混じりの土で貼り床としている。

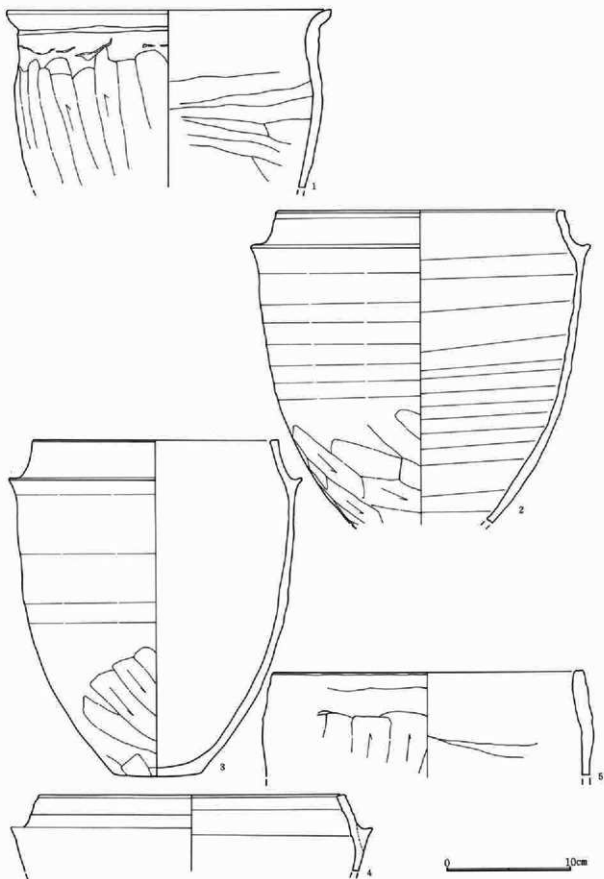
出土遺物は竈の周辺部において、羽釜、埴、坏類が検出されている。出土遺物の6は羽釜型甕で、竈の左側に正立した状態で出土しており、内部からは埴8が出土している。



第255図 14号住居跡

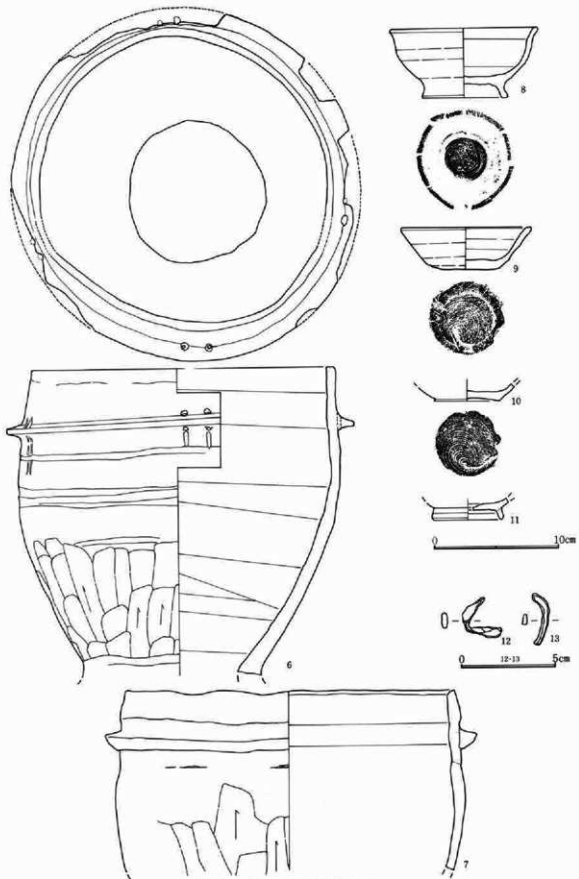


第256図 14号住居跡電



第257図 14号住居跡出土遺物(1)





第258図 14号住居跡出土遺物(2)

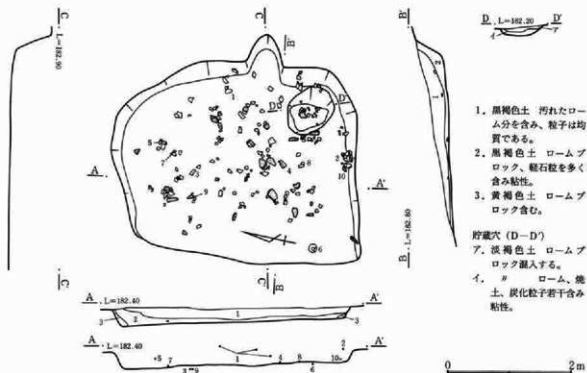
### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 14号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土 或 色調	成・整形の特徴	備考	
1	土蓋	+3	26.0		細砂粒含む 暗赤褐色 良	外 口縁部横無で 胴部直削り 内 口縁部横無で 体部寛縁で		
2	須恵器 羽釜		22.8	脚径26.8	微砂粒含む 淡褐色 良	ロクロ成形		
3	須恵器 羽釜	床面	19.4	27.0 脚径23.1	微砂粒含む 淡黄褐色 普通	ロクロ成形 胴下半部直削り		
4	羽釜	+2	(25.0)		微砂粒含む 黄褐色 良	ロクロ成形 胴下半部直削り 内 口縁部横無で 体部寛縁で		
5	羽釜	床面	25.0		砂粒含む 暗橙褐色 普通	ロクロ成形 胴下半部直削り 内 口縁部横無で 体部寛縁で	錫刺落紐な作り	
6	甕	床面	24.4		微砂粒含む 淡黄褐色 普通	ロクロ成形 胴下半部直削り 内 横無で	胴に2つ1対の穴が 穿けられている	
7	羽釜	+13	26.6		微砂粒含む 赤褐色 良	ロクロ成形 胴下半部直削り	7と同一個体	
8	須恵器 埴	+2	12.0	5.5 6.9	微砂粒含む 浅黄褐色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	完形 酸化焰焼成5 の中より出土	
9	須恵器 坏	+13	10.5	3.3 5.6	微砂粒含む 赤褐色 普通	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	完形 酸化焰焼成	
10	須恵器 坏	床面			微砂粒含む 浅黄色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	酸化焰焼成 底部のみ	
11	灰 輪 埴	床面		(5.6)	堅緻 灰色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	底部のみ	
12	鉄製品	+2	刀子。長さ3.1cm、幅0.9cm、厚さ0.5cm、重さ2.8g。かなり折れ曲がっている。					
13	鉄製品	+2	刀子。長さ3.1cm、幅0.9cm、厚さ0.5cm、重さ1.1g。かなり折れ曲がっている。					

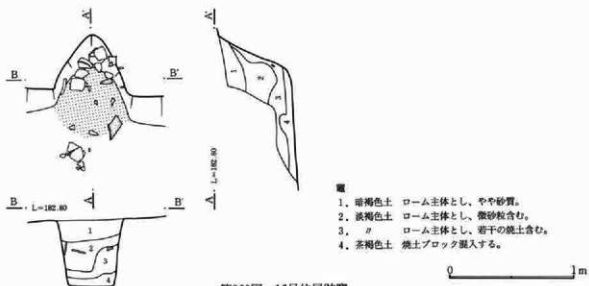
#### 16号住居跡 (第259~262図、PL27)

〇-15グリッドに位置する。平面形状は隅丸長方形を呈し、規模は3.9m×3.1mである。床面上は比較的平

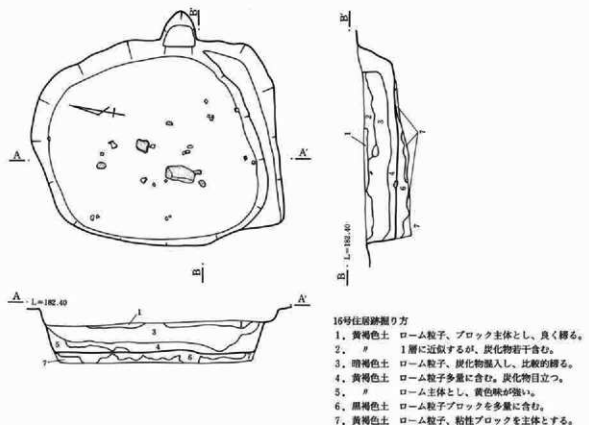


第259図 16号住居跡

垣で余り踏み固められた状況ではなかった。竈は袖の部分が余りはっきりとはしなかったが、焼土、炭化物がかなり検出されている。掘り方を行ったところ、下面より古い床面らしきものが検出されたことから、作り替えている可能性がある。この2面確認された床の間の覆土はローム粒子、粘土ブロックを含む混泥土層で人為的に埋められた様子が窺えた。出土土器は少ない。



第260図 16号住居跡竈



第261図 16号住居跡掘り方

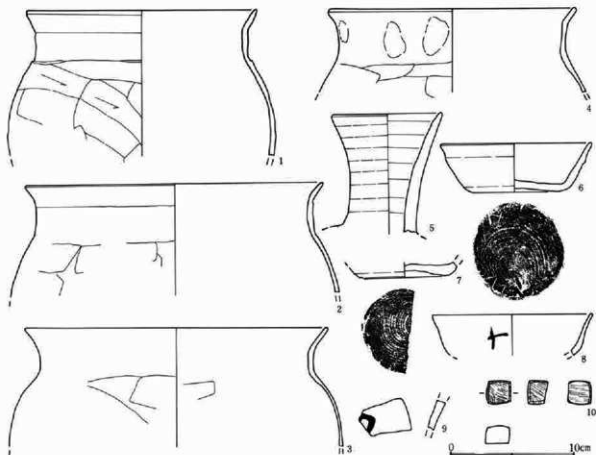
竈

1. 暗褐色土 ローム主体とし、やや砂質。
2. 灰褐色土 ローム主体とし、微砂粒含む。
3. # ローム主体とし、若干の焼土含む。
4. 茶褐色土 焼土ブロック混入する。

16号住居跡掘り方

1. 黄褐色土 ローム粒子、ブロック主体とし、良く締る。
2. # 1層に近似するが、炭化物若干含む。
3. 暗褐色土 ローム粒子、炭化物混入し、比較的締る。
4. 黄褐色土 ローム粒子多量に含む。炭化物目立つ。
5. # ローム主体とし、黄色味が強い。
6. 黒褐色土 ローム粒子ブロックを多量に含む。
7. 黄褐色土 ローム粒子、粘性ブロックを主体とする。

第3章 検出された遺構と遺物



第262図 16号住居跡出土遺物

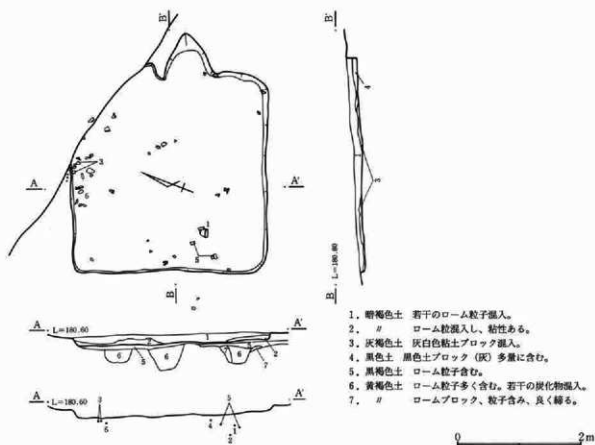
16号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 壺		18.5		微砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で 胴部荒削り 体部荒撫で	
2	土師器 壺	+20	(24.0)		微砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で 胴部荒削り 体部荒撫で	
3	土師器 壺	床面	(24.5)		微砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で 胴部荒削り 体部荒撫で	
4	土師器 壺	床面	20.0		微砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で 胴部荒削り 体部荒撫で	胴部に指痕あり
5	須恵器 平 壺	+12	9.0		小礫若干含む 良	灰色	横撫で	胴部のみ
6	須恵器 坏	床面	(13.0)	3.8	小砂礫含む 普通	灰白色	ロクロ成形 底部回転余切り(右)	表面荒れている
7	須恵器 坏	+1	(7.2)		小砂礫含む 普通	灰白色	ロクロ成形 底部回転余切り(右) 後撫で調整	底部片
8	土師器 坏	床面	(13.0)		微砂粒含む 良	茶褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で 胴部荒削り 体部荒撫で	破片 内外両面磨き
9	須恵器 坏	床面			微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	外面に墨書
10	磁石	+5	長さ1.9cm、幅1.9cm、厚さ1.4cm、重さ8g。		石材は流紋岩か。小型でサイコロ状を呈す。六面使用。			

17号住居跡 (第263～265図、PL28)

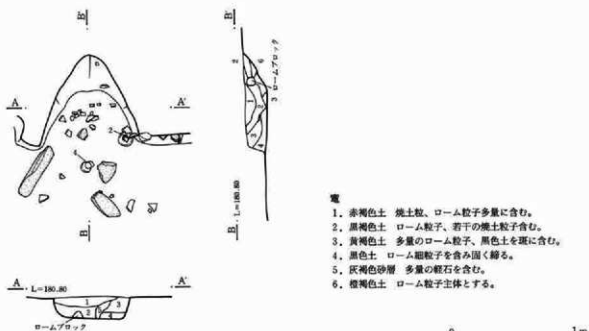
O-16グリッドに位置する。調査区北壁に北東隅が掛かって検出された。18号住居跡の北西部を切る形で重複している。掘り込みは浅く、5～10cmで、規模は3.2m×3.1mである。床面は竈前面が、やや堅く締まっ

ていたが、他の部分については明確に検出し得なかった。竈は東壁中央に作られており、袖の芯材として河原石が用いられている。出土遺物はあまり多くはなかったが、竈部分からは坏類が出土している。



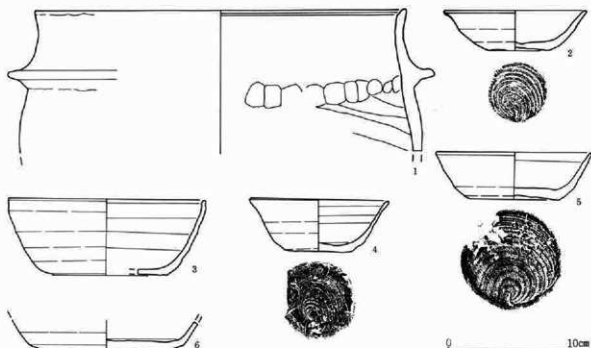
1. 暗褐色土 若干のローム粒子混入。
2. // ローム粒混入し、粘性ある。
3. 灰褐色土 灰白色粘土ブロック混入。
4. 黒色土 黒色土ブロック (灰) 多量に含む。
5. 黒褐色土 ローム粒子含む。
6. 黄褐色土 ローム粒子多く含む。若干の炭化物混入。
7. // ロームブロック、粒子含み、良く締る。

第263図 17号住居跡



- 竈
1. 赤褐色土 焼土粒、ローム粒子多量に含む。
  2. 黒褐色土 ローム粒子、若干の焼土粒子含む。
  3. 黄褐色土 多量のローム粒子、黒色土を斑に含む。
  4. 黒色土 ローム細粒子を含み固く締る。
  5. 灰褐色砂層 多量の礫石を含む。
  6. 橙褐色土 ローム粒子主体とする。

第264図 17号住居跡竈



第265図 17住居跡出土遺物

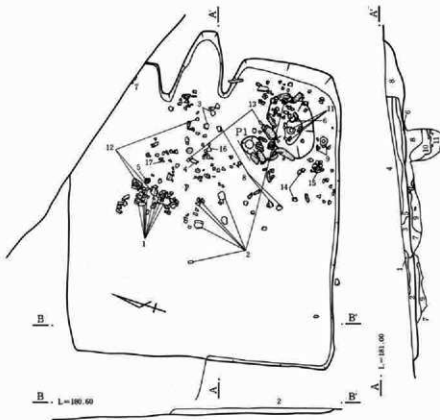
## 17号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 径(cm)	口径 径(cm)	器高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	羽蓋	床面	(30.0)	口径34.4		微砂粒含む 良	暗赤褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	大型品
2	須恵器 坏	甕	11.6 4.8	3.3		細砂粒含む 良	暗赤褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	欠形
3	須恵器 坏	床面	(16.0) (8.7)		6.0	細砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転盤切り 削り出し高台	
4	須恵器 坏	床面	(11.3) (5.2)		4.1	細砂粒含む 良	暗赤褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
5	須恵器 坏	床面	(12.6) 7.2		3.7	細砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り(左)	器面荒れている
6	須恵器 蓋	床面	(9.4)			微砂粒含む 良	灰白色	外 天井部回転盤削り	

## 18号住居跡(第266~268図、PL28)

〇-16グリッドに位置する。中央部分から北側にかけて17号住居跡が重複している。南壁、および東壁は10~20cmの壁高が確認された。竈周辺の覆土はローム粒子に混じり、粘土、焼土が多量に含まれた非常に締まった土が見られたが、甕を構築していた土が崩れて広がったものと思われる。甕は焚口幅約70cmで長さ1mである。両袖は住居内に50cm程入り込んでいる。粘土まじりの土で、右側の袖には扁平な石が芯材として用いられている。火床面はかなり焼けており、内部には多量の焼土、粘土ブロックが見られた。遺物は甕前面より甕や坏の破片が、焼土、粘土に混じって多く出土している。床面は掘り込んだ白色粘土の面をそのまま床として使用しているようで、中央部がやや窪んだ状態を呈している。貯蔵穴は南東隅に検出されている。規模は70cm×50cmで深さ約15cmである。柱穴は対角線上に4本確認されており、それぞれ径30~40cmで深さは約40cmである。

出土遺物は甕付近に甕、坏の破片が多く出土している。土師器坏の底に墨書(刀?)。

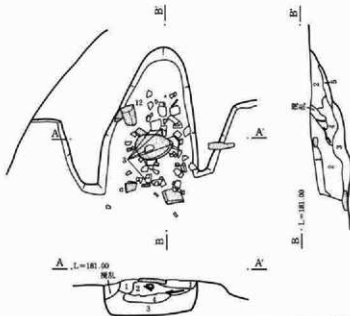


1. 暗褐色土 ローム粒子若干含む。
2. # B P 粒子多く含む、やや締る。
3. # B P 粒子多く混入し、黒色土を底に混入。
4. 暗茶褐色土 軽石粒、ローム粒、焼土粒を若干含む。
5. # ローム、焼土、炭化物粒含む層状を示し、締る。
6. 赤褐色土 ローム粒、粘土ブロック、焼土を多く混入し締る。
7. 黄褐色土 多量のローム粒子及び、若干の焼土粒子含む。
8. 赤褐色土 ローム粒子を多く含む、良く締っている。
9. 黄褐色土 7に近似するが、ローム粒子多く、締り良い。
10. 黒褐色土 ローム粒、ブロック、粘土ブロック、炭化物含む。
11. 灰褐色土 10層に似るが、粘土多く含む。



第266図 18号住居跡

0 2m



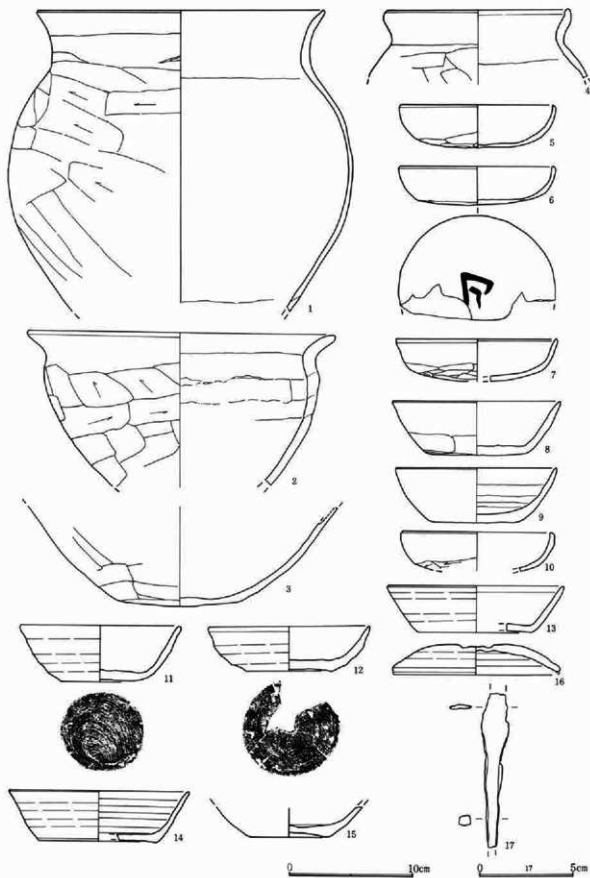
竈

1. 黒褐色土 粘土ブロック、若干の焼土を含み軽石粒目立つ。
2. 赤褐色土 焼土、粘土ブロック多く混入し軽石粒目立つ。
3. # 焼土、粘土ブロック主体とする。
4. 暗黒褐色土 多量の灰及び、焼土含む。
5. 灰赤褐色土 焼土粒子、粘土粒子混入し、固く締る。

0 1m

第267図 18号住居跡竈

第5節 奈良・平安時代の住居跡と遺物



第268図 18号住居跡出土遺物



18号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	径 (cm)	高 (cm)	胎土 色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 壺	+23	23.3			細砂粒含む 淡黄褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 体部寛撫で	
2	土師器 床面		24.8			細砂粒含む 赤褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 体部寛撫で	広口
3	土師器 壺	+33				砂粒含む 橙褐色 良	外 胴部寛削り 内 体部寛撫で	底面片
4	土師器 壺	+20	15.0			細砂粒含む 淡黄褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 体部寛撫で	
5	土師器 坏	+18	12.6	3.4		微砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 体部寛削り 内 口縁部横撫で 体部寛撫で	
6	土師器 坏	+12	12.3	3.1		微砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 体部寛削り 内 口縁部横撫で 体部寛撫で	外周底部に墨書「万」か
7	土師器 坏	+44	13.0	3.3		微砂粒含む 暗黒褐色 良	外 口縁部横撫で 体部寛削り 内 口縁部横撫で 体部寛撫で	
8	土師器 坏	+14	13.6	4.2	8.0	微砂粒含む 淡橙褐色 良	外 口縁部横撫で 体部寛削り 内 口縁部横撫で 体部寛撫で	平底
9	土師器 坏	+22	12.9	4.3	6.6	赤色粒子含む 橙褐色 良	外 口縁部横撫で 底面寛削り 内 口縁部横撫で 体部寛撫で	平底
10	土師器 坏	+14	12.3			微砂粒含む 淡橙褐色 良	外 口縁部横撫で 体部寛削り 内 口縁部横撫で 体部寛撫で	
11	須恵器 坏	+9	13.1	4.4	6.7	微砂粒含む 灰白色 普通	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	完形
12	須恵器 坏	+2	(13.0) (7.0)	3.5		微砂粒含む 灰白色 普通	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 後寛削り	
13	須恵器 坏	+20	14.4 (9.4)	(3.7)		微砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
14	須恵器 坏	+27	(14.7) (9.7)	4.0		微砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り	
15	須恵器 坏	+34	(6.4)			細砂粒含む 灰色 普通	ロクロ成形 底部寛削り	
16	須恵器 蓋	+19	(13.5)			細砂粒含む 明灰白色 普通	ロクロ成形	つまみ部欠 器面荒れている
17	鉄製品	+24					植鉢か。長さ8.1cm、幅1.4cm、厚さ0.7cm、重さ9.9g。先端部を欠く。	

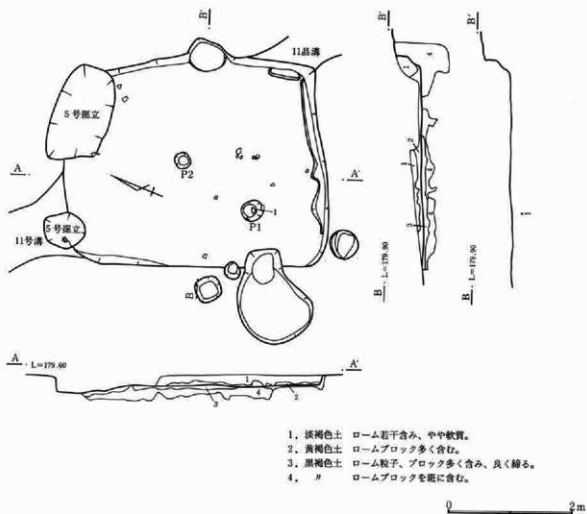
## 19号住居跡 (第269~270図、PL28)

O-17グリッドに位置する。隅丸長方形を呈し、規模は4.2m×3.3mである。11号溝が東から西に向かって本跡を切って走る。さらに、北西コーナーには5号掘立柱建物跡の柱穴が重複する。各壁はほぼ垂直に掘り込まれている。

竈、炉跡は検出されず、時期は確定できない。床面は平坦であるが踏み固められた様子は見られない。南壁下の一部に周溝が見られる。径20~30cmのピットが3箇所見られる。

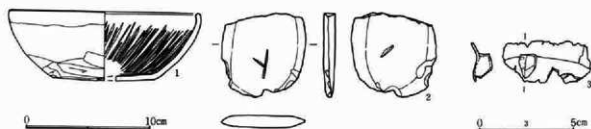
出土遺物はほとんど無く、坏、砂岩製の磁石と思われる石製品、鉄製品が見られたのみである。

第3章 検出された遺構と遺物



1. 淡褐色土 ローム若干含み、やや軟質。
2. 黄褐色土 ロームブロック多く含む。
3. 黒褐色土 ローム粒子、ブロック多く含み、良く締る。
4. *カ* ロームブロックを底に含む。

第269図 19号住居跡



第270図 19号住居跡出土遺物

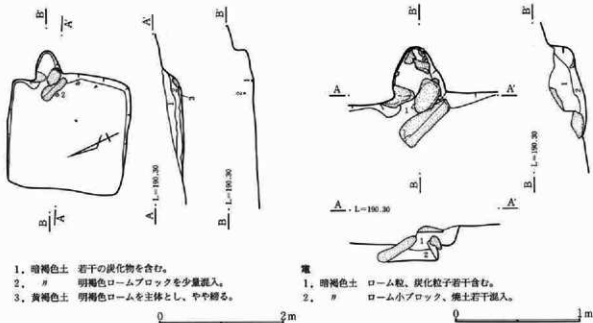
19号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 杯	床面	15.4 (8.1)	5.4	微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 体部並削り 内 口縁部横撫で 体部削で	内面暗文
2	砥石	覆土	長さ6.6cm、幅0.95cm、厚さ6.3cm、重さ53g、				石材は中伏砂岩。偏平で側縁は薄く尖り、刃部状となる。	
3	鉄製品	覆土	飾り金具か。長さ4.9cm、幅2.1cm、厚さ1.1cm、重さ3.9g。榫を持つ薄板に五角形の箱状突起が付く。					

20号住居跡 (第271・272図、PL28)

O-12グリッドに位置する。小形の住居跡で隅丸方形を呈す。壁、床面共に明確には検出し得なかった。竈付近から若干の環の破片がやや浮いた状態で出土したのみである。竈にはかなり大きな石が使われており、それらが、崩れ落ちた状態で前面より検出されている。火床面には若干の焼土が見られた。

出土遺物は僅かに環の破片が見られたのみである。



1. 暗褐色土 若干の炭化物を含む。  
 2. # 明褐色ロームブロックを少量混入。  
 3. 黄褐色土 明褐色ロームを主体とし、やや締る。

- 竈  
 1. 暗褐色土 ローム粒、炭化粒子若干含む。  
 2. # ローム小ブロック、焼土若干混入。

第271図 20号住居跡及び竈



第272図 20号住居跡出土遺物

20号住居跡出土遺物観察表

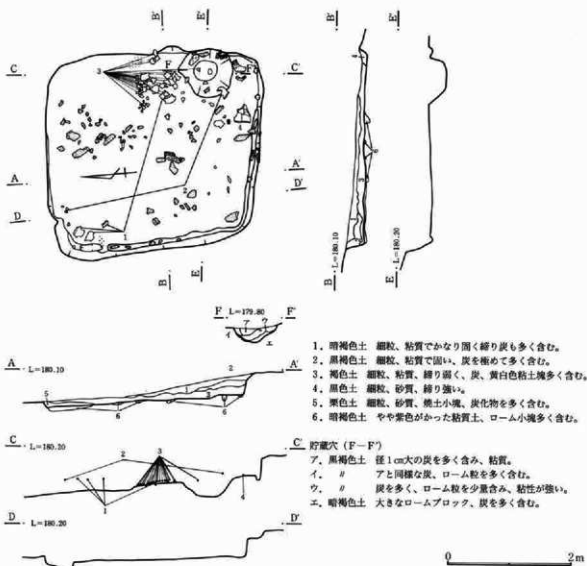
図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器高	胎土 器成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 環	竈	(12.0)	細砂粒含む 良	明褐色	外 口縁部横無で 体部腹削り 内 口縁部横無で 体部腹無で	
2	須恵器 環	+12	(14.0)	細砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	口縁部片

21号住居跡 (第273~275図、PL28)

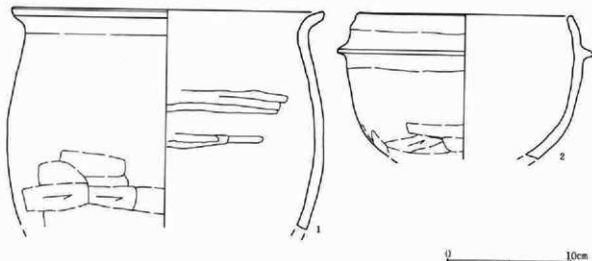
P-24グリッドに位置する。形状はやや歪んだ方形を呈す。規模は3.4m×3.1mである。竈のある東壁および北壁は削平されており、遺存状況が悪く、他の壁は高さ20~30cmである。

床面は若干の凹凸を持つが、竈前面で比較的平坦で堅固な状況の良い部分が見られた。貯蔵穴は南東隅に検出されている。円形で、深さは20cm程である。出土遺物は甕、羽釜、坏類が竈前面部分に集中して出土している。

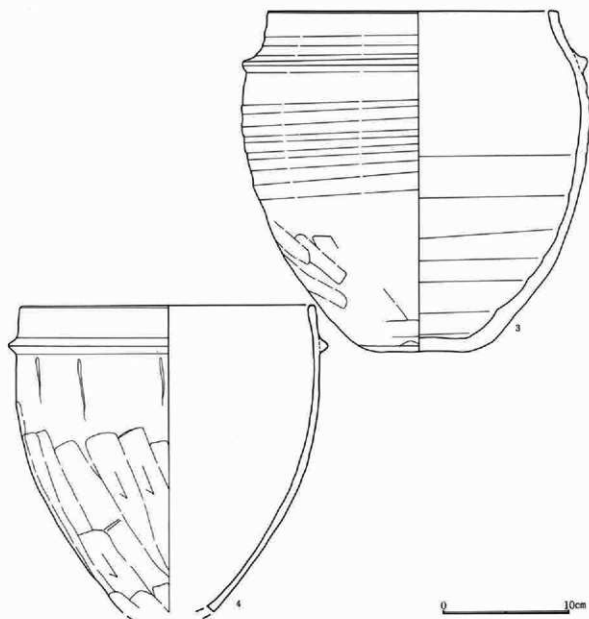
第3章 検出された遺構と遺物



第273図 21号住居跡



第274図 21号住居跡出土遺物(1)



第275図 21号住居跡出土遺物(2)

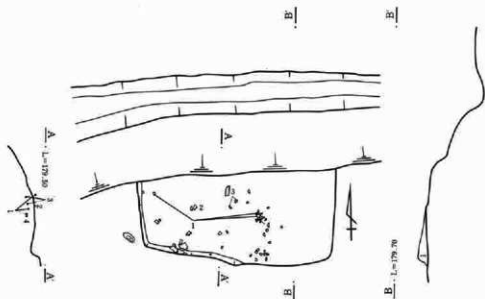
21号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	器 高 (cm)	胎土 焼 成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土蓋	+4	25.0		細砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横線で 胴部笠削り 内 口縁部横線で 体部笠削り	
2	羽蓋	+18	17.3		細砂粒含む 良	赤褐色	ロクロ成形 胴下半部笠削り口縁部横 線で	器高短い
3	羽蓋	床面	23.0 7.7	27.4	微砂粒含む 良	赤褐色	ロクロ成形	
4	羽蓋	床面	23.8		細砂粒含む 良	赤褐色	ロクロ成形 胴下半部笠削り	

## 22号住居跡 (第276・277図、PL.29)

〇-25グリッドに位置する。調査区北端に検出、半分以上を溝に削り取られている。さらに南東部に土坑が重複しており、遺存状態は極めて悪い。形状は不明で規模は3.2m×(1.4)mである。床面もはっきりとは検

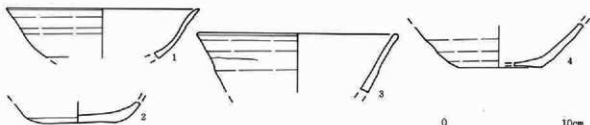
第3章 検出された遺構と遺物



1. 暗褐色土 少量のローム粒含み、炭化物、焼土粒多量混入。

第276図 22号住居跡

0 2m



第277図 22号住居跡出土遺物

22号住居跡出土遺物観察表

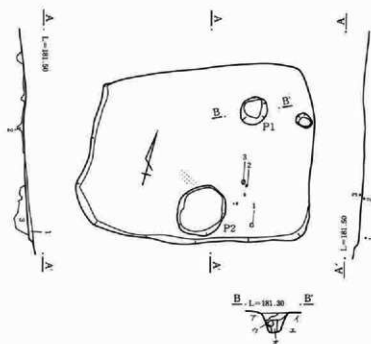
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 径 径 (cm)	器 高 (cm)	胎 土 成 色 調	成・整形の特徴	備考
1	須形器 坏	床面	(15.2)		細砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形	
2	須形器 坏	床面	(5.8)		細砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
3	須形器 坏	床面	(15.9)		細砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形	
4	須形器 坏	床面	(6.6)		細砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	

出でず、凹凸を持つ。出土遺物は少ない。

23号住居跡 (第278・279図、PL29)

P-26グリッドに位置する。ほとんど削平されており、西および南壁のみ認められたにすぎない。床面の状況は比較的平坦で、締っている。竈も確認されなかった。

出土遺物は少ない。



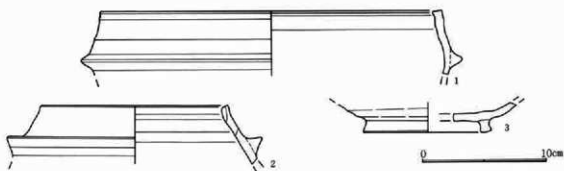
第278図 23号住居跡

1. 暗褐色土 炭化物を少量含む。細粒だがあまり締りがない。
2. " 炭化物の大きな塊を多く含む。
3. 黒褐色土とロームの複合土 固く締る。

柱穴 (P1)

- ア、黒色土 焼土粒、炭化物を少量含む。  
 イ、暗褐色土 細粒だがあまり締りなし。含有物はアとほぼ同じ。  
 ウ、黒褐色土 ロームブロックを含む。  
 エ、ロームと黒褐色土の複合土。  
 オ、褐色土 細粒だが締りがない。ローム粒を少量含む。

0 2m



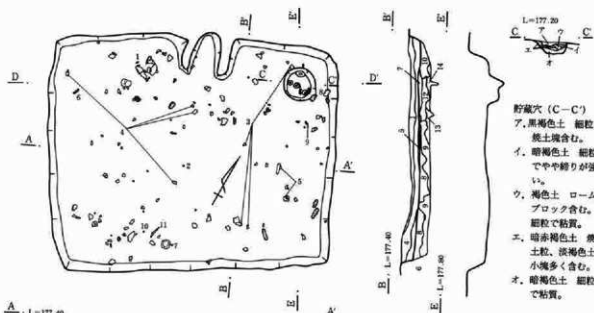
第279図 23号住居跡出土遺物

23号住居跡出土遺物観察表

図番号	種類	出土位置 (cm)	口径器高 (cm)	胎土 器成	色調	成・整形の特徴	備考
1	羽釜	床面	(13.5)	細砂粒含む 良	赤褐色	ロクロ成形	
2	羽釜	床面	(14.8)	細砂粒含む 良	赤褐色	ロクロ成形	
3	須恵器 埴	+2	(5.0)	細砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形 底部回転糸切り 付け高台	(左)

24号住居跡 (第280～282図、PL29)

R-31グリッドに位置する。長方形を呈し、規模は4.6m×3.7mである。壁はかなり垂直に掘り込まれており遺存する高さは20～25cmである。床面はやや凹凸を持ち締っている。竈は袖部分が馬蹄形に住居内に張り出す。焚口幅45cmで長さ70cmである。貯蔵穴は径50cmで深さ15cmである。出土遺物は埴、坏類である。



貯蔵穴 (C-C')

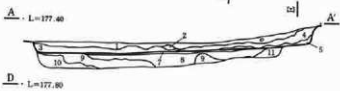
ア、黒褐色土 細粒、  
焼土塊含む。

イ、暗褐色土 細粒  
でやや締りが強い。

ウ、褐色土 ローム  
ブロック含む。  
細粒で粘質。

エ、暗赤褐色土 焼  
土粒、淡褐色土  
小塊多く含む。

オ、暗褐色土 細粒  
で粘質。

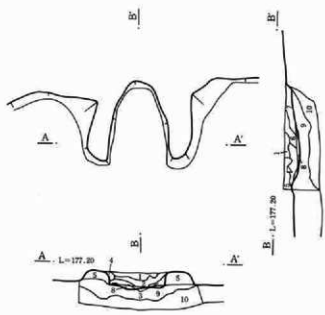


7. # ロームと黒色土の混土、かなり締る。
8. 褐色土 焼土塊を多く、炭化物少量含む、かなり粘質。
9. 暗褐色土 細粒で粘質。焼土粒、炭化物少量含む。
10. 黒褐色土 細粒で粘質。淡褐色土ブロック茎を含む。

11. ローム
12. 灰白色粘質土 ローム小塊、褐色土小塊少量含む。
13. 黄褐色土 ロームブロックを含む。
14. 暗褐色土 灰白色粘土塊を含む。

- 280回
1. 暗褐色土 細粒、炭化物、焼土粒を少量含む。
2. 黒褐色土 焼土小塊少量含む。
3. # 細粒、粘質だが締りが強い。
4. 褐色土 淡褐色ローム少量含む。粗粒で締りが強い。
5. 明褐色土 ロームブロックを多く含む。粗粒。
6. 黒褐色土 細粒、粘質で締る。炭を若干含む。
- 0 2m

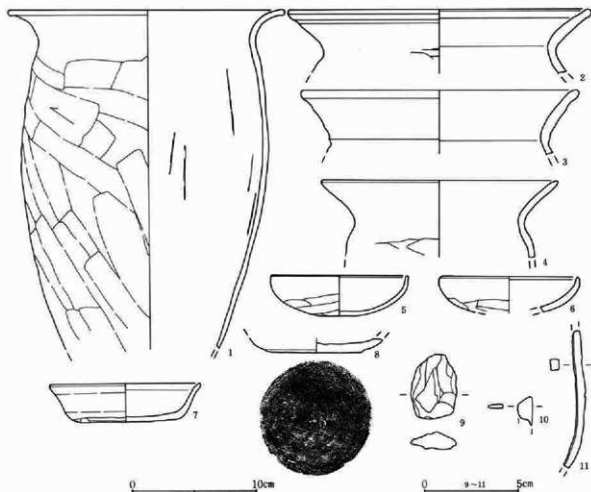
第280図 24号住居跡



1. 暗褐色土 大形の焼土ブロック、灰白色粘土小塊少量含む。
2. 暗赤褐色土 焼土粒、炭を少量含む、全体に粗粒で無締。
3. # 焼土塊の含まれ方が2層よりかなり多い。
4. 赤褐色土 焼土化した粘土塊。
5. 褐色土 細粒、砂質で締りが強い。
6. 黒褐色土 焼土粒、炭化物を僅かに含む。細粒でやや粘質。
7. 暗赤褐色土 焼土粒、炭化物を多く含む、粗粒で無締。
8. 焼土
9. 暗褐色土 細粒だが締りが強い。ロームの小ブロック含む。
10. 黒褐色土 細粒で粘質。ローム粒を多く含む。
- 0 1m

第281図 24号住居跡





第282図 24号住居跡出土遺物

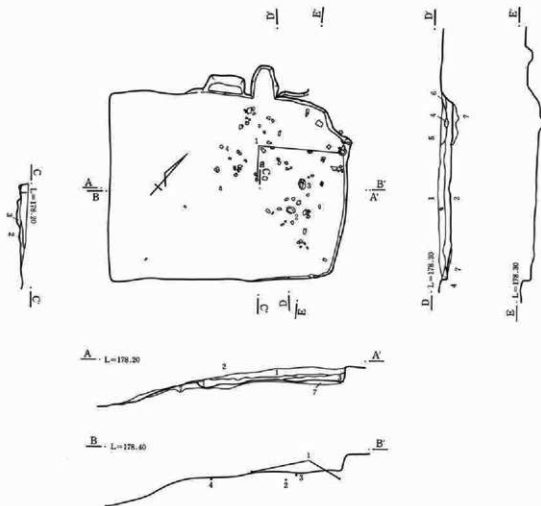
24号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 壺	+1	21.8		微砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 体部直削り	
2	土師器 壺	+13	(24.0)		細砂粒含む 良	明茶褐色	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 体部直削り	
3	土師器 壺	床面	(22.0)		細砂粒含む 良	明茶褐色	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 体部直削り	
4	土師器 壺	床面	18.8		細砂粒含む 良	明茶褐色	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 体部直削り	
5	土師器 杯	+2	11.1	3.2	微砂粒含む 良	褐色	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部直削り	
6	土師器 杯	+5	11.2		微砂粒含む 良	褐色	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部直削り	
7	須恵器 杯	+4	12.0 8.9	3.0	微砂粒含む 良	灰色	口縁部横線で 胴部直削り 口縁部横線で 体部直削り	完形
8	須恵器 杯	+7	(8.0)		微砂粒含む 良	灰色	口縁部横線で 胴部直削り 口縁部横線で 体部直削り	
9	滑石 石片	床面	長さ2.9cm、幅2.4cm、厚さ0.9cm、重さ8.9g。全体にやや風化、層状の摂理を持つ。					
10	鉄製品	+4	刀子。長さ1.45cm、幅0.75cm、厚さ0.3cm、重さ0.3g。刀子の先端部片。					
11	鉄製品	+4	釘。長さ7.2cm、幅0.5cm、厚さ0.45cm、重さ3.3g。端部を欠く。					

第3章 検出された遺構と遺物

25号住居跡 (第283~285図、PL29)

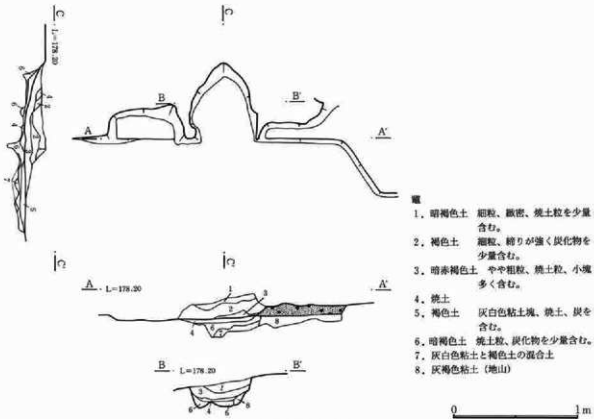
Q-31グリッドに位置する。長方形を呈し、規模は(3.7m×(2.9)mである。西壁は削平されている。床は東側約半分程は状態良く残るが、北側は削られている。竈は北壁に作られており、V字状に壁外に掘り出されている。出土遺物は台付甕、坏類が見られた。



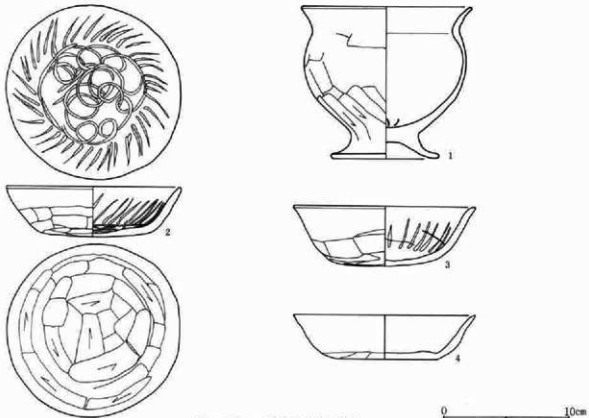
1. 暗褐色土 細粒で締る。炭化物、焼土粒少量含む。
2. 褐色土 黄灰色粘土塊を多く含む。
3. 黒褐色土 細粒で粘質。炭化物、黄灰色粘土塊少量含む。
4. 黒色土 細粒、粘質、締りが強い。
5. 黒褐色土 細粒、粘質、炭化物を若干含む。
6. 暗褐色土 やや粗粒で締りが弱い。炭化物を若干含む。
7. # 粘質で炭化物、焼土粒多く含む。

0 2m

第283図 25号住居跡



第284図 25号住居跡竈



第285図 25号住居跡出土遺物

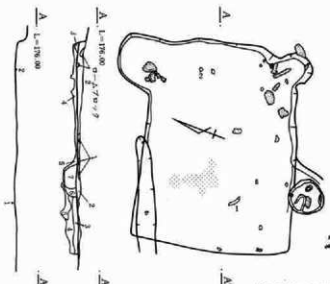
### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 25号住居跡出土遺物調査表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器種 (cm)	径高 (cm)	胎土 構成	色調	成・整形の特徴	備考	
1	土師器 台付甕	床面	13.4	12.2	赤褐色粘土含む 普通	赤褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部発削り 体部直撫で	
2	土師器 環	床面	13.8 (8.0)	(4.1)	砂粒含む 良	褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部底部発削り 体部直撫で	内面 底部螺旋状 体部放射状暗文
3	土師器 環	床面	14.7	4.7	細砂粒含む 良	灰褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部底部発削り 体部直撫で	内面暗文
4	土師器 環	床面	(14.4)	(3.5)	細砂粒含む 良	灰褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部底部発削り 体部直撫で	表面やや風化

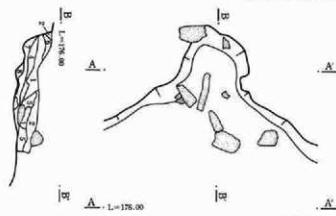
#### 26号住居跡 (第286~288図、PL29)

R-46グリッドに位置する。規模は(3.3)m×2.4mである。方形を呈し北東部に近世の土坑が重複する。壁高は15cm平均であるが、北、西壁はほとんど認められなかった。床面は竈の前面と西隅の一部に、比較的しっかりした面が見られた。竈はかなり崩れており下部のみが検出されている。出土遺物は少ない。



第286図 26号住居跡

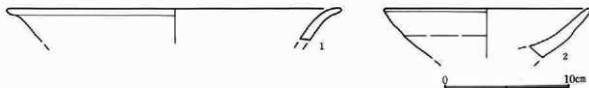
1. 黒褐色土 ローム粒少量混入。細粒で締りの強い土。
2. 暗褐色土 大きめのローム粒混入し細粒で弱締。
3. 暗灰褐色土と黄褐色土の混合土。
4. 黄褐色土 灰褐色土のブロック混入。
5. 暗褐色土 4層に非常に近い。ロームブロック混入。
6. 暗黄褐色土 黒褐色土ブロック混入。
7. 暗褐色土 赤褐色土多量に混入。



第287図 26号住居跡竈

1. 暗褐色土 ローム粒多量の焼土粒混入。粗粒で脆い。
2. 黒褐色土 ローム粒多く混入。炭化物若干含む細粒。
3. 褐色土 ローム粒多量に混入。細粒で粘性あり。
4. 褐色土 焼土粒、ローム粒混入。細粒で締りある土。
5. 暗褐色土 ローム粒、焼土粒少量混入。細粒で締る。
6. # 1層に近似。径5mm大のローム粒子混入。
7. 黒褐色土とロームブロックの混合土 細粒で脆い。
8. ローム層

0 1 m



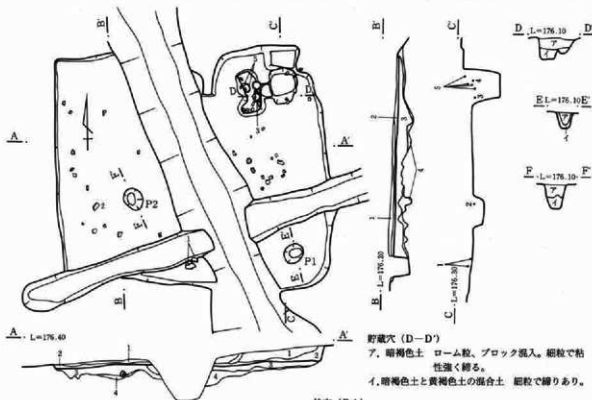
第288図 26号住居跡出土遺物

26号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口・底径 高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 壺	床面	(28.4)	微砂粒含む 良	暗褐色	口縁部横断で	
2	土師器 坏	床面	(16.2)	微砂粒含む 良	淡褐色	横断で	

32号住居跡 (第289~291図, PL30)

S-46グリッドに位置する。形状は方形で、規模は4.3m×3.9mである。東壁を除き遺存状況は悪い。1号溝がほぼ中央を走り、南部分にも耕作溝が東西に走る。床面はローム層の面に薄い張り床がなされている。貯蔵穴は北東に在り下面に粘土が貼られている。竈は削られており袖部が僅かに残るが状況は極めて悪い。小ピットが3カ所認められたが柱穴とは認定できなかった。出土遺物は台付甕、坏類が検出されている。



貯蔵穴 (D-D')  
 ア、暗褐色土 ローム粒、ブロック混入。細粒で粘性強く締る。  
 イ、暗褐色土と黄褐色土の混合土。細粒で締りあり。

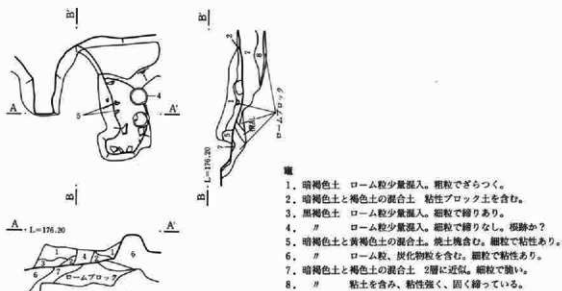
柱穴 (P 1)  
 ア、黒褐色土 ローム粒少量混入。細粒で締り弱い。  
 イ、# ローム粒、ロームブロック混入。細粒で締り弱い。

柱穴 (P 2)  
 ア、黒褐色土 ローム粒少量混入。細粒で締り弱い。  
 イ、暗褐色土 褐色土ブロック混入。細粒で粘性あるが締り弱い。

1. 黒褐色土 ローム粒少量混入。細粒で締り弱い。
2. 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック混入。締り弱い。
3. 暗褐色土と黄褐色土の混土 粗粒。
4. 暗褐色土 粘土。

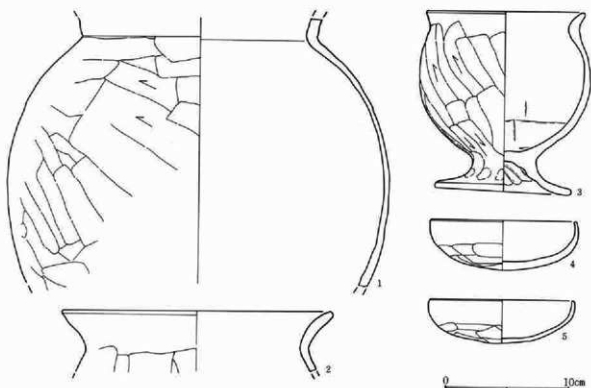
第289図 32号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第290図 32号住居跡竈

0 1m



第291図 32号住居跡出土遺物

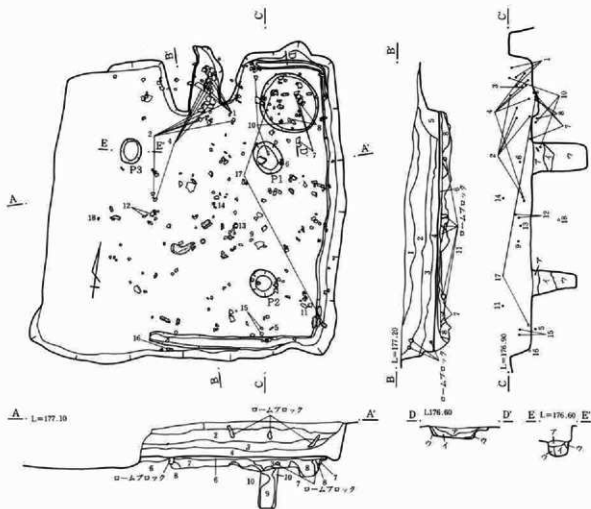
32号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	+1			細砂粒含む 普通	暗褐色	外 口縁部横溝で 胴部寛削り 内 口縁部横溝で 体部寛削り	
2	土師器 甕	+15	22.1		細砂粒含む 普通	暗褐色	外 口縁部横溝で 胴部寛削り 内 口縁部横溝で 体部寛削り	

3	土師器	貯蔵穴	12.8	14.0	微砂粒含む 赤褐色	外	口縁部横溝で	胴部直削り	
	土師器	台付罎	11.0		良	内	口縁部横溝で	体部直削り	
4	土師器	貯蔵穴	11.8	3.8	細砂粒含む 橙褐色	外	口縁部横溝で	体部直削り	
	土師器	罎			普通	内	口縁部横溝で	体部直削り	
5	土師器	貯蔵穴	11.7	3.4	細砂粒含む 橙褐色	外	口縁部横溝で	体部直削り	
	土師器	罎			普通	内	口縁部横溝で	体部直削り	

37号住居跡 (第292~294図, PL30)

S-45グリッドに位置している。36号住居跡の南部分に重複し、82号住居跡に一部切られている。規模は



1. 暗褐色土 ローム粒及び、若干の炭化物混入。
2. # ロームブロック、ローム粒、軽石混入。
3. 黒褐色土 多量のローム粒、炭化物混入。細粒で脆い。
4. # 炭化物及び、ローム粒少量混入。
5. 黒褐色土と黄褐色土の混合土 炭化物粒少量混入。細粒。
6. 暗褐色土 ローム粒、ブロック、炭化物粒混入。細粒で締る。
7. 黄褐色土と暗褐色土の混合土 炭化物混入。細粒で締る。
8. 暗褐色土 ローム粒多量に混入。固くざらざらしている。
9. 黒褐色土 大きなロームブロック混入。細粒で締りなし。
10. 褐色土 ロームブロック漸移層
11. 黒褐色土と黄褐色土の混合土 細粒で粘性があり締る。

貯蔵穴 (D-D')

- ア. 黒褐色土 ローム、焼土、炭化物混入。細粒で締る。
- イ. 暗灰褐色土 ローム、焼土、炭化物粒混入。粘性あり。
- ウ. 黄褐色土 ローム層

柱穴 (P1~P3)

- ア. 黒褐色土 ローム粒、炭化物粒混入。細粒で脆い。
- イ. 黒褐色土 ローム粒多量に混入。細粒で締りなし。
- ウ. 暗褐色土 ローム粒混入。細粒で粘性なし。

0 2m

第292図 37号住居跡

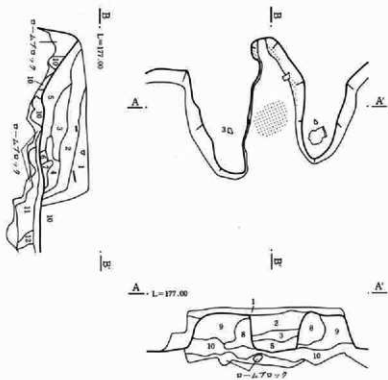
### 第3章 検出された遺構と遺物

4.8m×4.7mである。壁高は平均70cmでほぼ垂直に立ち上がる。床面は黒褐色土と黄褐色土の混土で張り床をつくり、南西部分では張り替えがなされている。

柱穴は3本が確認されているが、残りの1本は他住居との重複部分に在るために確認できなかった。周溝はほぼ全周。竈の右脇に底面に粘土が貼られた浅い落ち込みが検出され、中から坏が出土している。

竈は北壁のほぼ中央に在り、煙道部分が耕作溝によって壊されている。袖部分は黒褐色土とローム、粘土の混合土で作られ、住居内に張り出している。

出土遺物は甕、坏類を中心とするが、手捏ね土器も検出されている。



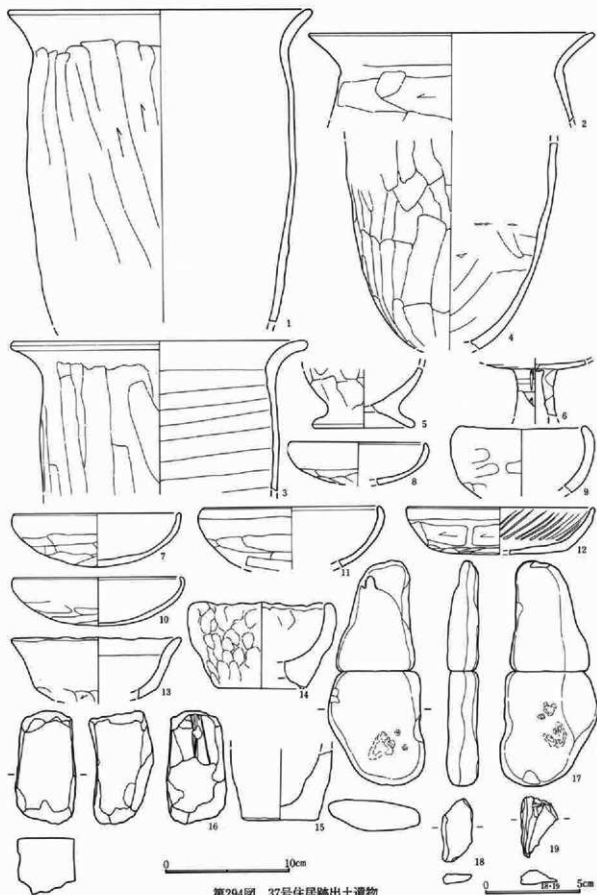
■

1. 暗褐色土 A 軽石、焼土、ローム粒少量混入。
2. # 粘土塊が多量に混入し、細粒で粘性あり。
3. 黒褐色土 焼土、炭化物粒混入。ローム少量含む。
4. 暗褐色土 2層に近似、粘土塊、焼土粒混入。細粒粘性あり。
5. 黒褐色土 焼土、炭化物粒多量混入。細粒で脆い。
6. 暗褐色土と黄褐色土の混合土 細粒で締り弱い。
7. 黒褐色土 焼土、炭化物粒、ロームブロック混入し締る。
8. 暗赤褐色土 焼土塊多量に混入。細粒で固く締る。
9. 暗褐色土 焼土粒微量混入する固く締った粘土層。
10. 暗褐色土と褐色土の混合土 炭化物粒少量混入。細粒で締る。
11. 暗褐色土と黄褐色土混合土 ローム塊状に混入。細粒で締り弱い。
12. 暗褐色土 ロームブロック、焼土粒少量混入。細粒で締り弱い。

0 1m

第293図 37号住居跡竈





第294図 37号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

37号住居跡出土遺物観察表

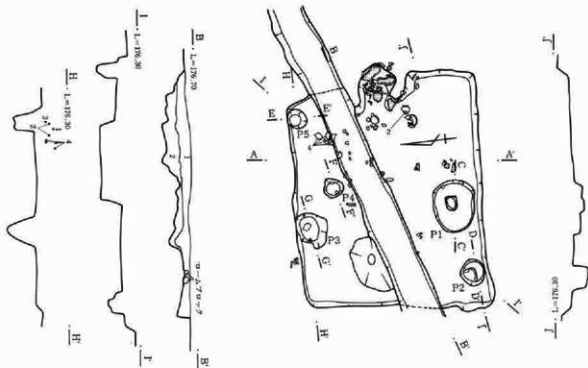
図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 壺			23.9	細砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部瓦削り 体部瓦削り
2	土師器 壺		(23.0)		細砂粒含む 良	暗褐色	外 口縁部横撫で 内 撫で	胴部瓦削り 体部瓦削り
3	土師器 壺			24.0	細砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部瓦削り 体部瓦削り
4	土師器 壺				砂粒含む 良	赤褐色	外 胴部瓦削り 内 撫で	
5	土師器 台付壺			8.2	微砂粒含む 良	黒褐色	外 横撫で 内 横撫で	胴部瓦削り
6	須恵器 高 坏	+21			細砂粒含む 良	灰褐色	外 横撫で 内 横撫で	上下2段で3単位の 透かし孔
7	土師器 坏	貯蔵穴	13.4	4.2	微砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部瓦削り 体部撫で
8	土師器 坏	貯蔵穴	11.1		微砂粒含む 良	褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部瓦削り 体部撫で
9	手捏ね 土器	+20	(10.3)		微砂粒含む 良	灰褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部瓦削り 体部撫で
10	土師器 坏	ピット	13.9	3.8	微砂粒含む 良	褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部瓦削り 体部撫で
11	土師器 坏	+45	14.7		微砂粒含む 良	褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部瓦削り 体部撫で
12	土師器 坏	+19	15.7	3.7	微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部瓦削り 体部撫で
13	手捏ね 土器	+16	13.7		微砂粒含む 良	灰褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部下段瓦削り 体部撫で
14	手捏ね 土器	+45	11.5		微砂粒含む 良	灰褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部撫で 指頭瓦削り著
15	手捏ね 土器	+20		6.2	微砂粒含む 良	灰褐色	内外面指圧痕著	底部木葉痕
16	石 器	床面	長さ8.9cm、幅4.8cm、	厚さ4.45cm、	重さ261g、	石材は磁沢石。		
17	砥 石	+3	長さ7.6cm、幅7.2cm、	厚さ2.4cm、	重さ314g、	石材は牛伏砂岩。不定形。両面を使用。		
18	滑 石 石 片	床面	長さ3.35cm、幅1.55cm、	厚さ0.5cm、	重さ2.9g、	側縁に磨板が観察される。		
19	滑 石 石 片	覆土	長さ3.2cm、幅1.9cm、	厚さ0.8cm、	重さ4.3g、	三角形を呈す。1辺に磨板痕。		

39号住居跡 (第295～297図、PL30)

R-45グリッドに位置する。方形を呈し、規模は3.7m×3.0mでやや小形の住居跡である。3号溝が西壁から北東隅にかけて走っている。住居の壁高は10～20cmと低く、あまり遺存状況は良くなく、やや土質が脆くかなり崩落した部分も見られた。

床面は竈の前がやや固くなっている他は軟弱である。竈は東壁ほぼ中央に在り、燃焼部、天井部に使われていた石が落ち込んだ状態で検出されている。床下土坑が3カ所に検出されている。

出土遺物は竈前面において小型の瓦類が出土している。



C, L=177.50

D, L=177.50

G, L=177.50

F, L=177.50

E, L=177.50

A, L=176.80

柱穴 (P1)

- ア, 黒褐色土 細粒で締る。  
 イ, 褐色土 黒褐色土ブロック少量混入、細粒で締りなし。

柱穴 (P2)

- ア, 黒褐色土 褐色土ブロック混入、細粒で締る。  
 イ, 黒褐色土と褐色土の混土、細粒で詰い。

柱穴 (P3)

- ア, 黒褐色土 ローム粒混入、細粒で締る。  
 イ, 褐色土 ローム粒少量混入、細粒で締りあり。  
 ウ, 褐色土と暗褐色土の混土、細粒で締りなし。

- 1, 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒混入、細粒で詰い。  
 2, 暗褐色土 積乱土。

柱穴 (P4)

- ア, 暗褐色土 ローム粒子少量混入、細粒で締りあり。  
 イ, 褐色土 ロームブロック。

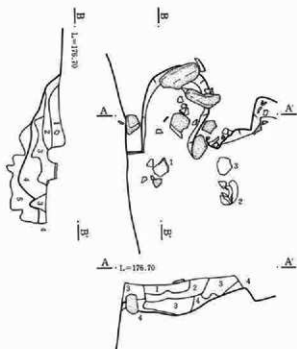
柱穴 (P5)

- ア, 黒褐色土 ローム粒少量混入、細粒で締る。  
 イ, # ロームブロック少量混入、細粒。

0 2m

第295図 39号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

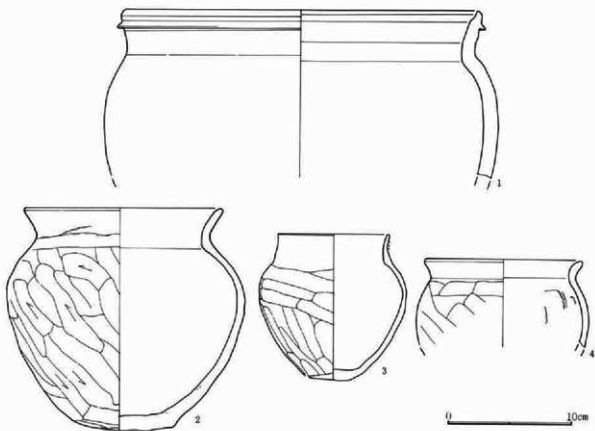


■

1. 黒褐色土 ローム粒多量混入。細粒で締りなし。
2. 暗褐色土 ローム粒、焼土混入。細粒で締りなし。
3. 黒褐色土 ローム粒、焼土混入。細粒だが強い。
4. 暗褐色土 ローム多量混入。
5. 黄褐色土 黒色土混じりのローム層。

第296図 39号住居跡電

0 1m



第297図 39号住居跡出土遺物

39号住居跡出土遺物観察表

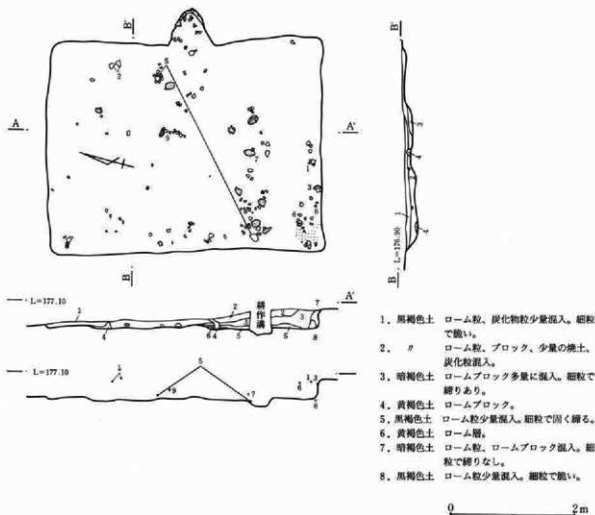
図番号	遺物	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	高 (cm)	胎土 焼 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 台付壺	+32	(28.0)		微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横溝で 胴部蓋用り 内 口縁部横溝で 胴部蓋用り	
2	土師器 壺	+25	16.0	17.5	細砂粒含む 良	黒褐色	外 口縁部横溝で 胴部蓋用り 内 口縁部横溝で 胴部蓋用り	
3	土師器 台付壺	+19	9.0		微砂粒含む 良	暗赤褐色	外 口縁部横溝で 胴部蓋用り 内 口縁部横溝で 胴部蓋用り	台部を欠く
4	土師器 壺	+21	12.8		砂粒含む 良	暗茶褐色	外 口縁部横溝で 胴部蓋用り 内 口縁部横溝で 胴部蓋用り	

## 40号一日住居跡 (図面なし)

形状、規模共に不明。40号-A住居跡の南部に重複しているが、大部分道路下に入るため全容は不明。

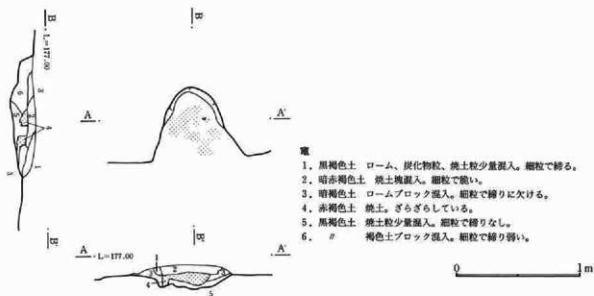
## 41号住居跡 (第298~300図、PL30)

S-45グリッドに位置するが削平が著しく形状は不明。床面は電前面に極一部やもしっかりした部分が認められた。東壁中央に焼土痕が見られ、竈位置と推定される。出土土器は坏、羽釜片、壺輪片などである。



第298図 41号住居跡

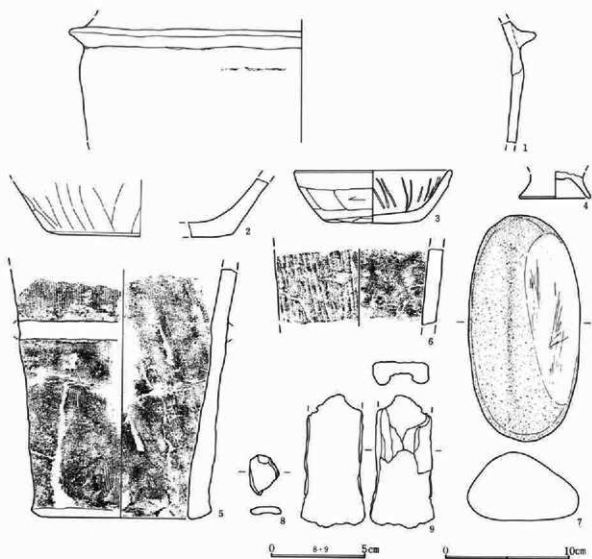
第3章 検出された遺構と遺物



竈

1. 黒褐色土 ローム、炭化物粒、焼土粒少量混入。細粒で締る。
2. 暗赤褐色土 焼土塊混入。細粒で締る。
3. 暗褐色土 ロームブロック混入。細粒で締りに欠ける。
4. 赤褐色土 焼土。ざらざらしている。
5. 黒褐色土 焼土粒少量混入。細粒で締りなし。
6. # 褐色土ブロック混入。細粒で締り弱い。

第299図 41号住居跡竈



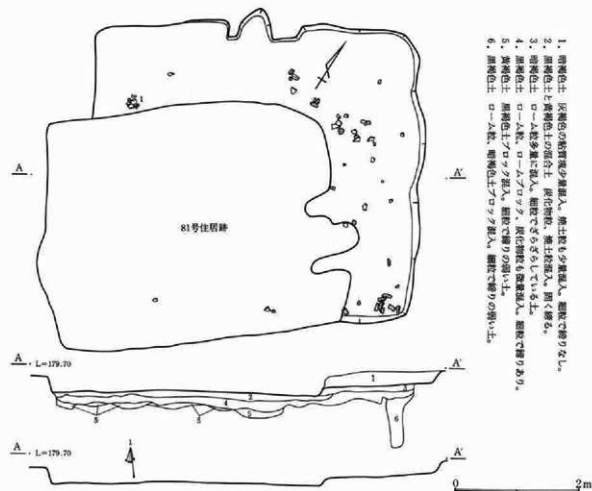
第300図 41号住居跡出土遺物

41号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径径(cm)	器 高 (cm)	胎土 成 色 調	成・整形の特徴	備 考
1	羽蓋	+26			砂粒含む 赤褐色 良	外 横撫で 内 胴部縦撫で	口縁部欠く
2	羽蓋	+25	15.2		砂粒含む 暗赤褐色 普通	ロクロ成形	底部片
3	土師細 杯	+25	12.7 7.7	4.1	細砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 体部縦刷り 内 口縁部横撫で 体部撫で後縦磨き	内面凹文
4	高台付 埴	+25		5.8	細砂粒含む 淡黄褐色 良	ロクロ成形	高台部のみ
5	円筒 埴輪	+2			砂粒含む 赤褐色 良	外 縦方向刷毛目 内 刷毛目、指撫で	覆部分を欠く
6	円筒 埴輪	+27			砂粒含む 赤褐色 良	外 縦方向刷毛目(粗) 内 指撫で	
7	磨り石	+10	長さ17.7cm、幅5.3cm、厚さ8.2cm、重さ1203g。石材はひん岩。良円形の鎌を使用、かなり摩耗した平滑な面一が顕見られる。				
8	滑石 石片	床面	長さ2.2cm、幅1.5cm、厚さ0.9cm、重さ2.2g。片側面に彫形痕。				
9	鉄製品	+15	斧。長さ7.0cm、幅3.35cm、厚さ1.1cm、重さ30.8cm。錆化が進み、部分的に層状剥離している。後部端欠損。				

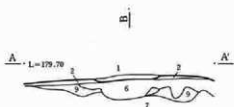
## 45号住居跡 (第301～303図、PL30)

V-44グリッドに位置する。52・81号住居跡と重複し、遺存状況は悪い。形状はほぼ方形を呈するものと



第301図 45号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物



電

1. 暗赤褐色土 焼土粒混入。粗粒でさらさらしている。
2. 暗褐色土 ローム粒少量の焼土粒混入。細粒で締りあり。
3. 黒褐色土 白色粘土ブロック混入。細粒で締りあり。
4. # ローム粒、焼土粒微量に混入。細粒で締りなし。
5. 赤褐色土 焼土。
6. 灰暗褐色土 ローム、焼土、炭化物粒、粘土混入し固く締る。
7. 黒褐色土 ロームブロック混入。細粒で固く締る。
8. 灰黒褐色土 ローム粒、ブロック、焼土粒混入。粘性あり。
9. 暗灰褐色土と褐色土の混合土 細粒で締りあり。
10. 黒褐色土 焼土粒、炭化物粒混入。細粒で締り弱い。

第302図 45号住居跡電

0 1m



第303図 45号住居跡出土遺物

0 10cm

#### 45号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	器 高 (cm)	胎 土 質	色 調	成・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	土部器 坏	+10	14.3	4.3	微砂粒含む 普通	橙褐色	外 口縁部横線で 体部彫削り 内 口縁部横線で 体部無で	

思われる。壁高はほとんど確認されず、床面も極一部を除き不明瞭。電は上面がほとんど削平されており、燃焼部最下面の焼土と若干の粘土、炭化物が確認されているに過ぎない。出土遺物は坏などの破片が少量見られた。

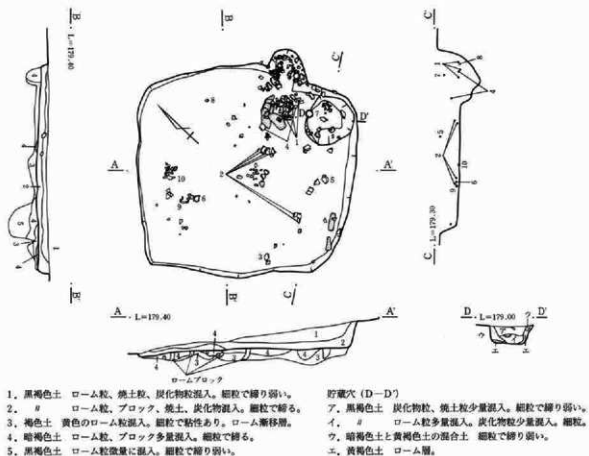
#### 47号住居跡 (第304～306図、PL30)

U-44グリッドに位置する。北西隅が僅かに44号住居跡に接する。規模は3.7m×3.4mで、平面形はほぼ正方形を呈す。緩く北に傾斜する場所に在るため、南壁の残りは良いが他はあまり良くない。床面は黒褐色土の張り床でかなり締っている。

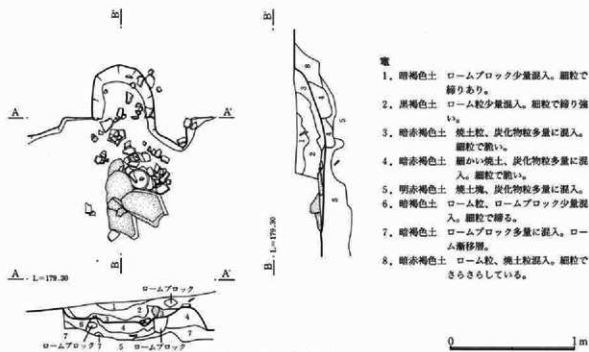
周溝、柱穴は見られなかった。電は東壁に作られているが、かなり崩れた状況であった。貯蔵穴は南東隅にあり土器の小片が出土している。

出土遺物は壺、高台付の埴の他に紡錘車、鎌などが出土している。



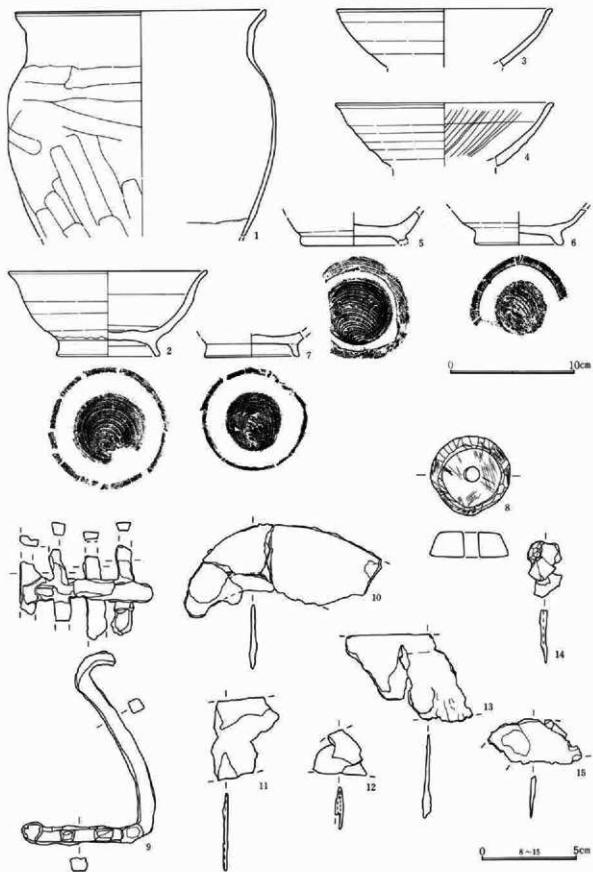


第304図 47号住居跡



第305図 47号住居跡電

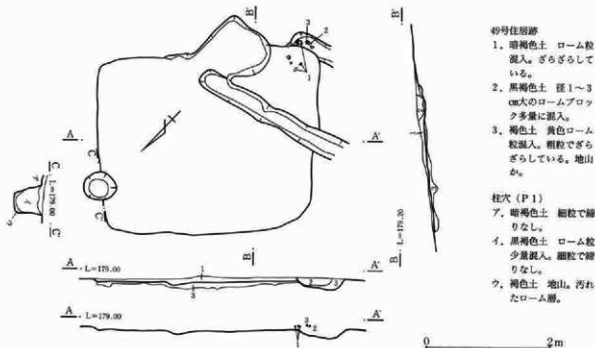
第3章 検出された遺構と遺物



第306図 47号住居跡出土遺物

47号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	底 径 (cm)	高 さ (cm)	胎土 焼 成	色調	成・整形の特徴	備考	
1	土師器 壺	+21	20.3			微砂粒含む 良	暗褐色	外口縁部横撫で 胴部置削り 内口縁部横撫で 胴部寛撫で		
2	須恵窯 高台埴	+3	(17.0) (8.4)	6.7		微砂粒含む 良	茶褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台		
3	須恵窯 埴	+10	(16.8)			細砂粒含む 良	淡赤褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 内 置磨き	内面黒色処理	
4	須恵窯 埴	+25	17.2			微砂粒含む 良	淡赤褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 内 置磨き	内面黒色処理	
5	須恵窯 高台埴	+32	(8.4)			微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	底部片	
6	須恵窯 高台埴	+5	(7.0)			微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	底部片	
7	須恵窯 高台埴	+50	7.6			微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	底部片	
8	紡錘車	+17	径4.2cm、厚さ1.3cm、重さ38.0g。石材は蛇紋岩。							
9	鉄製品	+3	鉄?不明。長さ7.0cm、幅4.7cm、高さ10.2cm、重さ54.8g。上端が鉤状に曲がるL字状のものに、4本の角棒が直行して付く。							
10	鉄製品	床面	鎌。長さ10.5cm、幅4.1cm、厚さ6.3cm、重さ22.7g。刃部先端部分で強く曲がる。							
11	鉄製品	覆土	鎌。長さ4.0cm、幅4.8cm、厚さ0.3cm、重さ8.2g。市広の刃部片。							
12	鉄製品	覆土	鎌。長さ3.2cm、幅2.6cm、厚さ0.5cm、重さ4.2g。刃部片、中空になっている。							
13	鉄製品	覆土	鎌。長さ6.6cm、幅4.6cm、厚さ0.4cm、重さ12.5g。刃部片。							
14	鉄製品	覆土	鎌。長さ2.0cm、幅3.2cm、厚さ0.45cm、重さ4.2g。刃部片。							
15	鉄製品	覆土	鎌。長さ4.7cm、幅2.5cm、厚さ0.25cm、重さ8.7g。刃部片でやや曲がりを持つ。							

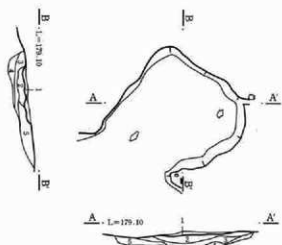


第307図 49号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 49号住居跡 (第307~309図、PL31)

V-46グリッドに位置する。50号住居跡と重複し、方形を呈すると思われるが、遺存状態が極めて悪く、壁高は計測不可能である。床面と思われる箇所が僅かに認められるに過ぎない。南東壁に竈があるが、少量の焼土が入った落ち込みとして観察されている。出土遺物は少ない。

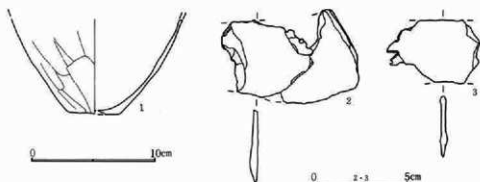


竈

1. 暗褐色土 ローム粒、焼土粒少量混入。細粒で締り弱い。
2. 暗赤褐色土 炭化物粒、焼土粒多量に混入。細粒で締りあり。
3. 黒褐色土 少量の焼土粒混入。細粒で締り弱い。
4. 黒褐色土と黄褐色土の混合土 ざらざらしている。
5. 暗褐色土 焼土粒多量混入。炭化物少量混入。細粒で締り弱い。

第308図 49号住居跡竈

0 1m



第309図 49号住居跡出土遺物

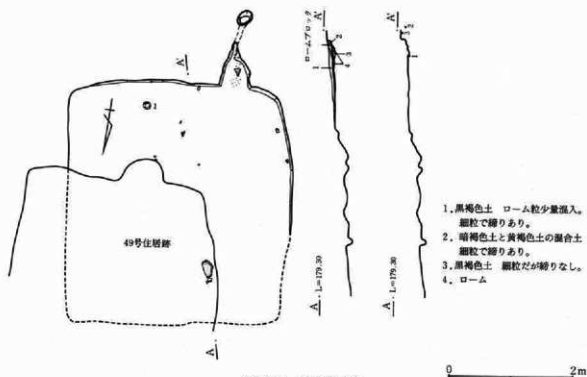
49号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 器底径 (cm)	器高	胎土 構成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 葉	+4	(4.2)		鐵砂粒含む	暗褐色	外 胴部厚削り 内 胴部寛無で	底部片
2	鉄製品	+5	鎌。長さ6.8cm、幅3.8cm、厚さ0.4cm、重さ27.0g。装着部分。					
3	鉄製品	+6	鎌。長さ4.7cm、幅3.2cm、厚さ0.4cm、重さ12.1g。刀部片。					

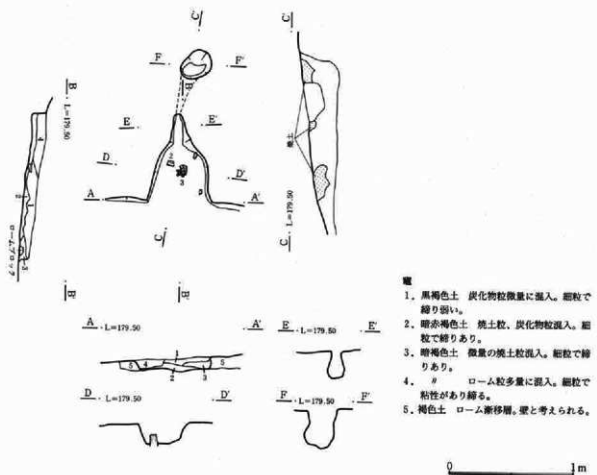
#### 50号住居跡 (第310~312図、PL31)

V-46グリッドに位置し、49号住居跡と重複しているが、同様に遺存状態は極めて悪く、南東部分に床面と思われる部分が検出されているに過ぎない。竈は最下部のみが残り、他は削平されている。

出土遺物は坏類の小破片のみで他にはほとんど見られない。

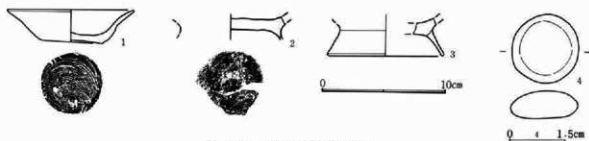


第310図 50号住居跡



第311図 50号住居跡竈

第3章 検出された遺構と遺物



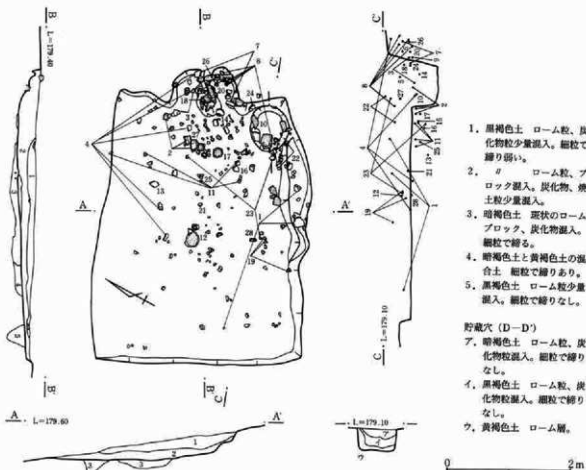
第312図 50号住居跡出土遺物

50号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径(cm)	径 高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 平	床面	(10.0)	2.5	微砂粒含む 普通	淡褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	完形
2	須恵器 高台壇	竈	4.7		微砂粒含む 普通	暗赤褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	高台部片
3	須恵器 高台壇	竈	(9.1)		微砂粒含む 普通	淡褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	高台部片
4	丸石	覆土	長さ1.8cm, 幅1.8cm, 厚さ0.7cm, 重さ3.3g.				石材は石英。基石状を呈す。丁寧に磨かれている。	

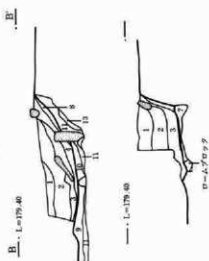
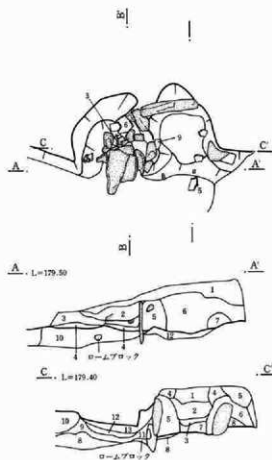
51号住居跡 (第313~316図、PL31)

V-45グリッドに位置する。長方形を呈し、規模は4.3m×(3.2)mである。壁は両側半分は比較的残りが良



第313図 51号住居跡

いが、北側はほとんど削平されている。床面は黄褐色土の張り床で、ローム層を浅く掘って客土している。竈は東壁に並んで2基作られている。北側のものが斬しく、構築材として細長い片岩が使用されており、内部に倒れかかる様な状態で出土しており、支脚も存在する。南側の竈も袖石、天井石がしっかり残っている。出土遺物は竈内部、前面より多くの坏、羽釜などが出土している。



- 10. 暗赤褐色土 焼土、炭化物粒混入。細粒でさらさらしている。
- 11. 褐色土 ローム粒多量に混入。ローム層移層?
- 12. # 暗褐色土ブロック、炭化物、焼土粒混入。細粒で粘質。
- 13. ローム

竈 (C-C'・D-D')

- 1. 暗褐色土 炭化物粒、ローム粒少量混入。細粒で締り強い。
- 2. 黒褐色土 ローム、炭化物、焼土粒、粘土ブロック少量混入。
- 3. # 焼土粒多量に混入。細粒で強い。
- 4. 暗褐色土とロームブロックの混合土 細粒で粘性質あり。
- 5. 暗褐色土 ローム粒、軽石 (B軽石) 混入。細粒。
- 6. 褐色土 ローム粒混入。
- 7. 暗褐色土 焼土焼多量に混入。細粒で締りあり。
- 8. 黄褐色土 ローム層。
- 9. # ざらざらした粒が多量に混入。
- 10. 暗褐色土 ローム粒少量混入。細粒で締りあり。
- 11. # 焼土、炭化物粒混入。細粒で締りあり。
- 12. 赤褐色土 焼土面。
- 13. 暗赤褐色土 焼土粒、炭化物粒多量に混入。細粒で強い。

竈 (A-A'・B-B')

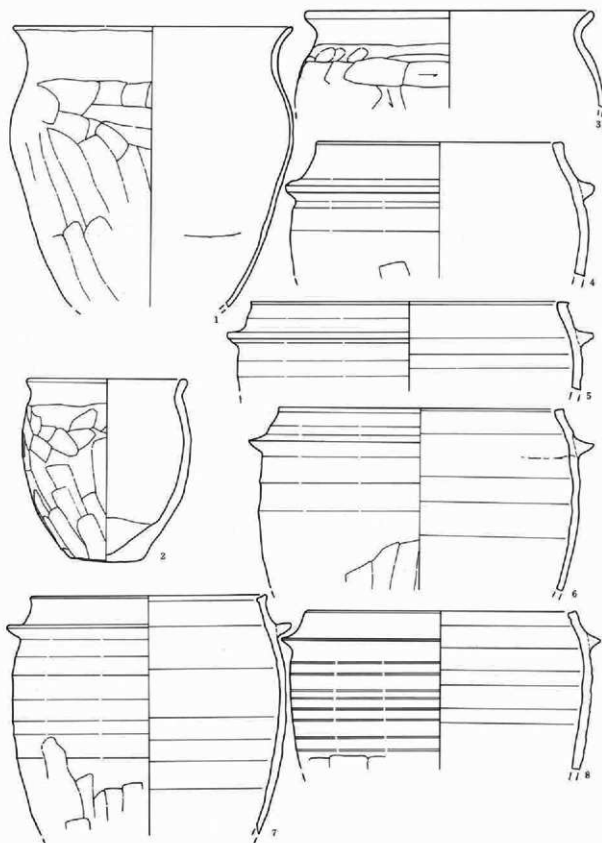
- 1. 暗褐色土 微量の炭化物、焼土粒ローム粒混入。細粒で締る。
- 2. 黒褐色土 1層に近似。細粒で1層よりも締りない。
- 3. # 炭化物、焼土粒混入。細粒で締りなし。
- 4. # 濃赤褐色の灰と焼土粒を混入。
- 5. # 灰褐色の粘土塊混入。
- 6. # 2層とほぼ同様だが、締りなし。
- 7. 灰黄褐色土 焼土、炭化物粒多量に混入。細粒で粘性が強い。
- 8. 赤褐色土 焼土面。
- 9. 黒色土 焼土粒混入。黒色灰の層。細粒でさらさらしている。

第314図 51号住居跡竈

0 1m

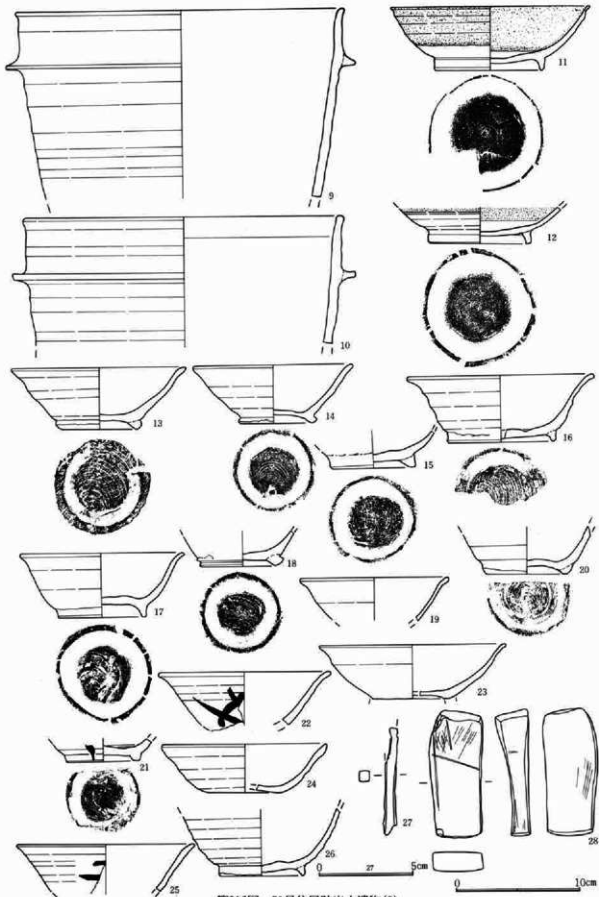
51号住居跡出土遺物観察表

図番号	部種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 壺	+12	(22.5)		細砂粒含む 良	黒褐色	外口縁部横撫で 胴部置削り 内口縁部横撫で 胴部置削で	
	土師器 壺	床面	13.0 6.0	14.3	細砂粒含む 普通	黒褐色	外口縁部横撫で 胴部置削り 内口縁部横撫で 胴部置削で	
3	土師器 壺	竈	23.3		微砂粒含む 良	橙褐色	外口縁部横撫で 胴部置削り 内口縁部横撫で 胴部置削で	



第315図 51号住居跡出土遺物(1)





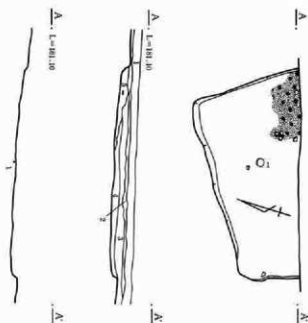
第316図 51号住居跡出土遺物(2)

### 第3章 検出された遺構と遺物

4	須恵器 羽釜	床面	19.9		砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形	胴下半部蹴削り	
5	羽釜	甕	(25.8)		微砂粒含む 良	暗褐色	ロクロ成形		
6	羽釜 (甕)	甕	(23.0)		砂粒含む 良	灰黄色	ロクロ成形	胴下半部蹴削り	
7	羽釜	甕	19.3		微砂粒含む 良	橙褐色	ロクロ成形	胴下半部蹴削り	
8	須恵器 羽釜	甕	(22.0)		小礫若干含む 普通	赤褐色	ロクロ成形	胴下半部蹴削り	
9	甕	甕	26.8		砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形		
10	羽釜 (甕)	貯蔵穴	(26.0)		小礫若干含む 普通	灰色	ロクロ成形		
11	灰 埴	+11	(16.0)	5.0	夾雑物ほとんど含まず 9.0	硬質 青灰色	ロクロ成形		
12	灰 埴	+15		8.2	夾雑物ほとんど含まず 硬質	青灰色	ロクロ成形		
13	須恵器 高台埴	床面	14.2	4.8	細砂粒含む 良	黒色	ロクロ成形	底部回転余切り(右)	
14	須恵器 高台埴	甕	13.0	4.6	細砂粒含む 普通	淡褐色	ロクロ成形	底部回転余切り(右)	完形 酸化岩焼成
15	須恵器 高台埴	床面		6.9	細砂粒含む 普通	灰褐色	ロクロ成形	底部回転余切り(右)	
16	須恵器 高台埴	+8	(15.2)	5.2	細砂粒含む 普通	淡褐色	ロクロ成形	底部回転余切り(右)	
17	須恵器 高台埴	床面	13.3	5.1	微砂粒含む 良	灰黄色	ロクロ成形	底部回転余切り(右)	
18	須恵器 高台埴	甕		6.7	細砂粒含む 普通	灰褐色	ロクロ成形	底部回転余切り(右)	
19	須恵器 埴	床面	12.1		細砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形	底部回転余切り(右)	炭化物付着
20	須恵器 高台埴	甕		(6.6)	細砂粒含む 普通	淡褐色	ロクロ成形	底部回転余切り(右)	
21	須恵器 高台埴	床面		5.9	細砂粒含む 普通	灰黄色	ロクロ成形	底部回転余切り(右)	底部片 墨書
22	須恵器 埴	床面	14.0		微砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形		墨書
23	須恵器 高台埴	床面	(15.0)		細砂粒含む 普通	淡褐色	ロクロ成形	底部回転余切り(右)	高台穴
24	須恵器 埴	床面	(13.4)	4.8	細砂粒含む 普通	暗褐色	ロクロ成形	底部回転余切り(右)	
25	須恵器 埴	床面	(14.3)		砂粒含む 良	黒褐色	ロクロ成形		口縁部片 墨書
26	須恵器 埴	甕		(7.0)	細砂粒含む 普通	暗褐色	ロクロ成形	底部回転余切り(右)	
27	鉄製品	掘方			釘。長さ5.6cm、幅0.7cm、厚さ0.7cm、重さ5.3g。両端部欠。				
28	砥石	床面			長さ8.0cm、幅4.3cm、厚さ1.6cm、重さ138g。石材は砥沢石。長方形を呈し、片面の使用のため磨り減っている。				

#### 53号住居跡(第317・318図、PI.31)

調査区の南端、W-44グリッドに位置する。規模、および平面形状は不明である。壁の遺存状況は悪く、壁高は5~10cmである。床面はほぼ平坦で比較的締まっている。東の壁際に粘土塊が出土していることから東壁と推定される。出土遺物は完形の埴が1点出土している。



第317図 53号住居跡

1. 黒褐色土 A軽石多量に混入。粗粒で脆い。耕作土。
2. # A軽石混入。上部に茶褐色を呈した脆い層あり。
3. 暗褐色土 ローム粒、炭化物粒少量混入。細粒で締り弱い。
4. # ローム粒、ブロック、炭化物少量混入。細粒で締り弱い。
5. 暗灰褐色土 焼土粒、粘土塊混入。細粒で粘性あり。

0 2m



0 10cm

第318図 53号住居跡出土遺物

## 53号住居跡出土遺物観察表

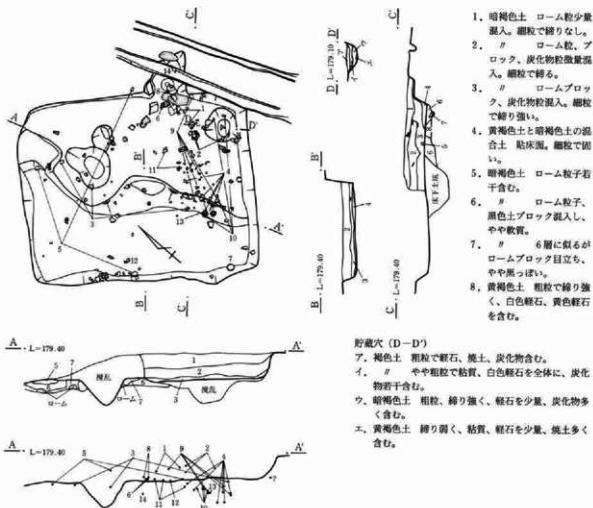
図番号	図種	出土位置 (cm)	口 底径 (cm)	径 器高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・蓋形の特徴	備考
1	土胎器 杯	床面	11.6	3.7	微砂粒含む 良	橙褐色	内 口縁部換撫で 体部撫で後見磨き	

## 56号住居跡 (第319~321図、PL31)

U-44グリッドに位置する。長方形を呈し、規模は3.7m×3.0mである。現農道下に掛かり、中央やや北寄りに電柱が、さらに竈から南東部分にかけて、導水管付設の溝により壊されている。

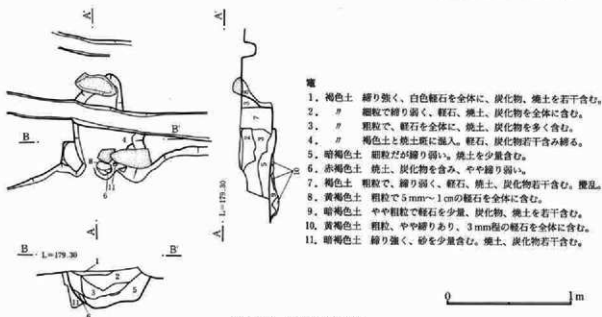
壁は20~40cmでほぼ垂直に立ち上がる。床面はローム混じりの暗褐色土で張り床がなされている、竈前面および中央部分にかけて踏み固められた面が見られる。貯蔵穴は南東隅に在り径約50cmで深さ17cmである。竈は東壁やや南よりに作られており、住居外へ長方形に近い形で作り出されており、先端分に細長い石が出土している。袖石の抜き取り跡と思われる小穴が焚口の両側で認められた。焼土、灰の出土は少ない。

出土遺物は高台付埴、灰軸皿などが見られた。墨書土器が数点出土している。中央やや南よりに床下土坑が、大小2穴重複して検出された。内部には焼土が多量に混入していた。



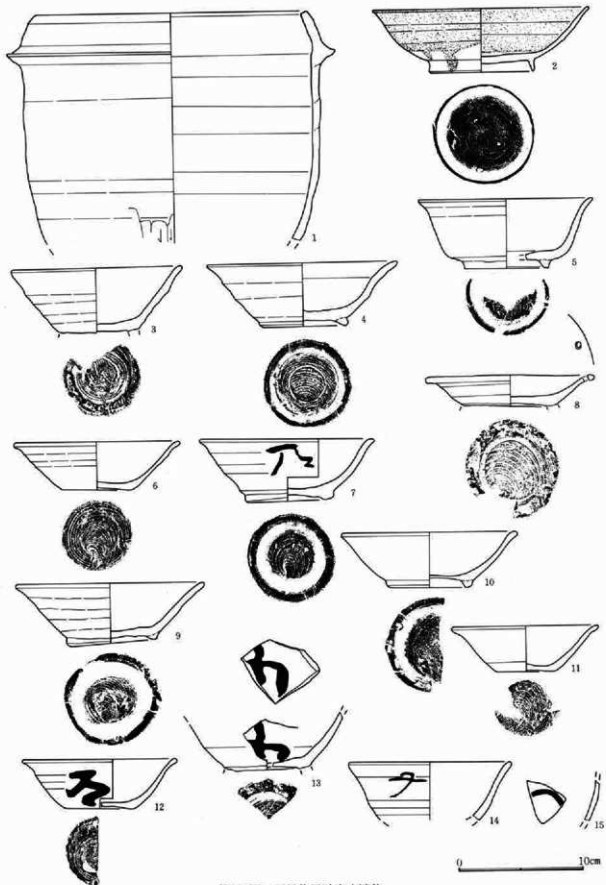
第319図 56号住居跡

0 2m



第320図 56号住居跡竈

0 1m



第321図 56号住居跡出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物

56号住居跡出土遺物観察表

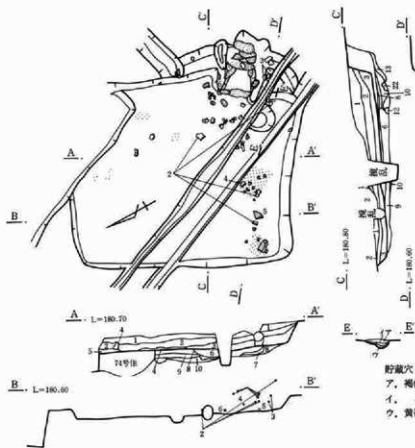
図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	羽釜	+15	(11.4)		微砂粒含む 良	橙褐色	ロクロ成形 胴下半部瓦削り	酸化焙焼成
2	灰軸 埴	+10	(17.1) (8.2)	5.0	砂粒含む 良	青灰色	ロクロ成形	
3	須恵器 埴	床面	(13.6)		微砂粒含む 良	淡褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	高台欠 酸化焙焼成
4	須恵器 埴	床面	15.0 7.0	5.0	微砂粒含む 良	灰黑色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
5	須恵器 埴	床面	(13.8) (6.7)	5.4	微砂粒含む 良	灰黑色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
6	須恵器 坏	竈	13.2 5.6	3.8	微砂粒含む 良	淡褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	酸化焙焼成
7	須恵器 埴	床面	14.0 7.0	4.9	微砂粒含む 良	暗茶褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	外面墨書「乃」
8	須恵器 坏	竈	13.3		微砂粒含む 良	灰黄色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	高台欠 口縁部穿孔有り
9	須恵器 坏	床面	(15.0) (7.2)	4.3	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
10	須恵器 埴	床面	14.0 6.8	4.4	微砂粒含む 良	黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
11	須恵器 坏	床面	11.6 (4.7)	3.6	微砂粒含む 良	黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	内外面黒色処理
12	須恵器 坏	床面	12.2 5.5	3.9	精製 良	明灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	外面墨書「乃」
13	須恵器 埴	床面			微砂粒含む 良	明灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	内面墨書
14	須恵器 埴	床面	(14.0)		微砂粒含む 良	明灰色	ロクロ成形	外面墨書 破片
15	須恵器 埴	覆土			微砂粒含む 良	明灰色	ロクロ成形	外面墨書 破片

### 57号住居跡 (第322～324図、PL32)

V-43グリッドに位置する。北東隅で74-B号住居跡に重複し、南東隅から西壁中央にかけて導水管が走る。形状は長方形を呈し、規模は3.5m×3.5mである。壁高は南東、南西部は残りが良く30cm程あるが、北側は5cm位しか残っていない。

床面は全面に張り床がなされており、竈前面から中央部にかけて、ローム、粘土が多く混入して固く締まっていた。貯蔵穴は南東隅にあり径50cm約12cmである。竈は南壁やや西寄りであり石組の竈である、片岩の袖石の上に天井石が載った状態で検出されている。燃焼部内側にも石が並べられており、遺存状況は良好で、焼土、灰が多量に出土している。なおこの竈の両脇で旧竈の痕と思われる焼土が住居外に張り出す形で検出された。

出土遺物は壺、坏類の外に刀子が検出された。住居中央に床下土坑が在り、内面に部分的に粘土が張られ、覆土下層には焼土、炭化物が混入していた。



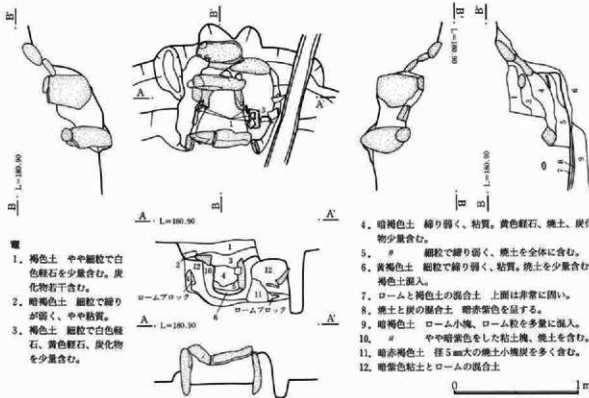
1. 黒褐色土 細粒で粘質。
2. 暗褐色土 一部に焼土を含みやや赤味を呈す。
3. # 炭化物を若干含む。
4. 黒色土 炭化物を多く含む。
5. # 焼土、炭化物を多量に含む。
6. 暗褐色土 ローム粒を少量含む。
7. 紫黒粘土色土 細粒で粘質。
8. 黒褐色土とロームの混合土 細粒で粘質。
9. 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。
10. 焼土、炭、ローム塊、黒褐色土の混合土
11. ローム、褐色土の混合土
12. 黒褐色土 ロームブロックを含む。
13. 暗赤褐色土 焼土、炭を多く含む粘り弱い。(旧壁の埋め土)

貯蔵穴 (E-E')

- ア、褐色土 軽石、焼土、炭化物を少量含む。  
 イ、# 若干の焼土粒、炭化物粒を含む。  
 ウ、黄褐色土 褐色土、多く混入。

0 2m

第322図 57号住居跡



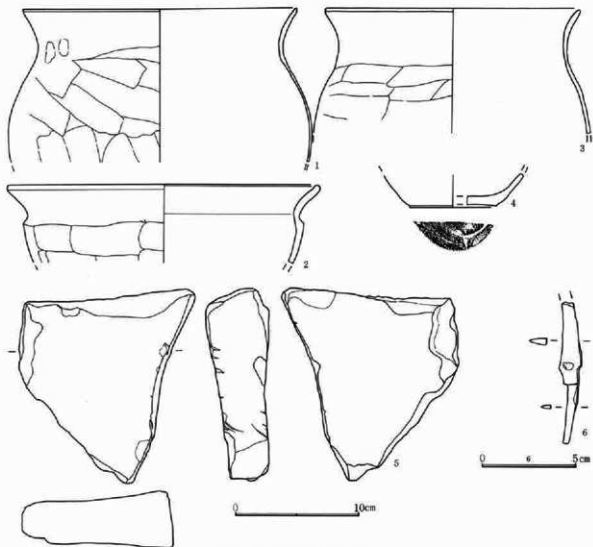
1. 褐色土 やや細粒で白色軽石を少量含む。炭化物若干含む。
2. 暗褐色土 細粒で粘りが弱く、やや粘質。
3. 褐色土 細粒で白色軽石、黄色軽石、炭化物を少量含む。

4. 暗褐色土 粘り弱く、粘質。黄色軽石、焼土、炭化物少量含む。
5. # 細粒で粘り弱く、焼土を全体に含む。
6. 黄褐色土 細粒で粘り弱く、粘質。焼土を少量含む。褐色土混入。
7. ロームと褐色土の混合土 上面は非常に固い。
8. 焼土と炭の混合土 暗赤紫色を呈する。
9. 暗褐色土 ローム小塊、ローム粒を多量に混入。
10. # やや暗紫色をした粘土塊、焼土を含む。
11. 暗赤褐色土 径5mmの焼土小塊炭を多く含む。
12. 暗紫色粘土とロームの混合土

0 1m

第323図 57号住居跡遺

第3章 検出された遺構と遺物



第324図 57号住居跡出土遺物

57号住居跡出土遺物観察表

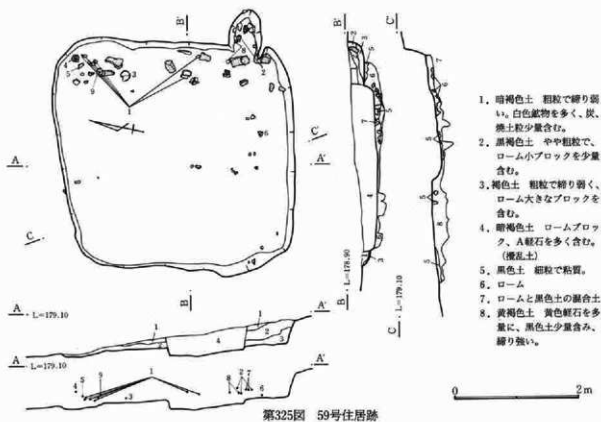
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	器 高 (cm)	胎 土 焼 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 甕			22.0	微砂粒含む 良	黒褐色	外 口縁部横線で 割部露削り 内 口縁部横線で 割部露削り	
2	土師器 甕	+9		25.0	細砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 割部露削り 内 口縁部横線で 割部露削り	
3	土師器 甕			20.4	微砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横線で 割部露削り 内 口縁部横線で 割部露削り	
4	銅器 環	+10		(7.0)	細砂粒含む 普通	明灰色	口縁部横線で 割部露削り 口縁部横線で 割部露削り ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
5	石器	+4					長さ14.6cm, 幅13.4cm, 厚さ5.0cm, 重さ76g。石材は牛伏砂岩。大型品。中央やや薄くなっている。	
6	鉄製品	+5					刀子。長さ7.5cm, 幅1.2cm, 厚さ0.4cm, 重さ3.0g。先端部を欠く。	

59号住居跡 (第325～327図、PL32)

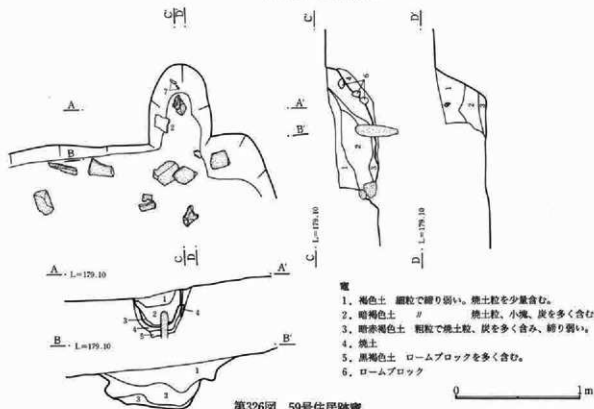
T-43グリッドに位置する。長方形を呈し、規模は3.8m×3.5mである。壁高は北側は削平されて残りが悪く、10cm以下であるが、南半分は20～40cmの高さで残る。床面は平坦で竈前面はかなり踏み締められた状況



である。貯蔵穴は東南隅に在り、深さは10cmほどである。竈は東壁の南隅寄りに作られている。矩形に壁外に張り出す。火床面、壁面共に強く焼けている。出土遺物は壺、坏類であるが、量は少ない。

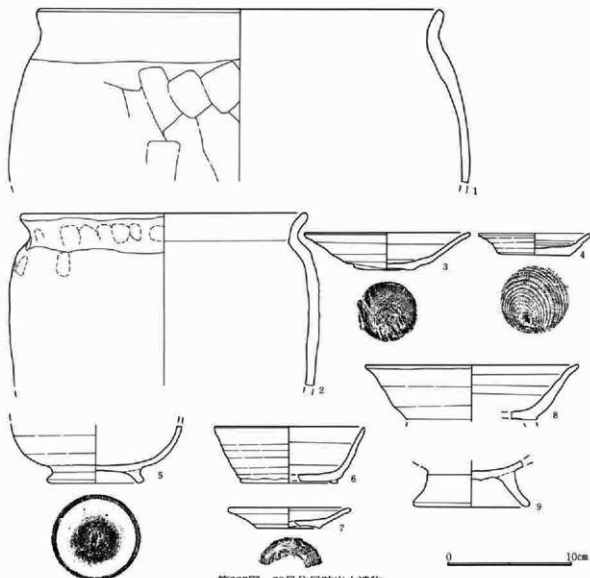


第325図 59号住居跡



第326図 59号住居跡竈

第3章 検出された遺構と遺物



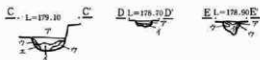
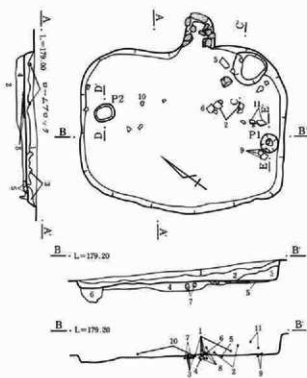
第327図 59号住居跡出土遺物

59号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	器 高	胎 土 焼 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土 釜	+10	33.0		砂粒含む 普通	黒褐色	外 口縁部横撫で 胴部撫で 内 口縁部横撫で 胴部撫で	
2	土 釜	電	23.0		砂粒含む 普通	赤褐色	外 口縁部横撫で 胴部撫で 内 口縁部横撫で 胴部撫で	
3	須恵器 平 鉢	+6	13.1 4.9	3.3	微砂粒含む 良	淡褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	酸化焙焼成
4	須恵器 平 鉢	+27	9.0 5.4	1.7	微砂粒含む 良	淡褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	酸化焙焼成
5	須恵器 平 鉢	+18	7.7		微砂粒含む 良	褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り後撫で調整	内面黒色処理
6	須恵器 平 鉢	+5	(12.0) (7.8)	4.5	精製 良	灰白色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
7	須恵器 平 鉢	電	9.8 5.2	1.6	微砂粒含む 良	淡褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	酸化焙焼成
8	須恵器 平 鉢	+17	(17.0)		微砂粒含む 良	淡褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	酸化焙焼成 高台欠 焼き歪み有
9	須恵器 平 鉢	+15	(9.2)		微砂粒含む 良	褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り後撫で調整 付け高台	足長高台

60号住居跡 (第328～330図、PL32)

T-43グリッドに位置する。長方形を呈すが西壁がやや外へ膨らむ、規模は3.2m×2.5mである。壁高は20～30cmでほぼ垂直に張り込まれる。床面は平坦であるが、竈前面が固く締まり北側がやや下がる。南、北壁寄りに小ピットが2カ所検出されているが、浅く柱穴とするには積極性に欠ける。貯蔵穴は竈の右側に検出された。竈は東壁中央やや南寄りにあり外に張り出している。内壁に石を立て並べてあり、支脚と思われる石が2個並立して見られる。出土遺物は羽釜、坏、埴類である。



1. 暗褐色土 粗粒で締りなし。ローム小ブロック少量含む。
2. 黒褐色土 大粒なローム小ブロック少量含む。粗粒で締り弱い。
3. 褐色土 細粒だが締り弱い。ロームブロックを含む。
4. 黄褐色土 ロームと褐色土の混合物。
5. 黒色土 細粒で粘質が強い。炭化物を若干含む。
6. ロームと黒色土の混合物 黄色軽石を含む。
7. 暗褐色土 細粒。締りあまりなし。

貯蔵穴 (C-C')

- ア、暗褐色土 細粒で締り弱い。灰白色粘土小塊を少量含む。  
 イ、黒褐色土 ローム小ブロック、炭を少量含む。  
 ウ、褐色土 炭、焼土小塊、灰白色粘土塊を含む。  
 エ、ロームブロック

柱穴 (P1)

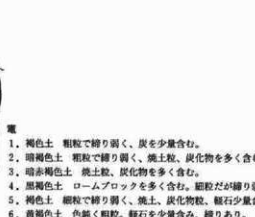
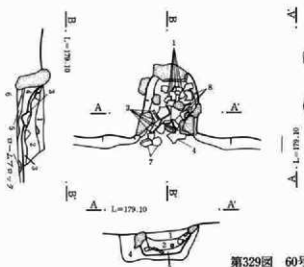
- ア、暗褐色土 細粒粘質。  
 イ、黒褐色土 細粒粘質、炭を含む。締りは弱い。  
 ウ、褐色土 ロームブロックを含む。

柱穴 (P2)

- ア、褐色土 細粒。締りは弱い。  
 イ、黄褐色土 粗粒で締りが強い。

第328図 60号住居跡

0 2m

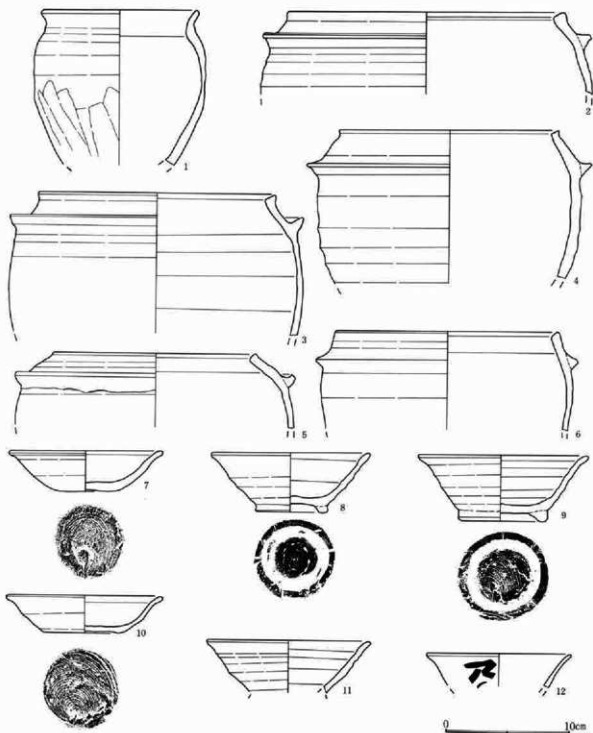


1. 褐色土 粗粒で締り弱く、炭を少量含む。
2. 暗褐色土 粗粒で締り弱く、焼土粒、炭化物を多く含む。
3. 暗赤褐色土 焼土粒、炭化物を多く含む。
4. 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。細粒だが締り弱い。
5. 褐色土 粗粒で締り弱く、焼土、炭化物粒、軽石少量含む。
6. 黄褐色土 色鈍く粗粒。軽石を少量含み、締りあり。

第329図 60号住居跡竈

0 1m

第3章 検出された遺構と遺物



第330図 60号住居跡出土遺物

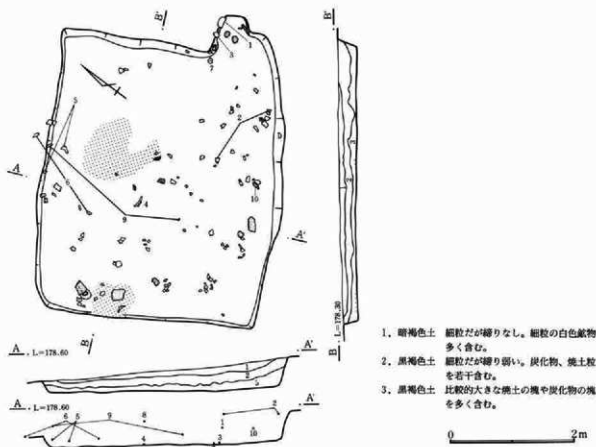
60号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径器高 底径(cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 小罎		12.7	微砂粒含む 良	灰黒色	外 口縁部、胴上半部横撫で下半部縦削 内 口縁部横撫で 胴部縦撫で	
2	羽蓋	+4	(22.0)	少量の小粒含む 良	橙褐色	ワコロ成形	

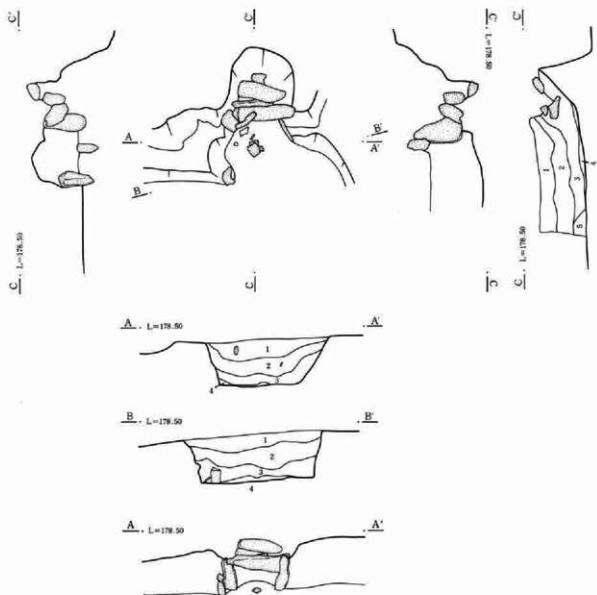
3	羽釜	竈	19.0		少量の小礫含む 暗赤褐色 良	ロクロ成形		
4	羽釜	竈	17.2		少量の小礫含む 淡褐色 良	ロクロ成形		
5	羽釜	床面	(16.0)		少量の小礫含む 橙褐色 良	ロクロ成形		
6	羽釜	床面	(17.4)		少量の小礫含む 灰黒色 良	ロクロ成形		
7	須恵器 坏	竈	12.2 4.4	3.2	細砂粒含む 明褐色 普通	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	酸化焙焼成
8	須恵器 高台付埴	竈	(12.6) (5.8)	4.6	細砂粒含む 暗赤褐色 良	ロクロ成形	底部回転糸切り(右) 付け高台	
9	須恵器 高台付埴	床面	(13.4) (6.4)	5.2	細砂粒含む 黄褐色 普通	ロクロ成形	底部回転糸切り(右) 付け高台	酸化焙焼成
10	須恵器 坏	床面	12.4 6.4	2.9	細砂粒含む 灰黒色 普通	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	
11	須恵器 坏	+10	13.0		細砂粒含む 灰黄色 普通	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	底面欠く
12	須恵器 坏	覆土	(11.4)		微砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形		口縁部片 外面黒 漆「乃」

## 61A号住居跡 (第331~333図、PL32)

S-43グリッドに位置する。長方形を呈し、規模は4.4m×3.8mである。住居の大部分が61B号住居跡に重複するため、西および北壁は明瞭には検出できなかった。床面は平坦で比較的締まった状態を示す。床面上層に厚さ2~3cmの焼土層がほぼ全面に確認されている。竈は南東隅に在り、石で組まれている。



第331図 61A号住居跡

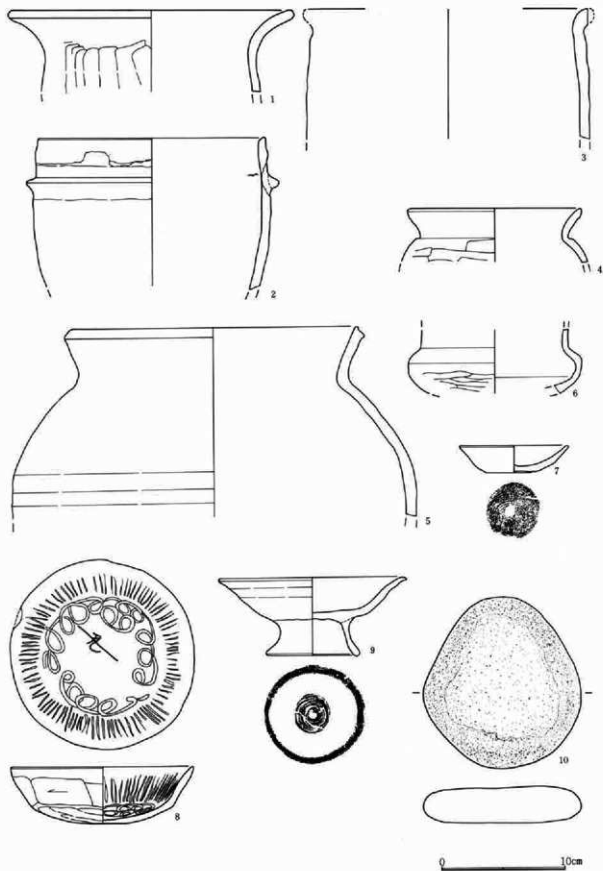


61A号住居跡竈

1. 褐色土 やや粗粒。締り弱い。炭を幾分含む。
2. 暗褐色土 細粒。締り強い。ロームブロック、炭化物少量含む。
3. 黒褐色土 比較的大きな炭を含む。
4. 暗赤褐色土 焼土粒、炭を含む。
5. 黄褐色土 ロームブロックを多く含む。

0 1m

第332図 61A号住居跡竈



第333図 61A号住居跡出土遺物

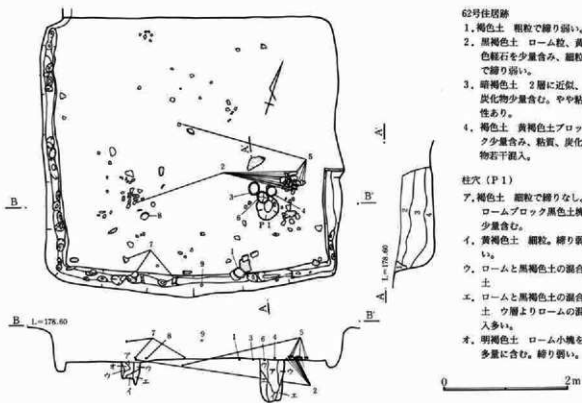
第3章 検出された遺構と遺物

61A号住居跡出土遺物観察表

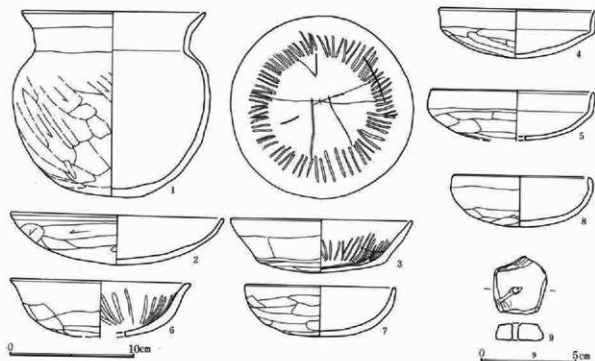
図番号	部種	出土位置 (cm)	口 径 径 (cm)	高 度 (cm)	胎 土 成 色 調	成・形状の特徴	備 考
1	土師器 壺	+50	23.0		砂粒含む 茶褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部縦削り 内 口縁部横撫で 胴部縦撫で	
2	羽 蓋	+80	(18.0)		砂粒含む 黒褐色 良	紐作り	
3	土 蓋	+5			砂粒含む 黒褐色 良	紐作り	
4	土師器 壺	床面	14.0		砂粒含む 黒褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部縦削り 内 口縁部横撫で 胴部縦撫で	
5	土師器 壺	+20	(23.6)		砂粒含む 橙褐色 良	ロクロ成形	
6	須恵器 短頸壺	床面			砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形	胴下半部縦削り
7	土師器 坏	床面	8.4 4.2	2.1	微砂粒含む 淡褐色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
8	土師器 坏	+35	14.5	4.6	微砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 体部縦削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	内面螺旋状噴文
9	土師器 高 坏	+35	14.8 7.5	6.0	微砂粒含む 淡褐色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	高足高台
10	台 石	+45	長さ13.4cm、幅2.8cm、厚さ12.3cm、重さ652g。石材はアイサイト。扁平な円碑、両面は平坦である。				

62号住居跡 (第334・335図、PL33)

T-43グリッドに位置する。正方形と思われるが、61B号住居跡に北側3分の2以上を切られているために全容は不明である。規模は4.6m×4.3mである。壁は60～80cmでほぼ垂直に立ち上がる。周溝は幅10～15cmで廻る。床面は所々に固い面が認められる。竈はほとんど残らないが、61B号住居跡の床面下に焼土、粘土、炭化物が出土しており、位置的に見て竈の痕跡と見られる。出土遺物は壺、坏類である。







第335図 62号住居跡出土遺物

62号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考	
1	土師器 小壺	床面	14.7	14.5	砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部荒削り 胴部荒削りで	外面に若干の煤付着
2	土師器 坏	+2	17.3	4.0	砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部荒削り 体部荒削りで	
3	土師器 坏	床面	14.4	4.3	砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部荒削り 体部荒削りで	完形 放射状暗文 線刻あり
4	土師器 坏	+4	12.6	3.8	砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部荒削り 体部荒削りで	
5	土師器 坏	床面	13.2		砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部荒削り 体部荒削りで	
6	土師器 坏	ピット	14.5		砂粒含む 良	暗赤褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部荒削り 体部荒削りで	内面放射状暗文
7	土師器 坏	+2	12.2	4.0	精製 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部荒削り 体部荒削りで	完形
8	土師器 坏	+2	11.0	4.0	砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部荒削り 体部荒削りで	
9	磨石製 品	+30	有孔円盤。長さ3.0cm、幅2.7cm、厚さ0.9cm、重さ12.4g。不定形な五角形を呈す。成形は刃物による。滑石製。						

## 63A号住居跡 (第336・337図、PL33)

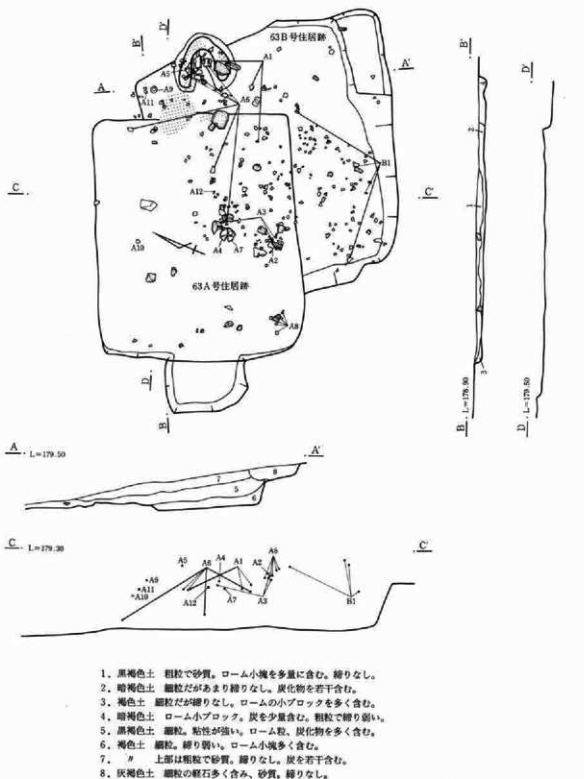
T-43グリッドに位置する。長方形を呈し、規模は3.8m×3.2mである。63B号住居跡の北西部に重複。壁は南西部を除きはつきりしない。壁高は23cmを測る。床面は張り床であるが南西部寄りの一部は地山ロームをそのまま床面としている。竈は東壁に作られているが、削平が著しい。出土遺物は羽釜、埴甎である。

## 63B号住居跡 (第338・339図、PL33)

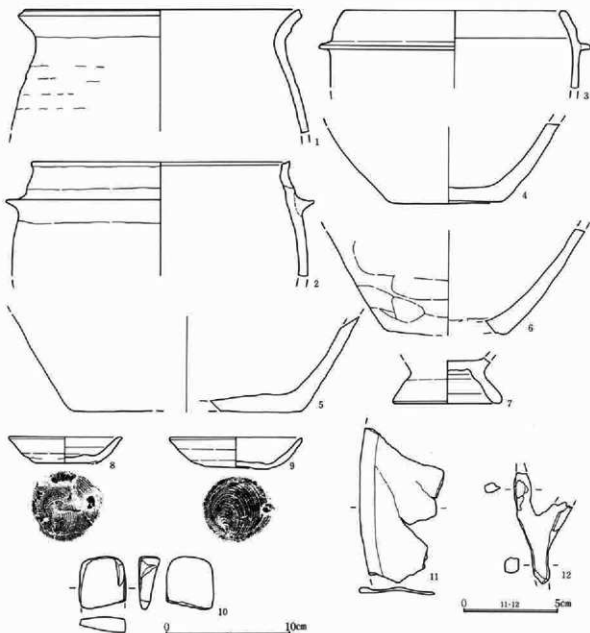
T-42グリッドに位置する。正方形を呈し、規模は4.3m×4.0mである。63A号住居跡に切られ、67号住居

第3章 検出された遺構と遺物

跡を切っている。壁は南半分は良好に残り、現高50~70cmを測る。周溝は部分的に小ピットが検出されている。床面はロームと黒色土で張り床としている。中央から南壁寄りの部分は固く締まる。竈は東壁やや南寄りになり、やや黒みを帯びた粘土で作られていたが、かなり壊れている。出土遺物は壺、坏などである。



第336図 63A・B号住居跡



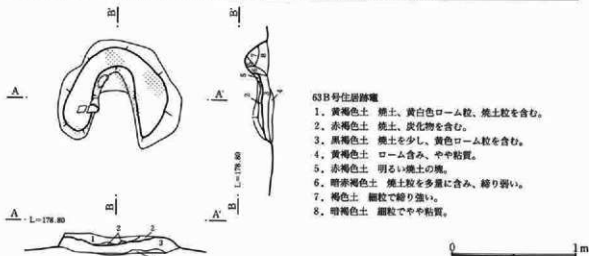
第337図 63A号住居跡出土遺物

63A号住居跡出土遺物観察表

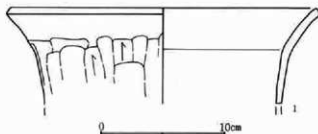
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 器 高 底径 (cm)	胎 土 焼 成 色 調	成・整形の特徴	備 考	
1	土師器 甕		22.7	小礫含む 良	明褐色	外 葺削り 内 横撫で	
2	羽 蓋	+83	(29.4)	砂粒含む 良	淡黄褐色	ロクロ成形	
3	羽 蓋	+68	(17.5) (6.0)	砂粒含む 良	赤褐色	ロクロ成形	
4	土 蓋	+64	9.5	小礫含む 良	茶褐色	外 葺削り 内 横撫で	底部片
5	土 蓋	甕	(18.4)	砂礫含む 良	暗茶褐	外 葺削り 内 横撫で	大型の底部片
6	土 蓋	甕	(10.0)	小礫含む 良	暗褐色	外 葺削り 内 横撫で	底部片

### 第3章 検出された遺構と遺物

7	土師器 埴	+65	8.6	微砂粒含む 灰黄色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	高台部片
8	土師器 坏	+75	9.0 4.8	2.1 良	微砂粒含む 淡褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)
9	土師器 坏	+75	10.5 5.0	2.4 良	微砂粒含む 明黄褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 完形
10	磁石	+53	長さ4.1cm、幅3.8cm、厚さ1.1cm、重さ29g。石材は砥沢石。欠損品。片減りが著しい。			
11	銅製品	+62	長さ8.0cm、幅4.5cm、厚さ0.3cm、重さ17.4g。破片、円盤状を呈し端部が肥厚する。			
12	鉄製品	+65	匳又鏃。長さ5.9cm、幅3.0cm、厚さ0.8cm、重さ9.8g。先端部、基部を欠く。			



第338図 63B号住居跡電



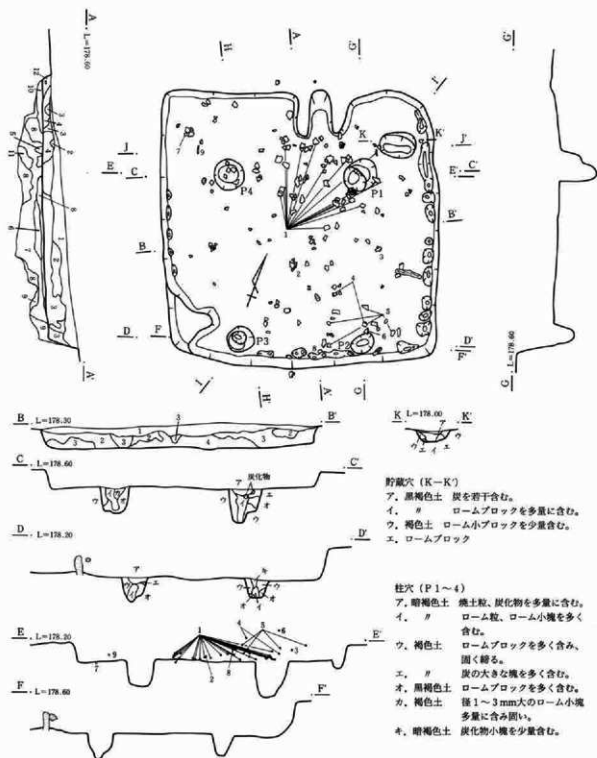
第339図 63B号住居跡出土遺物

#### 63B号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	高	胎土 焼成	色調	成・形状の特徴	備考
1	土師器 瓶	+60	25.0		小砂粒含む 良	赤褐色	口縁部横溝で胴部縦貫筋あり	

#### 64号住居跡 (第340～343図、PL33)

S-42グリッドに位置する。方形を呈し、規模は4.4m×4.4mである。61A号住居跡に南西隅が切られている。周溝は南、東壁下に見られ、幅は10～15cmである。部分的に小ピットが見られる。床面は中央部分が陥まっている。貯蔵穴は竈の右脇に在る。柱穴は4本検出され、南側の2本はやや南壁に寄る。竈は北壁に在り、内部に袖が張り出す形で、焼土の残りは少ない。出土遺物は、甕、坏類と紡錘車が2点出土している。



64号住居跡

1. 褐色土 細粒だがあまり締りなし。炭化物の小塊を少量含む。
2. 暗褐色土 細粒だが締り弱い。炭化物、ローム粒を多く含む。
3. 黒褐色土 2層に近似するがロームブロック多く含む。
4. 暗褐色土 炭化物塊多く含む。
5. 褐色土 ロームブロック多く、上面、部分的に焼土化。
6. 暗褐色土 ロームを多く含む固く締る。

7. 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。締りは弱い。
8. 褐色土 ロームブロックの含有量は多い。
9. 黄褐色土 ロームが大部分でこの中に褐色土が混入。
10. 黒色土 細粒で粘性が高い。
11. 灰黒色土 焼土ブロック、灰黒色粘質土ブロックを多量に含む。
12. 灰黒色粘質土 竈造り材。

貯蔵穴 (K-K')

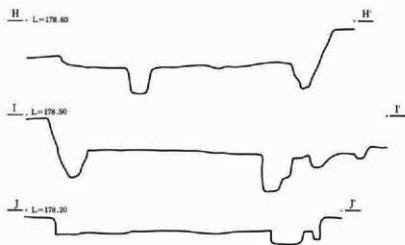
- ア. 黒褐色土 炭を若干含む。
- イ. # ロームブロックを多量に含む。
- ウ. 褐色土 ローム小ブロックを少量含む。
- エ. ロームブロック

柱穴 (P1~4)

- ア. 暗褐色土 焼土粒、炭化物を多量に含む。
- イ. # ローム粒、ローム小塊を多く含む。
- ウ. 褐色土 ロームブロックを多く含む、固く締る。
- エ. # 炭の大きな塊を多く含む。
- オ. 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。
- カ. 褐色土 径1~3mm大のローム小塊多量に含む固い。
- キ. 暗褐色土 炭化物小塊を少量含む。

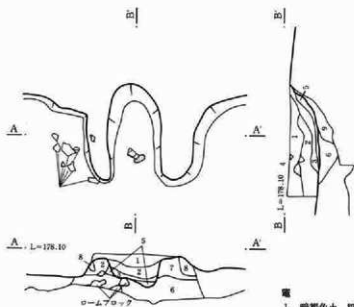
第340図 64号住居跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物



0 2m

第341図 64号住居跡(2)

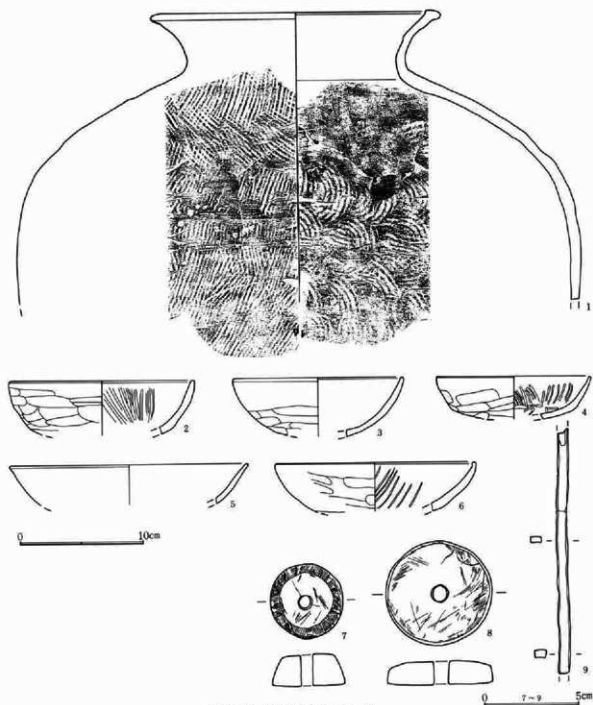


堀

1. 暗褐色土 細粒で粘質。粘土小塊、焼土粒、炭化物少量含む。
2. 黒褐色土 細粒で粘質。粘土小塊、焼土粒、炭化物多く含む。
3. 暗赤褐色土 粘土小塊、炭を多く含む。粗粒。
4. 黄色粘土塊
5. 焼土 粘土、褐色土の焼けた土。この上面が火床面。
6. 黒褐色土とロームの混合土
7. 黒灰色粘土 レンガ状に焼けた土塊を多く含む。
8. 焼土小塊の集合土
9. 黒褐色土 ロームブロック混入多い。

0 2m

第342図 64号住居跡堀



第343図 64号住居跡出土遺物

64号住居跡出土遺物観察表

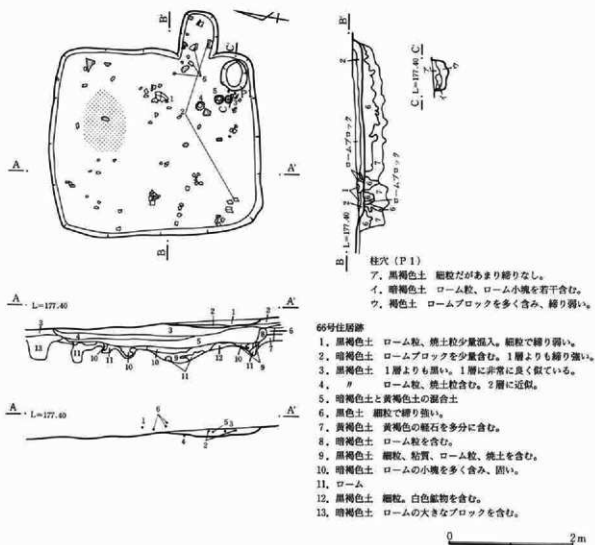
居番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土 色調	成・整形の特徴	備考
1	須恵器 甕	床面	(23.0)		砂粒含む 灰色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で 胴部平行印き目 胴部背面放射文様	
2	土師器 坏	+7	15.0		砂粒含む 淡褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で 体部縦磨り 体部直撫で	内面放射状暗文
3	土師器 坏	+18	13.8		砂粒含む 褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で 体部縦磨り 体部直磨り	
4	土師器 坏	+37	12.4		微砂粒含む 良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で 体部縦磨り 体部無で	内面放射状暗文

### 第3章 検出された遺構と遺物

5	須恵器 埴	+12	18.8	微砂粒含む 灰褐色 貝	ロクロ成形	口縁部のみ 二次火熱受ける
6	土師器 坏	+49	16.2	微砂粒含む 黒褐色 貝	外 口縁部横撫で 体部彫削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	内面放射状明文
7	紡錘車	床面	径3.9cm, 厚さ1.2cm, 重さ41.1g。石材は蛇紋岩。丹念な作りである。			
8	紡錘車	+19	径5.6cm, 厚さ1.2cm, 重さ65.7g。石材は蛇紋岩。7に比べやや大きく、非常に丁寧に仕上げられている。			
9	鉄製品	+9	刀子。重さ9.7g。			

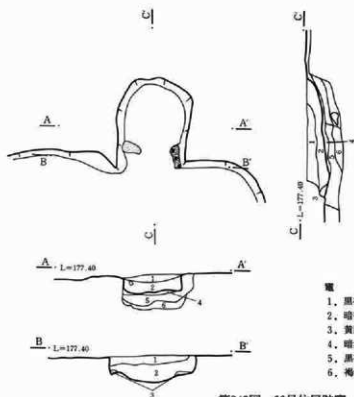
#### 66号住居跡 (第344~346図、PL33)

S—44グリッドに位置する。やや南北に長い長方形を呈し、規模は3.4m×3.0mである。壁の遺存状態は余り良好ではなく現高で10~15cmである。91号住居跡の南部分に重複する。床面は黄褐色土と黒褐色土の混土で張り床がなされており、中央部分は非常に固く締まる。貯藏穴は南東の隅に掘られている、径40cmふかさ17cmですり鉢状を呈す。出土遺物は壺、小形台付壺、坏等が見られる。



第344図 66号住居跡

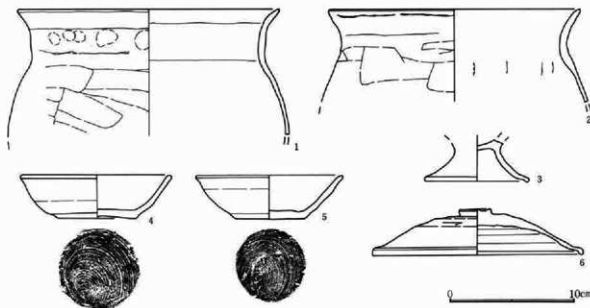




- 電
1. 黒褐色土 細粒だがあまり締りなし。
  2. 暗褐色土 細粒で粘性がある。焼土粒、炭化物多く含む。
  3. 黄灰色粘土 部分的に焼けている。
  4. 暗赤褐色土 焼土、炭化物を多く含む。粗粒で締りなし。
  5. 黒褐色土 細粒で粘質。上部は焼けている。
  6. 褐色土 ロームブロックを含む。

第345図 66号住居跡電

0 1m



第346図 66号住居跡出土遺物

0 10cm

66号住居跡出土遺物観察表

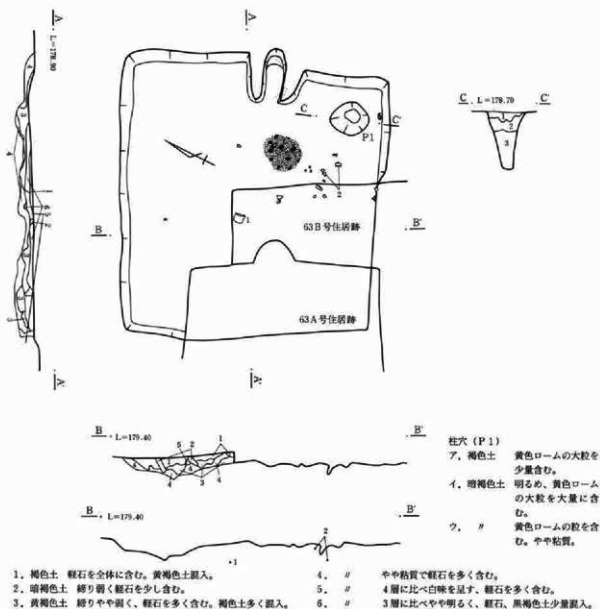
図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 壺	+43	21.0		微砂粒含む 良	淡褐色	外 □縁部横溝で 胴部寛肩り 内 □縁部横溝で 胴部寛底で	
2	土師器 壺	電	20.1		微砂粒含む 良	暗褐色	外 □縁部横溝で 胴部寛肩り 内 □縁部横溝で 胴部寛底で	
3	土師器 台付盥	+33	8.2		精製 良	淡褐色	横溝で	脚台部のみ

### 第3章 検出された遺構と遺物

4	須恵器 坏	+35 6.3	11.7 3.4	砂粒・小礫含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
5	須恵器 坏	+35 5.6	11.6 3.4	少量の砂粒含む 良	灰褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	完形
6	須恵器 蓋	■	17.0 2.6	砂粒含む 良	灰色	外面天井部貫刺り	

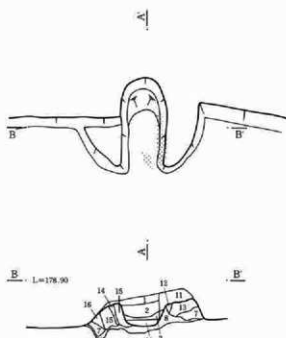
#### 67号住居跡 (第347～349図、PL34)

T-42グリッドに位置する。正方形を呈し、規模は4.5m×4.3mである。63A、63B号住居跡に切られる。壁高は南壁は50cmを越えるが、北壁は20cm程である。床面は平坦で、竈前面にやや固い面が認められた。竈は東壁ほぼ中央に作られており、袖部分は暗灰褐色粘土を用いて作られている。出土遺物は少ない。



第347図 67号住居跡

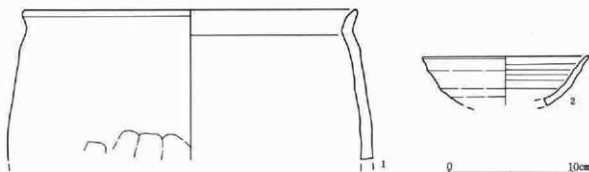
第5章 奈良・平安時代の住居跡と遺物



第348図 67号住居跡竈

- 竈
1. 黒褐色土 粗粒で緻密。
  2. 褐色土 焼土粒、ロームブロック含む。細粒で締りなし。
  3. 暗赤褐色土 粗粒で粘性無し。
  4. 黒色粘土 焼土粒、炭を少量含む。
  5. 黒色土 細粒だが締りなし。焼土を少量含む。
  6. 褐色土 白色軽石、焼土粒を含む。
  7. # 白色軽石、黄褐色土塊を多く含む。
  8. 黄褐色土 ロームブロック、2mm程度の軽石を含む。
  9. 暗褐色土 細粒だが締り弱い。軽石を少量含む。
  10. 黄褐色土 やや粘質。2mm程度の軽石を含む。
  11. 褐色土 締りがやや弱い。2mm程度の焼土粒、炭化物を少量含む。
  12. 赤褐色土 焼土塊。
  13. 褐色土 やや粘質で固い。2mm程度の焼土粒、炭化物を多く含む。
  14. 暗褐色土 細粒だが締りが弱い。焼土、炭化物を少量含む。
  15. 褐色土 2~3mmの白色軽石、焼土粒、炭化物を含む。
  16. # 15よりやや明るい色が近似。

0 1 m



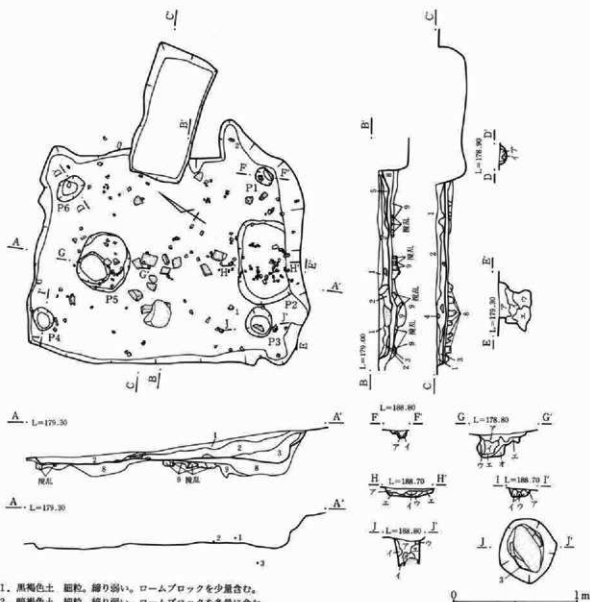
第349図 67号住居跡出土遺物

67号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 器 高 底径 (cm)	胎 土 焼 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土 釜 床面		(26.1)	砂粒含む	暗褐色	外 口縁部横溝で 割下半部見附り 内 口縁部横溝で 胴部隆起で	
2	須恵器 坏	床面	(13.1)	砂粒含む 良	淡褐色	ロクロ成形 底部回転車切り(右)	

68号住居跡 (第350~352図、PL34)

S-42グリッドに位置する。長方形を呈し、規模は4.2m×4.3mである。北壁は削平が著しく壁高は10cm内外、南側は30cm程である。床面は張り床でやや凹凸を持ち、客土された層は薄い。貯蔵穴は南東隅に検出され、浅い皿状を呈す。竈は東壁に在り燃焼部は外に作り出され、袖は黄色粘土を用いて作られている。内部は強く焼けており、焼土も多く検出されている。出土遺物は壺、坏類である。



1. 黒褐色土 細粒。締り弱い。ロームブロックを少量含む。
2. 暗褐色土 細粒。締り弱い。ロームブロックを多量に含む。
3. # 2層よりやや明るい。ローム粒を多く含む。
4. 黒褐色土 1層よりやや黒ずんでおり、細粒で粘質。
5. 褐色土 細粒で締りなし。ロームブロック、焼土を含む。
6. 暗褐色土 やや粗粒で締りなし。
  - 1. ローム粒を多く含む。
  - 2. ローム粒多いが6-1層より少なく色は暗い。
  - 3. ローム小塊を少量含む。
  - 4. ロームブロック小塊を多く含む。

7. 黄褐色土 褐色土を含む。
8. 黒色土
9. ローム

柱穴 (P 1)

- ア. 黒褐色土 ローム、焼土較多量混入。炭化物粒少量混入。細粒。
- イ. 黄褐色土 ローム層。

柱穴 (P 4・6)

- ア. 黒色土 粗粒。
- イ. 黄褐色土 黒褐色土のブロックを含む。
- ウ. 褐色土

柱穴 (P 2)

- ア. 黒褐色土 褐色土のブロックを壁に含む。
- イ. 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- ウ. 褐色土 ローム粒を含む。
- エ. 淡褐色土 ウ層に良く似ているが、幾分明るい。

350図

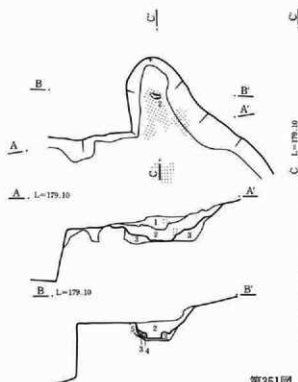
柱穴 (P 5)

- ア. 黒褐色土 白色鉱物を含む。
- イ. 褐色土 径1~3mm次のロームブロックを含む。
- ウ. 明褐色土 細粒。締り弱い。炭、焼土粒を少量含む。
- エ. 暗褐色土 やや粗粒。締り弱い。
- オ. 黄褐色土 黒色土のブロックを含む。

柱穴 (P 3)

- ア. 黒褐色土 炭化物を含む。細粒。
- イ. ロームブロック
- ウ. 褐色土
- エ. 暗褐色土 細粒。締り弱い。
- オ. # ローム粒を多く含む。

第350図 68号住居跡



1. 暗褐色土 細粒、粘質。締り強い。ローム小塊を少量含む。  
 2. 褐色土 # 締り弱い。焼土小塊を多く含む。  
 3. 赤褐色土 ローム焼土の混合土。炭化物小塊を少量含む。  
 4. ローム塊  
 5. 暗赤褐色土 焼土小塊、炭を多く含み、粗粒。  
 床下土状 (H-H)  
 ア. 暗褐色土 1cm大のロームブロックを多く含む。  
 イ. ロームブロック 暗褐色土を少量含む。  
 ウ. 黒褐色土 細粒だがあまり締りなし。  
 エ. 暗褐色土 ロームブロックあまり含まず。ローム粒を多く含む。

第351図 68号住居跡竈



第352図 68号住居跡出土遺物

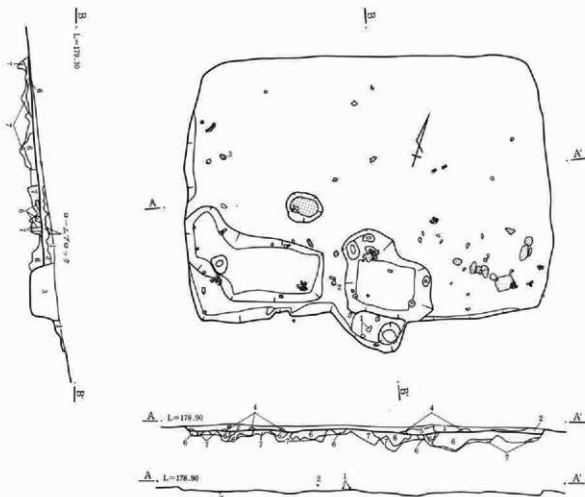
68号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	器 高	胎 土 成 色 調	成・整形の特徴	備 考
1	須恵器 壺	+7	(16.2)		砂粒含む 良	灰色 口クロ成形	
2	土師器 坏	床面竈	10.0		微砂粒含む 良	淡黄褐色 口クロ成形 底部回転糸切り(右)	
3	須恵器 壺	床面			砂粒含む	灰黑色 内外面撫で	割断片

第3章 検出された遺構と遺物

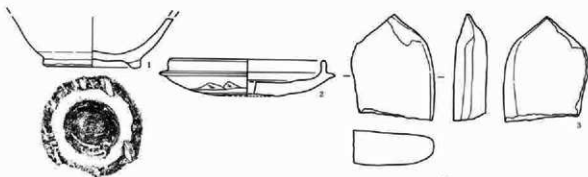
70号住居跡 (第353・354図、PL34)

S-41グリッドに位置する。壁は北側は大きく削平され南壁が20cmの壁高を測るが、他はほとんど残っていない。床は南側約半分は残るが北側は削平されている。竈は確認できず、住居の中央やや西寄りに浅い地床炉が検出されている。焼土は少なく、若干の灰が周辺で検出されている。出土遺物は少ない。



- |                                |                              |
|--------------------------------|------------------------------|
| 1. 黒褐色土 細粒でやや粘質。灰化物の粒を少量含む。    | 4. ローム                       |
| 2. 明褐色土 細粒だが粘りなし。ローム粒、小塊を多く含む。 | 5. 褐色土 粗粒だが粘り強い。             |
| 3. 褐色土 ロームブロック多く含み、粘りなし。       | 6. 黒色土とロームの混合土 細粒で粘り強い。      |
|                                | 7. 褐色土とロームの混合土 全体的には黄褐色を呈する。 |

第353図 70号住居跡



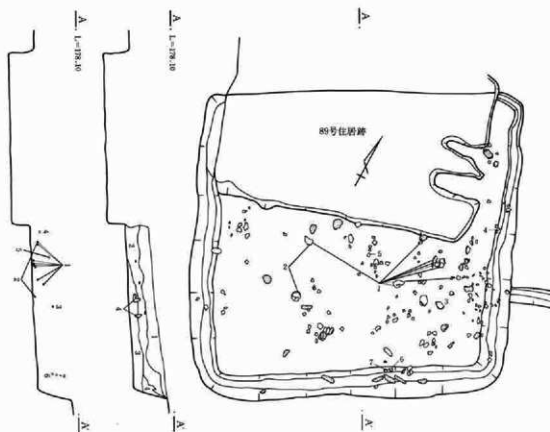
第354図 70号住居跡出土遺物

70号住居跡出土遺物観察表

図番号	副題	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	高 度 (cm)	胎 土 色 調	成・形 形 の 特 徴	備 考	
1	須恵器 甕		7.6		砂粒含む 灰褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台		
2	須恵器 坏	+6	12.4 最大径 14.2		微砂粒含む 灰褐色	外 口縁部横溝で 体部縮径り		
3	磁 石	床面	長さ8.2cm、幅6.7cm、厚さ2.7cm、重さ155g。石材は砂岩。磁器品。両面使用。					

## 71号住居跡 (第355・356図、PL34)

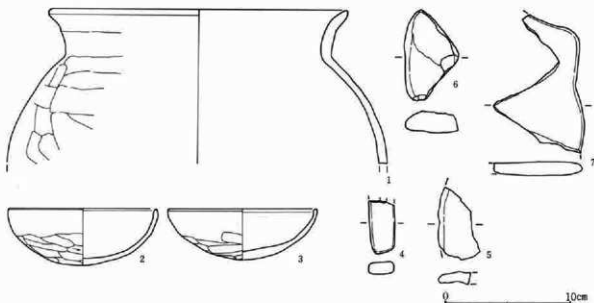
R-42グリッドに位置する。形状は正方形と思われるが、72号住居跡に北東部分、87号住居跡に北側部分を切られている。重複していない部分の遺存状況は良好で、壁高は50cmを測る。床面は平坦である。周溝は全周するものと思われる。貯蔵穴、柱穴は確認されなかった。甕は87号住居跡により壊されている。



## 71号住居跡

1. 褐色土 細粒だがあまり細くなく、白色鉱物を多く、炭化物を少量含む。
2. # 1層よりやや暗いが質は同じ。炭化物、焼土粒を少量含む。
3. 暗褐色土 細粒でやや粘質。ロームの小ブロックを少量含む。
4. ローム

第3章 検出された遺構と遺物



第356図 71号住居跡出土遺物

71号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 底径 (cm)	径	器 高	胎土 焼 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 甕	+2	24.2			砂粒含む 良	茶褐色	外 口縁部横溝で 胴部寛削り 内 口縁部横溝で 胴部寛削り	
2	土師器 坏	+3	12.0	4.4		微砂粒含む 良	暗赤褐色	外 口縁部横溝で 体部寛削り 内 口縁部横溝で 体部後で後履磨き	
3	土師器 坏	+31	12.0	4.0		微砂粒含む 良	暗褐色	外 口縁部横溝で 体部寛削り 内 口縁部横溝で 体部後で後履磨き	
4	砥石	+16	長さ4.2cm、幅2.1cm、厚さ0.3cm、重さ10g。石材は牛伏砂岩。小形板状、穿孔されている。						
5	砥石	+29	長さ5.5cm、幅3.1cm、厚さ1.0cm、重さ16g。石材は牛伏砂岩。偏平面礫、7と同一か。						
6	砥石	+24	長さ7.1cm、幅4.3cm、厚さ1.6cm、重さ46g。石材は牛伏砂岩。破損品、縁辺部使用。						
7	砥石	+30	長さ9.4cm、幅7.0cm、厚さ1.0cm、重さ68g。石材は牛伏砂岩。破損品偏平面礫、使用面一面。						

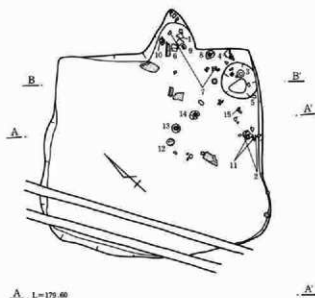
74A号住居跡 (第358・359図、PL34)

U-43グリッドに位置する。74B号住居跡を切る、平面形は、ほぼ方形を呈し規模は3.5m×3.3mである。西壁付近を、導水管を付設した溝が2本南北に走る。西側半分が農道下に入っていたために調査は2回に分けて行った。各壁の残りは悪く、農道下の南壁一部で30cm程確認されている。床面は西半分で比較的良好な面が検出された。

貯蔵穴は南東隅に在り不正円形を呈し、比較的浅い。竈はかなり壊れた状態で検出され、構築材として用いられていたと思われる河原石が2点出土している。

出土遺物は竈および貯蔵穴内より坏類を中心に検出されている。数点の黒書土器が出土している。

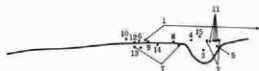




A, L=179.60



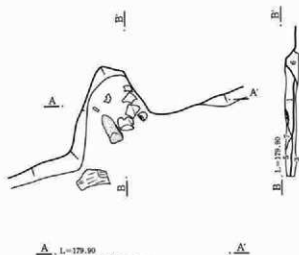
B, L=180.60



1. 黒褐色土 細粒、Y Pらしい小粒の軽石を少し含む。
2. # やや明るめ、細粒だが締り弱い。
3. 暗褐色土 大粒の黄褐色土を多く含む。
4. # 黒褐色土に近く細粒。Y Pらしい軽石を少し含む。
5. 黒褐色土 細粒で粘性が強い。焼土小塊を少量含む。

0 2m

第357図 74A号住居跡



A, L=179.90

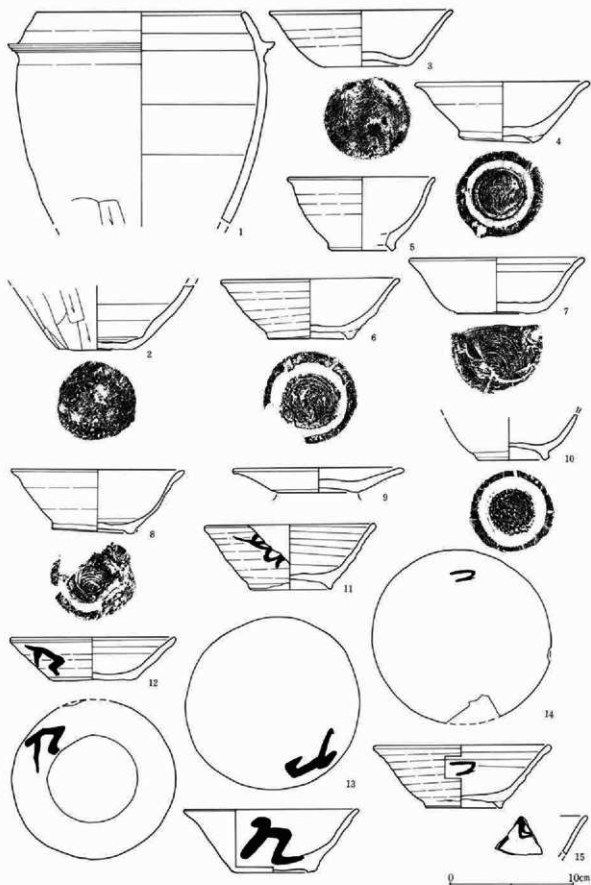


電

1. 褐色土 焼土の大きなブロックを多く含む。
2. ロームブロック
3. 暗赤褐色土 粗粒で締り弱い。焼土粒、炭化物を多く含む。
4. 焼土ブロック
5. 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。細粒で固い。
6. 褐色土 ロームブロックを多く含む。粗粒だが固い。
7. 黒褐色土 粗粒で柔らかい。炭化物を少量含む。

0 2m

第358図 74A号住居跡電



第359図 74A号住居跡出土遺物

74A号住居跡出土遺物観察表

図番号	遺物	出土位置 (cm)	口 底径 (cm)	器 高	胎 土 色 調	成・整形の特徴	備 考	
1	羽蓋	竈(+3)	(17.0)		砂粒含む 良	明褐色 良	ロクロ成形 胴下半部隈削り	
2	羽蓋	+6	6.4		砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 胴部窪削り	底部片
3	須恵器 貯蔵穴 坏	貯蔵穴	15.0 6.8	4.5	砂粒含む 普通	明褐色	ロクロ成形 底部回転余切り(右)	完形
4	須恵器 埴	+6	(14.0) 6.8	4.7	砂粒含む 普通	灰褐色	ロクロ成形 底部回転余切り(右)	
5	須恵器 埴	床面	(12.0) 5.5	5.8	細砂粒含む 良	明灰色	ロクロ成形 底部回転余切り(右) 付け高台	
6	須恵器 埴	竈(+3)	14.5 7.0	4.7	砂粒含む 普通	明灰色	ロクロ成形 底部回転余切り(右) 付け高台	
7	須恵器 埴	竈	(14.2) 6.7	4.4	細砂粒含む 良	明灰色	ロクロ成形 底部回転余切り(右)	
8	須恵器 埴	+2	14.2 6.8	4.9	砂粒含む 普通	茶褐色	ロクロ成形 底部回転余切り(右) 付け高台	炭化物付着
9	須恵器 埴	竈(+1)	(14.0)		細砂粒含む 良	淡褐色	ロクロ成形 底部回転余切り(右) 付け高台	高台欠
10	須恵器 埴	竈(+5)	6.0		細砂粒含む 良	淡褐色	ロクロ成形 底部回転余切り(右) 後機 で調整 付け高台	酸化焙焼成
11	須恵器 埴	+5	13.9 6.8	5.1	砂粒含む 良	黒褐色	ロクロ成形 底部回転余切り(右) 付け高台	外面体部に墨書
12	須恵器 埴	床面	13.1 7.0	3.4	微砂粒含む 良	淡黄褐色	ロクロ成形 底部回転余切り(右)	外面体部に墨書
13	須恵器 埴	床面	13.8 6.5	5.0	微砂粒含む 良	黄褐色	ロクロ成形 底部回転余切り(右)	内面体部に墨書
14	須恵器 埴	床面	14.1 6.1	5.1	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転余切り(右)	内面体部に墨書
15	須恵器 埴	+11			微砂粒含む 良	灰褐色	ロクロ成形	破片。内面墨書

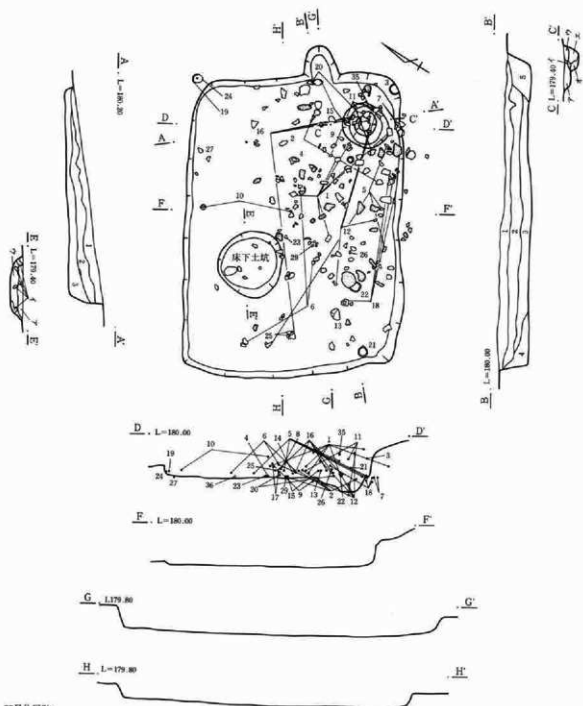
## 75号住居跡 (第360～364図、PL34・35)

U-43グリッドに位置する。長方形を呈し、規模は4.8m×3.4mである。南壁は高さ30cm程であるが、北壁は削平されておりほとんど残らない。

床面は比較的平坦でしっかり固められている。貯蔵穴は南東隅に在り、2段に掘り込まれている。竈は東壁に作られており、住居内に袖の張り出しは無く、U字状に外へ掘り出されている。住居の中央や北に、径70cm程の床下土坑が検出されている。

出土遺物は竈周辺および竈内より埴類を中心に検出されている。小片を含め、墨書土器がかなりの点数出土している。

第3章 検出された遺構と遺物



75号住居跡

1. 黒褐色土 粗粒で締り弱い。炭化物を若干含む。
2. 暗褐色土 細粒で締り弱い。炭を少量含む。
3. # 黒っぽく、ローム粒、炭、焼土粒若干含む。
4. 褐色土 細粒でやや粘性が強い。炭化物を多く含む。
5. 黄褐色土 細粒で締り強い。ローム上の漸移層。

床下土坑

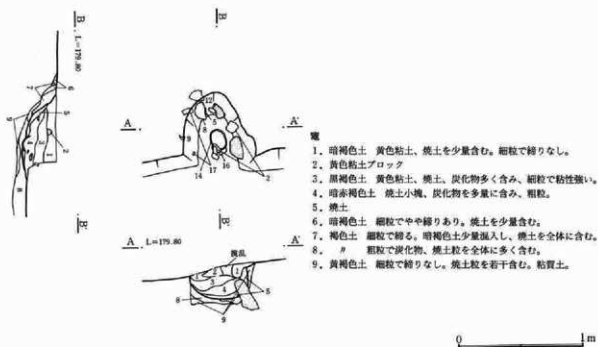
- ア. 黒褐色土 細粒で締り強い。
- イ. ロームブロック
- ウ. 褐色土 細粒でやや粘質。ローム小塊を多量に含む。

貯蔵穴 (C-C')

- ア. 赤褐色土 焼土小塊を多量に含み、粗粒で締りなし。
- イ. 褐色土 細粒だが締り弱い。
- ウ. 暗褐色土 細粒でやや粘質。ローム小塊を多く含む。
- エ. 褐色土 ロームブロックを多く含む。締り弱い。

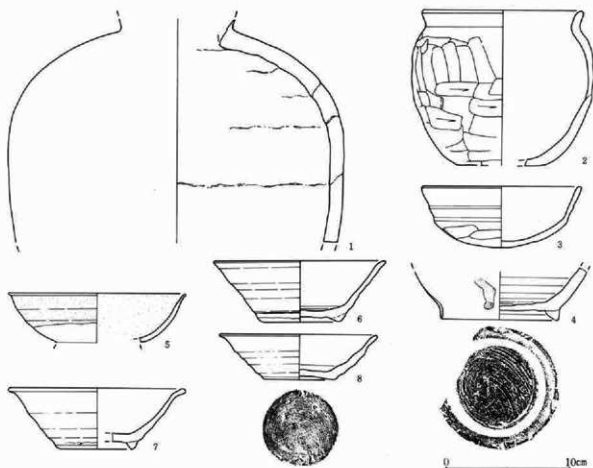
0 2m

第360図 75号住居跡



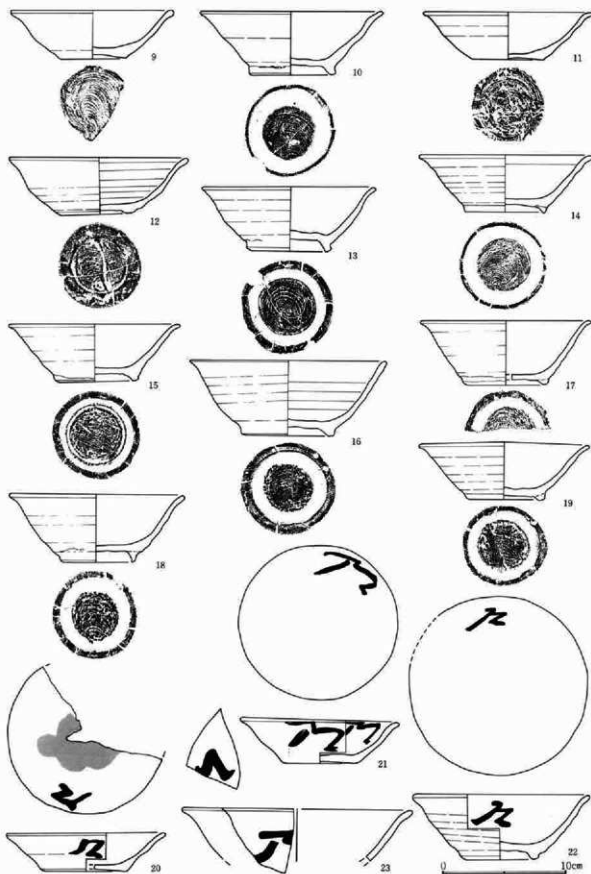
第361図 75号住居跡電

- 電
1. 暗褐色土 黄色粘土、焼土を少量含む。細粒で締りなし。
  2. 黄色粘土ブロック
  3. 黒褐色土 黄色粘土、焼土、炭化物多く含み、細粒で粘性強い。
  4. 暗赤褐色土 焼土小塊、炭化物を多量に含み、粗粒。
  5. 焼土
  6. 暗褐色土 細粒でやや締りあり、焼土を少量含む。
  7. 褐色土 細粒で締る。暗褐色土少量混入し、焼土を全体に含む。
  8. 粗粒で炭化物、焼土粒を全体に多く含む。
  9. 黄褐色土 細粒で締りなし。焼土粒を若干含む。粘質土。

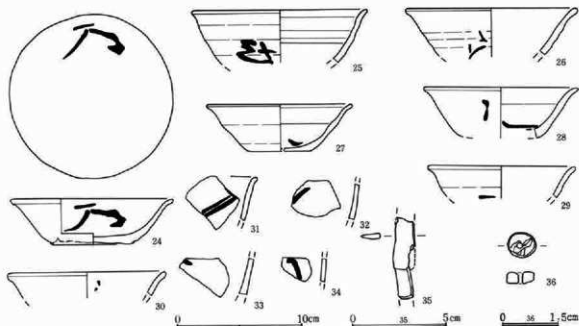


第362図 75号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第363図 75号住居跡出土遺物(2)



第364図 75号住居跡出土遺物(3)

75号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考	
1	須恵器 壺	+18			砂粒含む 良	灰色	外面 撫で 内面 撫で		
2	土師器 小型壺	甕	(13.0) (7.3)	12.1	微砂粒含む 良	赤茶褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部瓦割り 胴部瓦撫で	
3	土師器 坏	+30	12.8	4.8	砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部瓦割り 体部撫で	古墳時代 混入遺物
4	灰 軸 壺	+2	(9.5)		精製 良	灰色	ロクロ成形 付け高台	底部片	
5	灰 軸 埴	床面	14.3		白色粒子含む青緑色 良		ロクロ成形 刷毛塗り	底部を欠く	
6	須恵器 埴	+8	(14.0) (7.0)	4.8	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り(右)	
7	須恵器 埴	床面	14.3 6.6	4.8	微砂粒含む 良	黒茶褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	炭化物付着	
8	須恵器 坏	甕	(12.8) 6.0	3.6	微砂粒含む 良	灰褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)		
9	須恵器 坏	甕	13.1 5.3	3.9	微砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)		
10	須恵器 埴	+10	(14.8) 7.0	5.0	微砂粒含む 良	黒色	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り(右)	
11	須恵器 坏	床面	(13.6) (6.0)	3.7	微砂粒含む 良	明灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	炭化物付着	
12	須恵器 埴	甕	(14.4) (6.5)	4.2	微砂粒含む 良	黒茶褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	高台欠損	
13	須恵器 埴	+12	14.0 6.8	5.2	微砂粒含む 良	青灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	楞痕あり	
14	須恵器 埴	甕	14.1 6.6	4.5	微砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り(右)	
15	須恵器 埴	床面	14.0 6.8	4.6	微砂粒含む 良	淡黄色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)		
16	須恵器 埴・貯蔵 穴	甕・貯蔵 穴	16.0 7.6	5.9	砂粒含む 良	灰褐色	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り(右)	
17	須恵器 埴	甕	14.0 7.0	5.1	微砂粒含む 良	茶褐色	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り(右)	

### 第3章 検出された遺構と遺物

18	須恵器 埴	床面	14.3 6.2	5.4	微砂粒含む 貝	黒色	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り(右)	
19	須恵器 埴	壘	13.7 6.4	4.5	微砂粒含む 貝	黒色	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り(右)	
20	須恵器 坏	+11	12.7 6.4	3.0	微砂粒含む 貝	茶褐色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	内面底部に赤色顔料 痕 内外面墨書
21	須恵器 坏	+16	12.6 6.3	3.7	微砂粒含む 貝	明灰色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	内外面墨書 「得」の略字か
22	須恵器 埴	+6	14.1 6.2	5.3	微砂粒含む 貝	明褐色	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り(右)	内面墨書 「得」の略字か
23	須恵器 坏	床面 (貯蔵穴)	(18.7)		砂粒含む 貝	灰色	ロクロ成形		口縁部片 外面墨書
24	須恵器 坏	+4	12.9 6.7	4.7	微砂粒含む 貝	灰黒色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	内面墨書 「得」の略字か
25	須恵器 坏	+2	(14.2)		微砂粒含む 貝	灰色	ロクロ成形		口縁部片 外面墨書
26	須恵器 坏	+15	(14.0)		微砂粒含む 貝	灰色	ロクロ成形		口縁部片 外面墨書
27	須恵器 坏	床面	(11.7) (5.1)	3.8	微砂粒含む 貝	灰色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	内面墨書か
28	須恵器 坏	覆土	(12.5)		微砂粒含む 貝	黄灰色	ロクロ成形		口縁部片 内外面墨書
29	須恵器 坏	床面	(12.0)		微砂粒含む 貝	灰色	ロクロ成形		口縁部片 外面墨書
30	須恵器 坏	覆土	(13.0)		微砂粒含む 貝	灰色	ロクロ成形		口縁部片 内面墨書
31	須恵器 坏	床直			微砂粒含む 貝	灰褐色	ロクロ成形		破片 内面墨書
32	須恵器 坏	覆土			微砂粒含む 貝	灰褐色	ロクロ成形		破片 内面墨書
33	須恵器 坏	床下土坑			微砂粒含む 貝	灰色	ロクロ成形		破片 内面墨書
34	須恵器 坏	床直			微砂粒含む 貝	灰色	ロクロ成形		破片 内面墨書
35	鉄製品	+36	刀子。長さ4.3cm、幅1.2cm、厚さ0.3cm、重さ3.5g。両端部を欠く。						
36	帯石製品	+3	白玉。径1.4cm、厚さ0.6cm、孔径0.2cm、重さ1.8g。側面に研磨痕。両面刃物による削り痕。帯石製。						

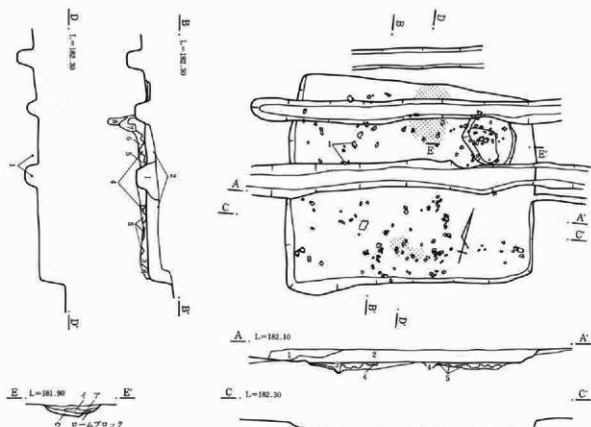
#### 76号住居跡(第365・366図、PL35)

V-42グリッドに位置する。やや長方形を呈し、規模は3.9m×3.2mである。東西に走る耕作溝により破壊が著しい。壁は部分的に残り、高さは最大20cm程である。床面の状態は極めて悪く、南部分でやや平坦な面が認められたにすぎない。

壘は北壁にあるが耕作溝でほとんど壊されてしまったものと思われ、形状、規模などは不明である。

出土遺物は少なく図示した坏の他は小片のみである。





1. 灰褐色土 (耕作土) A軽石を多量に含み、粗粒で締り弱い。
2. 褐色土 細粒で締り強く、炭化物、焼土粒を多量に含む。
3. 黒褐色土 細粒で締り強い。ローム粒を少量含む。
4. 暗褐色土 細粒で締り強い。
5. ローム
6. ロームと褐色土の混合土
7. 褐色土 ローム小塊を多く含み、締り弱い。
8. # 7層とほぼ同質だが7層より幾らか暗い色。

- 貯蔵穴 (E-E')  
 ア、暗褐色土 細粒で締り強く、炭化物を若干含む。  
 イ、# 細粒で締り強く、ローム小ブロックを少量含む。  
 ウ、褐色土 細粒で粘質。ロームブロック、灰白色粘土若干含む。

第365図 76号住居跡



第366図 76号住居跡出土遺物

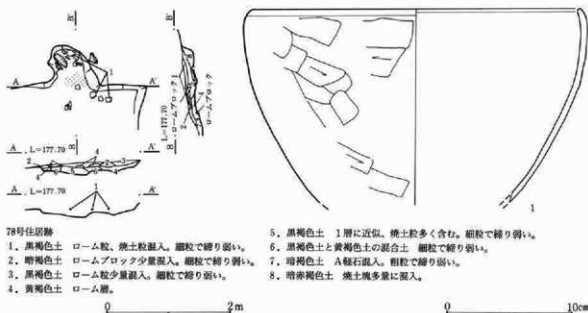
76号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 底径(cm)	径 高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師陶 坏	床面	14.0	4.3	微砂粒含む 普通	橙褐色	外 口縁部横断で 体部荒削り 内 口縁部横断で 体部滑で	

78号住居跡 (第367図、PL35)

U-47グリッドに位置する。全体に削平が著しく形状、規模共に不明である。竈の下部が残存するのみである。竈は東にあり鏝、焼土が検出されている。竈内部より鉢の破片が出土している。

### 第3章 検出された遺構と遺物



78号住居跡

1. 黒褐色土 ローム粒、焼土粒混入。細粒で締り弱い。
2. 暗褐色土 ロームブロック少量混入。細粒で締り弱い。
3. 黒褐色土 ローム粒少量混入。細粒で締り弱い。
4. 黄褐色土 ローム層。

5. 黒褐色土 1層に近似。焼土粒多く含む。細粒で締り弱い。
6. 黒褐色土と黄褐色土の混合土 細粒で締り弱い。
7. 暗褐色土 A粒石混入。粗粒で締り弱い。
8. 暗赤褐色土 焼土塊多量に混入。

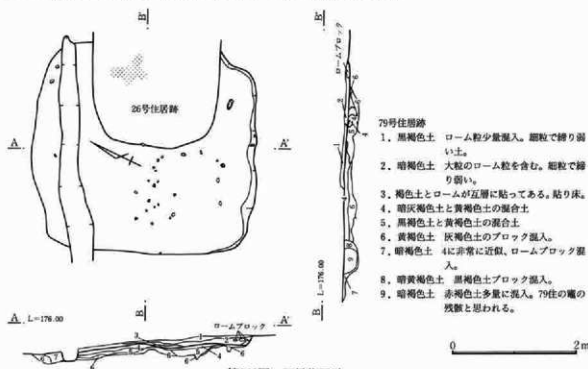
第367図 78号住居跡及び出土遺物

#### 78号住居跡出土遺物観察表

図番号	副題	出土位置 (cm)	口 高径 (cm)	径 器高	胎土 成	色調	成・形状の特徴	備考
1	土師器 壺	+5	26.5		砂粒含む 黄	橙褐色	外 口縁部横撫で 割部窪削り 内 口縁部横撫で 割部窪削り	

#### 79号住居跡 (第368図、PL35)

R-46グリッドに位置する。26号住居跡と重複し、規模は3.6m×3.3mである。南壁を残しほとんど削平されており、床面の状態も悪い。貯蔵穴と思われる掘り込みが南東隅に在るが、明確ではない。竈は東側に在ったものと推定されるが、26号住居跡に壊されている。出土遺物は少ない。



79号住居跡

1. 黒褐色土 ローム粒少量混入。細粒で締り弱い土。
2. 暗褐色土 大粒のローム粒を含む。細粒で締り弱い。
3. 褐色土とロームが互層に貼ってある。貼り床。
4. 暗灰褐色土と黄褐色土の混合土
5. 黒褐色土と黄褐色土の混合土
6. 黄褐色土 灰褐色土のブロック混入。
7. 暗褐色土 4に非常に近似、ロームブロック混入。
8. 暗黄褐色土 黒褐色土ブロック混入。
9. 暗褐色土 赤褐色土多量に混入。79住の竈の残骸と思われる。

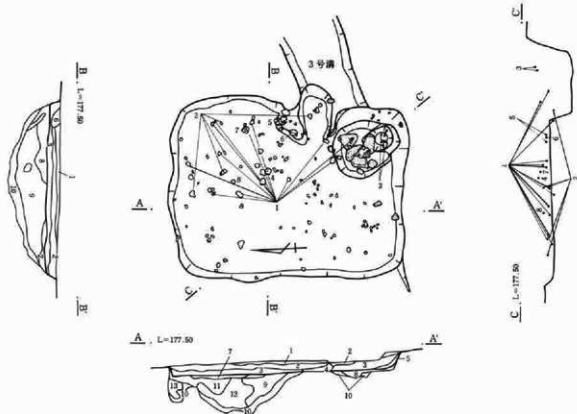
第368図 79号住居跡

## 80号住居跡 (第369～371図, PL.35)

T-45グリッドに位置する。長方形を呈し、規模は3.7m×3.0mである。北西隅で37号住居跡と重複、これを切る。壁高は最大30cm程あるが、北、西壁はやや削られて遺存状態は悪い。

床面は黒色土混じりのロームで張り床され、中央部分は平坦であるが、周辺は凹凸を持つ。北東部に焼土粒、炭化物粒が多量に出土している。貯蔵穴は南東隅に在り、比較的大きく中段を持つ。竈は東壁にあり上部は3号溝に削られている。燃焼部両脇の袖の一部が確認されている。

出土遺物は羽釜、坏などである。



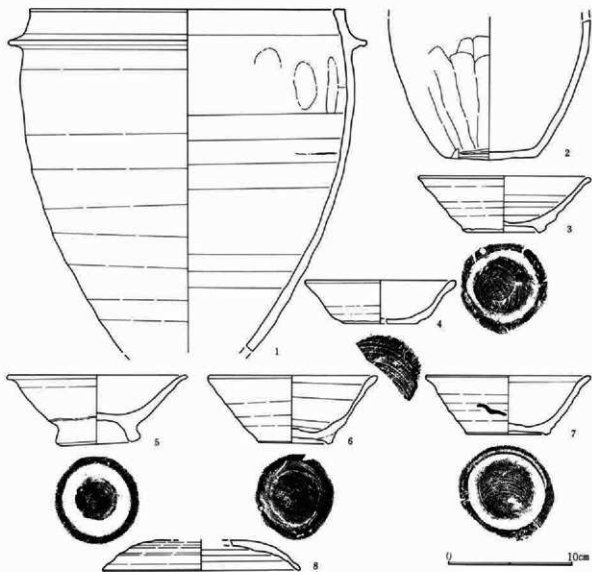
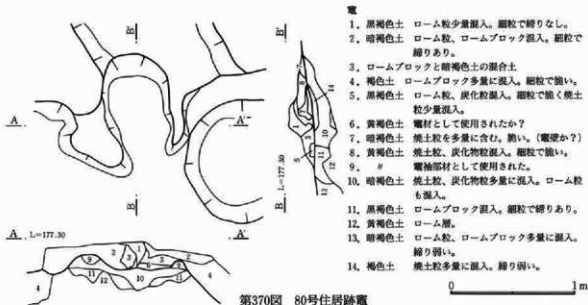
## 80号住居跡

1. 黒褐色土 ローム粒混入。細粒で締りあり。
2. # ローム、炭化物粒、焼土粒混入。細粒で締りなし。
3. 暗褐色土 ローム粒、焼土粒、炭化物粒混入。粗粒で締りなし。
4. 褐色土 ローム粒多量に混入。細粒だがふかふかしている。
5. 暗褐色土 汚れたロームブロック多量に混入。細粒で締りなし。
6. 黄褐色土と黒褐色土の混合土 黄褐色土は竈材と思われる。
7. 褐色土 ローム粒多量に混入。貼り床。
8. # ローム粒混入。ざらざらしている。
9. ローム断片層 汚れている。
10. ローム層
11. 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック混入。細粒で締っている。
12. 黒褐色土 ローム粒少量混入。細粒で締っている。
13. 暗褐色土 ロームブロック混入。細粒で締り弱い。

0 2m

第369図 80号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

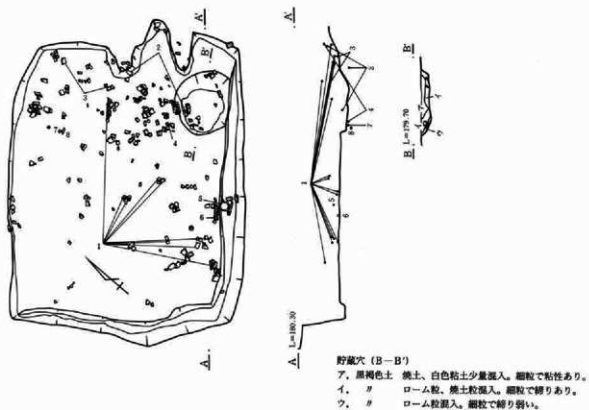


80号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	径 高 (cm)	胎土 焼 色 調	成・整形の特徴	備考
1	羽蓋 床面		24.9		砂粒含む 暗茶褐色 普通	ロクロ成形	
2	羽蓋 +3		7.0		微砂粒含む 茶褐色 良	ロクロ成形 副下半部蓋削り	副下半部のみ
3	須恵 貯蔵穴 埴	貯蔵穴 14.0 5.7	4.4		砂粒含む 黒褐色 普通	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	炭化物付着
4	須恵 埴 環	+19 (12.4) 5.8	3.4		微砂粒含む 灰黒色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
5	須恵 埴 埴	+4 14.5 6.8	5.5		砂粒含む 黄褐色 普通	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	大よりの高台
6	須恵 埴 埴	+4 13.7 5.9	5.3		精製 黒褐色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	完形 炭化物付着
7	須恵 埴 埴	+15 (13.4) 7.0	4.7		砂粒含む 暗褐色 普通	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	墨書か
8	須恵 埴 蓋	+12 (16.1)			微砂粒含む 暗茶褐色 良	ロクロ成形 外面天井部蓋削り	

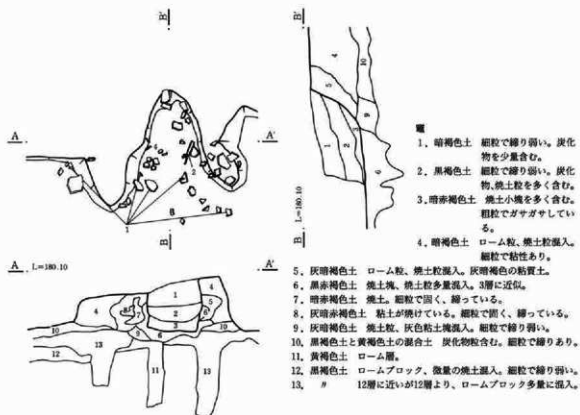
## 81号住居跡 (第372~375図、PL36)

V-44グリッドに位置する。45-52号住居跡を切る。長方形を呈し、規模は4.5m×3.8mである。重複の無い部分では最大壁高は80cmを測るが、他は20cm程である。床面は平坦な張り床である。貯蔵穴は南東隅に在り、掘り込み面は凹凸を持つ。竈は東壁に作られている。出土遺物は甕、環などである。

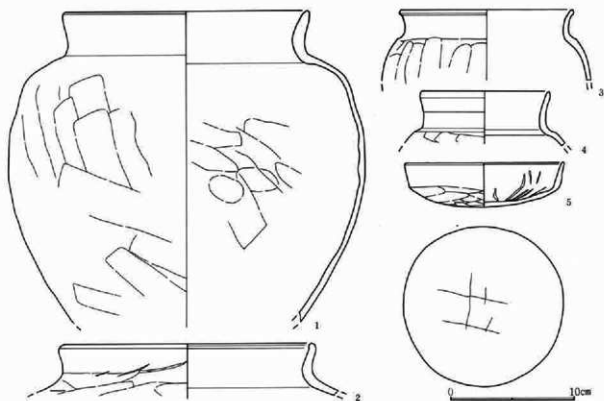


第372図 81号住居跡

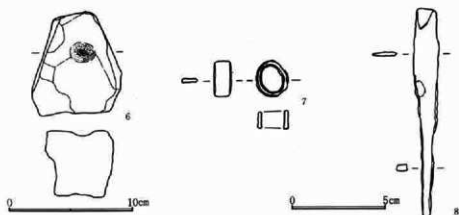
第3章 検出された遺構と遺物



第373図 81号住居跡



第374図 81号住居跡出土遺物(1)



第375図 81号住居跡出土遺物(2)

81号住居跡出土遺物観察表

図番号	種類	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	器 高	胎 土 焼 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 壺	床面・竈		19.9	微砂粒含む 良	赤褐色	外 □縁部横溝で 胴部寛削り 内 □縁部横溝で 胴部寛削り	
2	土師器 壺	竈		20.7	細砂粒含む 良	橙褐色	外 □縁部横溝で 胴部寛削り 内 □縁部横溝で 胴部寛削り	
3	土師器 小型壺	床面		14.0	細砂粒含む 良	淡橙褐色	外 □縁部横溝で 胴部寛削り 内 □縁部横溝で 胴部寛削り	
4	土師器 小型壺	床面		12.0	微砂粒含む 良	淡褐色	外 □縁部横溝で 胴部寛削り 内 □縁部横溝で 胴部寛削り	
5	土師器 坏	+9		12.6	微砂粒含む 良	淡褐色	外 □縁部横溝で 体部寛削り 内 □縁部横溝で 体部寛削り	完形
6	磁 石	+3		長さ7.9cm, 幅5.1cm, 厚さ7.1cm, 重さ316g.			石材は砂岩。使用面に凹穴あり。	
7	鉄製品	床面		環状製品。長径1.9cm, 高さ0.9cm, 厚さ0.2cm, 重さ3.4g. 留め金具か。				
8	鉄製品	床面		刀子。長さ10.9cm, 幅1.4cm, 厚さ0.4cm, 重さ11.5g. 先端部を欠く。				

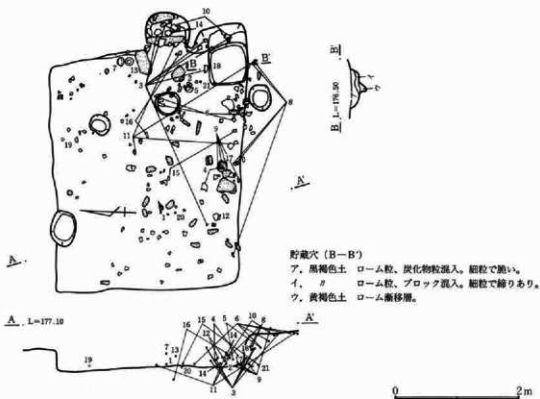
## 82号住居跡 (第376~378図、PL36)

S-46グリッドに位置する。長方形を呈し、規模は3.8m×3.1mである。36・37・86号住居跡および4号獨立柱建物跡と重複する。壁は垂直に掘り込まれており、壁高も50cmを測る。

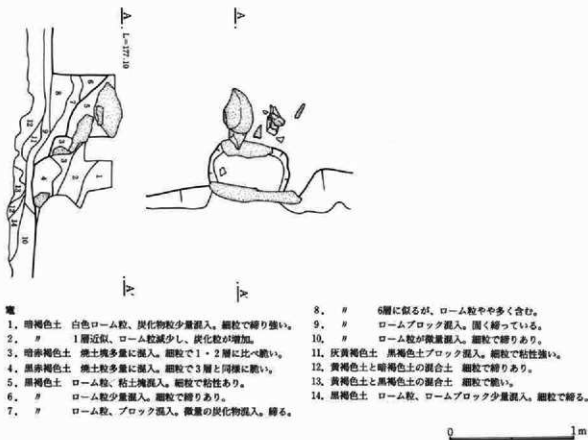
床面は黒褐色土の張り床で、平坦でかなり締まる。貯蔵穴は竈の右側に掘り込まれているが、かなり浅い。竈は東壁に作られており、37号住の床面を掘り込む形で作られる。天井石、袖石が外れたかたちで崩落している。

出土遺物は竈周辺および南側に集中して検出されている。坏類が多く見られた他、紡錘車、滑石製白玉、土製小玉、鉄製品などである。

第3章 検出された遺構と遺物

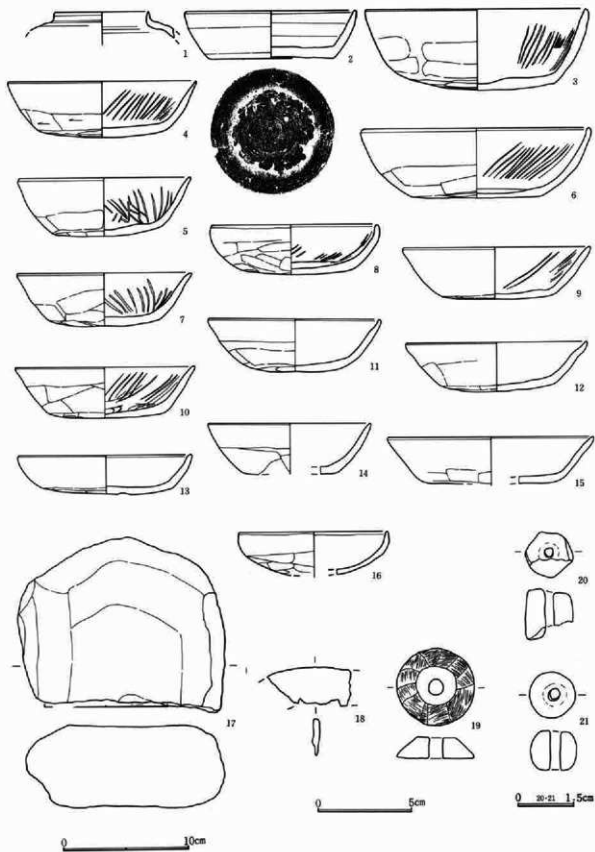


第376図 82号住居跡



第377図 82号住居跡





第378図 82号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

82号住居跡出土遺物観察表

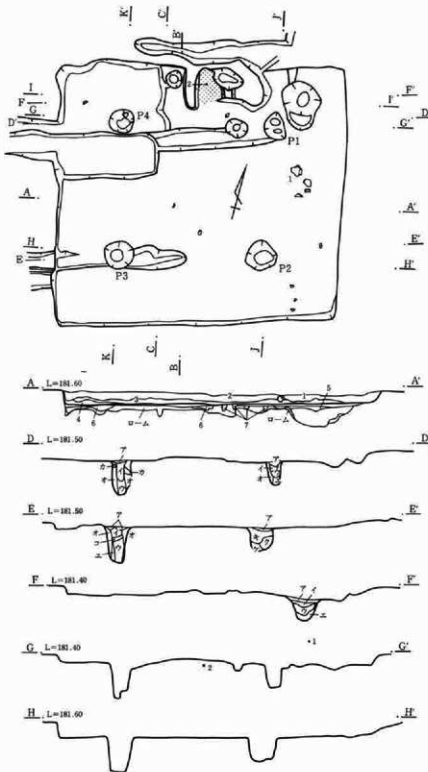
図番号	遺種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	高	胎 土 焼 色 調	成・整形の特徴	備 考
1	須恵器 短頸壺	+5	(7.5)		微砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形	口縁部片
2	須恵器 坏	+4	13.6 9.7	3.7	砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形 底部回転切り(右)	完形 石英粒目立つ
3	土師器 坏	+10	17.8	6.3	微砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 体部窪削り 内 口縁部横撫で 体部撫で後見磨き	内面放射状暗文
4	土師器 坏	+4	15.2	4.4	細砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 体部窪削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	内面放射状暗文
5	土師器 坏	+4	13.9	4.6	細砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 体部窪削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	内面放射状暗文
6	土師器 坏	+9	18.5 10.3	5.5	細砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 体部窪削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	内面放射状暗文
7	土師器 坏	+20	14.1	4.1	細砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 体部窪削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	内面放射状暗文
8	土師器 坏	+8	13.5	4.0	細砂粒含む 暗褐色 良	外 口縁部横撫で 体部窪削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	内面放射状暗文
9	土師器 坏	床面	15.0	4.1	微砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 体部窪削り 内 口縁部横撫で 体部撫で後見磨き	内面放射状暗文 炭化物付着跡か
10	土師器 坏	+14	14.5	4.0	微砂粒含む 赤褐色 良	外 口縁部横撫で 体部窪削り 内 口縁部横撫で 体部撫で後見磨き	内面放射状暗文
11	土師器 坏	+3	14.0	4.1	微砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 体部窪削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
12	土師器 坏	+15	14.6	3.9	微砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 体部窪削り 内 口縁部横撫で 体部撫で後見磨き	
13	土師器 坏	+15	14.0	3.1	細砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 体部窪削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
14	土師器 坏	甕 (7.6)	13.2	4.0	微砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 体部窪削り 内 口縁部横撫で 体部撫で後見磨き	
15	土師器 坏	床面	16.6 (10.0)	3.6	微砂粒含む 赤褐色 良	外 口縁部横撫で 体部窪削り 内 口縁部横撫で 体部撫で後見磨き	
16	土師器 坏	床面	12.2		微砂粒含む 褐色 良	外 口縁部横撫で 体部窪削り 内 口縁部横撫で 体部撫で後見磨き	
17	台 石	床面	長さ14.0cm、幅16.4cm、厚さ6.7cm、重さ1875g。石材は牛伏砂岩。大型の礫を利用、使用面は平坦。				
18	鉄製品	+15	鎌。長さ4.4cm、幅2.0cm、厚さ0.35cm、重さ4.6g。やや曲がりを持つ。破片。				
19	紡錘車	+6	径4.0cm、厚さ1.15cm、重さ23.2g。石材は滑石質蛇紋岩。				
20	管 玉	床面	長さ1.4cm、径1.2cm、孔径0.1cm、重さ1.0g。アズキ色を呈し、断面6角形であるが、材質が軟質なため形がくずれている。石材は白色凝灰岩。				
21	小 玉	床面	高さ1.0cm、径1.2cm、孔径0.25cm、重さ2.1g。暗緑色を呈し、丁寧に磨かれている。石材は蛇紋岩。				

83号住居跡 (第379~382図、PL36)

U-41グリッドに位置する。方形を呈し、規模は(4.5)m×4.2mである。耕作による削平が著しく、壁の遺存状況も悪い。特に北側は攪乱で床、壁ともに状態が悪い。

床面は北側を除き比較的良好な面としてとらえられ、中央部から甕前面にかけてはかなり踏み締められた部分が認められた。

貯蔵穴は南東隅にあり、規模はやや小さい。柱穴は4本確認されており、掘方は比較的しっかりしている。出土遺物は少ない。

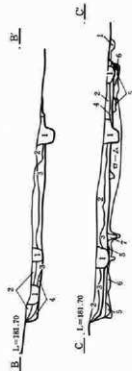


83号住居跡

1. 灰黒色土 A軽石を多く含み、粗粒で締り弱い。
2. 暗褐色土 細粒で締り弱い。
3. 褐色土 細粒で締り強く、ローム小ブロック、炭を少量含む。
4. 明褐色土 細粒でやや粘質、ローム粒を多く含む。
5. 暗褐色土 ローム粒を多く含む。
6. 褐色土とロームの混合土
7. 黒色土 (根穴)

0 2m

第379図 83号住居跡(1)



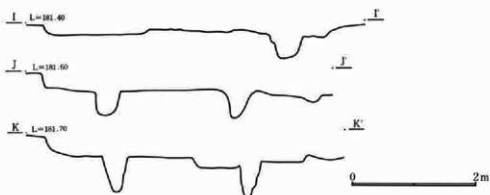
貯蔵穴 (F-F')

- ア. 黒色土 細粒で締り強い。A軽石を含む覆土。
- イ. 黒褐色土 細粒で粘質。A軽石を含まない。
- ウ. 暗褐色土 細粒で粘質。
- エ. 褐色土 細粒だが締り弱い。黄色軽石を少量含む。

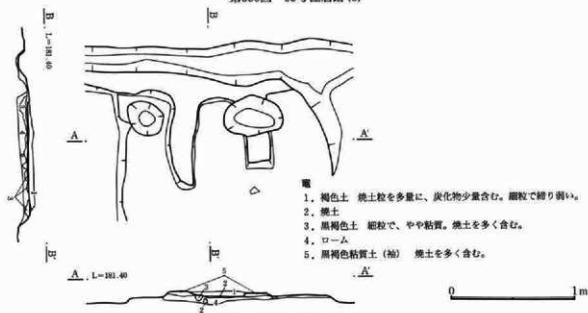
柱穴 (P1~P4)

- ア. 暗褐色土 粗粒だが締り強い。黄色軽石を多く含む。
- イ. # ア層より細粒で締り弱い。
- ウ. 褐色土 細粒で締り弱い。黄色軽石を多量に含む。
- エ. 暗褐色土 細粒だが締り弱い。
- オ. 褐色土 ロームブロックを多く含む。固く締る。
- カ. 黒色土 細粒。粘質。固い。
- キ. 淡褐色土 肌色粘土小塊。黄色軽石を多量に含む。締り強い。
- ク. 褐色土 黄色軽石 (B P) のブロックを含む。
- ケ. 暗褐色土 黄色軽石を多く含む。柔らかい。
- コ. 黒褐色土 細粒でナラナラしている。(根痕か?)

第3章 検出された遺構と遺物

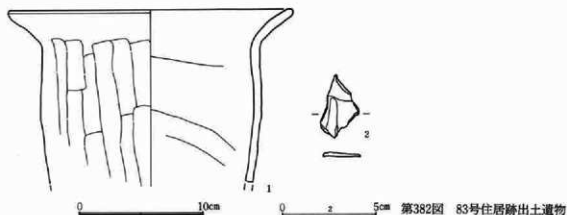


第380図 83号住居跡(2)



- 圖
1. 褐色土 焼土粒を多量に、炭化物少量含む。細粒で硬い。
  2. 硬土
  3. 黒褐色土 細粒で、やや粘質。焼土を多く含む。
  4. ローム
  5. 黒褐色粘質土(袖) 焼土を多く含む。

第381図 83号住居跡電



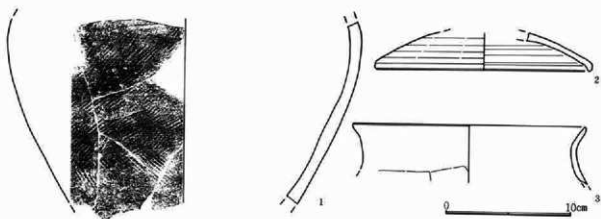
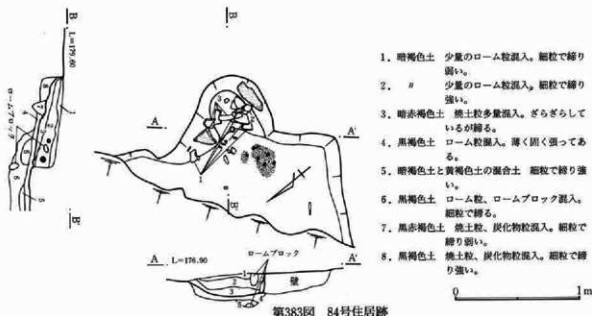
第382図 83号住居跡出土遺物

83号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 器 高 底径 (cm)	胎 土 色 調 焼 成	成・形状の特徴	備 考	
1	土器器 甕	+37	23.0	砂礫含む 良	暗褐色	外 口縁部横溝で 胴部直削り 内 口縁部横溝で 胴部直削り	
2	滑石片	床面	長さ3.3cm, 幅1.6cm, 厚さ0.2cm, 重さ2.2g。				

## 84号住居跡 (第383・384図、PL36)

V-45グリッドに位置する。51号住居跡にほとんどを切られており、竈を含む一部が確認されたに過ぎない。形状、規模は不明である。床面は竈の前面にわずかに相当する面が見られた。竈は住居外に掘り出される形状で、袖はほとんど無い。使用されていた石が検出されている。出土遺物は少ない。



84号住居跡出土遺物観察表

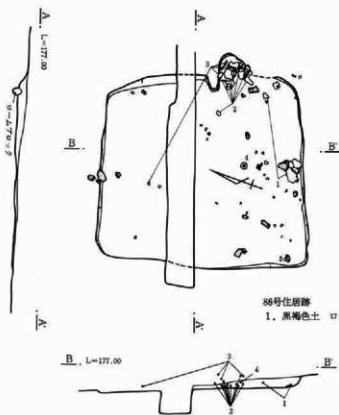
図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	須恵器 壁				砂粒含む 良	灰色	外 平行印目後強で 内 撫で	割断片
2	須恵器 蓋		17.0		砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 外面天井部削り	
3	土師器 壁		18.3		細砂粒含む 良	褐色	外 口縁部横撫で 割断削り 内 口縁部横撫で 割断横撫で	

## 86号住居跡 (第385~388図、PL36)

S-46グリッドに位置する。36・82号住居跡と重複する。方形を呈し、規模は3.2m×3.1mである。北、西部分は削平されており、壁は南西隅はロームの壁であるが、その他は立ち上がりははっきりしない。床は黒

### 第3章 検出された遺構と遺物

色土を多く含む土で貼られ、全体に炭化物粒、焼土粒が見られる。竈は左袖に石が据えられた状態で残り、中央部には石の支脚も残る。竈内から羽釜、住居のほぼ中央部からは灰桶の皿などが出土している。

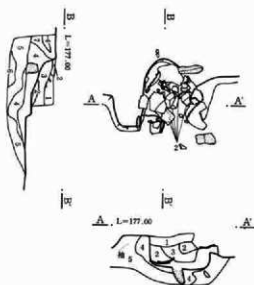


86号住居跡

1. 黒褐色土 ローム粒、炭化物粒混入。細粒で締りあり。

第385図 86号住居跡

0 2m

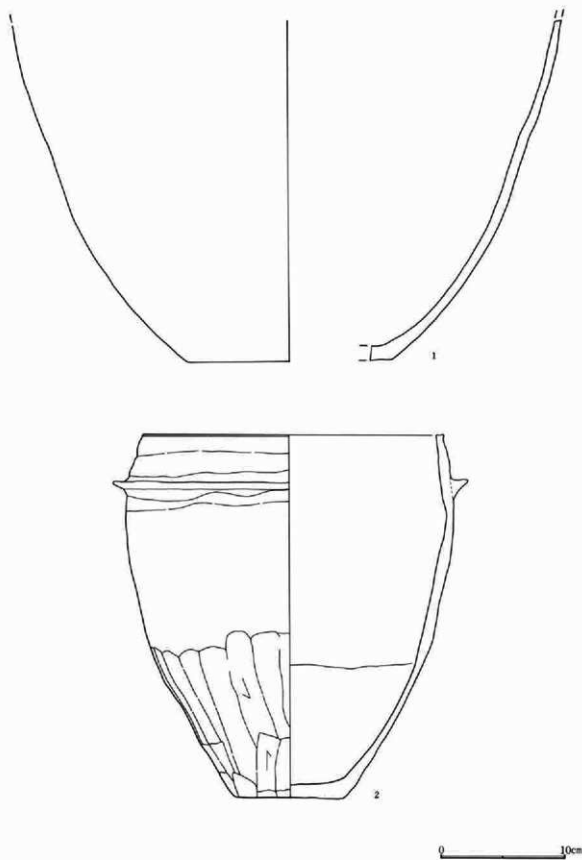


竈

1. 暗褐色土 ローム粒、焼土粒少量混入。細粒で締る。
2. 暗赤褐色土 焼土粒混入。細粒で締る。
3. 黒褐色土 ローム粒、焼土粒少量混入。細粒で締り弱い。
4. 暗褐色土と暗赤褐色土の混合土
5. 暗褐色土 ローム粒混入。
6. 暗褐色土 褐色土混入。細粒で割い。
7. " 5層に非常に近いが、焼土粒少量混入。

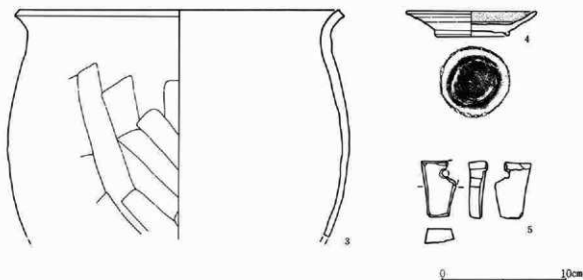
第386図 86号住居跡竈

0 2m



第387図 86号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第388図 86号住居跡出土遺物(2)

86号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	器 高 (cm)	胎 土 焼 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	須恵器 大 甕	+1	(16.0)		砂粒含む 良	灰黒色	外 叩き後撫で 内 撫で	
2	羽 蓋	甕	23.8 8.7	29.1	砂粒含む 良	暗赤褐色	ロクロ成形 胴下半部窪削り 内 口縁部横撫で 胴部縦撫で	完形
3	土 蓋	甕	26.6		砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 胴部窪削り 内 口縁部横撫で 胴部縦撫で	
4	灰軸皿	+8	10.4 5.6	2.0	夾雑物少ない 良	灰色	ロクロ成形	完形
5	磁 石	覆土	長さ4.6cm、幅3.1cm、厚さ1.2cm、重さ18g。石材は砥沢石。破損品。紐通し穴あり。					

87号住居跡 (第389～391図、PL36・37)

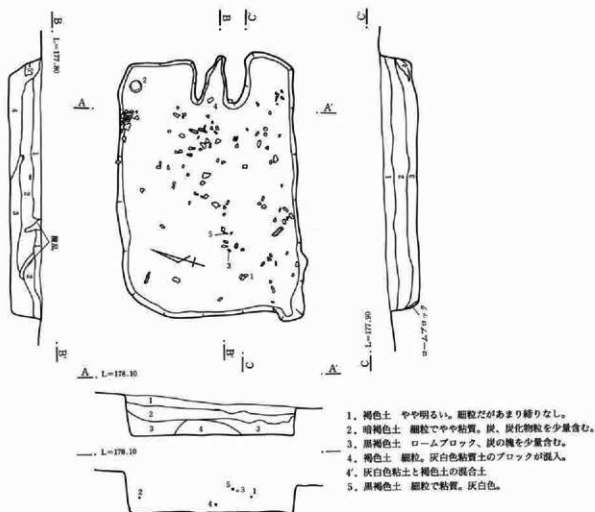
R-42グリッドに位置する。71号住居跡に上部を切られる。長方形を呈し、規模は4.0m×2.9mである。北壁は71号住居跡とほとんど共有するような状況である。

壁はほぼ垂直に掘り込まれ、最大壁高は50cm程である。床面は平坦でかなり締まっている。

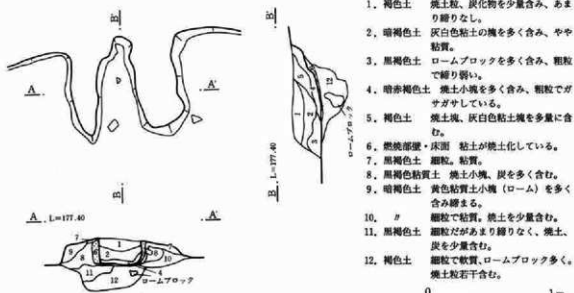
甕は粘土およびロームの混土で作られた袖が住居内に張り出している。煙道部は、ほとんど外へは延びない。

出土遺物は床から浮いた状態で出土したものが多く、甕、坏類および滑石製の勾玉、鉄弁などが検出されている。



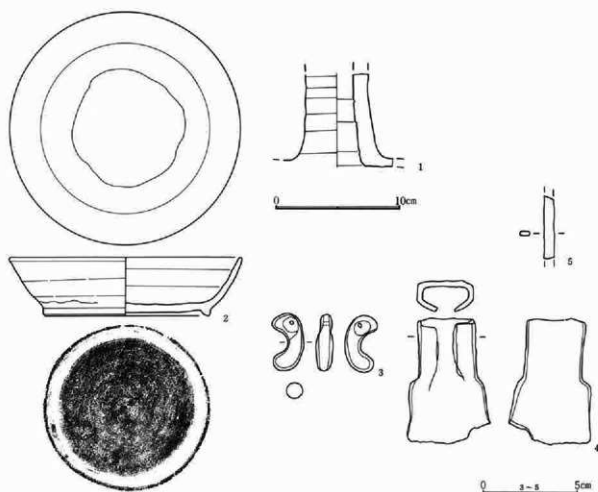


第389図 87号住居跡



第390図 87号住居跡竈

第3章 検出された遺構と遺物



第391図 87号住居跡出土遺物

87号住居跡出土遺物観察表

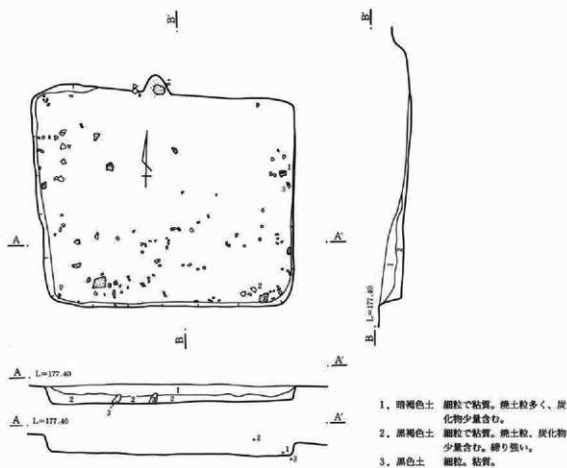
図番号	図種	出土位置 (cm)	口 径	器 高	胎土 色	土 質	色調	成・整形の特徴	備考
1	須恵器 壺	+25					砂粒含む 良	灰色	紐作り 頸部破片 自然 胎かか
2	須恵器 環	+25	18.4 13.0	4.6			砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 高部回転裁切り(右) 付け高台 完形 転用品
3	滑石製	+34	勺玉。長さ2.95cm。幅1.4cm。厚さ0.85cm。孔径0.2cm。重さ4.6g。穿孔部両面大きくえぐられ薄くなる。滑石製。						
4	鉄製品	電	弁。長さ5.6cm。幅4.3cm。厚さ1.8cm。重さ73.4g。刃部の一部を欠く。装着部から刃部の境に肩を有す。						
5	鉄製品	+36	刀子。長さ3.4cm。幅0.5cm。厚さ0.2cm。重さ0.8g。刀子の基部分か。						

88号住居跡 (第392・393図、PL37)

S-37グリッドに位置する。長方形を呈し、規模は4.1m×3.3mである。電を含む北壁、東壁の一部を浅い溝状の遺構で削られている。

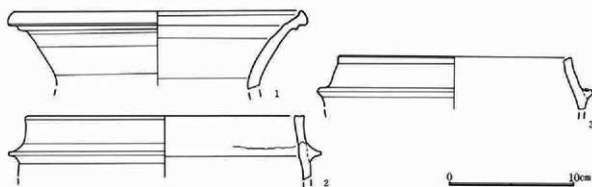
床面は平坦で良く締まるが、北側は削られている。電は北壁に作られているが、上面は削平されており、下部が辛うじて残り、位置が確認される程度である。

出土遺物は壺、羽釜などの破片である。



第392図 88号住居跡

0 2m



第393図 88号住居跡出土遺物

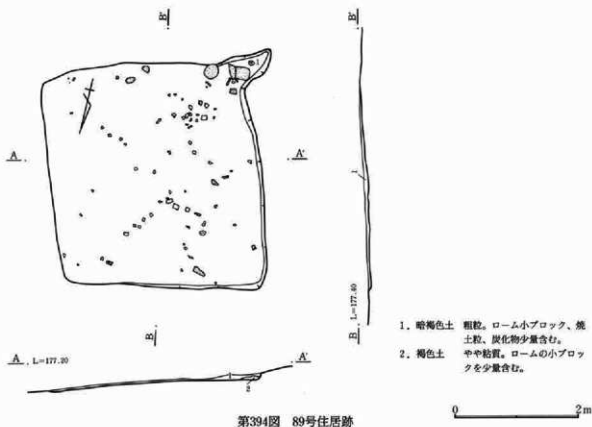
88号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	器 高 (cm)	胎土 質 色調	成・整形の特徴	備考
1	須恵器 壺	+3	(23.6)		精製 良 灰色	ロクロ成形	口縁部破片
2	須恵器 羽 壺	+24	(22.0)		霽砂粒含む 良 淡黄褐色	ロクロ成形	口縁部破片
3	須恵器 羽 壺	床面	(18.2)		霽砂粒含む 良 淡黄褐色	ロクロ成形	口縁部破片

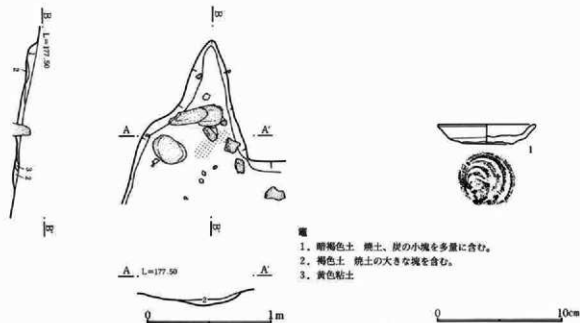
第3章 検出された遺構と遺物

89号住居跡 (第394・395図、PL37)

R-38グリッドに位置する。97号住居跡を切る。規模は3.6m×3.4mで、遺存状態は極めて悪い。北および西壁の立ち上がりが10cm程度確認される。床面は西側部分で若干確認されている。竈は南西の隅に在り、構築材として用いられた石が検出されている。焼土、炭化物の出土は少ない。出土遺物は極めて少ない。



1. 暗褐色土 粗粒。ローム小ブロック、焼土粒、炭化物少量含む。
2. 褐色土 やや粘質。ロームの小ブロックを少量含む。



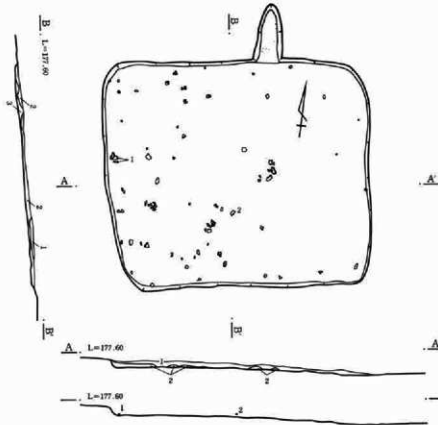
- 竈
1. 暗褐色土 焼土、炭の小塊を多量に含む。
  2. 褐色土 焼土の大きな塊を含む。
  3. 黄色粘土

89号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 底径 (cm)	径 高 (cm)	胎 土 色 調	成・整形の特徴	備考
1	土師陶 甕		7.8 4.0	1.6	砂粒含む 黄	淡橙褐色 ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	

90号住居跡 (第396・397図、PL37)

R-38グリッドに位置する。上部は削平を受け遺存状態は悪い、方形を呈し、規模は4.2m×3.6mである。壁は東を除き確認されたが、壁高は5~10cmと低い。床面は緩やかな凹凸が在り、あまりしっかりとした面ではない。竈は確認されなかったが、東南隅に在ったものと推定される。出土遺物は破片が主である。



第396図 90号住居跡

0 2m

90号住居跡

1. 褐色土 粗粒でBPと見られる軽石を多く含む。
2. 暗褐色土 細粒で粘質、軽石多く含む。炭化物、焼土若干含む。
3. 黒褐色土 細粒で粘質、軽石多い。焼土粒を多く含む。



第397図 90号住居跡出土遺物

0 10cm

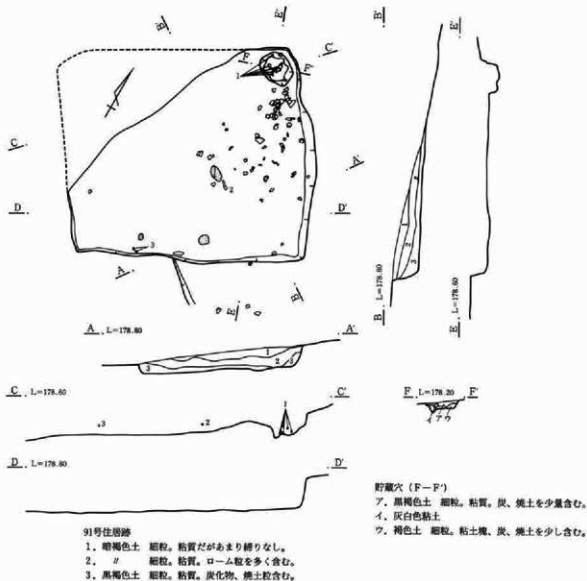
### 第3章 検出された遺構と遺物

90号住居跡出土遺物観察表

図番号	図種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	高 (cm)	胎土 土質 色調	成・整形の特徴	備考
1	土師甕	床面	20.2		砂粒含む 良 暗褐色	外 口縁部横線で 内 口縁部横線で 胴部足盤で	
2	土師甕 器坏	+5	15.2		砂粒含む 良 暗褐色	外 口縁部横線で 内 口縁部横線で 胴部足盤で	内面黒色処理

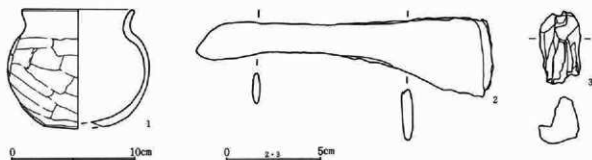
#### 91号住居跡 (第398・399図、PL37)

R-31グリッドに位置する。北西部分を失っている、規模は3.9m×(3.3)mである。壁は垂直に立ち上がり、東側の最大壁高は30cm程である。床面は平坦であるが一部掘り込みが黒色土中で止まっているため、あまり堅致ではない。貯蔵穴は北東隅にあり円形で粘質土が詰まり、甕の破片が出土している。竈は検出されなかったが北壁にあったものと推定される。遺物は住居東寄りに多く出土した。



第398図 91号住居跡

0 2m



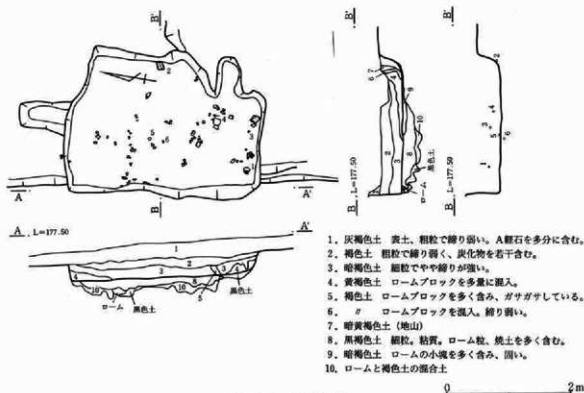
第399図 91号住居跡出土遺物

91号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径径(cm)	径 高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 小型壺	貯蔵穴	9.0		砂粒含む 普通	暗褐色	外 口縁部横溝で 胴部寛削り 内 口縁部横溝で 胴部寛無で	
2	鉄製品 鏃	+12	長さ15.7cm、幅4.1cm、厚さ0.6cm、重さ42.7g。直刃で刃は細身。					
3	滑石製 石片	+15	長さ3.3cm、幅2.1cm、厚さ2.7cm、重さ23.9g。滑石。					

## 92号住居跡 (第400~402図、PL37)

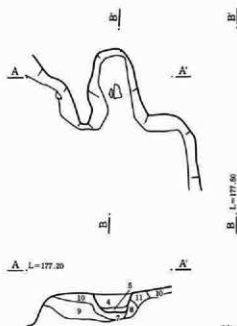
R-44グリッドに位置する。西側3分の1ほどが道路下に在るため未調査である。現状での規模は3.1m×2.3mである。壁は30cm程であるが、北壁は乱れている。床面は中央部分がやや落ち込み加減である。竈は袖が住居内に張り出す形で粘土混じりのロームで構築されている。出土遺物は少ない。



第400図 92号住居跡

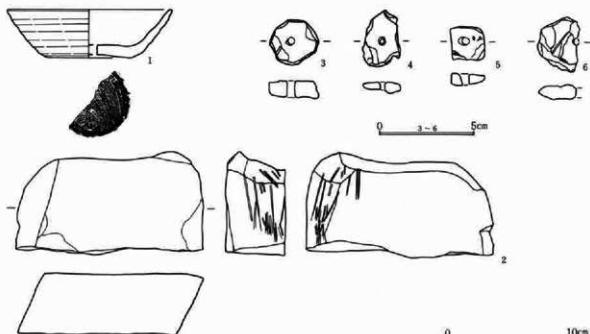
1. 灰褐色土 表土、粗粒で締り弱い。A層石を多分に含む。
2. 褐色土 粗粒で締り弱く、炭化物を若干含む。
3. 暗褐色土 細粒でやや締りが強い。
4. 黄褐色土 ロームブロックを多量に混入。
5. 褐色土 ロームブロックを多く含む、ガサガサしている。
6. 暗褐色土 ロームブロックを混入。締り弱い。
7. 暗黄褐色土 (地山)
8. 黒褐色土 細粒。粘質。ローム粒、焼土を多く含む。
9. 暗褐色土 ロームの小塊を多く含む、固い。
10. ロームと褐色土の混合土

第3章 検出された遺構と遺物



第401図 92号住居跡竈

0 1m



第402図 92号住居跡出土遺物

0 10cm

92号住居跡出土遺物観察表

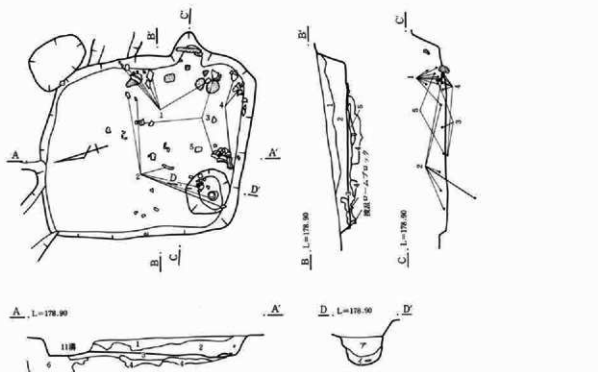
図番号	別称	出土位置 (cm)	口 径 径 深 (cm)	胎 土 成 色 調	成・形状の特徴	備考	
1	須恵器 坏	+17	(13.0) (7.1)	3.8 良	微砂粒含む 灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
2	砥石	床面	長さ7.9cm、幅4.7cm、厚さ15.1cm。	重さ753g。	石材は砂岩。使用面平坦。		
3	滑石製品	+16	有孔円盤。径2.4cm、厚さ0.9cm、孔径0.4cm。	重さ9.8g。	側縁は刃物による成形。滑石製。		
4	滑石製品	+12	有孔円盤。長さ2.9cm、幅2.0cm、厚さ0.6cm、孔径0.2cm。	重さ4.0g。	滑石製。		



5	滑石製品	床面	白玉。長さ1.75cm、幅1.7cm、厚さ0.7cm、重さ3.7g。方形で側縁に刃物による成形痕及び、研磨痕。滑石製。
6	滑石製品	床面	有孔円盤？長さ2.8cm、幅2.1cm、厚さ0.7cm、重さ6.4g。端部に両面からの穿孔。滑石製。

93号住居跡 (第403~406図、PL38)

N-18グリッドに位置する。11号溝が斜めに横切る。不正長方形を呈し、各壁はほぼ垂直に掘り込まれている。南西隅に径50cm、深さ45cmの貯蔵穴が設けられており、底からは壁の底部が伏せられた状態で出土している。床面は中央やや低くなっているが比較的平坦で、堅く踏み締められている。出土遺物は少なく破片が多い。竈は東壁中央やや南よりに作られている、袖の芯には河原石が使われており天井部の横に渡された石が1つ残っている。また火床面の中央に支柱に用いられた石が埋め込まれて検出されている。

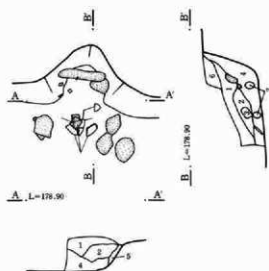


- |   |   |
|---|---|
| <p>1. 黒褐色土 軽石若干含む、ローム粒子僅かに混入。<br/>                 2. # ローム粒子、軽石粒多く混入。若干の炭化物含む。<br/>                 3. # ロームブロック、黒色土を斑に含む。<br/>                 4. # 3層に似るがロームを多く含む、やや軟質。<br/>                 5. 黄褐色土 ロームブロックを主体とし良く締っている。<br/>                 6. 暗黒褐色土 ロームを含み、やや軟質。土灰の覆土。</p> | <p>貯蔵穴 (D-D')<br/>                 ア、暗褐色土 ロームブロック斑に含む、若干の焼土、炭化物混入。<br/>                 イ、# ア層に似るがロームブロック少なくなる。</p> |
|---|---|

0 2m

第403図 93号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

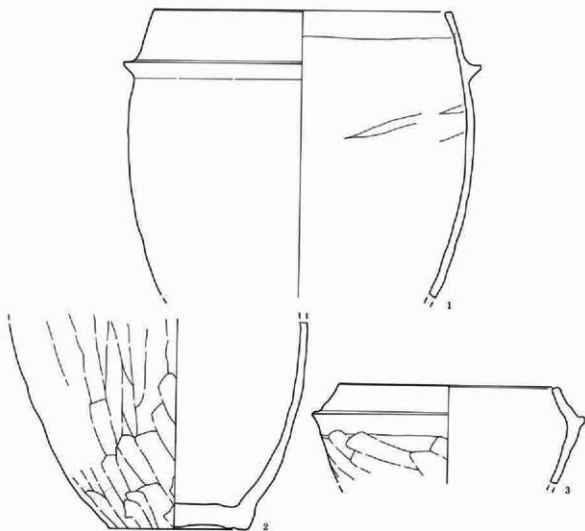


電

1. 黒色土 若干のローム小ブロック粘土粒を含む。
2. 暗褐色土 粘土ブロック（灰色）を混入。
3. 灰黒色土 粘土ブロックを主体とする。
4. # 粘土粒、ローム粒子、灰を多く混入。
5. 暗褐色土 ロームを多く含む。
6. # 若干のローム粒子を含み、良く締る。
7. # ロームブロック、横土粒子含む。

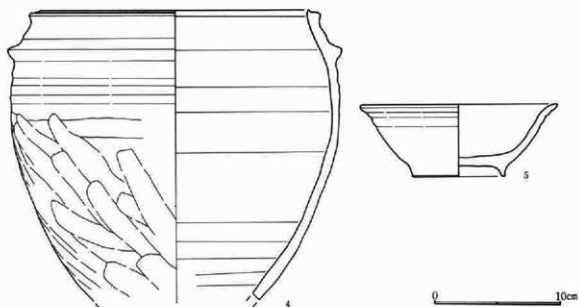
第404図 93号住居跡電

0 1m



第405図 93号住居跡出土遺物(1)

0 10cm



第406図 93号住居跡出土遺物(2)

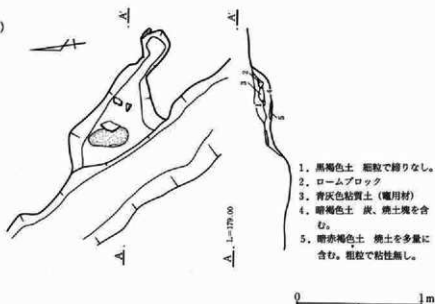
## 93号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	羽蓋	+5		24.2	微砂粒含む 良	暗茶褐色	ロクロ成形	
2	須恵器 壺 裏形	貯蔵穴		11.2	微砂粒含む 良	暗赤褐色	ロクロ成形 外面寛削り 内 側で	
3	羽蓋	床面		17.7	微砂粒含む 良	暗褐色	ロクロ成形 側下半部寛削り	
4	羽蓋	床面		22.9	微砂粒含む 良	黒色	ロクロ成形 側下半部寛削り	
5	須恵器 杯	床面	(15.4) (7.2)	5.7	微砂粒含む 普通	明茶褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	酸化焙焼成

## 95号住居跡 (第407図、PL38)

W-46グリッドに位置する。耕作による溝などで、大半が失われており、電部分のみ残っている。規模、形状は不明である。床面もほとんどつかめない。

竈は袖部分は無く、燃焼部、煙道部の下部が残り河原石が1点出土している。出土遺物はほとんど見られなかった。



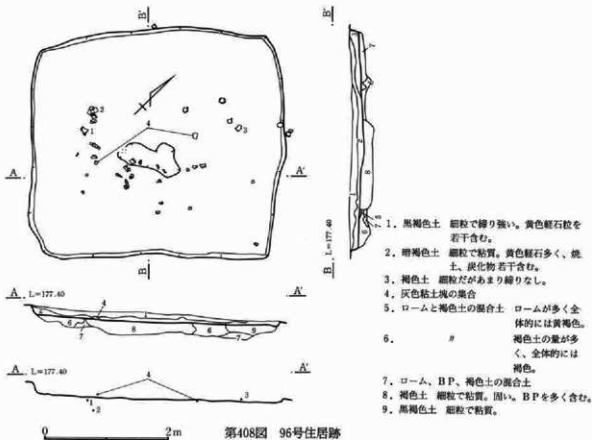
第407図 95号住居跡

1. 黒褐色土 細粒で練りなし。
2. ロームブロック
3. 青灰色粘質土 (甕用材)
4. 暗褐色土 炭、焼土塊を含む。
5. 暗赤褐色土 焼土を多量に含む。粗粒で粘性無し。

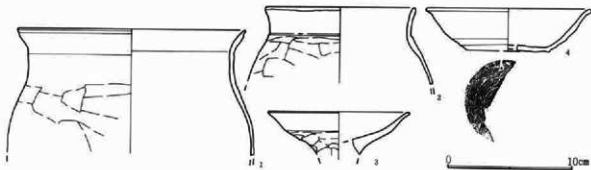
第3章 検出された遺構と遺物

96号住居跡 (第408・409図, PL.38)

R-38グリッドに位置する。長方形を呈し、規模は4.0m×3.6mである。上部が削平されており、壁の残りは悪い。床面は比較的平坦である。竈、貯蔵穴等は検出されなかった。出土遺物も少ない。



第408図 96号住居跡



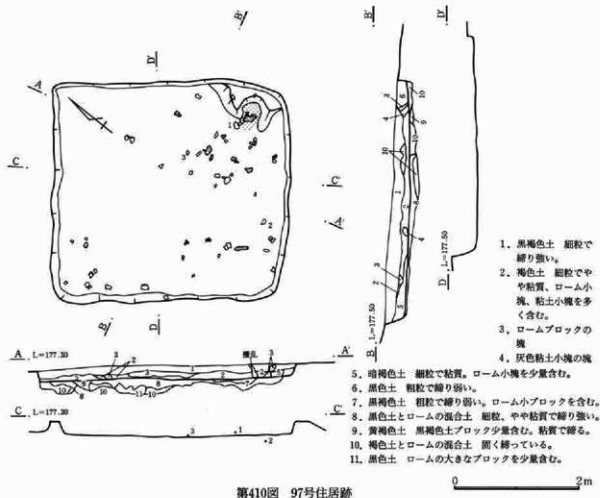
第409図 96号住居跡出土遺物

96号住居跡出土遺物観察表

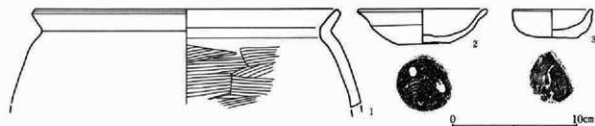
図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土 器底	色調	成・整形の特徴	備考	
1	土師器 甕	床面	18.4		微砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部窪削り 胴部窪撫で	
2	土師器 甕	床面	12.1		微砂粒含む 良	暗褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部窪削り 胴部窪撫で	
3	土師器 高 杯	+4	11.5		微砂粒含む 良	淡茶褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部窪削り 体部撫で	杯部片
4	須恵器 杯	床面	13.0 (6.5)	3.2	積製 良	灰色	口ワロ成形	底部回転糸切り (右)	

97号住居跡 (第410・411図、PL38)

R-38グリッドに位置する。96号住居跡の南に接している。ほぼ方形を呈し、規模は3.8m×3.5mである。壁高は10~15cmで、床面はやや凹凸を持つ。竈、貯蔵穴等は検出されなかった。出土遺物は少ない。



第410図 97号住居跡



第411図 97号住居跡出土遺物

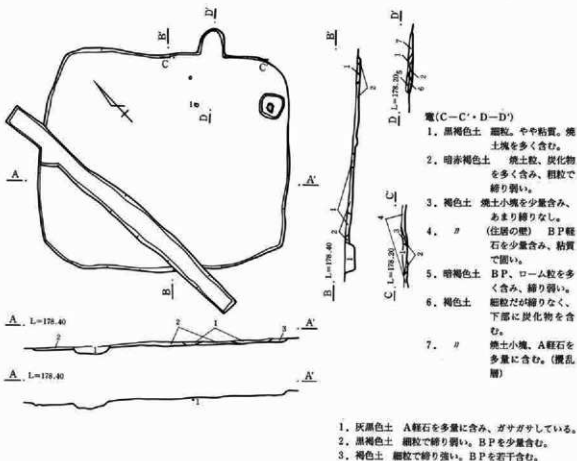
97号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	口径 径	器高 (cm)	胎土 色	色調	成・整形の特徴	備考
1	土釜	+4	(24.2)			砂粒含む 良	淡褐色	外 口径部横撫で 体部縦削り 内 口径部横撫で 胴部縦撫で	口径部破片
2	須恵器 杯	床面	10.2	4.1	2.8	兼砂粒含む 良	淡褐色	口クロ成形 底部回転糸切り(右)	酸化焰焼成 完形
3	須恵器 杯	床面	6.3	4.1	2.2	兼砂粒含む 良	黒褐色	口クロ成形 底部回転糸切り(右)	小型品

第3章 検出された遺構と遺物

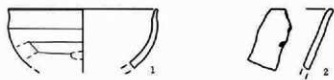
98号住居跡 (第412・413図、PL38)

T-39グリッドに位置する。ほぼ方形を呈し、規模は4.0m×3.0mである。削平が著しい。住居の北西部を斜めに耕作溝が走る。床面は細かな凹凸が有りやや軟質である。貯蔵穴は南東隅に見られるが、規模は小さい。竈は東壁に作られているが、大部分は失われている。出土遺物はほとんど見られなかった。



第412図 98号住居跡

0 2m



第413図 98号住居跡出土遺物

0 10cm

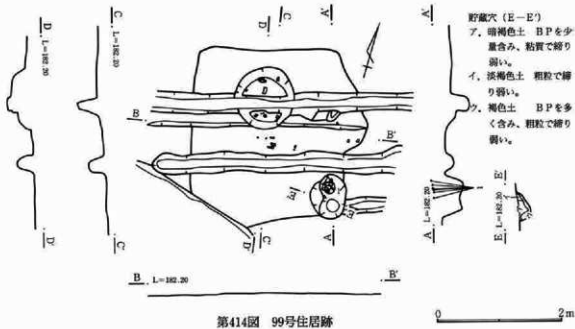
98号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	口径高	胎土 或 色調	成・整形の特徴	備考
1	土胎器 坏	床面	12.0		微砂粒含む 灰黄褐色 良	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部漸で	
2	土胎器 坏	覆土			微砂粒含む 橙褐色 良	外 口縁部横線で 体部直削り 内 口縁部横線で 体部漸で	内面曇書 口縁部破片

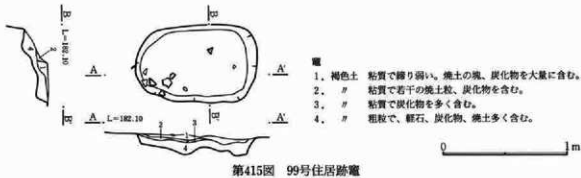
99号住居跡 (第414~416図、PL38)

V-41グリッドに位置する。壁は削平されており、耕作溝が東西に住居を分断しており、辛うじて平面形

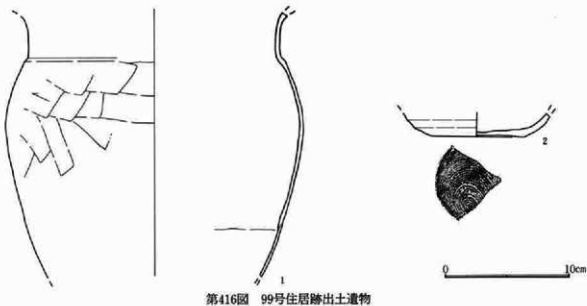
が推定される。床面の状況も極めて悪く、ほとんど失われている。竈は位置の確定はできるが、形状、規模は不明である。出土遺物は極めて少ない。床下土坑が確認されている。



第414図 99号住居跡



第415図 99号住居跡竈



第416図 99号住居跡出土遺物

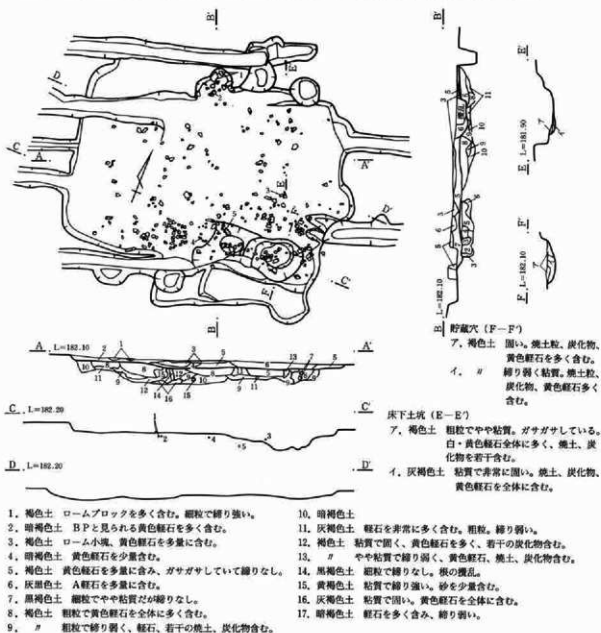
### 第3章 検出された遺構と遺物

99号住居跡出土遺物観察表

図番号	遺構	出土位置 (cm)	口 径 径 (cm)	筒 高 (cm)	胎 土 成 色 調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	貯蔵穴			微砂粒含む 黒褐色 良	外口縁部横撫で 胴部旋削り 内口縁部横撫で 胴部旋削り	
2	須恵器 坏	覆土	7.4		微砂粒含む 灰色 良	口クロ成形 底部回転糸切り(右)	

### 100号住居跡 (第417~419図、PL38)

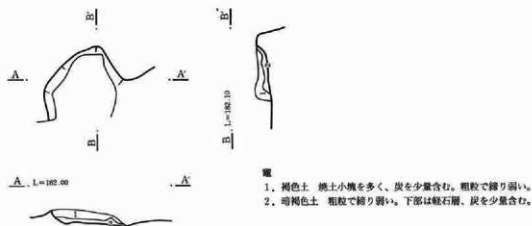
V-41グリッドに位置する。耕作等による削平が著しい、方形を呈すと思われる。壁高は部分的に15cm程度確認される。床面は削られた部分が多く、地山が露出している。貯蔵穴と思われる穴が北東隅に検出されている。甕は崩れており、燃焼下部が僅かに見られるのみである。出土遺物は破片が若干である。



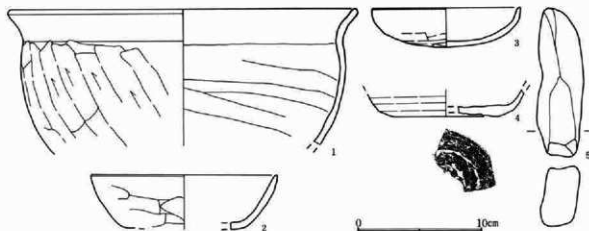
第417図 100号住居跡

0 2m





第418図 100号住居跡竈



第419図 100号住居跡出土遺物

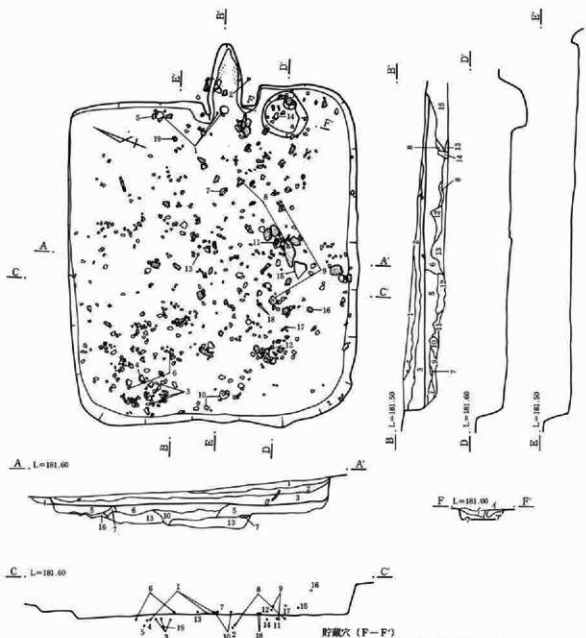
100号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	器 高 (cm)	胎 土 備 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 甕	竈	28.0		微砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横線で 胴部捩削り 内 口縁部横線で 胴部捩削り	口縁部、底部を欠く
2	土師器 坏	床面	(15.0)		微砂粒含む 良	褐色	外 口縁部横線で 体部捩削り 内 口縁部横線で 体部捩削り	
3	土師器 坏	+4	(11.8)	3.0	微砂粒含む 良	褐色	外 口縁部横線で 体部捩削り 内 口縁部横線で 体部捩削り	
4	須恵器 坏	床面	(8.2)		微砂粒含む 良	灰色	口アロ成形 底部回転置切り(右)	
5	砥石	床面	長さ11.7cm, 幅3.5cm, 厚さ4.5cm, 重さ203g				石材は牛伏砂岩。棒状の礫を利用。使用面は一側面。	

101号住居跡 (第420~423図、PL39)

V-39グリッドに位置する。やや東西が長い長方形を呈し、規模は5.0m×4.6mである。壁高は北側は浅く、南が深い、床面は締まりが弱く、南部分がやや高まる。貯蔵穴は竈の右側に有り、円形で径70cm、深さ約30cmである。竈は東にあり馬蹄形に外へ掘り出されている。袖部分の残りは悪い。

出土遺物は破片が多く、ほとんど浮いた状態で出土している。



貯蔵穴 (F-F)

ア. 黒褐色土 細粒でやや締り弱く、粘質。

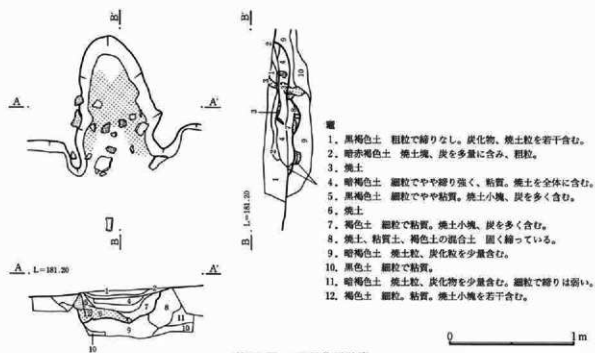
イ. 暗褐色土 細粒でやや締り強く、炭化物、焼土を少量含む。

ウ. # イ層に比べて暗く、炭化物、焼土粒含み細粒。

- |                                  |                                 |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 1. 褐色土 細粒で締り弱い、白色軽石、焼土、炭化物少量含む。  | 9. 黒褐色土 焼土粒、炭を少量含む。             |
| 2. # 細粒で締り。白色、黄色軽石、焼土、炭化物含む。     | 10. 焼土と褐色土の混合土 一部に黄色粘土塊が混じる。    |
| 3. 暗褐色土 細粒で締り強い。焼土、炭化物を含む。       | 11. 黄白色粘土と黒褐色土の混合土              |
| 4. 褐色土 細粒で締り弱い。白色粒子を全体に含む。       | 12. 暗褐色土 焼土、炭を含み、細粒で粘質。やや赤味を呈す。 |
| 5. 暗褐色土 細粒で粘質。焼土塊を少量含む。          | 13. 黒褐色土 細粒で粘性が強い。灰をごく少量含む。     |
| 6. # 細粒で粘性強い。焼土塊、炭化物を少量含む。       | 14. 黒色土 細粒だが締り弱い。               |
| 7. 褐色土 黄褐色土の小塊を多く含む。細粒だがあまり締りなし。 | 15. 暗褐色土 細粒。粘質。締り強い。            |
| 8. # 灰白色粘土の大きな塊を含む。細粒でやや粘質。      | 16. 褐色土 黄褐色土小塊を少量含む。締り弱い。       |

0 2m

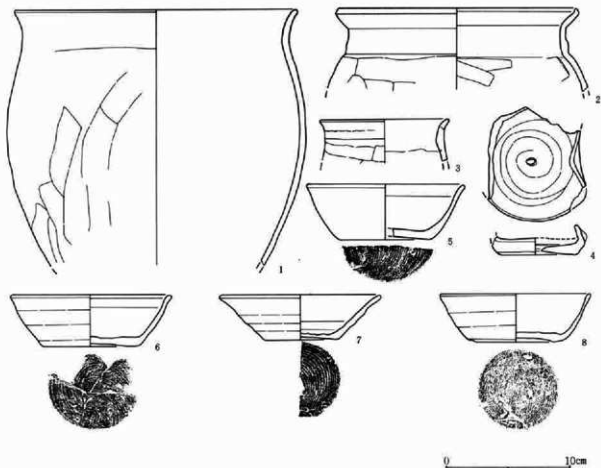
第420図 101号住居跡



竈

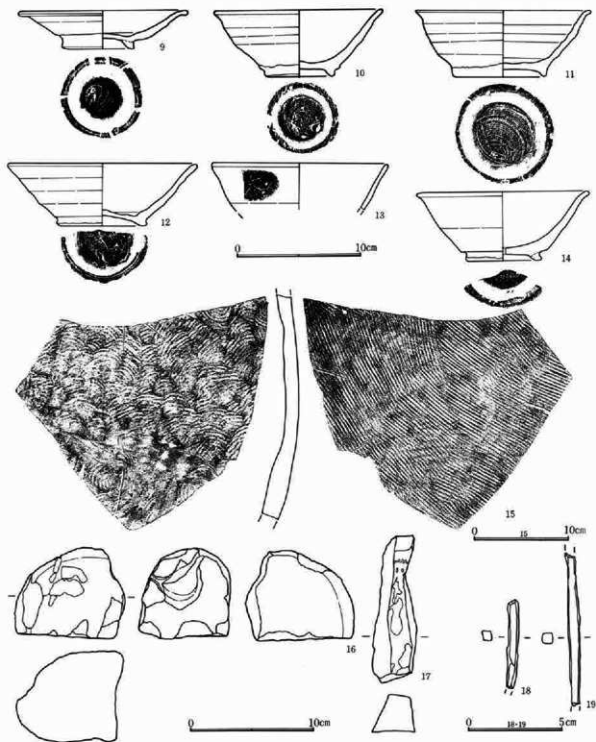
1. 黒褐色土 細粒で締りなし。炭化物、焼土粒を若干含む。
2. 暗赤褐色土 焼土塊、炭を多量に含み、細粒。
3. 焼土
4. 暗褐色土 細粒でやや締り強く、粘質。焼土を全体に含む。
5. 黒褐色土 細粒でやや粘質。焼土小塊、炭を多く含む。
6. 焼土
7. 褐色土 細粒で粘質。焼土小塊、炭を多く含む。
8. 焼土、粘質土、褐色土の混合土 固く締っている。
9. 暗褐色土 焼土粒、炭化粒を少量含む。
10. 黒色土 細粒で粘質。
11. 暗褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。細粒で締りは弱い。
12. 褐色土 細粒、粘質。焼土小塊を若干含む。

第421図 101号住居跡竈



第422図 101号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物

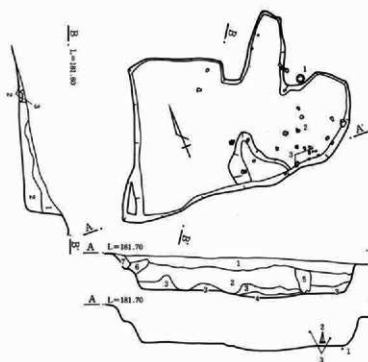


第423図 101号住居跡出土遺物(2)

101号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	器 高	胎 土 焼 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 壺	竪	22.8		砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横無で 胴部直削り 内 口縁部横無で 胴部直削り	
2	土師器 壺	床面	19.5		砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横無で 胴部直削り 内 口縁部横無で 胴部直削り	

3	土師器 小型壺	貯蔵穴	10.5		微砂粒含む 赤褐色 普通	外 口縁部横撫で 胴部貫刺り 内 口縁部横撫で 胴部貫刺り	口縁部片
4	須恵器 耳 蓋	床面	(10.0)	(2.4)	砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	底面中央に穿孔
5	須恵器 杯	床面	(12.8)	4.3	微砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
6	須恵器 杯	床面	(13.0)	4.0	砂粒含む 灰黄色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
7	須恵器 杯	+2	(13.2)	3.5	微砂粒含む 灰黒色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
8	須恵器 杯	床面	(12.2)	3.8	砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
9	須恵器 杯	床面	13.6	3.0	極少量の砂粒 含む 灰 褐色 良	ロクロ成形	
10	須恵器 杯	+2	13.8	5.2	微砂粒含む 灰黒色 普通	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
11	須恵器 杯	床面	14.2	5.3	微砂粒含む 灰黒色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
12	須恵器 杯	+5	15.4	4.9	微砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
13	須恵器 杯	+3	14.4		微砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形	外面に縁刻
14	須恵器 杯	床面	(14.0)	5.4	微砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
15	須恵器 大 壺	+13			微砂粒含む 灰緑色 良	外面 平行印目 内面 同心円文	胴部破片
16	磁 石	+29	長さ7.1cm、幅5.5cm、厚さ7.3cm、重さ255g。石材は二ヶ岳産石。礫の二面を利用。				
17	磁 石	+15	長さ10.3cm、幅2.9cm、厚さ3.4cm、重さ102g。石材は硬質泥粒。不定形な棒状の礫を利用、使用面は一面。				
18	鉄製品	床面	釘。長さ4.7cm、幅0.5cm、厚さ0.5cm、重さ3.6g。両端部を欠く。				
19	鉄製品	床面	釘。長さ8.0cm、幅0.55cm、厚さ0.5cm、重さ5.8g。両端部を欠く。				



第424図 102号住居跡

SPA-A'

1. 褐色土 細粒で締り弱い。暗褐色土褐色土の混入。B P含む。
2. 暗褐色土 細粒。B Pを全体に、若干の炭化物を含む。
3. 褐色土 粗粒でB Pを含む。灰色土、炭化物少量混入。
4. 暗褐色土 締り弱い。B P少量混入。黒褐色土、灰色土混入。
5. 黒褐色土 細粒でやや締り強い。
6. 褐色土 粗粒でB Pを全体に多く含む。
7. 黄褐色土 粗粒で締り弱い。B P、砂を多く含む。

SPB-B'

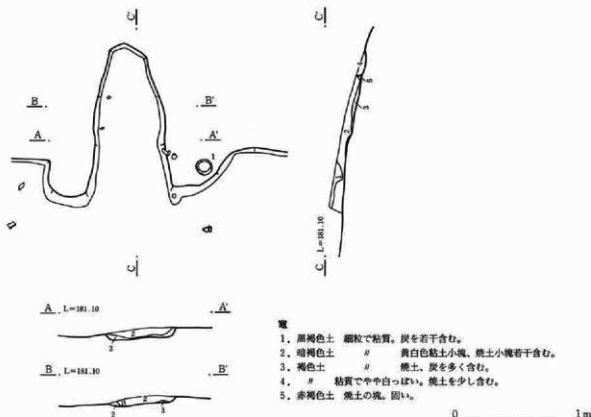
1. 暗褐色土 細粒だがあまり締りなし。淡褐色土小塊を混入含む。
2. 黒褐色土 粗粒でやや粘質。締り強い。
3. 黒色土 粗粒で粘質。炭を若干含む。

0 2m

第3章 検出された遺構と遺物

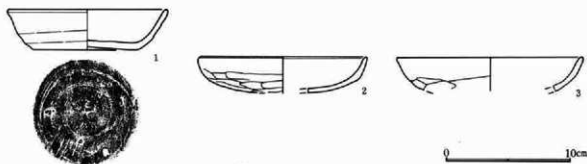
102号住居跡 (第424～426図, PL.39)

V-35グリッドに位置する。南東部半分が調査区外である。最大確認壁高は20cm程で、北側はほとんど削平されている。床面は平坦で地山粘質土をそのまま床としている。竈は北壁に作られていたが、上部をほとんど失っている。出土遺物は少ないが竈石袖部で完形の甕が1点出土している。



第425図 102号住居跡竈

- 竈
1. 黒褐色土 細粒で粘質。炭を若干含む。
  2. 暗褐色土 # 黄白色粘土小塊、焼土小塊若干含む。
  3. 褐色土 # 焼土、炭を多く含む。
  4. # 粘質でやや白っぽい。焼土を少し含む。
  5. 赤褐色土 焼土の塊。固い。



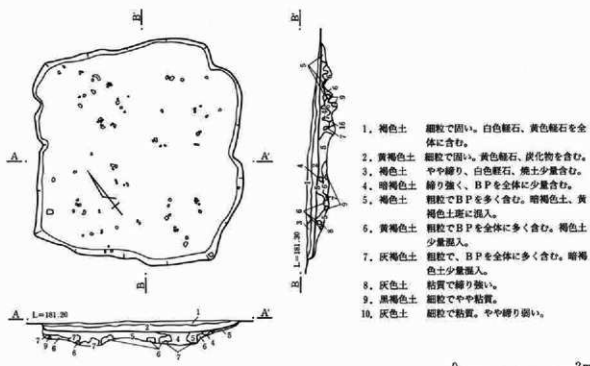
第426図 102号住居跡出土遺物

102号住居跡出土遺物観察表

図番号	部種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	器 高 (cm)	胎 土 成 色 調	成・形状の特徴	備 考
1	甕形器	床面	13.0	3.1	微砂粒含む 灰色	ロクロ成形 底部回裏切り(右)	完形
	坏		8.6	良			
2	土師器	+5	13.6		微砂粒含む 良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部削り 体部撫で
	坏				良		
3	土師器	+10	15.0		微砂粒含む 良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部削り 体部撫で
	坏				良		

## 103号住居跡 (第427図、PL39)

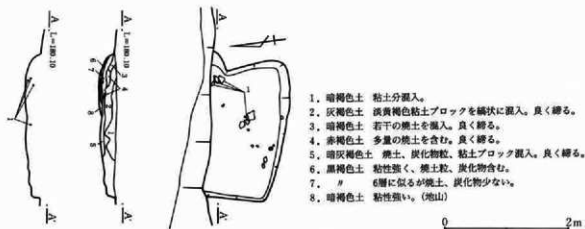
U-39グリッドに位置する。方形を呈し、規模は3.5m×3.2mである。上部のほとんどを削平されている。床面は凹凸があり、東壁脇に粘土の広がりが検出されている。竈は検出されていない。出土遺物は少ない。



第427図 103号住居跡

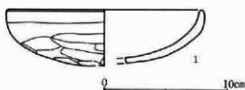
## 104号住居跡 (第428・429図、PL39)

P-21グリッドに位置する。北斜面に構築されており、北側半分は削平されている。平面の形状は方形と思われ、小形の住居跡で規模は1辺約1.5m、現状の壁の高さは25cmである。竈は東壁に設けられており、北側ほぼ半分が削られている。埋土中には多量の焼土、炭化物が見られた。出土遺物は竈全面において坏が出土している他には、破片が若干出土しているのみである。床面は地山の粘土層をそのまま地床としている。覆土中には流れ込んだと思われる多くの地山粘土ブロックが含まれている。



第428図 104号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



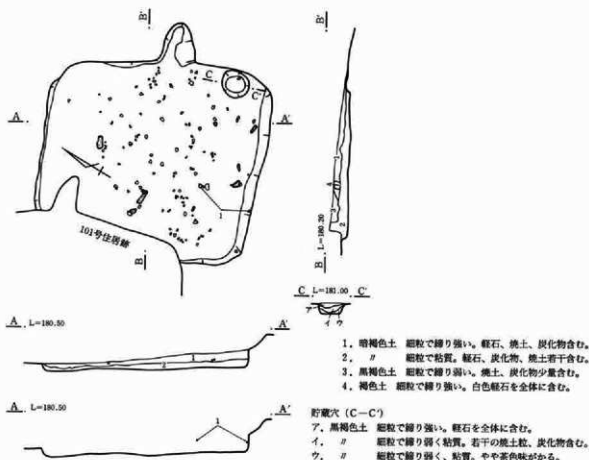
第429図 104号住居跡出土遺物

104号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土 土成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	+3	15.8		精製 良	黒褐色	外 口縁部横線で 体部見附り 内 口縁部横線で 体部無で	

105号住居跡 (第430・431図、PL40)

V-39グリッドに位置する。101号住居跡の竈より、北西隅が切られている。東壁部分は削られているために壁高は計測不可能。南壁は調査区ぎりぎりである。形状はほぼ方形で規模は3.5m×3.1mである。最大壁高は南西隅で約30cmを測る。床面はほぼ平坦で黒色土を多量に含んだローム質の土で貼られている。貯蔵穴は南東隅にあるが径40cmで深さ15cmと浅い。出土遺物は壺、坏の破片類である。



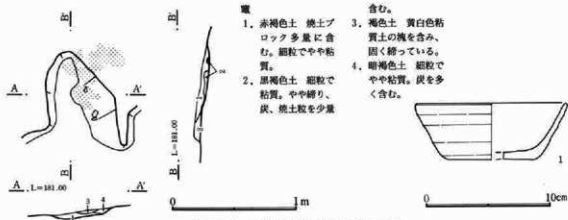
1. 暗褐色土 細粒で締り強い。軽石、焼土、炭化物含む。
2. // 細粒で粘質。軽石、炭化物、焼土若干含む。
3. 黒褐色土 細粒で締り弱い。焼土、炭化物少量含む。
4. 褐色土 細粒で締り強い。白色軽石を全体に含む。

貯蔵穴 (C-C')

- ア. 黒褐色土 細粒で締り強い。軽石を全体に含む。
- イ. // 細粒で締り弱く粘質。若干の焼土粒、炭化物含む。
- ウ. // 細粒で締り弱く、粘質。やや茶色味がかる。

第430図 105号住居跡





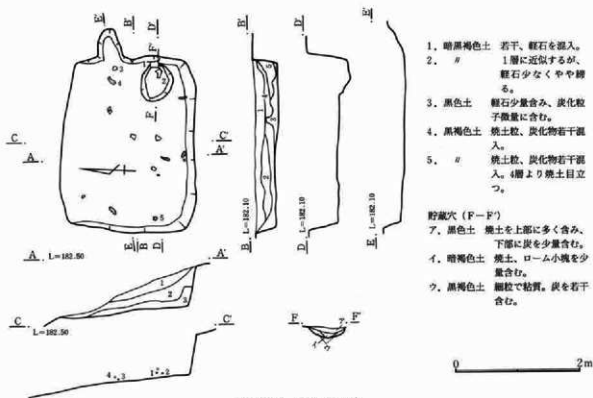
第431図 105号住居跡竈及び出土遺物

105号住居跡出土遺物観察表

図番号	図種	出土位置 (cm)	口 径径(cm)	深 高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	+15	(12.2) (7.0)	4.5	微砂粒含む 良	明灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	

106号住居跡 (第432~434図, PL40)

Q-20グリッドに位置する。104号住居跡の南側に検出、やや高い位置にある。北側約半分が削平されている。形状は方形を呈すと思われる。規模は小さく2.8m×2.1mである。2次堆積と考えられる黒色土中に掘り込まれており、床面はこの黒色土中で止まっており、余り踏み固められた状況は見られない。竈は東壁に構築されており、両袖部は明確には検出できなかった。焚き口幅は30cmで奥行きは40cmである。焼土、炭化物はほとんど見られなかった。出土土器も少なく、壺の破片が若干出土したのみである。



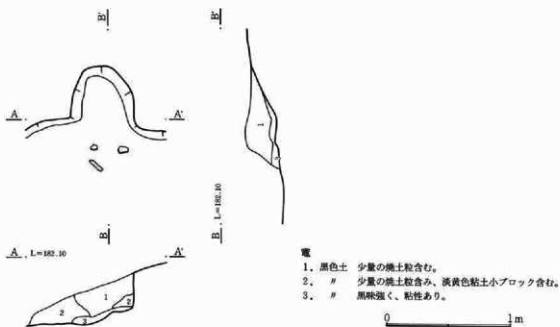
第432図 106号住居跡

1. 暗黒褐色土 若干、軽石を混入。
2. # 1層に近似するが、軽石少なくやや締る。
3. 黒色土 軽石少量含む、炭化粒子微量に含む。
4. 黒褐色土 焼土粒、炭化物若干混入。
5. # 焼土粒、炭化物若干混入。4層より焼土目立つ。

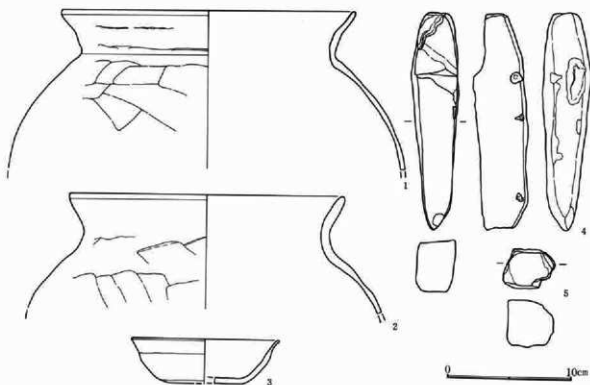
貯蔵穴 (F-F')

7. 黒色土 焼土を上部に多く含む、下部に炭を少量含む。
- イ. 暗褐色土 焼土、ローム小塊を少量含む。
- ウ. 黒褐色土 細粒で粘質。炭を若干含む。

第3章 検出された遺構と遺物



第433図 106号住居跡電



第434図 106号住居跡出土遺物

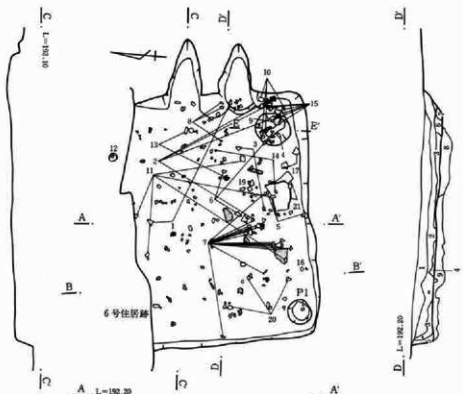
106号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径器高 底径 (cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 壺	+10	(23.6)	微砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部直削り	
2	土師器 壺	+12	(22.2)	砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部直削り	

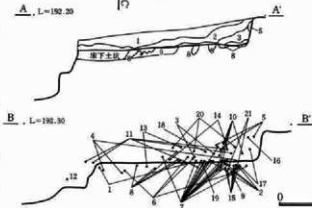
3	土師器 坏	+4	12.0 (5.7)	微砂粒含む 橙褐色 普通	外 口縁部破損で 体部段削り 内 口縁部破損で 体部削で	器面単純
4	砥石	+8	長さ18.0cm, 幅4.2cm, 厚さ4.0cm, 重さ266g.	石材は砂岩, 棒状の礫を利用, 使用面は一面。		
5	砥石	+15	長さ3.1cm, 幅3.9cm, 厚さ3.7cm, 重さ58g.	石材は砥沢石, 角礫を利用, 使用面は一面。		

107号住居跡 (第435～439図, PL40)

P-8グリッドに位置する。隅丸方形で北側で1号住居跡を切り、6号住居跡にやはり北壁を切られている。壁高は40cm程でほぼ垂直に立ち上がる。規模は4.0m×(2.8)mである。竈は東壁に2つ並んで築かれている。形状、および規模は両者ともにほぼ同じであるが、南側の竈は、火床面が床面よりも5cm程高くなっている。床面はかなり固く踏み締められているが、やや凹凸が見られる。南西コーナーに径40cm、深さ20cmの摺鉢状を呈す、貯蔵穴と見られる小穴が検出されている。柱穴は検出されていない。



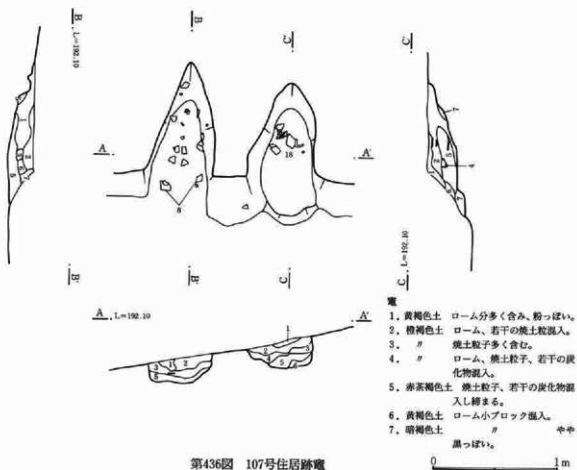
1. 黒褐色土 若干のローム分混入。
2. # 1層に似るがロームやや多く含む。
3. #
4. 黄褐色土 ローム分多く含む、やや粘性あり。
5. # ロームブロック混入。
6. 赤黒褐色土 炭化物、焼土若干含む。
7. 黄褐色土 ローム主体とする。(竈地部分か?)
8. 黒褐色土 ローム粒子、炭化物混入。
9. # ロームブロック、炭化物多く混入。



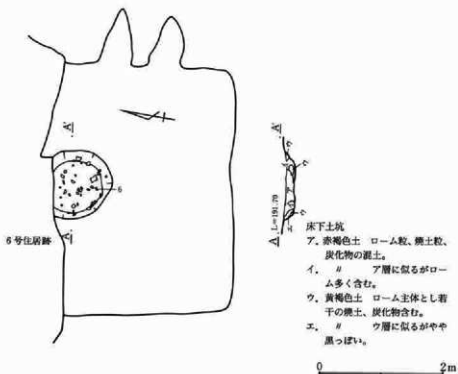
- 貯蔵穴 (E-E)  
 ア. 黄褐色土 ローム  
 粒子、焼土粒混入。  
 イ. # 地山  
 ローム主体とし、  
 炭化物混入。

第435図 107号住居跡

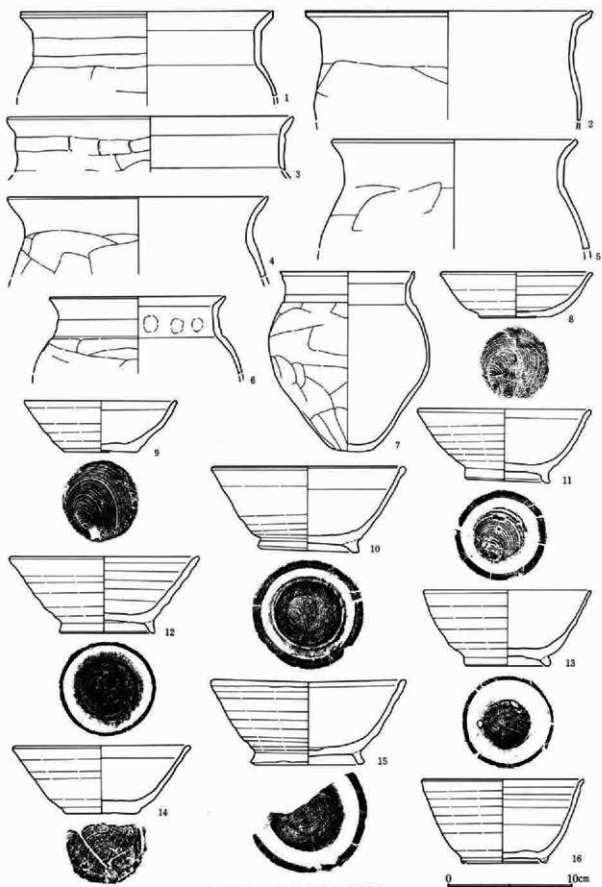
第3章 検出された遺構と遺物



第436図 107号住居跡竈

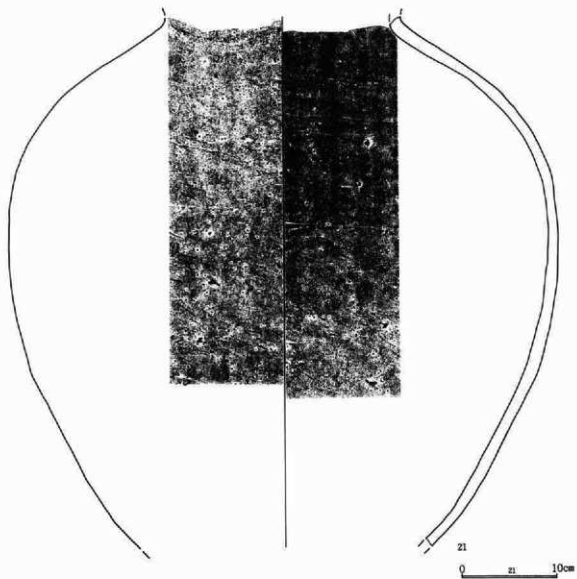
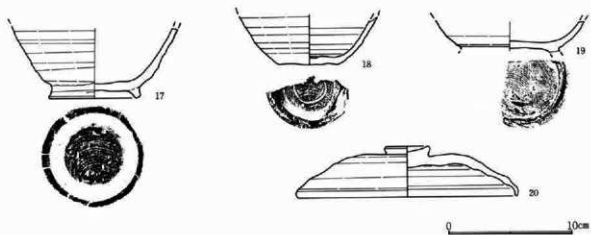


第437図 107号住居跡床下土坑



第438図 107号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第439図 107号住居跡出土遺物(2)

107号住居跡出土遺物観察表

図番号	図様	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	高	土 色 調	成・形状の特徴	備 考
1	土師器 甕	床面	20.3		微砂粒含む 赤褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 胴部寛撫で	口縁部片
2	土師器 甕	床面	23.0		微砂粒含む 橙褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 胴部寛撫で	
3	土師器 甕	+8	23.0		微砂粒含む 赤褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 胴部寛撫で	口縁部片
4	土師器 甕	床面	21.0		微砂粒含む 橙褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 胴部寛撫で	
5	土師器 甕	床面	19.7		微砂粒含む 赤褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 胴部寛撫で	
6	土師器 甕	床面	14.2		微砂粒含む 赤褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 胴部寛撫で	
7	土師器 甕	床面	11.0 3.4	14.1	微砂粒含む 暗赤褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 胴部寛撫で	
8	須恵器 坏	竈	12.3 6.0	3.6	微砂粒含む 灰褐色 良	口クロ成形 底部回転糸切り(右)	
9	須恵器 坏	貯蔵穴	12.4 5.9	4.0	微砂粒含む 灰褐色 良	口クロ成形 底部回転糸切り(右)	完形
10	須恵器 埴	床面	15.8 8.2	6.6	微砂粒含む 灰色 良	口クロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	完形
11	須恵器 埴	床面	14.1 6.9	5.8	微砂粒含む 灰褐色 良	口クロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
12	須恵器 埴	+10	15.0 7.5	6.0	砂粒含む 灰褐色 良	口クロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
13	須恵器 埴	床面	13.5 6.9	6.0	微砂粒含む 灰褐色 良	口クロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
14	須恵器 坏	+5	(14.5) (6.0)	5.3	微砂粒含む 灰褐色 良	口クロ成形 底部回転糸切り(右)	
15	須恵器 埴	床面	(16.0) 9.2	6.5	微砂粒含む 灰色 良	口クロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
16	須恵器 埴	+37	(13.2)		微砂粒含む 灰褐色 良	口クロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	高台欠
17	須恵器 埴	床面		7.4	微砂粒含む 灰褐色 良	口クロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
18	須恵器 埴	竈			微砂粒含む 淡黄褐色 良	口クロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
19	須恵器 埴	床面			微砂粒含む 灰色 良	口クロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
20	須恵器 蓋	+17	(17.8)	4.0	微砂粒含む 灰色 良	口クロ成形 外面天井部削り	
21	須恵器 甕	床面			砂粒含む 灰色 良	内外面叩き後撫で	胴部破片

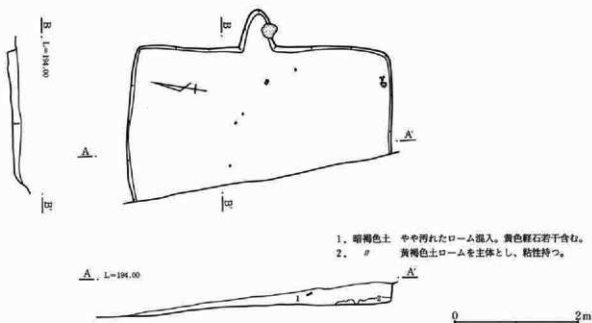
住居のほぼ中央に径1.1m、深さが20cm程の床下土坑が検出され、覆土中より若干の土器片が出土している。出土遺物は須恵器の甕、土師器甕、および坏類である。

## 109号住居跡(第440・441図、PL40)

Q-9グリッドに位置する。西側半分以上が道路下にあるために未調査である。規模は一辺4m程の方形を呈すと思われる。貯蔵穴、柱穴も確認されなかった。床面もはっきりせず、踏み締められた様子も無かった。竈は、東壁ほぼ中央に作られている。構築材として用いられていた石が1点出土している。内部より焼土、炭化物がわずかに検出されたのみである。

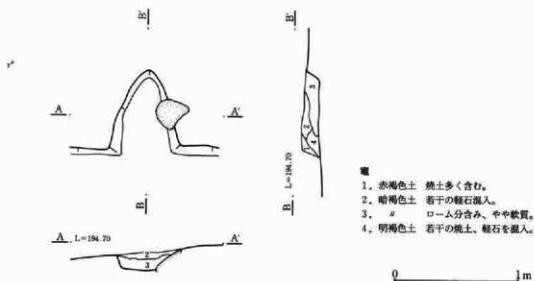
ほとんど出土遺物はみられなかった。

第3章 検出された遺構と遺物



1. 暗褐色土 やや汚れたローム混入。黄色軽石若干含む。
2. # 黄褐色土ロームを主体とし、粘性持つ。

第440図 109号住居跡



- 竈
1. 赤褐色土 焼土多く含む。
2. 暗褐色土 若干の軽石混入。
3. # ローム分含み、やや軟質。
4. 明褐色土 若干の焼土、軽石を混入。

第441図 109号住居跡竈

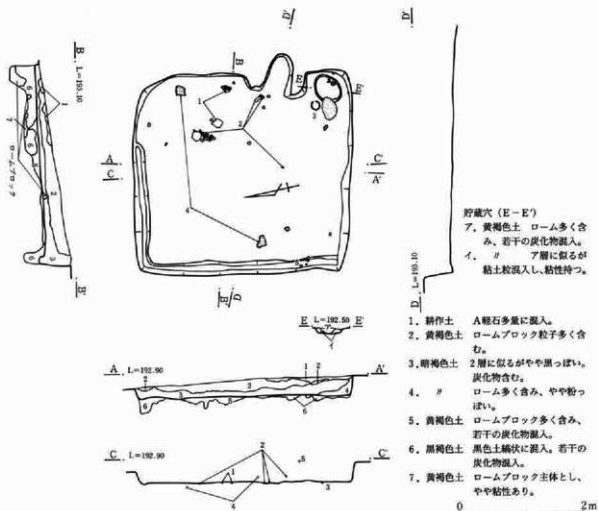
110号住居跡 (第442~444図、PL41)

S-5グリッドに位置する。やや南北に長い長方形を呈し、規模は3.5m×3.2mである。かなり東に傾斜する場所にあるために、東壁はほとんど残っていない状況であった。西側の壁は比較的残存状況は良く、およそその高さは、40~50cmを測る。

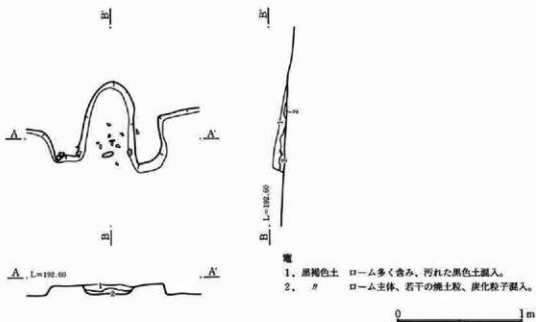
床面は平坦をなし、ロームを主体とした貼り床で均質な固さを持つ。貯蔵穴は円形で掘り込みは浅い。周溝が北壁、西壁の一部に廻る。竈は東壁やや南寄りにあり、袖がやや住居内に張り出し、燃焼部、煙道は壁外にU字状に延びる。

出土遺物は壺、坏が若干出土している。



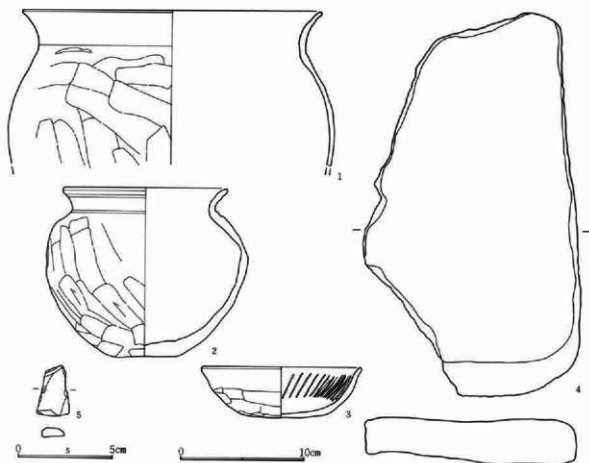


第442図 110号住居跡



第443図 110号住居跡竈

第3章 検出された遺構と遺物



第444図 110号住居跡出土遺物

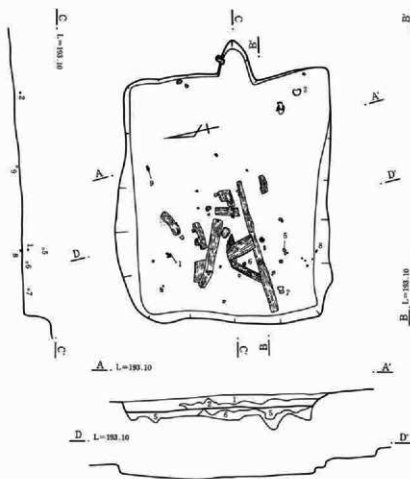
110号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 底径 (cm)	径	器 高	胎 土 成	色 調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	床面	24.0			黄砂粒含む 良	赤褐色	外 □縁部横線で 胴部寛削り 内 □縁部横線で 胴部寛削り	
2	土師器 小型甕	床面	13.3	5.3	13.2	黄砂粒含む 普通	暗赤褐色	外 □縁部横線で 胴部寛削り 内 □縁部横線で 胴部寛削り	完形
3	土師器 钵	床面	12.8		4.0	砂粒含む 良	暗褐色	外 □縁部横線で 体部寛削り 内 □縁部横線で 体部削り	内面放射状暗文
4	台石	床面	長さ30.5cm, 幅3.9cm, 厚さ16.8cm, 重さ26.7g。石材は砂岩。偏平な碑を利用。						
5	滑石製 石片	+43	長さ2.6cm, 幅1.6cm, 厚さ0.55cm, 重さ3.5g。1側縁に研磨痕。滑石。						

111号住居跡 (第445~447図、PL41)

R-6グリッドに位置する。東西に長い長方形を呈し、規模は3.8m×3.3mである。東斜面に在り、壁の遺存状態はあまり良くない。特に東側は大きく削られている。床面はわずかに凹凸を持ち、住居の西側部分において炭化材がかなり検出された。竈は、東壁中央に作られており、壁外に60cmほど張り出している。

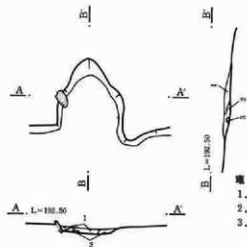
出土遺物は甕、坏類の他に鉄鏝、紡錘車が1点出土している。



1. 黒褐色土 多量のローム及び少量の炭化粒子含む。
2. # ローム多く含む、多量の炭化物含む。
3. 淡褐色土 ローム主体とし、若干の炭化物含む。
4. # ローム主体とし、黄色味強い。
5. 黒褐色土 ロームブロック、炭化物混入。
6. # ローム分多く、若干の黄色粘土ブロック混入。
7. 暗褐色土 ローム分混入し、粘性持つ。

0 2m

第445図 111号住居跡

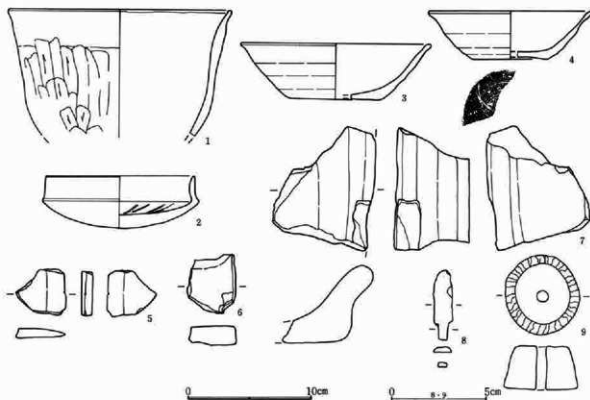


- 圖
1. 黄褐色土 黄色ローム主体、少量の軽石、焼土粒含む。
  2. # 粒子細かい。
  3. 赤褐色土 焼土、ローム粒との混入。

0 1m

第446図 111号住居跡竈

### 第3章 検出された遺構と遺物



第447図 111号住居跡出土遺物

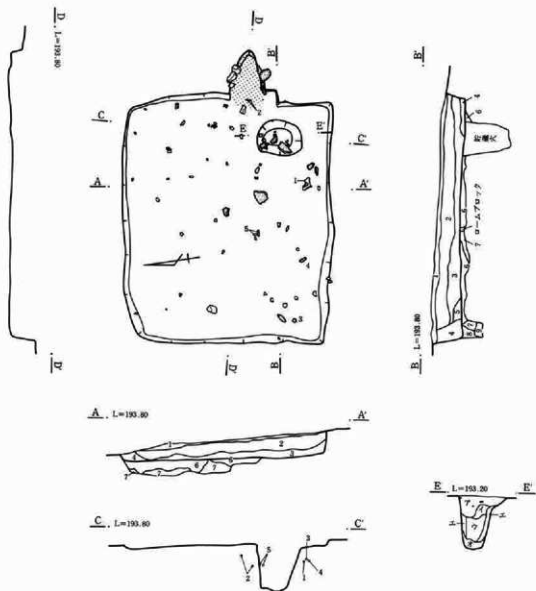
111号住居跡出土遺物観察表

図番号	品種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	径 器 高 (cm)	胎土 焼 成 色 調	成・整形の特徴	備考
1	土器 壺	+10	17.9		微砂粒含む 良	淡黄褐色 外 口縁部横無で 胴部直削り 内 口縁部横無で 胴部直削り	
2	土器 壺 環	+10	12.0	4.1	微砂粒含む 良	淡黄褐色 外 口縁部横無で 体部直削り 内 口縁部横無で 体部直削り後無で	内面放射状暗文
3	須恵器 壺 環	覆土	(15.0) (7.3)	4.4	微砂粒含む 普通	灰色 ロクロ成形 底部回転余切り(右)	
4	須恵器 壺 環	覆土	(13.0) (6.0)	3.8	微砂粒含む 良	淡黄褐色 ロクロ成形 底部回転余切り(右)	
5	砥石	+34	長さ3.6cm、幅4.0cm、厚さ0.8cm、重さ13g、石材は砂岩。偏平で縁辺部は薄くなる。				
6	砥石	+8	長さ4.6cm、幅3.9cm、厚さ1.5cm、重さ34g、石材は砂岩。破損品。				
7	石皿	+8	長さ9.4cm、幅7.7cm、厚さ3.5cm、重さ226g、石材は粗粒安山岩。破損品。縁、底が成形されている。				
8	鉄製品	床面	鉄線。長さ4.2cm、幅1.1cm、厚さ0.4cm、重さ2.7g。基部は短く、身は片面平らで、断面が平たい薄針状を呈す。				
9	紡錘車	床面	径4.2cm、厚さ2.25cm、重さ61.5g、石材は滑石。				

#### 112号住居跡 (第448~450図、PL41)

R-7グリッドに位置する。長方形を呈し、規模は3.9m×3.4mである。壁はほぼ垂直に立ち上がるが、西壁は削られており、不明瞭である。床面は平坦で、比較的固く踏み締められている。貯蔵穴は竈の右脇に在り、平面形は長円形である。竈は東壁中央部に作られており、構築材として片岩、砂岩が燃焼部両側に用いられている。

出土遺物は壺、蓋、などの他に砥石、紡錘車の未製品などが見られた。



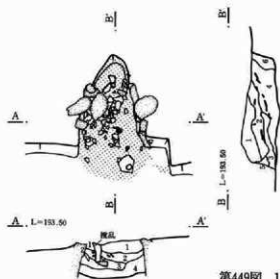
1. 暗褐色土 軽石多く含み、やや荒れている。
2. # やや得れたロームブロック混入。
3. # 2層に近似、ロームブロック目立ち炭化物混入。
4. # ロームブロック、粘土、炭化粒子混入。
5. # ローム混入目立つ。
6. # ロームブロック、黒褐色土ブロックの混入。
7. # 6層より色調は明るく、ロームより多い。
8. # ローム、黒色土を筋状に含む。
9. 黄褐色土 ロームブロック主体とする。

- 貯蔵穴 (E-E')
- ア. 暗褐色土 ローム、炭化物混入。
  - イ. 淡褐色土 淡褐色ローム主体とし粘性あり。
  - ウ. # イ層に似るがローム多く含む。
  - エ. # ローム主体として混入物少ない。
  - オ. # ローム及びローム粒子ブロックを含む。

0 2m

第448図 112号住居跡

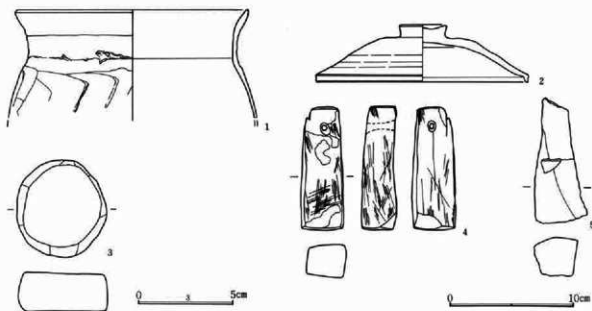
第3章 検出された遺構と遺物



第449図 112号住居跡竈

0 1m

- 竈
1. 淡褐色土 ローム含み、若干の軽石粒混入。
  2. 暗褐色土 ローム焼土粒含む。
  3. # ローム、灰、焼土多く含む。
  4. 赤褐色土 3層に似るが焼土多く含む。
  5. # ローム、焼土混入し、若干の粘土含む。
  6. 淡褐色土 ローム多量に混入し、若干の焼土含む。



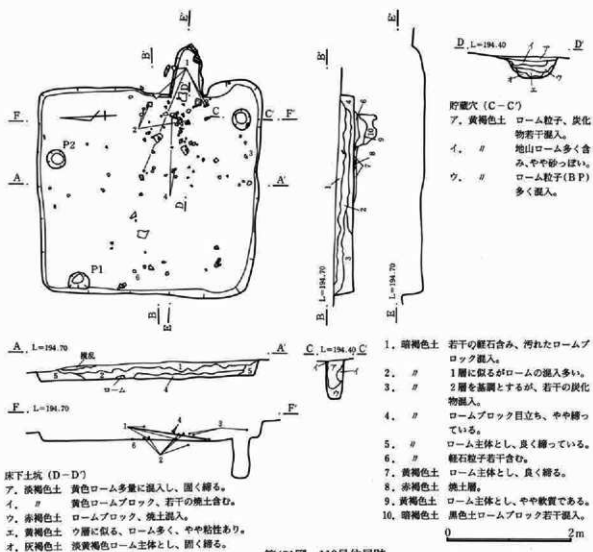
第450図 112号住居跡出土遺物

112号住居跡出土遺物観察表

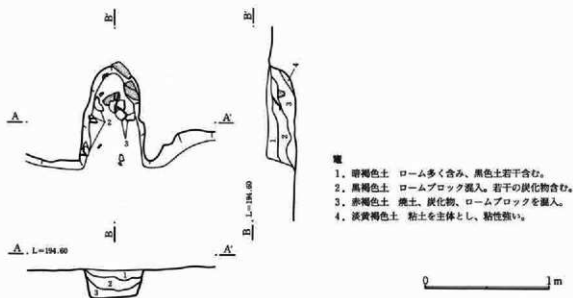
図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考	
1	土師器 甕	床面	(18.8)		砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部焼痕で 胴部荒削り 内 口縁部焼痕で 胴部直削り		
2	須形器 蓋	床面	16.8	4.5	微砂粒含む	明灰白色	ロクロ成形		
3	紡錘車	床面	径4.7cm、厚さ1.8cm、重さ70.3g。石材は砥沢石。未製品。						
4	砥石	床面	長さ9.7cm、幅2.1cm、厚さ3.9cm、重さ137g。石材は砥沢石。四面使用。経過し穴あり。						
5	砥石	床面	長さ9.8cm、幅3.5cm、厚さ3.0cm、重さ45g。石材は砂岩。破損品。						

113号住居跡 (第451~453図、PL41・42)

R-8グリッドに位置する。ほぼ方形を呈し、規模は3.5m×3.2mである。床面は比較的平坦で、良く締ま

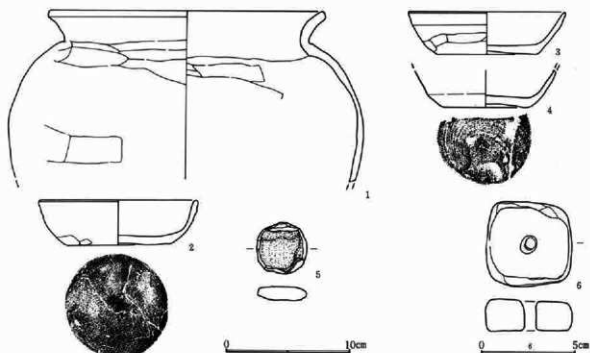


第451図 113号住居跡



第452図 113号住居跡竈

### 第3章 検出された遺構と遺物



第453図 113号住居跡出土遺物

る。貯蔵穴は南東隅に小穴が見られる。北辺、北西隅に小ピットが検出されている。竈は東壁中央やや南寄りに作られ、袖ははっきりしない。出土遺物は少ない。竈前に径80cm程の床下土坑が検出されている。

113号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	高 (cm)	胎 土 焼 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 甕	床面	(22.3)		砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 胴部覆削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	
2	土師器 坏	竈	(12.5) 8.2	3.6	微砂粒含む 良	茶褐色	外 口縁部横撫で 体部覆削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
3	土師器 坏	竈	12.7 8.1	3.4	小礫わずか 含む 良	橙褐色	外 口縁部横撫で 体部覆削り底部直切り 内 口縁部横撫で 体部撫で	完形
4	須恵器 坏	+13	7.0		砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形 底部回転未切り(右)	
5	円 盤	覆土	径約4.0cm、	厚さ1.1cm、	重さ27g、	石材は黒色単片岩、	周縁を削って円盤状にしている。	
6	紡錘車	+2	径4.5cm、	厚さ1.8cm、	重さ71.7g、	石材は黄紋岩?丸味を持つ方形。		

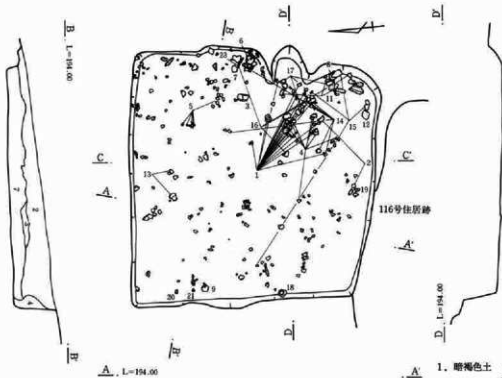
#### 114号住居跡 (第454~457図、PL42)

T-6グリッドに位置する。当初1軒と考えて調査を行ったが、北側に115号住居跡の重複が確認された。前後関係は114号住居跡のほうが新しい。平面形はほぼ方形を呈し、規模は4.1m×3.9mである。東斜面に作られているために、東壁の上部はかなり削平されている。最大壁高は西壁で50cmを測る。

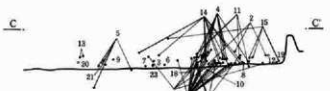
床面は平坦で比較的締まる。竈は東壁にあり、袖がわずかに残り、燃焼部は半円状に壁外に掘り出されているがかなり短い。

出土遺物は竈内および周辺においてかなり集中して検出されている。甕、坏など土器類の他に、鎌、刀子等の鉄製品が見られる。



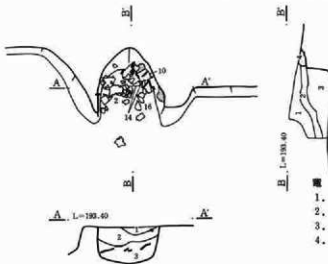


A, L=194.00



第454図 114号住居跡

1. 暗褐色土 ローム多く含み、若干の炭化物混入。
2. # 1層に似るが、炭化物より多く混入。
3. 黄褐色土 ロームブロック多く混入。
4. # ローム多く含み、少量の炭化物含む。
5. # 3層に似るがローム粒子目立つ。
6. 暗褐色土 ローム多く含み、若干の炭化物混入。
7. 黒色土 多量の炭化物、炭土粒、ロームブロック含む。

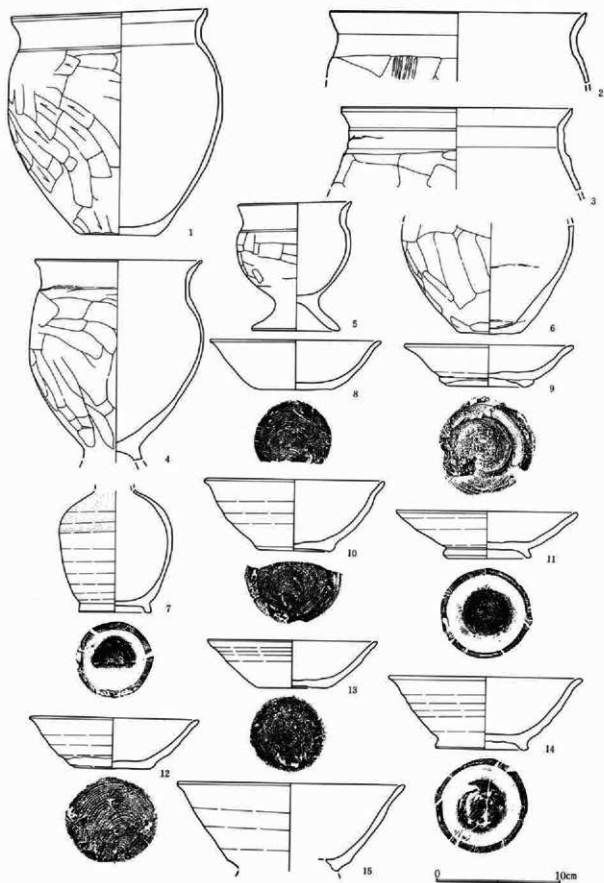


A, L=192.40

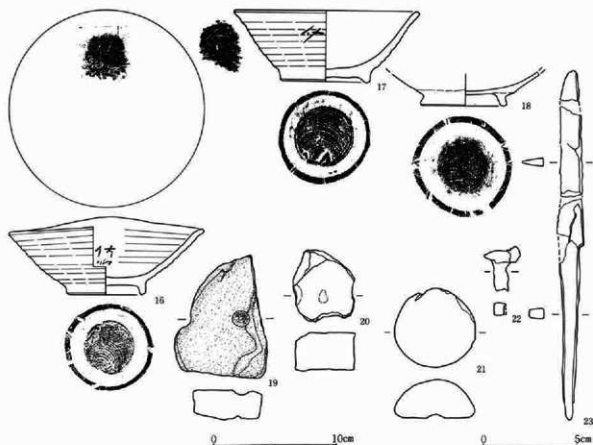
- 竈
1. 淡褐色土 ローム多く含み、炭化物塊に含む。
  2. # 1層に近似、炭化物多く、ロームブロック混入。
  3. 赤黒褐色土 焼土、炭化物、ローム、黒色灰ブロックの混入。
  4. 赤褐色土 焼土主体とし、細粒である。

第455図 114号住居跡竈

第3章 検出された遺構と遺物



第456図 114号住居跡出土遺物(1)



第457図 114号住居跡出土遺物(2)

114号住居跡出土遺物観察表

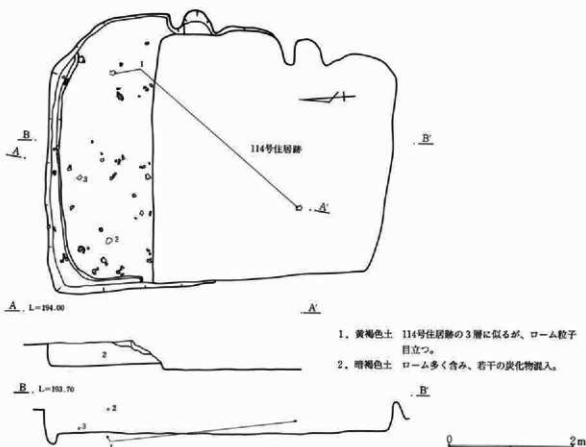
図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土 成分	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 壺	+10	15.5	18.2	微砂粒含む 良	茶褐色	外 口縁部横撫で 胴部縦削り 内 口縁部横撫で 胴部縦撫で	
2	土師器 壺	+18・電	20.6		微砂粒含む 普通	橙褐色	外 口縁部横撫で 胴部縦削り 内 口縁部横撫で 胴部縦撫で	
3	土師器 壺	+10	18.7		微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 胴部縦削り 内 口縁部横撫で 胴部縦撫で	
4	土師器 台付壺	床面	13.4		微砂粒含む 普通	黒褐色	外 口縁部横撫で 胴部縦削り 内 口縁部横撫で 胴部縦撫で	
5	土師器 台付壺	床面	9.2	10.2	微砂粒含む 良	黒褐色	外 口縁部横撫で 胴部縦削り 内 口縁部横撫で 胴部縦撫で	
6	土師器 壺	+5	5.0		微砂粒含む 良	黒褐色	外 胴部縦削り 内 胴部縦撫で	
7	灰釉小 型壺	+5	5.8		少量の砂粒 含む	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	胴部欠損
8	須恵器 坏	+5	13.4	3.9	砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
9	須恵器 埴	+15	(13.3) (7.4)	3.3	微砂粒含む 良	淡黄褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	酸化焰焼成
10	須恵器 埴	床面・電	14.2	5.6	微砂粒含む 良	黄白色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
11	須恵器 坏	床面	14.2	3.8	微砂粒含む 良	淡灰褐色	ロクロ成形 付け高台	
12	須恵器 坏	+2	13.3	4.0	微砂粒含む 普通	灰褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(左)	

### 第3章 検出された遺構と遺物

13	須恵器 坏	+16	13.4 5.6	4.8	砂粒含む 普通	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
14	須恵器 坏	+2	15.4 6.8	5.7	微砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
15	須恵器 坏	+3	(17.9)		微砂粒含む 良	淡黄褐色	ロクロ成形	
16	須恵器 坏	+3	15.2 6.2	5.7	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	焼き歪みあり 内面刻書
17	須恵器 坏	床面	14.5 7.1	5.6	微砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	外面刻書
18	須恵器 地	床面			砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
19	凹石	+16	長さ9.1cm、幅2.8cm、厚さ7.4cm、重さ244g。石材は緑色変岩。板状の礫を利用、両面に凹穴。					
20	砥石	+10	長さ5.6cm、幅3.1cm、厚さ5.0cm、重さ96g。石材は牛伏砂岩。破損品、使用面一面。					
21	紡錘車	+10	径4.2cm、厚さ2.0cm、重さ31.7g。石材は蛇紋岩。未製品?					
22	鉄製品	覆土	種類は不明、長さ2.3cm、幅1.9cm、厚さ0.7cm、重さ3.9g。					
23	鉄製品	+5	刀子。長さ18.3cm、幅1.4cm、厚さ0.5cm、重さ21.1g。ほぼ完品であるが、2カ所で折れている。					

#### 115号住居跡 (第458~460図、PL42)

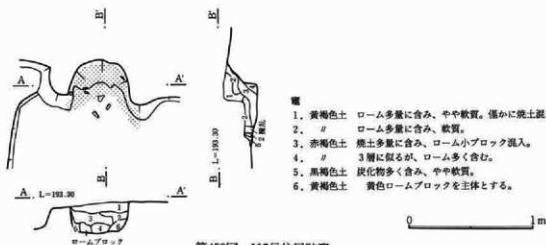
S-6グリッドに位置する。114号住居跡の北に在り東壁、西壁は共有しており、114号の拡張の可能性もあるが、調査時点では重複として調査した。



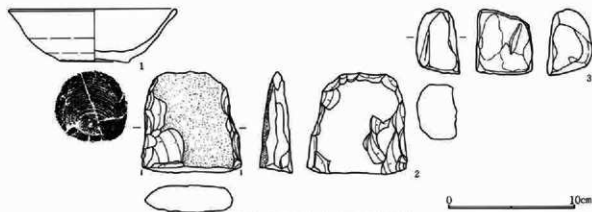
床面は平坦で、114号との間にレベル差はほとんど無く、極めて類似した状況を呈していた。

竈は東壁中央に作られ、やや袖部が残り、燃焼部は半円状に壁外に掘り出されているが、規模は小さく、幅50cm、長さ40cm程である。114号住居跡の竈に作りは似ている。

出土遺物は114号住居跡の遺物と接合するものもあり、出土位置により分けて図示した。数は少ない。



第459図 115号住居跡竈



第460図 115号住居跡出土遺物

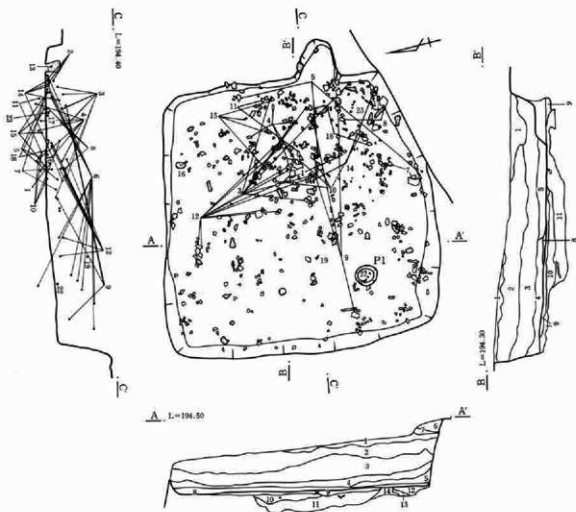
115号住居跡出土遺物観察表

図番号	図種	出土位置 (cm)	口 径 高 径 (cm)	胎土 成	色調	成・整形の特徴	備考
1	須臾器 坏	床面 (5.6)	(13.2) 4.1	微砂粒含む 黄	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
2	石 炭	+35	長さ7.6cm、幅2.6cm、厚さ8.0cm、重さ216g。			石材はひん岩。破損品、基部のみ。	
3	磁 石	+7	長さ5.0cm、幅4.3cm、厚さ4.6cm、重さ97g。			石材は砂岩。不定形で使用面は平ら。	

116号住居跡 (第461~465図、PL42・43)

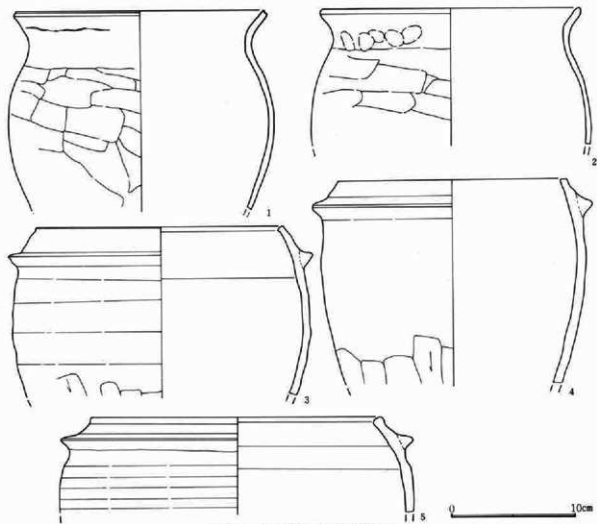
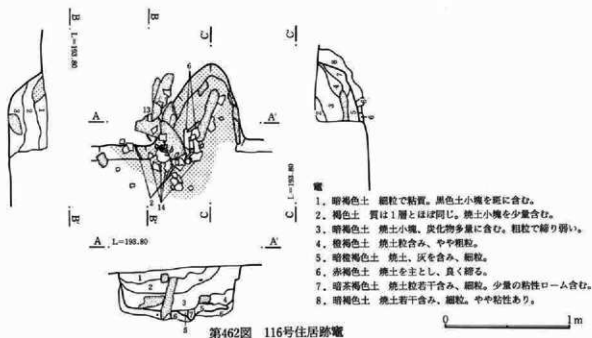
T-6グリッドに位置する。114号住居跡の南壁にわずかに重複する。ほぼ方形を呈し、規模は4.4m×4.3mである。壁高は西側が良く残り約80cmを測る。南東隅は一部調査区外となる。床面は中央部がややくぼみ周辺がわずかに高まる。竈は東壁の中央にあり、構築材である石が落ち込んだ状態で検出されている。また燃焼部中央に支柱として石が据えられていた。出土遺物は竈から羽釜、その他坏類が検出されている。

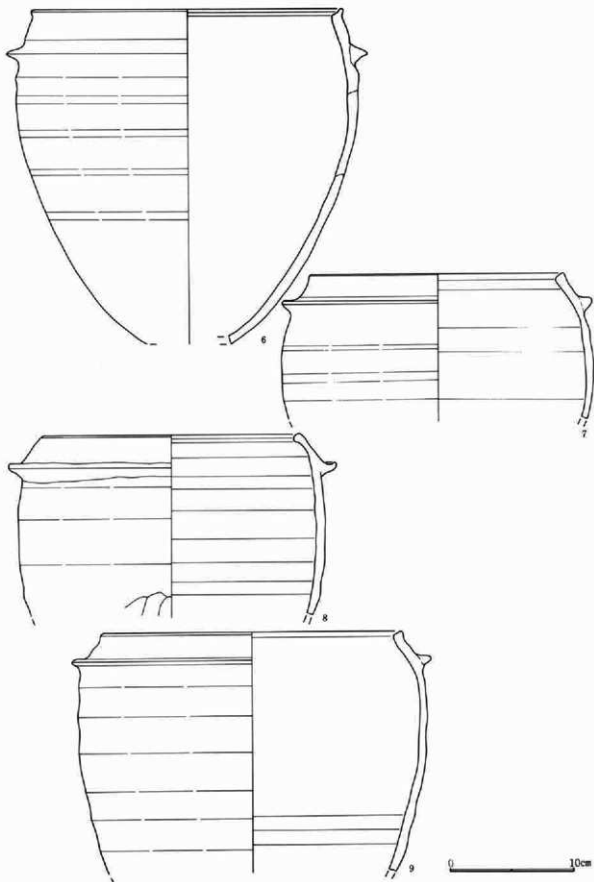
第3章 検出された遺構と遺物



- |         |                         |          |                         |
|---------|-------------------------|----------|-------------------------|
| 1. 褐色土  | 細粒でやや締りあり。暗褐色土少量混入。     | 8. 暗褐色土  | ローム粒子、粘土小ブロック含み、やや締る。   |
| 2. 暗褐色土 | 細粒で締る。黄色軽石、若干の焼土、炭化物含む。 | 9. #     | 焼土ブロック、粘土粒、炭化物を多含、粘性強い。 |
| 3. 褐色土  | 粗粒で締る。黄色軽石、若干の炭化物を含む。   | 10. #    | 9層に似るが、焼土より多く含む。        |
| 4. #    | 粗粒で締る。黄色軽石を全体に含む。粘質。    | 11. 赤褐色土 | 焼土ブロック、炭化物、粘土多量含む。      |
| 5. #    | 粗粒で締る。黄色軽石を全体に含む。粘質。    | 12. #    | 焼土を含み均質。                |
| 6. #    | 粗粒で締り弱く、軽石を全体に含む。       | 13. 洪褐色土 | 粘土ブロック含み、粘性あり。          |
| 7. 黒褐色土 | 粗粒で締り弱く、軽石を全体に含む。       | 14. #    | ロームブロック、粘土ブロック混入。       |

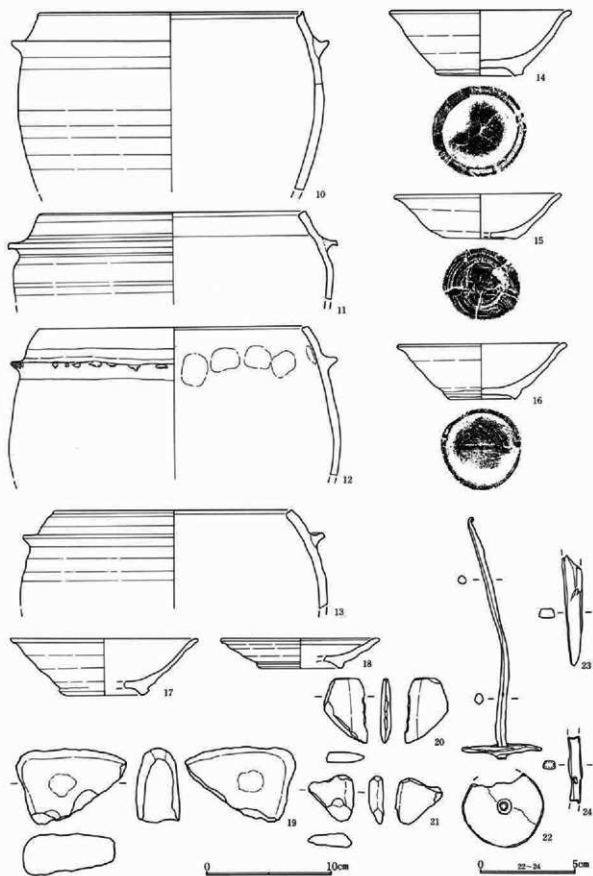
第461図 116号住居跡





第464図 116号住居跡出土遺物(2)





第465図 116号住居跡出土遺物(3)

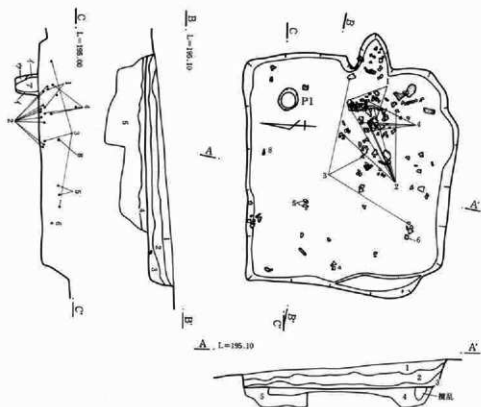
### 第3章 検出された遺構と遺物

116号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土 色調	成・整形の特徴	備考	
1	土師器 甕	+7	20.0		砂粒含む 良 赤褐色	外 口径部横撫で 内 口径部横撫で 胴部底撫で		
2	土師器 甕		20.8		微砂粒含む 普通 赤褐色	外 口径部横撫で 内 口径部横撫で 胴部底撫で		
3	須恵器 羽釜	+18	20.0		砂粒含む 良 灰黄色	ロクロ成形 胴下半部底削り		
4	須恵器 羽釜	床面	18.3		砂粒含む 良 橙褐色	ロクロ成形 胴下半部底削り		
5	羽釜	床面	22.8		微砂粒含む 良 灰色	ロクロ成形		
6	羽釜	甕	(24.8)		砂粒含む 良 黒褐色	ロクロ成形		
7	羽釜	甕	20.0		微砂粒含む 良 淡黄褐色	ロクロ成形	酸化焙焼成	
8	羽釜	+2	21.0		微砂粒含む 良 暗黄褐色	ロクロ成形 胴下半部底削り		
9	羽釜	+18	(23.7)		砂粒含む 良 淡褐色	ロクロ成形		
10	須恵器 羽釜	床面	(21.0)		砂粒含む 良 灰色	ロクロ成形		
11	羽釜	床面	21.0		微砂粒含む 良 灰黄色	ロクロ成形		
12	羽釜	+6	21.7		微砂粒含む 普通 橙褐色	ロクロ成形		
13	須恵器 羽釜	+10	18.8		砂粒含む 良 灰黄褐色	ロクロ成形		
14	須恵器 埴	+4	14.4 7.0	5.2	砂粒含む 良 淡黄褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り (右) 付け高台	酸化焙焼成	
15	須恵器 坏	床面	(13.1) (6.0)	3.5	砂粒含む 良 灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り (右)		
16	須恵器 埴	+3	13.4 5.2	4.4	砂粒含む 普通 淡黄褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り (右) 付け高台	酸化焙焼成	
17	須恵器 埴	+4	7.4 (7.0)	4.5	砂粒含む 普通 灰黄色	ロクロ成形 底部回転糸切り (右) 付け高台		
18	須恵器 埴	床面	(12.6) (6.8)	2.4	砂粒含む 良 黒褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り 付け高台	酸化焙焼成	
19	台石	床面	長さ6.0cm、幅3.7cm、厚さ3.3cm、重さ162g。石材は牛伏砂岩。破損品。					
20	砥石	覆土	長さ4.8cm、幅3.3cm、厚さ0.8cm、重さ15g。石材は砂岩。縁辺部は薄くなる。					
21	砥石	覆土	長さ3.7cm、幅3.7cm、厚さ1.1cm、重さ13g。石材は砂岩。破損品。					
22	鉄製品	+3	紡錘車。長さ15.2cm、幅5.0cm、軸径0.5cm、紡錘の厚さ0.25cm、重さ19.5g。軸の端部は小さく鑿状に曲がる。下方の軸は欠損					
23	鉄製品	+4	刀子。長さ5.8cm、幅1.0cm、厚さ0.4cm、重さ4.8g。茎部分。					
24	鉄製品 ?	覆土	長さ3.5cm、幅0.6cm、厚さ0.4cm、重さ1.0g。中空。					

### 118号住居跡 (第466～468図、PL43)

T-7グリッドに位置する。方形を呈し、規模は3.6m×3.2mである。壁は部分的に不明瞭な部分があるが、高さは最大30cmを測る。床面はやや凹凸を持つものの比較的平坦で、中央部分が陥る。貯蔵穴と思われる径60cm程の掘り込みが竈前に検出されているが、位置的に中央に寄り過ぎている。竈は東壁にあり壁外に約60cm程度掘り出されている。出土遺物は甕、坏の破片類が多い。



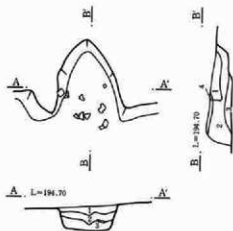
1. 褐色土 細粒で練り、若干の焼土、炭化物含む。
2. # 細粒でやや練りあり。黄色軽石、炭化物若干含む。
3. # 細粒でやや練る。やや粘質。若干の炭化物を含む。
4. 黒褐色土 ロームブロック含み、やや軟質。
5. # ロームブロック、ローム粒子含み、粘性強い。

柱次 (P1)

- ア. 褐色土 細粒でやや練り弱く、黄色軽石を若干含む。
- イ. # 細粒で練り弱く、ア層より白色。
- ウ. # やや粗粒で練りあり。黄色軽石を全体に含む。

第466図 118号住居跡

0 2m



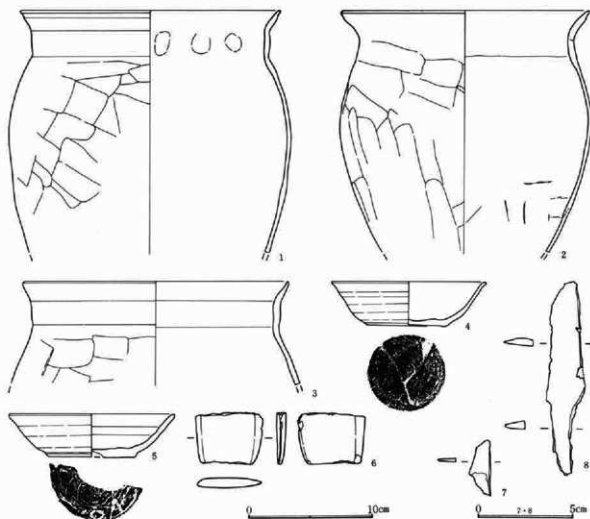
竈

1. 褐色土 細粒でやや練る。若干の焼土、炭化物含む。
2. # 細粒で軽石、焼土、炭化物少量含む。やや練りあり。
3. # 粗粒で練る。焼土多く、炭化物、黄褐色土少量含む。
4. # 粗粒で練る。黄色軽石、炭化物を少量含む。粘質。

第467図 118号住居跡竈

0 1m

第3章 検出された遺構と遺物



第468図 118号住居跡出土遺物

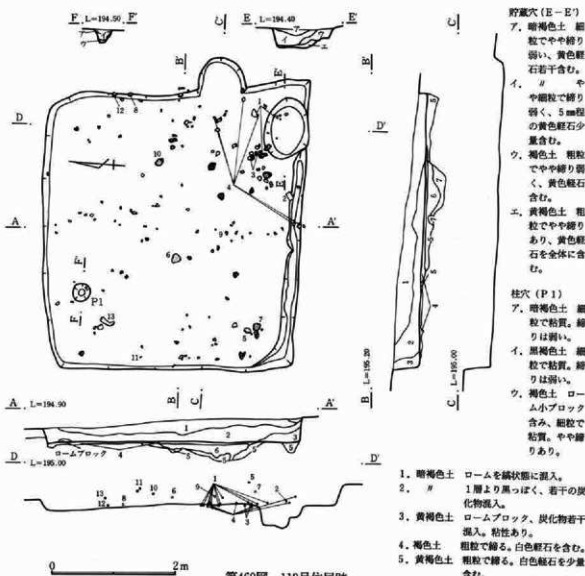
118号住居跡出土遺物観察表

図番号	脚種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	器 高 (cm)	胎土 或 色調	成・形状の特徴	備考
1	土師器 壺	+9	(21.0)		微砂粒含む 橙褐色 良	外 口縁部横線で 体部彫削り 内 口縁部横線で 胴部寛削で	
2	土師器 壺	+3	20.0		微砂粒含む 暗褐色 良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部寛削で	
3	土師器 壺	+8	21.4		微砂粒含む 赤褐色 良	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部寛削で	
4	須恵器 坏	+9	12.2 6.0	3.5	微砂粒含む 灰褐色 良	外 口縁部横線で 体部彫削り	
5	須恵器 坏	+26	(13.2) (7.0)	3.4	微砂粒含む 灰白色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
6	砥石	+14	長さ4.05cm, 幅0.8cm, 厚さ5.3cm, 重さ23g。石材は砂岩。板状で側縁は薄くなる。				
7	鉄製品	覆土	刀子。長さ2.8cm, 幅1.1cm, 厚さ0.2cm, 重さ1.2g。先端部断片。				
8	鉄製品	+30	刀子。長さ10.2cm, 幅2.0cm, 厚さ0.4cm, 重さ11.5g。背割はあまり明瞭ではない。短くやや巾広。				

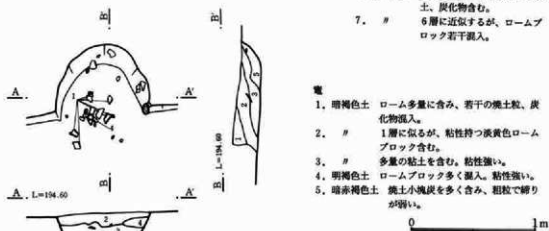
119号住居跡 (第469～471図、PL43)

S-7グリッドに位置する。ほぼ方形を呈し、規模は4.4m×4.1mである。120号住居跡の南側に重複する。

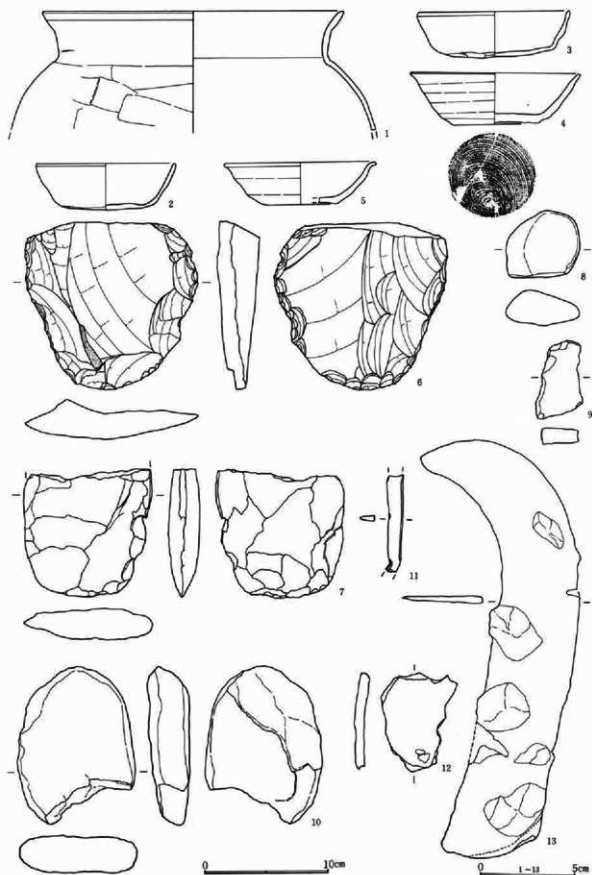
東壁は残りが悪い。西側の壁高は30cm程を測る。床面は平坦で比較的締まっている。貯蔵穴は南東隅にあるが、掘方は不明瞭。竈は、アーチ状に壁外に掘り出されている。出土遺物は壺、坏、鉄鏝などである。



第469図 119号住居跡



第470図 119号住居跡竈



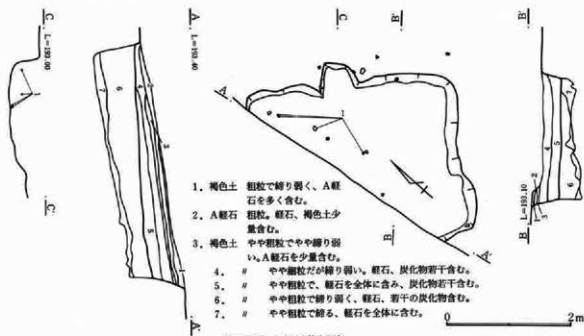
第471図 119号住居跡出土遺物

119号住居跡出土遺物観察表

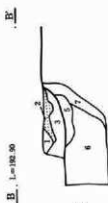
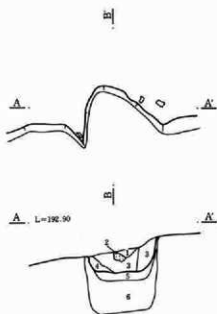
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 底径(cm)	径 器高	胎土 焼 色調	成・整形の特徴	備考
1	土師罎 壺		24.3		微砂粒含む 赤褐色 良	外 口縁部横撫で 胴部篋削り 内 口縁部横撫で 胴部篋削り	
2	土師罎 環	+9	11.2	3.6	微砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部横撫で 体部篋削り	
3	土師罎 環	床面	12.2 8.0	3.5	微砂粒含む 淡橙褐色 良	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部横撫で 体部篋削り	
4	土師罎 環	床面	(13.3) 6.8	4.0	微砂粒含む 淡橙褐色 良	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部横撫で 胴部篋削り	
5	須恵罎 環	+35	(12.0) (5.6)	3.8	砂粒含む 灰黒色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
6	石 煎	+10	長さ18.3cm, 幅13.3cm, 厚さ2.4cm, 重さ582g.			石材は愛宕安山岩。大型品。刃部のみの破損品。	
7	石 煎	+22	長さ12.0cm, 幅2.6cm, 厚さ10.4cm, 重さ263g.			石材は牛伏砂岩。破損品、刃部のみ。	
8	砥 石	+3	長さ5.2cm, 幅6.0cm, 厚さ2.3cm, 重さ83g.			石材は牛伏砂岩。小礫を利用。使用面は平坦。	
9	砥 石	+14	長さ6.2cm, 幅3.9cm, 厚さ1.3cm, 重さ32g.			石材は牛伏砂岩。破損品。	
10	台 石	+20	長さ12.4cm, 幅9.5cm, 厚さ3.0cm, 重さ390g.			石材は牛伏砂岩。やや平らな礫を利用。表面に若干の凹凸、一部破損	
11	鉄製品	+28	刀子。長さ5.0cm, 幅0.85cm, 厚さ0.3cm, 重さ2.8g.			両端部を欠く。	
12	鉄製品	+5	板状を呈す。長さ5.0cm, 幅3.7cm, 厚さ3.7cm, 重さ31.2g.			やや厚手で若干の反りを持つ。	
13	鉄製品	+15	鏝。長さ22.0cm, 幅4.2cm, 厚さ0.35cm, 重さ80.0g.			完品の大型品で先端部が曲がる。	

## 121号住居跡 (第472~474図、PL44)

調査区の最も高い場所、V-22グリッドに位置する。南西側約半分が道路下にあるため、調査できたのは全体の2分の1程である。床面はやや凹凸を持つ、竈のある北壁は攪乱により遺存状態は悪く、ほとんど形状を留めておらず、燃焼部の掘方が認められるのみである。出土遺物は破片が少量見られた。



### 第3章 検出された遺構と遺物



■

1. 褐色土 細粒でやや締り弱く粘質。焼土、炭化物少量含む。
2. # 焼土主体。炭化物多く含む。やや粘質で締り弱い。
3. # 細粒でやや締り弱く粘質。若干の焼土、炭化物含む。
4. # 細粒でやや締り弱く粘質。
5. # 細粒でやや締り弱く粘質。若干の焼土含む。
6. # 細粒でやや締り弱く、軽石、若干の炭化物を含む。
7. # 細粒で締り弱く、黄褐色土少量混入。

第473図 121号住居跡竈

0 1m



第474図 121号住居跡出土遺物

0 10cm

121号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土 構成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 環	+2	(13.4)	3.2	砂粒含む	赤茶褐色	外 口径部横撫で 体部縦筋り 内 口径部横撫で 体部縦撫で	

#### 122号住居跡 (第475~478図、PL44)

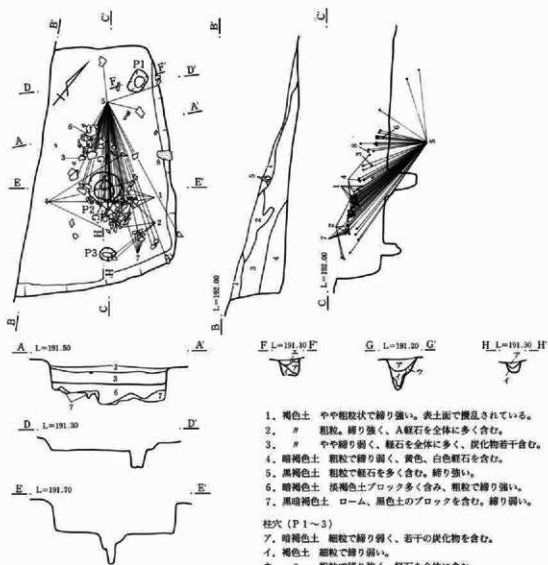
U-23グリッドに位置する。西側約半分が道路下であり、調査は東側約半分の調査である。南、東壁は比較的状況が良く壁高は30cmを測るが、北部分は削平されており確認できない。

床面は若干の凹凸があるものの、比較的平坦で、かなり踏み締められた状況であった。

柱穴と考えられる小ピットが3箇所に検出されているが、位置が壁に対してややずれている。竈は道路下にあると思われ、確認されなかった。

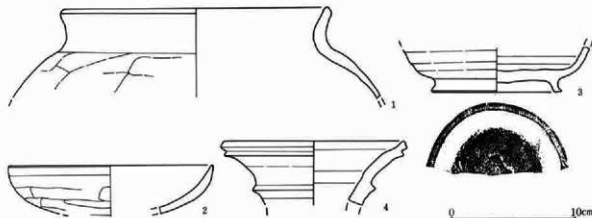
出土遺物は須恵器甕、盤、蓋、環などで、住居の中央やや南に寄った位置で、かなり集中した状態で検出されているが、いずれも覆土の上層より出土しているものが多い。土器類の他には、大型の砂岩製砥石が1点ある。



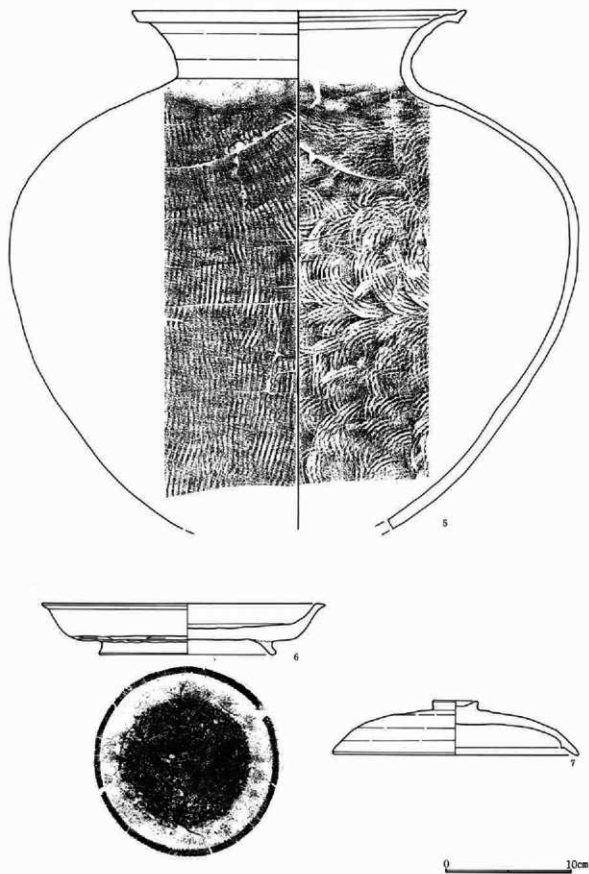


第475図 122号住居跡

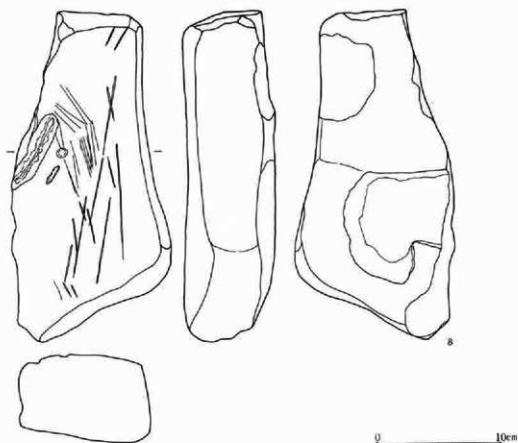
0 2m



第476図 122号住居跡出土遺物(1)



第477図 122号住居跡出土遺物(2)



第478図 122号住居跡出土遺物(3)

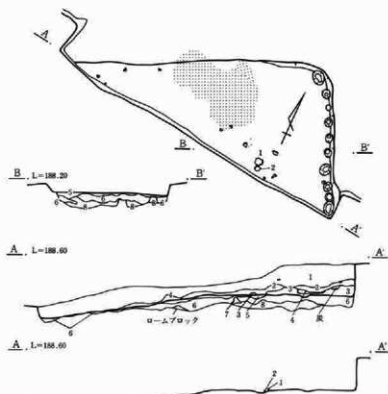
122号住居跡出土遺物観察表

図番号	種類	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	径 高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 壺	+38	21.9		砂粒含む 良	淡褐色	外 □縁部横溝で 胴部寛削り 内 □縁部横溝で 胴部寛削り	
2	土師器 坏	+46	16.5		砂粒含む 普通	赤褐色	外 □縁部横溝で 体部寛削り 内 □縁部横溝で 体部削り	
3	須恵器 高台付坏	+44	(10.4)		砂粒含む 良	明灰色	ロクロ成形 底部回転削り	
4	須恵器 壺	+28	15.0		精製 良	灰色	ロクロ成形	□縁部のみ
5	須恵器 大 壺	床面	26.3		砂粒含む 良	灰色	外 □縁部横溝で 体部縦方向の平目 内 □縁部横溝で 青灰文様	
6	須恵器 盤形坏	+10	22.8 14.3	4.0	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	
7	須恵器 蓋	+54	20.0	4.3	砂粒含む 良	青灰色	ロクロ成形	返りあり
8	砥石	+29	長さ26.0cm、幅12.8cm、厚さ7.0cm、重さ2462g。石材は牛伏砂岩。大型で表裏、1側面を使用、刃研溝見られる。					

## 123号住居跡 (第479・480図、PL44)

V-25グリッドに位置する。削平が著しく、各壁の状態は良くない。調査区の端にあり、南側半分以上が調査区外である。東壁が比較的残るが、高さは15cm程である。床面は比較的堅く締まっている。粘土、焼土が多く見られる。周溝ははっきりしないが、東壁下に小ピット列が確認されている。竈は北壁の粘土、焼土が集中する部分にあったものと推定される。出土遺物は坏が見られる。

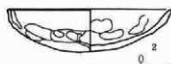
第3章 検出された遺構と遺物



- |                                 |                                |
|---------------------------------|--------------------------------|
| 1. 褐色土 粗粒。締り弱い。A軽石を多く含む。        | 5. 褐色土 ロームの小ブロックを少量含む。細粒で締り強い。 |
| 2. # 細粒で締り弱い。軽石、焼土粒、炭化物少量含む。    | 6. # ロームの量が多く、全体的には黄褐色土を呈する。   |
| 3. 黒褐色土 細粒で締り弱い。炭化物を多く、焼土を少量含む。 | 7. 黒褐色土 黒褐色土ブロック。              |
| 4. 黄褐色土 細粒で締り弱い。暗褐色土混入。若干軽石含む。  | 8. # 黒褐色土の量が多く、全体的に暗褐色土。       |

第479図 123号住居跡

0 1m



第480図 123号住居跡出土遺物

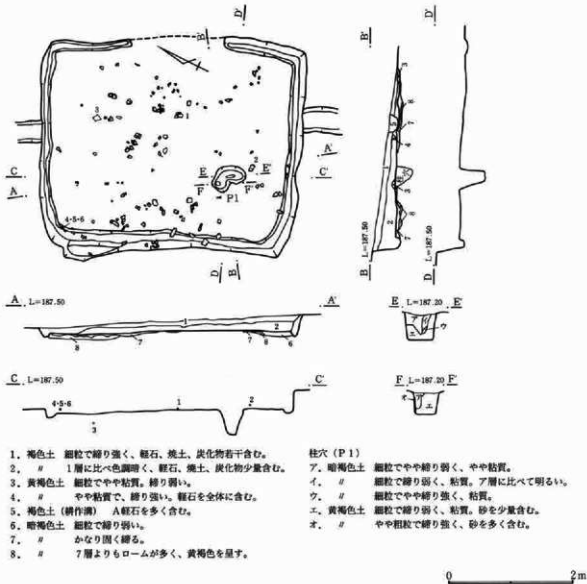
0 10cm

123号住居跡出土遺物観察表

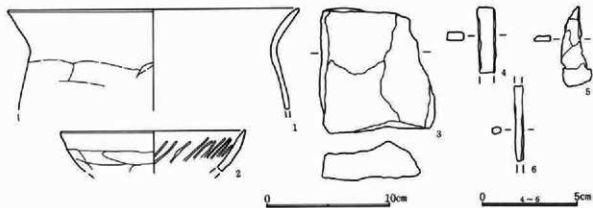
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	器 高 (cm)	胎土 焼 成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	+3	14.0	4.5	砂粒含む 普通	微褐色	外 口縁部横撫で 体部削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	2次火熱受ける
2	土師器 坏	+3	13.2	3.3	砂粒含む 黄	暗赤褐色	外 口縁部横撫で 体部削り 内面 撫で	2次火熱受ける

124号住居跡 (第481・482図、PL44)

U-25グリッドに位置する。遺存状態は悪い。特に北側は上部をほとんど削平されている。方形を呈し、規模は2.1m×3.3mである。壁高は比較的残る南で約20cm程である。床面は平坦であるが、中央に耕作溝が東西に走る。竈は北壁に作られているが、構造は不明。若干の焼土が見られるが、かなり西側に広がる。住居中央や西に床下土坑が検出されている。出土遺物は土器、鉄製品などである。



第481図 124号住居跡



第482図 124号住居跡出土遺物

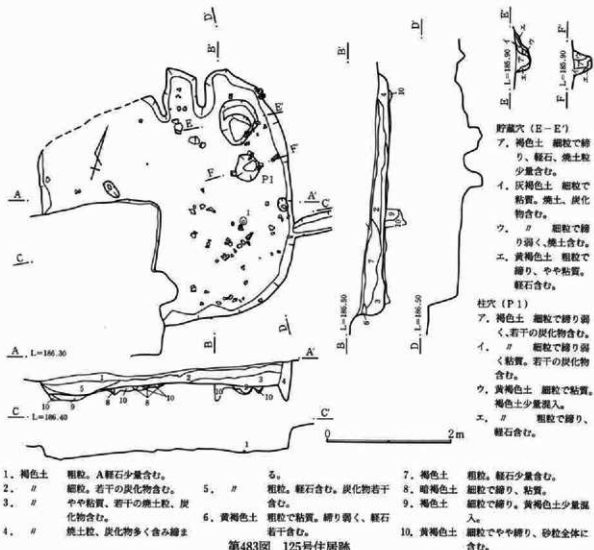
第3章 検出された遺構と遺物

124号住居跡出土遺物観察表

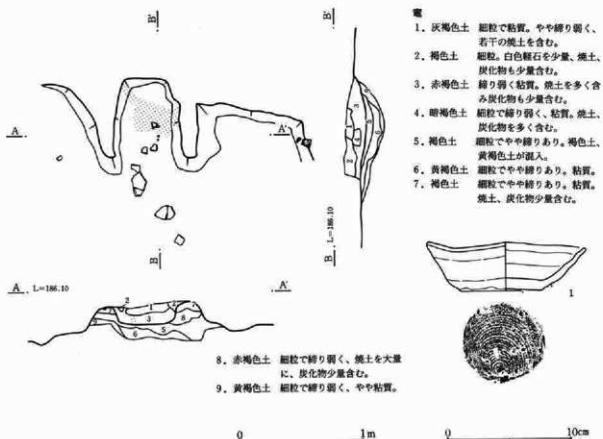
図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土 或 色調	成・整形の特徴	備考	
1	土師器 甕	+3	23.4		砂粒含む 茶褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部蓋削り 胴部蓋撫で	
2	土師器 坏	+7	15.0		砂粒含む 暗赤褐色 普通	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部蓋削り 胴部撫で	内面放射状暗文
3	台石	床面	長さ9.8cm、幅9.3cm、厚さ3.5cm、重さ318g。				石材は牛伏砂粒。不定形を呈し、火を受けている。	
4	鉄製品	+8	刀子。長さ3.4cm、幅0.9cm、厚さ0.4cm、重さ4.0g。茎の部分か。					
5	鉄製品	+8	刀子。長さ4.1cm、幅1.2cm、厚さ0.5cm、重さ2.8g。先端が尖り、かなり曲刀。					
6	鉄製品	+8	釘。長さ3.9cm、幅0.4cm、厚さ0.5cm、重さ1.8g。両端を欠く。					

125号住居跡 (第483・484図、PL45)

U-26グリッドに位置する。南西部分を129号住居跡に切られる。規模は4.0m×3.6mである。壁は南で比較的良く残り、ほぼ垂直に立ち上がり約50cmを測る。床面は黄褐色土の貼り床で固く締まる。貯蔵穴は北東隅にあり円形、竈は北壁に在る。馬蹄形で袖が残るが先端部は削られている。出土遺物は少ない。



第5節 奈良・平安時代の住居跡と遺物



第484図 125号住居跡電及び出土遺物

125号住居跡出土遺物観察表

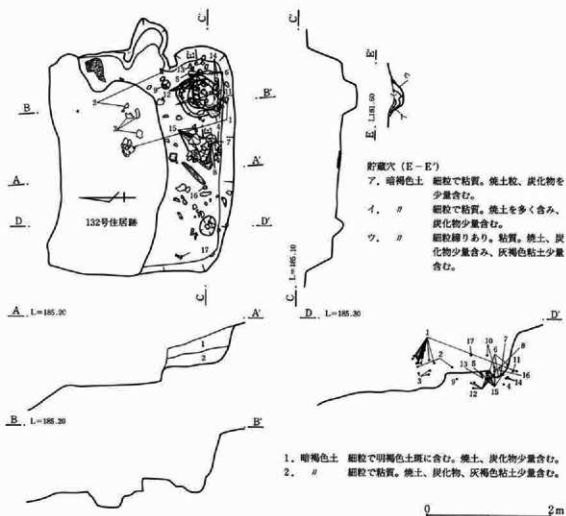
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	径 器 高 (cm)	胎土 焼 成 色 調	成・整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	+1	(12.8) 6.7	3.8	微砂粒含む 黄 明灰色	ロクロ成形	焼き歪みあり

127号住居跡 (第485~488図、PL45)

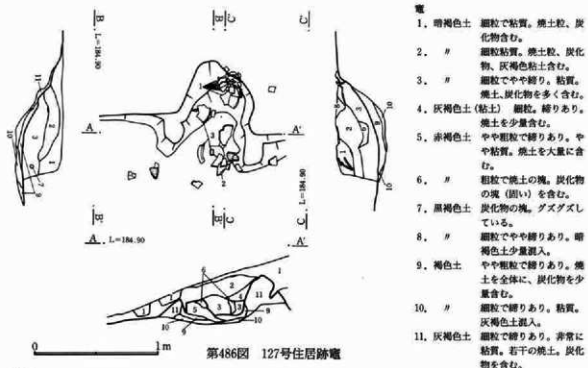
R-23グリッドに位置する。北傾斜地にあり、北側は削平が著しく、壁の立ち上がりはほとんど確認できなかった。さらには132号住居跡が北側に重複して掘り込まれており本跡の半分近くを切っている。平面形態は、ほぼ方形を呈すと思われるが、現状での規模は2.5m×(4.5)mである。最も遺存状態の良い南壁は高さ50cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。

床は灰褐色粘質土の固く締まった貼り床である。貯蔵穴は南東隅に作られている。電は東壁に作られており、袖は壁内にやや入り込み燃焼部は馬蹄形に壁外に張り出す。また本跡は床面上に炭化材および若干の焼土が検出されており、焼失住居と思われる。

出土遺物は住居の南壁際部分において見られ、甕、坏、蓋類が比較的多く検出されている。土器類以外には鉄製品と紡錘車の未製品と思われるものがある。

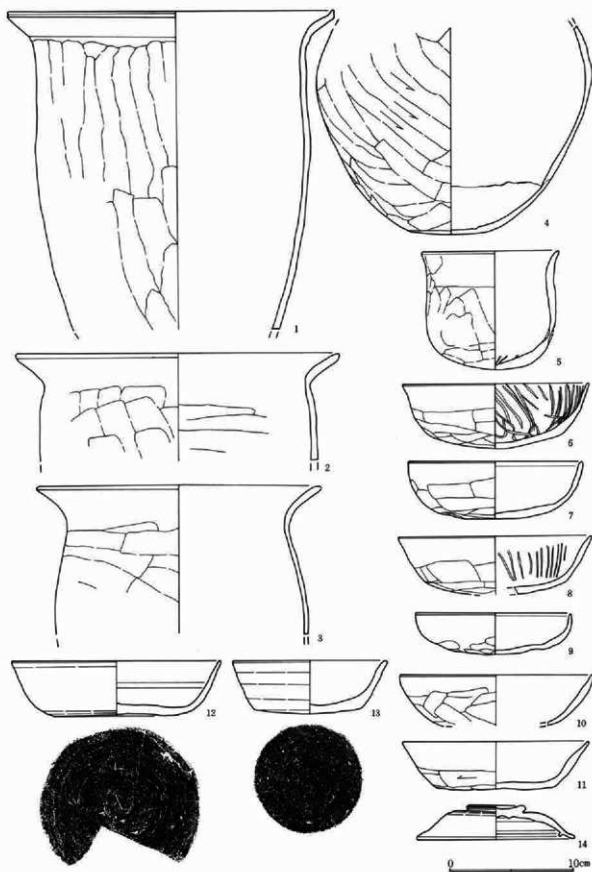


第485図 127号住居跡



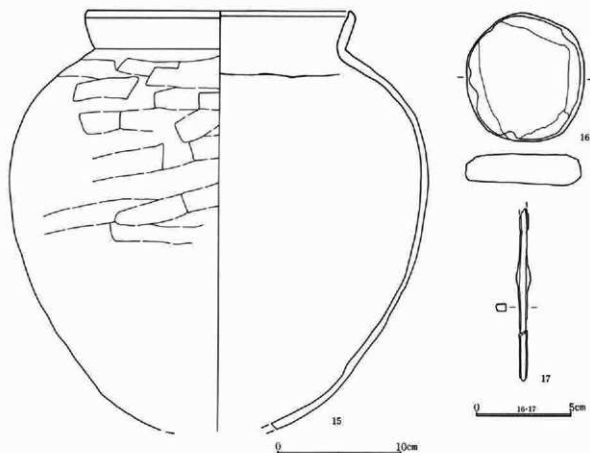
第486図 127号住居跡





第487図 127号住居跡出土遺物(1)

## 第3章 検出された遺構と遺物



第488図 127号住居跡出土遺物(2)

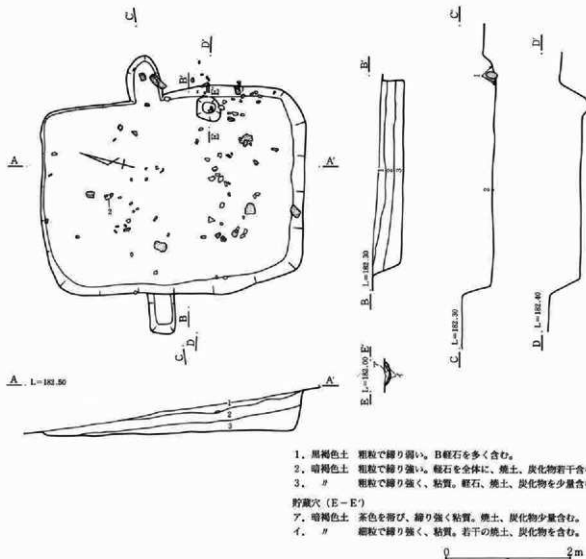
127号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径(cm)	器 高	胎 土 焼 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 甕	+3	25.8		微砂粒含む 良	灰褐色	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 胴部寛撫で	
2	土師器 甕	+9	26.0		微砂粒含む 良	黒褐色	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 胴部寛撫で	
3	土師器 甕	床面	22.9		微砂粒含む 良	暗褐色	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 胴部寛撫で	
4	土師器 甕	貯蔵穴			精製 良	黒褐色	外 胴部寛削り 内 胴部寛撫で	口縁部欠
5	土師器 甕	+6	10.9	9.3	微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 胴部寛撫で	
6	土師器 坏	貯蔵穴	14.9	5.1	微砂粒含む 良	淡茶褐色	外 口縁部横撫で 体部寛削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	内面放射状暗文
7	土師器 坏	床面	14.0	4.6	砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横撫で 体部寛削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	完形
8	土師器 坏	貯蔵穴	15.4	4.7	微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 体部寛削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	内面放射状暗文
9	土師器 坏	貯蔵穴	12.5	3.2	砂粒含む 良	暗灰褐色	外 口縁部横撫で 体部寛削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
10	土師器 坏	+6	15.4		微砂粒含む 良	暗茶褐色	外 口縁部横撫で 体部寛削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
11	土師器 坏	床面	14.9	3.7	砂粒含む 良	暗灰褐色	外 口縁部横撫で 体部寛削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
12	須恵器 坏	床面	17.0	4.4	砂粒含む 良	灰色	ロウロ成形 底部回転切り(右)	

13	須恵系 環	床面	12.6 8.6	4.2	精製 良	灰白色	口クロ成形 底部回転置切り(右)	
14	須恵系 甕	貯蔵穴	12.8	2.7	砂粒含む 良	灰色	外 天井部掘削り	
15	土師系 壺	床面	21.4		砂粒含む 良	暗褐色	外 口縁部横撫で 胴部発削り後磨き 内 口縁部横撫で 胴部置撫で	
16	紡錘車	+4	径6.2cm, 厚さ1.6cm, 重さ96.2g, 石材は蛇紋岩, 未製品。					
17	鉄製品	+28	鉄鏃と思われる。長さ9.0cm, 幅0.8cm, 厚さ0.4cm, 重さ6.4g, 中央に膨らみを持つ。両端を欠く。					

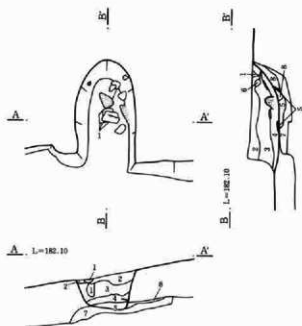
## 128号住居跡 (第489~491図, PL45)

Q-23グリッドに位置する。長方形で、規模は4.2m×3.2mである。斜面にあり北側は削られ、壁高はわずかしか確認されなかった。南壁の高さ約30cmに対し、5cm程である。床面は平坦で暗褐色粘質土が貼られている。貯蔵穴は南東隅に在り、規模は小さい。竈は袖部分が無く、馬蹄形に壁外に掘り出され、支柱が設けられている。出土遺物は少なく、小壺や坏類などが見られ、竈内からは羽釜が検出されている。



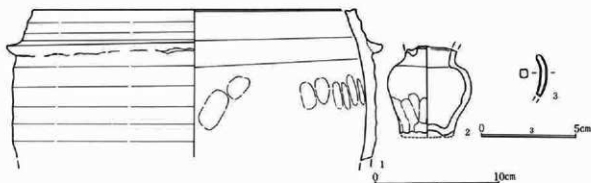
第489図 128号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



- 電
1. 焼土 細粒で粘質の土が焼けて赤褐色を呈する。
  2. 暗褐色土 細粒で粘質。暗紫色の粘土小塊を少量含む。
  3. # 2層より幾分明るい。1層の焼土小塊を少量含む。
  4. 褐色土 焼土塊を多量に、炭を少量含み、粘質。
  5. 暗赤褐色土 やや粗粒で硬く、粘質。焼土粒、塊含む。
  6. 暗褐色土 粗粒で硬く、粘質。砂を多く含む。
  7. # 粗粒で硬く、粘質。若干の焼土を含む。
  8. # 粗粒で硬く、粘質。焼土を少量含む。

第490図 128号住居跡電



第491図 128号住居跡出土遺物

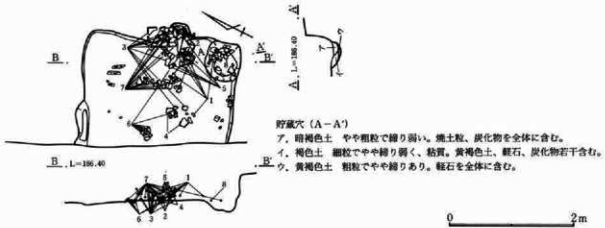
128号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	羽釜	竈	26.1		微砂粒含む	淡褐色	口クロ成形	
2	須恵器 小型甕	床面	(4.2)		砂粒含む	灰色	外 口縁部横無で 胴部荒削り 内 口縁部横無で 胴部削で	
3	鉄製品	覆土	釘。長さ2.5cm、幅0.5cm、厚さ0.4cm、重さ1.4g。破損品、やや曲がっている。					

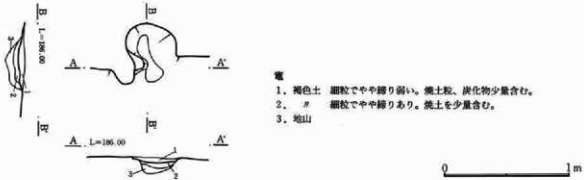
129号住居跡 (第492~496図、PL45)

U-27グリッドに位置する。125号住居跡を切って作られている。西側は道路下に入り込んでいるために調査できなかった。かなり攪乱がひどく、壁は南で確認される程度である。床面は荒れて細かな凹凸がある。竈は東壁側にあるが、ほとんど削平されており計測等は不可能であった。

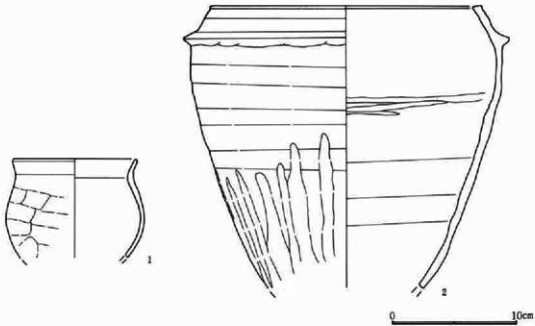
出土遺物は羽釜片が多く見られた。



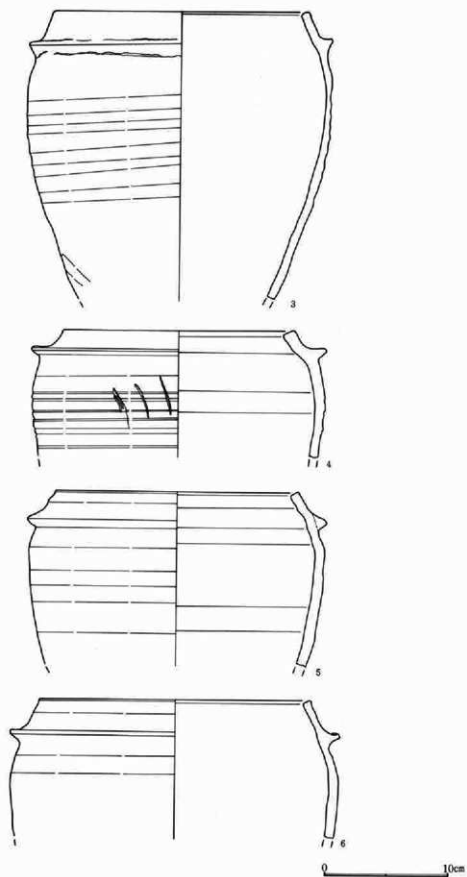
第492図 129号住居跡



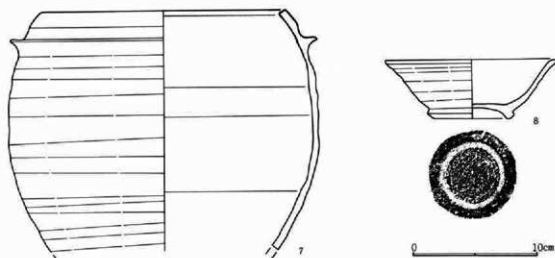
第493図 129号住居跡竈



第494図 129号住居跡出土遺物(1)



第495図 129号住居跡出土遺物(2)



第496図 129号住居跡出土遺物(3)

129号住居跡出土遺物観察表

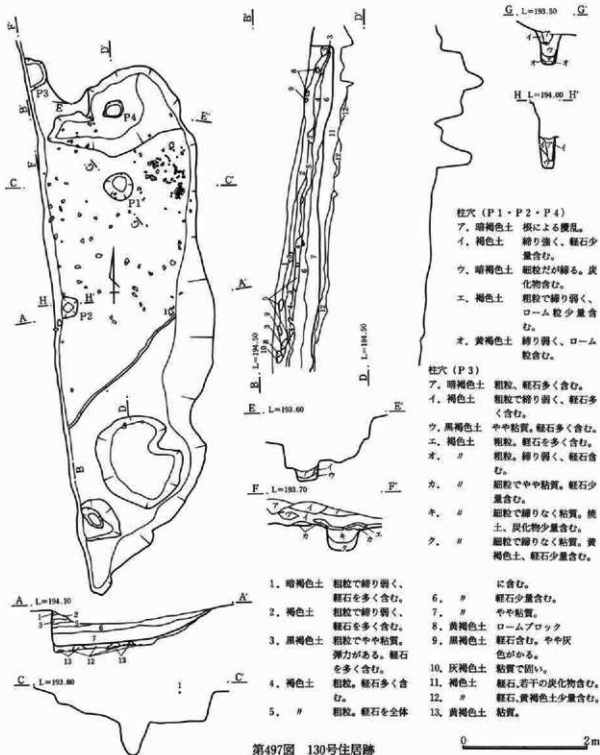
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 底径 (cm)	器 高	胎土 焼 成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	床面	10.0		微砂粒含む 普通	黒褐色	外 口縁部横溝で 胴部寛削り 内 口縁部横溝で 胴部寛削り	内外面灰化物付着
2	須恵器 羽 釜	+3	21.4		砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 胴下半部寛削り	
3	羽 釜	床面	20.7		砂粒含む 良	赤褐色	ロクロ成形 胴下半部寛削り	内面荒れている
4	羽 釜	床面	(18.7)		微砂粒含む 良	黄褐色	ロクロ成形	
5	羽 釜	+3	(19.7)		微砂粒含む 良	灰黄色	ロクロ成形	
6	須恵器 羽 釜	床面	(22.0)		砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	
7	羽 釜	床面	19.7		砂粒含む 良	淡棕色	ロクロ成形	胴下半部寛削り
8	須恵器 角 甕穴	+8・貯 蔵穴	13.8 7.0	4.7	砂粒含む 普通	黄褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	器面荒れている

## 130号住居跡 (第497・498図、PL46)

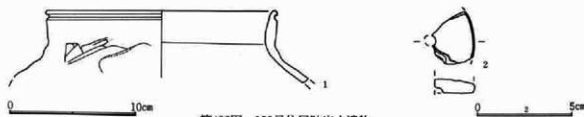
V-22グリッドに位置する。道路下に入り込んでいるために、西側は未調査である。地形的にはやや北に傾斜する場所に位置している。住居の平面形状は、はっきりせず、壁の状態も明確にはつかめなかった。各壁の立ち上がりはいずれも斜めで、走行も直線的ではない。特に南側部分は土坑等の重複もあり、極めて不明瞭である。

床面も荒れており平坦な面としては捉えられなかった。竈は北壁に作られているが、半分程が調査区外にある。またほとんど壊された状態であり、わずかに焼土が残るのみである。出土遺物は少なく土師器の甕および坏の小片がわずかに検出されている。

第3章 検出された遺構と遺物



第497図 130号住居跡

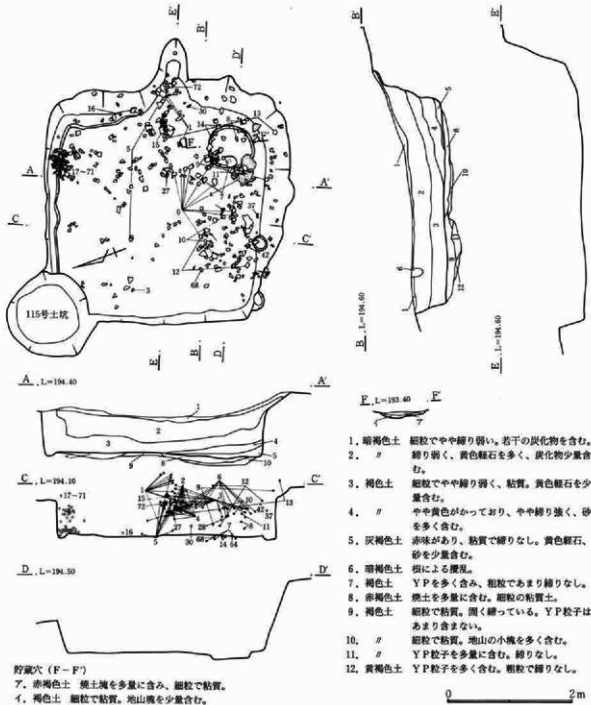




130号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	高 (cm)	胎 土 焼 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 壺	+46	18.6		砂粒含む	灰褐色	外 口縁部横線で 胴部覆形り 内 口縁部横線で 胴部覆形で	口縁部片
2	紡錘車	覆土		径一。厚0.一。重05.4g。石材は蛇紋岩。破損品。				

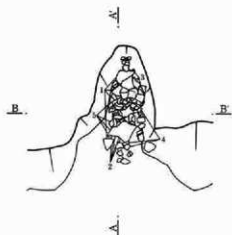
131号住居跡 (第499~503図、PL46・47)



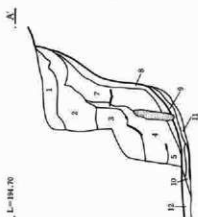
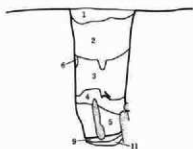
第499図 131号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

V-22グリッドに位置する。北斜面に位置し、当初土坑として調査していたが、最終的にかなり残りの良い住居であることが判明した。方形で規模は3.8m×3.6mである。壁高は南、東壁で最大90cmを測り、削平されていた北西側でも30cmを測る。床面はロームを主体とした貼り床で平坦である。電部分のをぞき周溝が廻る。貯蔵穴は南東隅にあり、円形で浅い。竈は東壁中央に在り、燃焼部から煙道にかけて急角度に立ち上がり、燃焼部奥の両側に石が据えられている。出土遺物は壺、坏類と紡錘車などが見られる。



B. L=194.70



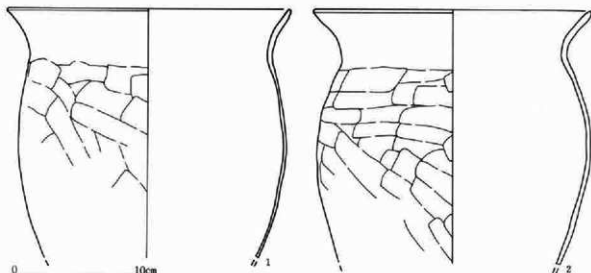
A. L=191.70

竈

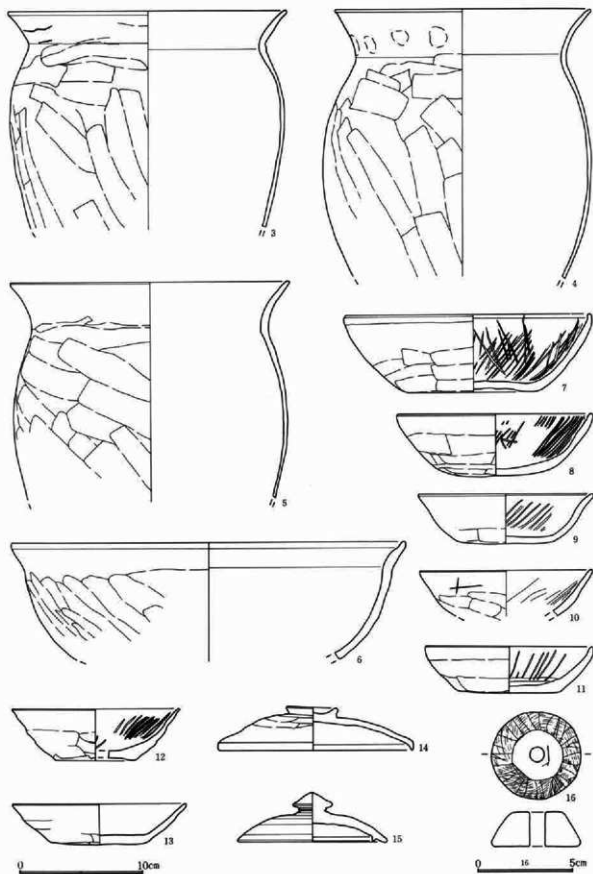
1. 暗褐色土 細粒で締り弱い、褐色土少量混入。
2. 褐色土 やや細粒で、軽石を少量含む。締り弱い。
3. # やや細粒で締り弱く、やや粘質。黄色軽石を全体に含む。
4. # やや細粒で締り弱く、粘質。若干の炭化物、炭化物を含む。
5. 赤褐色土 細粒で締り弱く、粘質。若干の炭化物と焼土を含む。
6. 黄褐色土 粗粒で締り強く、砂を多く含む。
7. 褐色土 細粒でやや粘質だがあまり締りなし。
8. 暗赤褐色土 焼土を多量に含む。細粒だがあまり締りなし。
9. 褐色土 粗粒でやや締りあり。粘質。軽石、焼土を多く含む。
10. # 細粒で締りあり。非常に粘質。焼土を多量に含む。
11. # 粗粒でやや締り弱く、軽石を含む。灰褐色土を少量含む。
12. # やや粗粒で締りあり。粘質。礫を少量含む。

第500図 131号住居跡竈

0 1m

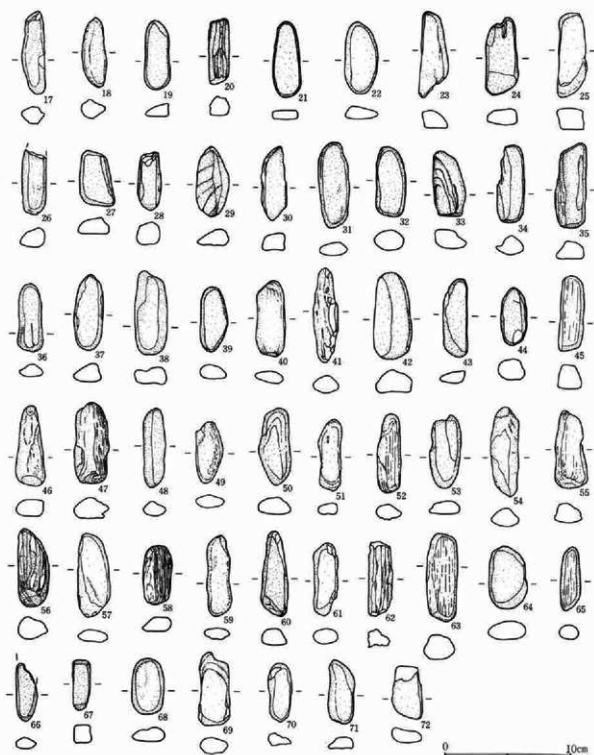


第501図 131号住居跡出土遺物(1)



第502図 131号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第503図 131号住居跡出土遺物(3)

131号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 甕		22.9		灰砂粒含む 良	茶褐色	外 口縁部横線で 胴部直削り 内 口縁部横線で 胴部荒削り	

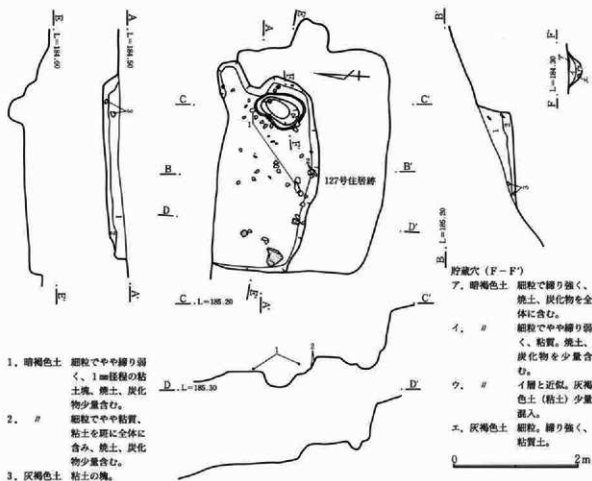
## 第5節 奈良・平安時代の住居跡と遺物

2	土師器 壺	甕	22.0		微砂粒含む 赤褐色 良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部縦削り 胴部縦撫で	二次火焼を受けてい る
3	土師器 壺	甕	22.5		微砂粒含む 茶褐色 良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部縦削り 胴部縦撫で	
4	土師器 壺	甕	20.7		微砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部縦削り 胴部縦撫で	
5	土師器 壺	甕	22.6		微砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部縦削り 胴部縦撫で	
6	土師器 鉢	+38	32.0		砂粒含む 明褐色 良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部縦削り 胴部縦撫で	
7	土師器 坏	床面	20.0 10.6	6.4	微砂粒含む 橙褐色 良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部縦削り 体部撫で	内面放射状暗文 (斜格子状)
8	土師器 坏	+14	15.7	4.9	砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部縦削り 体部撫で	内面放射状暗文
9	土師器 坏	+15	(14.0) 8.0	3.9	砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部縦削り 体部撫で	内面放射状暗文
10	土師器 坏	+34	14.0		微砂粒含む 暗赤褐色 良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部縦削り 体部縦撫で	内面放射状暗文
11	土師器 坏	+37	13.6 8.3	3.7	砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部縦削り 体部撫で	内面放射状暗文
12	土師器 坏	+55	13.5 6.4	4.1	砂粒含む 淡黄褐色 良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部縦削り 体部撫で	内面放射状暗文
13	土師器 坏	+29	14.0 8.0	3.2	砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部縦削り 体部撫で	
14	須恵器 蓋	床面	13.4	3.5	砂粒含む 黄灰白色 普通	外 天井部縦削り		
15	須恵器 蓋	+58	(12.2)	3.0	砂粒含む 灰色 普通	外 天井部縦削り		
16	紡錘車	+6			径4.7cm、厚さ2.1cm、重さ57.3g。石材は蛇紋石。			
17	礫	+3			長さ6.4cm、幅1.8cm、厚さ1.3cm、重さ24g。緑色変岩			
18	礫	+3			長さ5.5cm、幅2.0cm、厚さ1.5cm、重さ19g。緑色変岩			
19	礫	+41			長さ5.4cm、幅2.0cm、厚さ1.0cm、重さ18g。緑色変岩			
20	礫	+43			長さ4.9cm、幅1.7cm、厚さ1.5cm、重さ21g。緑色変岩			
21	礫	+37			長さ5.9cm、幅2.3cm、厚さ0.7cm、重さ19g。緑色変岩。			
22	礫	+20			長さ5.7cm、幅2.7cm、厚さ1.1cm、重さ27g。緑色変岩。			
23	礫	+3			長さ6.8cm、幅2.3cm、厚さ1.5cm、重さ35g。緑色変岩。			
24	礫	+30			長さ6.1cm、幅2.7cm、厚さ1.3cm、重さ32g。緑色変岩。			
25	礫	+5			長さ6.5cm、幅2.4cm、厚さ1.6cm、重さ32g。緑色変岩。			
26	礫	+20			長さ4.3cm、幅2.0cm、厚さ1.5cm、重さ23g。緑色変岩。			
27	礫	+46			長さ4.1cm、幅2.7cm、厚さ1.3cm、重さ30g。緑色変岩。			
28	礫	+24			長さ4.5cm、幅1.9cm、厚さ1.7cm、重さ24。緑色変岩。			
29	礫	+22			長さ5.5cm、幅2.5cm、厚さ1.3cm、重さ24g。緑色変岩。			
30	礫	+14			長さ5.7cm、幅2.0cm、厚さ1.4cm、重さ27g。緑色変岩。			
31	礫	+36			長さ6.8cm、幅2.4cm、厚さ1.0cm、重さ31g。緑色変岩。			
32	礫	+37			長さ5.5cm、幅2.5cm、厚さ1.6cm、重さ37g。緑色変岩。			

第3章 検出された遺構と遺物

33	碑	+36	長さ5.2cm、幅2.6cm、厚さ1.5cm、重さ25g、緑色変岩。
34	碑	+35	長さ6.1cm、幅2.2cm、厚さ1.5cm、重さ27g、緑色変岩。
35	碑	+35	長さ6.6cm、幅2.4cm、厚さ1.4cm、重さ33g、緑色変岩。
36	碑	+60	長さ5.4cm、幅2.0cm、厚さ1.0cm、重さ14g、緑色変岩。
37	碑	+40	長さ6.0cm、幅2.3cm、厚さ1.4cm、重さ26g、緑色変岩。
38	碑	+2	長さ6.6cm、幅2.7cm、厚さ1.4cm、重さ37g、緑色変岩。
39	碑	+3	長さ5.1cm、幅2.2cm、厚さ1.1cm、重さ16g、緑色変岩。
40	碑	+2	長さ5.9cm、幅2.4cm、厚さ1.0cm、重さ23g、緑色変岩。
41	碑	+7	長さ7.4cm、幅2.0cm、厚さ1.4cm、重さ25g、緑色変岩。
42	碑	+31	長さ6.8cm、幅3.1cm、厚さ1.7cm、重さ62g、緑色変岩。
43	碑	+29	長さ6.1cm、幅2.0cm、厚さ1.0cm、重さ20g、緑色変岩。
44	碑	+35	長さ4.7cm、幅2.1cm、厚さ1.7cm、重さ27g、緑色変岩。
45	碑	床面	長さ5.9cm、幅1.9cm、厚さ1.9cm、重さ31g、緑色変岩。
46	碑	+5	長さ6.2cm、幅2.4cm、厚さ1.6cm、重さ31g、緑色変岩。
47	碑	+9	長さ6.3cm、幅2.8cm、厚さ1.6cm、重さ42g、緑色変岩。
48	碑	+5	長さ5.2cm、幅1.7cm、厚さ1.1cm、重さ18g、緑色変岩。
49	碑	+2	長さ4.7cm、幅2.3cm、厚さ1.2cm、重さ17g、緑色変岩。
50	碑	+3	長さ6.0cm、幅2.6cm、厚さ1.4cm、重さ33g、緑色変岩。
51	碑	+3	長さ5.7cm、幅2.0cm、厚さ1.3cm、重さ17g、緑色変岩。
52	碑	+3	長さ6.3cm、幅1.9cm、厚さ1.3cm、重さ22g、緑色変岩。
53	碑	+7	長さ5.7cm、幅2.5cm、厚さ1.0cm、重さ22g、緑色変岩。
54	碑	+3	長さ7.0cm、幅2.2cm、厚さ1.5cm、重さ34g、緑色変岩。
55	碑	+6	長さ6.0cm、幅2.6cm、厚さ1.5cm、重さ31g、緑色変岩。
56	碑	+36	長さ6.2cm、幅2.5cm、厚さ1.8cm、重さ36g、緑色変岩。
57	碑	+6	長さ6.6cm、幅2.6cm、厚さ1.0cm、重さ29g、緑色変岩。
58	碑	+31	長さ4.7cm、幅2.3cm、厚さ1.1cm、重さ21g、緑色変岩。
59	碑	+6	長さ6.5cm、幅1.8cm、厚さ0.9cm、重さ18g、緑色変岩。
60	碑	+6	長さ6.7cm、幅2.2cm、厚さ1.3cm、重さ31g、緑色変岩。
61	碑	+9	長さ5.6cm、幅2.0cm、厚さ1.5cm、重さ21g、緑色変岩。
62	碑	+8	長さ5.9cm、幅2.0cm、厚さ1.5cm、重さ22g、緑色変岩。
63	碑	+6	長さ6.8cm、幅2.4cm、厚さ2.0cm、重さ52g、緑色変岩。

64	礎	+2	長さ5.0cm、幅3.0cm、厚さ1.4cm、重さ36g、緑色安岩。
65	礎	+8	長さ4.9cm、幅1.6cm、厚さ1.2cm、重さ15g、緑色安岩。
66	礎	+25	長さ4.6cm、幅1.8cm、厚さ0.9cm、重さ12g、緑色安岩。
67	礎	+35	長さ4.0cm、幅1.5cm、厚さ1.4cm、重さ18g、緑色安岩。
68	礎	床面	長さ4.4cm、幅2.6cm、厚さ1.0cm、重さ21g、緑色安岩。
69	礎	+18	長さ5.3cm、幅2.6cm、厚さ1.3cm、重さ31g、緑色安岩。
70	礎	+12	長さ4.7cm、幅2.0cm、厚さ1.1cm、重さ14g、緑色安岩。
71	礎	+6	長さ5.2cm、幅2.0cm、厚さ0.9cm、重さ12g、緑色安岩。
72	礎	+50	長さ4.6cm、幅2.5cm、厚さ1.1cm、重さ19g、緑色安岩。



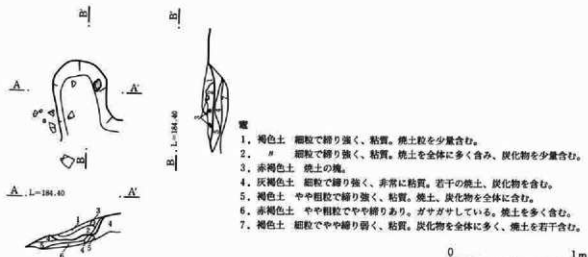
第504図 132号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

132号住居跡 (第504～506図、PL47)

R-23グリッドに位置する。127号住居跡の北側に重複しこれを切る。確認段階では2基の竈を持つ住居と考えられたが、調査が進む中で、床面の状況などから、127号住居跡との2軒重複と判明した。方形を呈し現状での規模は3.1m×(1.2)mである。

北傾斜地に在り北壁は削り取られている。西壁は1部127号住居跡と共有する形である。床面は灰褐色土の固く締まった貼り床である。貯蔵穴は東南隅にあり、不定円形を呈す。竈は東壁にあり両袖わずかに残り、燃焼部は壁外に馬蹄形に掘り出されている。出土遺物は少ない。



第505図 132号住居跡竈



第506図 132号住居跡出土遺物

132号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	体 器 高 (cm)	胎 土 色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 鉢	+4	25.4		微砂粒含む 黄 暗赤褐色	外 □縁部横撫で 体部寛用り 内 □縁部横撫で 体部撫で	
2	土師器 杯	+2	13.2	3.0	砂粒含む 黄 暗褐色	外 □縁部横撫で 体部寛用り 内 □縁部横撫で 体部撫で	

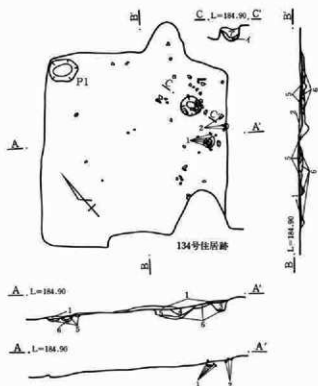
133号住居跡 (第507～509図、PL47)

S-27グリッドに位置する。方形を呈し、規模は3.1m×2.9mである。134号住居跡が西側に重複する。壁はほとんど削平されており壁高は計測するまでには至らない。

床面もやや凹凸があり、あまり固くはない。竈は東壁にあるがおよその形状は判明するが、上部構造は不明である。

出土遺物は環類がわずかに見られた程度である。





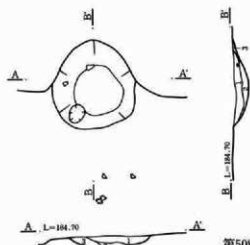
1. 褐色土 細粒でやや締り固く、粘性が強い。
2. # 粗粒でやや締りあり。白色軽石 (As-B?) を含む。
3. 暗褐色土 やや粗粒で締りあり。焼土粒、炭化物を全体に含む。
4. # 粗粒で締り固く、A軽石を全体に含む。
5. 褐色土 やや粗粒でやや締り固く、軽石を全体に含む。黄褐色土少量混入。
6. 黄褐色土 細粒でやや締り強く、やや粘質。

貯蔵穴 (C-C')

- ア. 褐色土 やや細粒でやや締り固く、焼土粒、炭化物を全体に含む。
- イ. # 細粒でやや締り固く、やや粘質。焼土、炭化物を少量含む。

第507図 133号住居跡

0 2m

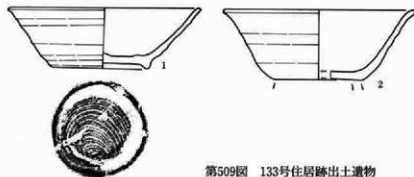


窟

1. 黒褐色土 焼土小塊、炭を少量含む。
2. 褐色土 焼土を少量含む。やや粘質。
3. 焼土

0 1m

第508図 133号住居跡窟



第509図 133号住居跡出土遺物

0 10cm

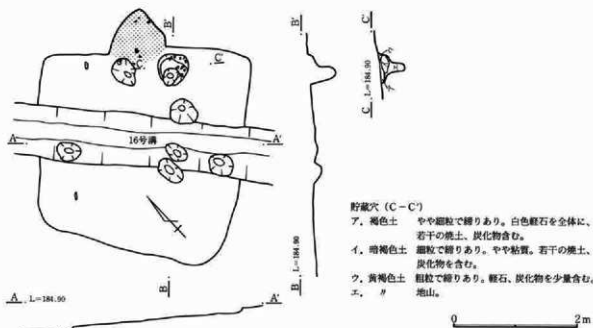
### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 133号住居跡出土遺物観察表

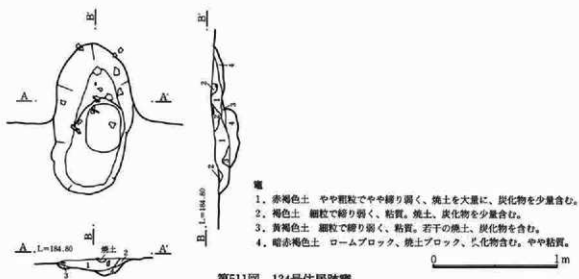
図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	径 (cm)	高 (cm)	胎土 成	色調	成・整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	床面	15.5	4.8	7.8	砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形	
2	須恵器 坏	床面	(15.6)			精製 良	灰色	ロクロ成形	

#### 134号住居跡 (第510・511図、PL48)

S-27グリッドに位置する。ほぼ中央を16号溝が横断する。削平が著しく、遺存状態は悪い。方形を呈し規模は3.4m×3.3m程と推定される。床面は黒色土とロームの混合土が見られたが、平坦ではない。貯蔵穴は、竈右に検出されている。竈は火床面がわずかに残る程度でほとんど壊されている。出土遺物は少ない。



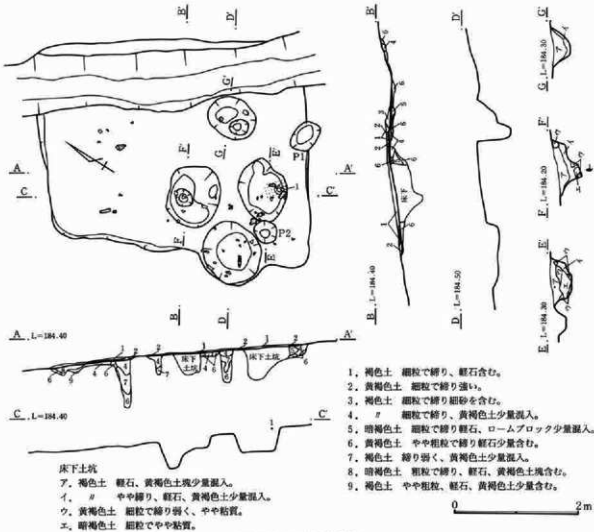
第510図 134号住居跡



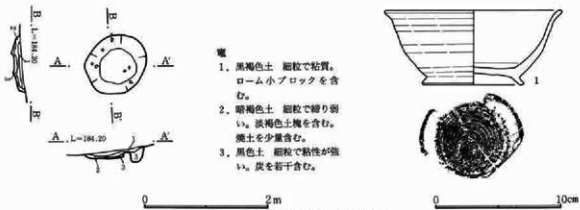
第511図 134号住居跡竈

135号住居跡 (第512・513図, PL48)

S-27グリッドに位置する。長方形を呈し、16号溝に切られる。遺存状態は悪く、推定規模は4.2m×3.3mである。床面は黄褐色土と褐色土の混合土でやや凹凸を持つ、竈は南西部分に若干の焼土が確認され、竈位置と考えたが、確定できない。出土遺物は土器の小片がわずかに見られる程度である。



第512図 135号住居跡



第513図 135号住居跡竈及び出土遺物

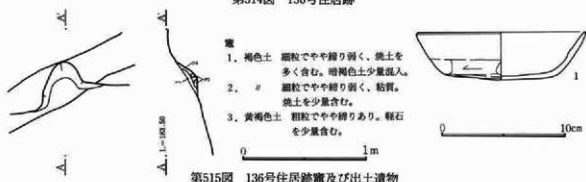
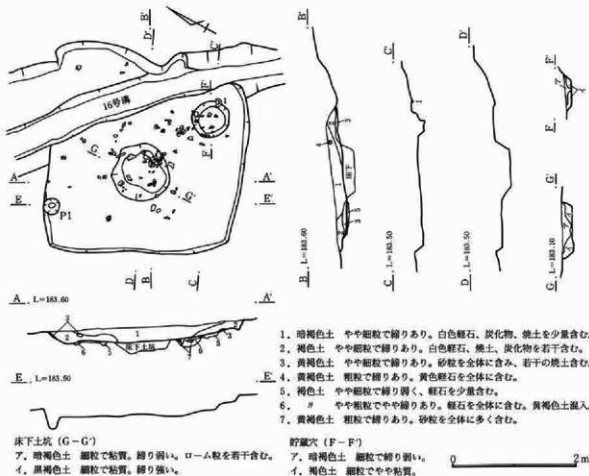
### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 135号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 径径(cm)	高さ (cm)	胎土 色調	成・整形の特徴	備考
1	須形海 埴	床面(床 下土坑)	14.4 8.0	5.9	砂粒含む 黒色 良	ロクロ成形	

#### 136号住居跡 (第514・515図、PL48)

S-28グリッドに位置する。長方形を呈し、規模は3.1m×3.1mである。16号溝が竈部分を壊し、南北に走る。壁高は北東隅で約20cmを測るが、他は10cm以下である。床面は平坦である。貯蔵穴は南東部分にあり浅く、底面は凹凸がある。竈は東壁にあり、焼土化したロームが残る程度である。出土遺物は少ない。

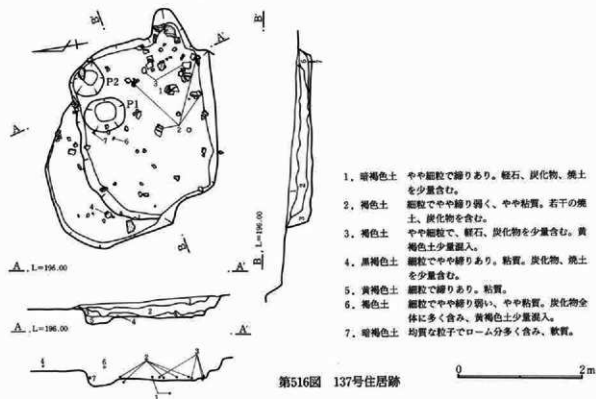


136号住居跡出土遺物観察表

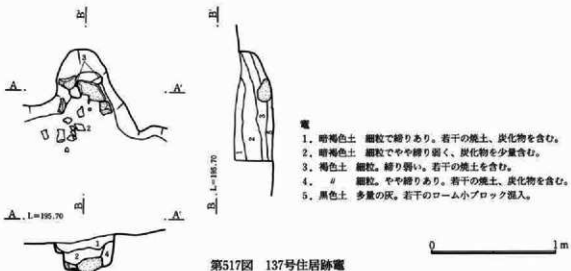
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 底径 (cm)	径 高	胎 土 成	土 色 調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 床面 環		13.7	3.8	精製 良	暗褐色	外 口縁部横溝で 体部寛削り 内 口縁部横溝で 体部横で	

## 137号住居跡 (第516~518図, PL48)

T-8 グリッドに位置する。143号住居跡の東部分に重複する。古い土坑が重なる東壁、143号住居と重複する部分は壁の状況が不明瞭である。およその規模は3.0m×(2.2)mである。床面は細かな凹凸があり、中央部分がやや下がる。竈は東壁やや南寄りに作られ、両袖石が残る。出土遺物は羽釜、環類が見られる。

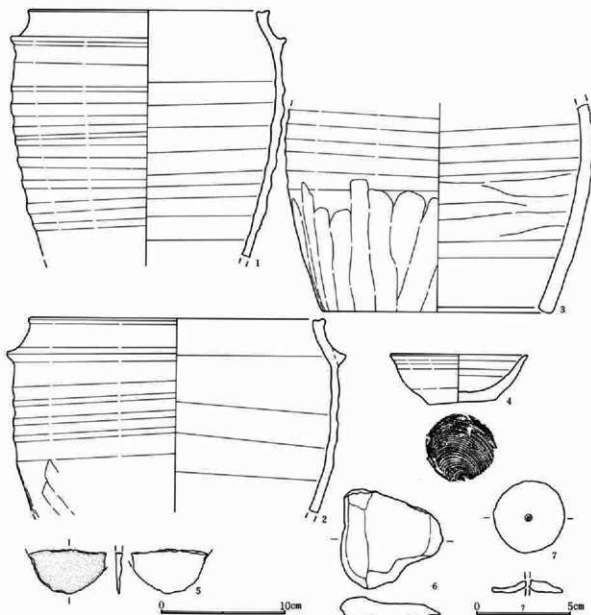


第516図 137号住居跡



第517図 137号住居跡竈

第3章 検出された遺構と遺物



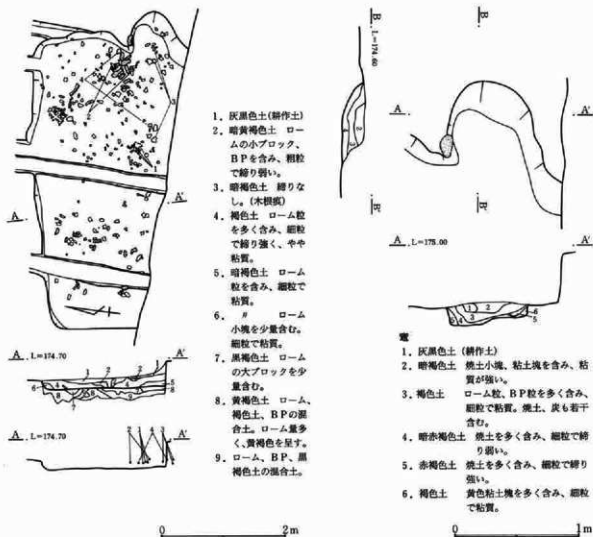
第518図 137号住居跡出土遺物

137号住居跡出土遺物観察表

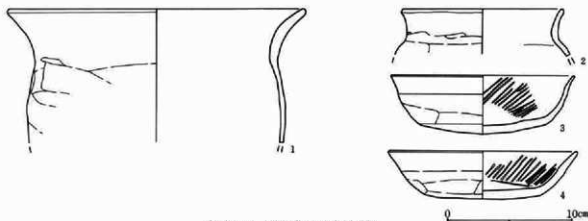
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 器 高 径 径 (cm)	胎 土 色 調 焼 成	成・整形の特徴	備 考	
1	須志器 羽 釜	床面	19.4	微砂粒含む 橙褐色 良	ロクロ成形 割下半部削り	酸化焙焼成	
2	須志器 羽 釜	床面	24.0	微砂粒含む 黄褐色 良	ロクロ成形		
3	須志器 甕	床面	18.5	微砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形 割下半部削り		
4	須志器 坏	+8	11.1 3.8 5.4	精製 黄褐色 良	ロクロ成形		
5	石 獸	覆土	長さ6.2cm, 幅(3.4)cm, 厚さ0.6cm, 重さ17g, 石材はひん岩。刃部破片。				
6	砥 石	覆土	長さ7.7cm, 幅8.2cm, 厚さ1.8cm, 重さ106g, 石材は牛伏砂岩。偏平な礫を使用。使用面一面。				
7	鉄製品	床面	紡錘車。径3.8cm, 厚さ0.65cm, 重さ6.6g, 軸を欠く。軸の取り付け部は片方の面に盛り上がる。				

138号住居跡 (第519・520図、PL48)

H-24グリッドに位置する。南側半分以上は調査区外である。耕作溝が数本走る。壁高は平均20cmを測る。床面は比較的平坦である。竈は東壁にあり、かなり壊れていたが多量の焼土が見られた。出土遺物は少ない。



第519図 138号住居跡及び竈



第520図 138号住居跡出土遺物

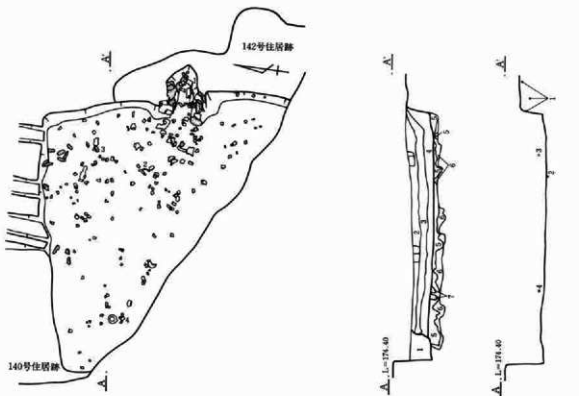
### 第3章 検出された遺構と遺物

138号住居跡出土遺物観察表

図番号	部類	出土位置 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	+11	24.0			黄砂粒含む 良	橙茶褐色	外 口縁部横無で 胴部覆削り 内 口縁部横無で 胴部直無で	
2	土師器 甕	+9	13.0			黄砂粒含む 良	橙茶褐色	外 口縁部横無で 胴部覆削り 内 口縁部横無で 胴部直無で	
3	土師器 甕 坏	+8	14.8	4.6		黄砂粒含む 良	淡茶褐色	外 口縁部横無で 体部覆削り 内 口縁部横無で 体部直削り	内面放射状暗文
4	土師器 坏	+8	15.2	3.8		黄砂粒含む 良	淡茶褐色	外 口縁部横無で 体部覆削り 内 口縁部横無で 体部直削り	内面放射状暗文

### 139号住居跡 (第521～523図、PL49)

H-25グリッドに位置する。南西部約半分が調査区外にある。140・142号住居跡を切る。壁高は北壁の1部で30cm程残るがその他はあまり状況は良くない。床面はローム混じりの粘質土で貼られわずかな凹凸を持つ。竈は東壁にあり、壁外に馬蹄形に掘り出されている。遺存状態は悪いが、袖部に使用されていた石が検出されている。出土遺物は竈周辺に甕、坏類が中心に検出されている。

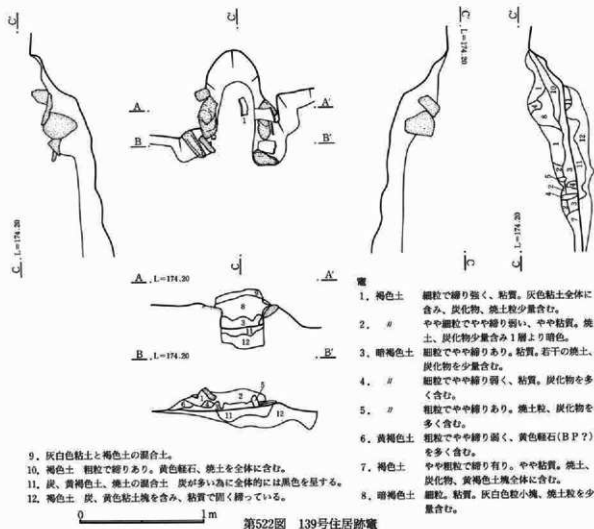


1. 耕作に関係した溝。
2. 暗褐色土 細粒で粘質。B P 粒子、炭を若干含む。
3. 黒褐色土 細粒で粘質。締り強い。ローム小ブロックを少量含む。
4. # ロームブロック、皮を多く含む。所々に黒色土のブロックを含む。
5. # 黄色ローム塊を多く含む。粘質で締り強い。
6. 褐色土とB P、ロームの混合土。B Pが多いために粗粒で締り弱い。
7. 汚れたロームブロック。

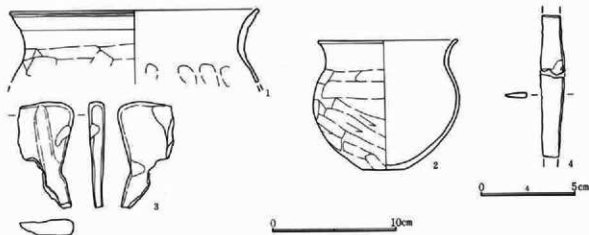
第521図 139号住居跡

0 2m





- 竈
1. 褐色土 細粒で締り強く、粘質。灰白色粘土全体に含み、炭化物、焼土粒少量含む。
  2. # やや細粒でやや締り弱い、やや粘質。焼土、炭化物少量含み1層より暗色。
  3. 暗褐色土 細粒でやや締りあり。粘質。若干の焼土、炭化物を少量含む。
  4. # 細粒でやや締り弱く、粘質。炭化物を多く含む。
  5. # 粗粒でやや締りあり。焼土粒、炭化物を多く含む。
  6. 黄褐色土 粗粒でやや締り固く、黄色礫石(BP?)を多く含む。
  7. 褐色土 やや粗粒で締り有り。やや粘質。焼土、炭化物、黄褐色土塊全体に含む。
  8. 暗褐色土 細粒。灰白色粘土小塊、焼土粒を少量含む。



139号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 壺	床周・竈	20.0		黄砂粒含む 良	茶褐色	外 口径縁部横溝で 胴部削り 内 口径縁部横溝で 胴部残断で	

### 第3章 検出された遺構と遺物

2	土師器 埴	床面	11.2 3.4	10.1	微砂粒含む 灰	暗褐色	外 内	口縁部横溝で 口縁部横溝で	胴部寛削り 胴部寛削り	
3	砥石	+13	長さ8.3cm、幅4.4cm、厚さ1.3cm、重さ42g、石材は花岩。側平、両面はかなり使い込まれすり減る。破損品。							
4	鉄製品	+7	刀子。長さ7.5cm、幅1.3cm、厚さ0.2cm、重さ5.5g。両端部を欠く。							

#### 140号住居跡 (第524・525図、PL49)

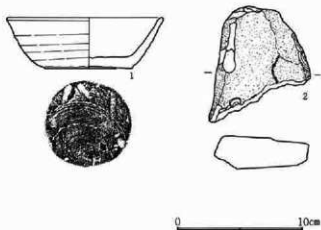
G-25グリッドに位置する。139号住居跡に東側を切られ、西側は調査区外となっているため、調査できたのは全体のおよそ4分の1程度である。

壁高は20cm程度で、立ち上がりはなだらかである。床面は比較的平坦であるが、壁際はやや高まる。

竈は北壁のやや東よりに作られており、袖部分は無く、本体は馬蹄形におよそ60cm、壁外に作り出されている。出土遺物は少ない。



第524図 140号住居跡



第525図 140号住居跡出土遺物

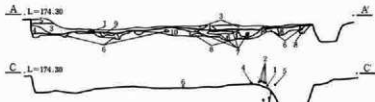
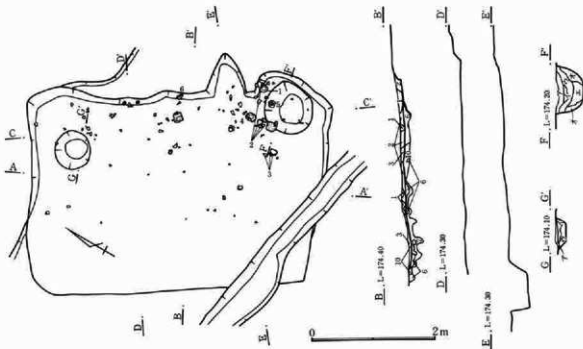
#### 140号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	径 深 (cm)	高 度 (cm)	胎 土 成 色	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	須恵器 埴	覆土	15.1 7.0	4.0		微砂粒含む 普通	灰色	ロクロ成形 底部即転垂切り(右)	
2	砥石	覆土	長さ9.1cm、幅6.3cm、厚さ3.2cm、重さ215g。石材は粗粒安山岩。両面使用。						

#### 141号住居跡 (第526～528図、PL49)

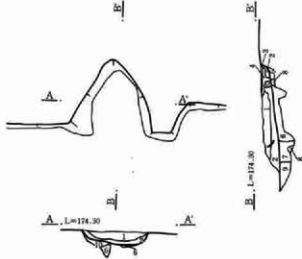
G-24グリッドに位置する。上部をかなり削られており、遺存状態は悪い。長方形を呈し、規模は4.7m×3.1mである。南西隅を導水管の溝が走る。壁高は北東部で約20cmを測るが、他は計測不可。床面はやや凹凸があり、固さも一定していない。貯蔵穴は南東隅に掘られている。

竈は東壁やや南よりに作られている。かなり壊れており、袖の形状もはっきりしない。出土遺物は竈前面から、環頸が検出されている他、刻書のある砥石が1点見られた。



- |               |                          |          |                           |
|---------------|--------------------------|----------|---------------------------|
| 1. 褐色土        | ローム塊を多く含み、細粒で粘質。         | 7. 黄褐色土  | やや粗粒で締りあり。白色軽石を全体に、褐色土混入。 |
| 2. 暗褐色土       | ローム小塊を少量含み、細粒で粘質。        | 8. #     | 粗粒で締りあり。B.P. 砂を多く含む。      |
| 3. 褐色土        | ローム粒を多く含み、細粒で粘質。         | 9. 暗褐色土  | やや細粒でA軽石を全体に含み、若干の炭化物を含む。 |
| 4. 黒褐色土       | 細粒。粘質。炭を若干含む。            | 10. 黄褐色土 | やや細粒で締りあり。砂を多く含む。         |
| 5. 灰褐色土 (耕作土) |                          |          |                           |
| 6. 暗褐色土       | 粗粒で締りあり。白色軽石、黄色軽石を全体に含む。 |          |                           |

第526図 141号住居跡

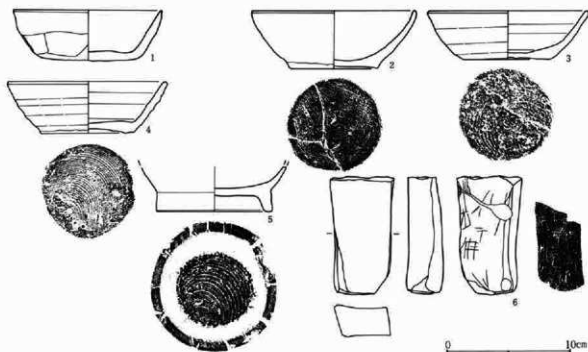


- 床下土坑 (G-G)  
 7. 黒褐色土 細粒で締り強い。端部に灰白色粘土を若干含む。  
 4. 暗褐色土 細粒であり締りなし。小さなロームブロックを少量含む。  
 7. # # 大きなロームブロックを含む。
- 貯蔵穴 (F-F)  
 7. 暗褐色土 細粒。粘質。炭を若干含む。  
 4. 焼土、灰白色粘土の混合土。炭を若干含む。  
 7. 褐色土 ロームブロックを若干含む。B.P. 粒も少量含む。粗粒で締りなし。  
 5. 明褐色土 粘土塊、B.P. 粒を若干含む。  
 6. 黄褐色土 細粒で粘質。粘土塊を少量含む。

- 電  
 1. 褐色土 細粒で粘質。焼土粒を若干含む。  
 2. 暗赤褐色土 細粒で粘質。焼土小塊、炭を多く含む。あまり締りなし。  
 3. # 紫色がかかった粘土の焼けた土。  
 4. 焼土とロームの混合土  
 5. 暗褐色土 細粒で粘質。  
 6. # 焼土。炭を多く含み、細粒で粘質。  
 7. 黒褐色土 炭、灰を少量含み、細粒で粘質。  
 8. ロームブロック。  
 9. 黒褐色土とロームの混合土。  
 10. 暗紫赤色土 焼土、粘土、炭の混合土。(竈火床面、壁面を造作時の造作材)。

第527図 141号住居跡電

第3章 検出された遺構と遺物



第528図 141号住居跡出土遺物

141号住居跡出土遺物観察表

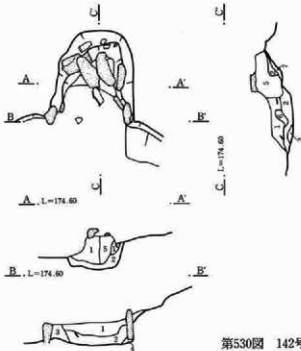
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	径 深 (cm)	高 (cm)	胎土 成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	+2	12.0	3.9		微砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横撫で 体部縦削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
2	土師器 坏	+2	(13.4)	7.2	4.0	微砂粒含む 良	褐色	外 口縁部横撫で 体部縦削り後撫で 内 口縁部横撫で 体部撫で	
3	須恵器 坏	床面	13.0	7.4	3.8	砂粒含む 普通	灰褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	割面成れている
4	須恵器 坏	+2	13.0	7.3	4.1	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
5	須恵器 塊	貯蔵穴		9.3		砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右) 付け高台
6	磁石	+2	長さ9.3cm, 幅5.2cm, 厚さ2.4cm, 重さ190g。石材は砥沢石。西面使用、かなり磨り減っている。 刻劃文字「有」「」						

142号住居跡 (第529・530図、PL49)

H-25グリッドに位置する。139号住居跡が重複、竈のある東壁部分のみが残る。壁高は竈の横で約15cm程度計測される。竈は構築材の石が焚口部分、燃焼部に検出されている。出土遺物はほとんど無い。



第529図 142号住居跡

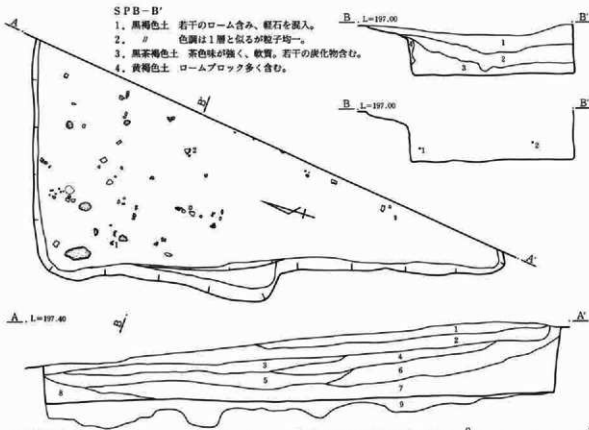


電

1. 褐色土 B P、ローム粒を少量含む。細粒で粘質。
2. 暗褐色土 B P 粒子、焼土粒を少量含む。粘質が強い。
3. 焼土と褐色土の混合土。
4. 暗褐色土 細粒で粘性がかなり強い。
5. # 粗粒で粘り弱い。
6. 黒褐色土 細粒で粘質が強い。炭化物を若干含む。
7. 焼土 炭の小塊を多く含む。

第530図 142号住居跡電

0 1 m



SPB-B'

1. 黒褐色土 若干のローム含み、軽石を混入。
2. # 色調は1層と似るが粒子均一。
3. 黒茶褐色土 茶色味が強く、軟質。若干の炭化物含む。
4. 黄褐色土 ロームブロック多く含む。

B. L=197.00

B. L=197.00

A. L=197.40

144号住居跡

SPA-A'

1. 黒色土 炭土、下層にB軽石層。
2. 淡褐色土 ローム2次増殖。
3. 暗黒褐色土 ローム分若干含む。黒色土。
4. 黒褐色土 ローム分多く含み、細粒。

5. # 4層に似るがロームブロック状に含む。
6. # ローム分を凝に含む。
7. # ローム多量に含み、若干の炭化物混入し締る。
8. 黄褐色土 ローム多く含み、細粒で良く締る。
9. 暗褐色土 ロームを多く混入し、綿状に呈し、やや軟質。

0 2 m

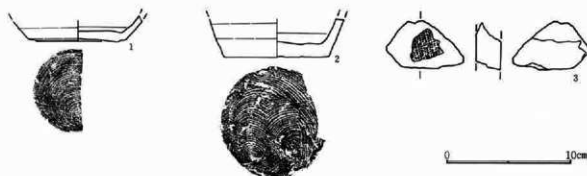
第531図 144号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 144号住居跡 (第531・532図、PL50)

調査区のかなり高い位置、U-7グリッドにおいて検出されている。東側半分は調査区外にあるため未調査である。西辺は約7.5mを測り、かなり大形の住居である。掘り込みも深く、検出した西および北の壁高は約80cmでほぼ垂直に立ち上がる。

床面は平坦であるが比較的軟質である。柱穴、貯蔵穴等は検出されず、竈も確認できなかった。出土遺物は若干の土器片が見られたにすぎない。



第532図 144号住居跡出土遺物

#### 144号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	器 高	胎 土 焼 成	色 調	成・壘形の特徴	備 考
1	須恵器 坏	+19	6.5		微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)
2	土師器 壘	+26	8.5		砂粒含む 良	淡黄褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	糸切りをやり直している
3	平 瓦	覆土			小石含む 良	淡黄褐色	布目織	小破片

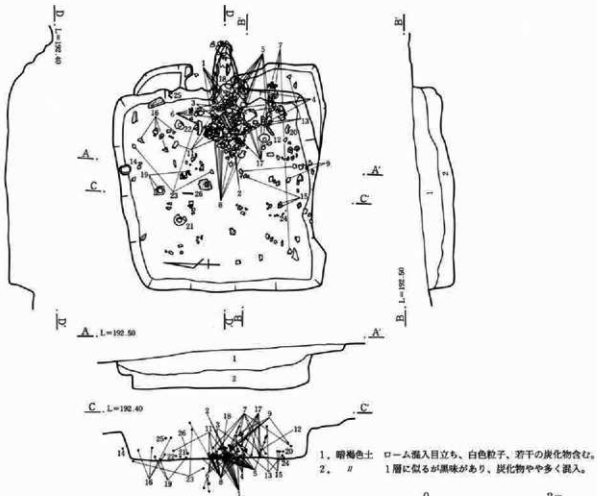
#### 145号住居跡 (第533～537図、PL50)

P-10グリッドに位置する。平面形状はほぼ方形を呈し、規模は3.5m×3.2mである。比較的遺存状態が良く、それぞれの壁高は約50cmを測る。東壁の竈両側には掘り込み面より約10cm程度低くなったテラス状の部分が見られる。

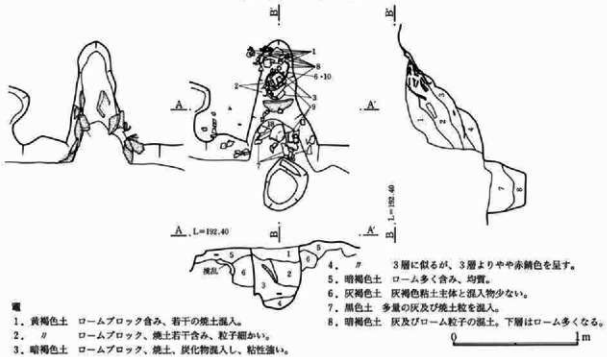
床面は平坦で比較的締まっている。竈は東壁のほぼ中央にあり、袖から燃焼部の両側に河原石が並べ立てられており、上面には石が横に渡されていた。さらに煙道の先端部分には壘が転用されており、潰れた状態で出土している。

出土遺物は、竈内部から前面にかけて、壘類を中心に潰れた状態で多く出土している。なお竈の焚口手前に径30cm、深さ30cm程の小ピットが確認されているが、性格は不明である。

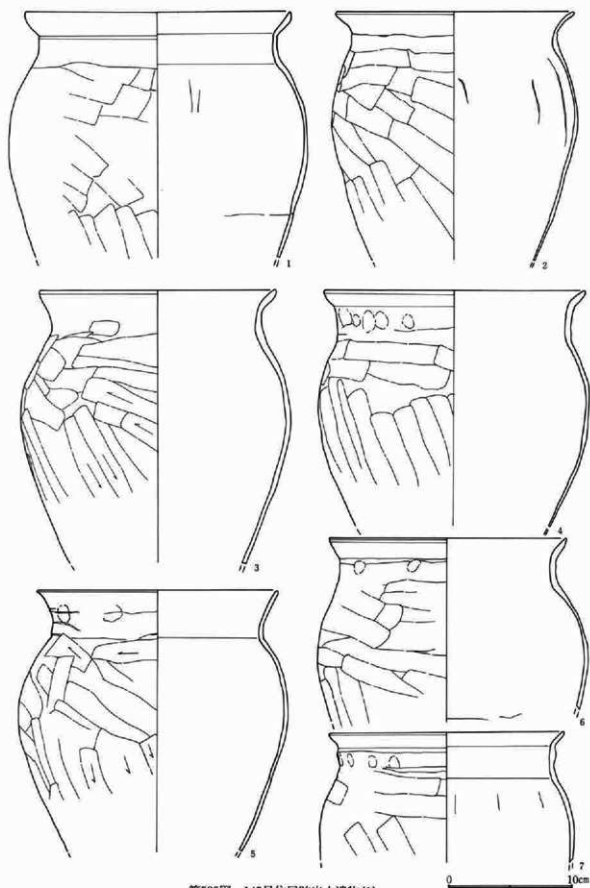
出土遺物は竈内および前面部分においてかなり集中して見られ、土師器の壘、須恵器の坏および刀子等が検出されている。



第533図 145号住居跡

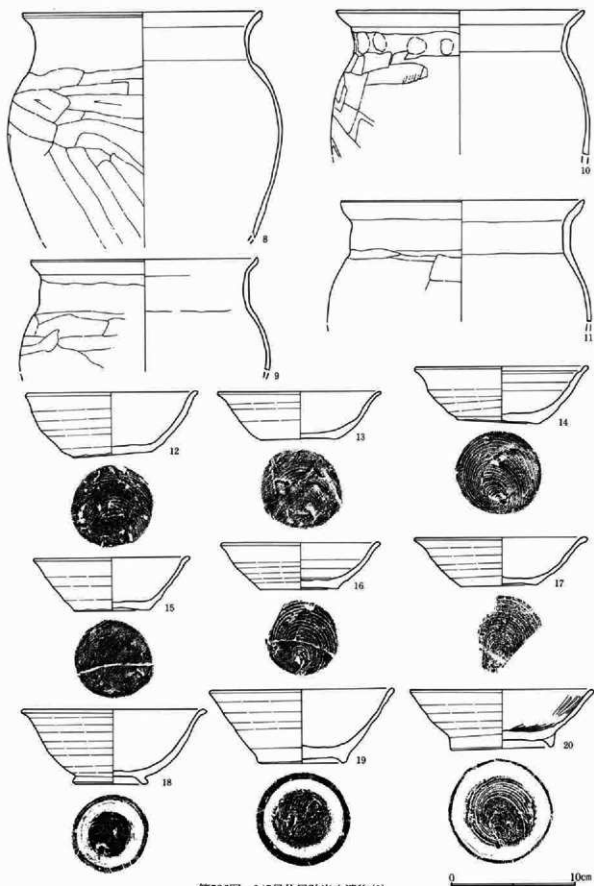


第534図 145号住居跡竈



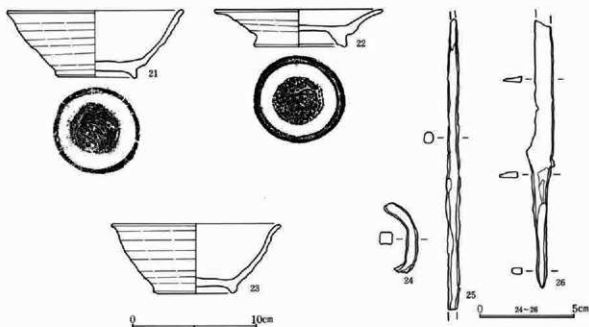
第535図 145号住居跡出土遺物(1)





第536図 145号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第537図 145号住居跡出土遺物(3)

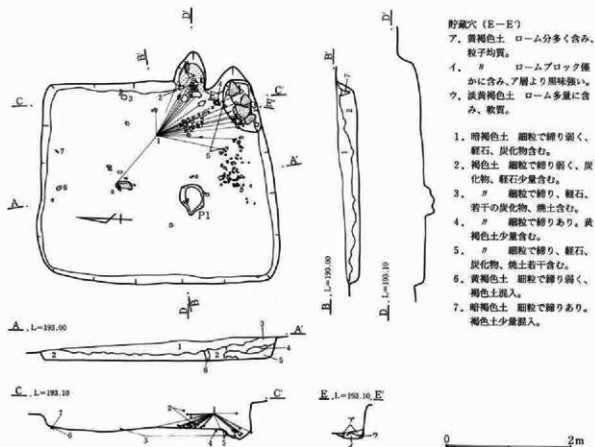
145号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土 質	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 鉢	竈	21.4		微砂粒含む 良	橙褐色	外 □縁部横線で 胴部篋削り 内 □縁部横線で 胴部篋削り	
2	土師器 鉢	竈	19.2		微砂粒含む 良	橙褐色	外 □縁部横線で 胴部篋削り 内 □縁部横線で 胴部篋削り	
3	土師器 鉢	竈	19.2		微砂粒含む 良	橙褐色	外 □縁部横線で 胴部篋削り 内 □縁部横線で 胴部篋削り	
4	土師器 鉢	竈	21.0		微砂粒含む 良	暗褐色	外 □縁部横線で 胴部篋削り 内 □縁部横線で 胴部篋削り	
5	土師器 鉢	床面	19.5		微砂粒含む 良	橙褐色	外 □縁部横線で 胴部篋削り 内 □縁部横線で 胴部篋削り	
6	土師器 鉢	床面	19.0		微砂粒含む 良	橙褐色	外 □縁部横線で 胴部篋削り 内 □縁部横線で 胴部篋削り	
7	土師器 鉢	竈	18.9		微砂粒含む 良	橙褐色	外 □縁部横線で 胴部篋削り 内 □縁部横線で 胴部篋削り	かなり火熱を受けて いる
8	土師器 鉢	竈	19.2		微砂粒含む 良	暗褐色	外 □縁部横線で 胴部篋削り 内 □縁部横線で 胴部篋削り	
9	土師器 鉢	竈	18.3		微砂粒含む 良	淡褐色	外 □縁部横線で 胴部篋削り 内 □縁部横線で 胴部篋削り	
10	土師器 鉢	竈	20.0		微砂粒含む 良	橙褐色	外 □縁部横線で 胴部篋削り 内 □縁部横線で 胴部篋削り	
11	土師器 鉢	+5	19.5		微砂粒含む 良	橙褐色	外 □縁部横線で 胴部篋削り 内 □縁部横線で 胴部篋削り	
12	須恵器 坏	+12	13.8 6.5	4.9	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	完形 焼き直みあり
13	須恵器 坏	+5	7.9 6.2	3.8	微砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
14	須恵器 坏	床面	14.0 6.7	4.3	微砂粒含む 良	黒褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	内面墨書か
15	須恵器 坏	+12	(12.8) 6.0	4.2	微砂粒含む 普通	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 後撫 で	
16	須恵器 坏	+14	12.9 6.3	3.7	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	

17	須恵器 坏	+4	14.0 6.1	3.8	微砂粒含む 普通	淡褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)		
18	須恵器 埴	甕	15.0 5.9	6.0	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台		
19	須恵器 埴	+3	(15.2) 7.2	5.8	砂礫含む 普通	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台		
20	須恵器 埴	+12	14.9 8.2	4.7	微砂粒含む 普通	淡黄褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	内面黒色処理	
21	須恵器 埴	+5	14.3 6.5	5.3	微砂粒含む 普通	灰黄褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台		
22	須恵器 皿	+6	(13.6) 7.4	2.9	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台		
23	須恵器 埴	床面	(13.6) 6.8	5.5	微砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台		
24	鉄製品	床面	釘。長さ3.5cm、幅0.6cm、厚さ0.6cm、重さ4.5g。曲がっており、端部を欠く。						
25	鉄製品	+34	釘。長さ15.2cm、径0.7cm、重さ11.0g。紡錘車の軸か。						
26	鉄製品	+8	刀子。長さ14.0cm、幅1.4cm、厚さ0.35cm、重さ10.4g。刃部先端を欠く。						

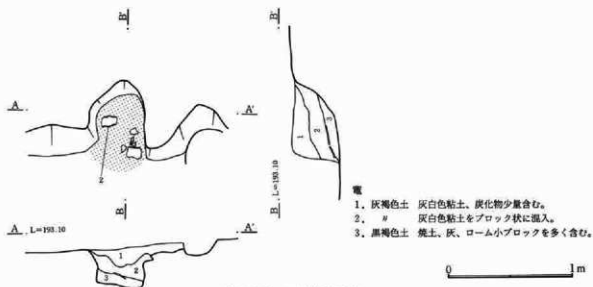
## 146号住居跡(第538~540図、PL51)

Q-11グリッドに位置する。長方形を呈し、規模は3.7m×3.2mである。上面は削られており、壁高は比較的状态の良い東壁で約20cm程である。床面は平坦で中央部分がやや締まる。貯蔵穴は南東隅に在る。甕は東壁のやや南寄りに作られているが規模は小さい。出土遺物は甕周辺より若干の土器が検出されている。

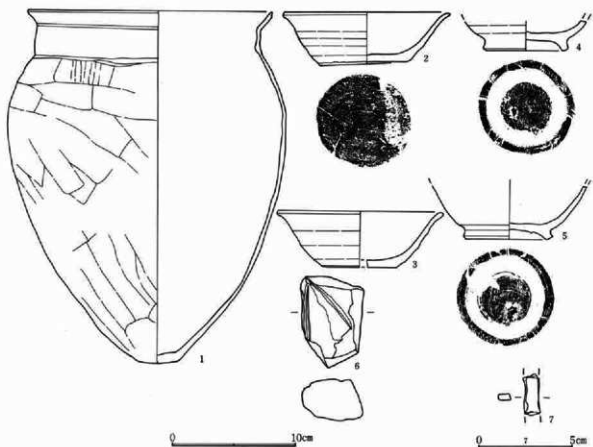


第538図 146号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第539図 146号住居跡画



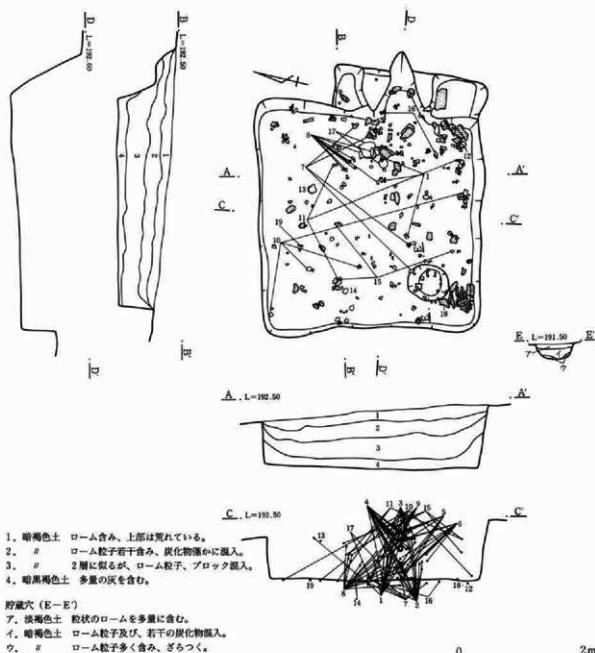
第540図 146号住居跡出土遺物

146号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	器 高 (cm)	胎 土 焼 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土器部 壺	床面	19.4	28.3	微砂粒含む 良	灰褐色	外 口縁部横溝で 胴部窪削り 内 口縁部横溝で 胴部窪削り	

第5節 奈良・平安時代の住居跡と遺物

2	須恵御 坏	+8・甍	13.5 7.1	4.1 良	微砂粒含む 黒色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り (右)		
3	須恵御 坏	+3	(13.4) (6.1)	4.4 良	微砂粒含む 黒褐色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り (右)		
4	須恵御 埴	床面	6.8	良	微砂粒含む 淡褐色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り (右) 付け高台		
5	須恵御 埴	床面	7.0	良	微砂粒含む 灰黒色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り (右) 付け高台		
6	砥石	床面	長さ7.1cm、幅5.0cm、厚さ3.3cm、重さ123g。石材は砂岩。破損品。刃研溝見られる。					
7	鉄製品	床面	刀子。長さ2.2cm、幅0.8cm、厚さ0.4cm、重さ1.6g。茎部分の破片か。					



第541図 147号住居跡

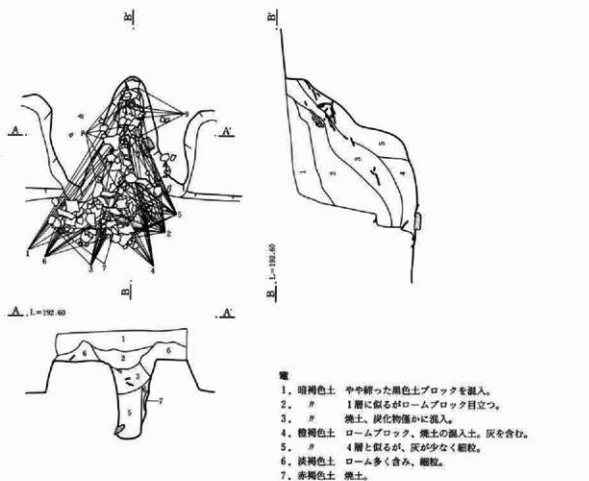
### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 147号住居跡 (第541～545図、PL51)

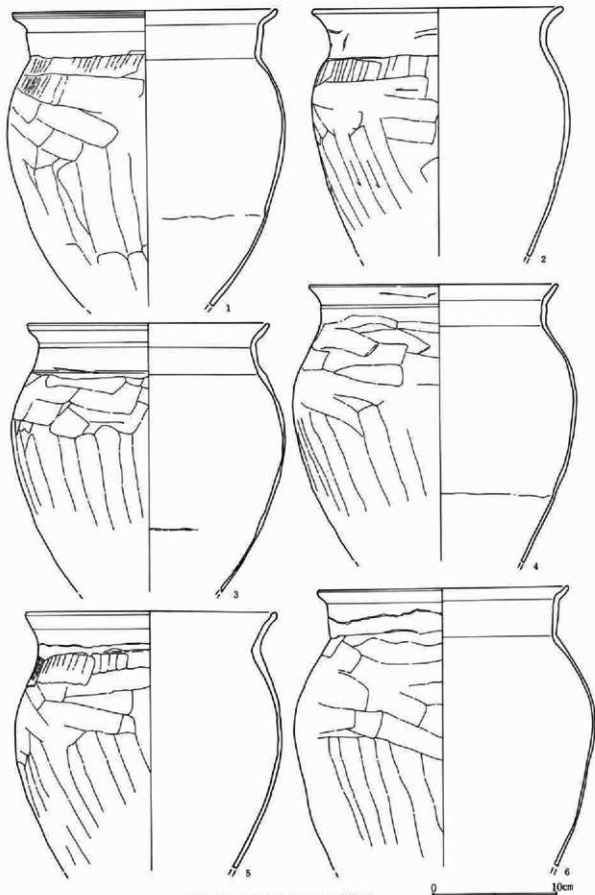
Q-11グリッドに位置する。平面形状は、ほぼ方形を呈し、規模は3.5m×3.4mである。遺存状態は良好で、掘り込みが深く、壁高も最大80cmを測り、それぞれの壁はほぼ垂直に立ち上がる。東壁の竈両側に確認面から約20cm低くなった、中段が設けられている。

床面は平坦で、中央部分がよく締まる。貯蔵穴は南東にあるが、槽鉢状を呈し浅い。竈は東壁の中央やや南寄りに作られており、地山のロームを掘り込んで作られている。燃焼部から煙道にかけてかなり急激に立ち上がっている。

出土遺物は竈の煙道部分に転用されていたと思われる土師器の甕が、潰れた状態で多く検出されている。その他須恵器の埴、坏および鉄製品が検出されている。

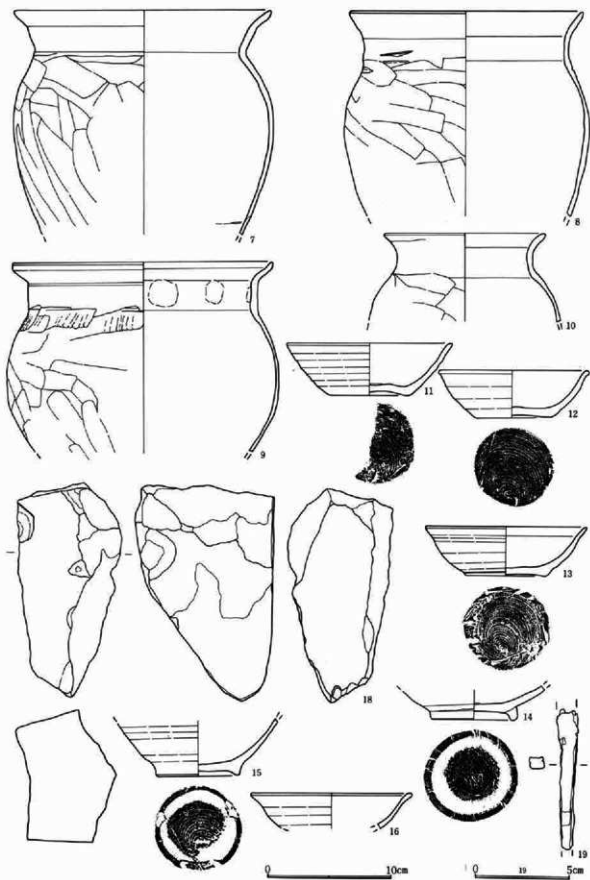


第542図 147号住居跡竈



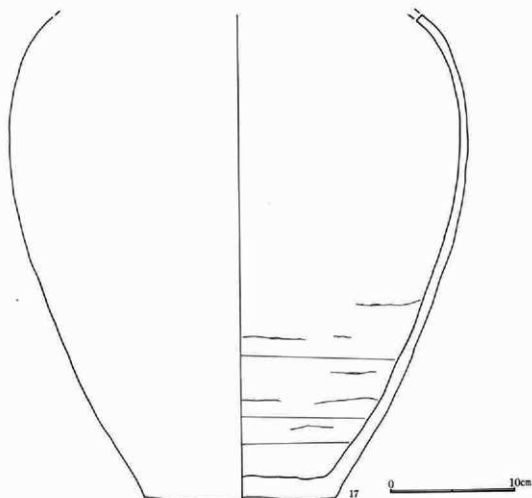
第543図 147号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第544図 147号住居跡出土遺物(2)





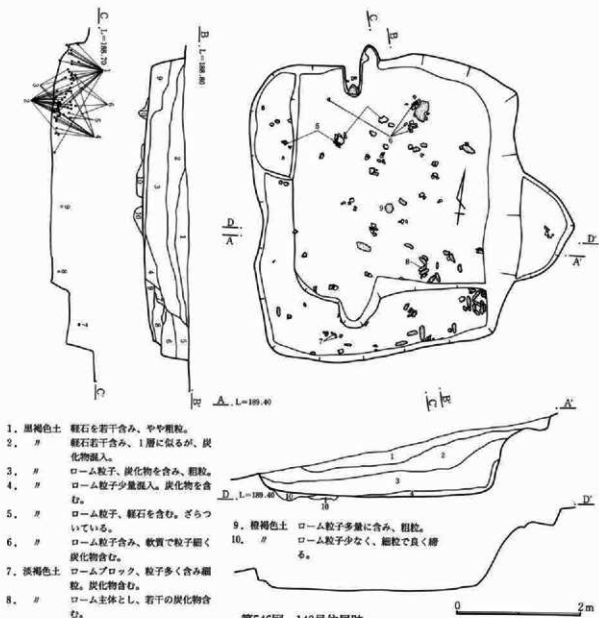
第545図 147号住居跡出土遺物(3)

147号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 径径 (cm)	器高	胎土 成	色調	成・整形の特徴	備考	
1	土師器 甕	+30・電	21.4		微砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部荒削り 胴部荒撫で	
2	土師器 甕	+4・電	19.7		微砂粒含む 良	茶褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部荒削り 胴部荒撫で	
3	土師器 甕	+5・電	19.2		微砂粒含む 良	茶褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部荒削り 胴部荒撫で	
4	土師器 甕	+3・電	19.6		微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部荒削り 胴部荒撫で	
5	土師器 甕	+2・電	20.3		微砂粒含む 良	茶褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部荒削り 胴部荒撫で	
6	土師器 甕	+28・電	20.3		微砂粒含む 良	茶褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部荒削り 胴部荒撫で	
7	土師器 甕	床面	20.6		微砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部荒削り 胴部荒撫で	
8	土師器 甕	+26・電	18.8		微砂粒含む 良	茶褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部荒削り 胴部荒撫で	
9	土師器 甕	+63・電	20.9		微砂粒含む 良	茶褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部荒削り 胴部荒撫で	
10	土師器 甕	床面	13.0		微砂粒含む 良	黒褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	胴部荒削り 胴部荒撫で	
11	須恵器 坏	床面	(13.3)	4.1	微砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り (右)		

第3章 検出された遺構と遺物

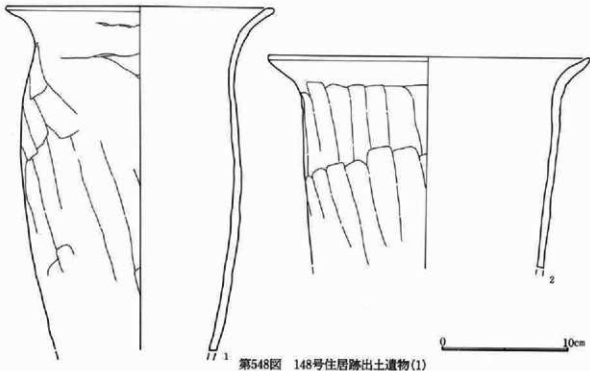
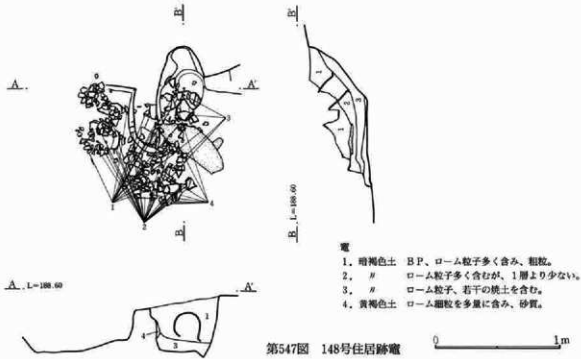
12	須恵器 坏	床面	(12.2) 6.1	3.8	微砂粒含む 良	灰黄色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)		
13	須恵器 坏	+60	13.2 6.4	3.9	微砂粒含む 良	黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)		
14	須恵器 埴	床面		6.8	微砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り(右)	
15	須恵器 埴	+42		6.8	砂粒含む 良	橙褐色	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り(右)	
16	須恵器 坏	床面	(13.1)		微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	器面やや荒れている	
17	須恵器 甕	+13		15.3	砂粒含む 良	灰色	紐作り	内外両面	
18	砥石	床面	長さ16.8cm、幅11.3cm、厚さ8.8cm、重さ1234g。石材は平伏砂岩。大型の礫を利用、使用面は傾斜を持つ。						
19	鉄製品	床面	刀子。長さ7.2cm、幅1.0cm、厚さ0.7cm、重さ10.9g。厚みのある基部分で、刃部を欠く。						

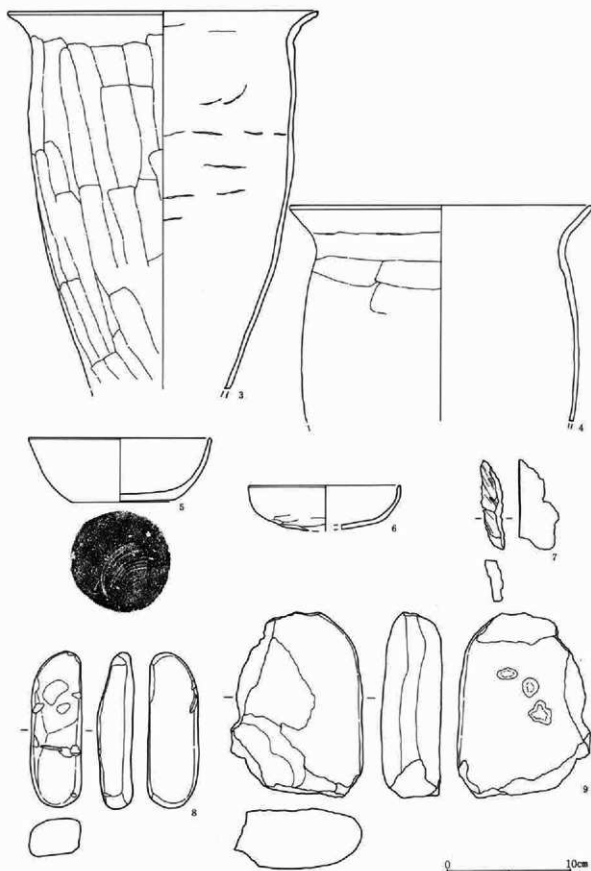


第546図 148号住居跡

148号住居跡 (第546~549図、PL51・52)

P-13グリッドに位置する。西斜面にあるために、東壁は70cm以上の高さがあるが、西側半分はほぼ削られている。壁高も10cm以下である。床面は調査時点では確認が困難であった。西側は1段高まった部分があり、他の遺構が重複している可能性も考えたが、確認できず、最終的には1軒として処理をした。竈は北壁に在り、袖部はローム混じりの粘土で作られ、住居内に張り出す。袖石と天井部の石が崩れた状態で検出された。焼土、炭化物の出土は少ない。遺物は竈内に倒立した壺が出土している他、壺、坏類が見られる。





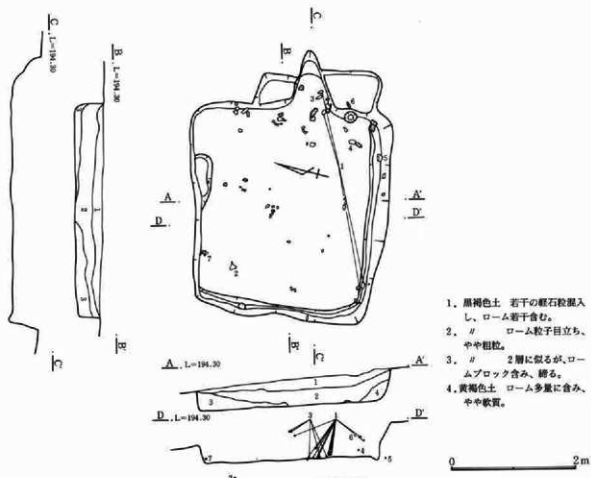
第549図 148号住居跡出土遺物(2)

148号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	高 度 (cm)	胎 土 焼 成 色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 甕	貯蔵穴	21.2		微砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横溝で 胴部隆起り 内 口縁部横溝で 胴部隆起り	
2	土師器 甕	+2	26.0		砂粒含む 淡黄褐色 良	外 口縁部横溝で 胴部隆起り 内 口縁部横溝で 胴部隆起り	火熱を受けている
3	土師器 甕	貯蔵穴	24.5		微砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横溝で 胴部隆起り 内 口縁部横溝で 胴部隆起り	
4	土師器 甕	+7	24.4		微砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横溝で 胴部隆起り 内 口縁部横溝で 胴部隆起り	
5	土師器 坏	+25	14.8 8.2	5.0	微砂粒含む 黄褐色 良	口縁部横溝で 胴部隆起り 内 口縁部横溝で 胴部隆起り	口縁部横溝で 胴部隆起り 内 口縁部横溝で 胴部隆起り
6	土師器 坏	+22	12.3	3.6	微砂粒含む 黄褐色 良	外 口縁部横溝で 胴部隆起り 内 口縁部横溝で 胴部隆起り	口縁部横溝で 胴部隆起り 内 口縁部横溝で 胴部隆起り
7	砥石	覆土	長さ6.1cm, 幅1.8cm, 厚さ3.2cm, 重さ26g.			石材は砥沢石。破損品。一部に平坦な使用面が残る。	
8	砥石	+10	長さ12.3cm, 幅2.8cm, 厚さ4.0cm, 重さ175g.			石材は牛伏砂岩。棒状の轆を利用。	
9	白石	+17	長さ14.6cm, 幅10.6cm, 厚さ4.8cm, 重さ1123g.			石材は粗粒安山岩。やや扁平な轆を利用。両面平滑で打痕見られる。	

## 149号住居跡 (第550～552図, PL52)

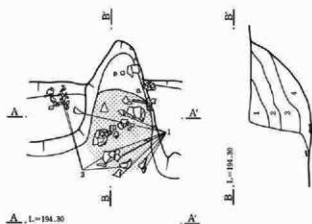
R-10グリッドに位置する。169号住居跡の東部分に重複する。長方形で規模は3.4m×3.1mである。壁は50cm程の高さがあり、東壁には竈両脇に中段が見られる。床面は平坦でしっかりしている。周溝が南、西壁



第550図 149号住居跡

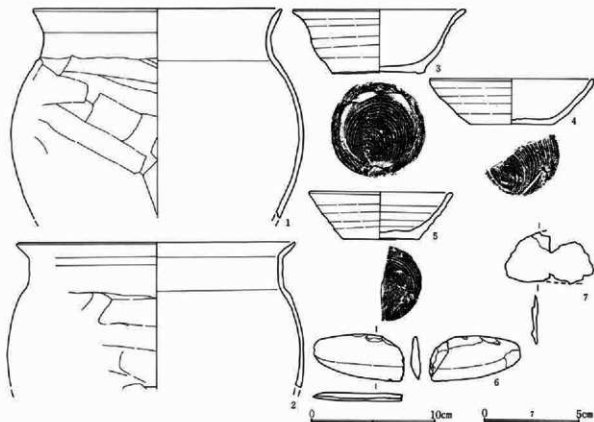
第3章 検出された遺構と遺物

下にある。竈は東壁に在り、燃焼部分が壁外に馬蹄形に掘り出されている。出土遺物はあまり多くはない。



- 竈
1. 暗褐色土 細粒で粘質。黒褐色土小塊斑に含む。
  2. 褐色土 細粒で粘質。焼土塊を多く含む。
  3. 明褐色土 細粒で粘質。綿り弱く焼土小塊少量含む。
  4. 暗赤褐色土 細粒。粘質。焼土を多量に含む。
  5. 褐色土 ローム分含み。やや軟質。

第551図 149号住居跡竈



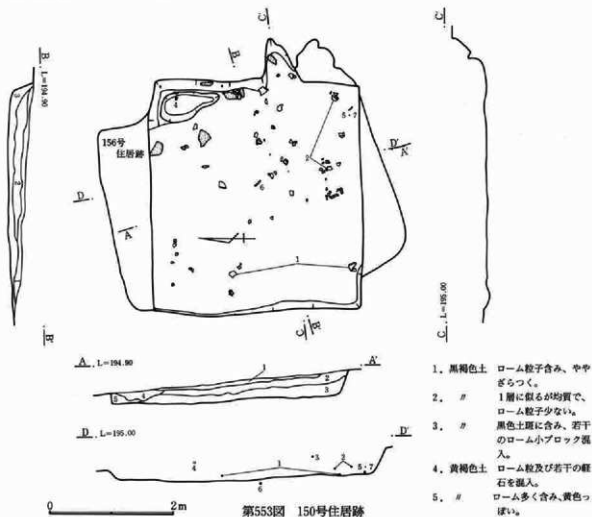
第552図 149号住居跡出土遺物

149号住居跡出土遺物観察表

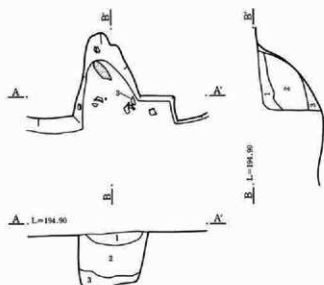
図番号	図種	出土位置 (cm)	口 径 径 (cm)	器 高 (cm)	胎土 成 色 調	成・整形の特徴	備考	
1	土師器 壺	床面	20.0		微砂粒含む 茶褐色 良	外口縁部横線で 胴部寛削り 内口縁部横線で 胴部狭削り		
2	土師器 壺	床面	(22.4)		微砂粒含む 橙褐色 良	外口縁部横線で 胴部寛削り 内口縁部横線で 胴部狭削り	表面に炭化物付着	
3	須恵器 埴	床面	14.0	5.9	砂粒含む 灰黒色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	完形	
4	須恵器 埴	+11	13.4	3.6	砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)		
5	須恵器 埴	床面	(11.6)	3.7	砂粒含む 灰黒色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)		
6	石 刃	+34	長さ7.0cm、幅3.5cm、厚さ0.8cm、重さ24g。石材は安山岩。端部を欠く。一面に弱い自然の稜を持つ。片側縁は刃部状に磨られ、使用痕顕著。					
7	鉄製品	+7	鏢。長さ4.7cm、幅2.6cm、厚さ0.3cm、重さ4.2g。先端部片。					

## 150号住居跡 (第553~555図、PL52)

S-10グリッドに位置する。156号住居跡の東に重複している。東壁は残るが他の壁は確認できなかった。床面は平坦でしっかりしているが、156号住居の床面とほぼ同レベルである。竈はV字状に壁外に張り出しており、規模は小さい。出土遺物は少ない。



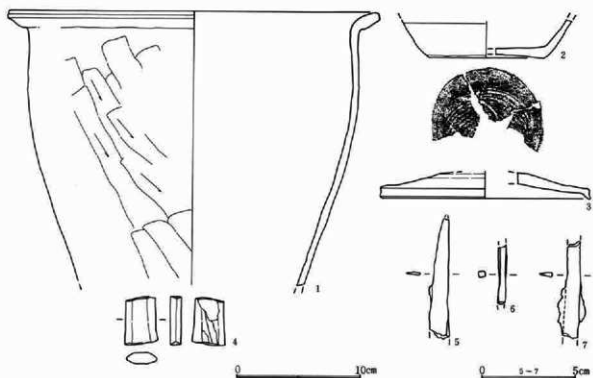
第3章 検出された遺構と遺物



圖

1. 黒褐色土 ローム分多く含み、均質である。
2. # ローム粒子多く含み、若干の炭化物混入。
3. 暗黒褐色土 多量の炭化物及び焼土を含む。粘性土。

第554図 150号住居跡竈



第555図 150号住居跡出土遺物

150号住居跡出土遺物観察表

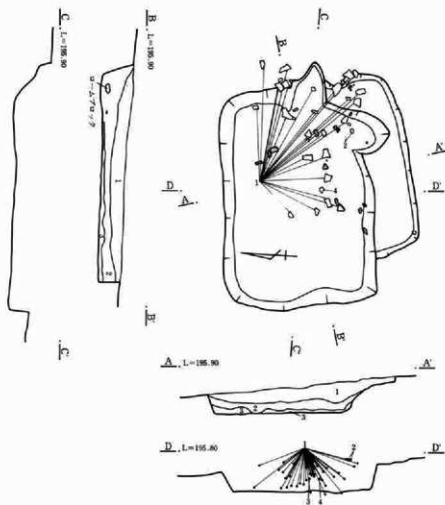
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	器 高	胎 土 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 甕	+2	30.0		砂粒含む 良	黒褐色	外 口縁部横溝で 胴部削り 内 口縁部横溝で 胴部削り	土蓋か
2	須恵器 坏	+12	(9.2)		砂粒含む 良	白色	ログロ成形 底部回転糸切り後周切部削り	
3	須恵器 甕		(17.6)		砂粒含む 良	白色	ログロ成形 外面天井部削り	



4	磁石	+30	長さ3.6cm、幅2.7cm、厚さ0.9cm、重さ13g、石材は牛伏砂岩。両端部を欠く。偏平な棒状を呈し、断面紡錘状。
5	鉄製品	+3	刀子。長さ6.3cm、幅1.3cm、厚さ0.2cm、重さ4.0g、刃部。
6	鉄製品	床面	釘。長さ3.6cm、幅0.5cm、厚さ0.4cm、重さ1.9g、両端部を欠く。
7	鉄製品	+3	刀子。長さ4.9cm、幅1.0cm、厚さ0.3cm、重さ6.4g、刃部片。

## 151号住居跡 (第556～559図、PL52・53)

T-10グリッドに位置する。方形を呈し、規模は3.5m×2.4mである。小形の住居である。壁高は最大40cmを測る。南側に他の遺構が重複している可能性があったが、確認できなかった。床面は平坦でやや締まる。竈は東壁にあり燃焼部は馬蹄形に掘り出されている。軸は確認できなかった。遺物は比較的少ない。

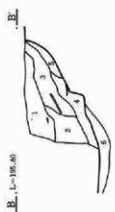
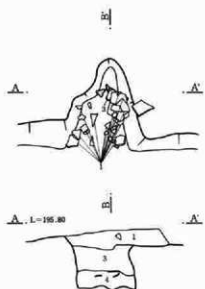


1. 黒褐色土 ごく少量の炭化物含む。
2. # 上層に似るが、炭化物少ない、粘性を持つ。
3. # ロームブロック目立ち、粘性持つ。

第556図 151号住居跡

0 2m

第3章 検出された遺構と遺物

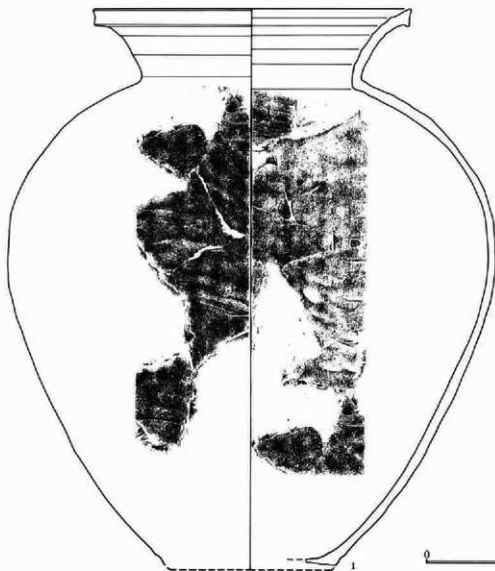


竪

1. 暗褐色土 ローム小ブロックを礎に含み、均質である。
2. B ローム含み、やや粘性を持つ。
3. 黄褐色土 ロームを多量に含み、若干の炭土含む。
4. 赤茶褐色土 粘土、灰を多量に含む。
5. 淡褐色土 ローム主体とし混入物少ない。細粒。
6. 黒褐色土 若干の炭化物、焼土を混入し、細粒。

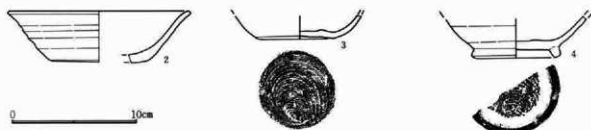
第557図 151号住居跡竪

0 1m



第558図 151号住居跡出土遺物(1)

0 10cm



第559図 151号住居跡出土遺物(2)

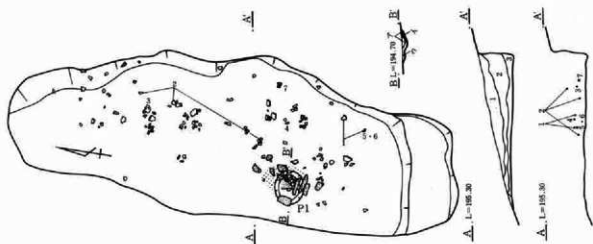
151号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	器 高 (cm)	胎土 焼 色 調	成・整形の特徴	備 考
1	須恵器 甕	床面	33.6		砂粒含む 灰色	口縁部横線で、内外面線で調整	
2	須恵器 環	+45	(14.3) (7.6)	4.0	微砂粒含む 良 良	ロクロ成形 底部回転糸切り	
3	須恵器 環	+22・電		6.0	砂粒含む 茶褐色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	酸化焙焼成
4	須恵器 壺	+20		(6.9)	微砂粒含む 黒色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	

152号住居跡 (第560・561図、PL53)

T-10グリッドに位置する。かなり傾斜のきつい西斜面に作られているために、西側半分以上が欠失している。形状が不明瞭で、比較的残りの良い東でも、直線的ではない。壁高が確認できたのも東壁のみで、高さはおよそ30cmを測る。床面はやや西に傾斜しており、軟質である。電は検出されなかった。

出土遺物は破片類が中心である。

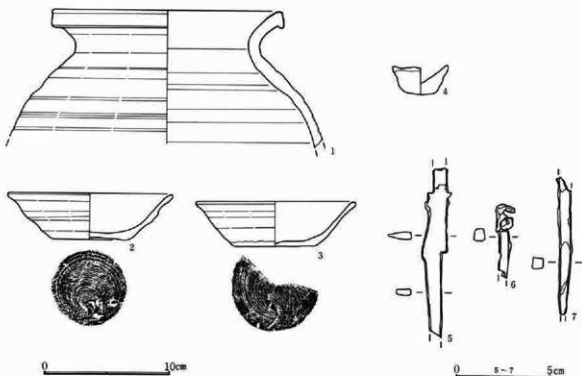


1. 黒褐色土 やや軟質で細粒。
2. 暗褐色土 ローム分含み、ごく少量の炭化粒子混入。
3. # ロームブロック多く含み若干の焼土、炭化粒混入。

柱穴 (P1)  
ア、赤褐色土 焼土含むが、やや黒っぽい。  
イ、橙褐色土 焼土塊。  
ウ、黄褐色土 ローム主体とし、ざらつく。

第560図 152号住居跡

### 第3章 検出された遺構と遺物



第561図 152号住居跡出土遺物

152号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径径 (cm)	径器 高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	須恵器 壺	+16	(18.0)		砂粒含む 良	淡黄褐色	ロクロ成形	
2	須恵器 杯	+14	13.2 6.0	3.6	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
3	須恵器 杯	+14	12.6 6.4	3.5	微砂粒含む 良	黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	内外面黒色処理
4	手捏ね 土器	+17	4.4	2.3	微砂粒含む 良	淡黄褐色	外面指撫で	丸味を持つ底面片
5	鉄製品	+81					刀子。長さ8.8cm、幅1.3cm、厚さ0.6cm、重さ7.9g。両端部を欠く。	
6	鉄製品	+81					釘?。長さ3.9cm、幅0.6cm、厚さ0.5cm、重さ2.3g。先端部を欠く。	
7	鉄製品	+10					釘。長さ7.2cm、幅0.6cm、厚さ0.6cm、重さ7.8g。両端部を欠いている。	

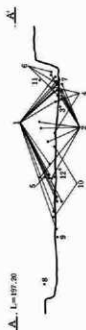
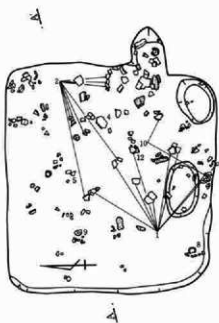
#### 154号住居跡 (第562~565図、PL53)

U-9グリッドに位置する。155号住居跡、167号住居跡を切る。167号住居跡の中にほぼ入ってしまう形で、確認時も重複と判断できず並行して掘ってしまった。

床面はやや凹凸を持つがかなりしっかりしている。貯蔵穴は南東隅にあり掘り込みは浅い。その西側にも小穴があるが性格は不明。

竈は調査時点でやや崩してしまった部分もあったが、遺存状態はあまり良くない。袖に用いられていた石が確認されている。若干の焼土が検出されている。

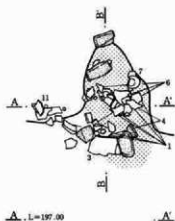
出土遺物は壺、杯類の破片が多い。



1. 黒色土 若干のロームブロック含み、細粒。
2. 黒褐色土 ローム分やや多く含み、少量の炭化物混入。

第562図 154号住居跡

0 2m

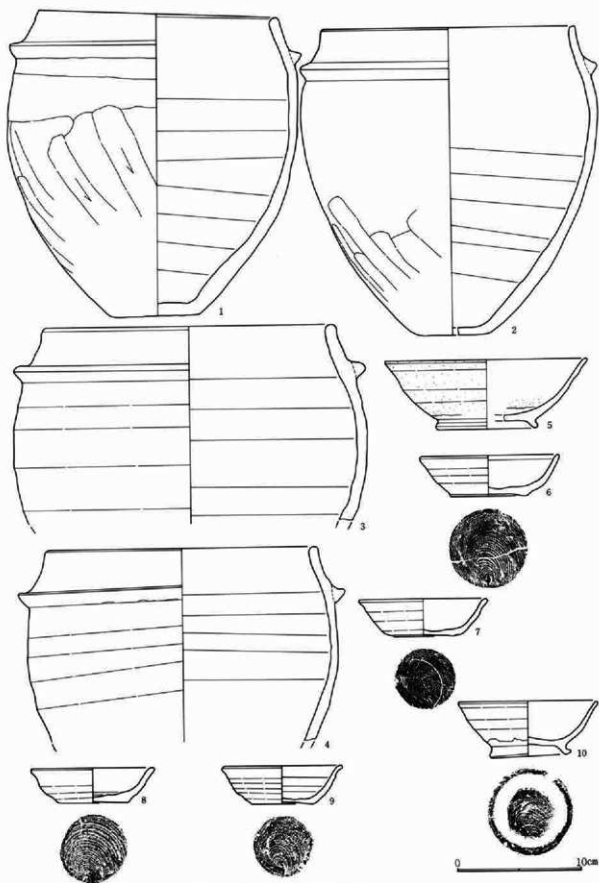


■

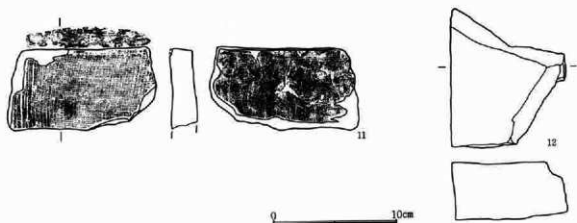
1. 黒褐色土 若干の灰と焼土粒子含む。
2. 赤褐色土 焼土多く含む、若干の粘土粒を含む。
3. # 焼土塊を含む、焼土層。
4. 灰黒色土 黒色の灰を主体とする。
5. 暗褐色土 ローム多く含む、粒子均質。

0 1m

第563図 154号住居跡電



第564図 154号住居跡出土遺物(1)



第565図 154号住居跡出土遺物(2)

154号住居跡出土遺物観察表

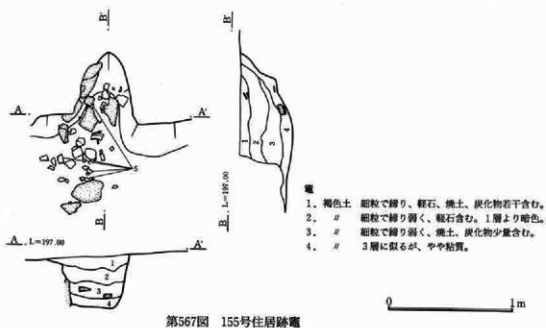
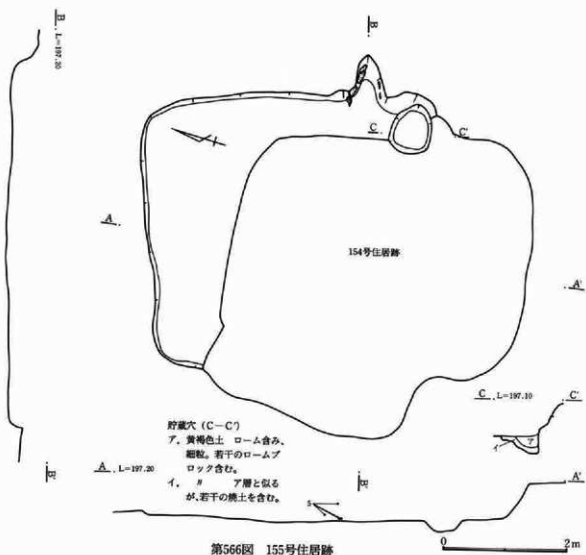
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	径 深 (cm)	高 (cm)	胎土 質	色調	成・整形の特徴	備考
1	須恵器 羽蓋	床面	19.3	23.7		砂粒含む 良	淡褐色	ロクロ成形 外面側下半部削り	
2	羽蓋	床面	20.0 (5.8)	24.6		砂粒含む 良	淡褐色	ロクロ成形 外面側下半部削り	
3	羽蓋	甕	(23.1)			微砂粒含む 良	灰黄褐色	ロクロ成形	
4	須恵器 羽蓋	甕		22.0		砂粒含む 良	淡褐色	ロクロ成形 外面側下半部削り	
5	灰 軸 塊	+19	(16.0)	5.5		夾雑物少な い 良	青灰色	ロクロ成形 付け高台	刷毛塗り
6	須恵器 坏	甕	(11.0) 6.2	3.2		砂粒含む 良	淡黄褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	酸化焙焼成
7	須恵器 坏	甕	10.0 5.0	2.9		微砂粒含む 良	淡黄褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	灯明皿 酸化焙焼成
8	須恵器 坏	+19	9.8 5.5	3.7		微砂粒含む 良	淡黄褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	灯明皿 酸化焙焼成 やや歪む
9	須恵器 坏	床面	(9.5) 4.8	3.0		微砂粒含む 良	淡黄褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	酸化焙焼成
10	須恵器 塊	+2	11.0 6.4	4.3		砂粒含む 良	赤褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
11	瓦	+28	長さ8.0 厚さ1.2	幅4.0		砂粒含む 良	灰黑色	布目	
12	台石	床面	長さ10.9cm、幅9.3cm、厚さ4.5cm、重さ453g。			石材は砂岩。破片。			

## 155号住居跡 (第566～568図、PL53)

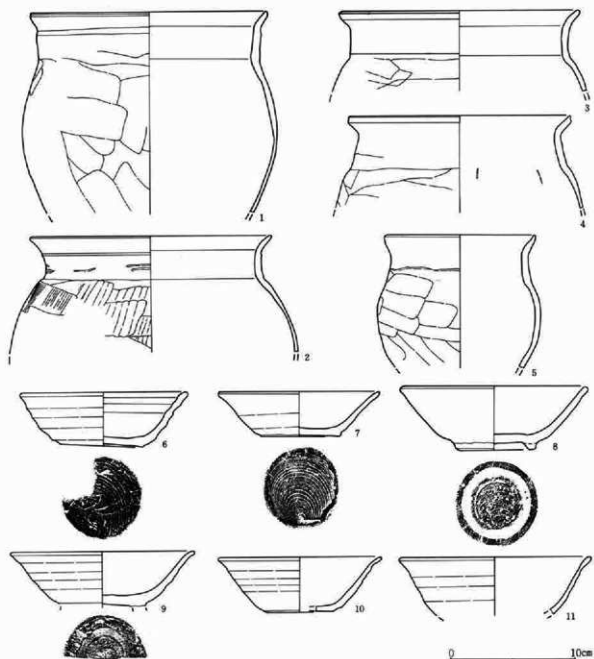
U-9グリッドに位置する。155・167号住居跡に南側を大きく切られている。壁高は甕のある東壁で20cmを測るが、北壁は数cm以下である。

床面は北部分を残すのみであるが、比較的平坦である。甕は焚口部分に石が据えられ、煙道部分はV字状に壁外に張り出す。

出土遺物は甕、坏類である。







第568図 155号住居跡出土遺物

155号住居跡出土遺物観察表

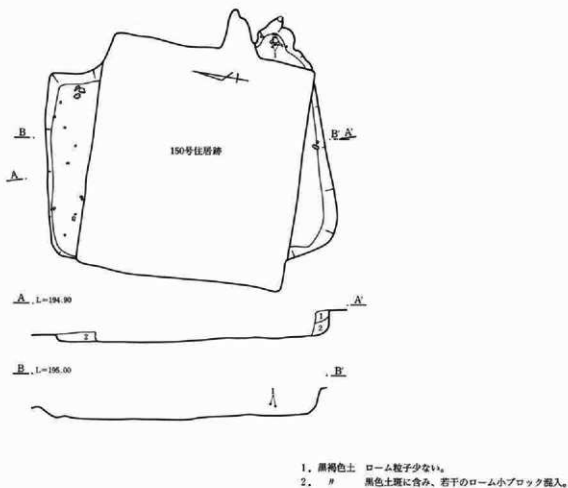
図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径(cm)	器高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	覆土	19.0		微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 胴部縦割り 内 口縁部横線で 胴部縦線で	
2	土師器 甕	覆土	19.4		微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 胴部縦割り 内 口縁部横線で 胴部縦線で	
3	土師器 甕	覆土	19.3		微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 胴部縦割り 内 口縁部横線で 胴部縦線で	
4	土師器 甕	覆土	17.4		微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 胴部縦割り 内 口縁部横線で 胴部縦線で	
5	土師器 甕	+3・竈	12.2		微砂粒含む 良	暗褐色	外 口縁部横線で 胴部縦割り 内 口縁部横線で 胴部縦線で	

### 第3章 検出された遺構と遺物

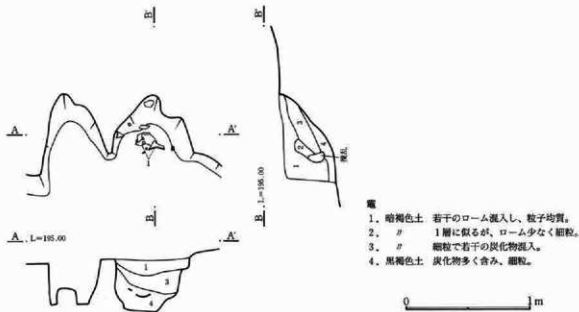
6	須恵器 坏	覆土	(13.0) 6.4	4.2	微砂粒含む 良	灰褐色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	
7	須恵器 坏	覆土	(12.8) 6.4	3.5	微砂粒含む 良	淡褐色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	酸化焙焼成
8	須恵器 埴	覆土	(14.7) 6.2	5.0	砂粒含む 良	黄褐色	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り(右)	酸化焙焼成
9	須恵器 埴	覆土	(14.6)		微砂粒含む 良	黒色	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り(右)	高台欠
10	須恵器 坏	覆土	(13.0) (5.6)	4.3	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	
11	須恵器 埴	覆土	(15.1)		微砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形		

#### 156号住居跡 (第569～571図、PL53)

S-10グリッドに位置する。150号住居跡が重複する。長方形を呈し、規模は4.4m×2.9mである。壁高は東壁が約20cmであるが、そのほかは状態が悪い。床面は平坦であるが、締りはない。竈は壁外にやや張り出す形で、規模は小さい。遺物の出土は少ない。

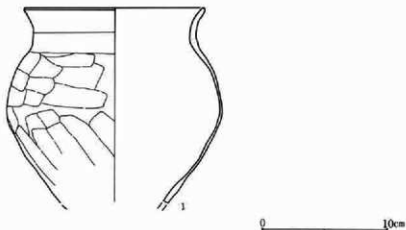


第569図 156号住居跡



- 電
1. 暗褐色土 若干のローム混入し、粒子均質。
  2. # 1層に似るが、ローム少なく細粒。
  3. # 細粒で若干の炭化物混入。
  4. 黒褐色土 炭化物多く含む、細粒。

第570図 156号住居跡電



第571図 156号住居跡出土遺物

156号住居跡出土遺物観察表

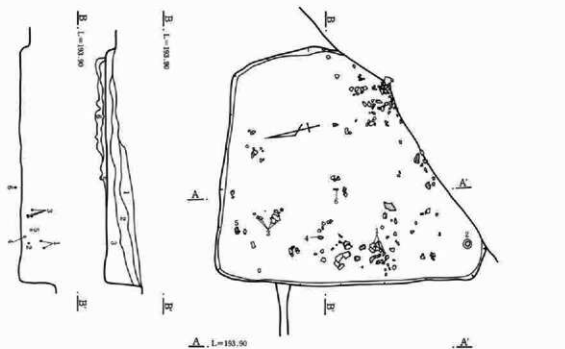
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 器 高 底径 (cm)	胎 土 色 調 焼 成	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 壺		14.6	微砂粒含む 黒褐色 良	外 口縁部横無で 胴部絞り 内 口縁部横無で 胴部直造で	外面塗付着 内面割離

157号住居跡 (第572・573図、PL53)

T-6 グリッドに位置する。南東コーナー部分は調査区外である。東傾斜面にあるために、東側がかなり削られている。西側部分で、114・116号住居跡と重複する。壁高は西側で約70cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は平坦で比較的しっかりしている。竈および、貯蔵穴は調査区外にあるものと思われる。柱穴は検出されない。

出土遺物は住居の西部で若干出土しているが、いずれも床面より浮いたものが多い。

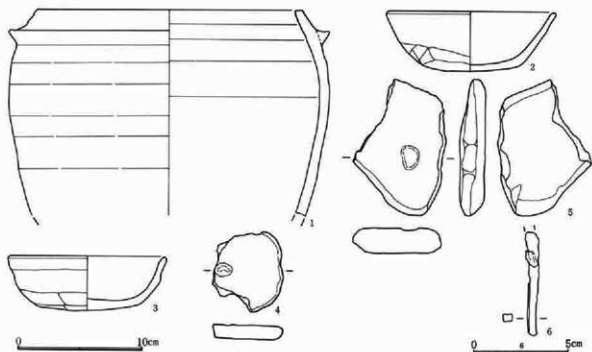
第3章 検出された遺構と遺物



1. 暗褐色土 汚れたローム分を混入。
2. # 1層と近似するが、若干のローム粒子目立つ。
3. # ロームブロック、ローム粒子含み、粘性がある。
4. # ローム多く含み、粒子均質。
5. # ローム粒子（BP）を多く混入し、固く締る。
6. 黄褐色土 ローム粒子少なく、若干の炭化物混入し軟質。

第572図 157号住居跡

0 2m



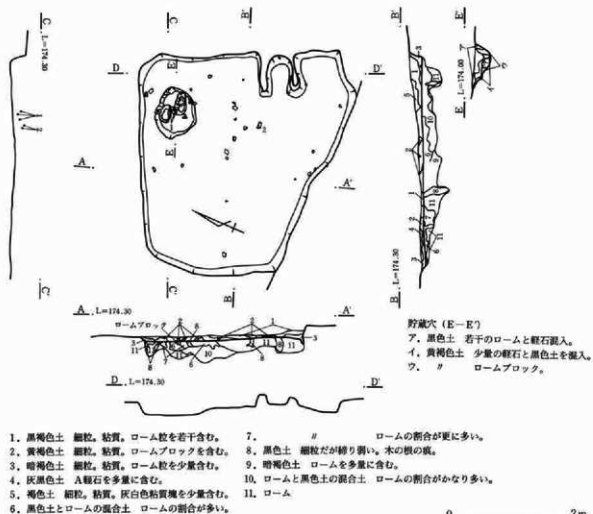
第573図 157号住居跡出土遺物

157号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	須恵器 羽釜	+30	(20.9)		砂粒含む 良	灰褐色	ロクロ成形	
2	土師器 坏	+10	6.6 7.5	4.7	微砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横溝で 体部削削り 内 口縁部横溝で 体部削削り	完形
3	土師器 坏	+10	12.5 7.4	4.3	微砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部横溝で 体部削削り 内 口縁部横溝で 体部削削り	
4	磁石	+6	長さ5.2cm、幅5.5cm、厚さ1.1cm、重さ54g。石材は牛伏砂岩。偏平な體を利用。両面を使用。					
5	石器	+16	長さ10.2cm、幅7.2cm、厚さ2.0cm、重さ160g。石材は牛伏砂岩。偏平な體を利用。両面を使用。一部に断痕。					
6	鉄製品	床面	釘。長さ5.5cm、幅0.7cm、厚さ0.4cm、重さ3.0g。両端部を欠く。					

160号住居跡 (第574～576図、PL54)

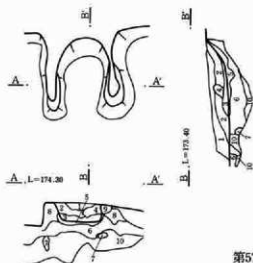
F-25グリッドに位置する。南西部は道路下にあるために未調査である。かなり削平が及んでおり、遺存状態は悪い。形状は方形を呈し、規模は3.5m×3.3mである。壁高は最大20cmである。床面は比較的締まっており平坦である。竈は袖が住居内に作られ、壁外への掘り出しはほとんどない。出土遺物は少ない。



第574図 160号住居跡

0 2m

第3章 検出された遺構と遺物



第575図 160号住居跡竈

0 1 m

- 竈
1. 暗褐色土 細粒。粘質。焼土塊を多く含む。
  2. 褐色土 細粒。粘質で固く締る。灰白色粘土塊多く含む。
  3. 暗赤褐色土 焼土塊を多く含む。粗粒で締り弱い。
  4. 灰褐色土 細粒。締り強い。A軽石を多く含む。
  5. 暗赤褐色土 焼土を多量に含む。粘質。
  6. 黒褐色土 ロームブロックを含み、細粒で締り強い。
  7. 黒色土 細粒だが柔らかい。
  8. 黒褐色土 灰白色粘土塊を含み、固い。
  9. 黒色土 A軽石を含む。擾乱土。
  10. ロームと黒色土の混合土



第576図 160号住居跡出土遺物

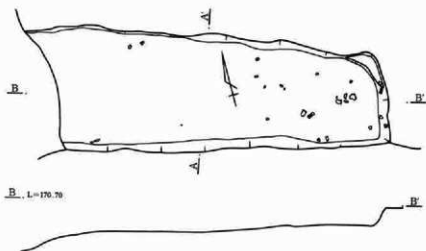
0 10 cm

160号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 底径 (cm)	径	高	胎土 焼	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 壺	+9	16.9			硬砂粒含む 良	茶褐色	外 口縁部横溝で 胴部底削り 内 口縁部横溝で 胴部底削り	口縁部片
2	須恵器 埴	+15	(15.0) (6.8)	5.1		砂粒含む 良	灰褐色	ロクロ成形 底部回転未切り(右) 付け高台	

161号住居跡 (第577図、PL54)

F-29グリッドに位置する。南側半分は道路の下に懸かる。削平が著しく、壁は東部分が約20cmを測るが、他は計測できない。床面は堅い面が部分的に見られた。竈、貯蔵穴、等は検出されなかった。遺物は少ない。



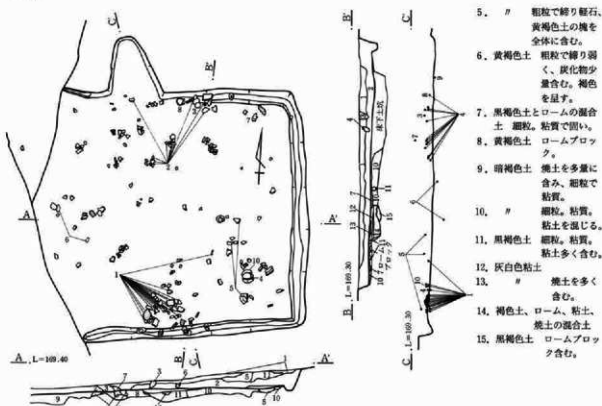
第577図 161号住居跡

1. 褐色土 細粒だが締りなし。ローム小ブロック含む。
2. 黒褐色土 細粒。粘質。締り弱い。
3. 褐色土 粗粒であまり締りなし。ロームブロックを含む。
4. 黒色土 細粒。粘質で固い。
5. 黒褐色とロームの混合土 粘質で固い。

0 2 m

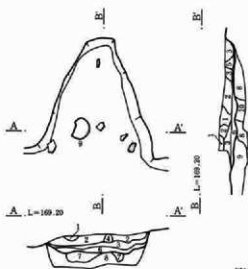
162号住居跡 (第578~580図、PL54)

E-30グリッドに位置する。西側1部が道路に掛かる。壁は最大約20cmを測るが、南側はわずかである。床面は平坦でかなりしっかりした面が確認された。竈は北壁の中央部にある。壁外に馬蹄形に掘り出され、袖は見られない。出土遺物は環期が若干見られた。竈の右勝手前に径80cm程の床下土坑が2カ所検出されている。



1. 暗褐色土 細粒で締り弱く粘質。黄褐色土、炭化物若干含む。
2. 褐色土 粗粒で締り焼土粒、炭化物、B Pを少量含む。
3. 黒褐色土 細粒でやや締りあり。粘質。
4. 褐色土 細粒で締り強く粘質。軽石、黄褐色土少量混入。

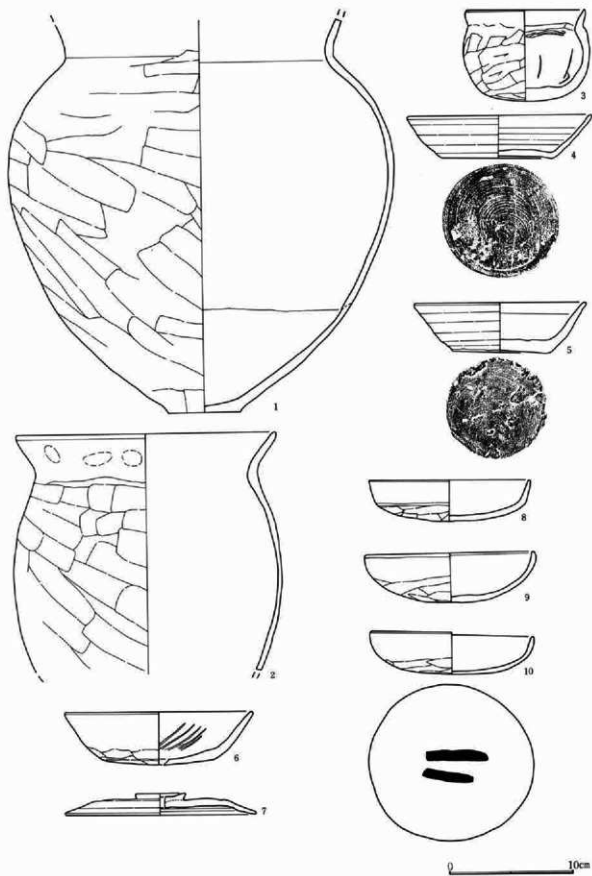
第578図 162号住居跡



竈

1. 褐色土 粗粒でやや締り弱く、焼土、B Pを全体に含む。
2. # やや細粒でやや締りあり。焼土粒を少量含む。
3. # やや粗粒で締り弱く、粘質。B Pを少量含む。
4. 暗褐色土 やや細粒で締りあり。B Pを若干含む。
5. 黄褐色土 粗粒で締り弱く、B Pを全体に多く含む。
6. 暗赤褐色土 焼土塊を多分に含み、粗粒で締り弱い。
7. 黄白色粘土と黒褐色土の混合土 焼土小塊を少量含む。
8. ローム、黒褐色土の混合土 全体的には黄白色を呈する。
9. ロームと黒褐色土の混合土 全体的には黒っぽい。
10. 黒褐色土 細粒。粘質。焼土小塊を少量含む。

第579図 162号住居跡竈

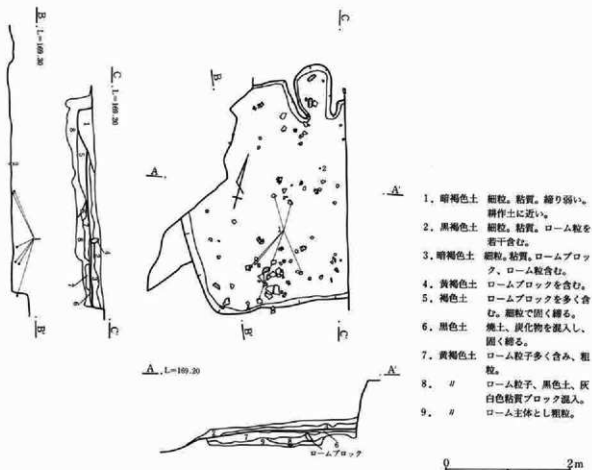


第580図 162号住居跡出土遺物



162号住居跡出土遺物観察表

図番号	遺物	出土位置 (cm)	口 底径 (cm)	径 器 高	胎土 成 色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 壺	床面		5.7	微砂粒含む 暗赤褐色 良	外 口縁部横溝で 胴部寛がり 内 口縁部横溝で 胴部寛溝で	
2	土師器 壺	+2	21.0		微砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横溝で 胴部寛がり 内 口縁部横溝で 胴部寛溝で	
3	土師器 小壺	+12		9.7 7.15	砂粒含む 暗褐色 良	外 口縁部横溝で 胴部寛がり 内 口縁部横溝で 胴部寛溝で	完形
4	須恵器 坏	床面	14.9 8.8	3.4	砂粒含む 灰緑色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	焼き返のみあり
5	須恵器 坏	+8	4.0 7.8	3.9	微砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
6	土師器 坏	床面	15.3 8.8	4.15	砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横溝で 体部、底部寛がり 内 口縁部横溝で 体部無で	
7	須恵器 蓋	+26	15.6	1.7	微砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形 外蓋天井部回転寛がり	
8	土師器 坏	+7	13.1	3.2	微砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横溝で 体部寛がり 内 口縁部横溝で 体部無で	
9	土師器 坏	甕	13.8	3.8	微砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横溝で 体部寛がり 内 口縁部横溝で 体部無で	
10	土師器 坏	床面	13.0	3.5	微砂粒含む 茶褐色 良	外 口縁部横溝で 体部寛がり 内 口縁部横溝で 体部無で	外面底部に墨書「二」か

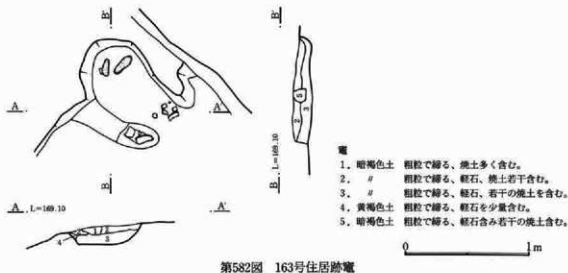


第581図 163号住居跡

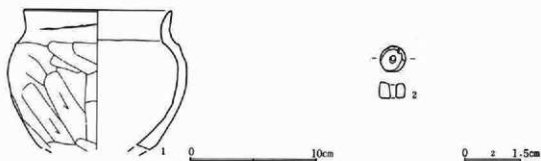
第3章 検出された遺構と遺物

163号住居跡 (第581～583図、PL54)

D-30グリッドに位置する。東側の半分は調査区外である。壁は南側が15cm程度残るが、他は検出できなかった。床面は軟質である。竈は北壁に在り、袖がわずかに残る。出土遺物は甕、白玉が見られた。



第582図 163号住居跡竈



第583図 163号住居跡出土遺物

163号住居跡出土遺物観察表

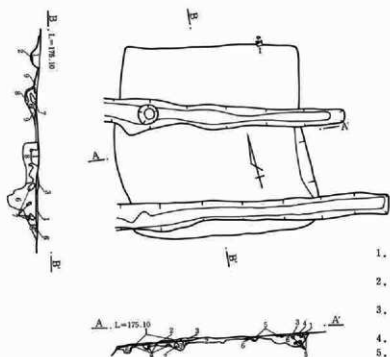
図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 口径 (cm)	径器高 器高 (cm)	胎土 胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 小型甕	床面	12.0		微砂粒含む 良	黒褐色	外 口径部横線で 胴部直内り 内 口径部横線で 胴部直内り	
2	滑石製品	床面	白玉。径1.35cm、厚さ0.8cm、孔径0.3cm、重さ2.3g。側面に研磨痕。両面やや凹凸を持つ。滑石製。					

165号住居跡 (第584・585図、PL55)

G-23グリッドに位置する。上面を削平されている上に、耕作溝が東西、南北に走っており遺存状態は極めて悪い。壁の立ち上がりはほとんど確認できなかった。

床面は擾乱を受け、かなり荒れた状態で、部分的に平坦な面が認められたのみである。竈、柱穴、および貯蔵穴等は確認できなかった。

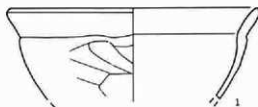
出土遺物もほとんど見られなかった。



1. 褐色土 粗粒で締り強く、A 砥石、黄褐色土の塊全体に含む。
2. 黄褐色土 細粒で締りあり。やや粘質。砂を全体に少量含む。
3. 褐色土 粗粒で締り、砥石を少量含む。黄褐色土少量混入。
4. 黒褐色土 細粒で締りあり。
5. 黒色土 細粒。粘質。
6. 黒褐色土とロームの混合土 ローム混入かなり多い。
7. ロームブロック
8. ローム
9. 暗褐色土 ロームの小ブロックを含む。

第584図 165号住居跡

0 2m



第585図 165号住居跡出土遺物

0 10cm

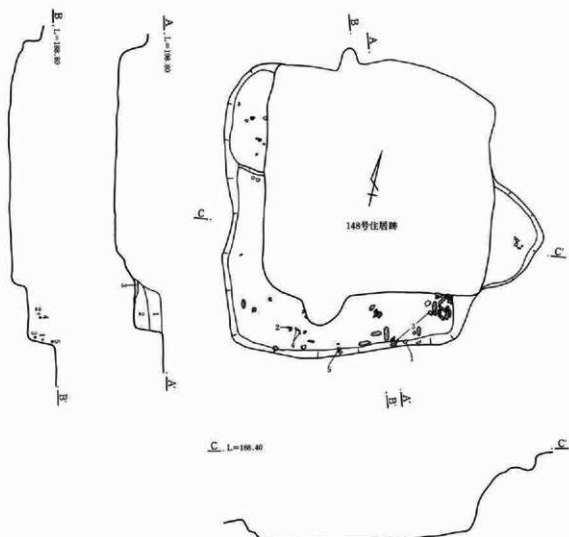
165号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	器 高 (cm)	胎土 焼 成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	覆土	20.4		砂粒含む 良	茶褐色	外 口縁部横無で 胴部荒削り 内 口縁部横無で 胴部荒削り	

166号住居跡 (第586・587図、PL52)

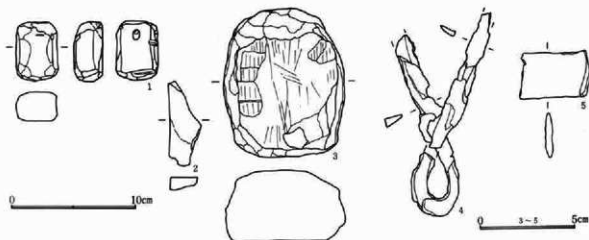
P-31グリッドに位置する。148号住居跡と重複している。148号住居跡の調査を進める中で、南側および西側部分において1段高まった部分が発出されたため、166号住居跡として扱った。規模、形状とも不明である。竈は検出されていない。出土遺物は砥石、鉄製品、紡錘車の未製品などである。

第3章 検出された遺構と遺物



1. 黒褐色土 ローム粒子、軽石を含む。ざらついている。
2. # ローム粒子含みや軟質で粒子は1層に比べ細かい。炭化物含む。
3. 淡褐色土 ロームブロック、粒子多く含み細粒。炭化物含む。

第586図 166号住居跡



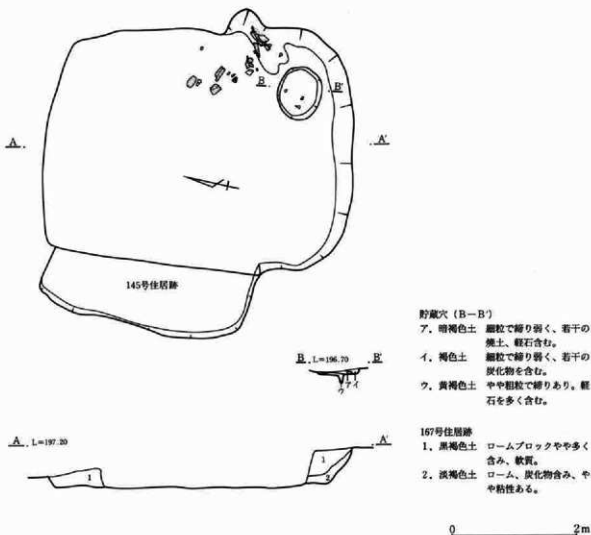
第587図 166号住居跡出土遺物

166号住居跡出土遺物観察表

図番号	種類	出土位置 (cm)	口徑 底径 (cm)	高 径	胎土 色調	成・整形の特徴	備考
1	磁石	+15	長さ4.7cm、幅3.3cm、厚さ2.3cm、重さ59g。			石材は磁沢石。四角の小型品で全面を使用している。端部に斜め方向の粗透穴。	
2	磁石	+14	長さ6.1cm、幅2.6cm、厚さ1.0cm、重さ14g。			石材は磁沢石。破片。平滑な使用面二面観察される。	
3	紡錘車	+10	径7.7cm、厚さ3.7cm、重さ334.1g。			石材は蛇紋岩。未製品、火を受けている。	
4	鉄製品	+17	鉄。長さ9.6cm、幅2.4cm、厚さ0.5cm、重さ20.7g。			錆化進み刃部が折れており正確な形状復元はできない。	
5	鉄製品	+11	鉄。長さ3.6cm、幅2.3cm、厚さ0.4cm、重さ7.9g。			長方形を呈す。装着部分。	

## 167号住居跡 (第588・589図、PI.55)

U-9 グリッドに位置する。155号住居跡を切り、154号住居跡に切られる。形状は隅丸長方形で規模は4.9m×3.8mである。壁高は遺存状態の良い南壁で40cmを測る。床面は南部分で比較的締まった平坦面が検出されている。竈は東壁に作られており、袖は住居内に作り出されている。出土遺物は少ない。



第588図 167号住居跡

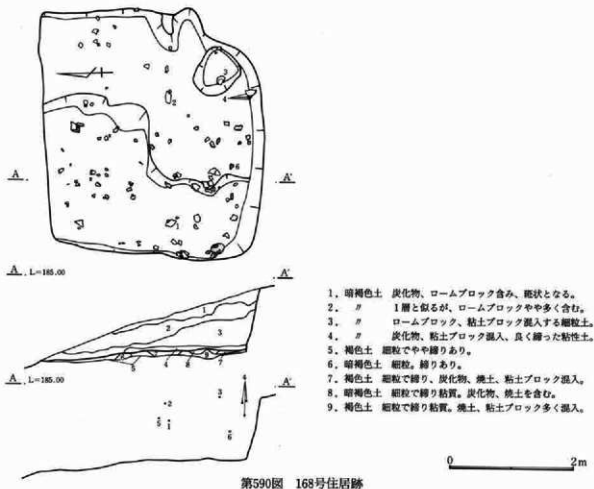
第3章 検出された遺構と遺物



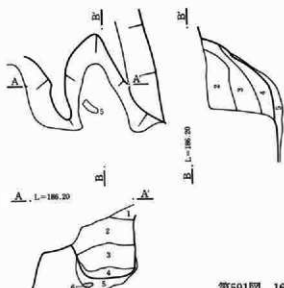
- 竈
1. 暗褐色土 ローム分主体とし細粒でやや軟質。
  2. # 1層と近似、少量の焼土含む。
  3. 暗橙褐色土 若干の焼土粒、粘土粒を混入。
  4. 赤褐色土 焼土を主体とし、ややボツボツの土。

168号住居跡 (第590～592図、PL55)

R-22グリッドに位置する。北斜面にあり、北側は削られている。方形で規模は3.8m×3.5mである。壁高は南側は60cm以上を測る。床面は平坦で粘土質の土で貼られている。竈は東壁やや南寄りに作られ、袖が短く作られ燃焼部から煙道にかけて急角度で立ち上がる。出土遺物は甕、坏類である。

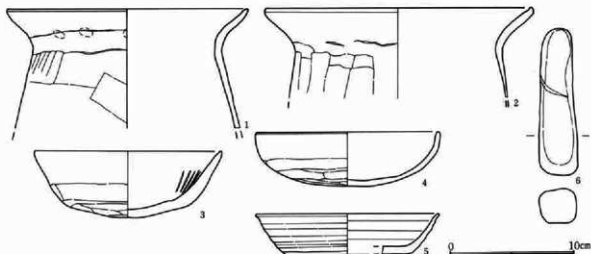


1. 暗褐色土 炭化物、ロームブロック含み、粒状となる。
2. # 1層と似るが、ロームブロックやや多く含む。
3. # ロームブロック、粘土ブロック混入する細粒土。
4. # 炭化物、粘土ブロック混入、良く締った粘性土。
5. 褐色土 細粒でやや締りあり。
6. 暗褐色土 細粒。締りあり。
7. 褐色土 細粒で締り、炭化物、焼土、粘土ブロック混入。
8. 暗褐色土 細粒で締り粘質。炭化物、焼土を含む。
9. 褐色土 細粒で締り粘質。焼土、粘土ブロック多く混入。



第591図 168号住居跡電

- 電
1. 淡褐色土 細粒で粘質。締り弱い。
  2. 黒褐色土 # # 焼土、炭化粒若干含む。
  3. 暗褐色土 # # 焼土小塊多く含む。
  4. 暗赤褐色土 焼土小粒・小塊、炭を多量に含み、粗粒。
  5. 焼土と黒色土の混合土
  6. 黒色土のブロック



第592図 168号住居跡出土遺物

168号住居跡出土遺物観察表

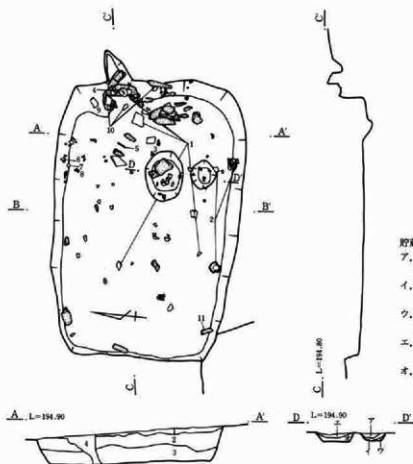
図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 壺	+61	19.5		微砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横撫で 胴部縦削り 内 口縁部横撫で 胴部縦撫で	
2	土師器 壺	+88	21.7		微砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横撫で 胴部縦削り 内 口縁部横撫で 胴部縦撫で	
3	土師器 坏	電	15.2	5.15	砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横撫で 体部縦削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
4	土師器 坏	+69	14.95	4.2	微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 体部縦削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	完形
5	須恵器 坏	+65	15.0 (10.0)	3.2	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転盤切り(左)	
6	砥石	+45	長さ11.5cm、幅3.1cm、厚さ2.8cm、重さ136g。石材は牛伏砂岩。棒状礫を利用。断面隅丸方形。					

171号住居跡 (第593~596図、PL55・56)

S-10グリッドに位置する。南西隅が一部156号住居跡と重複する。長方形を呈し、規模は4.4m×3.0mである。平均壁高は40cm程であるが西壁は削られており残りが悪い。床面は平坦で良く締る。竈は東壁やや北

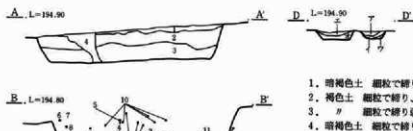
第3章 検出された遺構と遺物

に寄ったところに作られている。袖部両側および燃焼部に石を据え、焚口には横に石を渡している。遺存状態は良好である。出土遺物は竈周辺部を中心に壺、坏類に混じり平瓦が見られた。



貯蔵穴 (D-D')

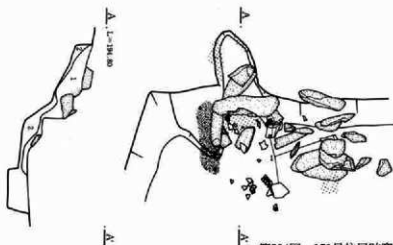
- ア、暗褐色土 砂質土、若干の灰色、粘土ブロック混入。
- イ、# ロームブロック、灰色粘土ブロック含む。
- ウ、黄褐色土 黄灰色の砂質土、若干の粘土含む。
- エ、黒褐色土 灰、ロームブロック、焼土の混入。
- オ、# 灰、ロームを混入する粘性土。



1. 暗褐色土 細粒で締り、褐色土灰に混入。軽石若干含む。
2. 褐色土 細粒で締り、焼土、炭化物、軽石を若干含む。
3. # 細粒で締り弱く、ローム、焼土、炭化物若干含む。
4. 暗褐色土 細粒で締りあり。軽石を若干含む。

第593図 171号住居跡

0 2m



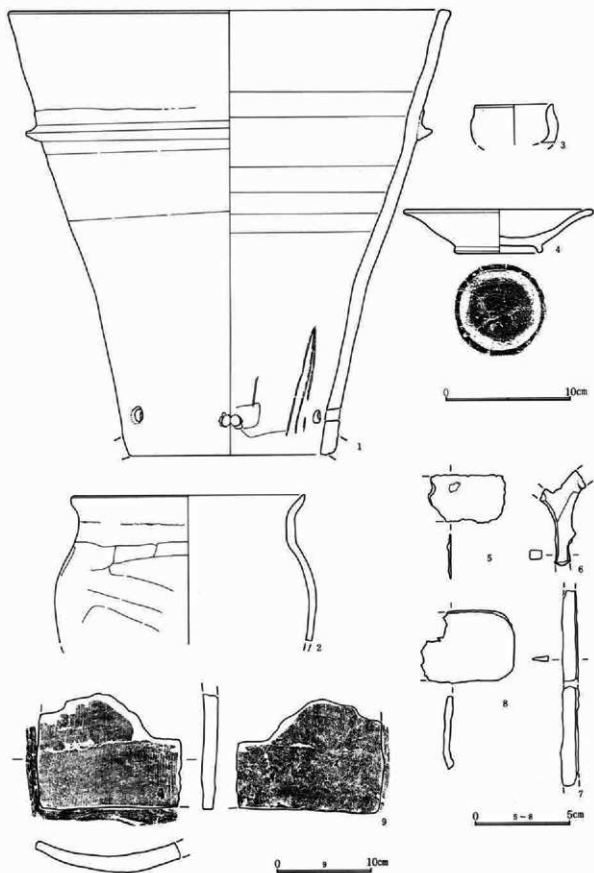
竈

1. 暗褐色土 ローム小ブロック、若干の焼土含む、細粒。
2. # ローム粒子、焼土ブロック、炭化物少量混入。

0 1m

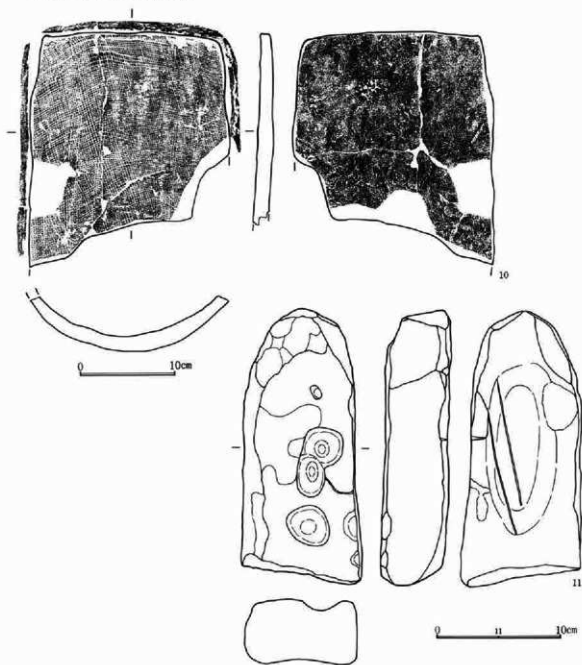
第594図 171号住居跡竈





第595図 171号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第596図 171号住居跡出土遺物(2)

171号住居跡出土遺物観察表

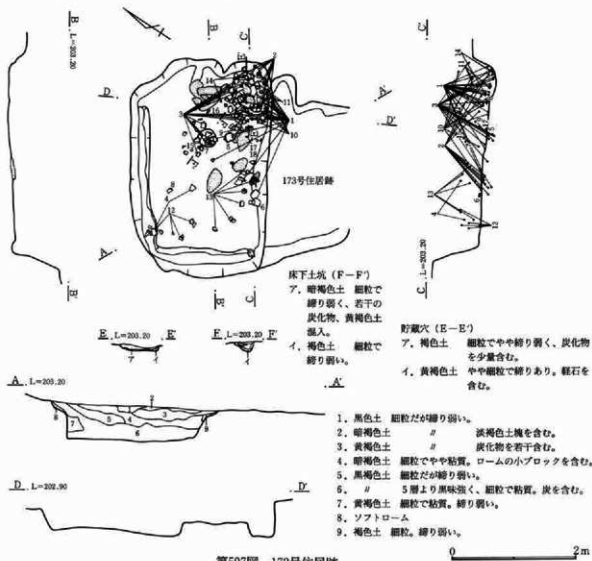
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	器 高	胎 土 焼 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	須恵器 甕	+5	34.8		砂粒含む 良	淡褐色	ロクロ成形	大型品 胴下位に2 穴あり
2	土師器 甕	+3	18.8		微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 胴部磨削り 内 口縁部横撫で 胴部磨削で	
3	手捏ね 土 器	+15	(6.0)		微砂粒含む 普通	褐色	内外面指撫で	
4	須恵器 皿	+36	(15.0) (7.0)	3.5	砂粒含む 良	灰黄色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
5	鉄製品	+37	刀子。長さ4.8cm、幅3.0cm、厚さ0.2cm、重さ5.7g。薄手で両端を欠く。					

6	鉄製品	+33	覆叉鏃。長さ5.9cm、幅2.8cm、厚さ0.6cm、重さ7.8g。基部、先端部を欠く。		
7	鉄製品	+33	刀子。長さ(12.0cm)、幅1.6cm、厚さ0.3cm、重さ10.9g。中央で折れ、両端を欠く。		
8	鉄製品	+23	鏃。長さ5.9cm、幅4.4cm、厚さ0.5cm、重さ20.6g。角が丸味を持つ装着部片。		
9	平瓦	+22	厚さ1.0~2.1 良	小石含む 灰青色 良	布目 面取り側面3面、端面2面 還元炭
10	平瓦	+31	厚さ1.1~1.9 良	砂粒含む 灰色 良	凹面の布目が2重。胎土に白色粘土が塊状還元土に混じる部分あり。面取り側面1、端1面
11	凹石	+14	長さ21.8cm、幅9.7cm、厚さ5.2cm、重さ1504g。石材は牛伏砂岩。		

172号住居跡 (第597~600図、PL56)

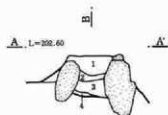
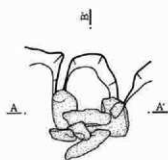
X-16グリッドに位置する。調査区の最も高い場所において検出されている。173号住居跡と重複しこれを切る。長方形を呈し、規模は3.4m×2.2mである。壁高は南を除いて30cmを測り、浅い周溝が北、西側に見られる。床面は比較的平坦であるが、あまり固くはない。竈は東壁に作られており、石組の竈である。

出土遺物は鏃、羽釜、坏などが見られた。



第597図 172号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

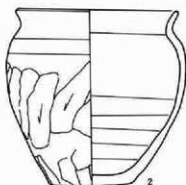
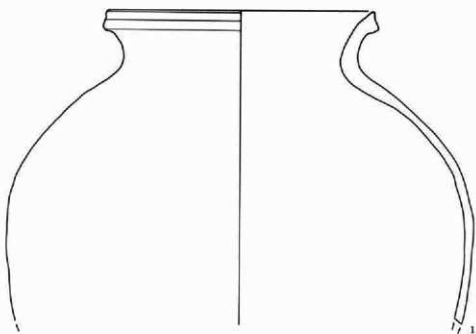


電

1. 褐色土 粗粒で締り弱く、若干の炭化物を含む。軽石含む。
2. # 粗粒で締り弱く、軽石を少量、炭化物多く含む。
3. # 細粒で締り弱く、焼土、炭化物を少量含む。
4. # 細粒で締り弱く、焼土、炭化物若干含む。

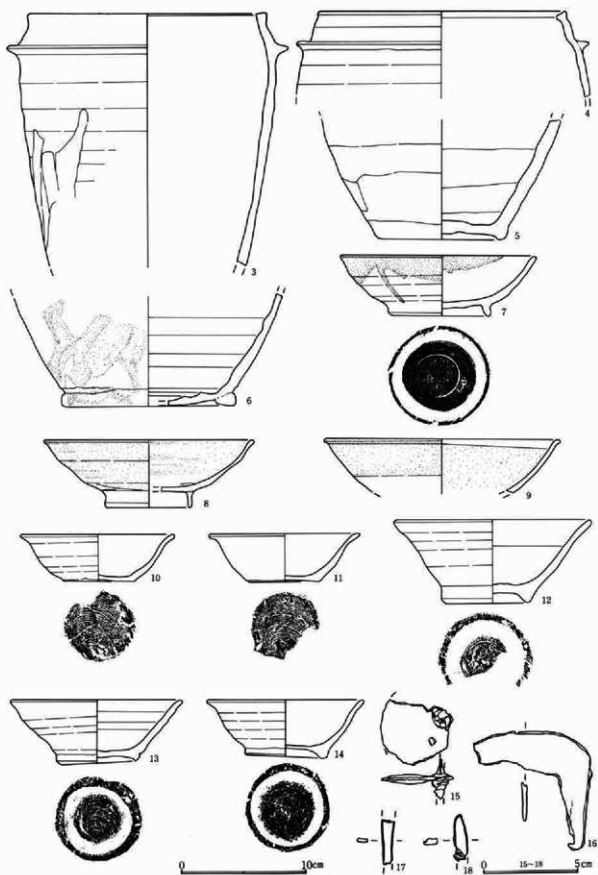
0 \_\_\_\_\_ 1m

第598図 172号住居跡竈



0 \_\_\_\_\_ 10cm

第599図 172号住居跡出土遺物(1)



第600図 172号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

172号住居跡出土遺物観察表

図番号	遺種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	器 高	胎 土 焼 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	須恵器 甕	貯蔵穴	21.3		砂粒含む 良	灰褐色	ロクロ成形	甕の口縁部か
2	須恵器 小型壺	貯蔵穴	13.1 6.7	13.8	砂粒含む 良	灰褐色	ロクロ成形 口縁部横線で 胴下半部寛削り	
3	須恵器 羽 蓋 (床面)	床下土坑	19.2		砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 外面胴下半部覆削り	
4	須恵器 羽 蓋	床面	19.0		微砂粒含む 良	黒褐色	ロクロ成形	
5	須恵器 壺	+3	10.4		砂粒含む 良	淡褐色	ロクロ成形 胴下半部寛削り 付け高台	
6	灰 胎 壺	+4	(13.6)		精製 良	灰色	ロクロ成形 付け高台	
7	灰 胎 埴 埴	+33	(15.2) 8.2	4.8	精製 良	灰白色	ロクロ成形 付け高台	埴け掛け
8	灰 胎 埴 埴	+11	16.5 5.6	5.4	精製 良	灰白色	ロクロ成形	
9	灰 胎 埴 埴	+20	18.6		精製 良	灰白色	ロクロ成形	
10	須恵器 坏	貯蔵穴	12.2 5.6	3.8	砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り (右)	
11	須恵器 坏	貯蔵穴	(12.0) (5.6)	3.8	砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り (右)	
12	須恵器 埴 埴	+13	15.4 6.8	6.5	砂粒含む 普通	褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り (右) 付け高台	
13	須恵器 埴 埴	+10	13.6 6.6	5.2	砂粒含む 普通	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り (右) 付け高台	
14	須恵器 埴 埴	貯蔵穴	12.4 6.5	4.6	砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り (右) 付け高台	
15	鉄製品	+27					紡錘車。前輪径(6.2cm)、高さ2.1cm、重さ6.2g。前輪の部分片、上下の軸部分が僅かに残る。	
16	鉄製品	+4					鎌。長さ6.2cm、幅6.2cm、厚さ0.2cm、重さ16.2g。刃先を欠く、装着部先端は鋭状に折れる。	
17	鉄製品	+14					刀子。長さ2.3cm、幅0.7cm、厚さ0.2cm、重さ0.5g。破片。	
18	鉄製品	+14					刀子。長さ2.4cm、幅0.7cm、厚さ0.3cm、重さ0.6g。破片。17と同一か。	

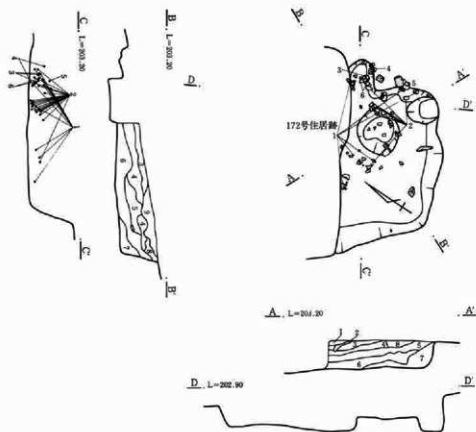
173号住居跡 (第601～603図、PL56)

調査区のもっとも高い位置、X-16グリッドにおいて検出された。北側およそ半分を172号住居跡に切られて  
いる。壁高は30cmあまりを測るが、壁面は一定しない。

床面はやや凹凸があり、比較的軟質である。貯蔵穴は東隅にあり、径40cm、深さは20cm程である。柱穴は  
検出されなかった。

竈は東壁に検出した、左袖部分は172号住居により切られており、遺存状態は良くない。燃焼部分はU字状  
に壁外に掘り出されている。右側には袖石が1つ検出されている。

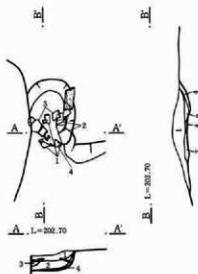
出土遺物は羽蓋、埴類が見られた。



- |                            |                              |
|----------------------------|------------------------------|
| 1. 黄褐色土 細粒だが締り弱い。炭化物を若干含む。 | 6. 黒褐色土 細粒でやや粘質。やや締り強い。      |
| 2. 褐色土 細粒。締り弱い。            | 7. 黄褐色土 細粒で粘質。やや締り強い。        |
| 3. 暗褐色土 細粒。締り強い。炭粒を少量含む。   | 8. 褐色土 細粒。締り弱い。ロームブロックを少量含む。 |
| 4. 黄褐色土 細粒で粘質。固い。          | 9. 黒色土 細粒。粘質。締り弱い。           |
| 5. 褐色土 細粒だが柔らかい。           |                              |

第601図 173号住居跡

0 2m

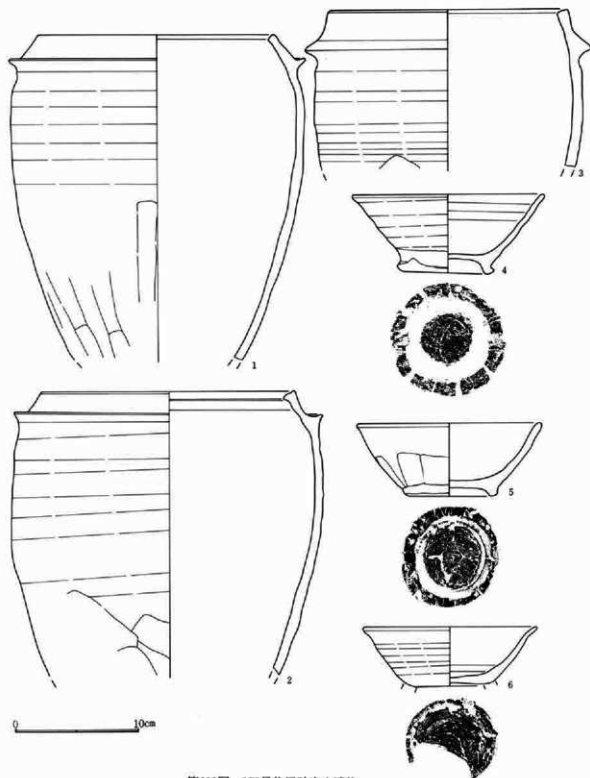


- 電
- |                                 |
|---------------------------------|
| 1. 褐色土 細粒で締り弱く、焼土、炭化物、黄褐色土少量混入。 |
| 2. 黄褐色土 細粒で締り弱く、若干の炭化物、焼土含む。    |
| 3. 褐色土 細粒で締り弱く、炭化物、焼土を含む。       |
| 4. # 細粒で締りあり。若干の炭化物含む。          |

0 1m

第602図 173号住居跡電

第3章 検出された遺構と遺物



第603図 173号住居跡出土遺物

173号住居跡出土遺物観察表

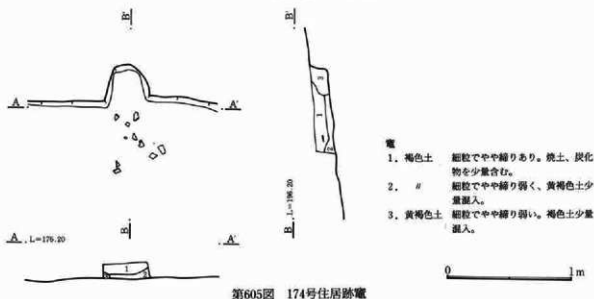
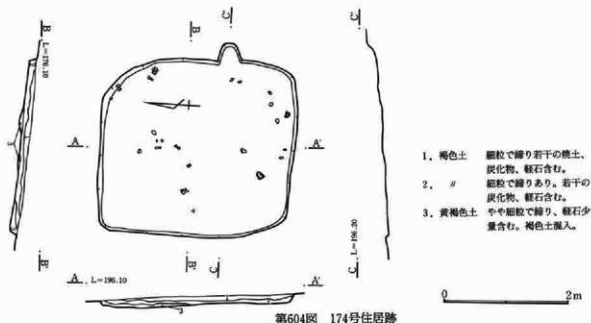
図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土 構成	色調	成・整形の特徴	備考
1	須恵器 羽 壺	+10	18.7		細砂粒含む 長	淡黄褐色	ロクロ成形 胴下半部窪削り	酸化焰焼成



2	須恵器 羽 釜	+3	20.1		微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 胴下半部旋削り	
3	須恵器 羽 釜	電	(19.6)		微砂粒含む 良	淡褐色	ロクロ成形	
4	須恵器 坏	電	15.2 7.7	6.3	砂粒含む 普通	茶褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り (右) 付け高台	
5	須恵器 埴	+30	(14.6) 7.4	5.8	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り (右) 付け高台 体下半部横方向の削り	
6	須恵器 坏	+15	13.8		微砂粒含む 良	暗褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り (右) 付け高台	高台欠

## 174号住居跡 (第604・605図、PL56)

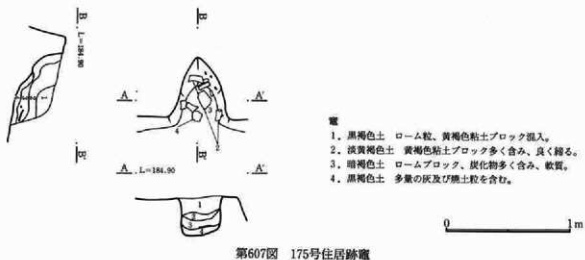
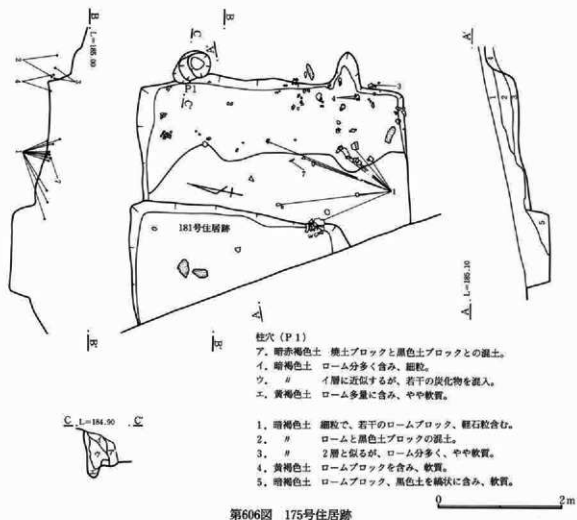
T-10グリッドに位置する。かなり上面を削平されている。形状は方形を呈し、規模は3.1m×2.8mである。壁高は平均10cm程度である。床面はやや凹凸があり、ローム混じりの粘性土で貼られている。竈は東壁にあり馬蹄形に壁外に掘り出されている。袖は無く、焼土なども少ない。出土遺物はほとんど見られない。

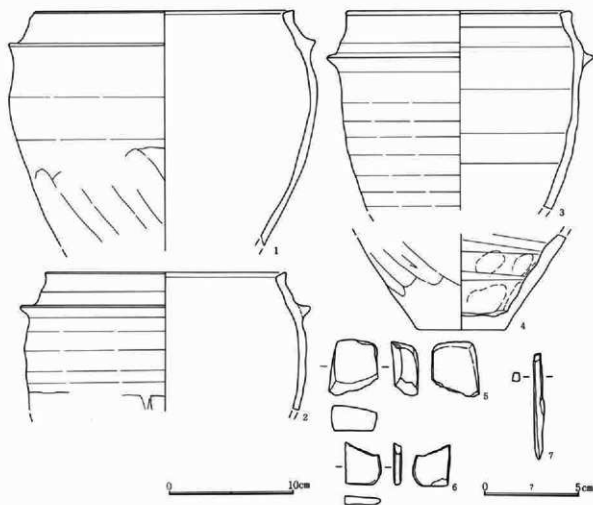


第3章 検出された遺構と遺物

175号住居跡 (第606~608図、PL56)

P-14グリッドに位置する。西斜面にあり西側の半分以上が失われている。181号住居跡の上に乗る形で作られる。壁高は東部分で約30cmを測る。床は比較的締まった平坦面がわずかに認められた。竈は東壁やや南寄りに作られ、壁外に馬蹄形に作り出され、煙道部分に壺が転用されている。遺物は壺、坏類である。





第608図 175号住居跡出土遺物

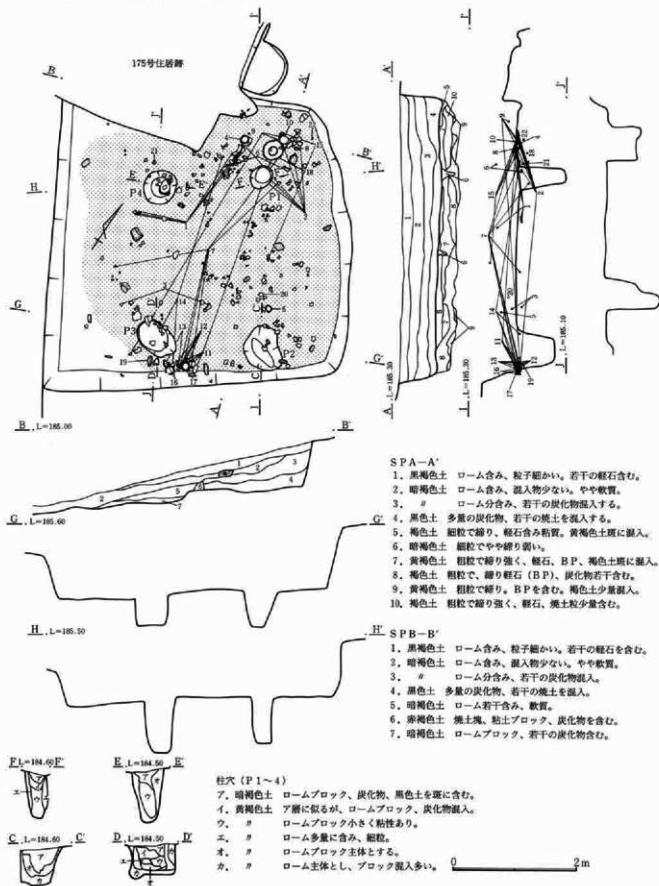
175号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	径 高	胎土 色 調	成・整形の特徴	備 考
1	須恵系 羽 蓋	床面	20.8		微砂粒含む 良 灰色	ロクロ成形 胴下半部煎削り	
2	須恵系 羽 蓋	床面	19.0		微砂粒含む 良 橙褐色	ロクロ成形	
3	須恵系 羽 蓋	+7	(17.8)		砂粒含む 良 赤茶褐色	ロクロ成形	
4	須恵系 羽 蓋	床面	7.2		微砂粒含む 良 灰色	外 煎削り	底部片1と同一個体 か
5	砥石	覆土	長さ4.2cm、幅3.7cm、厚さ2.1cm、重さ44g、		石材は砥沢石。破損品。四面を使用。		
6	砥石	覆土	長さ3.2cm、幅2.9cm、厚さ0.6cm、重さ7g、		石材は牛伏砂岩?破損品。扁平で四面、側面が磨かれている。		
7	鉄製品	床面	釘。長さ5.5cm、幅0.6cm、厚さ0.55cm、重さ3.2g、		頭部分を欠く。		

## 176号住居跡 (第609~612図、PL57)

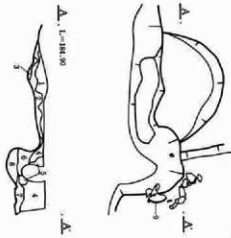
Q-14グリッドに位置する。西壁は既に削平されている。175号住居跡に北側の一部を壊されている。平面形状は隅丸方形を呈すと思われる。各壁はほぼ垂直に立ち上がり東壁は遺存状態が良く、高さ1m程ある。床

第3章 検出された遺構と遺物



第609図 175号住居跡

面上には炭化物が多量に見られ、特に北側には顕著に見られた。床面は貼り床がなされており、2ないし3層に分層できることから貼り直しが想定される。竈は北壁にあるが、175号住居跡により切れおおり、一部のみ確認した。柱穴は4本検出されている。出土遺物は竈周辺部より壺、坏類が比較的多く検出された。

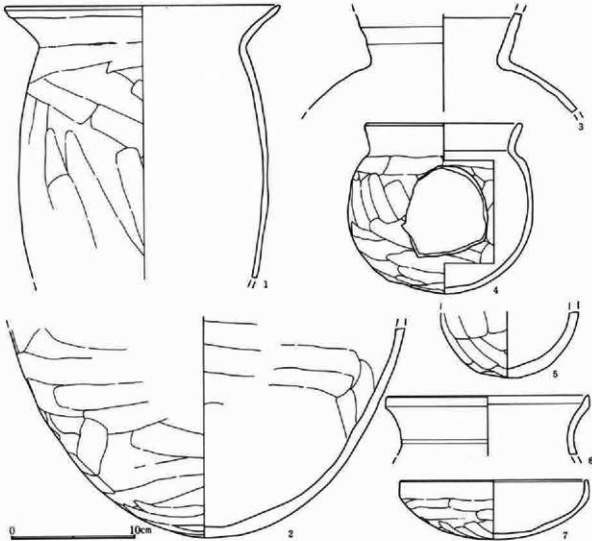


竈

1. 暗褐色土 ローム若干混入し、細粒。
2. 黒褐色土 炭化物、焼土粒含み、ローム小ブロック混入。
3. 赤褐色土 焼土塊、ロームブロック混入。
4. 暗褐色土 ローム、炭化物、軽石を混入。
5. # 焼土塊、粘土ブロック含み、良く締る。
6. 黒褐色土 ローム、焼土、炭化物を凝状に含む。
7. 黒色土 多量の炭化物に、若干のローム分混入。
8. 6層と似るが、焼土少なく、ロームブロック目立つ。

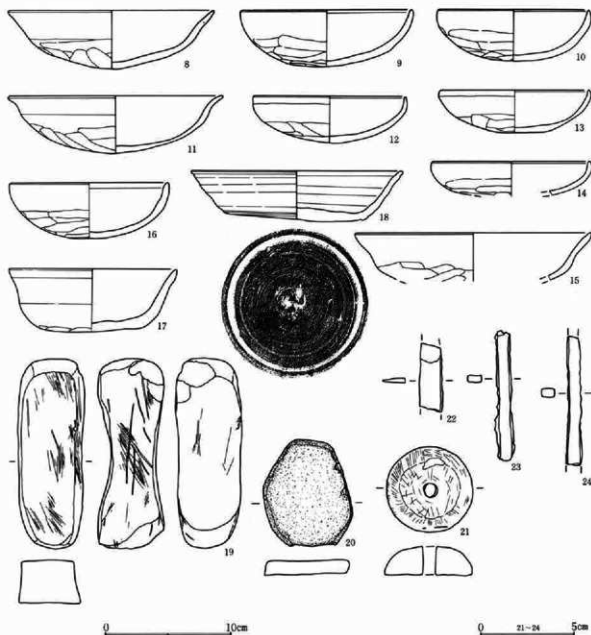
第610図 176号住居跡竈

0 1m



第611図 176号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第612図 176号住居跡出土遺物(2)

176号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	高	胎 土 焼 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 壺	床面	22.0		微砂粒含む 良	茶褐色	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部寛削り	
2	土師器 壺	床面			微砂粒含む 良	暗褐色	外 胴部寛削り 内 胴部寛削り	
3	須恵器 壺	床面			砂粒含む 良	灰褐色	口縁部横線で 内外面叩き目	
4	土師器 壺	床面	12.6	13.4	微砂粒含む 良	暗褐色	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部寛削り	胴部に径6cm程の穴
5	土師器 壺	+25			微砂粒含む 良	暗茶褐色	外 寛削り 内 寛削り	底部片2次利用の可能性有り

6	須恵器 査	床面	(16.0)	砂粒含む 良	灰色	口縁部横撫で			
7	土師器 坏	床面	15.0	4.7	微砂粒含む 普通	暗褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部寛削り 体部撫で	器内外面荒れている
8	土師器 坏	床面	16.6	4.6	微砂粒含む 良	暗赤褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部寛削り 体部撫で	
9	土師器 坏	床面	14.0	4.4	微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部寛削り 体部撫で	
10	土師器 坏	床面	12.2	4.0	微砂粒含む 良	暗褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部寛削り 体部撫で	完形
11	土師器 坏	床面	17.2	4.0	砂粒含む 良	暗褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部寛削り 体部撫で	
12	土師器 坏	床面	12.2	3.7	微砂粒含む 良	黒褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部寛削り 体部撫で	
13	土師器 坏	床面	12.0	3.3	微砂粒含む 良	暗褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部寛削り 体部撫で	
14	土師器 坏	床面	12.8		砂粒含む 普通	黒色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部寛削り 体部撫で	器外面荒れている
15	土師器 坏	+42	19.0		微砂粒含む 普通	暗褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部寛削り 体部撫で	
16	土師器 坏	床面	12.8	4.4	微砂粒含む 良	灰褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部寛削り 体部撫で	
17	須恵器 坏	床面	13.5	4.9	砂粒含む 良	灰白色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	底部寛削り 体部撫で	
18	須恵器 坏	床面	16.8 11.4	4.0	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 削り出し高台	底部凹削り切り(左)	完形
19	砥石	床面	長さ14.9cm、幅3.4cm、厚さ5.2cm、重さ569g。			石材は砥沢石。細長の角礫を利用。四面がかなり使い込まれ、凹面をなす。焼けている。			
20	砥石	+14	長さ8.2cm、幅1.1cm、厚さ6.9cm、重さ147g。			石材は緑色片岩。偏平な円礫の一面を使用。			
21	紡錘車	床面	径4.5cm、厚さ1.5cm、重さ45.1g。石材は蛇紋岩。上面丸味を持つ。						
22	鉄製品	床面	刀子。長さ3.7cm、幅1.2cm、厚さ0.2cm、重さ2.5g。両端を欠く。						
23	鉄製品	覆土	刀子。長さ6.8cm、幅1.0cm、厚さ0.4cm、重さ5.4g。両端部を欠く。						
24	鉄製品	覆土	刀子。長さ6.8cm、幅0.8cm、厚さ0.5cm、重さ5.1g。両端部を欠く。						

## 177号住居跡 (第613・614図、PL58)

Y-16グリッドに位置する。調査区の最も高い場所にあるが、削平が著しく遺存状態は極めて悪い。178・179号住居跡と重複しているために、規模、形状は不明な部分がある。壁高は確認されず、床面も確実な使用面としてはとらえられない。床下土坑があり土器類が若干検出されている。

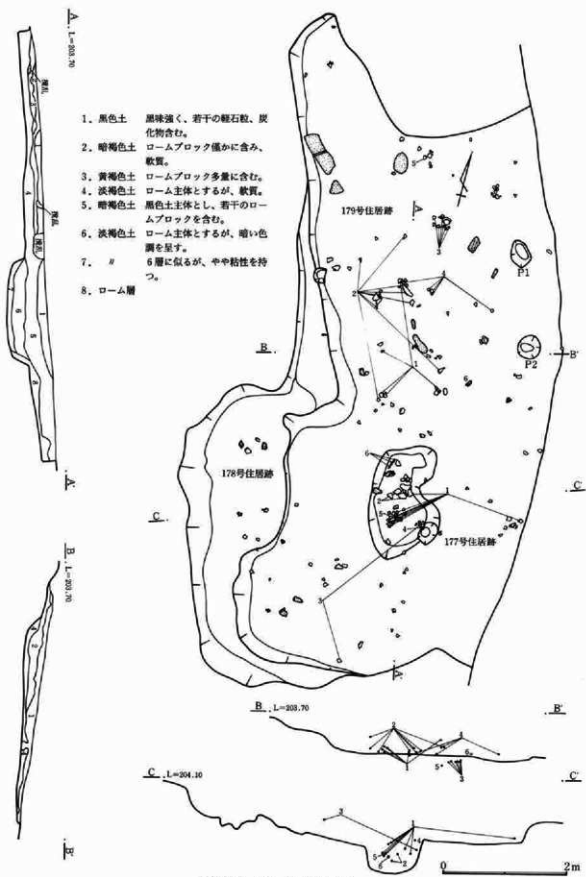
## 178号住居跡 (第613図、PL58)

Y-16グリッドに位置する。177号住居跡の西側に一段高く残っていた部分である。やはり攪乱が著しく床面は凹凸があり、壁高等計測できなかった。竈は検出されなかった。出土遺物は少ない。

## 179号住居跡 (第613～615図、PL58)

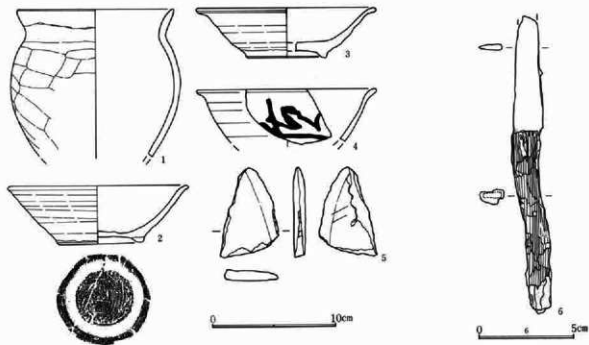
Y-16グリッドに位置する。北側に172・173号住居跡、南側に177・178号住居跡が重複している。壁は西側部分のみ確認されている。床面は比較的固く締っているが、かなり凹凸がある。竈は確認できなかった。出土遺物は壺、坏、灰釉陶器などが見られる。

第3章 検出された遺構と遺物

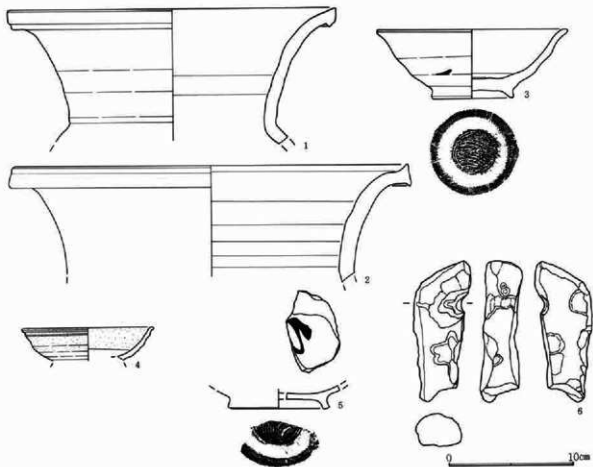


第613図 177~179号住居跡





第614図 177号住居跡出土遺物



第615図 179号住居跡出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物

177号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考	
1	土師器 小型壺	床面 (床 下土坑)	12.5		砂粒含む 良	淡褐色	外 口径部横線で 胴部歪削り 内 口径部横線で 胴部歪削り		
2	須恵器 埴	床面 (床 下土坑)	(14.2) 6.8	4.5	微砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り (右) 付け高台		
3	須恵器 坏	床面 (床 下土坑)	(14.4) (6.4)	3.9	微砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り (右) 付け高台		
4	須恵器 埴	床面 (床 下土坑)	(14.2)		微細砂粒含む 良	灰褐色	ロクロ成形	外面磨書 破片	
5	紙石	床面 (床 下土坑)	長さ7.1cm、幅4.7cm、厚さ0.9cm、重さ27g。石材は砂岩。偏平で側縁が薄く使い込まれている。						
6	鉄製品 刀子	床面 (床 下土坑)	長さ15.5cm、幅2.1cm、厚さ0.3cm、重さ18.8g。柄部分木質部が残る。						

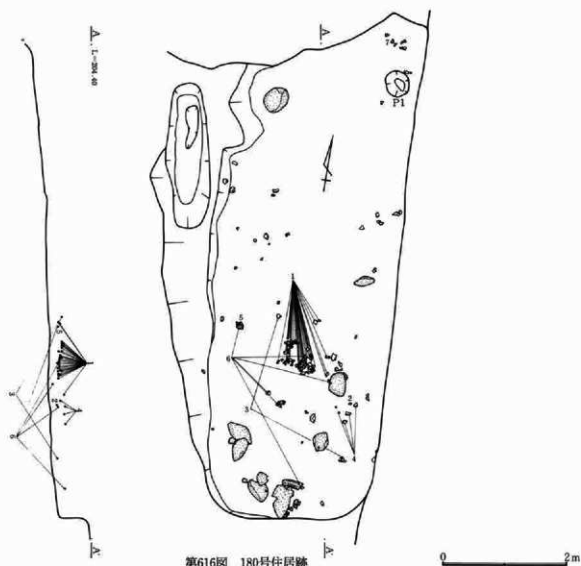
179号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 底径 (cm)	器高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考	
1	須恵器 壺	床面 (床 下土坑)	26.0		微砂粒含む 良	灰褐色	ロクロ成形	口径部片	
2	須恵器 壺	床面 (床 下土坑)	(31.0)		砂粒含む 良	灰褐色	ロクロ成形	口径部片	
3	須恵器 埴	床面 (床 下土坑)	15.0 6.6	5.4	砂粒含む 普通	灰黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り (右) 付け高台	外面磨書	
4	灰胎 埴	床面 (床 下土坑)	(10.4)		砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	小物品	
5	須恵器 埴	床面 (床 下土坑)	(8.0)		微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り (右)	底部片。 内面底部に磨書	
6	紙石	床面 (床 下土坑)	長さ10.1cm、幅3.7cm、厚さ3.1cm、重さ146g。石材は半伏砂岩。角棒状でかなり打痕が観察される。						

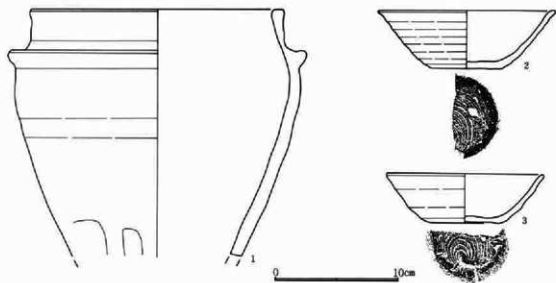
#### 180号住居跡 (第616～618図、PL58)

調査区の最も高い場所において検出された。Z-16グリッドに位置する。農道と畑に挟まれた場所にあるが、かなり畑の耕作等により擾乱を受けており、壁は確認できず床面も正確にはとらえられなかった。このため形状、規模は不明である。

当初、遺物が含まれた黒色土の落ち込み部分として確認し、調査を行ったものであり、住居として認定するにはやや不確定な要素も多い。

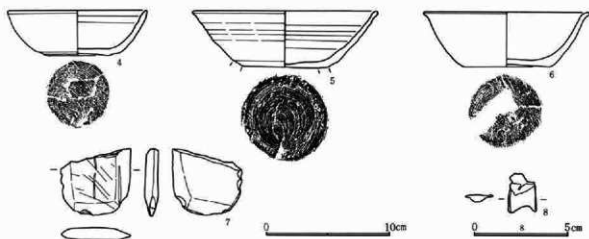


第616図 180号住居跡



第617図 180号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



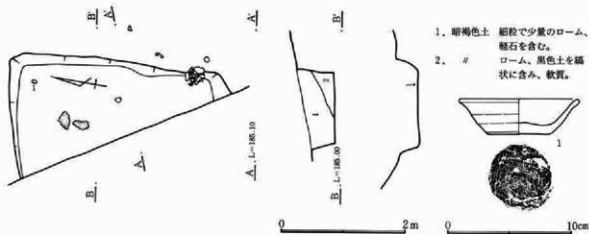
第618図 180号住居跡出土遺物(2)

180号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	器 高	胎 土 焼 色 調	成・整形の特徴	備 考
1	須恵器 羽 釜	+13	20.5		微砂粒含む 灰褐色 良	ロクロ成形 胴下半部寛削り	
2	須恵器 平 鉢	+10	14.0 5.8	4.5	微砂粒含む 灰褐色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	口縁部内外面に灰化物付着
3	須恵器 平 鉢	+7	(12.4) 5.4	3.9	微砂粒含む 灰黒色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
4	須恵器 平 鉢	+17	(11.0) 5.0	3.5	微砂粒含む 灰黒色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	小型品
5	須恵器 平 鉢	+12	(14.6) 7.0		微砂粒含む 灰黄色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	高台欠
6	須恵器 平 鉢	+7	13.0 7.0	4.3	微砂粒含む 灰黒色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	
7	砥 石	床面	長さ4.7cm、幅5.5cm、厚さ0.9cm、重さ27g。		石材は砂岩。偏平で側縁が刃部状となる。		
8	鉄製品	覆土	鉄線?。長さ2.0cm、幅1.5cm、厚さ0.15cm、重さ1.4g。先端部、基部欠く。				

181号住居跡 (第619図、PL58)

P-14グリッドに位置する。西斜面下位にあり、西側半分は失われている。175号住居跡の下部に検出された。壁高は北側で約50cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は平坦で、しっかりしている。竈、貯蔵穴等は検出されなかった。出土遺物は少ない。



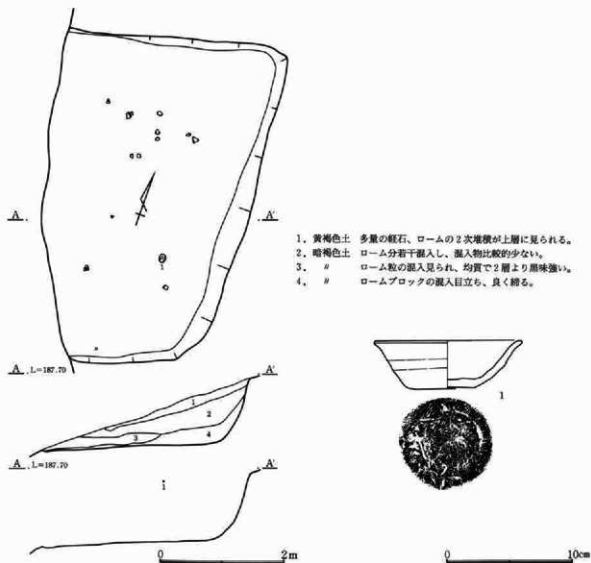
第619図 181号住居跡及び出土遺物

181号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 底径 (cm)	径 器高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	+6	9.8 5.0	2.7	微砂粒含む 良	桃褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	完形 酸化焙焼成

182号住居跡 (第620図、PL58)

R-13グリッドに位置する。西斜面のかなり急傾斜部に検出された。西側は削られ、東側のみの調査である。東側壁高は60cm以上残るが、壁のラインは不明瞭である。床も明確にはつかめない。出土遺物は少ない。



第620図 182号住居跡及び出土遺物

182号住居跡出土遺物観察表

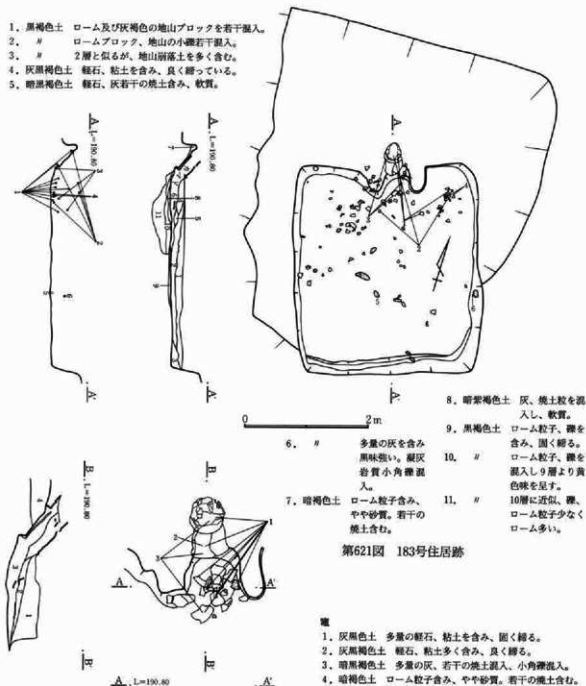
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 底径 (cm)	径 器高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	+92	12.0 5.5	3.7	微砂粒含む 普通	灰黒色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	口縁部灰化物付着

第3章 検出された遺構と遺物

183号住居跡 (第621~623図、PL58・59)

S-12グリッドに位置する。西斜面部にあるために検出が困難であった。壁高は東側はかなりの高さが残るが、地山がかなり流れており、正確な掘り込み面は確認できなかった。下部に至ってははっきりした壁が検出されている。床面は平坦で粘質土で貼られている。貯蔵穴は北東隅に掘り込まれている。竈は北壁にあり、袖が残り煙道には底を抜いた臺を2個つなげて使用している。出土遺物は甕、坏類である。

1. 黒褐色土 ローム及び灰褐色の地山ブロックを若干混入。
2. # ロームブロック、地山の小礫若干混入。
3. # 2層と似るが、地山崩落土を多く含む。
4. 灰黒褐色土 軽石、粘土を含み、良く締っている。
5. 暗黒褐色土 軽石、灰若干の焼土含み、軟質。

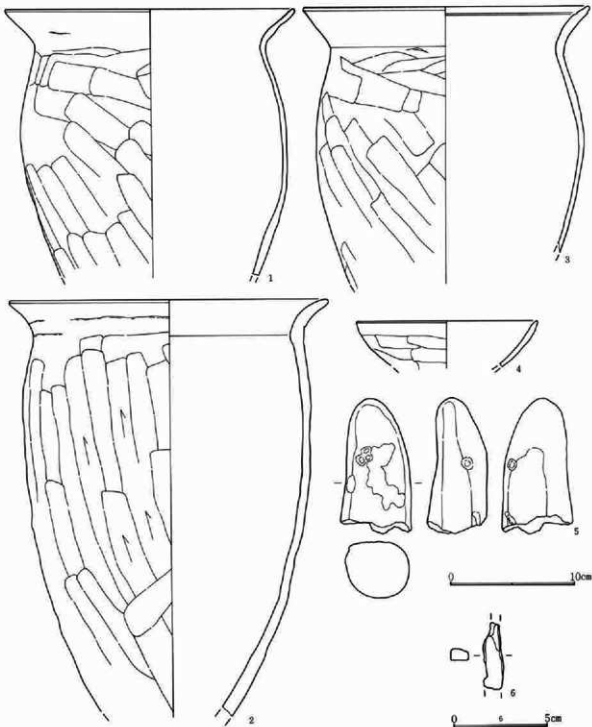


6. # 多量の灰を含み黒味強い。凝灰岩質小角礫混入。
7. 暗褐色土 ローム粒子含み、やや砂質。若干の焼土含む。
8. 暗紫褐色土 灰、焼土粒を混入し、軟質。
9. 黒褐色土 ローム粒子、礫を含み、固く締る。
10. # ローム粒子、礫を混入し9層より黄色味を呈す。
11. # 10層に近似、礫、ローム粒子少なくローム多い。

第621図 183号住居跡

- 竈
1. 灰黒色土 多量の軽石、粘土を含み、固く締る。
  2. 灰黒褐色土 軽石、粘土多く含み、良く締る。
  3. 暗黒褐色土 多量の灰、若干の焼土混入、小角礫混入。
  4. 暗褐色土 ローム粒子含み、やや砂質。若干の焼土含む。

第622図 183号住居跡竈



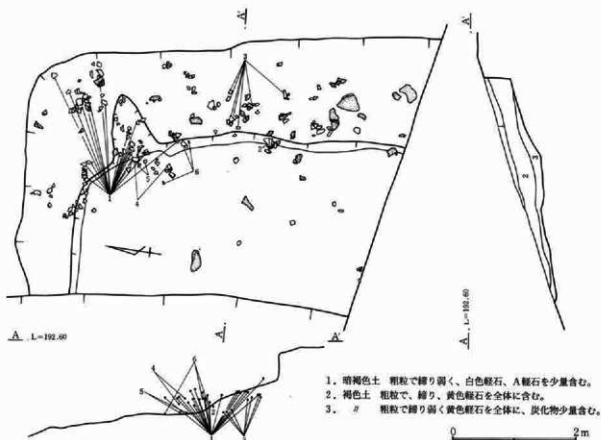
第623図 183号住居跡出土遺物

183号住居跡出土遺物観察表

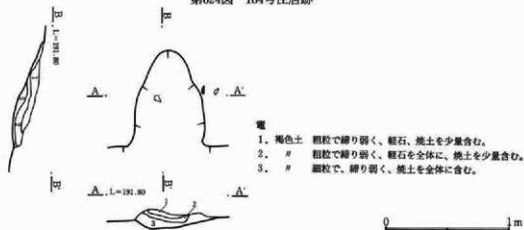
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 底径 (cm)	径 高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	床面・竈	22.9		微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部寛削り	
2	土師器 甕	床面	25.3		砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部寛削り	

### 第3章 検出された遺構と遺物

3	土師器 壺	床面・甕	23.0	微砂粒含む 淡褐色 瓦	外 口縁部横線で 胴部葉形り 内 口縁部横線で 胴部窪み	
4	土師器 坏	+4	14.7	微砂粒含む 淡褐色 瓦	外 口縁部横線で 体部窪み 内 口縁部横線で 体部窪み	
5	砥石	+1	長さ10.4cm、幅5.7cm、厚さ4.7cm、重さ269g。	石材は砂岩。破損品、棒状の円環で、全面に僅かに打痕が見られる		
6	鉄製品	+24	刀子。長さ3.4cm、幅0.9cm、厚さ0.6cm、重さ1.8g。欠損品。			

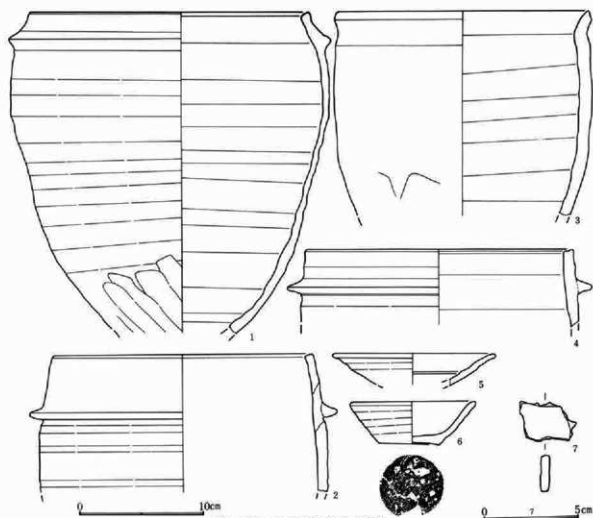


第624図 184号住居跡



第625図 184号住居跡甕





184号住居跡出土遺物観察表

第626図 184号住居跡出土遺物

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	器 高	胎 土 焼 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	羽蓋	床面	22.2		砂粒含む 良	褐色	紐作り 胴下半部覆用り	
2	羽蓋	床面	(21.2)		砂粒含む 良	褐色	紐作り	
3	土蓋	床面	20.6		砂粒含む 良	黄褐色	紐作り 口縁部横撫で 胴下半部覆用り	
4	羽蓋	+16	(21.7)		砂粒含む 良	黒褐色	ロクロ成形	
5	須恵器 皿	+2	6.5		精製 良	白黄色	ロクロ成形	
6	須恵器 坏	床面	19.2 5.0	3.3	織砂粒含む 良	暗褐色	ロクロ成形	底部の切り離し不明
7	鉄製品	覆土	長さ2.9cm、 幅2.0cm、 厚さ0.4cm、 重さ6.5g。				やや厚みを持つ板状製品。破損品。	

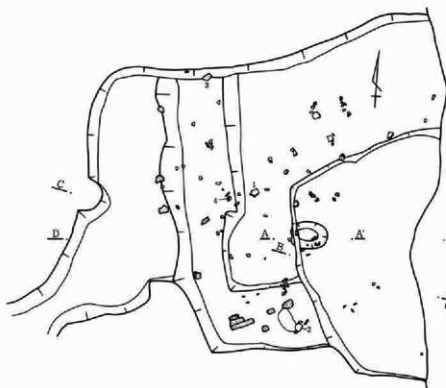
## 184号住居跡 (第624～626図、PL59)

T-11グリッドに位置する。西斜面にあり、南側は調査区外となる。プランはやや明確でないところがあり、東壁は立ち上がりがはっきりとしない。また西側は大きく削り取られている。床面は部分的に平坦な面があるが一定しない。竈は東壁の北寄りに検出されている袖部分は見られず壁外に馬蹄形に掘り出されている。出土遺物は壺、坏類である。

第3章 検出された遺構と遺物

185号住居跡 (第627・628図、PL59)

R-5グリッドに位置する。I区の最も東で検出された、斜面にあり、東側は大きく削られている。攪乱のため形状がはっきりせず、床面も平坦な面は検出できなかった。竈も検出されず、住居とするには問題も残る。出土遺物は壺、坏の破片類である。



床下土坑 (A-A')

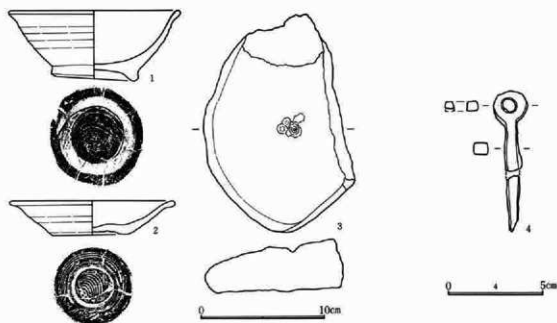
- ア、褐色土 細粒で締りあり。焼土を少量含む。
- イ、赤褐色土 細粒で締り弱く、焼土を多く、炭化物若干含む。
- ウ、褐色土 細粒で締り弱く、若干の焼土、炭化物を含む。
- エ、# 粗粒で締り弱く、灰褐色粘土塊含み、焼土少量含む。
- オ、# 細粒でやや締りあり。若干の焼土を含む。



- 1、暗褐色土 ロームと黒色土を混入。
- 2、黄褐色土 1層を基調とし、ロームブロック含む。
- 3、暗褐色土 1層に似るが、ローム目立つ。
- 4、黄褐色土 ローム多量に含み、砂質。
- 5、橙褐色土 BP粒子を主体とする。

0 2m

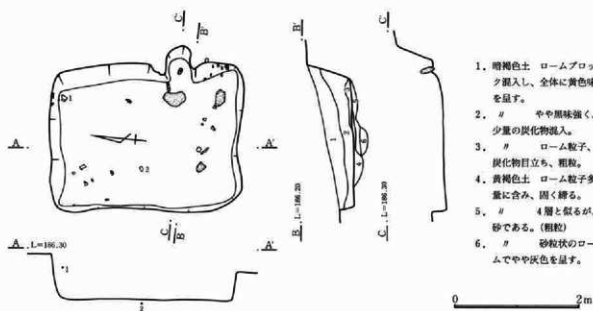
第627図 185号住居跡



第628図 185号住居跡出土遺物

185号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	底 径 (cm)	器 高 (cm)	胎 土 質 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	須恵器 埴	+30	(14.0)	(7.0)	5.5	砂粒含む 良	灰褐色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
2	須恵器 埴 皿	+22	13.6			微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	高台欠?
3	台石	+30	長さ17.2cm、幅12.3cm、厚さ4.4cm、重さ894g。			石材は牛伏砂岩。やや扁平な礫を利用。一面に小凹穴が見られる。			
4	鉄製品	+25	環付釘。長さ(7.4cm)、幅1.8cm、厚さ0.6cm、重さ11.9g。中央部で折れている。孔径0.7cm。						



第629図 186号住居跡

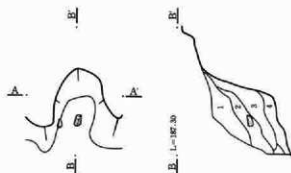
### 第3章 検出された遺構と遺物

#### 186号住居跡 (第629～631図、PL59)

Q-14グリッドに位置する。西斜面にあり、平面形状は長方形を呈し、規模は3.0m×2.3mと、やや小形の住居である。壁高は東壁で最大70cmを測り、ほぼ垂直に掘り込まれている。

床面は平坦でかなり締っている。竈は東壁中央やや南寄りに作られている、壁外に30cm程掘り出している。燃焼部から煙道部にかけて急角度で立ち上がっている。

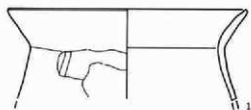
出土遺物は少なく、土師器の甕、坏の小破片が検出されているのみである。



竈

1. 褐色土 細粒で締りあり。若干の焼土を含む。
2. // 細粒で締りあり。焼土、炭化物を少量含む。
3. // 細粒で締り弱く。焼土多く、炭化物少量含む。
4. 暗褐色土 細粒で締り弱く、炭化物多く、焼土少量含む。

第630図 186号住居跡竈



第631図 186号住居跡出土遺物

186号住居跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	器 高 (cm)	胎土 焼 成	色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	+46	19.3		微砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横線で 胴部寛削り 内 口縁部横線で 胴部寛削り	
2	土師器 坏	床面	(12.0)		微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 体部寛削り 内 口縁部横線で 体部横削り	

## 第6節 掘立柱遺物跡

本遺跡において検出された掘立柱建物跡の総数は10棟である。このうち2号・3号・6号・7号・9号・10号は形が不明確な部分も多く、特に9・10号については建物跡とするよりは帯列として扱うべきかも知れない。

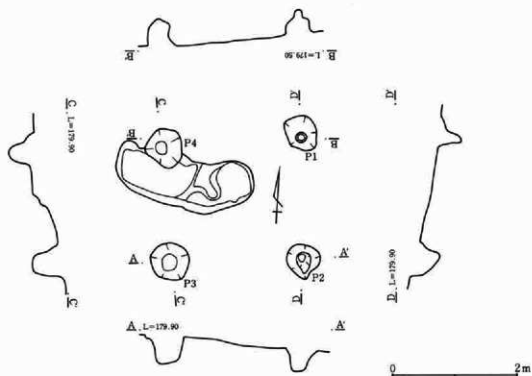
4号建物跡は調査区の西端近くにあり、柱穴の掘方、柱間もしっかりしている。4間×3間建物跡である。西側すぐ隣には1号溝が南北に走り、関連も考えられる。

5号掘立柱建物跡は1区の西斜面を降りた場所に在り、2号土器集積の東に近接している。規模は(4)間×2間であるがさらに北側、調査区外に延びる可能性もある。柱穴の掘り方は比較的大きく、やや方形を呈すものも見られる。下部に基礎に用いたと思われる礎も出土している。

これら掘立柱建物跡の時期について、確定されるものは少ないが、出土遺物の見られた5号は平安時代、その他のものについては平安時代以降と思われる。

## 1号掘立柱建物跡 (第632図、PL60)

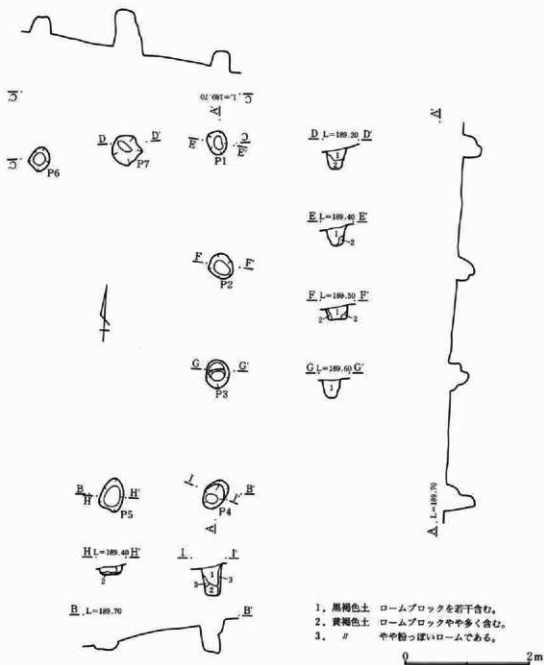
P-24グリッドに位置する。1間×1間で柱穴の径は50~60cm、深さは40cm程である。出土遺物は見られない。



## 2号掘立柱建物跡 (第633図)

1区の西斜面部分、O-12グリッドにおいて検出された。主軸を南北方向にとる。確認された柱穴の規模は4間×2間であるが、西側部分については削平されてしまったものと思われる。柱穴の径は40cm内外であるが、深さにはばらつきが見られる。

第3章 検出された遺構と遺物

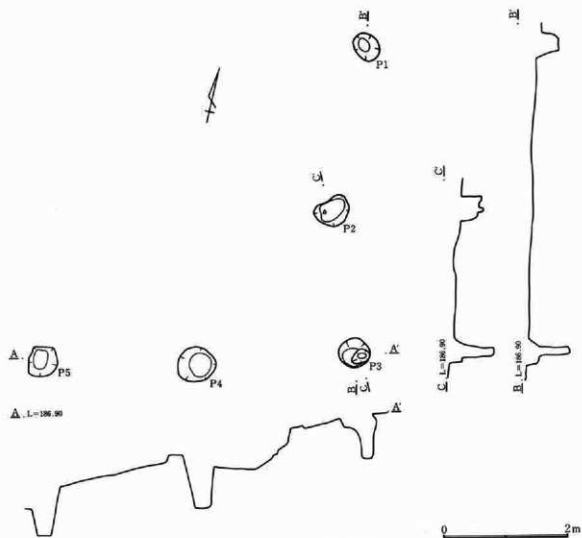


3号掘立柱建物跡 (第634図)

I区の西斜面部分、O-14グリッドに位置する。11号住居跡と重複する。柱穴は東側、および南側部分がL字形に検出されたが西側、北側については削られてしまったのか、検出できなかった。東列の柱穴は浅く、南側の柱穴はレベル差があるにもかかわらずかなりの深さを持つ。

4号掘立柱建物跡 (第635図、PL60)

S-46グリッドに位置する。1号溝の東側に近接している。南西部分で34号住居跡、東部分で86号住居跡に重複する。時期は住居よりも新しい。4間×3間で形の整った建物跡である。各柱穴は直線的に並び、柱



第634図 3号掘立柱建物跡

間も平均している。主軸は東西方向に向く。柱穴の径は50cm程で、深さは浅いものは30cm、深いものは80cmを測る。出土遺物は無く、埋め土の状態などから平安時代後期、ないしは若干下るものと思われる。

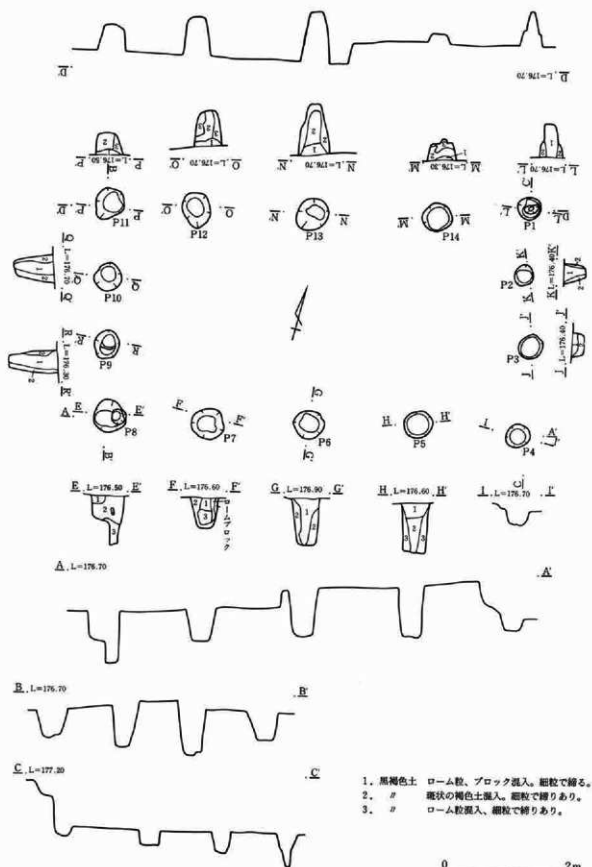
#### 5号掘立柱建物跡 (第636・637図、PL60)

2号土器集積東側、O-17グリッドに位置する。検出された範囲では4間×2間であるが、北側にさらに続いている可能性もある。位置部19号住居跡、11号溝と重複する。主柱穴と思われる穴は比較的大きく、長径約1m、短径80cmになるものも見られる。また掘方がやや長方形を呈すものもあり、底に基礎に用いたと思われる礫を出土しているものも見られた。

東列の柱穴の中には2穴が重複しているものがあり、建て替えを行っている可能性もある。他にも性格の判明しないピットが検出されている。

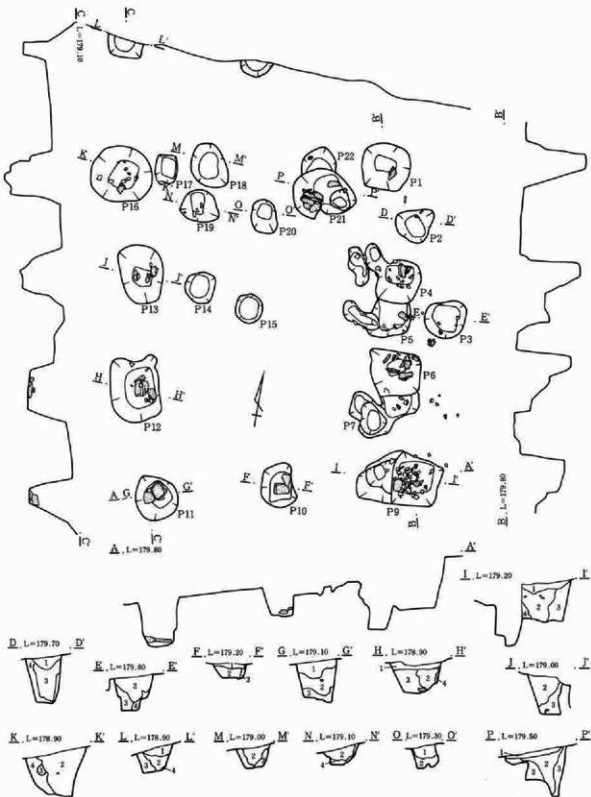
出土遺物は、柱穴上層より須恵器碗、土師器坏類が出土している。

第3章 検出された遺構と遺物



第635図 4号独立柱建物跡



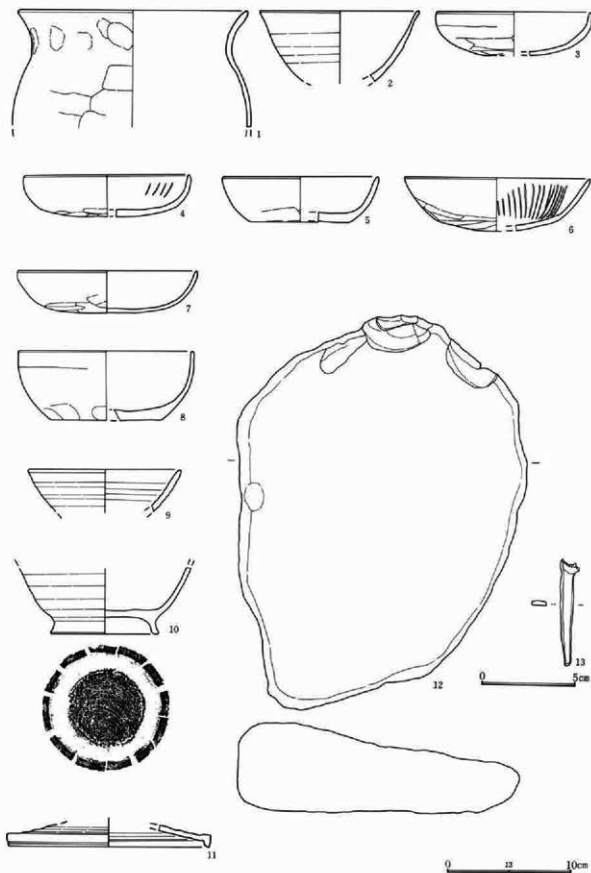


1. 黒褐色土 ローム粒子混入。
2. # ローム粒子、焼土粒子、炭化物混入。
3. # 2層に似るが、ロームブロック混入目立つ。
4. 黄褐色土 ローム主体とし、ブロック状を呈す。

0 2m

第636図 5号掘立柱建物跡

第3章 検出された遺構と遺物



第637図 5号孤立柱建物跡出土遺物

5号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	高	胎 土 焼 成	色 調	成・整形の特徴	備 考	
1	土師器 罍	P 9	18.5		微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 胴部寛削り 内 口縁部横撫で 胴部寛撫で		
2	須恵器 埴	P 4	(13.0)		微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形		
3	土師器 坏	P 2	12.6		微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 体部寛削り 内 口縁部横撫で 体部撫で		
4	土師器 坏	P 9	13.5	3.2	微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 体部寛削り 内 口縁部横撫で 体部撫で		
5	土師器 坏	P 9	13.7 (8.2)	3.6	微砂粒含む 良	茶褐色	外 口縁部横撫で 体部寛削り 内 口縁部横撫で 体部撫で		
6	土師器 坏	P 5	15.0		微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横撫で 体部寛削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	内面放射状暗文	
7	土師器 坏	P12	14.5	3.3	微砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横撫で 体部寛削り 内 口縁部横撫で 体部撫で		
8	土師器 坏	P 9	14.2 (9.0)	5.4	微砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横撫で 体部寛削り 内 口縁部横撫で 体部撫で		
9	須恵器 坏	P 6	(12.4)		微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形		
10	須恵器 埴	P13			砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(石) 付け高台		
11	須恵器 蓋	P19	(16.3)		微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形		
12	台石	P 6	長さ30.0cm、幅22.8cm、厚さ6.9cm、重さ4675g。石材は牛伏砂岩。礎石に利用か。						
13	鉄製品	P 4	刀子。長さ5.6cm、幅1.0cm、厚さ0.3cm、重さ2.7g。刃部を欠く。						

## 6号掘立柱建物跡(第638図、PL61)

U-45グリッドに位置する。44号住居跡に重複する。2間×(3)間で西側に庇を持つ。東列については44号住居跡の覆土中に掘り込まれていたために、柱穴の掘方は確認できなかったこともあり、規模については不確定な部分もある。各柱穴の掘り方はあまりしっかりととはしていない。径、深さなどもばらつきが窺える。時期は特定できない。

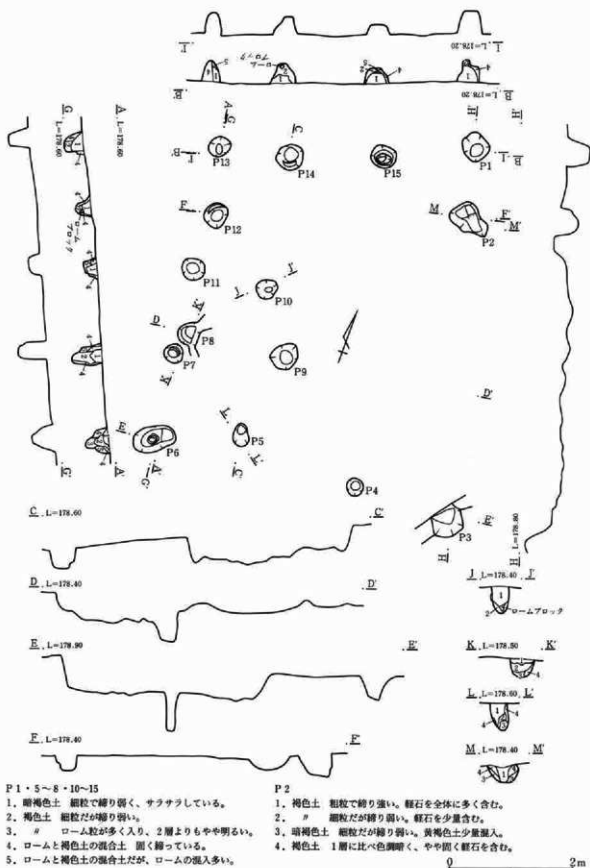
出土遺物は無かった。

## 7号掘立柱建物跡(第639図、PL61)

T-45グリッドに位置する。80号住居跡に重複する。1間×2間であるが、柱の位置がやや不規則で、短辺間にある柱穴はやや北に偏って掘られ、南側は中央に2穴が接して掘られている。北側住居重複の部分にもこれと同様に柱穴があったことが考えられる。

柱穴の径はいずれも30cm程で、深さは40cmほどである。時期は平安時代以降であろう。出土遺物は見られない。

第3章 検出された遺構と遺物



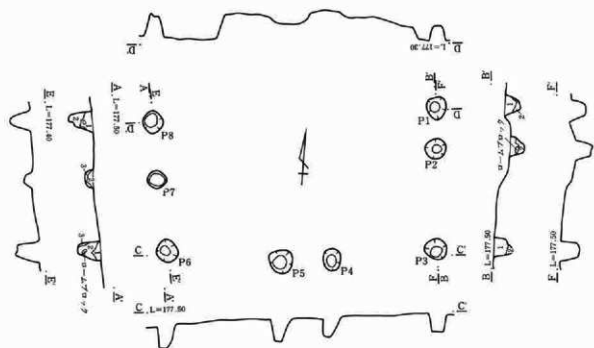
P1・5～8・10～15

1. 暗褐色土 細粒で締り弱く、サラサラしている。
2. 褐色土 細粒だが締り弱い。
3. # ローム粒が多く入り、2層よりもやや明るい。
4. ロームと褐色土の混合土 固く締っている。
5. ロームと褐色土の混合土だが、ロームの混入多い。

P2

1. 褐色土 粗粒で締り強い。軽石を全体に多く含む。
2. # 細粒だが締り弱い。軽石を少量含む。
3. 暗褐色土 細粒だが締り弱い。黄褐色土少量混入。
4. 褐色土 1層に比べ色調暗く、やや固く軽石を含む。

第638図 6号据立柱建物跡



1. 黒褐色土 白色軽石粒子及び、若干の粒子含む。
2. # 白色粒子、ローム粒子、ロームブロック混入。
3. 黄褐色土 ロームブロックを多く含む。

0 2m

第639図 7号掘立柱建物跡

#### 8号掘立柱建物跡 (第640図、PL61)

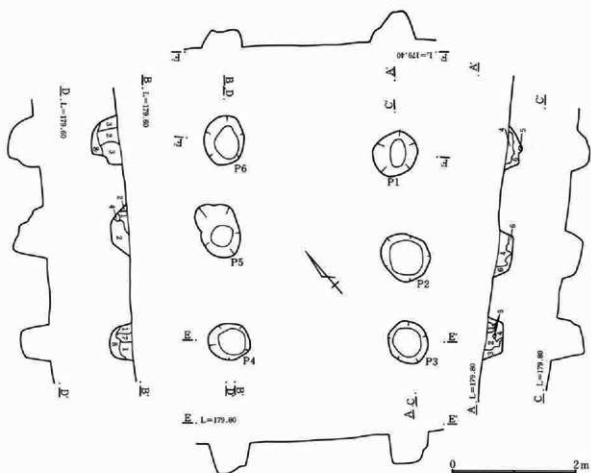
U-37グリッドに位置する。2間×1間の建物であるが、1間部分も柱間は2間部分の倍近い幅を持つ。柱穴の規模は径が60~70cm、深さが40~50cmで径に比べてやや浅くなっている。時期は不明。

#### 9号掘立柱建物跡 (第641図、PL61)

U-8グリッドに位置する。I区の高い場所において、農道に沿うように棚列状に柱穴が並んで検出された。西側の3間を確認したのみで、東側に関しては不明である。柱穴の径は40~50cm、深さ25~40cmである。覆土はかなりロームの混入が目立ったが軟質であった。ピット5の覆土中より縄文土器(諸磯a)の小破片、土師器甕の小破片出土。

#### 10号掘立柱建物跡 (第642図、PL61)

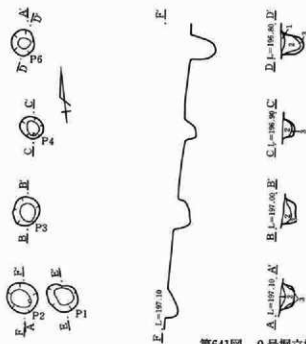
P-11、Q-11において検出された。掘立柱建物跡としたが棚列ないしはピット群としたほうが適当かも知らない。西斜面部分にあり総数22箇所のピットが確認された。一部がほぼ直線上に乗るが、他は明確な関連はつかめなかった。径、深さもばらついており、浅いものは25cm、深いものは80cmを測る。時期は不明。



1. 暗褐色土 軽石を全体に含む。
2. " 黄色軽石の粒を全体に含む。
3. 褐色土 硬く、軽石を全体に含む。
4. " 黄色軽石の粒を少量含む。黄褐色土少量混入。

5. 黄褐色土 やや粘質で少量の軽石を含む。
6. 灰褐色土 粘質で固い。軽石を含む。
7. 黒褐色土 硬く、軽石を全体に含む。
8. 褐色土 粘質で灰褐色粘土の塊を全体に含む。

第640図 8号掘立柱建物跡



9号掘立柱建物跡

1. 黒色土 軽石若干含み、細粒。
2. 暗褐色土 ローム分含み、良く締る。
3. 明褐色土 ロームブロック多く含み、粘性を持つ。



第642図 10号掘立柱建物跡

1. 褐色土 細粒でやや締り強い。
2. " 細粒でやや締り弱い。
3. " やや粗粒でやや締り弱く、軽石を含む。
4. " 3層と似るが、やや粘質。
5. 黄褐色土 細粒で締り弱い。
6. 褐色土 粗粒で締り強く、ロームブロックを全体に含む。
7. 暗褐色土 やや細粒で締り強く、軽石を全体に含む。

### 第3章 検出された遺構と遺物

表3 掘立柱建物跡一覧

番号	位 置	規模(間)	主軸方位	備 考
1号	P-24	1×1	N-4°-W	柱間2.0m。
2号	0-12	(4×2)	N-3°-W	南北に4穴が並ぶ。柱間は1.9m。
3号	0-14	—	N-10°-W	L字形に検出。南北方向中央の穴がやや西にずれる。
4号	S-46	4×3	N-76°-E	東西方向の柱間1.7m。時期は平安後期から中世。1号溝との関連が想定される。
5号	0-17	4×2	N-16°-W	重複あるいは立て替えの可能性あり。土師器・須恵器検出土。北に延びる可能性あり。
6号	U-45	2×(3)	N-70°-E	L字形に検出。やや鈍角に開く。
7号	T-45	1×2	N-5°-W	北側部分が検出されず。
8号	U-37	2×1	N-38°-E	西、東列がやや前後にずれる。
9号	U-8	3	N-6°-E	掘り込みは浅い。柱穴列か。
10号	P-10、Q-11	—	—	直線的に並ぶものはごく一部で多数の穴が乱雑に見られる。

### 第7節 溝

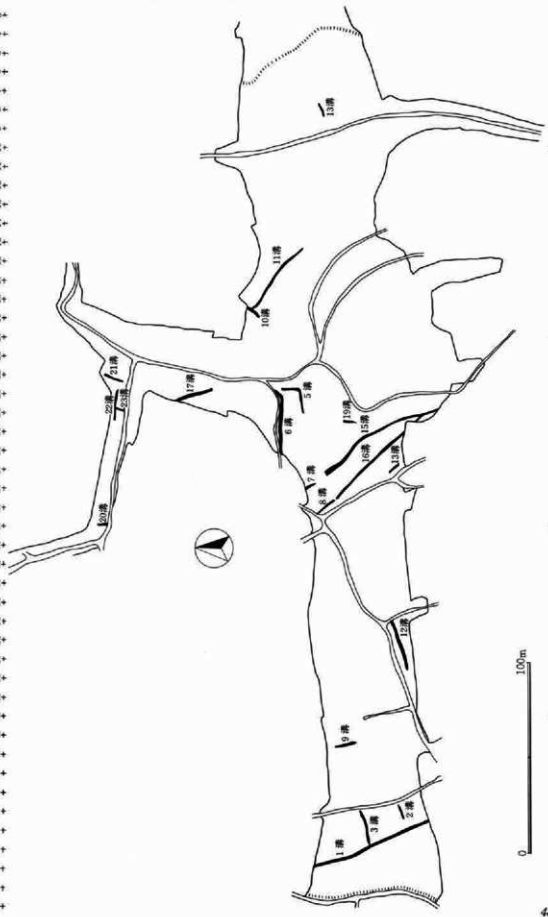
本遺跡において検出された溝状の遺構は数十条を数えたが、多くは耕作によるもので、溝としては扱っていない。本稿で溝として総数22条を取り上げて報告しているが、この中にも時期的には耕作等により近代に掘られたものも含まれている。

#### 1号溝 (第644～648図、PL62・63)

調査区の西端部分で検出した。南から北に向かって下り、走向はやや西に振れている、断面はV字状の薬研堀で幅1.2m、深さ約1mをはかる。検出した長さは約60mで調査区内での比高差は約5mである。出土遺物は南端の部分で馬歯および馬骨が2ないし3頭分出土している。また覆土中にAS-BPが混入していたことから、掘られた時期は平安時代後期以降と考えられる。



50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z aa ab ac ad



第643回 調査地図

第3章 検出された遺構と遺物

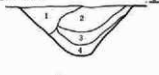
A. L=175.10



B. L=176.10



C. L=178.10



0 1 m

1号溝

S P A-A'

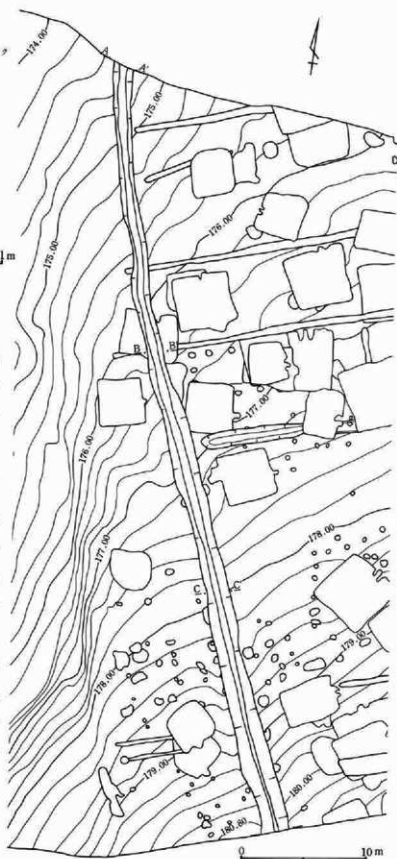
1. 褐色土 耕作土
2. 暗褐色土 ロームブロック、AS-A軽石混入。1層より細粒。
3. # ローム粒混入、AS-A軽石少量含む。
4. 黒褐色土 ロームブロック混入。細粒で締っている。
5. # ローム粒混入。細粒で固く締った土。
6. 明褐色土 細粒で粘性あり、締っている。

S P B-B'

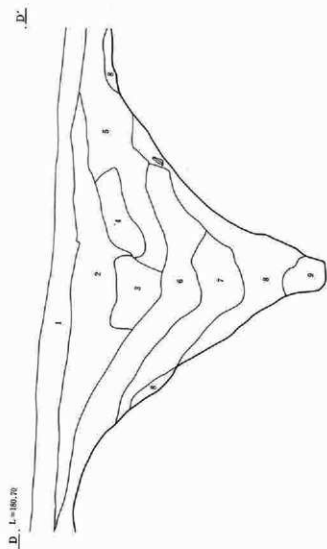
1. 黒褐色土 ローム粒、AS-A軽石少量混入。細粒で強い。
2. 暗褐色土と黄褐色土との混合土 細粒で締りあり。
3. 暗褐色土 ローム粒混入。細粒で締りあり。
4. # ロームブロック混入。締りはあるが、粗粒。

S P C-C'

1. 暗褐色土とロームブロックの混合土 細粒で強い。
2. 黒褐色土 少量のローム粒、炭化物粒混入。細粒で締る。
3. # ローム粒多量に混入。細粒で締りある土。
4. 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック多量混入。細粒で締り弱い。



第644図 1号溝

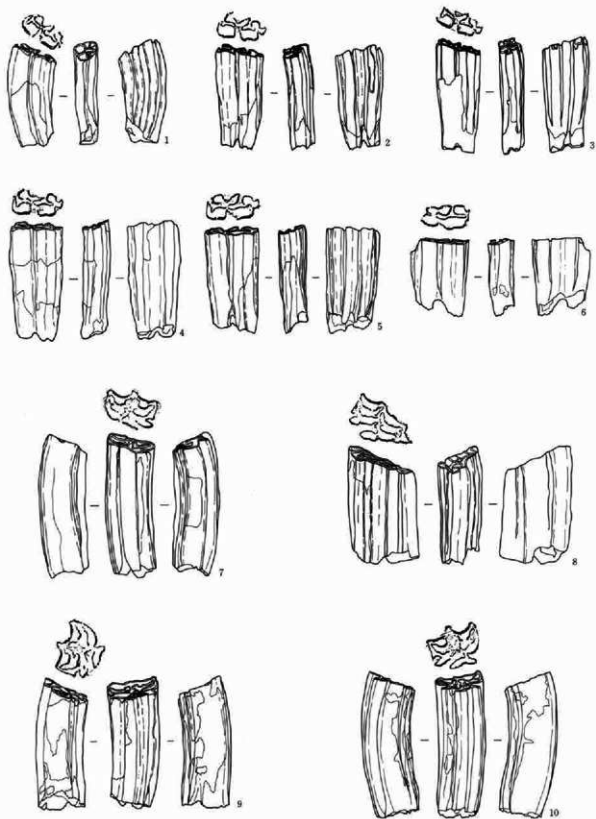


SPD-D'

1. 黒褐色土 AS-A軽石混入。粗粒で粘りなし。耕作土。
2. # ローム粒多量に混入。細粒で粘り弱い。
3. 暗褐色土と黄褐色土の混合土 細粒で粘性あり。
4. 黒褐色土 軽石ブロック状に混入。砂質土。
5. # ローム粒、ロームブロック少量混入。軽石混入。
6. # ローム粒、炭化物、B軽石少量混入。
7. 暗褐色土 ローム粒多量に混入。炭化物、軽石少量混入。
8. 暗褐色土と黄褐色土の混合土 粗粒で強い。
9. 黒褐色土と黄褐色土の混合土 細粒で強い。

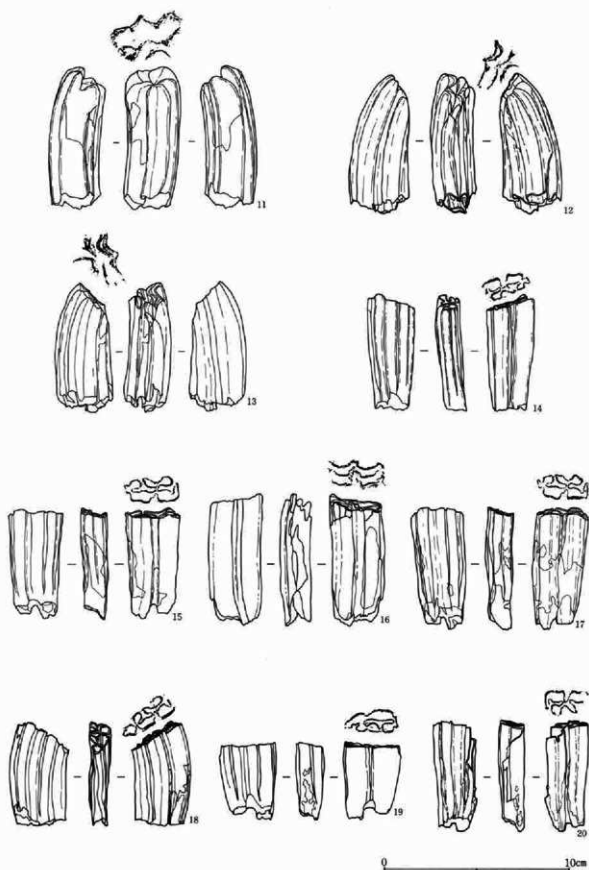
0 1m



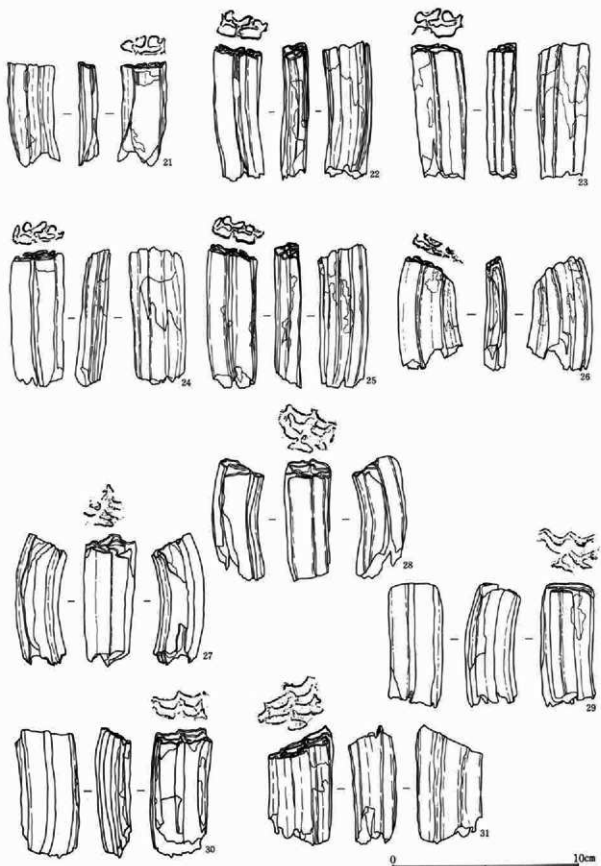


0 ————— 10cm

第646图 1号溝出土馬齒(1)



第647図 1号溝出土馬歯(2)



第648图 1号清出土馬齒(3)

第3章 検出された遺構と遺物

表4 1号馬臼歯計測値(単位はmm)

		A							C						
		左下顎臼歯							右下顎臼歯						
	歯種	第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯	第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯		
歯冠長	咬合面	30.7	27.7	26.4	24.5	24.1	30.2 e	29.7	28.0	26.2	22.4+	24.3	29.8		
	中央	26.7	26.8	24.7	24.9	29.7e		26.4	25.6	21.1+	23.7	30.1			
歯冠幅	咬合面	12.7	14.5	14.0	13.3	12.2	11.8	12.7?	14.9	14.5	13.1	11.7	12.3		
	中央	14.1	14.3	13.2	12.0	11.0	11.0		13.8	14.1	12.9	12.0	10.9		
	咬合面	10.7	14.1	13.7	12.0	11.0	10.9		14.2	13.7		10.8	10.7		
原歯幅	中央	14.0	13.9	12.1	11.3	10.5		14.0	13.3	11.3	11.0	10.0			
	頰側	29.0	43.0	53.4	43.0	47.7	44.7	28.0	46.2	53.2	49.3	52.5	47.9		
歯冠高	舌側	28.0	43.0	53.2	46.2	49.7	44.0 e	26.3	44.0	52.2	49.6	52.0	47.8		
	頰側	5.0	8.8	8.8	7.8	7.4	8.1	5.6	9.2	8.8	8.0	7.4	7.9		
下後齧谷長	下内齧谷長	17.2	13.1	11.1	7.6	7.9	9.1	17.3	13.1	11.3		8.2	9.4		
	咬合面	13.9	15.5		13.5	12.4	11.9	13.6	16.0	14.8	13.3	12.7	12.2		
double knot	長中央		15.4	15.6	13.0	12.0	11.9		16.0	14.8		12.0	11.9		
咬合面の傾斜		85°	85°	86°	78°	76°	68°	90°	86°	84°	80°	73°	65°		
下内齧幅		5.2	5.4	5.2	4.5	4.5	4.3	5.5	5.9		5.5	3.6	4.4		

2号馬 (B)

		C			上顎臼歯								
		右	左		右	右	右	右	右	右	左	右	
	歯種	第二前臼歯	第三後臼歯		第二前臼歯	第三前臼歯	第二後臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯	
歯冠長	咬合面	28.6		歯冠長	咬合面	34.8	26.8	28.5			26.1	25.9	
	中央	27.5	27.4	中央	35.8	24.4	26.7			24.8	24.6	28.0	
歯冠幅	咬合面			歯冠幅	咬合面	22.6	25.0	23.0			24.2		
	中央	21.9		中央	22.2	25.4	26.4			24.7		22.2	
原歯幅	咬合面			原歯幅	咬合面	9.1	12.7	12.3			14.4	13.3	
	中央	16.4		中央	8.8	12.5	12.0			15.3		15.9	
歯冠高	頰側	61.0	57.3	歯冠高	頰側	46.9	63.0	70.8+	71.3	68.2	64.0+		
	舌側		51.8	舌側	49.6	57.0	69.6+	59.5	62.7	62.2	60.0+		
咬合面の傾斜				咬合面の傾斜		100°	80°	80°			80°	76°	58°
エナメル褶曲数		222?		エナメル褶曲数		3422	1340				1310	1311	
中附齧幅	咬合面	4.9		中附齧幅	咬合面	4.7	3.6				3.8	3.7	
	中央	5.1	3.3	中央	4.6	3.4	4.4			4.3	4.2	3.8	

2号馬 (D)

		左下顎臼歯						
	歯種	第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯	
歯冠長	咬合面	23.3+	28.0	26.9	24.6	24.8	29.5	
	中央	23.1+	26.4	26.7	23.4	25.2	31.5	
歯冠幅	咬合面	14.0	12.2	13.7	12.0	9.5		
	中央	15.2	14.8	13.5	12.6	11.6		
原歯幅	咬合面	15.0	13.3	12.5	11.4	9.1		
	中央	15.2	14.4	12.7	12.1	11.1		
歯冠高	頰側	63.8?	64.4+	61.8	65.5+	53.5+		
	舌側	44.7	64.6	69.3+	60.3	67.0	58.0+	
下後齧谷長	下内齧谷長	16.1	14.4	11.4	9.5	10.9		
	咬合面	14.2	15.0	13.2	14.1	12.2	11.3	
double knot	長中央	14.0	16.5	15.9	14.1 e	12.3 e	11.9	
咬合面の傾斜		98°	90°	90°	82°	73°	72°	
下内齧幅		6.3	6.2	5.5	4.2	4.4		

4号馬 (E)

		左上顎臼歯						
	歯種	第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯	
歯冠長	咬合面	35.3	28.2	27.9	26.2	25.9	欠損	
	中央	34.2	26.3	27.4	23.7	24.6		
歯冠幅	咬合面	22.5	23.1	22.7				
	中央	25.7	23.2	22.9				
原歯幅	咬合面	13.1	13.5	14.7				
	中央	13.0	12.8	14.2				
歯冠高	頰側	51.7+	64.5+	62.0+	58.0+	66.8+		
	舌側		54.0+	53.1	54.2+			
咬合面の傾斜		95	82	88	79			
エナメル褶曲数		2141						
中附齧幅	咬合面	3.3	3.4		3.4	2.7		
	中央	3.9	4.4	3.6	3.2	3.3		



## 2号溝 (第649図、PL63)

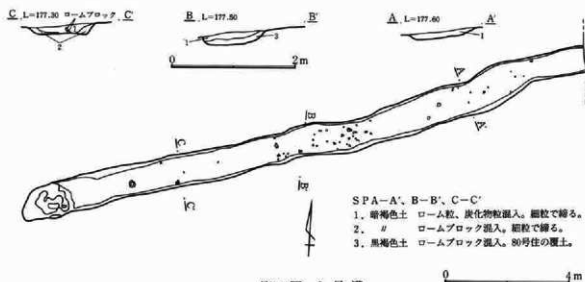
V-45グリッドに位置する。長さ10.5m、幅約2m、深さ約0.2mで底面は北に傾斜している。土器片が出土しているが、覆土の状況などから、近代の耕作溝と考えられる。



第649図 2号溝

## 3号溝 (第650図、PL63)

U-44、V44グリッドに位置する。長さ6.2m、幅1.1m、深さ0.2mを測る。自然傾斜にほぼそって走る。覆土の状況から見て近代の耕作溝と考えられる。



第650図 3号溝

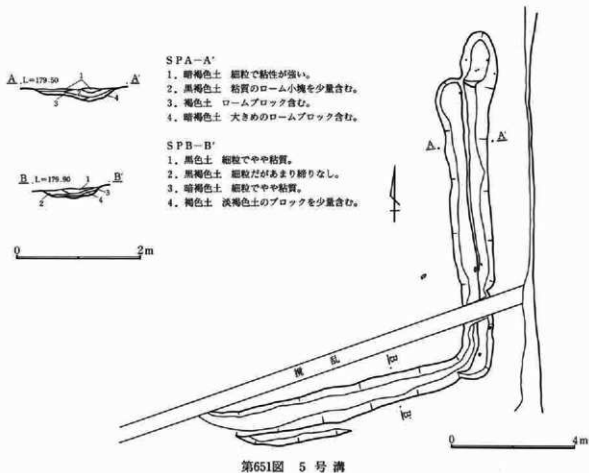
## 5号溝 (第651図、PL63)

O-22、P22、P23グリッドに位置する。長さ11.5m、中央部分が折れてL字状を呈す。幅は1.2m。南側部分は竈川用水に沿って走る。近代に掘られたものである。

## 6号溝 (第652・653図、PL63)

調査区の北端にO-23・24グリッドにおいて検出した。断面V字状を呈し、長さは30m程検出した。深さは0.7~0.9mを測る。現在の地割と重なっている。

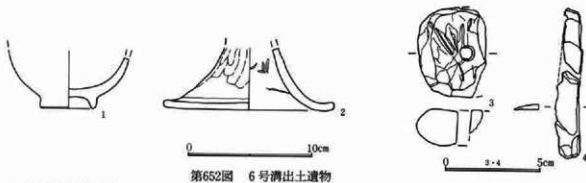
第3章 検出された遺構と遺物



第651図 5号溝

7号溝 (第654図、PL63)

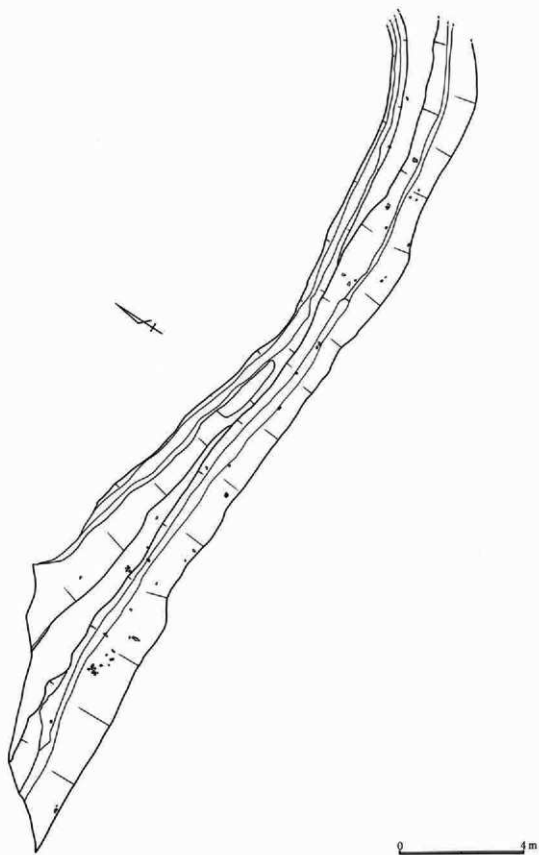
Q-27グリッドに位置する。調査区の北端に検出、南北方向に走る。走行。レベルなどから見て、南側続く15号溝の一部と考えられる。



第652図 6号溝出土遺物

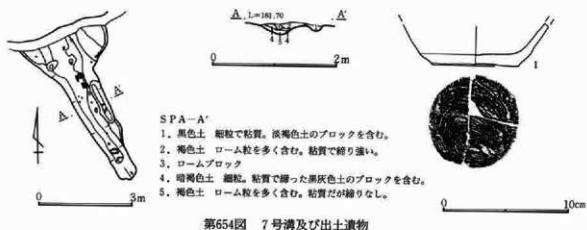
6号溝出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径器高 高径(cm)	胎土 色調	成・整形の特徴	備考
1	陶器 埴	覆土	4.4	夾雑物無し 緑色 堅致	ロクワ成形	
2	土師器 高杯	覆土	13.8	微砂粒含む 淡黄褐色 良	外 蓋取り 内 瓦施で	脚部片
3	紡錘車	覆土	径4.8cm、厚さ1.8cm、重さ47.5g。	石材は滑石質片岩。半分程欠損、摩滅が著しい。		
4	鉄製品	覆土	刀子。長さ(7.8cm)、幅1.4cm、厚さ0.3cm、重さ5.9g。破損品。			



第653図 6号溝

第3章 検出された遺構と遺物



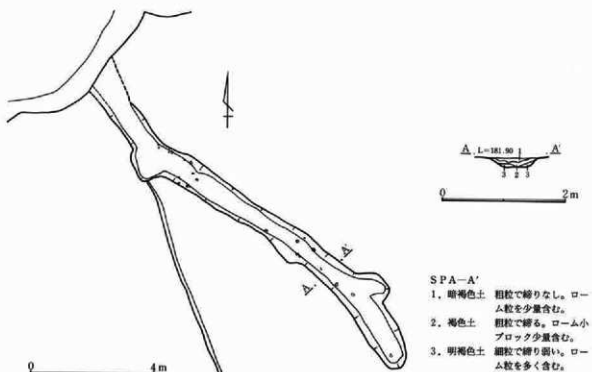
第654図 7号溝及び出土遺物

7号溝出土遺物観察表

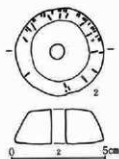
図番号	遺種	出土位置 (cm)	口 径 器 高 底径 (cm)	土 質 色 調	成・形状の特徴	備 考
1	須恵器 杯	覆土	7.0	微砂粒含む 灰褐色 黄	ロクロ成形 底面回転未切り(右)	

8号溝 (第655・656図、PL63)

Q-28、R-28グリッドに位置する。かなり削平されており、遺存状態は悪い。走行、レベルなどから見て16号溝の一部が残ったものと考えられる。



第655図 8号溝



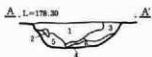
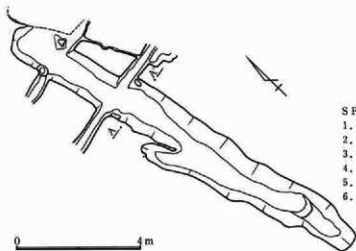
第656図 8号溝出土遺物

## 8号溝出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	器 高 底高 (cm)	胎 土 焼 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	土師器 環	覆土	(15.2)		砂粒含む 良	茶褐色	外 口縁部横線で 体部窪削り 内 口縁部横線で 体部削で	
2	紡錘車 環	覆土	径4.7cm、孔径0.7cm、厚さ1.3cm、重さ52.6g。石材は蛇紋岩。					

## 9号溝 (第657図、PL63)

R-41、S-41グリッドに位置する。掘り方が不明瞭で、何度が掘り直された形跡が見られる。長さ約12m、幅約2.0mである。性格は不明であるが近世以降の所産であろう。



## SPA-A'

1. 暗褐色土 粘質で固く締る。細粒の白色鉱物を多く含む。
2. 黒褐色土 やや粗粒で締り弱い。
3. 褐色土 ローム小塊、黒褐色小塊多く含む。粗粒で締り弱い。
4. ローム 黒褐色土小粒を含む。粗粒で締り弱い。
5. 暗褐色土 大きめのロームブロック多く含む。
6. 黄褐色土 粗粒で締り弱い。暗褐色土ブロックを少量含む。

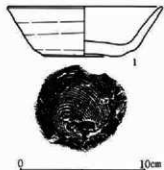
第657図 9号溝

## 10号溝 (第659図)

I区、谷地部N-18グリッドにおいて検出された。ほぼ南北に走り、北端は調査区外に延びる。検出した長さは7mで、幅は約2mである。11号溝と接する。時期は近世以降。

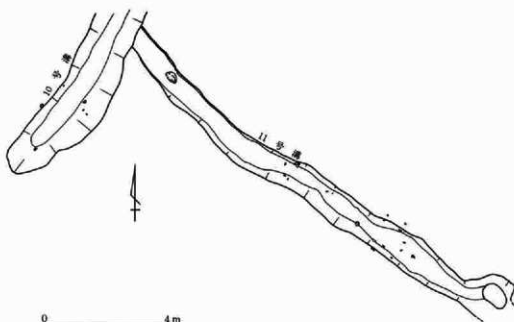
## 11号溝 (第658・659図)

I区西斜面が終わった部分にあり、北西方向に下る。幅は1.0-1.5mで、検出した長さは約40mである。近世の地割溝である。



第658図 11号溝出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



第659図 10・11号溝

11号溝出土遺物観察表

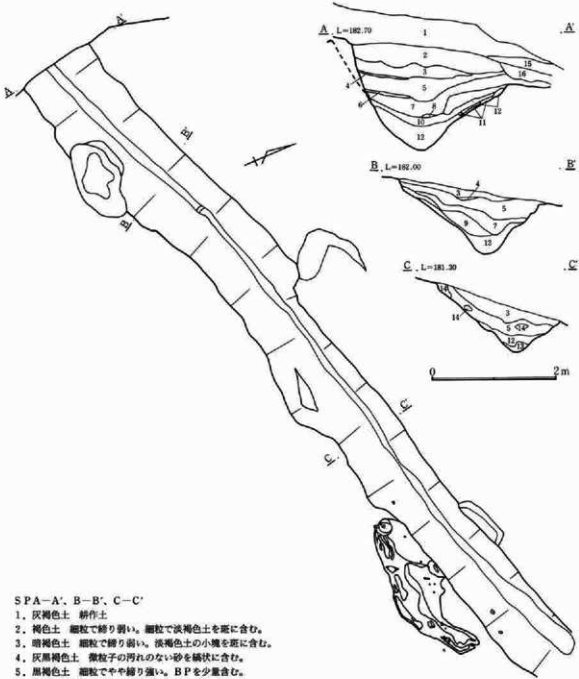
図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 (cm)	器 高 (cm)	胎 土 成 色 調	成・整形の特徴	備 考
1	須恵器 坏	覆土	12.6	4.0	砂粒含む 黄	明灰色 ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	

12号溝 (第660・661図、PL63)

調査区の南寄り、U-35、V-36グリッドに位置する。やや北に傾斜する斜面部分にあり、西から東に下る。長さは約24mを検出した。上幅は2.0～2.5mで、深さは最大で1.5mを測る。断面V字の栗研堀である。出土遺物は少ない。覆土中にAS-BPの混入が見られ、AS-APの層が上面の一部に掛かる事などから、時期は平安時代以降から江戸時代にかけての所産と考えられる。

13号溝 (第662図)

Q-7・8グリッドに位置する。長さ7m、幅は0.7m、深さは0.1m程である。掘り方、形状ともにやや不明瞭である。出土遺物は無く、時期は不明。



SPA-A', B-B', C-C'

1. 灰褐色土 耕作土
2. 褐色土 細粒で締り弱い。細粒で淡褐色土を斑に含む。
3. 暗褐色土 細粒で締り弱い。淡褐色土の小塊を斑に含む。
4. 灰黒褐色土 微粒子の汚れのない砂を塊状に含む。
5. 黒褐色土 細粒でやや締り強い。B Pを少量含む。
6. 黒色土 中に4層と同様な砂を塊状に含む。
7. 黒褐色土 5層と近似するが淡褐色土少量含む。
8. 褐色土 B Pを斑に含む。湿気が強く、やや粘質。
9. 明褐色土 細粒で締り弱い。淡褐色土塊を斑に含む。
10. 黒色土 細粒で湿気が強く、やや粘質。
11. ロームブロック
12. 褐色土 粘質でローム小粒を多く含む。黒色土小塊少量含む。
13. 暗褐色土 質は12層とほぼ同じ。B Pを少量含む。
14. 黒色土 細粒で締り弱い。
15. 褐色土 AS-A粒石多く含む耕作土。
16. 暗褐色土 A粒石若干含む締まりなし。木の根の擾乱あり。

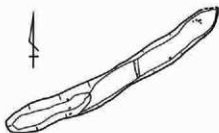
0 4m

第660図 12号溝

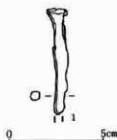
### 第3章 検出された遺構と遺物

12号溝出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 底径 (cm)	径 器 高	胎 土 成	色 調	成・整形の特徴	備 考
1	鉄製品	覆土	釘。長さ5.5cm、幅0.5cm、厚さ0.5cm、断面四角形、先端部欠。					



第662図 13号溝



第661図 12号溝出土遺物

#### 15号溝 (663~667図、PL64)

II区の最も高くなった部分より、北からやや西に振れた方向に下っている。検出した長さは約70m程である。上端部は幅2mで深さは約0.3mと浅いが、北端は幅6mで深さは約1.2mを測る。なお北端の部分は、近年の農業用水管付設の為に作られたコンクリート壁によりカットされているが、最も北端に底部の1部分が確認（調査時は7号溝として調査）されている。道としての機能していた可能性も考えられる。

出土遺物は多く、特に須恵器の大壺や、蓋類の破片が北側部分でまとまって、検出されているが、いづれもかなり上層からの出土である。時期は出土遺物などから考えて中世以降と思われる。

#### 16号溝 (第663・668図、PL64)

II区の高い部分、W-24グリッドで15号溝から分岐して、ほぼ平行するように北西に向かって走る。検出した長さは62mである。平均の幅は2m程で、深さは最大0.5mと比較的浅い。

出土遺物は15号溝に比べて極めて少ない。道としての機能も考えられる。時期は出土遺物は少ないが、覆土の様子などから15号溝とほぼ同時期と考えられる。



SPG-G'

1. 褐色土 細粒だが締りなし。
2. 暗褐色土 やや粗粒。締り弱い。
3. 黄褐色土 細粒で締りなし。

G L=190.30



F L=182.70



E L=184.80



D L=186.00



C L=187.00



B L=188.00



A L=189.80



0 10 m

15号溝

1. 暗褐色土 粗粒でやや締り弱く、AS-B軽石を全体に多く含む。
2. 原褐色土 細粒でやや締りあり粘質。AS-B軽石を少量含む。
3. 暗褐色土 細粒でやや締り弱い粘質。軽石を少量含む。
4. 褐色土 細粒で締り弱く、やや粘質。黄褐色土少量混入。
5. 黄褐色土 細粒で締り弱く、粘質。褐色土少量混入。
6. 褐色土 粗粒でやや締り弱く、粘質。AS-B軽石を全体に含む。
7. B軽石層 係1mm-3mm粒
8. 暗褐色土 粗粒で締り、軽石多く含む。褐色土混入。

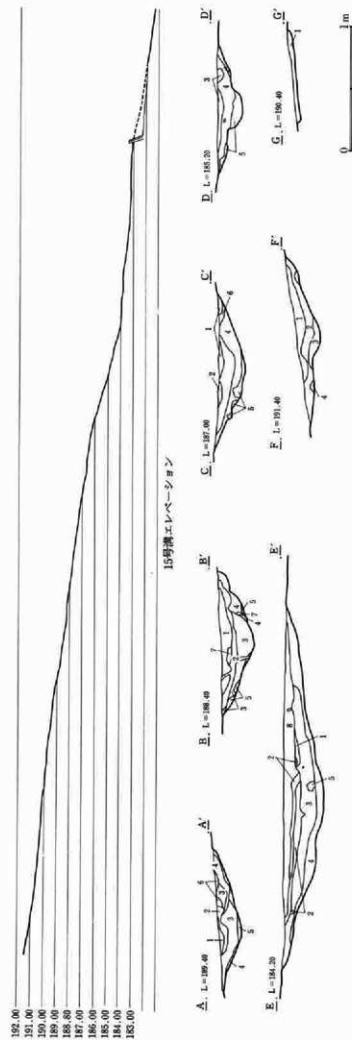
16号溝

SPA-A'~SPF-F'

1. 褐色土 細粒で締り弱く、粘質。軽石、黄褐色土少量混入。
2. # 粗粒で軽石含み、若干の炭化物を含み粘質。
3. # やや細粒で締り弱い。褐色土と黄褐色土が混入。
4. 暗褐色土 細粒でやや締り、褐色土と黄褐色土少量混入。
5. 黄褐色土 細粒で、軽石若干含む。締り弱く褐色土少量混入。
6. 暗褐色土 粗粒で締り弱く軽石、黄褐色土少量混入。
7. # 粗粒で締り弱く白色軽石含み、若干の粘土を含む。
8. 褐色土 粗粒で締りあり、炭化物、粘土全体に少量混入。
9. 暗褐色土 粗粒で締り強く、砂質。全体厚く、茶褐色土団状に少量混入。
10. # 粗粒で締り強くやや粘質。褐色土少量混入。

0 10 m

第663図 15・16号溝



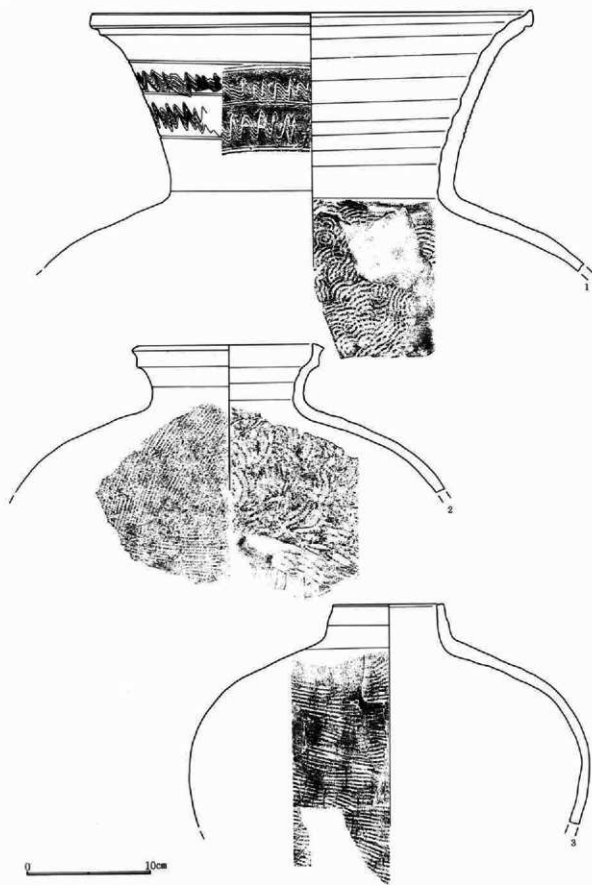




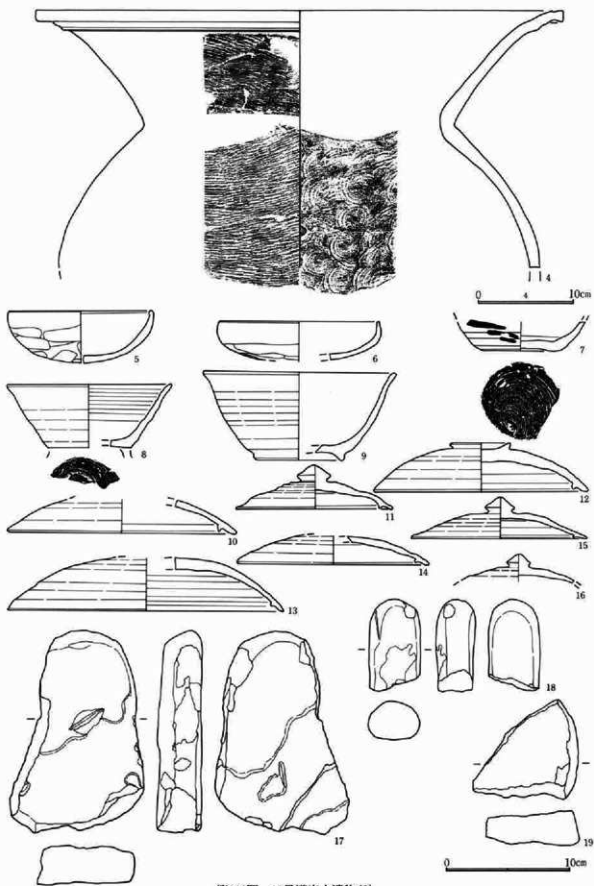
第664图 15号溝遺物出土状態

0 4m





第665図 15号溝出土遺物(1)



第666図 15号溝出土遺物(2)

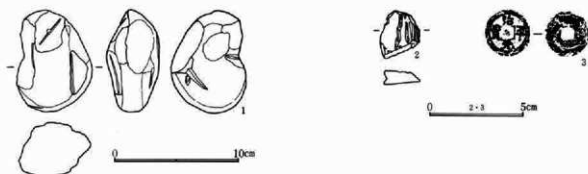


第667図 15号溝出土遺物(3)

## 15号溝出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 底径 (cm)	径 高	胎土 成	色調	成・整形の特徴	備考
1	須恵系 大 壺	覆土	(35.2)		砂粒含む 良	灰黒色	口縁部横撫で外面割部撫で、内面青海波文	頸部3本の沈線、間に波状文
2	須恵系 壺	覆土	15.6		砂粒含む 良	灰黒色	外面 平行叩目 内面 波粒撫でて痕	横尻か
3	須恵系 短頸壺	覆土	(9.1)		砂粒含む 良	灰色	外面 平行叩目 内面 当て痕	
4	須恵系 大 壺	覆土	(56.0)		砂粒含む 良	灰色	外面 平行叩目 内面 青海波文様の当て痕	頸部に3ないし4段の波状文
5	土師系 環	覆土	11.6	(4.1)	微砂粒含む 良	茶褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部撫で
6	土師系 環	覆土	13.0		微砂粒含む 良	茶褐色	外 口縁部横撫で 内 口縁部横撫で	体部撫で
7	須恵系 環	覆土	6.0		微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り (右)	外面磨書
8	須恵系 埴	覆土	(15.4)		砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り (右) 付け高台	高台欠
9	須恵系 埴	覆土	(15.8) (7.3)	6.9	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り (右) 付け高台	
10	須恵系 蓋	覆土	(18.6)		微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 外面天井部回転削り	
11	須恵系 蓋	覆土	(12.7)	3.5	砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形	やや狭き蓋み有り
12	須恵系 蓋	覆土	(17.4)	3.9	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 外面天井部回転削り	
13	須恵系 蓋	覆土	22.5		砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 外面天井部回転削り	大型品
14	須恵系 蓋	覆土	(15.6)		砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 外面天井部回転削り	
15	須恵系 蓋	覆土	14.4	3.3	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 外面天井部回転削り	
16	須恵系 蓋	覆土			砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形 外面天井部回転削り	
17	砥石	覆土					長さ16.0cm、幅10.8cm、厚さ3.6cm、重さ636g。石材は牛伏砂岩。	
18	磨り石	覆土					長さ7.3cm、幅4.2cm、厚さ3.2cm、重さ99g。石材はダイオサイト質凝灰岩。丸棒状を呈す。破損品。	
19	台石	覆土					長さ7.8cm、幅8.5cm、厚さ3.0cm、重さ197g。石材は牛伏砂岩。破損品。側縁は丸く、使用面はややくぼむ。	
20	砥石	覆土					長さ8.2cm、幅5.4cm、厚さ2.3cm、重さ108g。石材は砂岩。側縁は丸味を持ち、使用面は平坦。	
21	鉄製品	覆土					鉄線。長さ7.2cm、幅2.8cm、厚さ0.6cm、重さ11.7g。茎に環を持つ。片方に逆刺を欠く。	
22	鉄製品	覆土					石突き。長さ7.3cm、径2.0cm、厚さ23.6g。先端部を欠く。	
23	鉄製品	覆土					刀子。長さ5.0cm、幅1.5cm、厚さ0.65cm、重さ12.4g。やや厚手である。両端部を欠く。	

### 第3章 検出された遺構と遺物



第668図 16号溝出土遺物

16号溝出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口 径 器 高 底径 (cm)	胎 土 色 調 成	成・整形の特徴	備 考	
1	砥石	覆土	長さ8.0cm、幅4.3cm、厚さ4.2cm、重さ112g。	石材は二ツ岳砂石。	内縁を利用。複数の使用面は平らで刃研溝が見られる。		
2	帯石 石片	覆土	長さ2.3cm、幅2.0cm、厚さ0.7cm、重さ5.2g。		表面に刃物による削り痕。		
3	古銭	覆土	治平元寶 宋銭、1064年初鑄				

#### 17号溝 (第669図)

J-23、K-22グリッドに位置する。取り付け道路部分に検出した。ほぼ南北に走る。幅1.0~2.0mで、深さは0.2mと浅い。出土遺物は無く。時期、性格等は不明である。

#### 18号溝 (第669図、PL64)

U-25グリッドに位置する。123号住居跡と124号住居跡を繋ぐような形で掘られている。幅0.5mで底面は凹凸が著しい。耕作による溝と考えられる。

#### 19号溝 (第669図、PL64)

S-24グリッドに位置する。北斜面にあり、検出された長さは、約6mである。幅は1.0m程であるが、掘り方の線は直線的でない。

#### 20号溝 (第670図)

取り付け道路部分、F-29グリッドにおいて検出した。南北に走り、検出した長さは5m程で、南の部分は調査区外になる。時期は近世以降の所産と考えられる。

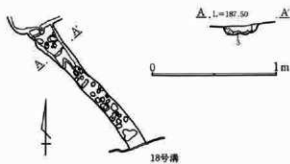
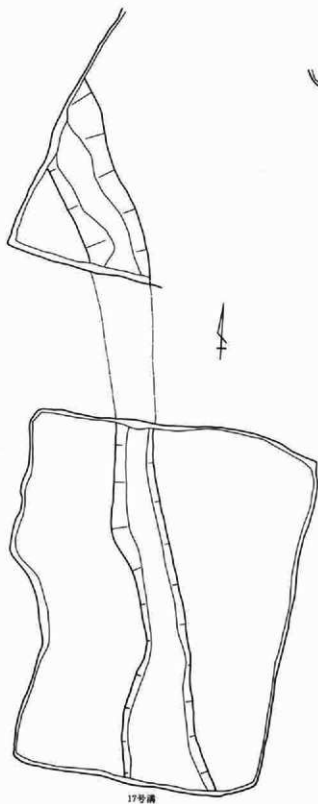
#### 21号溝 (第670図、PL64)

F-22、G-22グリッドに位置する。長さ約6.0m、幅約1.0mで深さは0.1cm内外と浅い。土の状況などから、近世以降の耕作溝と考えられる。

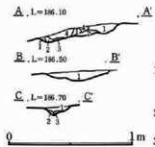
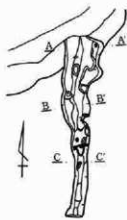
#### 22号溝 (第670図)

F-23グリッドに位置する。長さ約15m、幅約1.0m、深さ約0.2mで、ほぼ直線的に走る。用途は不明であるが、時代的には極めて新しいものである。





1. 暗褐色土 細粒で締り弱い。褐色土少量混入。
2. 褐色土 細粒で締り弱く、やや粘質。黄褐色土少量混入。
3. 黄褐色土 粗粒で締りあり。砂粒を全体に含む粘質。

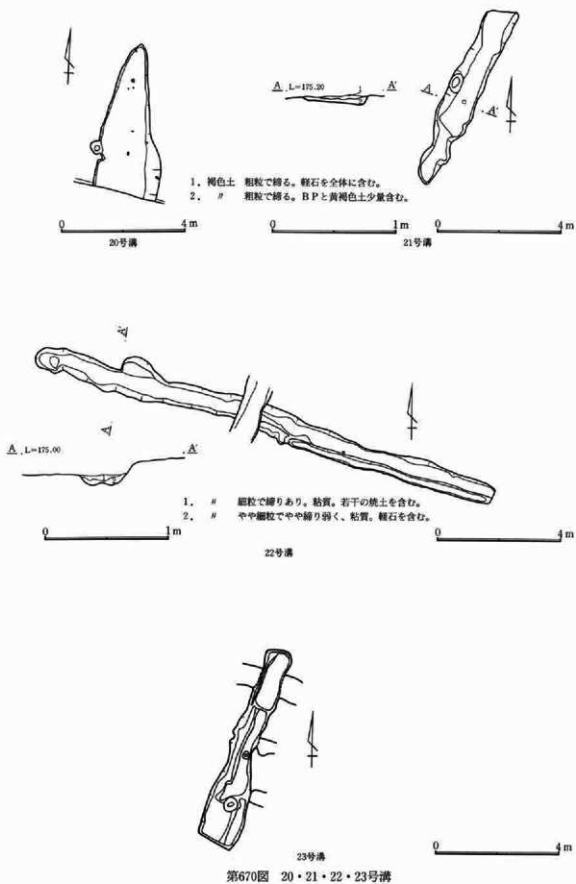


1. 褐色土 細粒でやや締り弱く、黄褐色土少量混入。
2. 黄褐色土 細粒で締り弱く、粘質。
3. # 細粒で締り強く、粘質。
4. 暗褐色土 やや粗粒で締りあり。上部に礫石を含む。

第669図 17・18・19号溝



第3章 検出された遺構と遺物



## 23号溝 (第670図、PL64)

F-23、G-23グリッドに位置する。22号溝とほぼ直交する。長さ6.5m、幅約1.0m、深さ0.2～0.3mで底部の凹凸が著しい。近世の耕作溝と思われる。

表5 溝一覧表

溝番号	グ リ ッ プ	走行	上幅×深さ	長さ	断面形	標高差	時 期	備 考
1号溝	Q-47、R-47、S-47、U-46、T-48、V-45	→北西	2.0×1.0m	61m	V字形	約5m	中 世	南端部に馬歯 馬骨出土
2号溝	V-44	→東	2.0m×0.3m	11m	箱形		近 世	耕作溝
3号溝	T-45、46	→東	1.0×0.2m	18m	箱形	約0.5m	近 世	耕作溝
4号溝	穴番							
5号溝	P-22、23	東→北	1.3m×0.2m	23.0m		約0.8m	近 世	中央でL字に折れる
6号溝	0-22～26	→東	2.5m×0.9m	26.0m	V字形	約1.0m	近 世	地境の溝
7号溝	Q-27	→北西	1.5m×0.3m	5.0m	V字形	約45cm	平安時代	15号溝と同一
8号溝	Q-28、R-28	→北西	1.0m×0.2m	12.5m		約90cm	平安時代	16号溝と同一
9号溝	R-41、S-41	→北	1.5m×0.3m	12.2m	溝跡形	約1.2m	近 世	耕作溝
10号溝	N-18	→北	1.5m×0.3m	6.0m	溝跡形	殆どなし	近 世	
11号溝	P-15、O-16、N-17、N-18	→北西	1.0×0.2m	40.0m		約1.6m	近 世	地境の溝
12号溝	U-35、V-36	→北東	3.0m×1.5m	24.0m	V字形	約1.5m	近 世	地境の溝
13号溝	Q-7、8	→北東	0.7m×0.2m	7.5m	箱形	約0.5m	不 明	
15号溝	W-23、V-24、U-24、T-24	→北西	6.0m×1.2m	70.0m	V字形	約16m	平 安	須恵器大甕、甕類
16号溝	V-24、U-25、T-26、S-27	→北西	1.5m×0.3m	62.0m	V字形	約8m	平 安?	出土遺物は少ない
17号溝	K-22、J-23	→北西	2.5m×0.1m	20.0m	箱形	約0.5m	不 明	出土遺物なし
18号溝	U-25	→北西	0.5m×0.1m	5.0m	不 定	約0.5m	近 世	底の凹凸著しい
19号溝	S-24	→北	1.0m×0.2m	6.0m	不 定	約0.6m	近 世	形状不定形
20号溝	F-29	→北	2.0m×0.1m	4.2m	平坦	約0.2m	近 世	極めて浅い
21号溝	F-21、F-22、G-22	→北	1.0m×0.2m	6.0m	箱形	約0.1m	近 世	出土遺物なし
22号溝	G-22、F-23、F-24	→東	0.8m×0.2m	15.0m	溝跡形	約0.5m	近 世	出土遺物なし
23号溝	G-23	→北	1.2m×0.3m	6.5m	不定形	ほぼ平坦	近 世	出土遺物なし

## 第8節 土 坑

本項では前述した縄文および弥生時代を除いた他の土坑を取り上げて記述を行う。時期的に不明なものも含めて、新しいものは近代のものも含まれている。調査の時点で番号を付したのものに関しては総てを取り上げた。縄文、弥生時代の土坑については出土遺物を主体として時期の確定を行ったが、ここで取り上げるものについては遺物の検出されなかったものも含まれている。

1・2・3号土坑 耕作によるものである。

4～7号土坑 掘り方面に凹凸が見られる。時期は不明。

13号土坑 下部が小さく部分的に横穴状に入り込んでいる。

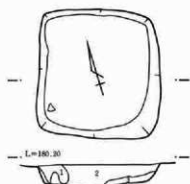
33号土坑 N-12グリッドにおいて検出した。やや不整形であるがほぼ方形を呈す。規模は約3.0×3.0mで深さは0.15mと浅い。大きさや形状から住居の可能性もあるが竈の痕跡や貯蔵穴、柱穴等はまったく確認できていない。出土遺物は少量の土師器、須恵器片である。

44号土坑 細長く、底は平坦で浅い。並ぶように罫が出土している。時期は近世以降であろう。

45号土坑 9号溝と重複、不定形な溝状を呈す。罫が出土している。

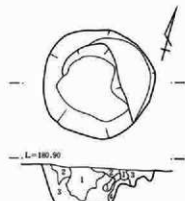
46号土坑 6号溝に北側半分を切られる。長円形で壁はやや丸味をもって立ち上がる、若干の焼土と多

第3章 検出された遺構と遺物



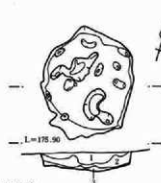
1号土坑

1. ロームと褐色土の混合土
2. 暗褐色土 ローム小塊、炭化物少量含む。
3. 明褐色土 ローム塊を少量含む。細粒だがあまり締りなし。



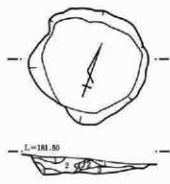
4号土坑

1. 黒色土 淡褐色土ブロックを斑点状に含む。
2. 暗褐色土 淡褐色土を斑点状に含む。細粒で粘質。
3. 褐色土 ロームブロックを少量含む。細粒だが締りなし。
4. 黄褐色土 ロームブロックを少量含む。



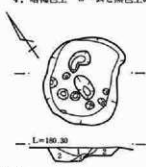
7号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒全体に混入。細粒で締り強い。
2. 暗褐色土 ローム粒、黒褐色土混在。細粒で締る。
3. 黄褐色土 ローム断片層。



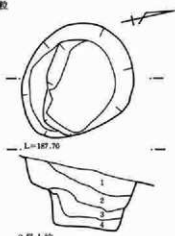
2号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒を少量含む。
2. 暗褐色土 ローム粒多く含む。締りなし。
3. 黒褐色土 1層よりローム粒を多く含む。黒味強い。
4. 暗褐色土 ロームと黒色土の混合土。



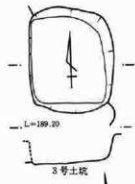
5号土坑

1. 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量含む。細粒だが締りなし。
2. 黒褐色土 粘質の黒色土小ブロック少量含む。
3. 褐色土 ロームブロックを少量含む。



8号土坑

1. 暗褐色土 ロームブロック多量に含む。
2. # ロームブロック多量に含む。黒色土を織状に含む。
3. # ロームブロック、黒色土の混入。
4. 灰白色土 灰白色粘土ブロック多く含む。

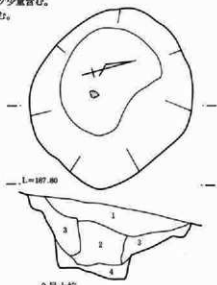


3号土坑



6号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒全体に密に混入。細粒だが、強い。
2. 暗褐色土 色の薄いロームブロック混入。細粒でやや締る。
3. 黄褐色土 ローム層。黒褐色土ブロック少量混入。
4. 暗黄褐色土 細粒で締りあり。

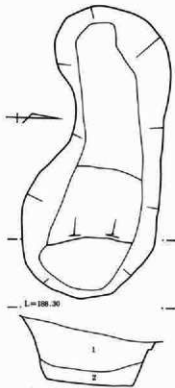


9号土坑

1. 暗褐色土 ロームを主体とし、白色礫石粒若干含む。
2. # 1層より黒味強く締る。
3. # ローム主体とし、粒子均質。
4. 明褐色土 ローム粒、白色粒子多量に含む。

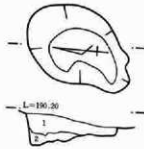
0 1m

第671図 土坑(1)



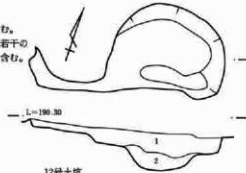
10号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒子、黒色土ブロックを含む。
2. 灰褐色土 灰白色粘土ブロック含む。



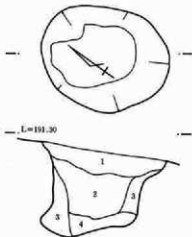
11号土坑

1. ローム粒子、若干の炭化物含む。
2. 黄褐色土 ローム主体とし、若干の暗褐色土ブロック含む。



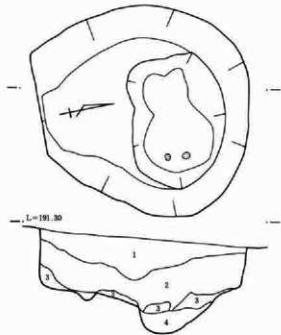
12号土坑

1. ローム粒子、若干の炭化物含む。
2. 黄褐色土 ローム主体とし、若干の暗褐色土ブロック含む。



13号土坑

1. 暗褐色土 ロームを多く含む。
2. # ロームと黒色土の塊状混土。
3. # 2層に似るが、ローム多く混入。
4. # ローム粒子含み、やや粘性あり。



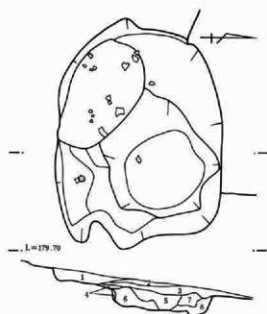
14号土坑

1. 暗褐色土 ロームを多く含み、黒色土ブロックを若干含む。
2. # 1層に似るが、ローム多く含む。
3. 明褐色土 ロームブロック。
4. 暗褐色土 ローム粒子を含み、粘性持つ。

0 1m

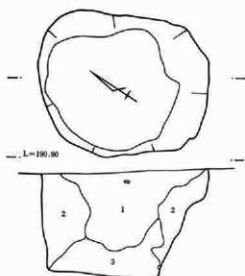
第672図 土 坑(2)

第3章 検出された遺構と遺物



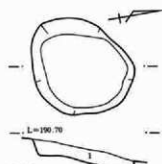
15・16号土坑

1. 暗褐色土 細粒で粘質のローム粒、炭化物含む。
2. 淡黄褐色土 粘土ブロック、黒色土交互に重なる。
3. 黒色土 細粒で粘質、炭化物若干含む。
4. 淡黄褐色土 黒色土粒多量混入。
5. 黒色土 ローム粒、ロームブロック少量含む。
6. # 5層より明るい色調。
7. # 黒味が強い。
8. # ローム小ブロック多く含む。



17号土坑

1. 黒色土 ローム粒子多く含む、汚れたロームブロック混入。
2. 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
3. 黒色土 ロームブロック及び軽石の混入目立つ。



18号土坑

1. 暗褐色土 ロームを主体とする。



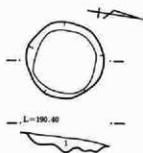
19号土坑

1. 暗褐色土 ローム多く含む。
2. # 若干の炭化物含む。



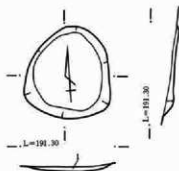
20号土坑

1. 黒褐色土 黒色土を底に含む。
2. # #
3. 黄褐色土 ロームブロック。



21号土坑

1. 暗褐色土 微砂粒を若干含む。



22号土坑

1. 暗黒褐色土 炭化物を多量に含む。



第673図 土坑(3)



L=189.10



23号土坑

1. 暗褐色土 ロームを底に含む。
2. 褐色土 ロームを主体とする。



L=176.60

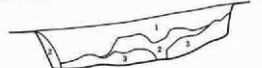


26号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒少量混入。細粒だが強い。
2. # ロームブロック多量に混入。細粒で締る。

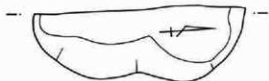


L=193.10



28号土坑

1. 黒褐色土 軽石粒子含み、ロームを底に含む。
2. # 締りあり、ローム多く含む。
3. 暗褐色土 ローム多量に含む。



L=188.90



24号土坑

1. 暗褐色土 ロームを含み、やや肉れた感じ。
2. # 茶褐色ロームブロック多く含む。
3. 褐色土 ロームブロック多く含む。



L=180.10



27号土坑

1. 黒褐色土 やや粒子が粗く、あまり締りなし。
2. 暗褐色土 1層とはほぼ同質。淡褐色土ブロックを含む。
3. 黄褐色土 大きなロームブロックを含み軟質。
4. 褐色土 黄褐色土塊多く含む。細粒だが締りなし。



L=190.90

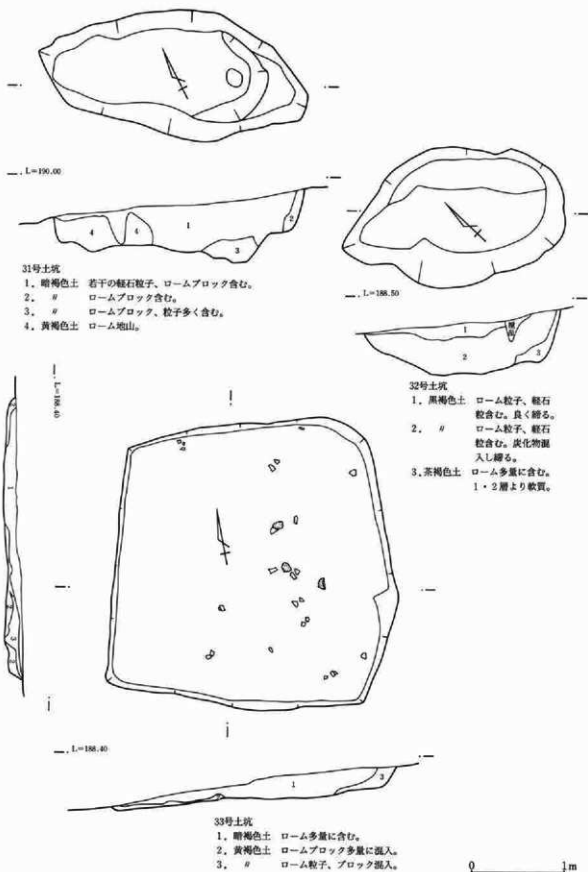


29号土坑

1. 暗褐色土 ローム含むが、照味強い。
2. # ローム多量に混入。

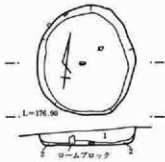
0 1 m

第3章 検出された遺構と遺物



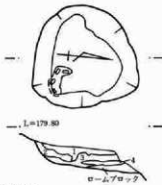
第675図 土坑(5)





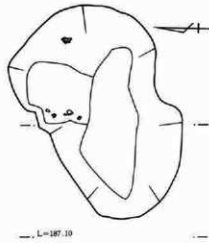
34号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒少量混入。細粒で締り弱い。
2. 暗褐色土 ローム粒混入。細粒で1よりも締る。



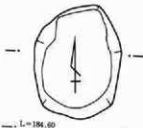
35号土坑

1. 黒色土 細粒だが、あまり締りなし。
2. # 1層よりも、やや黒味あり、細粒でやや粘質。
3. 黒色土とローム小塊の混合土 締り強い。
4. # ローム粒を多く含む。締り弱い。

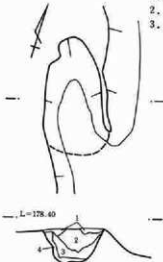


38号土坑

1. 暗褐色土 ローム多く含み、若干の軽石を混入。
2. 明褐色土 ローム主体とし、軟質。
3. # 2層に似るが、黒味がある。

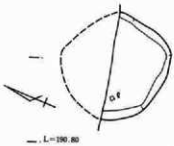


40号土坑



43号土坑

1. 黒色土 細粒。粘質。軽石を含む。
2. 暗褐色土 細粒。粘質で締り強い。
3. 褐色土 # # 弱い。ローム粒を多く含む。
4. 明褐色土 やや粗粒で締り弱い。ローム粒を多く含む。



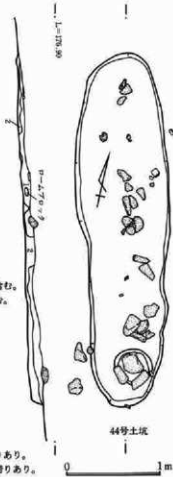
41号土坑



42号土坑

44号土坑

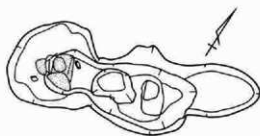
1. 黒褐色土 ローム粒、軽石少量混入。締りあり。
2. 暗褐色土 ローム粒混入。ざらざらして締りあり。



44号土坑

第676図 土坑(6)

第3章 検出された遺構と遺物



45号土坑

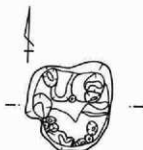


L=176.50



47号土坑

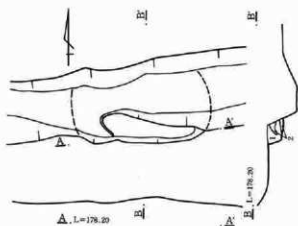
1. 黒褐色土 A 軽石混入。粗粒で強い(耕作土)
2. # ローム粒多量に混入。細粒で強い。
3. 暗褐色土と黄褐色土との混合土



L=176.30

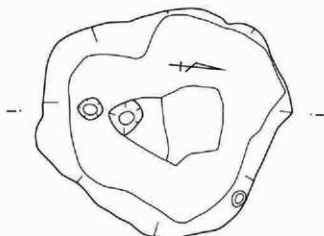
48号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒少量混入。細粒で弱りなし。
2. 黒褐色土とロームブロックの混合土 細粒で弱る。
3. 黄褐色土 ローム断片。



46号土坑

1. 褐色土 細粒で粘質。締り強い。炭化物、焼土粒少量含む。
2. # 多量の炭化物と少量の焼土粒を含む。
3. 暗褐色土 炭化物を比較的多く含む。



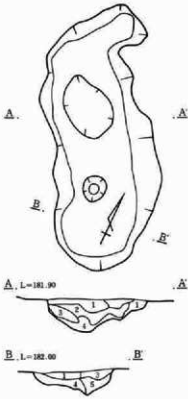
L=181.70

49号土坑

1. 暗褐色土 細粒だが、あまり締りなし。
2. 黒褐色土 細粒で比較的締る。部分的に土塊含む。
3. ローム 部分的に暗褐色土のブロックを含む。
4. 黒色土 細粒で締り強い。
5. 暗褐色土 ローム粒を含む。

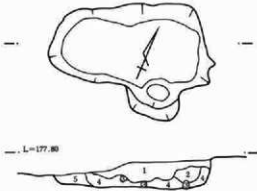
0 1m

第677図 土坑(7)



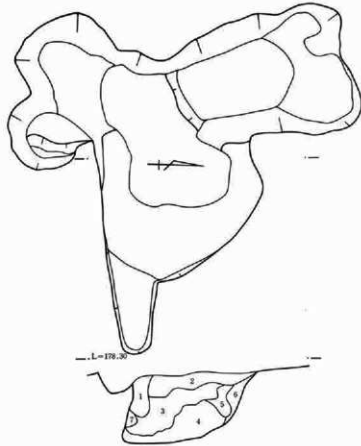
50号土坑

1. ローム 黒色土小塊を少量含む。
2. 黒褐色土 ローム小塊を少量含む。
3. 黒色土 細粒。
4. 黄褐色土
5. 褐色土 細粒で部分的に固い。



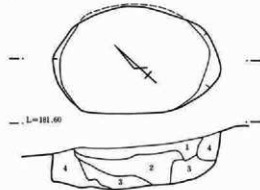
52号土坑

1. 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。細粒だが締りなし。
2. 暗褐色土 ローム粒を多く含む。細粒だが締りなし。
3. ロームブロック
4. 褐色土 比較的大きな塊を含み、細粒だが締り弱い。
5. 明褐色土 ローム粒を多く含む。細粒でやや粘質。



51号土坑

1. 黒色土 細粒でやや粘質。あまり締りなし。
2. 褐色土 細粒。締り弱い。
3. 暗褐色土 細粒。締り弱い。淡褐色土塊斑を含む。
4. 黒褐色土 # # 3層にほぼ同質。
5. 褐色土 細粒でやや粘質。
6. 黄褐色土 褐色土塊を含み、締り弱い。
7. ローム



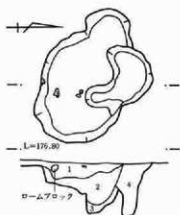
53号土坑

1. 黒褐色土 若干のローム粒子含む。
2. # ロームブロック多く含む。
3. 黄褐色土 # # ローム粒子目立つ。
4. # ロームブロック、粒子多く含む。黄色味強い。

0 1m

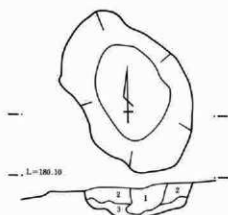
第678図 土 坑(8)

第3章 検出された遺構と遺物



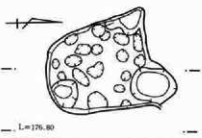
54号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒少量混入。細粒で固い。
2. # ローム粒、ブロック多量混入。細粒で締る。
3. 褐色土 黒褐色土ブロック混入。細粒で締り弱い。
4. 黒褐色土 ローム粒少量混入。1層に似るが、締り弱い。



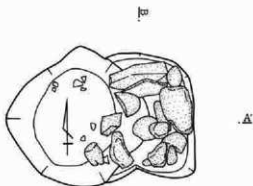
55号土坑

1. 黒褐色土 焼土、ローム、炭化物粒少量混入。細粒で締る。
2. # 焼土、炭化物粒少量混入。ロームブロック混入。
3. # 炭化物が層をなしている。締り良い。

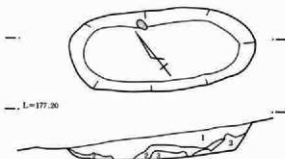


56号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒子ブロック混入。
2. # 1層に似るが、ロームを多く含む。
3. 黄褐色土 ローム主体とし、黒色土ブロック状に含む。



A, L=177.80

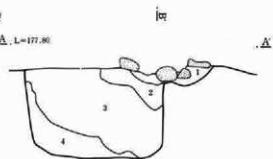


58号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒子、炭化物若干混入。
2. 淡黒褐色土 ロームブロック混入。
3. 暗褐色土 ロームブロック。

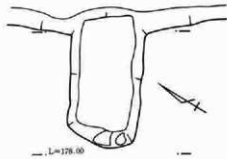
57号土坑

1. 黒褐色土 若干のロームブロック混入。
2. # ローム粒子、少量の焼土粒子含む。
3. # ロームブロック、炭化物多く混入。人為的埋土。
4. 黄褐色土 ロームブロックを多く混入。人為的埋土。



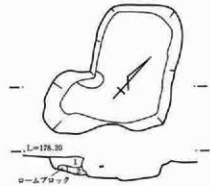
0 1m

第679図 土坑(9)



59号土坑

1. 暗黒褐色土 軽石粒を混入。
2. # ローム粒子、若干の炭化物混入。
3. # ローム粒子、炭化粒子含む。2層より黒味強い。
4. # ロームブロック多く含む。



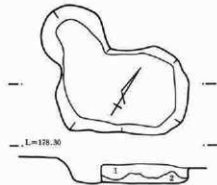
61号土坑

1. 褐色土 細粒で締り弱い。炭化物、焼土粒を多く混入。
2. 暗褐色土 細粒で締り強く、ローム粒を含む。



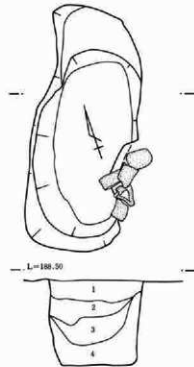
63号土坑

第680図 土 坑(10)



60号土坑

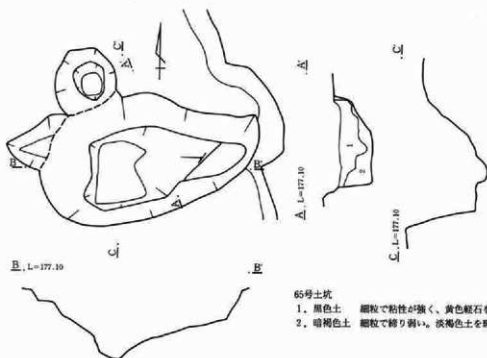
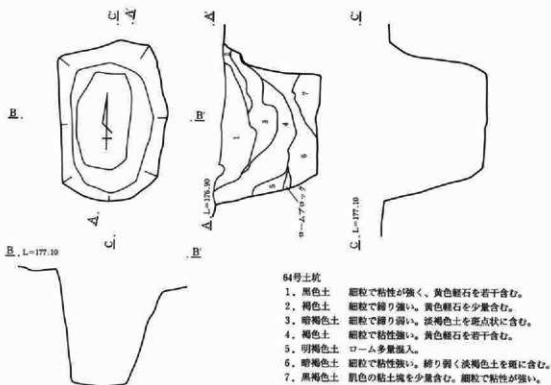
1. 暗褐色土 粗粒。炭化物若干、ロームブロック多く混入。
2. 黒褐色土 細粒で締り強い、ロームブロック多く混入。



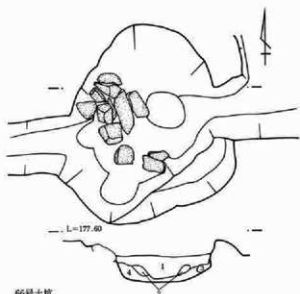
62号土坑

1. 褐色土 ロームブロックを多量に含み、締り強い。
2. 暗褐色土 ローム粒を少量含み、締り弱い。
3. 黒褐色土 ローム粒を少量含み、締り弱い。
4. 黒色土 ローム粒、小炭を少量含む。細粒で締り弱い。

0 1m

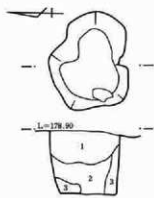


第681図 土坑(11)



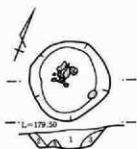
66号土坑

1. 黒褐色土 粗粒であり締りなし。ローム小塊多く含む。
2. 黒色土 細粒で締り強く、ローム粒を少量含む。
3. ロームブロック
4. 褐色土とロームの混合土 締り弱い。



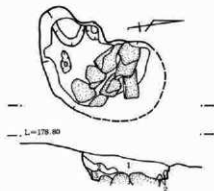
68号土坑

1. 黒褐色土 焼土粒子、炭化物多く含む。
2. # 1層に似るが、焼土粒子やや少なく、粘性あり。
3. 淡褐色土 2層に近似、淡褐色ローム混入し、粘性強い。



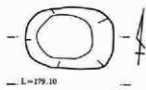
71号土坑

1. 黒褐色土 細粒で締り弱い。炭化物、小粒の軽石多く含む。
2. 暗褐色土 黄褐色土が少量混入。小粒の軽石含む。
3. 黄褐色土 黒褐色土が多く混入し、小粒の軽石を多く含む。

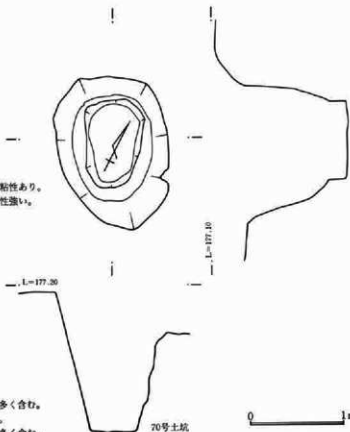


67号土坑

1. 暗褐色土 細粒で粘性。締り強く、炭化物を多量に含む。
2. 褐色土 細粒で締り強く、ロームブロックを含む。
3. 黒褐色土 細粒で粘性が強い。炭化物を多量に含む。



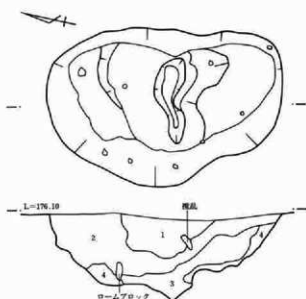
69号土坑



70号土坑

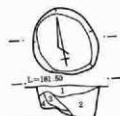
第682図 土 坑(12)

第3章 検出された遺構と遺物



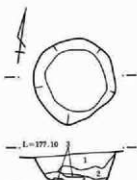
72号土坑

1. 暗黒褐色土 若干のローム粒子含む。
2. 暗褐色土 ローム粒子、ブロックの挿入目立つ。
3. # 色調は2層に似るが、ロームの混入やや少ない。
4. 黄褐色土 地山ロームの崩落ブロック多く混入。



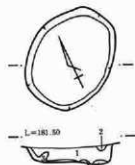
74号土坑

1. 黒色土 粗粒で締り弱い。礫石を含む。
2. 褐色土 細粒で締り弱い。
3. 明褐色土 #
4. 黄褐色土 細粒でやや粘質。締り弱い。



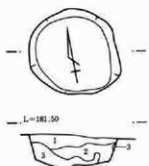
76号土坑

1. 黒褐色土 細粒だが締り弱い。ローム粒を多量に含む。
2. 褐色土 ローム粒含み、粗粒で締り弱い。黄白礫石少量含む。
3. 黒色土 細粒でやや粘質。
4. 黄褐色土 ロームと褐色土の混合土。



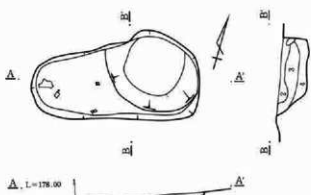
73号土坑

1. 黒色土 粗粒で締り強い。白色鉱物を多量に含む。
2. 灰黒色土 粗粒で締り弱い。
3. 黒色土とロームの混合土



75号土坑

1. 黒色土 粗粒だが締り弱い。礫石多く含む。
2. # 1層よりもやや黒味が強く、粒子も細かい。
3. # B Pロームの混土 締りあまりなし。



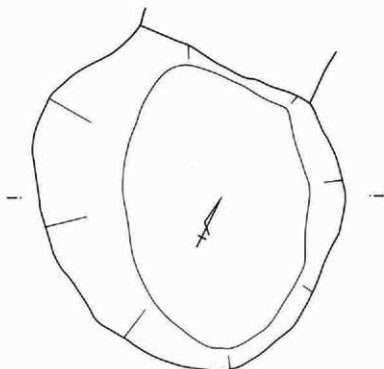
77号土坑

1. 黄褐色土 黄色礫石を含み、粗粒で締り弱い。
2. 暗褐色土 黄白色礫石を少量含み、細粒で締り強い。
3. 褐色土 黄白礫石、黒褐色土塊多量に含み、粗粒で締り弱い。
4. 暗褐色土 黄白色礫石、炭化物少量含み、細粒で締り弱い。

0 1m

第683図 土坑(13)

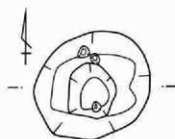
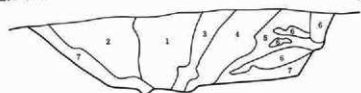




L=177.60

78号土坑

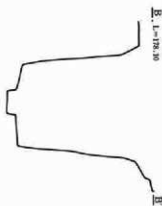
1. 黒色土 細粒で締り強い。淡褐色土塊を斑に含む。
2. 褐色土 細粒で締り強い。
3. 暗褐色土 # 黄白色軽石を少量含む。
4. ローム やや茶色がかつた黄色。上部に黄白色軽石含む。黄色味が強い。
5. #
6. 黒色土 ロームブロックを少量含む。締り強い。
7. 黒色土とロームの混合土 ローム量多く黒ずんだ黄褐色土。



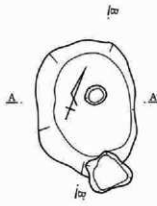
L=178.20

79号土坑

1. 黒褐色土 細粒で粘質。締り強く淡褐色土塊を斑に含む。
2. 褐色土 1層と近似。黒褐色土塊を斑に含む。
3. 黒褐色土 褐色土塊多量に含む。細粒で粘質。



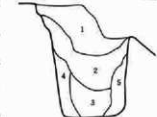
L=178.80



81号土坑

1. 黒色土 細粒で固く締る。黄色軽石を少量含む。
2. 黒褐色土 細粒で固く締る。淡褐色土塊の含み1層と近似。
3. 暗褐色土 細粒でやや柔らかい。淡褐色土塊を少量含む。
4. 褐色土 やや黒味強いが、3層より明るい。細粒で固い。
5. # ロームブロックを比較的多く含む。締り強い。

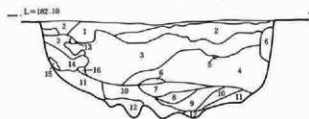
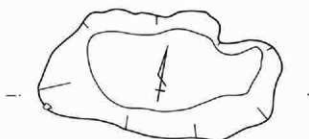
L=178.10



第684図 土 坑(14)

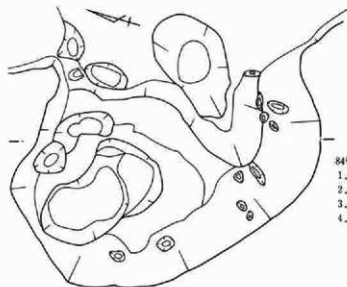
0 1m

第3章 検出された遺構と遺物



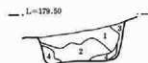
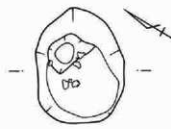
82号土坑

1. 褐色土 粗粒で軽石を含む。黄褐色土多く混入。
2. 暗褐色土 細粒でやや締り弱い。軽石を少量含む。
3. # 粗粒で軽石を少量含む。褐色土の混入が多い。
4. # 粗粒で軽石多く、やや大粒の軽石少量含む。
5. 黒褐色土 緻密で非常に固い。軽石、焼土を全体に含む。
6. 黄褐色土 粘質だが、やや締り弱い。褐色土少量混入。
7. 褐色土 軽石、黄褐色土を少量含む。
8. 黄褐色土 6層に比べると暗く、粗粒で締り弱い。
9. 暗褐色土 粘質で軽石少量含む。黄褐色土、褐色土混入。
10. 褐色土 粘質で締り弱い。軽石少量含む。
11. 黄褐色土 細粒で締り弱い。粘質。
12. # 粘質で下部にB Pを少量含む。
13. # 11層に比べてやや暗く、褐色土が混入。
14. 褐色土 黄褐色土に近くやや固い。軽石を少量含む。
15. 黄褐色土 ロームの塊。固い。
16. 褐色土 細粒で14層に比べてやや明るい。



83号土坑

1. ローム
2. 暗褐色土 細粒で締り強い。淡褐色土塊を少量、斑に含む。
3. # 2層と近似、ロームブロックを多く含む。
4. 黒色土 ロームブロックを多く含む。細粒だが締りなし。
5. ロームと黒色土の混合土
6. 黄褐色土 黄色軽石少量含み、幾分混味がある。



84号土坑

1. 褐色土 軽石と黄褐色土の塊を全体に含む。
2. 暗褐色土 締り弱い。軽石、黄褐色土の塊を全体に含む。
3. 黄褐色土 粗粒で白色軽石を全体に含む。
4. # やや粘質で、褐色土が混入。

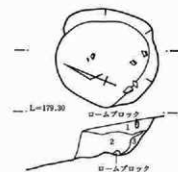


85号土坑

1. 暗褐色土 細粒で締り弱い。黄褐色土の小粒を含む。
2. 褐色土 細粒で締り弱い。黄褐色土の塊、焼土粒を含む。
3. 黄褐色土 やや粘質で締り弱い。

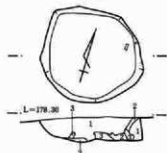
0 1m

第685図 土坑(15)



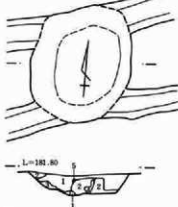
86号土坑

1. 暗褐色土 細粒で締り弱い。黄褐色土の粒、焼土粒を含む。
2. # 細粒で締り弱い。ローム粒を含む。
3. 褐色土 細粒で締り弱い。黄褐色土多く混入。



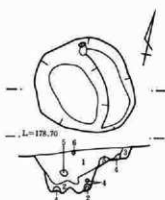
89号土坑

1. 暗褐色土 細粒で締り強く、炭化物、焼土粒若干含む。
2. 褐色土 細粒でやや締り弱く、黄褐色土が少量混入。
3. 黄褐色土 粗粒で締り弱い。軽石を多く含む。



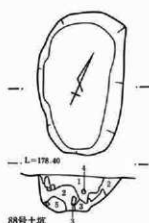
91号土坑

1. 暗褐色土 細粒で軽石を若干含む。
2. 褐色土 粗粒で締り。軽石含む。ロームブロック状に混入。
3. 黄褐色土 やや粘質でやや締り強い。
4. 暗褐色土 1層よりも暗く、やや締り弱い。
5. 黒色土 緻密で締る。



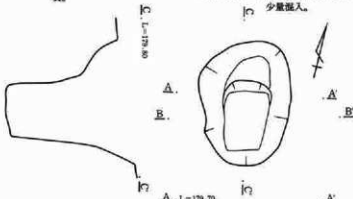
87号土坑

1. 暗褐色土 細粒で締り弱い。黄褐色土焼土少量混入。
2. # 細粒で締り弱い。黄褐色土多く混入。
3. 褐色土 締り弱く、軽石を少量含む。
4. 黄褐色土 やや粘質で、締り弱い。
5. 褐色土 粗粒で締り強い。軽石を多く含む。
6. 黄褐色土 ロームの塊、やや粘質。



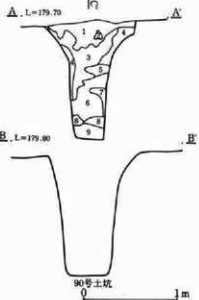
88号土坑

1. 暗褐色土 やや締り強く、炭化物、軽石を若干含む。細粒だがやや締り弱い。全体に黄褐色土混入。
2. 褐色土 粗粒でやや粘質で、締り弱い。
3. 黄褐色土 やや粘質で、締り弱い。
4. # 粗粒で締り強い。軽石を含む。褐色土が混入。
5. 暗褐色土 締り強い。黄褐色土少量混入。



90号土坑

1. 暗褐色土 締り強く、軽石多く、焼土粒、炭化物若干含む。
2. 褐色土 粗粒で締り強い。軽石を全体に多く含む。
3. 暗褐色土 細粒でやや粘質。黄褐色土、褐色土混入。
4. 褐色土 細粒でやや粘質。締り弱い。黄褐色土多く混入。
5. 黄褐色土 細粒で粘質。締り弱い。褐色土少量混入。
6. 褐色土 細粒でやや粘質。締り弱い。黄褐色土の粒が混入。
7. 黄褐色土 細粒で粘質。締り弱い。5層に比べやや明るい。
8. # 粘質。締り弱い。5・7層よりも明るい。
9. 褐色土 粘質。黄褐色土の粒、BPを少し含む。



90号土坑

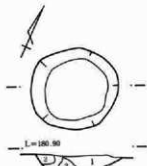
第686図 土 坑(16)

第3章 検出された遺構と遺物



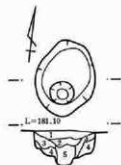
92号土坑

1. 褐色土 締り固く、ロームブロック、軽石、焼土粒含む。
2. # 粗粒で締り固く軽石を全体に含む。
3. 黄褐色土 粗粒でB Pらしき軽石を多く含む。



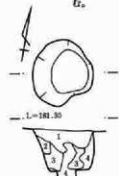
93号土坑

1. 暗褐色土 やや締り軽石、ロームブロック、炭化物含む。
2. 褐色土 粗粒で黄褐色土、B P、砂を少量含む。



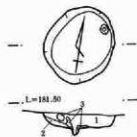
94号土坑

1. 暗褐色土 粗粒で軽石含み、黒褐色土少量混入。
2. # 締り強く、B Pを少量含む。
3. # 細粒で若干の焼土粒、炭化物を含む。
4. 褐色土 粗粒で下部にB Pを多く含む。
5. 灰褐色土 ロームブロック、B P、下部に灰褐色土塊含む。



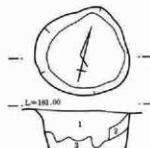
95号土坑

1. 暗褐色土 細粒で若干の炭化物、焼土を含む。
2. # 締り強く、B Pを少量含む。
3. 褐色土 やや締り強く、B Pを少量含む。
4. # 3層よりも暗く、締り弱い。B Pを少量含む。



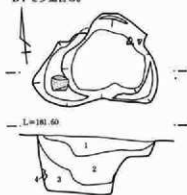
96号土坑

1. 暗褐色土 粗粒で締り固く、B P、黄褐色土少量混入。
2. 褐色土 細粒でやや締り弱い。
3. 黄褐色土 粗粒で締り固く、B P含む。



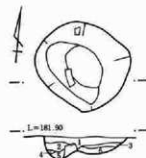
97号土坑

1. 暗褐色土 粗粒で、B Pを全体に含む。褐色土混入。
2. 褐色土 粗粒でやや締り弱い、B Pを全体に多く含む。
3. 灰褐色土 粗粒で締りなし。B P含む。



98号土坑

1. 暗褐色土 締り強く、白色軽石を少量含む。
2. # 白色軽石を全体に多く、B P、炭化物若干含む。
3. 褐色土 やや粗粒でやや締り弱い。B Pを少量含む。
4. 灰褐色土 粗粒で締り固く、やや粘質。砂を全体に含む。

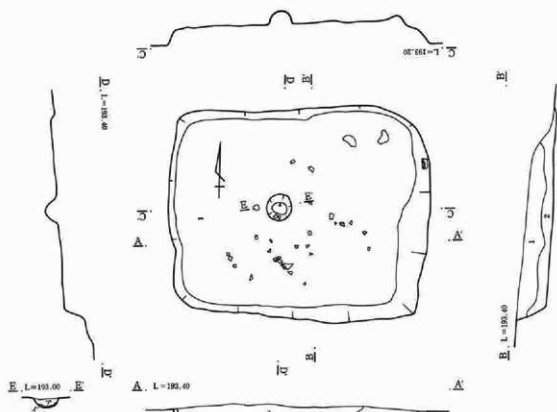


99号土坑

1. 褐色土 粗粒でB P含み。暗褐色土、黄褐色土混入。
2. 暗褐色土 粗粒でやや締り弱く、B Pを全体に含む。
3. 灰褐色土 粘質で締り強い。
4. 黄褐色土 やや粗粒で締り弱い。
5. 褐色土 灰色がかっており、粗粒で締り弱い。
6. # 砂、軽石の層、非常に締り弱い。

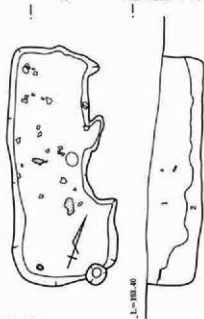
0 1m

第687図 土坑(17)



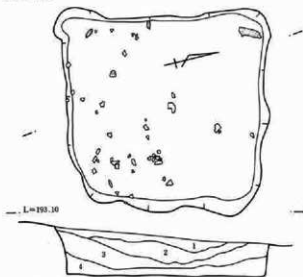
100号土坑

- 1. 黒褐色土 若干のローム粒子、軽石を混入。
- 2. # ローム小ブロック混入し、下層に炭化物含む。
- 3. # 2層に似るが、黒味強く、軽石目立つ。
- ア. # 多量の炭化物を含み、若干のロームブロック混入。
- イ. # ア層に近似するが、焼土若干含む。



101号土坑

- 1. 黄褐色土 ローム多く含む、黒色土を混入。
- 2. 黒褐色土 ローム多く含む。

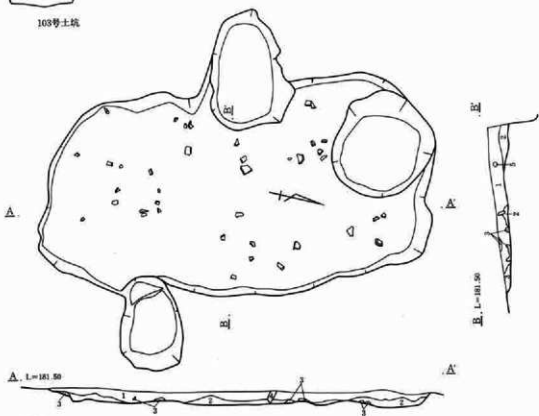
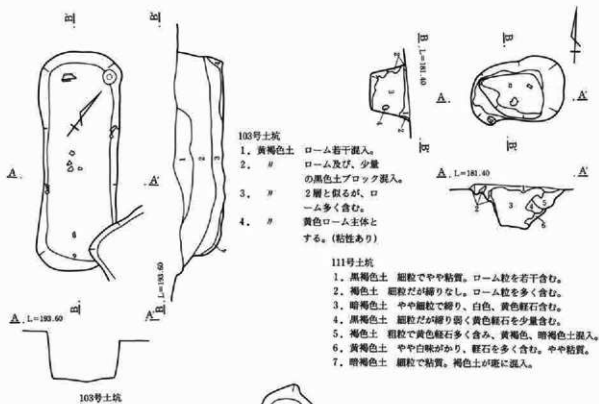


102号土坑

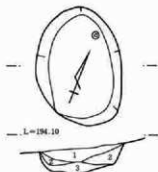
- 1. 暗褐色土 ローム多く含む。
- 2. # 1層よりも黒色土ブロック含む。
- 3. # 2層に似るが、ロームより多く含む。
- 4. # ロームブロック、小粒子含み、炭化物若干混入。

0 1m

第688図 土 坑(18)

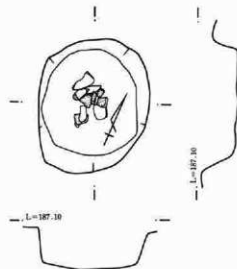


第689図 土坑(19)

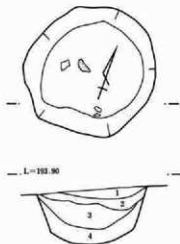


113号土坑

1. 褐色土 細粒で締り弱く、若干の炭化物を含む。
2. # 細粒で締り強く、焼土、若干の炭化物含む。
3. # 細粒で締り弱く、炭化物、焼土、黄褐色土混入。

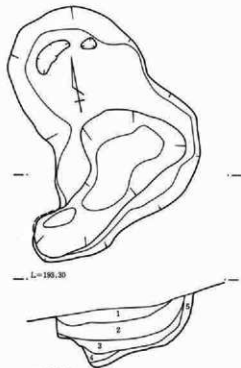


114号土坑



115号土坑

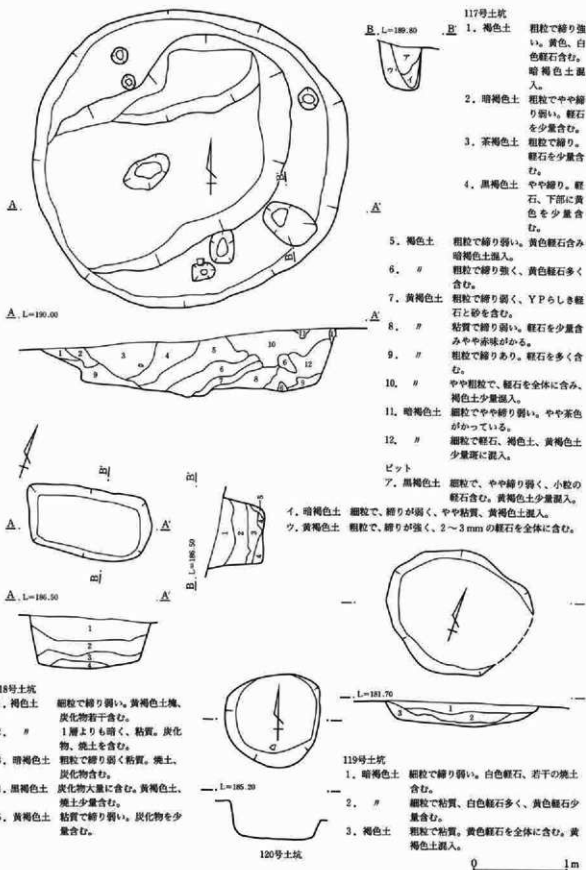
1. 暗褐色土 粗粒で、軽石、炭化物を全体に含む。
2. # 粗粒で、軽石、炭化物少量含む。
3. 褐色土 細粒で、軽石、炭化物少量含む。黄褐色土混入。
4. # 細粒で締り強く、粘質。黄褐色土少量混入。



116号土坑

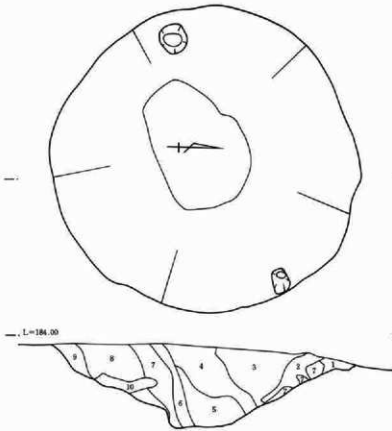
1. 褐色土 粗粒で締り強く軽石含む。
2. # 粗粒で締り弱く軽石を全体に、炭化物若干含む。
3. # 粗粒で締り弱く粘質。炭化物、黄褐色土少量含む。
4. 黄褐色土 やや粗粒で粘質。軽石少量含む、やや締りあり。
5. 褐色土 (茶褐色) 細粒でやや締り弱く、やや粘質。

第3章 検出された遺構と遺物



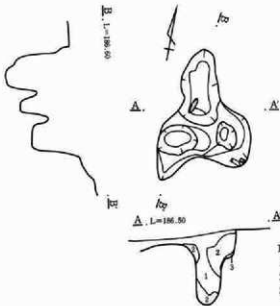
第691図 土坑(21)





122号土坑

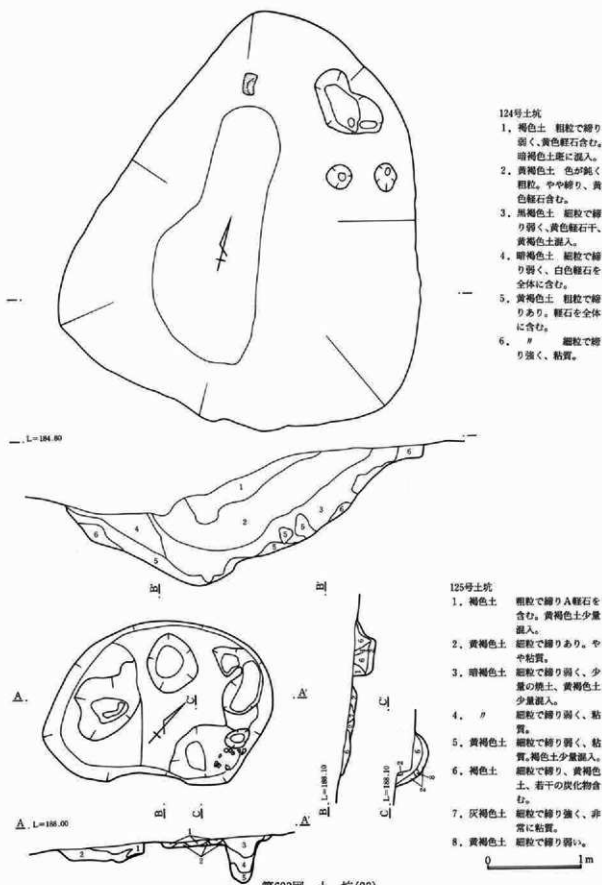
1. 暗褐色土 細粒で締りあり。白色軽石を全体に含む。
2. 黒褐色土 細粒で締りあり。軽石を少量含む。
3. 茶褐色土 細粒で締り弱く軽石含み褐色土、暗褐色土塵に混入。
4. 暗褐色土 細粒で締り弱く、軽石を少量、褐色土が斑に混入。
5. 黒褐色土 粗粒で締りあり。軽石含み褐色土少量混入。
6. 褐色土 粗粒で締り、軽石含む。黄褐色土少量混入。
7. 黄褐色土 粗粒で締りあり。軽石を全体に多く含む。
8. // やや細粒で締りあり。軽石を少量含む。
9. 黒褐色土 細粒で締り弱く、やや粘質。黄褐色土少量混入。
10. 褐色土 粗粒で締り弱く、砂を含む。黄褐色土少量混入。



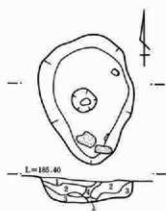
123号土坑

1. 暗褐色土 細粒でやや締り弱い。若干の炭化物を含む。
2. 褐色土 細粒でやや締り弱く、黄褐色土少量混入。
3. 黄褐色土 細粒で締り弱く、粘質。

0 1m

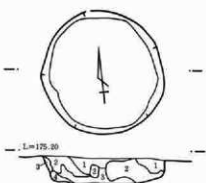


第693図 土坑(23)



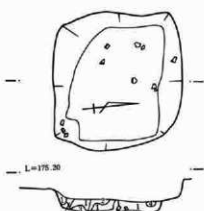
126号土坑

1. 暗褐色土 細粒でやや締り弱い。
2. 褐色土 やや粗粒で締りあり。軽石を全体に含む。粘質。
3. # やや粗粒で締り、黄褐色土少量、軽石全体に含む。
4. # 細粒で締り弱く、粘質。
5. 黒褐色土 細粒で締りあり。軽石を少量含む。



127号土坑

1. 褐色土 粗粒で締り、A軽石含む。黄褐色土少量混入。
2. 黒褐色土 粗粒で締り、軽石、黄褐色土の塊を全体に含む。
3. 褐色土 粗粒で締り弱く、軽石含む。黄褐色土少量混入。
4. 暗褐色土 細粒で締りあり。黄褐色土少量混入。



128号土坑

1. 暗褐色土 細粒で締り、黄褐色土塊少量含む。やや粘質。
2. 褐色土 細粒で締り黄褐色土全体に混入。やや粘質。
3. # 2層より暗く細粒で粘質。黄褐色土少量混入。
4. 黄褐色土 細粒でやや締り弱く、非常に粘質。



129号土坑

1. 褐色土 粗粒で締り、B P少量含む。若干の炭化物含む。
2. 灰褐色土 やや細粒で粘質。B P少量含む。



130号土坑

1. 暗褐色土 粗粒で締り、白色軽石、炭化物を若干含む。
2. 褐色土 粗粒でやや締りあり。粘質。黄褐色土少量混入。
3. 黄褐色土 細粒で締りあり。粘質。



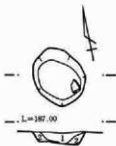
131号土坑

1. 暗褐色土 細粒で締り弱い。若干の炭化物、褐色土混入。
2. 褐色土 粗粒で締り弱く、若干の炭化物含む。
3. # 粗粒で締り弱く、軽石、黄褐色土少量混入。
4. 黄褐色土 粗粒で締りあり。砂粒を含む。



144号土坑

1. 黒色土 ローム粒、ブロック多量に含む。細粒で締り強い。
2. 褐色土 ロームブロックを多く含む。細粒でやや粘質。

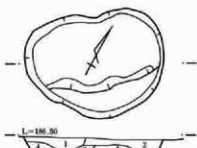


146号土坑

1. 暗褐色土 細粒で締り弱く、やや粘質。
2. 褐色土 細粒で締り強く、粘質。

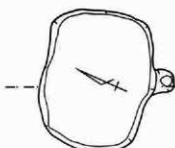
0 1m

第3章 検出された遺構と遺物



147号土坑

1. 黒色土 細粒で粘質。褐色土を斑に含む。
2. 褐色土 ローム粒を多量に含む。細粒で締り強い。
3. # ローム小ブロック多量に含む。黄色味強い。
4. 黄褐色土 ロームブロックを多く含む。



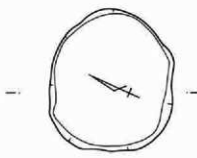
L=187.30



L=187.30

148号土坑

1. 褐色土 細粒で締り強い。炭を少量含む。
2. 黒褐色土 細粒で締り強い。炭を多量に含む。
3. 黄褐色土 ロームの大ブロックを含む。細粒で粘質。



L=188.20

149号土坑

1. 黒褐色土 細粒でやや締りあり。やや粘質。
2. 暗褐色土 粗粒でやや締りあり。軽石を少量含む。
3. # 粗粒でやや締り固く。軽石、黄褐色土少量混入。
4. 褐色土 細粒で締りあり。粘質。



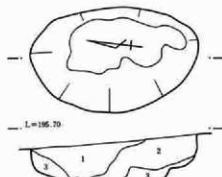
L=186.80

150号土坑

1. 暗褐色土 細粒で粘質。締り固い。淡褐色土を斑に含む。
2. 黒褐色土 細粒だが粘質。締り強い。淡褐色土を斑に含む。
3. 褐色土 ロームの大ブロックを多く含む。細粒で粘質。

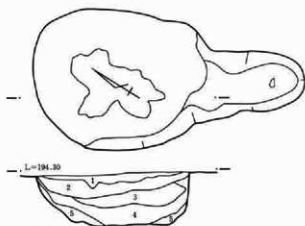
156号土坑

1. 淡褐色土 ローム含み、きめ細かい。若干の炭化物混入。
2. # 1層に似るが、ロームより多く含み、軟質。



152号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒子混入し、やや粗粒良く締る。
2. # ローム粒子、ブロック多く含む。
3. 黄褐色土 ローム多く含み、若干の黒色土混入。

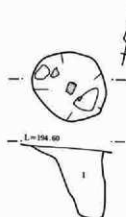


157号土坑

1. 暗褐色土 ローム、軽石を混入。
2. # ローム多く含み、若干の炭化物混入。
3. # 2層に似るが、ロームやや多く均質。
4. # ロームをブロック状に含む。黒色土を斑に含む。
5. 黄褐色土 ロームを主体とする。(地山か)

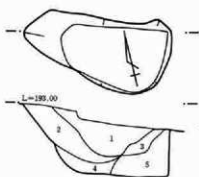
0 1m

第695図 土坑(25)



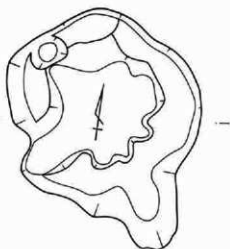
163号土坑

1. 暗褐色土 ローム分含み、  
細粒土、やや粘性を持つ。



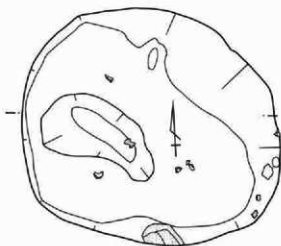
169号土坑

1. 暗褐色土 ローム多く含み、腐状を呈す。  
均質で軟質。  
2. # ローム多く含み、軽石粒子目  
立つ。  
3. # 地山のローム粒子多く含み、  
均質。  
4. 黄褐色土 地山のローム粒子多く含み、  
均質。黄色味強い。  
5. # 砂質のロームを主体とする。



181号土坑

1. 黄褐色土 ローム主体とし、若干の黒色土斑に混入し締る。  
2. 暗褐色土 ロームブロック、黒色土を混に含む。  
3. # 2層と似るが、ロームブロック少なく黒味強い。



183号土坑

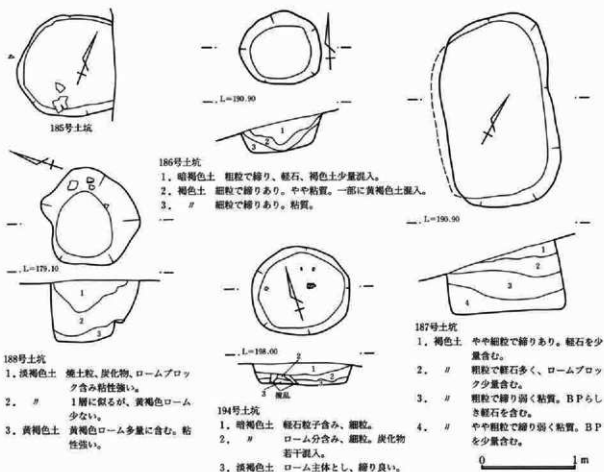
1. 黄褐色土 ロームブロック、軽石を含み、荒れた2次堆積土。  
2. 黒褐色土 ローム若干含み、腐状を呈し、やや軟質。  
3. # ローム粒子多く含み、2層より黄色味強い。



184号土坑

0 1m

第3章 検出された遺構と遺物



第697図 土坑(27)

量の炭化物を含む。

57号土坑 N-18グリッドに位置する。浅い方形を呈す土坑と円形の土坑が重なった状況を呈す。上層から長さ20~60cmの隙が20個程出土している。

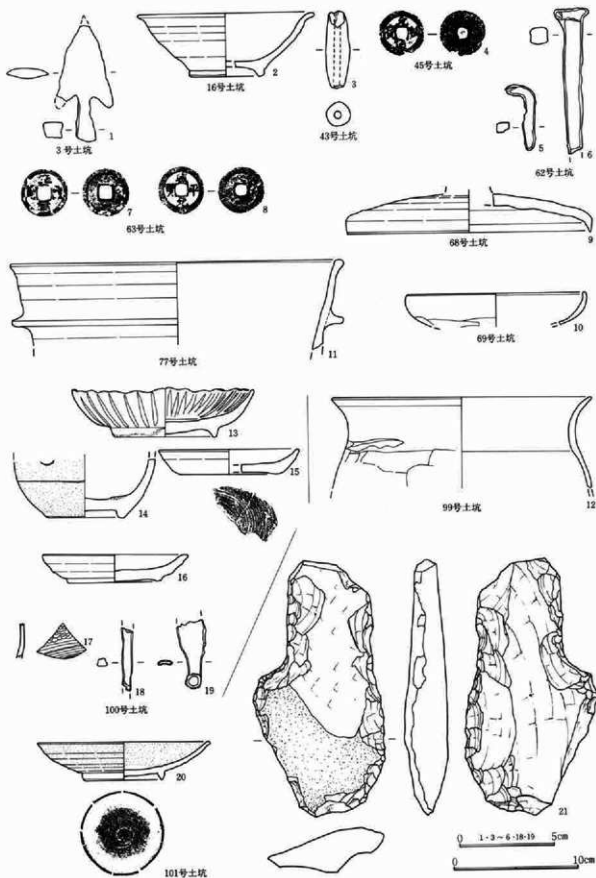
63号土坑 調査区の北端、Q-44グリッドにおいて検出した。一部、道路および畑に掛かり全掘はできなかった。平面形状は方形を呈すと思われるが、詳細は不明。深さは0.4~0.5m程で、比較的浅い。人骨が一体分出土している。寛永通宝、煙管吸い口が伴っていた。

64・70・81・90号土坑は規模、形状が近似している。平面形状は長円ないしは隅丸長方形を呈し、底面はやや漏斗状に、かなり小さくなる。81号土坑の底面には小ピットが認められた。これらの土坑は出土遺物は無かったが、形態、覆土の状況から縄文時代のいわゆる「陥し穴」の可能性が考えられる。

100号土坑 Q-9グリッドに位置する。やや東西に長い長方形を呈し、規模は長辺2.75m、短辺2.2m、深さは0.2m~0.3mを測る。各壁はやや斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦で比較的硬く締っており、中央に径0.3m、深さ0.1mの小穴があり炭化物、焼土が詰まっていた。またこの穴の周辺にも炭化物の広がりが見られた。出土遺物は近世の陶磁器片の他に、覆土下層、床面より石英のかけらが複数出土している。

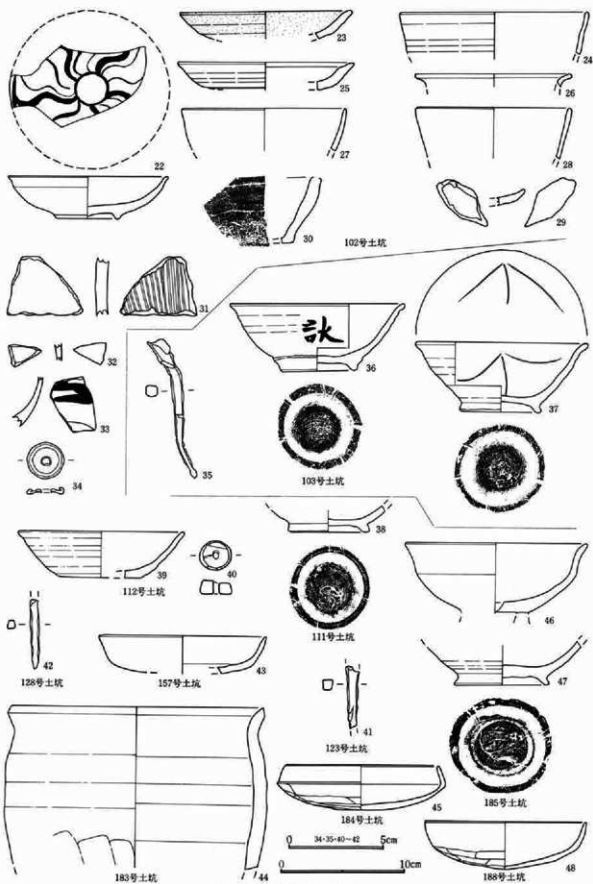
101号土坑 Q-8グリッドに位置する。長方形を呈し、規模は長さ2.5m、幅0.75m、深さ0.5mを測る。ほぼ垂直に掘り込まれており、底は平坦である。主軸方向はN-20°-Wである。出土遺物は、やや浮いた状態で

第8節 土 坑



第698圖 土坑出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第699図 土坑出土遺物(2)



土坑出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径器高 底径(cm)	胎土 焼 色 調	成・整形の特徴	備 考
1	鉄製品	3号土坑 覆土				
2	須恵器 埴	16号土坑 覆土	(14.0) (6.0)	4.0 微砂粒含む 良 灰色	口口成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
3	土 鑊	43号土坑 覆土				
4	古 銭	45号土坑 覆土				
5	鉄製品	62号土坑 覆土				
6	鉄製品	62号土坑 覆土				
7	古 銭	63号土坑 覆土				
8	古 銭	63号土坑 覆土				
9	須恵器 蓋	68号土坑 覆土	(19.2)	砂粒含む 良 灰白色	口口成形 外面天井部回転削り	
10	土師器 坏	69号土坑 覆土	14.4	微砂粒含む 良 淡褐色	外 口縁部横撫で 体部荒削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	
11	須恵器 瓶	77号土坑 覆土	(26.2)	砂粒含む 良 灰色	口口成形	口縁部片
12	土師器 壺	98号土坑 覆土	21.0	砂粒含む 良 茶褐色	外 口縁部横撫で 胴部荒削り 内 口縁部横撫で 胴部撫で	
13	陶 器 羞 皿	109号 土坑	(14.7) 8.2	(3.9) 夾雑物少ない 良 黄褐色	17世紀 菊皿	
14	徳 利	109号 土坑	6.0	夾雑物少ない 良 青緑色		17世紀 備前
15	かわら け	109号 土坑	(11.0) (7.6)	2.0 砂粒含む 良 黄褐色	口口成形 底部回転糸切り(右)	
16	陶 器 皿	109号 土坑	16.4 7.4	2.2 夾雑物少ない 良 灰色		17世紀 美濃 灯明皿か
17	磁器片	109号 土坑				
18	鉄製品	109号 土坑				
19	煙管 い 口	109号 土坑				
20	灰 輪 皿	101号 土坑	13.5 6.2	3.0 精製 良 緑灰色	口口成形	壳形 輪は授け掛け
21	石 鏡 覆 土	101号 土坑				
22	磁 器 埴	102号 土坑	(12.6) (3.3 5.0)			
23	陶 器 皿	102号 土坑	(3.6)			
24	陶 器 埴	102号 土坑	(14.9)			
25	陶 器 皿	102号 土坑	(14.0)			
26	陶 器 天目茶碗	102号 土坑	(12.4)			
27	磁 器 埴	102号 土坑	(13.0)			
28	磁 器 埴	102号 土坑	(12.2)			
29	陶器破 片菊皿	102号 土坑				

### 第3章 検出された遺構と遺物

30	破片 内耳 土坑	102号			微砂粒含む 黒褐色 良			若干の煤付着	
31	破片 撰鉢 土坑	102号			砂粒含む 良			小破片	
32	破片 天目茶碗 土坑	102号			砂粒含む 良			小破片	
33	陶器 埴 土坑	102号			精製 良				
34	銅製品	102号 土坑	径2.0cm、厚さ0.3cm、重さ2.2g。ボタン状で中央は穴があげられている。縁は内側に折れ曲げられて丸く肥厚する。						
35	鉄製品	103号 土坑	棒状製品。長さ7.6cm、幅0.8cm、厚さ0.6cm、重さ5.2g。断面丸方形。若干屈曲し1端が細くなる。						
36	須恵器 埴 土坑	103号	13.8 6.1	5.4	砂粒含む 明黄褐色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り 付け高台	(右)	外面墨書 完形 酸化焙焼成	
37	須恵器 埴 土坑	103号	13.6 6.6	4.5	微砂粒含む 灰褐色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り 付け高台	(右)	完形 内面線刻	
38	須恵器 埴 土坑	111号		6.4	砂粒含む 黒色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り 付け高台	(右)	外面底部に墨画 底部片	
39	須恵器 埴 土坑	112号	(13.5) (6.5)		微砂粒含む 灰色 良			ロクロ成形 底部回 転糸切り (右)	
40	白玉	112号 土坑	径1.6cm、厚さ0.7cm、孔径0.3cm、重さ2.8g。側面に研磨痕。滑石製。						
41	鉄製品	123号 土坑	釘。長さ3.3cm、幅0.7cm、厚さ0.6cm、重さ2.4g。両端部を欠く。						
42	鉄製品	128号 土坑	釘。長さ3.6cm、幅0.5cm、厚さ0.4cm、重さ1.2g。上端を欠く。						
43	須恵器 埴 土坑	157号	(13.7)		砂粒含む 灰黄色 良	ロクロ成形 底部篋削り			
44	土師器 埴 土坑	183号	(20.0)		砂粒含む 淡褐色 良	ロクロ成形 胴下半篋削り			
45	土師器 埴 土坑	184号	12.4	3.6	微砂粒含む 淡褐色 良	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部横撫で 体部撫で			
46	須恵器 埴 土坑	185号	(14.5)		砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り 付け高台	(右)	体部に襷を持つ	
47	須恵器 埴 土坑	185号		7.5	微砂粒含む 灰色 良	ロクロ成形 底部回転糸切り 付け高台	(右)		
48	土師器 埴 土坑	188号	13.0	3.9	微砂粒含む 茶褐色 良	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部横撫で 体部撫で			

はあったが、完形の灰釉皿が検出されている。

102号土坑 Q-8グリッドに位置する。100号土坑の南東に約4m離れて位置している。ほぼ方形を呈すが南東隅が僅かに内側に入り丸味を持つ。規模は2.1m×2.0mで深さは約0.5mを測る。掘り込みは垂直に近く、底面は良く纏り平坦である。出土遺物は近世の陶磁器片に混じり、100号土坑と同様に石英の小片が検出されている。

103号土坑 Q-8グリッドに位置する。平面形状は長方形を呈し、規模は長さ2.3m、幅0.8m、深さ0.5mである。東南隅に、102号土坑がわずかに重複している。各壁はほぼ垂直に掘り込まれており、底はわずかに凹凸を持つ程度である。主軸はN-37°-Wである。出土遺物は土坑北端において、須恵器の高台付き椀が2点出土している。この2点は1つには外面に墨書文字、もう1点には内面に線刻による記号が書かれている。

表6 土坑一覧

番号	グリッド	形 状	規模(長辺 短辺 深さ)m	出 土 遺 物	時代	備 考
1	P-24	方	1.35 1.25 0.2	須恵器片	近 世	
2	P-26	円	1.1 1.15 0.15			
3	N-12	方	1.2 1.0 0.4	土師器片	近 世	5住の礎を切る
4	P-26	円	1.15 1.1 0.4			
5	P-25	長 円	0.9 0.75 0.15			
6	R-46	不定円	1.05 0.95 0.25	土師器	平 安	
7	R-46	円	1.1 1.0 0.2			
8	M-8	円	1.2 1.1 0.65			
9	M-8	円	1.75 1.7 0.75			
10	N-8	長 円	3.05 1.4 0.6			
11	O-8	長 円	1.2 0.8 0.3			
12	O-8	不定円	1.2 0.9 0.4			
13	O-7	長 円	1.4 1.1 0.9			
14	P-7	長 円	2.5 2.0 1.0			
15	P-24	不定円	1.4 1.5 0.25	須恵器		16土坑と接する。
16	P-24	不定円	1.2 0.8 0.5	須恵器・土師器		22住に切られる。
17	O-8	長 円	1.85 1.5 1.1			1住に切られる。
18	O-8	長 円	1.15 0.95 0.15			
19	N-9	長 円	2.25 1.3 0.4	土師器1		
20	N-9	長 円	1.8 0.9 0.55			
21	N-9	円	0.85 0.8 0.1			
22	O-9	円	0.95 0.9 0.05	須恵器・土師器		
23	M-10	円	1.15 1.0 0.25			
24	M-10	長 円	2.25 (0.8) 0.5			東半分の調査
25	N-11	円	2.75 2.75 0.7		赤 生	
26	R-45	円	0.95 (0.55) 0.3	土師器		南半分溝に切られる。
27	P-24	長 円	1.15 0.75 0.3			
28	P-11	長 円	2.1 1.7 0.4			29土坑と接する。
29	P-11	長 円	1.35 0.75 0.5			28土坑と接する。
30	O-12	不定円	2.2 2.4 2.5	甕	赤 生	
31	O-12	長 円	2.9 1.85 0.8			
32	N-12	長 円	2.2 1.5 0.7			
33	O-12	方	3.0 2.9 0.15	土師器・須恵器		
34	S-45	円	1.1 1.0 0.15	土師器・須恵器		
35	S-45	円	1.2 1.2 0.35	縄文	縄 文	
36	P-24	円	1.1 1.05 0.2			
37	O-13	長 円	1.2 1.0 0.25			
38	N-14	不定円	2.3 1.5 0.4	土師器		
39	N-12	長 円	1.85 1.4 0.6		赤 生	
40	O-15	長 円	1.2 0.9 0.3			
41	O-15	円	1.1 1.0 0.4	土師器・須恵器		
42						欠番
43	S-41	長 円	1.2 0.6 0.35			9溝と重複
44	S-45	溝 状	3.70 0.9 0.15	土師器		
45	R-41	不定長円	2.7 0.9 0.3	土師器		
46	O-23	不定長円	1.5 (0.9) 0.3			6溝と重複
47	R-44	不定長円	1.5 0.9 0.15			
48	R-45	不定円	0.85 0.9 0.15			
49	P-28	円	2.6 2.45 0.65			
50	Q-27	不定長円	2.6 1.1 0.35			
51	R-41	不定形	3.6 2.3 0.7			
52	R-41	長 円	1.6 0.9 0.3	土師器		
53	O-16	長 円	1.75 1.1 0.5			11溝と重複
54	R-45	不定円	1.45 0.9 0.15	須恵器		
55	S-45	不定円	1.15 1.0 0.5			
56	O-17	長 円	1.8 1.15 0.3			
57	N-18	不定円	1.0 0.7 0.5	須恵器・土師器		上層に礎を含む。
58	N-19					
59	S-42	長 方	1.5 0.75 0.5			71住と重複
60	S-41	長 方	1.3 0.85 0.2			

第3章 検出された遺構と遺物

61	S-41	円	0.8	0.6	0.2			
62	S-41	長円	2.5	1.1	0.9	土師器・須恵器・鉄器		
63	Q-44	(長方?)				人骨一部分・寛永通宝2	近世基礎	
64	R-42	長円	1.65	1.1	1.2		縄文時代の陥穴か	
65	R-41	不定	2.4	1.3	0.7			
66	R-46	不定	1.95	1.7	0.4	鏝を含む土師器・須恵器		
67	S-41	不定	1.1	0.8	0.3		62土坑と重複	
68	O-18	不定	1.0	0.8	0.65	土師器・須恵器		
69	O-18	長円	0.9	0.65	0.55	土師器・須恵器		
70	S-45	長円	1.65	1.1	1.45		縄文時代の陥穴か	
71	V-45	円	0.85	0.85	0.2	土師器・須恵器		
72	R-44	長円	2.8	1.9	0.9	土師器・須恵器	40住と重複	
73	T-41	長円	1.1	0.85	0.2			
74	U-40	円	0.75	0.7	0.35			
75	U-40	円	0.95	0.9	0.35			
76	V-45	円	0.9	0.85	0.3			
77	V-45	長円	1.3	0.9	0.3	土師器・須恵器		
78	U-46	円	3.3	3.1	0.85			
79	V-46	円	1.2	1.15	0.58			
80	V-46	不定	1.4	1.3	1.35	縄文(諸々2片)	縄文	
81	U-46	長円	1.2	1.0	1.5		1号溝と重複 縄文時代の陥穴か	
82	V-36	不定	2.5	1.2	1.0		12溝と重複	
83	W-45	不定	3.2	2.1	0.9		風倒木	
84	U-43	長円	1.2	0.9	0.4	土師器・須恵器		
85	T-43	不定	1.1	0.9	0.35			
86	T-43	円	1.1	1.0	0.4	土師器・須恵器	60住と重複	
87	T-43	円	1.0	1.0	0.4	土師器		
88	T-43	長円	1.5	0.9	0.4			
89	S-43	円	1.1	1.0	0.25	須恵器		
90	T-42	長円	1.3	1.0	1.25		縄文時代の陥穴か	
91	V-41	円	1.2	1.1	0.2		近世溝に切られる。	
92	T-40	円	0.75	0.7	0.15			
93	V-40	円	0.9	0.9	0.15			
94	U-40	長円	0.8	0.6	0.35			
95	U-40	円	0.7	0.65	0.5			
96	U-40	円	0.8	0.7	0.15			
97	U-40	円	1.0	0.95	0.4			
98	U-40	長円	1.3	0.95	0.6	土師器・須恵器		
99	V-41	瓶丸方形	0.95	0.85	0.25	須恵器		
100	Q-9	長方	2.8	2.2	0.3	陶磁器、内耳片	江戸	
101	Q-8	長方	2.5	0.75	0.5	灰輪皿、須恵器片	平安	
102	Q-8	方	2.1	2.0	0.5	陶磁器、内耳片、石莖	江戸	
103	Q-8	長方	2.3	0.8	0.5	墨書、須恵器、碗、鉄器	平安	
104	S-7	円	1.25	1.2	0.5	縄文	縄文	
105	R-6	円	1.05	1.0	1.0	弥生	弥生	
106	R-7	長円	1.65	1.3	1.0	弥生、石鏃	弥生	
107	R-8	円	1.4	1.3	0.5	縄文、多孔石(石皿)	弥生	
108	R-8	円	1.8	1.7	0.85	石剣(?)	弥生	
109	R-7	長円	2.8	1.4	0.8	弥生	弥生	
110	R-8	不定方	2.4	1.8	0.7	弥生	弥生	
111	U-40	長円	1.0	0.6	0.45	土師器	112土坑と重複	
112	U-40	長円	4.1	2.2	0.2	土師器、白玉	75・98・111土坑と重複	
113	V-22	長円	1.25	0.9	0.25	土師器・須恵器	131住と重複	
114	T-24	円	1.4	1.2	0.5	須恵器鏝	15溝と重複	
115	V-22	円	1.4	1.4	0.55	須恵器鏝		
116	V-22	不定	2.4	2.1	0.6			
117	U-23	円	3.3	3.1	0.6	須恵器鏝		
118	S-24	長方	1.3	0.75	0.55			
119	V-46	長円	1.7	1.3	0.25	黒曜石片		
120	R-24	円	1.0	1.0	1.05	土師器		
121	U-26	長円(?)	1.3	1.2	0.3	縄文、石斧、諸々	縄文	
122	R-27	円	3.2	3.2	0.85		風倒木	

123	S-24	不 定	1.45	0.9	0.9	須恵器・土師器、鉄器			根の痕か。
124	R-26	不 定 円	4.3	3.8	1.3	土師器			15溝と重複
125	U-25	長 円	2.45	1.7	0.45	土師器			
126	R-23	長 円	1.3	1.0	0.25	土師器・須恵器			
127	F-22	円	1.3	1.2	0.25	土師器・須恵器、羽釜			
128	F-23	方 形	1.45	1.35	0.2	土師器・須恵器、羽釜			
129	I-22	圓 丸 方	0.85	0.8	0.06	土師器・須恵器			
130	S-26	長 円	1.15	0.7	0.1				
131	S-26	不 正 円	0.7	0.7	0.5				15溝に近接
132									欠番
133									欠番
134									欠番
135									欠番
136									欠番
137									欠番
138	O-9	円				縄文土器、勝坂	縄 文		1号埋溝を変更
139	O-9					弥生	弥 生		Ph25を変更
140	R-7	長 円	2.5	1.65	1.05	縄文・弥生、石皿	弥 生		112住に重複。
141	S-7	円				弥生、	弥 生		117・120住と重複。
142	U-8	不 正 円	1.7	1.5	0.55	弥生、	弥 生		117・120住と重複。
143	R-26	長 円	1.5	1.05	0.2	縄文			
144	R-26	長 円	1.5	1.2	0.2				
145	V-25	長 円	0.95	0.6	0.5	弥生、	弥 生		16溝と重複。
146	R-23	長 円	0.6	0.5	0.1	須恵器、土師器、縄文			
147	S-25	長 円	1.45	1.1	0.15				
148	S-24	圓丸長方	1.5	1.15	0.15				
149	T-24	円	1.5	1.3	0.25	土師器			
150	T-25	不 定	1.1	1.0	0.3				
151									欠番
152	T-8	長 円	1.8	1.1	0.5	須恵器、羽釜			欠番
153									欠番
154	S-6	長 円	2.0	1.4	0.45	弥生?	弥 生		114住と重複
155	T-6	円	1.45	1.3	0.85	埴、甕、	弥 生		
156	S-6	長 円	1.0	0.8	0.5	須恵器、土師器			
157	S-7	不 定 円	2.9	1.5	0.55	須恵器、弥生、縄文			
158									欠番
159	S-7	長 円	1.5	0.85	0.45	弥生	弥 生		120住と重複。
160	T-7	不 定	2.4	2.4	0.9	縄文、石器	縄 文		
161	T-7	不 定	3.15	2.5	1.0	縄文、打岸	縄 文		118住と重複。
162	T-7	不 定 円	1.4	0.9	1.05	縄文、弥生、弥生?	弥 生		164土坑と重複
163	T-7	円	0.8	0.7	0.7				
164	T-7	不 定 円	1.3	1.05	0.8	縄文	縄 文		162土坑と重複
165	T-7	長 円	1.3	0.91	0.9	縄文、弥生、	弥 生		
166	U-8	長 円	0.7	0.5	0.4	弥生	弥 生		
167									欠番
168									欠番
169	S-6	長 円	1.55	0.7	0.75				111住と重複
170	U-9	円	1.25	1.2	0.6	埴、石皿、磁石、台石	弥 生		
171	T-9	円	1.3	1.1	0.25	弥生	弥 生		
172	T-9	長 円	1.2	0.8	0.3	弥生	弥 生		
173	T-9	長 円	1.6	1.2	0.35		弥 生		
174	T-9	円	1.25	1.2	0.9		弥 生		
175	S-9	不 定 円	2.6	2.15	1.15	縄文	弥 生		
176									欠番
177	U-9	円	1.5	1.3	0.45		弥 生		
178	T-9	円	1.0	0.95	0.25		弥 生		
179	T-9	円	1.0	0.85	0.2	縄文	縄 文		
180	T-9	円	1.15	1.05	0.45		弥 生		
181	R-12	不 定	2.5	2.0	0.7	石皿			風倒木
182	T-9	長 円	1.0	0.8	0.3	弥生	弥 生		
183	R-13	長 円	2.95	2.5	0.9	須恵器、土師器、土師			
184	R-9	不 正 円	2.0	1.5	0.2	土師器			

第3章 検出された遺構と遺物

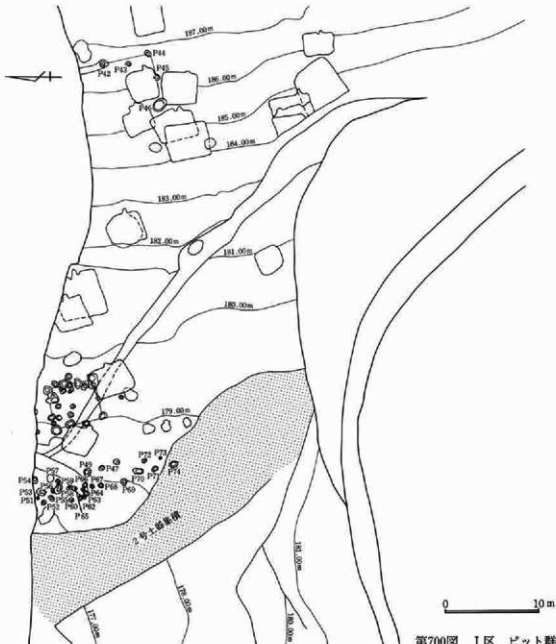
185	R-9	長門?	1.05	1.05	0.2	石籬、須恵器、土師器、弥		
186	Q-12	長門?	0.9	0.75	0.35			
187	Q-5	圓丸長方	2.0	1.15	0.7			
188	O-18	不正円	1.0	1.0	0.65			谷地
189								欠番
190								欠番
191								欠番
192								欠番
193								欠番
194	T-9	円	1.05	0.95	0.25			

## 第9節 ビット

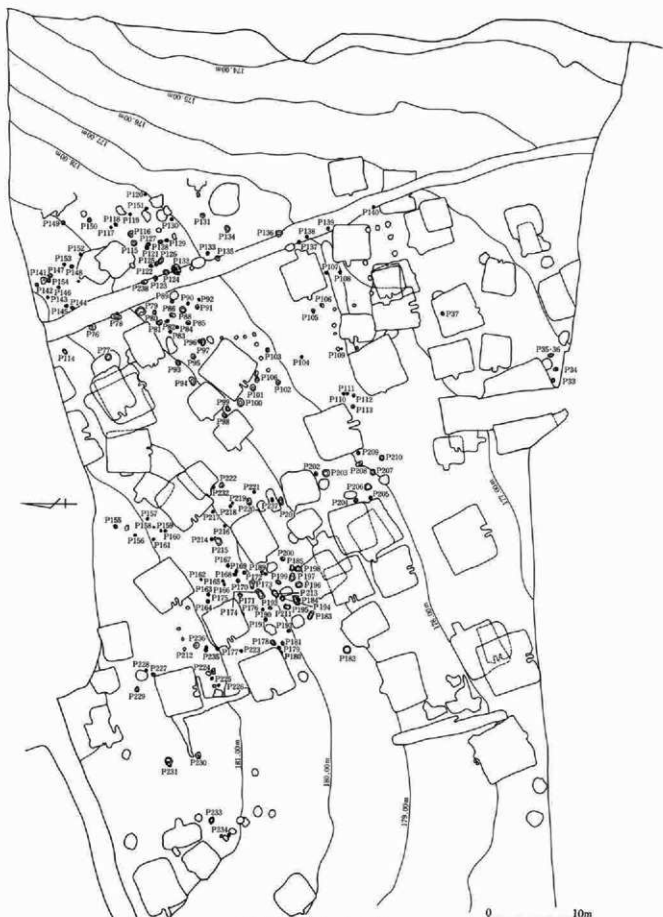
本遺跡において調査した遺構は住居跡、土坑などであるが、この他に各区において多数検出された遺構としてビットがある。これらビットとしたものは、いわゆる土坑として扱われるべきもののうち、規模の小さなもの、また性格の不明な小さな掘り込みの類をビットとして扱っている。

その分布を見るとⅠ区では谷地部、土器集積の東脇において多数検出されている。これらの中には炭化物、焼土を含むものもあり、土器類を出土したものもある。その配置を見ると直線的に並んでいるものもあり、5号掘立柱建物跡および、2号土器集積との関連も想定されるがその性格については不明である。

Ⅲ区ではほぼ全域にわたって検出されているが、分布の上でかなり集中している部分が見られる。これらについては耕作によるものが多く、その他のものについても時期の特定できないものが多い。

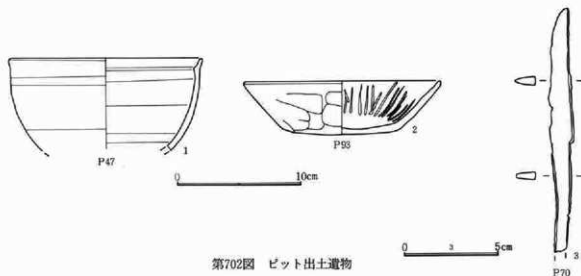


第700図 Ⅰ区 ビット群



第701図 Ⅲ区 ピット群





第702図 ビット出土遺物

ビット出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置	口径 底径 (cm)	器高	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考	
1	須恵器 碗	P47	(10.2)		微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	割断片	
2	土師器 碗	P93	15.8 8.2	4.3	砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横撫で 体部旋削り 内 口縁部横撫で 体部撫で	内面放射状印文	
3	鉄製品	P70	刀子。長さ12.5cm、幅1.3cm、厚さ0.4cm、比較的遺存状態は良い。刃は明確に認められる。茎部分端部を欠損する。						

## 第10節 土器集積

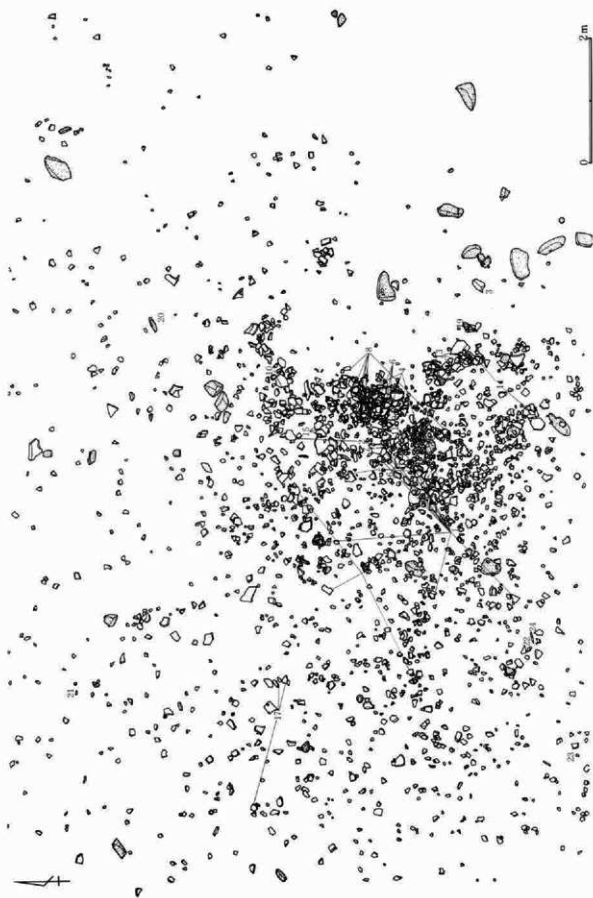
調査区内において特に人為的な掘り込みなどが見られず、土器類が集中して出土した場所が2カ所検出されている。1つはⅡ区とⅢ区の境付近で浅い沢状で地形的にやや低くなる部分（1号土器集積）で、もう1カ所はⅠ区の西側斜面の下（2号土器集積）で、やはり浅い谷地部分である。これらの場所では土器類が投げ捨てられたような状況で数多く出土している。特に2号土器集積とした場所では土師器の碗、須恵器の碗・蓋が完形に近いものも含めて多く出土している。

出土遺物から見ていずれも比較的短期に形成されており、かなり意識的に遺物の投げ込みが行われていたようである。また出土土器を見ると2号土器集積のほうが時代的にやや下るようである。

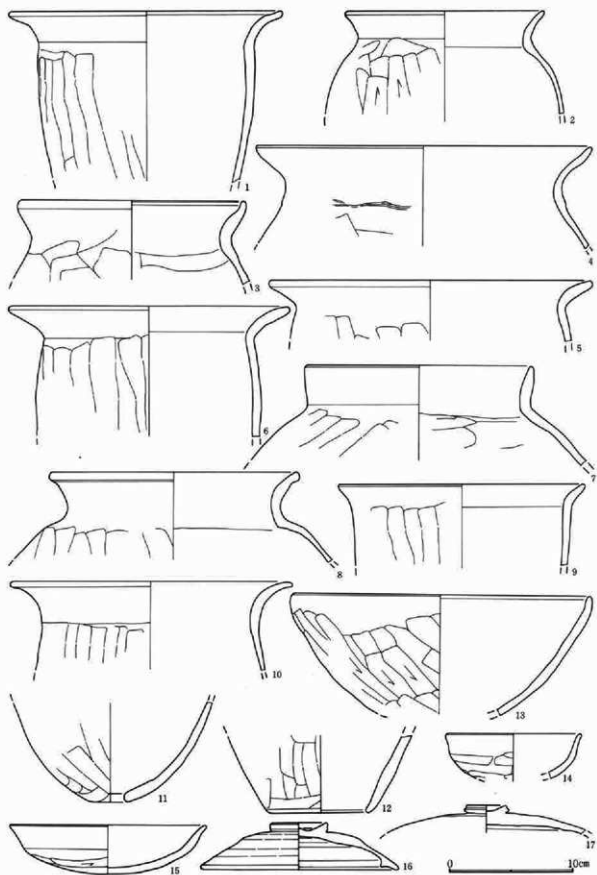
## 1号土器集積（第703～705図、PL80）

Q-32・33グリッド内において多量の土器片が集中して検出されている。地形的に見ると、西に緩く傾斜する場所で、すぐ西は南から北に傾斜する浅い沢地となっている。土器はほぼ円形に広がり、若干の礫などを伴っていた。遺物の含まれる土はやや粘性を持つ黒褐色土である。出土レベルは、さほど厚さは持たない。出土した土器類は土師器が中心で、少量の須恵器が混入している。破片が多く、器形の復元できるようなものは少なかった。

出土土器の器種は土師器は壺が多く、碗、その他は少ない。須恵器は壺、碗、蓋類である。その他礫器、鉄製品がわずかに見られた。

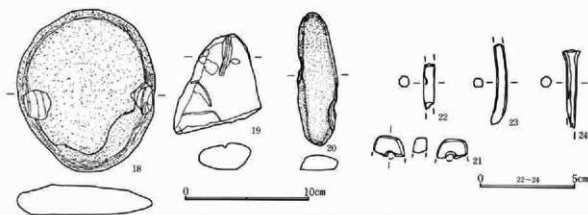


第703図 1号土器集積出土状態



第704図 1号土器集積出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第705図 1号土器集積出土遺物(2)

1号土器集積出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土 焼成	色調	成・整形の特徴	備考	
1	土師器 壺		22.0		砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	胴部窪削り 胴部窪無で	
2	土師器 壺		16.0		砂粒含む 普通	赤褐色	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	胴部窪削り 胴部窪無で	外面荒れている
3	土師器 壺		18.4		砂粒含む 良	灰褐色	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	胴部窪削り 胴部窪無で	口縁部片
4	土師器 壺		27.0		微砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	胴部窪削り 胴部窪無で	
5	土師器 壺		26.0		砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	胴部窪削り 胴部窪無で	
6	土師器 壺		22.8		砂粒含む 良	暗褐色	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	胴部窪削り 胴部窪無で	
7	土師器 壺		18.4		砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	胴部窪削り 胴部窪無で	
8	土師器 壺		20.0		砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	胴部窪削り 胴部窪無で	
9	土師器 壺		20.0		砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	胴部窪削り 胴部窪無で	
10	土師器 壺		22.8		微砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	胴部窪削り 胴部窪無で	
11	土師器 甕		(3.0)		砂粒含む 良	淡褐色	外 胴部窪削り 内 胴部窪無で		
12	土師器 甕		(7.9)		砂粒含む 良	淡黄褐色	外 胴部窪削り 内 胴部窪無で		底部片
13	土師器 鉢		24.0		微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	胴部窪削り 胴部窪無で	
14	土師器 坏		11.0		砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	体部窪削り 体部無で	
15	土師器 坏		16.0	3.9	砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横無で 内 口縁部横無で	体部窪削り 体部無で	
16	須恵器 蓋		(16.0)	3.7	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 外面天井部回転削削り		
17	須恵器 蓋				砂粒含む 良	明灰色	ロクロ成形		
18	台石	長さ12.8cm、幅11.1cm、厚さ2.4cm、重さ533g。石材は黒色頁岩。円盤状を呈す。							
19	砥石	長さ6.9cm、幅6.8cm、厚さ2.1cm、重さ105g。石材は砂岩。三角形を呈し、使用面には刃研溝が見られる。							
20	石器	長さ10.4cm、幅3.2cm、厚さ1.2cm、重さ67g。石材は緑色片岩。細長い鏃を利用。棒状を呈す。							
21	砥石	長さ(1.6)cm、幅2.5cm、厚さ1.1cm、重さ5g。石材は砂岩。小製品。縦溝穴部分で欠けている。							

22	鉄製品	棒状製品。長さ2.4cm、幅0.6cm、厚さ0.6cm、重さ1.3g。24と同一品と思われる。
23	鉄製品	釘。長さ4.2cm、幅0.5cm、厚さ0.4cm、重さ1.8g。やや曲がっている。一端を欠く。
24	鉄製品	棒状製品。長さ4.0cm、幅0.9cm、厚さ0.5cm、重さ2.2g。22と同一品と思われる。

## 2号土器集積（第706～715図、付図、PL80～82）

N-18-20・O-18-20グリッドに位置する。I区の西斜面が終わった部分で、南から北へ延びた台地と台地の間にある小谷地にあたる。現地形でもやや落ち込んだ部分であり、谷奥から浸み出した水の影響で常に湿潤な場所でもある。

試掘トレンチを掘った際にも、黒土の中に完形品を含む土器の出土を確認している。

調査は遺物の出土量が多かったために、グリッド毎に平面図を取り、遺物の取りあげを行った。遺物は谷地の傾斜方向に沿って大量に出土しており、人為的に投げ入れられた状況を示していた。遺物の包含層は最も厚い部分で約0.8mで、中央部が深くなる。

遺物の包含されている層は上層部分は比較的砂質でAS-B軽石を多く混入している。その下の層になるとやや粘性を持ちAS-B軽石は含まれなくなり、炭化物、焼土粒子の混入が目立つ。下層になると、常に水に浸っていた状態で、鉄分が沈着して固くなったものが層の様になっているものも見られた。また土器の中にはこの鉄分が錆びの様に付着したものも多く見られた。更に下層は砂層で、遺物の出土は見られなくなる。

出土土器の種類は須恵器類が壺、壺、坏、埴、蓋で土師器は壺、坏が中心で若干の鉢、甔などが見られた。総点数は約6,000点にのぼる。

土器以外の遺物としては斧、鎌、刀子などの鉄製品、土鏝などが見られた他、特殊な遺物としては縦11cm、横9.2cm、厚さ2.6cmで2つの穴が穿たれ、両面、側面に敲打痕のある滑石製品（瀧石）がある。

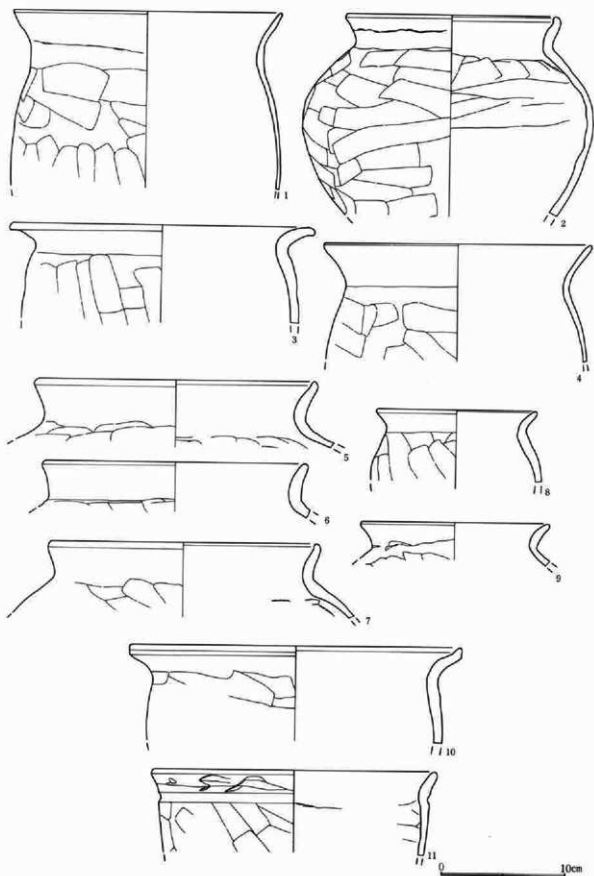
上層にAS-BPの混土層が確認できることから、平安時代後半には、ほとんど埋没が終了しており、土器の投げ入れは行われなくなっていたと考えられる。

また、この2号土器集積に近接して出土した土器の中には須恵器大壺（117）や、土師器の坏に須恵器の蓋が乗せられ、置かれた状態で出土しているもの（19と120および102と134）がある。さらにすぐ東に近接するピット群や5号掘立柱建物跡との関連なども注意しなければならないだろう。

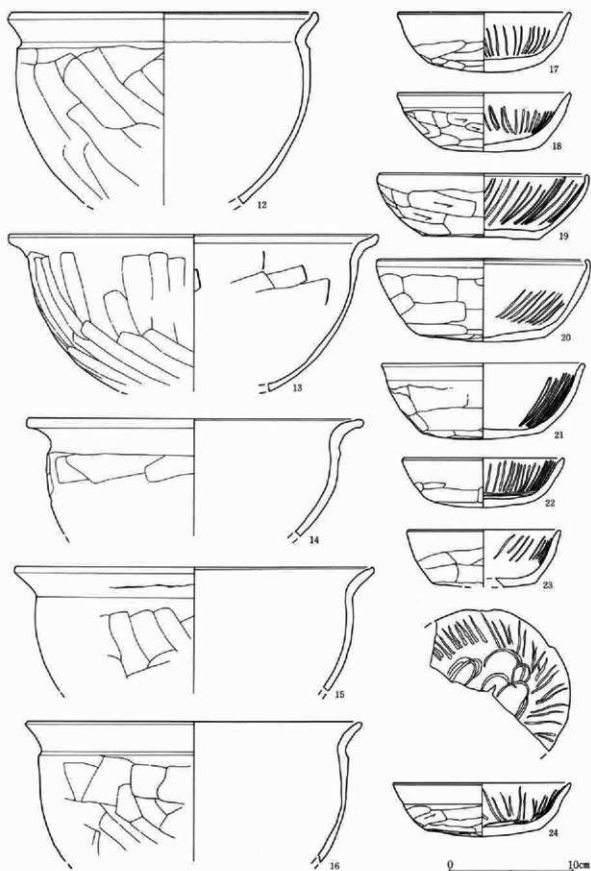
土の堆積状況や、出土土器からみて遺物の投げ入れ時期は8世紀前半から9世紀中頃と思われ、比較的短期間に形成されたものと考えられる。さらに炭化物や焼土などが見られることや、近接する土坑、ピット内からも焼土、炭化物が検出されていることなどから、具体的には明らかにし得ないが、なんらかの意図をもって土器の投げ入れ行為が行われていたものと考えられる。

調査ができなかったが、この集積は南側の谷奥に向かって更に続くものと考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物

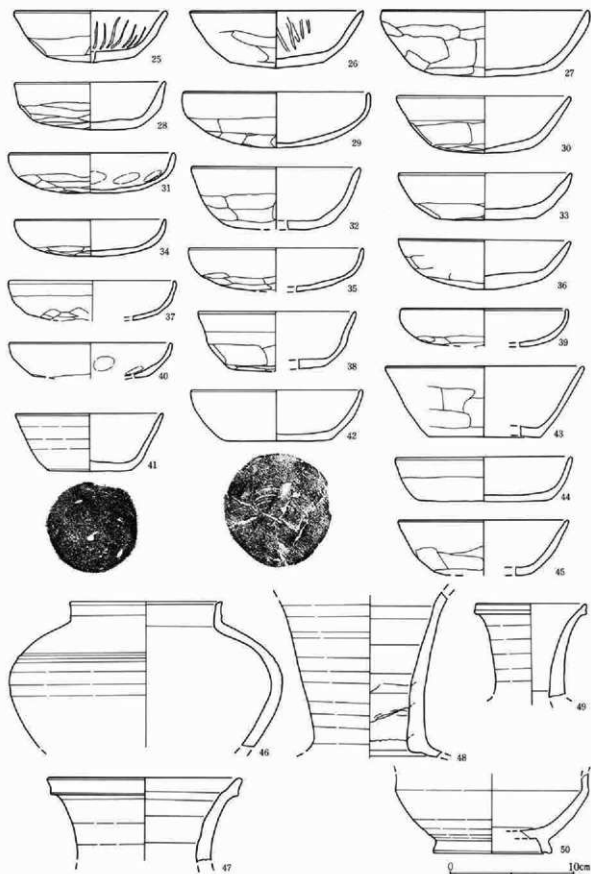


第706図 2号土器集積出土遺物(1)



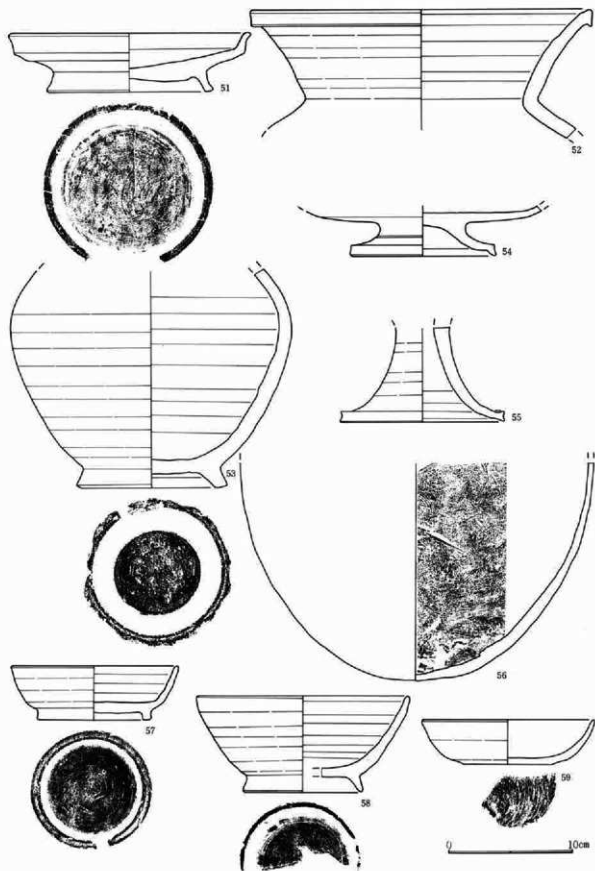
第707図 2号土器集積出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



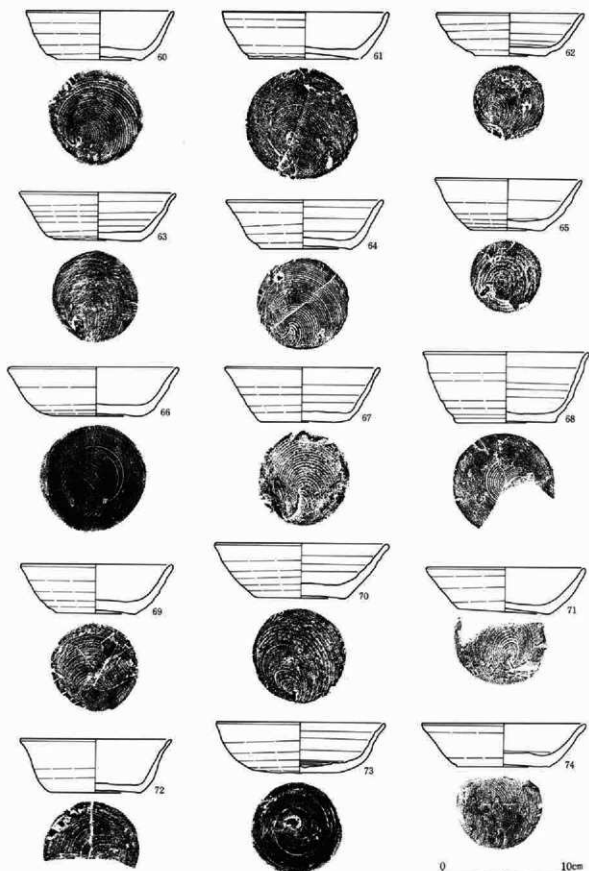
第708図 2号土器集積出土遺物(3)



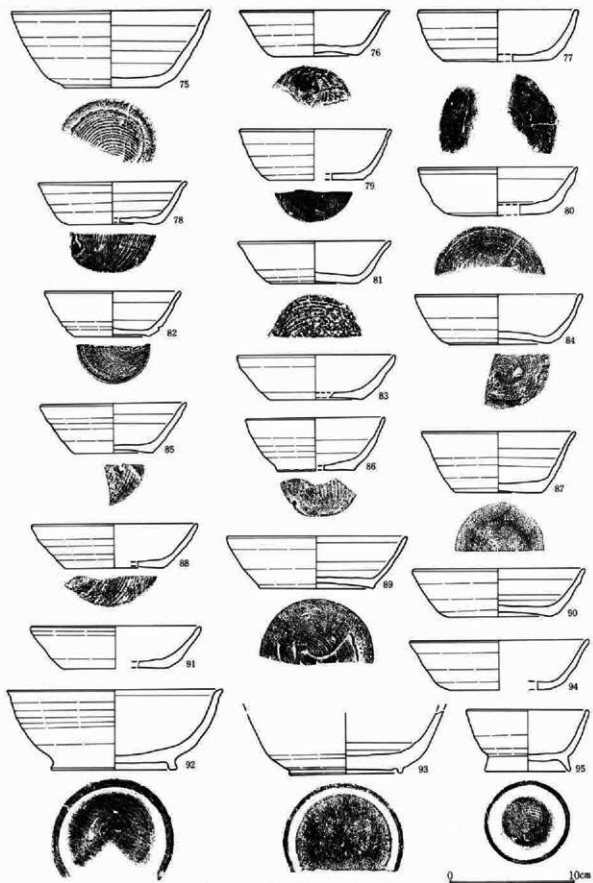


第709図 2号土器集積出土遺物(4)

第3章 検出された遺構と遺物

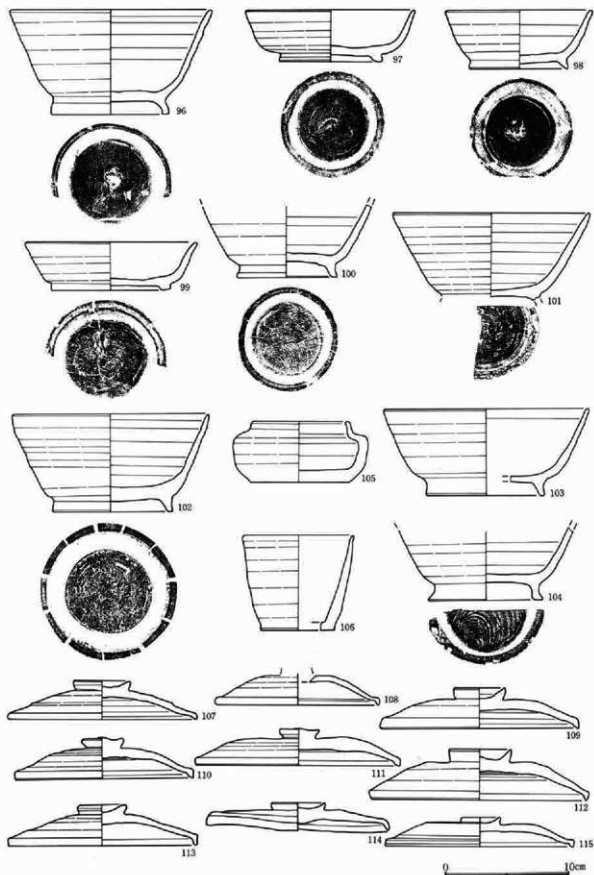


第710図 2号土器集積出土遺物(5)

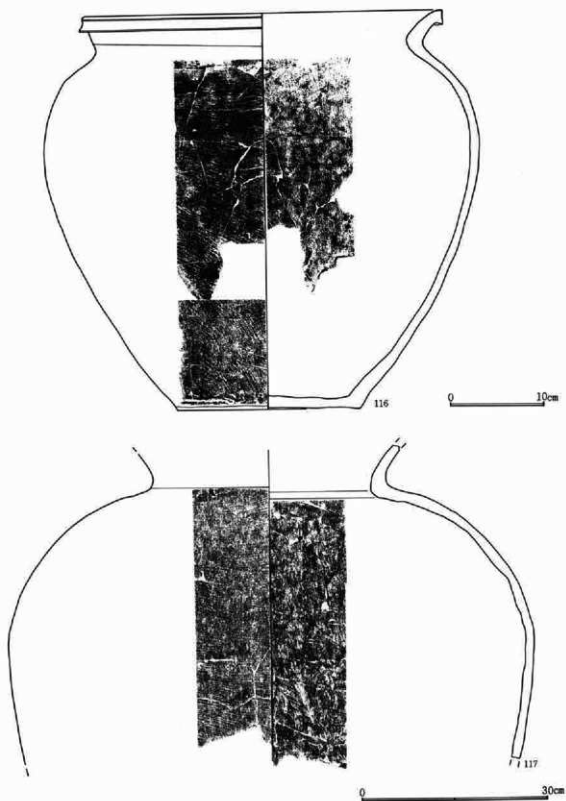


第711圖 2号土器集積出土遺物(6)

第3章 検出された遺構と遺物

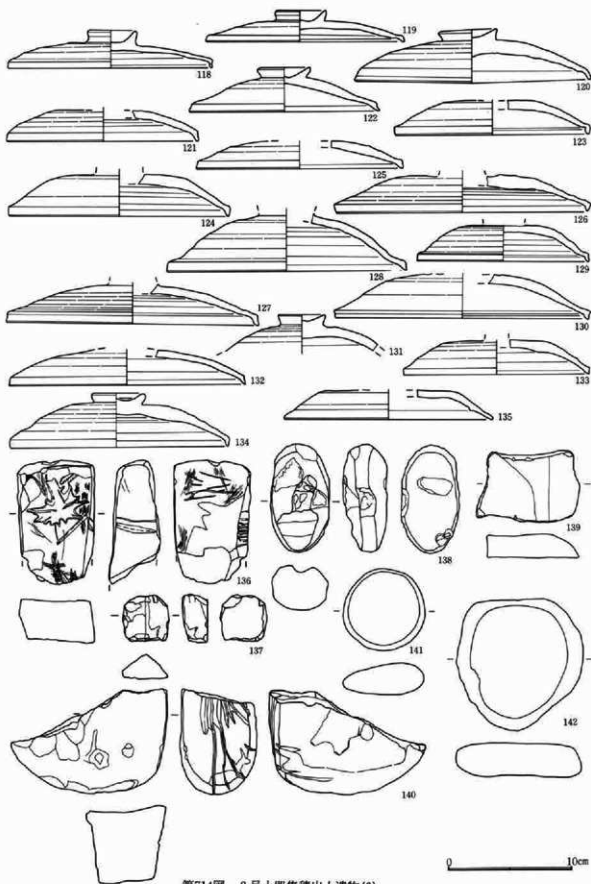


第712図 2号土器集積出土遺物(7)



第713図 2号土器集積出土遺物(8)

第3章 検出された遺構と遺物



第714図 2号土器集積出土遺物(9)



第715図 2号土器集積出土遺跡(10)

第3章 検出された遺構と遺物

2号土器集積出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土 焼成 色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 甕	+14		21.5	微砂粒含む 良 淡褐色	外 □縁部横撫で 胴部寛削り 内 □縁部横撫で 胴部寛撫で	
2	土師器 甕	+52		17.3	砂粒含む 良 淡黄褐色	外 □縁部横撫で 胴部寛削り 内 □縁部横撫で 胴部寛撫で	底部欠く
3	土師器 甕	0		24.6	砂粒含む 良 淡黄褐色	外 □縁部横撫で 胴部寛削り 内 □縁部横撫で 胴部寛撫で	
4	土師器 甕	+15		21.7	微砂粒含む 良 赤褐色	外 □縁部横撫で 胴部寛削り 内 □縁部横撫で 胴部寛撫で	
5	土師器 甕	+3		23.0	砂粒含む 良 淡黄褐色	外 □縁部横撫で 胴部寛削り 内 □縁部横撫で 胴部寛撫で	
6	土師器 甕	+32		21.5	砂粒含む 良 淡黄褐色	外 □縁部横撫で 胴部寛削り 内 □縁部横撫で 胴部寛撫で	
7	土師器 甕	+50		22.0	砂粒含む 良 淡黄褐色	外 □縁部横撫で 胴部寛削り 内 □縁部横撫で 胴部寛撫で	
8	土師器 甕	+10		13.0	砂粒含む 良 暗赤褐色	外 □縁部横撫で 胴部寛削り 内 □縁部横撫で 胴部寛撫で	
9	土師器 甕	+20		15.2	微砂粒含む 良 暗赤褐色	外 □縁部横撫で 胴部寛削り 内 □縁部横撫で 胴部寛撫で	
10	土師器 甕	0		26.8	砂粒含む 良 淡橙褐色	外 □縁部横撫で 胴部寛削り 内 □縁部横撫で 胴部寛撫で	
11	土師器 甕	+57		23.0	砂粒含む 良 淡黄褐色	外 □縁部横撫で 胴部寛削り 内 □縁部横撫で 胴部寛撫で	
12	土師器 甕	+40		25.0	砂粒含む 良 淡黄褐色	外 □縁部横撫で 胴部寛削り 内 □縁部横撫で 胴部寛撫で	
13	土師器 広口甕	0		29.7	微砂粒含む 良 淡褐色	外 □縁部横撫で 胴部寛削り 内 □縁部横撫で 胴部寛撫で	
14	土師器 甕	0		27.2	微砂粒含む 良 赤褐色	外 □縁部横撫で 胴部寛削り 内 □縁部横撫で 胴部寛撫で	
15	土師器 甕	+38		29.0	砂粒含む 良 淡黄褐色	外 □縁部横撫で 胴部寛削り 内 □縁部横撫で 胴部寛撫で	
16	土師器 甕	+13		27.0	砂粒含む 良 淡褐色	外 □縁部横撫で 胴部寛削り 内 □縁部横撫で 胴部寛撫で	
17	土師器 坏	+5		13.9	4.7 砂粒含む 良 淡褐色	外 □縁部横撫で 体部寛削り 内 □縁部横撫で 体部撫で	内面放射状暗文
18	土師器 坏	+53		13.9	4.6 砂粒含む 良 淡赤褐色	外 □縁部横撫で 体部寛削り 内 □縁部横撫で 体部撫で	内面放射状暗文
19	土師器 坏	+91		17.0 9.2	5.0 微砂粒含む 良 淡褐色	外 □縁部横撫で 体部寛削り 内 □縁部横撫で 体部撫で	完形120とセットで 出土。内面放射状暗 文
20	土師器 坏	+32		17.2 10.0	6.5 微砂粒含む 良 暗褐色	外 □縁部横撫で 体部寛削り 内 □縁部横撫で 体部撫で	ほぼ完形 内面放射状暗文
21	土師器 坏	+15		16.3	6.0 微砂粒含む 良 淡褐色	外 □縁部横撫で 体部寛削り 内 □縁部横撫で 体部撫で	内面放射状暗文
22	土師器 坏	+34		13.0	3.8 微砂粒含む 良 暗褐色	外 □縁部横撫で 体部寛削り 内 □縁部横撫で 体部撫で	内面放射状暗文
23	土師器 坏	+13		12.4 (8.2)	4.6 微砂粒含む 良 淡黄褐色	外 □縁部横撫で 体部寛削り 内 □縁部横撫で 体部撫で	内面放射状暗文
24	土師器 坏	+6		14.0	4.3 微砂粒含む 良 暗赤褐色	外 □縁部横撫で 体部寛削り 内 □縁部横撫で 体部撫で	内面 螺旋および放 射状暗文
25	土師器 坏	+43		12.4	4.0 砂粒含む 良 淡褐色	外 □縁部横撫で 体部寛削り 内 □縁部横撫で 体部撫で	内面放射状暗文
26	土師器 坏	+65		14.0	4.5 砂粒含む 良 淡黄褐色	外 □縁部横撫で 体部 底部寛削り 内 □縁部横撫で 体部撫で	内面放射状暗文
27	土師器 坏	+10		16.8 11.2	5.2 砂粒含む 良 淡橙褐色	外 □縁部横撫で 体部寛削り 内 □縁部横撫で 体部撫で	
28	土師器 坏	+56		12.2	3.8 砂粒含む 良 淡黄褐色	外 □縁部横撫で 体部寛削り 内 □縁部横撫で 体部撫で	完形
29	土師器 坏	+2		15.2	4.3 砂粒含む 良 淡黄褐色	外 □縁部横撫で 体部寛削り 内 □縁部横撫で 体部撫で	内面に若干の炭化物 付着



## 第10節 土器集積

30	土師器 坏	+2	14.0	4.5	微砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横線で 体部笠削り 内 口縁部横線で 体部無で	
31	土師器 坏	+45	13.5	3.2	微砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横線で 体部笠削り 内 口縁部横線で 体部無で	
32	土師器 坏	+134	13.6	4.9	微砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横線で 体部笠削り 内 口縁部横線で 体部無で	
33	土師器 坏	+25	14.0	3.7	微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 体部笠削り 内 口縁部横線で 体部無で	
34	土師器 坏	+50	12.2	2.9	砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横線で 体部笠削り 内 口縁部横線で 体部無で	
35	土師器 坏	0	14.2	3.4	砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横線で 体部笠削り 内 口縁部横線で 体部無で	少量の灰化物付着
36	土師器 坏	0	13.9	3.8	砂粒含む 良	淡橙褐色	外 口縁部横線で 体部笠削り 内 口縁部横線で 体部無で	側面荒れている
37	土師器 坏	+15	13.6		微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横線で 体部笠削り 内 口縁部横線で 体部無で	
38	土師器 坏	+10	12.7		微砂粒含む 良	暗褐色	外 口縁部横線で 体部笠削り 内 口縁部横線で 体部無で	
39	土師器 坏	+2	13.5		微砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横線で 体部笠削り 内 口縁部横線で 体部無で	
40	土師器 坏	+18	13.2		微砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横線で 体部笠削り 内 口縁部横線で 体部無で	
41	土師器 坏	+90	(12.0) 7.0	4.5	微砂粒含む 良	淡橙褐色	外 口縁部、体部横線で底部笠削り 内 口縁部横線で 体部無で	
42	土師器 坏	+15	(14.0) 8.8	4.0	微砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部、体部横線で底部笠削り 内 口縁部横線で 体部無で	
43	土師器 坏	+24	16.0 (9.0)	5.6	微砂粒含む 良	淡橙褐色	外 口縁部横線で 体部、底部笠削り 内 口縁部横線で 体部無で	
44	土師器 坏	+2	14.4 (10.6)	3.5	微砂粒含む 良	赤褐色	外 口縁部、体部横線で底部笠削り 内 口縁部横線で 体部無で	
45	土師器 坏	+6	13.7		微砂粒含む 良	淡黄褐色	外 口縁部横線で 体部笠削り 内 口縁部横線で 体部無で	
46	須恵器 短頸壺	+32	12.0		微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	
47	須恵器 壺	+21	(15.4)		微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	頸部のみ
48	須恵器 長頸壺	+5			砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	頸部片
49	須恵器 長頸壺	+19	8.7		砂粒含む 良	緑灰色	ロクロ成形	口縁、頸部のみ 自然釉
50	須恵器 埴	0	(9.6)		砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形 付け高台	
51	高台付 壺	+42	(19.6) (13.6)	4.6	砂粒含む 良	暗灰色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右) 付け高台	
52	須恵器 壺	+35	(26.9)		砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	
53	須恵器 壺	+16	12.0		砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 内面指無で 付け高台	
54	須恵器 台付壺	+90	(10.6)		微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 付け高台	
55	須恵器 高 坏	+34	13.0		微砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形	頸部のみ
56	須恵器 壺	0			砂粒含む 良	灰色	外面叩き後無で 内面同心円状当て痕	丸底 胴下半部のみ
57	須恵器 埴	+22	(13.6) 9.3	4.3	砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形 底部回転縦切り 付け高台	
58	須恵器 埴	+7	(17.3) (9.6)	7.5	微砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形 底部回転縦切り 付け高台	
59	須恵器 坏	+20	(14.0) (7.0)	3.8	微砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形 底部笠削り 付け高台	内外面やや摩滅
60	須恵器 坏	0	(12.0) 7.0	3.8	微砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形 底部回転糸切り(右)	

第3章 検出された遺構と遺物

61	須恵器 坏	+57	13.4 9.0	3.7	砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	
62	須恵器 坏	+40	(12.0) 5.8	3.8	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	
63	須恵器 坏	+96	12.6 7.0	3.6	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	内面底部に少量の 墨痕
64	須恵器 坏	+40	(12.9) 7.3	3.8	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	
65	須恵器 坏	+18	(12.0) 7.6	4.0	砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	
66	須恵器 坏	+58	13.7 7.3	3.8	精製 良	灰白色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右) 後周 辺部寛調整	
67	須恵器 坏	+27	12.7 7.0	4.3	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	完形
68	須恵器 坏	+42	(13.6) 8.0	5.5	精製 良	灰白色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右) 後 周辺部寛調整	
69	須恵器 坏	+30	(12.4) (6.6)	3.8	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	
70	須恵器 坏	0	14.1 7.3	4.2	砂粒含む 良	灰緑色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	
71	須恵器 坏	+30	(13.0) (7.3)	3.6	微砂粒含む 良	灰緑色	ロクロ成形	底部回転糸切り(左)	
72	須恵器 坏	+40	12.4 7.4	4.2	微砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	
73	須恵器 坏	+10	(13.8) 7.0	4.0	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	底部回転寛切り	
74	須恵器 坏	+110	(13.4) (7.6)	3.4	微砂粒含む 良	暗灰色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	
75	須恵器 塊	+21	(16.0)		砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右) 付け高台	
76	須恵器 坏	+80	12.0 7.0	3.6	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	
77	須恵器 坏	+5	(13.0) (9.0)	4.0	砂粒含む 良	灰褐色	ロクロ成形	底部回転寛削り	
78	須恵器 坏	+47	12.0 7.2	3.3	砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	
79	須恵器 坏	+58	12.4 7.6	4.0	精製 良	灰白色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	内外面摩滅している
80	須恵器 坏	+24	(13.0) (8.6)	3.8	砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形	底部回転寛削り	
81	須恵器 坏	+27	(12.5) 7.3	3.3	砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	内外面摩滅している
82	須恵器 坏	+6	(11.0) (6.2)	3.5	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右) 底縁部回転寛削り	
83	須恵器 坏	+65	(13.0) (7.6)	3.0	砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形	底部回転寛削り	
84	須恵器 坏	+12	(12.6) (8.0)	3.9	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	
85	須恵器 坏	+9	(12.0) (6.2)	3.9	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右) 後 周辺部寛調整	
86	須恵器 坏	+25	(11.3) (6.3)	4.2	砂粒含む 良	暗黄褐色	ロクロ成形	底部中央部静止、周辺部 回転糸切り(右)	酸化角礫成
87	須恵器 坏	+38	(12.6) 7.1	4.8	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	底部回転寛削り(左)	
88	須恵器 坏	+48	13.5 (7.9)	3.4	微砂粒含む 良	暗灰色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	
89	須恵器 坏	0	14.6 4.7	4.0	微砂粒含む 良	暗灰色	ロクロ成形	底部回転寛削り	
90	須恵器 坏	0	14.0	3.8	微砂粒含む 良	灰緑色	ロクロ成形	底部回転寛削り(左)	
91	須恵器 坏	+15	14.0 (8.5)	3.4	微砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形	底部回転糸切り(右)	

## 第10節 土器集積

92	須恵器 埴	+16	17.6 10.3	6.3	砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形 付け高台	底部回転蹴削り	
93	須恵器 埴	+7	(9.2)		砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 削り出し高台	底部回転蹴切り	
94	須恵器 坏	+24	(14.6) (7.9)	3.9	微砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形	底部回転蹴切り	
95	須恵器 埴	+2	10.0 6.9	4.9	微砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り(右)	
96	須恵器 埴	0	16.4 4.6	8.2	精製 良	灰白色	ロクロ成形 付け高台	底部回転蹴切り後撫で調整	
97	須恵器 埴	+36	13.8 8.4	4.1	砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形 付け高台	底部回転蹴切り	
98	須恵器 埴	+16	(12.0) 8.0	4.6	微砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形 付け高台	底部回転蹴切り後撫で調整	
99	須恵器 埴	+8	14.0 9.5	3.8	砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形 付け高台	底部回転蹴切り	
100	須恵器 埴	+25		8.2	砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り(右)	
101	須恵器 埴	+43	(16.0)		砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り後撫で調整	
102	須恵器 埴	0	(16.0) 9.8	7.7	砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形 付け高台	底部回転蹴削り(右)	134の蓋とセット
103	須恵器 埴	+34	(16.7) (9.6)	6.7	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 付け高台		
104	須恵器 埴	0	(9.3)		微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 付け高台	底部回転糸切り(右)	
105	須恵器 蓋 壺	+10	7.6 7.9	4.8	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	底部蹴削り	
106	須恵器 鉢	+28	(9.0) (6.0)	7.5	砂粒含む 良	青灰色	ロクロ成形	底部回転蹴切り	コップ型
107	須恵器 蓋	+3	(14.9) (7.8)4.5	3.1	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	外面天井部回転蹴削り	
108	須恵器 蓋	+7	13.4		精製 良	灰白色	ロクロ成形	外面天井部蹴削り	
109	須恵器 蓋	+30	(15.8) (7.8)4.0	3.2	精製 良	灰白色	ロクロ成形	外面天井部回転蹴削り	
110	須恵器 蓋	+5	(14.1) (7.8)3.4	3.3	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形		
111	須恵器 蓋	+88	16.1 (7.8)3.1	2.9	砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形	外面天井部回転蹴削り	
112	須恵器 蓋	+16	(17.2) (4.9)	4.0	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	外面天井部回転蹴削り	
113	須恵器 蓋	0	14.8 (7.8)3.8	3.3	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	外面天井部蹴削り	
114	須恵器 蓋	+25	14.6 (7.8)4.2	2.3	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	外面天井部回転蹴削り	
115	須恵器 蓋	+86	15.0 (7.8)3.1	2.3	砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形	外面天井部回転蹴削り	
116	須恵器 蓋	+12	(38.0) 19.8	42.0	砂粒含む 良	暗灰色	口縁部横撫で	外面平行印き目 内面撫で	やや大形の広口壺
117	須恵器 大型壺	+128	総数(84.0)		砂粒含む 良	灰緑色	外 口縁部横撫で 海波文様の当て痕	で平行印き目 内面青	頸部から口縁部を欠く
118	須恵器 蓋	+3	16.2	3.0	微砂粒含む 良	灰褐色	ロクロ成形	外面天井部回転蹴削り	
119	須恵器 蓋	+22	(15.7)	2.5	微砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形	外面天井部回転蹴削り	
120	須恵器 蓋	+96	18.6	4.2	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	外面天井部回転蹴削り	19の坏とセット
121	須恵器 蓋	+29	15.2		微砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形	外面天井部回転蹴削り	内外面やや摩滅
122	須恵器 蓋	+79	15.0	3.5	砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形	外面天井部回転蹴削り	

## 第3章 検出された遺構と遺物

123	須恵器蓋	+6	(15.2)	雑砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形 外面天井部回転彫削り	外面やや摩滅
124	須恵器蓋	+50	(17.8)	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 外面天井部彫削り	
125	須恵器蓋	+20	16.4	砂粒含む 良	灰緑色	ロクロ成形 外面天井部彫削り	
126	須恵器蓋	+15	13.7	砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形 外面天井部彫削り	
127	須恵器蓋	+45	20.9	砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形 外面天井部回転彫削り	
128	須恵器蓋	+46	(19.0)	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 外面天井部回転彫削り	
129	須恵器蓋	+43	(13.6)	雑砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 外面天井部回転彫削り	
130	須恵器蓋	+18	(20.1)	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 外面天井部回転彫削り	
131	須恵器蓋	0	(74A) 3.7	精製 良	灰白色	ロクロ成形 外面天井部回転彫削り	
132	須恵器蓋	+30	(18.8)	雑砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 外面天井部回転彫削り	
133	須恵器蓋	+20	14.8	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 外面天井部彫削り	
134	須恵器蓋	0	(17.5) 4.2	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 天井部回転彫削り	102の坏に乗った状態で出土
135	須恵器蓋		(16.6)	砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 外面天井部回転彫削り	
136	砥石			長さ9.7cm、幅3.3cm、厚さ6.1cm、重さ303g。石材は砥沢石。四面を使用。刃研削が見られる。火熱を受けている。一面に赤色顔料痕。			
137	砥石			長さ3.1cm、幅2.0cm、厚さ3.2cm、重さ30g。石材は砥沢石。破損品。断面三角形を呈す。			
138	砥石	+28		長さ8.5cm、幅3.6cm、厚さ3.5cm、重さ67g。石材は二ツ岳軽石。卵型を呈す。部分的に使用面が見られる。			
139	砥石	+3		長さ5.5cm、幅3.1cm、厚さ1.9cm、重さ108g。石材は牛伏砂岩。扁平で表の使用面はややくぼむ。			
140	石皿	+15		長さ7.9cm、幅12.4cm、厚さ6.2cm、重さ593g。石材は牛伏砂岩?破損品。使用面はややくぼむ。側面に刃研削。			
141	磨り石			長さ6.4cm、幅6.5cm、厚さ2.5cm、重さ132g。石材は流紋岩。やや小振りな円盤を利用。			
142	台石	+28		長さ10.5cm、幅10.1cm、厚さ2.7cm、重さ373g。石材は砂岩。扁平な縁の両面を利用。使用面は平坦。			
143	磨り石			長さ6.3cm、幅4.9cm、厚さ3.5cm、重さ57g。石材は二ツ岳軽石。卵型を呈し、一部に使用面が見られる。			
144	砥石			長さ5.5cm、幅5.5cm、厚さ1.1cm、重さ37g。石材は砂岩。個平な円盤。両面、側縁共に磨られている。			
145	砥石			長さ10.0cm、幅6.2cm、厚さ4.0cm、重さ293g。石材は牛伏砂岩。			
146	砥石	+28		長さ4.1cm、幅4.9cm、厚さ3.8cm、重さ49g。石材は二ツ岳軽石。小型の縁を利用。使用面は平坦。			
147	砥石	+32		長さ8.8cm、幅6.9cm、厚さ2.3cm、重さ163g。石材は牛伏砂岩。扁平な円盤を利用。			
148	砥石	+25		滑石製。長さ11cm、幅9.2cm、厚さ2.7cm、穴径0.7~0.9cm、重さ548.9g。長方形を呈し、角は磨られてかなり丸味を持つ。やや端に寄った部分に2カ所の穿孔。周辺部には敲打痕および両面中央部に凹み穴。			
149	石皿	+36		長さ4.5cm、幅2.5cm、厚さ0.7cm。石材は砂岩で円盤状を呈す。紡錘車の破損品か。			
150	土 鏝			長さ4.8cm、径1.5cm、孔径0.3cm、重さ10.5g。両端部は平坦である。			
151	土 鏝	+30		長さ5.1cm、径1.6cm、孔径0.35cm、重さ10.6g。形はやや不整形で部分的に剥落、欠損が認められる。			
152	鉄製品	+38		斧。長さ7.9cm、幅4.3cm、厚さ1.8cm、重さ87.0g。刃先を一部欠くがほぼ完品。			
153	鉄製品	+44		刀子。長さ10.7cm、幅1.1cm、厚さ0.5cm、重さ9.3g。先端部を欠く。			

154	鉄製品	+4	刀子。長さ10.6cm、幅1.1cm、厚さ0.3g、重さ6.0g。刃部使い込まれている。先端部を欠く。
155	鉄製品	+10	刀子。長さ15.0cm、幅1.3cm、厚さ0.5cm、重さ9.9g。細身で長めの刃部を持つ。
156	鉄製品	+24	刀子。長さ4.6cm、幅1.6cm、厚さ0.3cm、重さ5.7g。刃部破片。
157	鉄製品	+25	刀子。長さ7.1cm、幅1.1cm、厚さ0.5cm、重さ6.6g。両端部を欠く。
158	鉄製品	+25	刀子。長さ3.2cm、幅1.4cm、厚さ0.5cm、重さ3.2g。刃部片。
159	鉄製品	+26	刀子。長さ2.7cm、幅1.3cm、厚さ0.2cm、重さ1.4g。刃部片。
160	鉄製品	+33	刀子。長さ4.0cm、幅1.0cm、厚さ0.4cm、重さ2.4g。茎部分。
161	鉄製品		刀子か。長さ5.6cm、幅1.4cm、厚さ0.3cm、重さ5.3g。1端が屈曲してやや幅広になる。
162	鉄製品	+10	鍔か。長さ5.5cm、幅0.7cm、厚さ0.6cm、重さ4.8g。茎部分か。
163	鉄製品	+33	鍔。長さ4.2cm、幅2.5cm、厚さ0.2cm、重さ4.7g。刃部片、中央に穿孔。
164	鉄製品	+36	鍔。長さ6.7cm、幅2.6cm、厚さ0.4cm、重さ20.1g。先端部が折れ曲がる。
165	鉄製品	+18	板状製品。長さ4.3cm、幅2.5cm、厚さ0.6cm、重さ28.1g。長方形を呈し、やや厚みを持つ。
166	鉄製品	+19	鍔。長さ5.5cm、幅3.2cm、厚さ0.2cm、重さ9.4g。扇状を呈し、茎部分を欠く。

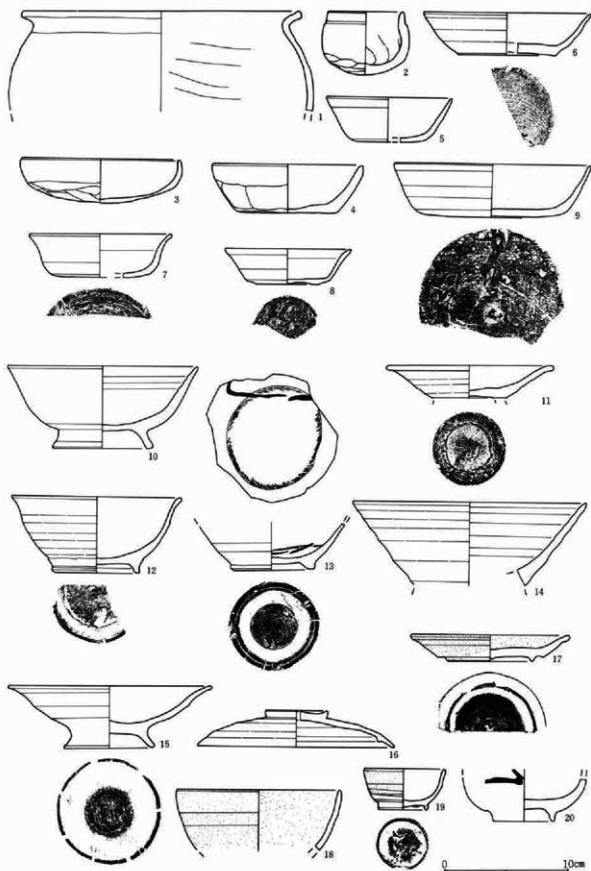
## 第11節 グリッド出土遺物

ここでは、本遺跡において出土した遺物の中で、遺構外から出土している遺物を取り上げて記述する。時期は古墳時代から江戸時代にわたっている。ただし縄文時代・弥生時代の遺物については、それぞれの項においてすでに扱っているので取り上げていない。

遺物は古墳時代から近世にわたっており、土器類は甕、坏、埴輪および陶磁器である。土器以外のものとしては、砥石、鉄器類の出土が目立つ。鉄器は刀子、釘などの他に火打ち金、板状製品などが見られる。

さらには紡錘車、滑石片などもみられる。また5個の鉄砲玉がほぼ同地点（P-20グリッド付近）で出土している。

第3章 検出された遺構と遺物

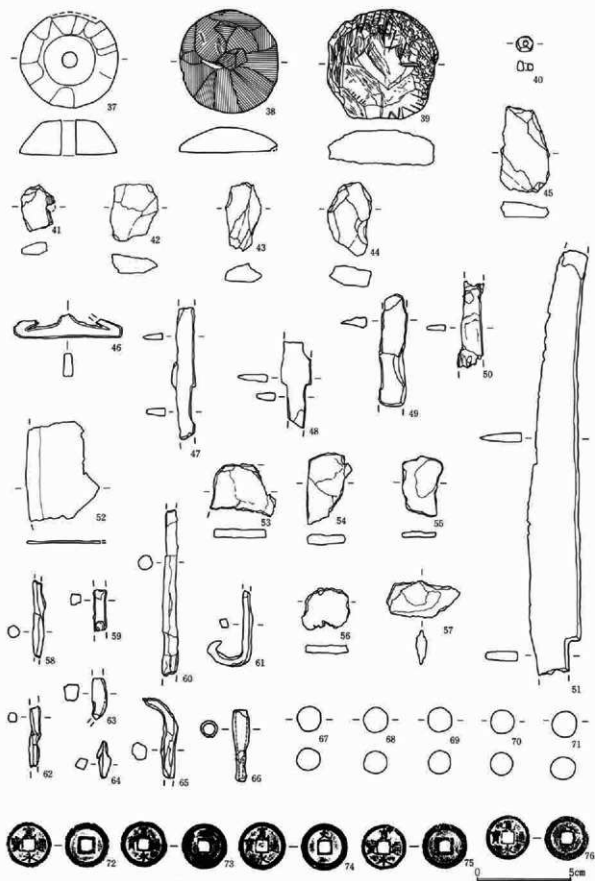


第716図 グリッド出土遺物(1)



第717図 グリッド出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第718図 グリッド出土遺物(3)



グリッド出土遺物観察表

図番号	器種	出土位置	口 径 (cm)	径 器 高	胎 土 色	調 色	成・整形の特徴	備考
1	土師器 壺	Q-24	(22.6)		砂粒含む 良	茶褐色	外 口縁部横溝で 胴部撫で 内 口縁部横溝で 胴部撫で	
2	小 煎 広口壺	R-43	6.2	4.9	微砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横溝で 胴部底削り 内 口縁部横溝で 胴部撫で	完形
3	土師器 杯	V-40	12.8	3.4	微砂粒含む 良	橙褐色	外 口縁部横溝で 体部底削り 内 口縁部横溝で 体部撫で	
4	土師器 杯	V-48	12.1 8.2	3.8	砂粒含む 良	淡褐色	外 口縁部横溝で 体部底削り 内 口縁部横溝で 体部撫で	
5	須恵器 杯	R-32	(10.2)	3.5	砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形 底部撫で調整	
6	須恵器 杯	U-40	(13.6) (8.0)	3.3	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転余切り(右)	
7	須恵器 杯	Q-31	(11.6) 8.2	3.5	精製 良	灰白色	ロクロ成形 回転余切り後調整	
8	土師器 杯	Q-25	(10.3) (5.1)	2.8	微砂粒含む 良	淡橙褐色	ロクロ成形 底部回転余切り後撫で調整	薄手作り
9	須恵器 杯	S-28	16.0	4.3	砂粒含む 良	灰白色	ロクロ成形 底部回転削り	
10	須恵器 壺	P-24	(15.6) 8.2	6.5	砂粒含む 良	橙褐色	ロクロ成形 底部回転余切り(右) 付け高台	酸化焼成
11	須恵器 杯	S-6	(13.6) (6.0)		微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転余切り(右) 付け高台	高台欠く
12	須恵器 壺	U-48	14.0 3.7	6.0	砂粒含む 良	灰黒色	ロクロ成形 底部回転余切り(右) 付け高台	
13	須恵器 壺	U-43		6.8	微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形 底部回転余切り(右) 付け高台	底部内周墨書 転用痕
14	須恵器 壺	U-39	(19.0)		微砂粒含む 良	灰色	ロクロ成形	
15	須恵器 壺	Q-24	16.6 7.3	5.0	微砂粒含む 良	黄褐色	ロクロ成形 底部回転余切り(右) 付け高台	酸化焼成
16	須恵器 蓋	R-42	(15.9) (5.1)	2.9	小石粒含む 良	灰色	ロクロ成形 外面天井部回転削り	反りあり
17	皿	S-28	13.0 7.0	2.1	精製 良	灰緑色	底部にトチン痕	瀬戸・美濃系 17世紀
18	壺	R-9	(13.4)		砂粒含む 良	緑褐色	ロクロ成形	瀬戸・美濃系 17~18世紀
19	陶 器 壺 口	S-13	6.6 4.0	3.35	石粒含む 良	灰緑色	ロクロ成形	
20	壺	Q-25		5.0	精製 良	青灰色	ロクロ成形	備前
21	砥 石	S-39	長さ9.4cm、幅2.6cm、厚さ2.7cm、重さ80g。石材は流紋岩。全面使用されており、端部が薄くなっている。					
22	砥 石	Q-10	長さ7.4cm、幅2.5cm、厚さ1.8cm、重さ58g。石材は流紋岩。四角で四角平番に使い込まれている。					
23	砥 石	U-46	長さ6.6cm、幅6.2cm、厚さ3.5cm、重さ218g。石材は砥沢石。四角で使用面は平番。					
24	砥 石	Q-8	長さ12.7cm、幅4.7cm、厚さ3.0cm、重さ237g。石材は砥沢石。四面を使用。内一面はかなり斜めに使い込まれている。					
25	石 皿	Q-22	長さ18.3cm、幅5.0cm、厚さ4.6cm、重さ1174g。石材は牛伏砂岩。両面、側面共に良く磨かれてへこんでいる。					
26	砥 石	R-41	長さ5.6cm、幅4.3cm、厚さ2.8cm、重さ98g。石材は砥沢石。					
27	砥 石		長さ5.9cm、幅3.2cm、厚さ1.4cm、重さ42g。石材は砥沢石。四面を使用。やや裂れを持つ。					
28	砥 石	V-39	長さ5.2cm、幅4.4cm、厚さ1.5cm、重さ52g。石材は砥沢石。					
29	砥 石	R-7	長さ4.2cm、幅2.4cm、厚さ0.7cm、重さ7g。石材は牛伏砂岩。小型で盤状を呈す。側縁は薄くなっている。					

### 第3章 検出された遺構と遺物

30	磁石	R-5	長さ5.6cm、幅3.5cm、厚さ3.0cm、重さ64g。石材は磁石。小型品。下端が厚く、上端は薄く、縦通穴が穿けられている。
31	磁石	P-10	長さ11.3cm、幅9.7cm、厚さ2.6cm、重さ335g。石材は砂岩。板状を呈し、両面を使用面としている。
32	磁石	S-6	長さ7.9cm、幅1.8cm、厚さ6.0cm、重さ89g。石材は牛伏砂岩。側面が両面、側縁共に丁寧に磨かれている。
33	凹石	P-16	長さ12.9cm、幅6.0cm、厚さ4.6cm、重さ564g。石材は緑色片岩。破損品。棒状呈し、凹穴1カ所。
34	磨り石	O-24	長さ4.3cm、幅3.2cm、厚さ2.8cm、重さ25g。石材は二ツ岳軽石。粘型を呈す。
35	磨り石	T-42	長さ11.8cm、幅9.2cm、厚さ2.7cm、重さ389g。石材は粗粒安山岩。偏平な體を利用。使用面はかなり平滑。一部を欠く。
36	凹石	R-38	長さ8.65cm、幅6.7cm、厚さ2.2cm、重さ139g。石材は砂岩。やや偏平。片面の中央に残り凹穴。
37	紡錘車	R-6	径5.1cm、厚さ1.8cm、重さ57.5g。石材は蛇紋岩。
38	紡錘車	T-30	径5.1cm、厚さ1.3cm、重さ51.3g。石材は蛇紋岩。未製品（石製模造品?）
39	紡錘車	II区表探	径5.6cm、厚さ1.8cm、重さ66.9g。石材は滑石。未製品。
40	滑石製品	I区表探	白玉。径6.85cm、厚さ0.5cm、孔径0.2cm、重さ0.4g。かなり摩滅している。滑石製。
41	滑石製品	R-44	有孔円盤。長さ2.3cm、幅1.7cm、厚さ0.6cm、重さ3.3g。側面に刃物による削り痕。穿孔時欠損か。滑石製。
42	滑石片	R-43	長さ3.0cm、幅2.3cm、厚さ1.0cm、重さ8.4g。
43	滑石片	R-46	長さ3.5cm、幅1.9cm、厚さ1.0cm、重さ5.5g。
44	滑石片	III区表探	長さ3.8cm、幅2.2cm、厚さ1.0cm、重さ11.1g。
45	滑石片	S-43	長さ4.3cm、幅2.5cm、厚さ0.8cm、重さ12.2g。
46	鉄製品	S-23	火打ち金。長さ5.8cm、幅1.2cm、厚さ0.5cm、重さ4.5g。
47	鉄製品	V-47	刀子。長さ6.8cm、幅1.0cm、厚さ0.4cm、重さ7.3g。両端部を欠く。
48	鉄製品	Q-24	刀子。長さ4.4cm、幅1.5cm、厚さ0.4cm、重さ3.7g。両端部。
49	鉄製品	S-38	刀子。長さ5.8cm、幅1.4cm、厚さ0.7cm、重さ9.8g。やや肉厚で両端部を欠く。
50	鉄製品	T-48	刀子。長さ4.5cm、幅1.2cm、厚さ0.3cm、重さ2.5g。錆化著しく両端部を欠く。
51	鉄製品	S-42	刀子。長さ22.3cm、幅2.7cm、厚さ0.5cm、重さ103.1g。比較的大型品で背割も明瞭である。僅かに反りを持ち、両端部を欠く。
52	銅製品	U-40	長さ5.2cm、幅3.9cm、厚さ0.1cm、重さ12.3g。板状で端部が肥厚する。
53	鉄製品	S-45	板状製品。長さ3.5cm、幅2.8cm、厚さ0.4cm、重さ10.1g。やや肉厚で一端は丸味を持つ。
54	鉄製品	II区表探	板状製品。長さ3.7cm、幅2.4cm、厚さ0.5cm、重さ8.6g。やや肉厚で短冊状を呈す。
55	鉄製品	Q-7	板状製品。長さ3.2cm、幅2.15cm、厚さ0.3cm、重さ5.6g。
56	鉄製品	Q-28	板状製品。長さ2.55cm、幅2.25cm、厚さ0.5cm、重さ4.8g。
57	鉄製品	U-48	鎌か。長さ3.7cm、幅1.9cm、厚さ0.5cm、重さ5.9g。小片、錆化が著しい。
58	鉄製品	R-4	釘。長さ4.6cm、幅0.75cm、厚さ0.7cm、重さ3.2g。僅かに扱れを持ち、両端部を欠く。
59	鉄製品	S-37	釘。長さ2.2cm、幅0.6cm、厚さ0.55cm、重さ1.3g。両端部を欠く。
60	鉄製品	R-46	棒状製品。長さ8.6cm、幅0.9cm、厚さ0.8cm、重さ8.4g。

61	鉄製品	U-48	釘。長さ3.9cm、幅0.5cm、厚さ0.5cm、重さ4.1g。J字状に曲がる。
62	鉄製品	S-36	釘。長さ3.1cm、幅0.5cm、厚さ0.5cm、重さ1.3g。鋭れを持ち、両端部を欠く。
63	鉄製品	S-37	釘。長さ2.1cm、幅0.8cm、厚さ0.75cm、重さ2.9g。先端部曲がり、両端部を欠く。
64	鉄製品	R-4	釘。長さ2.3cm、幅0.7cm、厚さ0.6cm、重さ1.5g。先端部片。
65	鉄製品	R-45	釘。長さ4.7cm、幅0.9cm、厚さ0.8cm、重さ6.4g。やや折れ曲がり、端部を欠く。
66	煙管吸い口	D-30	長さ3.8cm、径0.9cm、重さ2.0g。
67	鉄砲玉	P-20	径1.3cm、重さ9.6g。
68	鉄砲玉	P-20	径1.3cm、重さ8.9g。
69	鉄砲玉	P-20	径1.2cm、重さ9.9g。
70	鉄砲玉	W-48	径1.3cm、重さ10.1g。
71	鉄砲玉	II区表探	径1.3cm、重さ11.9g。表面白色に錆化。
72	古銭	P-24	寛永通寶。日本1636年初鋳。
73	古銭	Q-8	寛永通寶。日本1636年初鋳。
74	古銭	R-9	寛永通寶。日本1636年初鋳。
75	古銭	S-7	寛永通寶。日本1636年初鋳。
76	古銭	V-39	寛永通寶。日本1636年初鋳。

表7 住居一覧

住居番号	グリッド位置	形状	規模			面積	主軸方位	竪			柱穴	貯蔵穴	出土遺物	時代
			長辺	短辺	壁高			位置	長さ	開口幅				
1	O-8	正方形	7.72	7.35	0.55	56.74	N-99°-E	東	0.72	0.50	4	南東	壘、高坪、坪	古墳
2	N-9	正方形	4.52	4.00	0.67	18.08	N-91°-E	東	0.55	0.26	—	南東	壘、坪、蓋、砥	平安
3	M-9	正方形	3.18	2.73	0.26	8.68	N-9°-E	南	1.10	0.45	—	—	壘、坪、鉄、紡	平安
4	M-9	—	4.22 (1.65)	—	0.72	(6.96)	N-79°-E	北東	0.83	0.43	—	—	壘、坪、砥	平安
5	N-12	正方形	3.09	3.08	0.61	9.52	N-88°-E	東	0.80	(0.40)	—	南東	壘、坪、鉄	平安
6	P-8	長方形	4.12	2.65	0.54	10.92	N-92°-E	東	0.80	0.58	—	—	壘、坪、砥	平安
7	O-11	正方形	3.80	3.45	0.50	13.11	N-79°-E	東	1.07	0.45	—	南東	壘、坪、	平安
8	O-13	正方形	2.38	2.26	0.26	5.38	N-114°-W	東	(0.62)	0.37	—	—	壘、坪、鉄、紡	平安
9	O-13	長方形	(4.60)	3.30	0.88	(15.18)	N-91°-E	東	1.20	0.55	—	—	壘、坪、砥、鉄	平安
10	O-13	長方形	4.42	3.15	1.00	13.92	N-90°-E	東	1.10	0.70	—	南東	壘、鉄、壘	平安
11	O-14	正方形	3.16	3.02	0.54	9.54	N-105°-W	東	0.50	0.35	—	—	壘、羽釜、坪	平安
12	O-14	(正方形)	3.57	(3.40)	0.54	(12.14)	N-83°-W	南東	0.72	0.50	—	南東	壘、羽釜、坪	平安
13	O-14	正方形	3.00	2.35	0.54	7.05	N-66°-E	東	1.10	0.81	—	—	壘、坪、鉄	平安
14	O-14	長方形	4.33	3.62	0.63	15.67	N-81°-E	南東	0.43	0.52	—	南東	土釜、羽釜、壘	平安
15	O-15	(正方形)	4.42	(3.81)	0.48	(16.84)	N-10°-W	北	0.53	0.50	—	—	壘、坪、砥	古墳
16	O-15	正方形	3.87	3.12	0.62	12.07	N-76°-E	南東	0.61	0.62	—	南東	壘、平皿、坪	平安
17	O-16	正方形	3.17	3.12	0.22	9.89	N-70°-E	東	0.43	0.76	—	—	羽釜、坪、蓋	平安
18	O-16	(正方形)	4.80	(4.28)	0.20	(20.54)	N-104°-W	東	1.17	0.70	—	南東	壘、坪、蓋、鉄	平安
19	O-17	長方形	4.16	3.31	0.30	13.77	N-70°-E	東	0.38	0.70	—	—	坪、砥、鉄	奈良
20	O-12	正方形	1.92	1.85	0.20	3.55	N-64°-W	北東	0.56	0.40	—	—	坪	平安
21	P-24	台形	3.40	3.06	0.40	10.40	—	—	—	—	—	南東	土釜、羽釜	平安
22	O-25	—	3.15	(1.44)	0.08	(4.45)	—	—	—	—	—	—	坪	平安
23	P-26	(長方形)	(3.35)	(2.76)	0.05	(9.74)	—	—	—	—	—	南	羽釜、壘	平安
24	R-31	長方形	4.56	3.72	0.26	16.96	N-19°-W	北	0.70	0.45	—	北東	壘、坪、鉄、紡	奈良

## 第3章 検出された遺構と遺物

住居番号	グッド位置	形状	短		横		面積	主軸方位	壁		柱穴	貯蔵穴	出土遺物	時代	
			長辺	短辺	短辺	壁高			位置	長さ					壁口幅
25	Q-31	(長方形)	(3.67)	(2.89)	0.26		(10.61)	N-33°-W	北	0.63	0.43	—	—	壘、環	平安
26	R-46	(長方形)	(3.30)	2.42	0.15		(7.99)	N-60°-W	南東	0.62	0.59	—	—	壘、環	平安
27	Q-46	—	—	—	0.38	—	—	—	—	—	—	1	—	環、鉄	古墳
28	R-46	—	4.55	(3.95)	0.31		(13.42)	—	—	—	—	2	—	扉土器片	縄文
29	R-46	正方形	3.34	3.31	0.36		11.06	N-94°-E	西	0.67	0.20	—	—	南西環、帯	古墳
30	S-46	正方形	4.56	4.23	0.58		19.29	N-13°-W	北	0.30	0.44	4	—	北東壘、環、鉢、玉	古墳
31	S-47	(正方形)	(3.15)	(3.08)	0.11		(9.70)	—	—	—	—	—	—	環、磁、帯	古墳
32	S-46	正方形	4.31	3.85	0.23		16.59	N-4°-W	北東	0.33	0.34	—	—	北東壘、環	平安
33	T-47	正方形	3.77	3.50	—		13.20	N-79°-E	東	0.31	0.48	—	—	環	古墳
34	T-46	正方形	3.90	3.85	0.47		15.02	N-88°-E	東	1.80	0.15	—	—	南東壘、手掘小皿鉢	古墳
35	T-46	正方形	4.07	3.84	0.52		15.63	N-58°-E	東	1.10	0.32	—	—	南東壘、環	古墳
36	S-46	長方形	4.30	3.88	0.42		16.68	N-20°-W	北	1.40	0.40	4	—	北東環	古墳
37	S-45	正方形	4.80	4.67	0.39		22.42	N-11°-W	北	1.10	0.53	3	—	北東壘、高環、手掘	奈良
38	S-45	正方形	4.51	4.50	0.62		20.30	N-24°-W	北	0.60	0.25	—	—	北東鉢、壘、壘、環	古墳
39	R-45	長方形	3.73	2.96	0.22		11.00	N-88°-E	東	0.72	0.36	3	—	壘	奈良
40A	R-44	—	9.02	7.82	0.90		70.54	—	—	—	—	3	—	壘、壘、鉢、壘	古墳
41	S-45	長方形	4.36	3.27	0.13		14.26	N-76°-E	東	0.59	0.75	—	—	羽釜、埴輪片	平安
42	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
43	S-45	正方形	5.23	5.06	0.52		26.46	N-68°-E	東	0.89	0.38	4	—	南東壘、環、凹石	古墳
44	U-45	正方形	4.83	4.62	0.51		22.31	N-40°-E	東	0.95	0.37	4	—	東壘、壘、鉢、環	古墳
45	V-44	(長方形)	(5.60)	(4.64)	(0.31)		(25.98)	N-30°-W	北西	0.45	0.52	—	—	環	奈良
46	U-42	正方形	4.00	3.84	0.31		15.36	N-64°-E	東	0.88	0.40	4	—	南東壘、環、鉄、滑	古墳
47	U-44	正方形	3.46	3.35	0.33		11.59	N-58°-E	東	0.68	0.60	—	—	南東壘、高台境、埴	平安
48	V-42	正方形	4.71	4.62	0.55		21.76	N-53°-E	東	0.78	0.30	4	—	東壘、鉢、凹石	古墳
49	V-46	長方形	3.40	2.84	0.19		9.66	N-138°-E	南	0.94	0.58	—	—	壘、鉄	平安
50	V-46	(正方形)	(3.53)	(3.43)	(0.28)		(12.11)	N-19°-W	南西	0.69	0.48	—	—	環、高台境	平安
51	V-45	(長方形)	(4.27)	(3.23)	(0.31)		(13.79)	N-68°-E	東	—	—	—	—	南東壘、羽釜、壘	平安
52	V-44	正方形	(5.68)	(5.54)	1.00		(31.47)	—	—	—	—	4	—	環	古墳
53	W-44	(長方形)	(3.15)	(1.75)	(0.35)		(5.51)	—	—	—	—	—	—	環	平安
54	V-44	(長方形)	(5.67)	(2.46)	(0.18)		(13.95)	N-28°-W	北	0.90	0.74	2	—	北東壘、鉄、滑	古墳
55	V-44	正方形	4.86	4.11	0.62		19.97	N-9°-E	北	0.56	0.53	4	—	北東壘、壘、環	古墳
56	U-44	正方形	3.66	2.97	0.41		10.88	N-83°-E	東	0.83	0.42	—	—	北東羽釜、灰輪軸	平安
57	V-43	長方形	3.50	3.48	0.27		12.18	N-61°-W	南東	0.98	0.52	—	—	壘、環、石皿	古墳
58	T-44	長方形	5.60	4.97	0.36		27.83	N-20°-W	北	1.40	0.26	4	—	北東手掘土器、鉢、土	平安
59	T-43	正方形	3.80	3.53	0.34		13.41	N-80°-E	南東	0.78	0.46	—	—	土釜、環、埴	平安
60	T-43	正方形	3.23	2.50	0.25		8.08	N-55°-E	東	0.52	0.43	—	—	南東小皿壘、羽釜	平安
61A	S-43	長方形	4.40	3.84	0.38		16.90	N-60°-E	東	0.68	0.47	—	—	壘、羽釜、壘	平安
61B	S-43	長方形	5.20	4.74	0.35		24.65	N-61°-E	北	1.05	0.53	4	—	壘、環、磁	古墳
62	T-43	正方形	4.62	4.34	0.51		20.05	—	—	—	—	3	—	壘、羽釜、壘、滑	奈良
63A	T-43	正方形	3.78	3.20	0.70		12.10	N-66°-E	東	0.81	0.45	—	—	壘、羽釜、土釜	平安
63B	T-42	長方形	4.25	4.00	0.75		17.04	N-66°-E	東	0.81	0.45	—	—	壘	平安
64	S-42	正方形	4.40	4.35	0.40		19.14	N-19°-W	北	0.79	0.47	4	—	北東壘、環、埴、紡	奈良
65	R-43	正方形	5.80	5.70	0.40		33.06	N-24°-E	北東	1.08	0.58	4	—	北東壘、高環、磁	古墳
66	S-44	正方形	3.35	2.95	0.08		9.88	N-79°-E	南東	0.71	0.43	—	—	南東壘、環、壘	平安
67	T-42	正方形	4.52	4.28	0.35		19.35	N-66°-E	東	0.75	0.33	—	—	南東土釜、埴	奈良
68	S-42	長方形	4.20	3.40	0.50		14.28	N-62°-E	東	0.64	0.55	4	—	南東壘、環	奈良
69	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
70	S-41	長方形	5.73	4.20	0.12		24.07	—	—	—	—	—	—	壘、埴、環、磁	平安
71	R-42	(長方形)	(5.15)	(4.75)	(0.52)		(24.46)	—	—	—	—	—	—	壘、環、磁	奈良
72	R-42	正方形	5.58	5.55	0.55		30.97	N-15°-W	北西	0.87	0.45	4	—	北壘、壘、壘、鉢	古墳
73	R-41	正方形	5.65	5.35	0.25		30.23	—	—	—	—	—	—	壘、鉢、環	古墳
74A	U-43	長方形	3.45	3.25	0.31		11.21	N-45°-E	東	0.70	0.80	—	—	南東羽釜、埴、埴	平安
74B	U-43	長方形	5.02	4.75	0.53		23.85	N-95°-E	南東	0.94	0.47	—	—	南東壘、環	古墳
75	U-43	長方形	4.78	3.40	0.35		16.25	N-99°-E	北東	0.58	0.34	—	—	北東壘、環、灰輪壘	平安
76	V-42	長方形	3.90	3.20	0.10		12.48	N-15°-E	北	0.80	0.90	—	—	北環	平安
77	R-43	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
78	U-47	—	—	—	—	—	—	N-91°-E	東	0.66	0.75	—	—	壘	奈良
79	R-46	正方形	3.57	3.25	0.16		11.60	—	—	—	—	—	—	遺物なし	—
80	T-45	長方形	3.70	2.95	0.15		10.92	N-92°-E	東	0.87	0.35	—	—	南東羽釜、埴、埴	平安
81	V-44	長方形	4.47	3.75	0.56		16.76	N-51°-E	東	0.95	0.95	—	—	南東壘、環、磁、鉄	奈良

## 第11節 グリッド出土遺物

発掘 番号	グリッド 位置	形状	縦		横 幅	面積	主軸方位	羅 盤		柱 穴	初定穴	出土遺物	時代	
			長辺	短辺				位置	長さ					傾斜
82	S-46	長方形	3.75	3.05	0.35	11.44	N-90°-E	東	0.55	0.70	—	東南	壺、坏、台石	奈良
83	U-41	(正方形)	(4.50)	4.15	0.13	(18.68)	N-16°-W	北	0.73	0.34	4	北東	壺、蓋	奈良
84	V-45	—	—	—	—	—	N-61°-W	東南	0.61	0.65	—	—	壺、蓋	平安
85	—	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
86	S-46	正方形	3.22	3.05	0.15	9.82	N-71°-E	東	0.60	0.41	—	—	大壺、羽釜	平安
87	R-42	長方形	4.04	2.85	0.55	11.51	N-72°-E	東	0.82	0.50	—	—	壺、坏、甕、鉄	奈良
88	S-37	長方形	4.07	3.34	0.28	13.39	—	—	—	—	—	—	壺、羽釜	平安
89	R-38	正方形	3.56	3.36	0.80	11.96	N-74°-E	西南	1.02	0.92	—	—	坏	平安
90	R-38	長方形	4.20	3.57	0.70	14.99	N-7°-W	北	0.46	0.20	—	—	壺、坏	奈良
91	R-31	(正方形)	3.85	(3.25)	0.35	(12.51)	—	—	—	—	—	北	小型壺、鉄、滑	奈良
92	R-44	長方形	3.10	2.26	0.30	7.01	N-87°-E	東南	0.65	0.38	—	西南	坏、甕、滑	平安
93	N-18	正方形	3.30	2.85	0.50	9.41	N-65°-W	東南	0.45	0.40	—	—	羽釜、坏	平安
94	T-41	正方形	4.84	4.76	0.35	23.04	N-66°-E	東	0.82	0.50	8	東	壺、坏、甕、滑	古墳
95	W-46	—	—	—	—	—	N-65°-E	東	0.50	0.60	—	—	遺物なし	平安
96	R-38	長方形	4.00	3.56	0.19	14.24	—	—	—	—	—	—	壺、高坏、坏	平安
97	R-38	正方形	3.75	3.46	0.40	12.98	—	—	—	—	—	—	土釜、坏	平安
98	T-39	長方形	3.96	3.41	0.06	13.50	N-49°-E	東	0.45	0.40	—	東南	坏	平安
99	V-41	正方形	2.80	2.77	0	7.76	N-73°-E	東	(0.61)	(0.84)	—	東南	壺、坏	平安
100	V-41	長方形	4.35	3.31	0.15	14.40	N-22°-W	東	0.46	—	—	東南	壺、坏、甕	奈良
101	V-39	長方形	5.63	4.57	0.44	22.99	N-70°-E	東	1.01	0.60	—	東南	壺、耳皿、坏	平安
102	V-35	長方形	3.45	2.15	0.57	7.42	N-23°-E	北東	1.07	0.68	—	—	坏	奈良
103	V-39	正方形	3.47	3.18	0.15	11.03	—	—	—	—	—	—	遺物なし	平安
104	P-21	(正方形)	2.20	(1.16)	0.15	(2.55)	—	—	—	—	—	—	坏	奈良
105	V-39	長方形	3.50	3.11	0.26	10.69	N-73°-E	東	0.64	0.34	—	東南	坏	平安
106	Q-20	長方形	2.76	2.08	0.45	5.74	N-88°-E	東	0.42	0.38	—	東南	壺、坏、甕	奈良
107	P-8	—	3.97	(2.08)	0.30	(11.12)	N-88°-E	東	—	—	—	東南	壺、坏、甕、蓋	平安
108	Q-8	長方形	4.40	4.00	0.53	17.60	—	—	—	—	—	—	壺、甕、甕、蓋	古墳
109	Q-9	—	4.20	(2.14)	0.34	(8.99)	N-79°-E	東	0.65	0.40	—	—	遺物なし	—
110	S-5	正方形	3.45	3.15	0.45	10.87	N-75°-W	東	0.64	0.42	—	東南	壺、坏、台石	平安
111	R-6	長方形	3.84	3.33	0.32	12.79	N-78°-W	東	0.57	0.45	—	—	壺、甕、石皿	平安
112	R-7	長方形	3.92	3.35	0.38	13.13	N-83°-W	東	0.59	0.47	—	東南	壺、蓋、紡、紙	平安
113	R-8	正方形	3.50	3.22	0.30	11.27	N-89°-W	東	0.80	0.50	—	東南	壺、坏、内蓋	平安
114	T-6	正方形	4.10	3.93	0.65	16.11	N-88°-W	東	0.51	0.51	—	—	壺、灰釉小形壺	平安
115	S-6	長方形	4.28	2.61	0.35	11.17	N-88°-W	東	0.42	0.52	—	—	坏、石皿、紙	平安
116	T-6	正方形	3.37	3.40	0.82	18.79	N-80°-W	東	0.68	0.40	—	—	壺、羽釜、壺	平安
117	R-9	長方形	4.40	3.67	0.47	16.15	—	—	—	—	4	南東	壺、甕、鉢、勺	古墳
119	S-7	正方形	4.38	4.07	0.31	17.83	N-88°-E	東	0.57	0.65	—	東南	壺、坏、石皿	平安
120	S-7	長方形	8.25	7.41	0.67	61.13	N-7°-W	北	1.15	0.43	4	北東	壺、甕、高坏	古墳
121	V-22	長方形	3.33	2.65	0.42	8.82	N-48°-E	北東	0.45	0.62	—	—	坏	奈良
122	U-23	—	3.78	(2.20)	0.50	(8.32)	—	—	—	—	—	—	壺、高台付坏	奈良
123	V-25	—	(4.10)	(2.18)	0.51	(8.94)	—	—	—	—	—	—	坏	奈良
124	U-25	長方形	2.14	3.31	0.30	7.08	—	—	—	—	—	—	壺、坏、鉄	平安
125	U-26	正方形	3.97	3.60	0.37	14.29	N-26°-W	東	0.73	0.46	—	東南	坏	平安
126	T-27	—	4.68	(3.95)	0.43	(18.49)	N-65°-W	東	0.42	0.32	—	東南	鉢、坏	古墳
127	R-23	(正方形)	2.50	(4.45)	0.55	(11.13)	N-89°-W	東	0.81	0.52	—	東南	壺、坏、甕、蓋	奈良
128	Q-23	長方形	4.18	3.21	0.49	13.42	N-71°-W	東	0.87	0.35	—	東	羽釜、小形壺	平安
129	U-27	—	2.39	(1.67)	0.35	(3.99)	N-78°-E	東	0.46	0.23	—	南東	壺、羽釜、壺	平安
130	V-22	—	4.70	(2.47)	0.69	(11.61)	—	—	—	—	—	—	壺、紡	平安
131	V-22	正方形	3.75	3.60	0.65	13.50	N-76°-W	東	1.12	1.10	—	南東	壺、坏、甕、紡	平安
132	R-23	—	3.06	(1.16)	0.21	(3.55)	N-91°-W	東	0.55	(0.28)	—	南東	壺、坏	平安
133	S-27	正方形	3.05	2.90	0	8.85	N-52°-E	北東	0.70	0.36	—	—	坏	平安
134	S-27	正方形	3.40	3.30	0.20	11.22	N-48°-E	東	0.83	0.27	—	南東	遺物なし	平安
135	S-27	長方形	4.23	3.32	0	14.04	N-57°-E	西	0.55	0.54	—	—	壺	平安
136	S-28	正方形	3.11	3.05	0.23	9.49	N-69°-E	東	0.27	0.32	—	南東	坏	平安
137	T-8	(正方形)	2.97	(2.20)	0.35	(6.53)	N-88°-E	東	0.54	0.45	—	—	羽釜、甕、坏	平安
138	H-24	—	4.70	(2.25)	0.15	(10.58)	N-81°-E	東	0.69	0.62	—	—	壺、坏	平安
139	H-25	—	4.10	(3.65)	0.32	(14.97)	N-83°-E	東	0.83	0.31	—	—	壺、甕、鉄	平安
140	G-25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	坏、甕	平安
141	G-24	長方形	4.65	3.11	0.18	14.46	N-60°-E	東	0.61	0.43	—	南東	坏、甕、紙	平安
142	H-25	—	—	—	—	—	N-102°-W	東	0.73	0.57	—	—	遺物なし	平安

第3章 検出された遺構と遺物

住居 番号	グリッド 位置	形状	規模		面積	主軸方位	竪		柱 穴	貯蔵穴	出土遺物	時代		
			長さ	短辺			位置	長さ					開口幅	
143	T-8	長方形	4.65	(3.37)	0.49	(15.67)	N-85°-E	東	0.64	0.73	—	南東	壘、鉢、瓶、杯	古墳
144	U-7	—	7.37	(3.32)	—	(24.47)	—	—	—	—	—	—	—	—
145	P-10	正方形	3.50	3.18	0.57	11.13	N-89°-E	東	0.66	0.45	—	—	—	—
146	Q-11	正方形	3.70	3.19	0.30	11.80	N-88°-E	東	0.58	0.50	—	南東	壘、杯、埴、磁	平安
147	Q-11	正方形	3.50	3.40	0.72	11.90	N-87°-E	東	0.96	0.71	—	—	—	—
148	P-13	正方形	4.68	4.17	0.61	19.52	N-14°-W	北	0.77	0.51	—	—	—	—
149	R-10	長方形	3.37	3.08	0.42	10.38	N-80°-E	東	0.89	0.63	—	—	—	—
150	S-10	長方形	3.69	3.35	0.35	12.36	N-90°-W	南東	0.64	0.48	—	—	—	—
151	T-10	長方形	3.51	2.41	0.38	8.46	N-84°-E	東	0.70	0.50	—	—	—	—
152	T-10	—	(6.41)	(2.53)	0.53	(16.22)	—	—	—	—	—	—	—	—
153	T-26	—	3.45	(1.62)	0.28	(5.59)	—	—	—	—	—	—	—	—
154	U-9	正方形	3.60	3.22	0.30	11.59	N-5°-E	北	0.67	0.30	—	北東	羽釜、灰桶埴	平安
155	U-9	正方形	4.47	4.23	0.25	18.91	N-73°-E	東	0.66	0.50	—	南東	壘、杯、埴	平安
156	S-10	長方形	4.40	2.88	0.39	12.67	N-90°-W	南東	0.50	0.52	—	—	—	—
157	T-6	長方形	4.25	3.73	0.51	15.85	—	—	—	—	—	—	—	—
158	V-9	正方形	3.13	3.00	0.19	9.39	—	—	—	—	—	—	—	—
159	F-27	正方形	5.75	5.53	0.32	31.89	N-12°-W	北	0.84	0.41	4	北東	壘、埴、杯	古墳
160	F-25	正方形	3.48	3.30	0.25	11.48	N-67°-E	東	0.60	0.24	—	北東	壘、埴	平安
161	F-29	—	(5.25)	(1.86)	0.25	(9.77)	—	—	—	—	—	—	—	—
162	E-30	正方形	3.87	(4.36)	0.13	(16.87)	N-10°-W	北	0.91	0.76	—	—	—	—
163	D-30 (長方形)	—	3.55	(2.47)	0.17	(8.77)	N-27°-W	北	0.88	0.25	—	—	—	—
164	F-24	—	(4.14)	(2.05)	0.22	(8.49)	—	—	—	—	—	—	—	—
165	G-23	正方形	3.00	3.00	0	9.00	—	—	—	—	—	—	—	—
166	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
167	U-9	長方形	4.86	3.82	0.45	18.57	N-91°-W	南東	0.42	0.32	—	南東	遺物なし	平安
168	R-22	正方形	3.81	3.47	0.94	13.22	N-90°-E	東	0.74	0.38	—	南東	壘、杯、磁	奈良
169	R-10	長方形	4.00	2.38	0.35	9.52	—	—	—	—	2	—	—	—
170	R-10	正方形	3.42	3.30	0.32	11.29	—	—	—	—	—	—	—	—
171	S-10	長方形	4.38	2.95	0.40	12.92	N-87°-E	東	0.84	0.38	—	—	—	—
172	X-16	長方形	3.35	2.17	0.50	7.27	N-60°-E	東	0.32	0.35	—	東	壘、小形壘、壘	平安
173	X-16	—	2.36	(1.55)	0.72	(3.66)	N-64°-E	東	0.47	0.40	—	東	羽釜、杯、埴	平安
174	T-10	正方形	3.10	2.80	0.13	8.68	N-90°-E	東	0.31	0.32	—	—	—	—
175	T-14	—	4.25	(2.50)	0.57	(10.63)	N-77°-E	東	0.52	0.32	—	—	—	—
176	Q-14	正方形	4.75	4.42	0.95	21.00	N-40°-W	北	—	—	4	—	—	—
177	Y-16	—	4.42	(4.42)	0.30	(19.54)	—	—	—	—	—	—	—	—
178	Y-16	—	4.62	(5.15)	0.65	(23.79)	—	—	—	—	—	—	—	—
179	Y-16	—	3.76	—	0.34	—	—	—	—	—	—	—	—	—
180	Z-16	—	7.10	(3.00)	0.55	(21.30)	—	—	—	—	—	—	—	—
181	P-14	—	3.52	(1.88)	—	(16.89)	—	—	—	—	—	—	—	—
182	R-13	—	5.15	(3.28)	0.80	(16.89)	—	—	—	—	—	—	—	—
183	S-12	長方形	3.30	2.90	0.45	9.57	N-20°-W	北	0.37	0.47	—	—	—	—
184	T-11	—	(4.97)	2.59	0.39	(12.87)	N-85°-E	東	0.74	0.58	—	—	—	—
185	—	—	(5.90)	4.56	—	(25.54)	—	—	—	—	—	—	—	—
186	Q-14	長方形	2.96	2.25	0.60	6.69	N-86°-E	東	0.60	0.35	—	—	—	—

## 第4章 ま と め

本章で検出された遺構および遺物について記述してきたが、ここではそれぞれの時代毎に若干のまとめをかねて分析を行っておきたい。

### 第1節 縄文時代

縄文時代の遺構は前述したように、住居跡3軒と土坑10基を検出したが、その数量はかなり少なく、遺構に伴って出土した遺物もまた量的には少量であった。

検出された3件の住居跡はそれぞれがかなり離れて単独に検出されており、その規模も比較的小さい。形状は遺存状態の比較的良かった28号住居跡は隅丸長(正)方形を呈すものと思われる。炉跡は28号住居跡においてその痕跡が確認できた外はいずれの住居も検出されなかった。出土遺物は少なく埋燵炉なども見られなかった。各住居跡の時期は28号住居跡が諸磯Ⅱ式期の中葉、153号住居跡が同じく前葉、158号住居跡が諸磯Ⅱ式期の前葉と考えられ、若干の時間差が認められる。

つぎに遺構および、グリッドより出土した土器、石器について若干のまとめを述べておきたい。調査において検出された土器は量的には少ないが、グリッド出土のものは調査区全域においてその散布が見られた。I区では158号住居跡の検出された標高の高い部分に多く散布する傾向が見られ、時期は前期の黒浜、諸磯、および中期の勝坂期などが見られる。II区では、縄文中期(加曾利EⅡ式期)の破片と前期、諸磯式期の破片がやはり153号住居跡周辺において少量散布している。III区では、北西部分、28号住居跡(諸磯Ⅱ式期)の周辺に前期、諸磯式期の破片が集中して出土しているほか、中期の加曾利EⅡ式土器の破片がごくわずかであるが出土している。

グリッド出土土器の帰属時期を見ると、量的には前期に比定されるものが最も多く、次いで中期、後期の順に少なくなる。第719図は出土土器の占める割合が最も多い前期(黒浜・諸磯期)の土器の出土分布図である、この図からも縄文の遺構周辺にその散布が濃密な状況が看取される。また第720図上のグラフは出土総量に対する時期別の出土量の割合を示したものである。

石器については調査面積に比して出土量は少なく、遺構に伴うものも少ないが、比率的には後世の遺構の覆土中に混入したと考えられるものがかなり多かった。第720図下は出土した石器(製品)の組成比率を示したものである。総出土点数は91点であるが、弥生の土坑中にあり帰属時期のはっきりしないものについては除いてある。これを見ると石鎌の量の多さが目を引く、遺構に伴って出土したものはなく、他の遺構の覆土中、および遺構外より検出されたものである。打製石斧、磨製石斧、磨り石、凹石はほぼ拮抗した数量が出土しており、若干数の石皿も見られる。

出土石器について器種別の概要は次のようである。

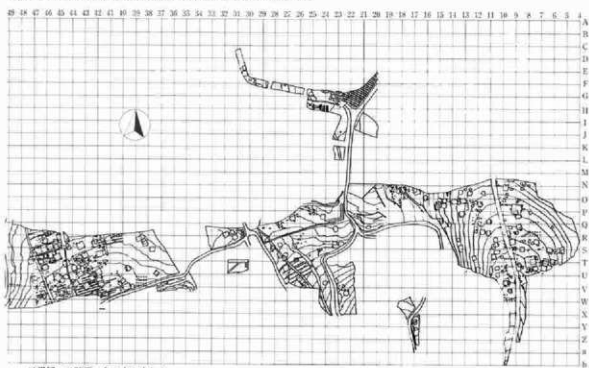
打製石斧は遺構に伴って検出されたものはなく、いずれもグリッド出土のものである。短冊型および撥型が主体で、分銅型は1点のみである。また弥生時代の石斧(石鎌)と区別しがたいものも若干存在する。磨製石斧も遺構に伴って出土したものは無く、8点が出土している。側縁にかなり明瞭な稜を持つものが4点見られた。欠損品が多い。本来前期の組成においては比較的まとまった数を出土することの多い石匙はわずかに2点と少なく、作りも粗い。スクレイパー類も少数でいずれも不定型である。磨り石、凹石は後世の遺構覆土中からのものが多く、その帰属については明確ではない。形態的には径10cm内外のものが多く、細長いものも散見される。石皿はいずれも破片である。石鎌は23点出土している。形態は茎部を持つものが3点見

#### 第4章 まとめ

られるがその作りは余り明瞭ではない。他は凹基、または平基である、大きさは最大のものが長さ3.3cm、最小のものが1.3cmである。石材は黒曜石が最も多く僅かにチャート製のものが見られる。基部の両面装着部分が研磨されているもの(第31図35)も見られた。装身具としては円形の小形けつ状耳飾り1点が出土している(28号住居跡を切る古墳時代の住居覆土中より出土)。

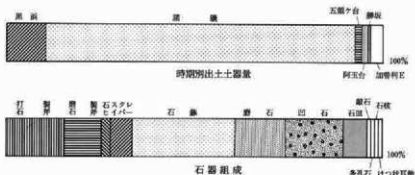
周辺遺跡における縄文時代の遺構は、東に位置する神保植松遺跡においては前期後半から中期にかけての住居跡が、西に位置する長根羽田倉遺跡では住居の検出はなかったがその西に隣接する長根安坪遺跡においては中期の住居跡、土坑が検出されている。このように縄文時代の遺構に関しては上位段丘面上あるいは斜面において前期から中期にかけての居住域が小規模ながら存在するものと思われ、これらと対応する中核的な規模を持つ集落(註)との関連を今後検討せねばならないであろう。

(註) 前期後半のこうした例として最近調査された安中市の松原遺跡が上げられる。この遺跡では前期中葉から後半にかけての多くの住居跡が連続した形で検出されている。複数の大型住居また基域も伴っておりかなりの継続性を持つ集落として注目される。また北毛地域におけるこうした集落の例としては利根郡昭和村赤井宮前遺跡が上げられる。



・は黒石 ・は磁織 各1点を表わす

第719図 黒浜・諸磯式土器出土分布



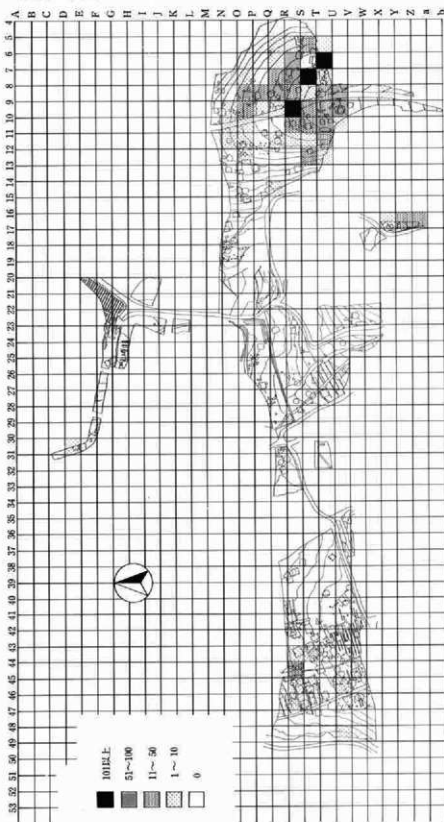
第720図 時期別出土土器量・石器組成



## 第2節 弥生時代

## 1. 土坑の分布と形状について

神保富士塚遺跡において出土した弥生土器は、遺構に伴い出土したものおよび遺構外のものいずれも中期



第721図 弥生土器出土分布

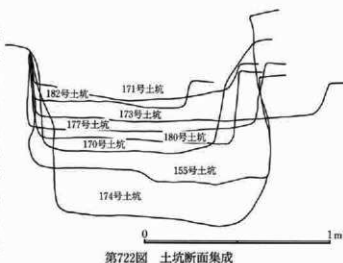
中葉に比定されるものである。これら弥生土器の出土状況は第721図に示したようにⅠ区に極めて集中して出土していることが解る、これは遺構の存在数からすれば当然のことと思われる。Ⅲ区においても土坑Ⅰ基が検出されており、周辺部に若干の分布が見られる。また調査区の最も高い場所でもあるX～Z-16グリッドでは該期の遺構の検出はなかったが平安時代の住居覆土中より土器片が出土している。

本遺跡の南東斜面部は稲荷山遺跡として同時期の弥生土器や石器等が多く採集されており、県の遺跡台帳にも記載がある。また谷を隔てた神保植松遺跡でも土坑、住居が検出されている。こうしたことから遺跡南側の丘陵部は弥生時代の土坑等が局所的に多

#### 第4章 まとめ

く分布していることを窺わせている。

神保富士塚遺跡において検出した弥生時代の遺構は土坑30基である。これらの土坑の分布状況は第33図にあるとおりで、主体となる一群は、約30mの円形に、ほぼ等高線に沿うように配されている。各土坑の形状は円形あるいはやや長円形で深さは30cmから1.3m程である。底面が比較的平坦のものと同凸の顕著なものがあり、前者のほうが比較的古土遺物量が多い。第722図は断面を重ね合わせたものであるが、これを見ると比較的掘り込みが深く壁がややオーバーハンクしたもの(155、170、174号土坑)と、比較的浅いもの(170、171、



173、177、180、182号土坑)との2種類に分けられようである。深さは前者が0.6~1.3mである。これに対して後者は0.25~0.4mと比較的浅い。土坑の大きさは1m前後のものが主体であるが、大きなものは2mを測るものがある。またやや長方形を呈すもの(109、110号土坑)も見られた。この他に極めて不定形な形状、掘り方を呈すもの(105、106、140、159、160、165、166号土坑)があるが、これらは出土遺物が少ない。

遺物量が多かった土坑でも完形品の出土はなく、多くは破片で遺形を復元し得たものは少ない。

#### 2. 土器の接合関係と土坑の性格

出土土器の接合関係を詳細に見てゆくと約20点の土器について他遺構あるいはグリッド出土のものとの接合関係が認められた。第723図はこれを図示したものである。これを見ると比較的出土遺物量が多かった土坑において複数の接合関係が見られ170、171、174、177号土坑はそれぞれに接合関係が見られ、155と170号土坑の間にも接合関係が認められた。また155号土坑、170号土坑、173号土坑、174号土坑、177号土坑では近接してはいるがグリッド遺物との接合も見られた。実際の接合の状況は、土器のかんりの部分を占める破片に他の遺構あるいはグリッド出土の小破片が接合するというもので、ほぼ同じ大きさの破片が遺構間で接合した例は171号土坑と174号土坑で出土したのみである。

こうした事実を踏まえれば、遺物の接合関係を持つ一群の土坑については当然のことながら同時あるいは極めてわずかな時間差をもって掘られたことは明らかであり、また複数の接合関係が見られることから偶然に混入したとは考えられない。

次にこの土坑の性格についてであるが、調査時の所見、整理における検討、さらには他例との比較等から以下のようなことが言えよう。

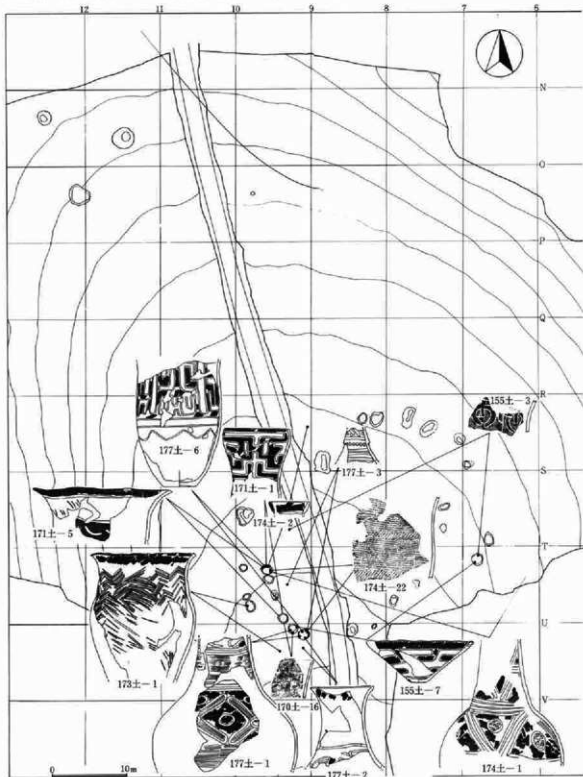
まず土坑の分布を見ると、1区の高所部分に在りかなり意識的な配置がなされていることである。30基の内26基がある一定の規格(約30mの円形に配置)を持っている。

該期の土坑は東に位置する神保植松遺跡、神保下條遺跡(註)においても検出されており、神保下條遺跡での在り方を見ると、検出された11期の土坑は、円を描くように配置されている。出土遺物は少なかったが形態的には良く似ているものが見られる。

器種については壺形土器、壺形土器、鉢形土器、小形土器が見られるが完形品は無く、破片類が主である。

いわゆる再葬墓に主体的に見られる造型土器も少なく、ほとんどが口縁部、胴部の小破片である。

覆土の観察では、ローム粒子、ロームブロックを混入した黒褐色土が主体的に埋めているが、遺物を多く包含していた土坑についてはそのほとんどが、量的には少ないながら炭化物を混入しており、その含まれ方は上層から中位の層において比較的多く見られた。また172号土坑では少量ながら焼土が含まれていた。なお



第723図 遺構間接合図

#### 第4章 まとめ

骨片、骨粉などは検出されなかった。

遺物の出土状況はかなり散漫的であり、底面に密着して出土しているものはほとんど見られない。比較的大きな破片類についても同様のことが言える。また170・174号土坑を見ると中位に遺物をほとんど含まない間層が認められる。これは遺物の投げ入れないしは流入が一定期間中断していたことを窺わせている。この状況はやや曖昧ではあるが177号土坑に関しても観察される。なお壺形土器1点を出土した30号土坑については、これら一群の土坑とはやや離れて位置しておりほとんど掘り込みも見られないなど、形状もやや異なっていることなどから、性格の違うものとしてとらえられる。

出土遺物の中で土器に対して石器の占める割合は少なかったが、種類としては石鎌、磨り石、石皿、スクレイパーなどが見られた。その他割縁が刃部様になった板状の砥石と思われる砂岩製の石器、さらにはいずれも破損品であるが108号土坑より出土した磨製石剣と思われるもの、170号土坑より出土した環状石斧が特筆される。石剣、環状石斧ともかなり覆土の上層より出土しており、特に石剣は最上層で検出されている。

以上のような観察結果から判断して、本遺跡で検出された土坑についてはいわゆる墓坑(再葬墓)としての機能は想定し難く、屋外貯蔵の用途あるいは二次的に廃棄等に用いられた土坑と考えておきたい。

#### 3. 出土土器について

本遺跡出土の弥生土器は比較的まとまったものとしては県内における該期の好資料である。ここでは出土土器について分類と若干のまとめを行っておきたい。

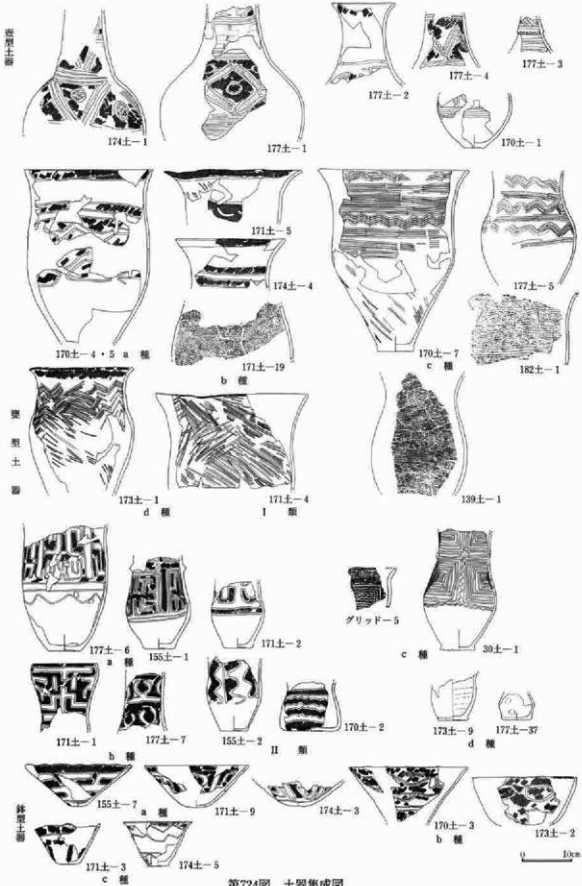
出土土器の総点数はグリッド出土のものを含めておよそ2000点である。器形が復元し得たものは土坑出土のものが主で、グリッド出土のものはいずれも小破片である。

土器の施文について見ると、地文に縄文を持つもの、持たないもの。地文に条痕文を持つものが存在する。中でも縄文施文のものは多く、壺、甕類については口縁部、口唇部についてはかなりの割合で施文が行われている。縄文はLRの単節斜縄文が圧倒的に多い、節については粗細があり、まれに羽状構成をとるものもある。また無節の縄文、細かな刷毛目状のものもごくわずかであるが見られる。

出土した土器についておよそ器形のおかものを中心に器種別に分け、それぞれについて器形、施文の違いなどから分類を行ったのが第724図である。

**壺型土器** 出土数は少なく、図示したもの以外は極めて小破片である。174土-1・177土-1ともに地文にLRの単節縄文を施文する、やや肩の張る球形の胴部から頸部は徐々に細くなる。174土-1は3本の沈線で三角形を組み合わせて胴部、頸部を区画している、肩部の区画内には刺突文を持つ円形文が見られる。177土-1は肩部にX字状の結紐文が配され縄文地の空隙に沈線による円形文が付けられている、また頸部下位には柳条痕文帯がみられ、その上には沈線による文様が見られる。177土-2は口唇部に縄文が付けられ肩部に沈線文。177土-4は頸部片で174土-1と同様の文様構成である。177土-3は頸部片で中位に刻み目を持つ段を有し、沈線による文様が見える。三者ともに比較的短めの頸部片である。170土-1は小形壺型土器の胴下半部片である、胴部はかなり丸味を持つ。複数の沈線が胴中位で横に走り上の部分に沈線文が描かれる。

**甕型土器** 甕I類は胴上半部に沈線で横位区画した縄文充填の文様体を持つa種と縄文地に平行線、波状文などの沈線文を配すb種、b種と同様な沈線文を有すが縄文地を持たないc種。柳状工具による矢羽根状の条痕文を持つd種に分けられる。器形はa種とした170土-4・5、171土-5、174土-4、170土-7は頸部のくびれは明瞭ではなく口縁部やや外に開く。d種とした173土-1、177土-5、139土-1は胴部で膨らみを持ち頸部がやや締まる器形を持つ。なお139土-1はd種の範疇でおさえられるが、かなり粗い条痕文施文である。甕II類は磨り消し縄文を持つ一群である。極めて縄文的色彩の強いものである。a種とした177土



第724図 土器集成図

一6、155土一1、は胴下部の横位沈線以下が無文で、無文部は良く研磨されている。文様はL字・H字・コの字文を組み合わせている。縄文は多方向から比較的節の細かい単節縄文を施文している。171土一2は沈線で描いたU字文の中に無節Lの縄文が充填されている。b種とした171土一1、177土一7は磨り消し縄文による施文方法で171土一1は直線文、下向きC字文を組み合わせたモチーフ、177土一7は上向きC字文を横に連結させたモチーフを描く胴下半部を欠いているが、おそらく全面施文であろう。155土一2は縦方向に縄文を充填させた曲線文を描く。さらに170土一2は横方向の縄文帯を多段施文するが中2本は波状を意識している。底面にも縄文が充填されている。

グリッド一5は口縁部片である、口縁部に無節Lの縄文を転がし頸部下に沈線による2重の四角文とその中に4本の波状文が横位に施文されている。c種とした30土一1は沈線のみで重四角文文様を2段に持ち、交点部に瘤状の張り付け文を有す。d種きわめて小形の壘形土器で出土数は少ない。いずれも無文で作りとしてはやや雑である。173土一9は外面が良く磨かれている。177土一37は成形時の指頭痕が観察される。

これらの器形を見ると155土一1、171土一2、30土一1、155土一2は胴中位からやや下位に膨らみを持つ、いずれも口縁部を欠くが頸部の締まりは弱いようである。170土一2は胴中位でくびれた下膨れの器形である。

**鉢形土器** a・b・cの3種類に分けられる。a種とした155土一7、171土一9、174土一3は器形は大きく逆ハの字に開き、底部はやや丸味を持つ。磨り消し文様を持つもので、曲線文を持つ、bは地文にLRの単節縄文を施文し、沈線で波状文、楕円文を描く、170土一3がこれに該等する。173土一2はやや開き方が弱く底径が比較的大きないいわゆる鉢型である。またこれらの鉢形土器にはいずれも外面に赤色塗彩の痕跡が観察される。

c種とした171土一3、174土一5は小形の鉢で逆ハの字に開く。底面は平らで、171土一3は口縁部に沈線で区画された横位縄文、および胴部に縄文帯が縦方向に施文される。174土一5は口縁部のみは無節Lの縄文が施文される。下位には沈線による連続山形文が描かれる。ともに比較的焼きが良く、薄手の作りで胎土も他の土器とはやや異なる。

今回の上信越自動車道関連の発掘調査においては少ないながらも中期の資料が遺構に伴い検出されている。縄文晩期最終末と考えられるものから中期後半にかけてのものが単発的ではあるが河岸段丘の端部、ないしは丘陵上において住居、土坑等に伴い出土している。

本遺跡出土の一群についてはほぼ同時期の所産であると考えられ、およその時期は中期中葉と思われる。該期の好資料を多く出土している埼玉県池上遺跡出土の土器と比較して見ると、壘型土器174土一1については文様構成において類似した土器が見受けられるが、縄文地文に結紐文を持つ177土一1は近似したものは見られない。胴下半部には条痕による調整が見られる。

壘形土器は池上遺跡において比較的類例の多い、いわゆる三角連鎖文をもつものはほとんど見られず代わって無文地に瘤状工具による横線、波状文を多段施文するものが見られる。また池上遺跡で見られるような縄文のみ施文されたものは見受けられない。壘形土器II類とした磨り消し縄文を持つものは様々なモチーフが見られ、県内においても類例は比較的多く見受けられる。また30土一1は沈線のみで施文で文様構成においてもやや異質である。時間的な差を示すものか。

浅鉢は類例が少なく、本遺跡における出土数は多いと言える。

以上本遺跡出土の土器について器種を中心に分類を行ったが、これらの明確な編年のな位置付けについては更に詳細な比較検討が必要と考えている。

## 第3節 古墳・奈良・平安時代

## 1. 神保富士塚遺跡における住居の変遷

本遺跡において検出した縄文時代から平安時代の住居跡は総軒数177軒である。本項ではこれらの住居について居住域の変化や、軒数の消長に関して若干のまとめを行う。なおここで扱った古墳時代から平安時代にかけての住居についての時期認定については原則的に出土土器をもとに行ったが、その準拠とした編年案は西に隣接する長根羽田倉遺跡の報告書中に示された第4章、第1節(1)出土土器について(小林敏夫)である。ただし遺物の検討段階において若干の私見が入った部分もあり、時期分類は100年を前、中、後の3期に区分してはいるが、本遺跡の土器に関しては十分な検討が尽くされていないこともあり、厳密な土器編年を用いた時期分けでないことを含み願いたい。

調査区中最も標高の高い場所を含むⅠ区では、縄文時代前期の住居1軒とほぼ同時期の土坑10基、および中期の土坑1基が検出されている。弥生時代については住居の検出はなく、中期の土坑が約30基検出されている。おそらく後世の遺構に壊されたものも含めればかなりの数の土坑が存在していたと考えられる。

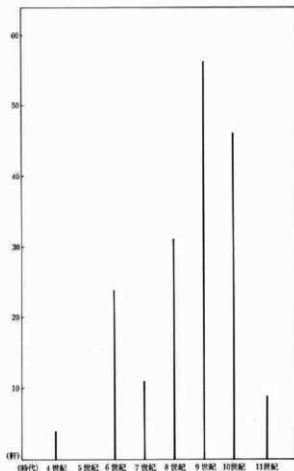
弥生時代後期の遺構は皆無で、遺物の出土も見られなかった。古墳時代に入ると4世紀後半に一時居住が行われるが、その数は少ない、その後6世紀後半に至るまで住居は作られなかった。6世紀後半から7世紀初めに3軒の住居が作られた後、9世紀に至るまでおよそ200年近くの間、高所部分での居住は途絶えている。そして9世紀に入り再び居住が始まり、数軒の住居が連続して作られるが、その期間は比較的短時間で10世紀前半で住居はほぼ作られなくなったようである。

Ⅱ区については、地形的に見てもかなり変化をもち、一つの居住域としてとらえにくい感がある。分析はやや大まかにしかできないが、おおよそ次の様なことが言える。縄文時代前期に属す住居が1軒確認されているが、それ以後8世紀後半までは居住域として顧みられなかったようである。そしてこの時期以降やや散在的にはあるが、住居がつけられ、およそ11世紀初め頃まで続く。

Ⅲ区では6世紀後半に10軒以上の住居が作られ、以後多少の増減はあるものの11世紀初めまで連続する。この中で変化のある時期をやや詳細に観察してみると、7世紀中葉から後半代に減じ、9世紀中葉から9世紀前半にかけてやや希薄になる状況が窺える。

7世紀中葉から後半代は遺跡全体をみても住居の数は極端に少なくなる。ことにⅠ区においてはほとんどこの時期の住居は検出されていない。

6世紀後半以降10軒程度が継続して存続してきたⅢ区において、9世紀中葉から後半代にかけてかなりの減少傾向が見られるが、逆にこの時期Ⅰ区での増加がみられる点興味深い。



第725図 時代別住居軒数

第4章 法とめ

4世紀



6世紀

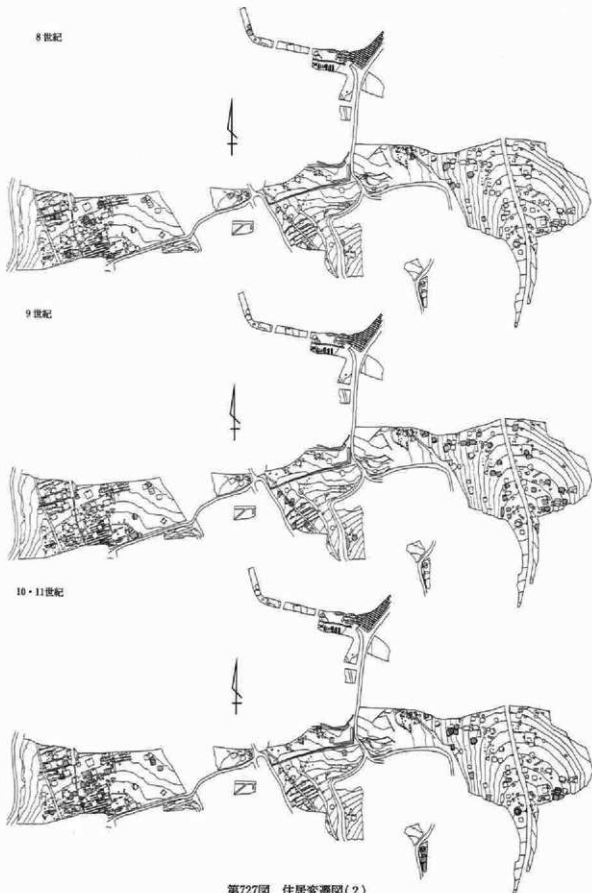


7世紀



第726図 住居変遷図(1)





第727図 住居変遷図(2)

## 2. 出土滑石製品について

本遺跡において出土した滑石製品はグリッド出土のものを含めると総点数135点である。これらの内訳は紡錘車25点、有孔円盤12点、白玉46点、石片83点でその出土分布を表したものが第729図である。

紡錘車の分布は19軒の住居において出土が見られ、特に偏った分布の様子は窺えない。64号住居跡で2点の出土が見られたのを除き、他はすべて1点づつの出土である。時代的には平安時代のものが最も多いようであるが、古墳時代の住居からの出土も見られる。ちなみに鉄製の紡錘車は116号住居跡(10世紀中頃)、137号住居跡(10世紀後半)、172号住居跡(10世紀後半)で出土しているが、これらの住居からは石製の紡錘車は出土していない。

第728図は各滑石製品の時代別出土数をグラフにして示したものである。これを見ると製品としての白玉、有孔円盤は6世紀代に集中しており、それ以後は客体的な存在である。また石片の数も同様に多い、ただ、これら6世紀代における製品を出土した住居跡はⅢ区に集中している。

この状況については、西に位置する長根羽田倉遺跡との関連を考えに入れねばならないであろう。同遺跡においては、遺跡東端東斜面において滑石製の馬形等を多く出土した祭祀跡が検出されており、時期は古墳時代後期に考えられている。

神保富士塚遺跡のⅢ区においてはほぼ同時期の住居跡がおおよそ25軒検出されている。祭祀跡との距離は沢を挟んで僅か150m足らずの距離である。特に65号住居跡においては多くの未製品を含む滑石片が住居北西部分において、かなり集中して出土している。また72号住居跡では白玉32点が床面直上において検出されている。

40A、44、58、61Bの各住居においては滑石の加工に使用したと思われる砂岩製の砥石が出土している。これらの砥石は平坦な使用面を持つものは少なく、数条の曲ならし溝を持つものも見られる。後世の金属器に用いられる砥石とは形態的にも明らかに区別される。

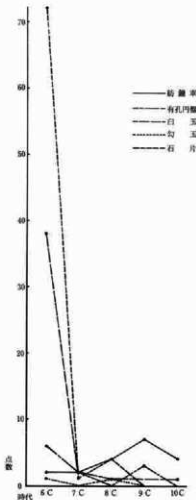
なお長根羽田倉遺跡においてかなり目立つ出土状況を示した二ツ岳軽石製の砥石は本遺跡では極めてわずかしか出土していない。以下、各種滑石製品について若干のコメントを述べておく。

**紡錘車** 破片を類を含めて25点が出土している。(1号住居跡出土の3片は同一個体と思われるので1点としてカウントした。)これらの石材は滑石7点、砂岩3点、蛇紋岩14点、流紋岩(?)1点である。

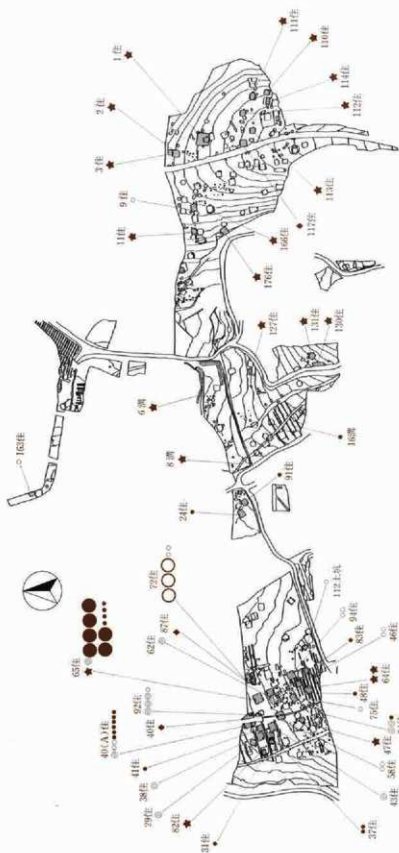
大きさは最大のものが径7.7cmで最小のものは径3.9cmである。形状については、ややばらつきが見られ、製作方法に関しても刃物による成形痕をかなり明瞭に残したものと、丁寧に全面を研磨して仕上げているものがある。

また未製品と思われるものが6点見られ、形状はほぼ出来上がっているがいずれも未穿孔である。なおT-30グリッド出土のものについては石製模造品の可能性もある。114号住居跡出土のものは半球状を呈し、底面に小さな凹穴が見られる。紡錘車でない可能性もある。

**有孔円盤** 12点が出土しているが、大きさ、形状などから白玉と区別



第728図 時代別滑石製品出土数



第729図 滑石製品出土遺構

- ◆ 新築基
- 勾玉
- 有孔円器
- E1.3
- 石片

#### 第4章 まとめ

しがたいものがある。基本的に径が2cm以上のものを有孔円盤とした。

多くは径3～4cmで厚みが1～3mmのものである、形は円形のものほとんど見られず、刃物による切削痕を縁に残す不定形のものが多い。全て1孔である。破損しているものが3点見られる他未製品と思われる形の不整形なものが見られる。

**勾玉** 2点出土している。1つは板状でやや雑な作りである、刃物により粗く成形されている。もう1点は研磨によって比較的丁寧に仕上げられている。穴の両側が大きく丸味を持ってへこんでいる。

**白玉** 46点の出土があった。72号住居跡に集中して32点検出されており、他は1ないしは2点の出土である。72号住居跡出土のものは小形品であるが、他の遺構から出土のものは比較的大型のものが目立つ。

**石片** 65号住居跡より多量に出土しているが多くは覆土中から検出されている。大型のものも多く、刃物による切削痕、穿孔痕を有すものも見られた。

以上、本遺跡において出土した滑石製品についての概略を述べてきたが、西隣に位置する長根羽田倉遺跡において出土した滑石製の馬形などの出土は無く、有孔円盤、白玉以外の滑石製模造品の出土もきわめて少ない。しかしながら滑石製品および石片を多く出土した65号住居跡や72号住居跡は時期的にも長根羽田倉遺跡の祭祀遺構とほぼ対応する時期でもあり、距離的にも近いことなどから、何等かの関係が想定される。とくに65号住居跡は遺物の出土状況などから工房であった可能性が高い。さらにこの2軒以外にも同時期と判断される住居が20数軒検出されている、これらの中にも点数は少ないものの勾玉、白玉などを出土しているものが見られる。

### 3. 2号土器集積出土の滑石製品について

2号土器集積において出土した遺物の中にやや特異な滑石製品が見られる。当初その用途について考えをめぐらしたが、これは「温石」ではないかという指摘を受け、いくつかの資料、類例を当たったところ、指摘された通り温石である可能性が非常に高いと思われる。

温石とは縦横10cm内外の四角い石を用い、これを火の中に入れ加熱し、布に包んで懐などに入れて懐炉のようにして体を暖めるために用いたものである。石材は滑石、砂岩、軽石など比較的柔らかい石が用いられることが多い。(秩父地方では滑石のことを温石と呼んでいるということである)

ただし出土品を見る限りにおいては材質や形状については様々なものがあり、土製、瓦からの転用品なども見られる。滑石製のものには石鍋からの転用も見られる。また長円形、円形のものも存在するようであるが、中には温石と判断し難いものも散見される。

本遺跡出土のものは角が丸くやや長方形を呈し、長さ11.0cm、幅9.2cm、厚さ2.6cmで重さが約550gである。中央よりやや偏った場所に2か所の円孔が穿たれている。径は0.7～0.9cmで、ほぼまっすぐに通っている。両面には深さ数mmの鈍角な円錐状のくぼみがあり、さらに側縁は敲打痕、削痕が観察される。敲打された以外の面はかなり平滑であるが、良く見ると細かな穴が観察される。石材はわずかに青みを持つ滑石である。

出土状態は2号土器集積の最も遺物の集中して検出された場所において、土器に混じって出土している。底面よりは50cm程上での出土である。土器類の他には特に変わった伴出遺物は無い、伴出土器の年代は8世紀中頃から9世紀中頃にかけてと見られることから、この滑石製品も同様の年代と見て差し支えないであろう。

これまで群馬県内において出土の温石として報告されたものについては、管見にふれたもので4例を数える。小川城址、五目牛南祖遺跡出土のものについては中世または近世の所産と考えられる。秋間採集のもの

については時期は不明である。また荒砥島原遺跡出土のものは奈良時代の住居の床面より出土している。ただしこの荒砥島原出土のものはかなり大形で形状が異なり、温石としても使用方法に多少の違いが考えられる。

温石は地域によっては明治時代頃まで使われていたということである。各遺跡出土の温石については中世または近世の遺跡において出土するのが通例である。

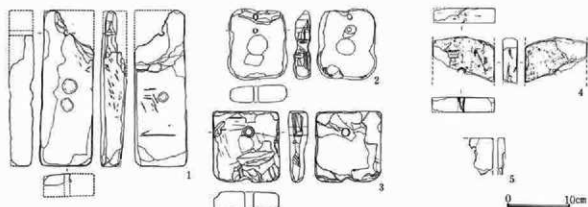
荒砥島原遺跡、神保富士塚遺跡のように8ないしは9世紀代に比定される例はきわめてまれである。言い換えればこの二例が明らかに温石であるとすれば、初源がどこまでさかのぼり得るかということでもあり、興味ある検討課題であると言える。

県内出土例はこの他にもあると思われるが、不勉強もありごくわずかな資料についてしか検討できなかった。あまり出土例がなく、ややもすれば見落とされがちな遺物である。

項をあらためさらに多くの資料の収集と検討を加えて行く中で、出自や具体的な使用方法、分布などを明らかにして行きたいと考えている。

## 群馬県内出土の温石

遺跡名	出土遺構	石材	大きさ	重さ	備考
1 荒砥島原	竪穴住居	結晶片岩	246mm 66mm 36mm	—	有孔 大型品 1部欠損
2 神保富士塚	土器集積内	滑石	110mm 92mm 26mm	550g	有孔(2孔)
3 安中市秋間地内	表探品	滑石	110mm 106mm 32mm	568.5g	有孔、剝離、火熱を受ける
4 小川城址	道路状遺構	蛇紋岩	100mm 60mm 22mm	—	有孔 欠損
5 五目牛南組	道路の側溝	蛇紋石片岩	58mm 38mm 12mm	32.5g	有孔 剝離多い 欠損



第730図 県内出土の温石

## 4. 出土鉄器について

本遺跡で出土した鉄器は総数150点を数える。種類の内訳は刀子、鎌、斧、紡錘車、鎌、釘、その他で数量的に最も多いものは釘、刀子類である。これらを出土した遺構の時期を見ると、10世紀代からその量が増加する傾向が窺え、種類も増えてくる。また住居内からの鉄滓の出土も多く、量、時期ともに製品との相関関係が見られる。

以下、それぞれの製品について出土量、形状について概観を行う。

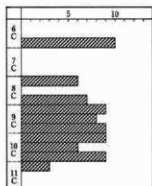
**鎌** 出土総点数は25点であるが、小破片も多く実際の数量は把握しがたい。形状が明確なものは図示したものだけである。本遺跡では6・7世紀代に比定されるものの出土は無く、8世紀代のものが初出である。91住-2は直刃でかなり使い込まれており身の部分がかなり細くなっている。119住-13は大型品である。曲刃で基部の折れが小さい。47住-10は先端部分の破損品である。曲刃で比較的大型品である。172住-16は11世紀代に比定されるもので、装着部が刃に対してほぼ90度に折れ曲がっており、端部が鉤状になっている。やや小形で形状的には新しいものである。

**斧** 3点が出土している。87住-4は8世紀後半に考えられるもので、袋部と刃部の境に肩を有し、刃部はやや広がりを持つ。2号土器集積-152は3例の中では最も大型品で、やはり刃部がわずかに広がるが、肩はそれほど顕著ではない。時期は伴出遺物から、8世紀後半から9世紀前半に否定されよう。41住-9は錆化がやや進んでいる。刃部はわずかに広がるが肩は見られない。器肉全体に厚みがある。時期は10世紀後半に位置付けられる。

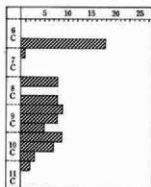
**刀子** 最も出土量の多い製品で、破損品も含めると約40点を数える。図示したものは比較的遺存状態の良いものである。最も初出のものは1住-28で6世紀後半に比定される。81住-8、13住-5は関の部分あまり明確には作り出されていない。177住-6は柄の部分に木質部がのこる。

**紡錘車** 輪の部分のこるものは3点出土しているが、輪については破損品が相当数が見られる。116住-22は唯一輪の端の部分が残るもので、鉤状に折れ曲がっている。137住-7、172住-15は輪の部分欠いている。前者の径が4.2cm、後者は3.8cm・(7.0cm)である。

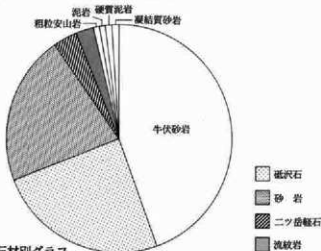
**鎌** 出土数は3点である。111住-8はやや小形で側縁がほぼ平行し、関を持つ。時期は9世紀中頃と思われる。166はグリッド出土のもので、平面形状が逆三角








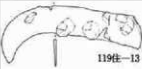


























第731図 時代別出土鉄器数



第732図 時代別出土石器数及び石材別グラフ



	鍔	弁	刀子	鋸齒草	鏃	釘・その他
600			 1住-28			 27住-2
700						
800	 91住-2	 87住-4	 81住-8	 13住-5		 19住-3
900	 119住-13	 2土集-152	 9住-24	 5住-14		 111住-8  9住-47  8住-10
1000	 47住-10		 114住-23	 57住-6	 116住-22	 グリッド-166  185住-4  166住-4
	 172住-16	 41住-9	 172住-15	 137住-7		 177住-6  63住-11  グリッド-51
			 2土集-154		 15調-22  15調-21	 グリッド-46

第733図 出土鉄製品種類一覧

形を呈す、基部分は折れて無い。板状で先端部がやや薄くなっている。時期は確定しがたいが、形からみて平安時代後半か。15溝-21は大型の製品で逆刺が大きく、断面は中央部がやや厚い紡錘状である。基部分は断面四角形で背図が明瞭に見られる。溝からの出土で、時期は中世にまで下るものと思われる。

その他 上述した種類以外にも多くのもの出土があったが、錆化がかなり進んでいたり、小破片のために不明なものも多い。19住-3は撻をもつ薄い板のに箱状のものがついている。166住-4は鉄であろう。47住-9はL字状に曲がったものに4本の短い棒が平行に着けられている。63住-11は銅製品か薄い板状で端部が肥厚する。器状の製品であろうか。15溝-22は一端が細くなる袋状の製品である。石突きであろう。46は火打ち金である、時期は不明。

以上、本遺跡出土の鉄器について概要を述べてきたが、周辺の集落遺跡と比較してもその出土量は多く、出土遺物は鉄屑の量などから見ても近隣に鍛冶遺構の存在が想定される。また砥石類の出土も目立ち、砥沢石、流紋岩製のかなり顕著な使用が観察されるものが多い。今後丹念な周辺踏査も含め、各遺跡出土の資料を詳細に比較検討する必要があるであろう。

## 5. 出土文字資料について

本遺跡で出土した墨書、刻書等の文字資料は破片類も含めて54点を数えた。墨書、刻書の内訳点数は前者が48点、後者が6点（内1点は砥石）である。この数は他の遺跡と比較してもかなり多い数量と言える。

第733図は出土した文字資料の分布を示したものである。墨書土器は1軒の住居において複数出土しているものが多く、1点(13・18・60・80・162・177号住居跡)、2点以上(7・9・16・51・56・74A・75・179号住居跡)である。最も多かったのは75号住居跡の15点である。

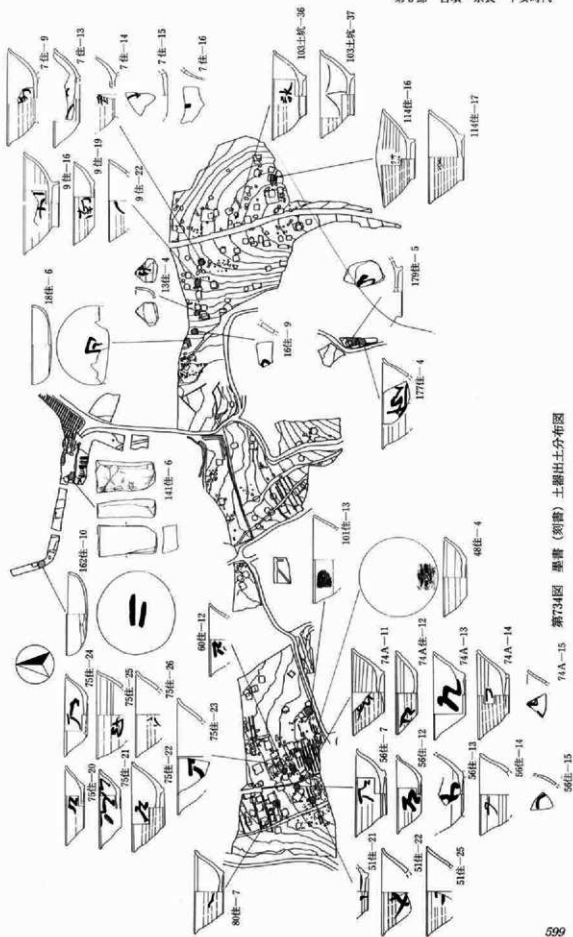
資料の所属時期はほとんどが9、10世紀代で、わずかに18住と162住より出土している2点の坏が8世紀後半代と考えられる。文字の書かれた器種についてはこの2点を除き総て須恵器の坏または埴である。書かれた部位は外面28点、内面14点で、内外面共に見られるものは3点である。文字は体部にあるものがほとんどで、内面底部にあるものが3点、底部外面にあるものが2点である。

墨書資料の読みについては読みの可能なものについては「二」、「万」、「得の略字」、「南」、「什」「君か畔」などがある。

刻書文字については48号住居跡の須恵器坏の内面に書かれたものについては「井」か。101号住居跡の資料は「穴」か。114号住居跡においては須恵器坏2点に刻書が見られた。1点は内面に「防?」「?」、もう1点は不明。さらに141号住居跡出土の砥石に書かれた3文字については「有」「万」「佛」と読める。また114号住居跡の2点については防、103号土坑出土の坏の内面に大きく書かれた線刻については「个」、13号住居跡の土師器坏の外面に書かれた文字については「什」か。

本遺跡において最も多く検出された墨書文字は「乃」（得の略字）である。56号住居跡において3点、60号住居跡において1点、74A号住居跡において2点、75号住居跡において5点の計11点である。これらの住居はきわめて近接して位置しており、時期もほぼ同じと考えられる。器種はすべて須恵器の坏で内外面に書かれたものが2点見られる。字体について見ると、同じ遺構出土のものでもやや違いが見られる。読みについては「得」の略字であろう。177号住居跡出土の須恵器の外面に書かれた文字は「廣」と思われる。また住居以外の遺構より出土したものとしては、103号土坑出土の須恵器坏がある。外面に書かれた墨書については言偏に火または夬であろうか読みは不明。作字か。





第734図 壘書(刻書)土器出土分布図

74A-15

## 第4章 まとめ

表8 墨書(刻書)一覧

	出土遺構	遺物番号	器 種	文字位置	文 字	備 考
1	7住	9	須恵器 埴	内 面		平 安
2	#	13	須恵器 坏	内 外 面		#
3	#	14	須恵器 埴	内 外 面		#
4	#	15	須恵器 埴	外 面		#
5	#	16	須恵器 坏	内 面		#
6	9住	16	須恵器 埴			#
7	#	19	須恵器 坏		南	#
8	#	21	須恵器 坏			#
9	13住	4	土師器 坏			#
10	16住	8	土師器 坏		什	#
11	#	9	須恵器 坏			#
12	18住	7	土師器 坏	外 面 底	万 か 奈 良	
13	48住	4	須恵器 坏	内面刻書	目 か	#
14	51住	21	須恵器 埴	外 面		#
15	#	22	#	#		#
16	#	25	#	#		#
17	56住	7	須恵器 坏	外 面		#
18	#	12	25	#	#	#
19	#	13	須恵器 埴	内 面		#
20	#	14	#	#		#
21	#	15	#	#		#
22	60住	12	#		得の略字	
23	74A住	11	#			
24	#	12	#		得の略字	
25	#	13	#		#	
26	#	14	#		#	
27	75住	20	須恵器 坏	内 外 面	#	内面底部に赤色顔料
28	#	21	#	内 外 面	#	#
29	#	22	須恵器 埴	内 面	#	#
30	#	23	須恵器 坏	外 面	#	#
31	#	24	#	内 面	#	#
32	#	25	#		#	#
33	#	26	#		#	#
34	#	27	#	内 面		
35	#	28	#			
36	#	29	#			
37	#	30	#			
38	#	31	#			
39	#	32	#			
40	#	33	#	内 面		
41	#	34	#	内 面		
42	80住	7	須恵器 埴	外 面		墨書か 転用瓦
43	101住	13	#		穴 か	刻書
44	114住	16	須恵器 埴	内 面		刻書
45	#	17	#	#		
46	141住	6	砥 石	一	有、佛、	刻書
47	162住	10	土師器 坏	底 面	二	奈 良
48	177住	4	須恵器 埴	外 面	廣の略字	
49	179住	3	#	外 面		
50	#	5	須恵器 坏	内 面 底		
51	15溝	7	#	外 面		
52	103土	36	須恵器 埴	外 面	晋に夫か	
53	#	37	須恵器 埴	内 面	↑	刻書、内面に大きく線刻される
54	ドリッド	13	須恵器 埴	内 面		内面転用瓦

## 神保富士塚遺跡1号溝出土の馬について(第646～648図・計測表P.494、PL187～191)

宮崎重雄

取り上げ平面図でみると、臼歯歯列群はA, B, C, D, Eの5群ある。Aは左下顎臼歯、Bは左上顎後臼歯1本を含む右上顎臼歯、Cは右上顎第四前臼歯、左上顎第三後臼歯を含む右下顎臼歯、Dは左下顎臼歯、Eは左上顎臼歯である。Eには湿地に埋存していたことを示す藍鉄錆が生成されている。

## 1) 個体数：4～5

同一個体であると考えられるのはAとC(1号馬)で、BとDも同一個体(2号馬)である可能性が高い。ただし、Dの下顎臼歯の大きさに対してBの上顎臼歯の大きさがやや大きすぎるので、別個体であることもあり得る。この場合はDを2号馬、Bを3号馬としておく。E(4号馬)はこれらとは別個体である。A～Eの歯列群とは別に取り上げ図の中に歯冠高の低い馬(?)歯群(5号馬)があるので、これを含めると、個体数は3～4個体である。

2) 年齢：1号馬は5～5.5才、2号馬は4.5～5才、(3号馬は4.5～5才)、4号馬は4.5～5才、5号馬は詳しいことはいえないが、図から見ると歯冠高が低く老馬であることが看取される。

3) 性別：いずれの馬も、性別を判断できる犬歯が検出できず、これが埋存中に腐食してしまったのか、本来犬歯が植立していなかったのか判断ができず、性別は不明である。

4) 馬格：1号馬、2号馬は下顎の歯列長が163cm前後が推定され、日本の在来馬でいえば、体高は100～120cm程度の小型馬相当と考えられる。また3号馬、4号馬は小さめの中型在来馬相当ではないだろうか。

5) その他の特徴的な事項：①2号馬では右の下顎の臼歯をまったく欠き、4号馬では右上顎臼歯、左右の下顎臼歯をまったく欠いている。②1号馬の左下顎臼歯列(A馬)では前臼歯3本と後臼歯3本の向きが反対側に並んでいる。すなわち後臼歯の咬合面は前臼歯の歯根側にあり、こういうことは前臼歯・後臼歯の境目で下顎骨が分離していたか、1本1本の歯が遊離歯になっていたかして、人の手によって並びかえられた可能性もある。発掘時以降の何らかの遺物処理の取り違えによって生じたのかも知れない。

#### 第4章 まとめ

##### 引用・参考文献

1. 「群馬県上毛古墳跡群」群馬県史蹟名勝天然記念物調査報告 第5号 1938年
2. 山崎義男「群馬県上毛保生式土器発掘調査報告」『考古学雑誌44-3』 1959年
3. 栗原文策「四十坂遺跡の初期弥生式土器」『上代文化30』 1960年
4. 入野道雄「吉井町文化財調査報告」 吉井町教育委員会 1962年
5. 梅沢重昭「北関東西部筒形土器の新例について」『考古学雑誌50-4』 1965年
6. 杉原正介「群馬県岩槻山における弥生時代の墓址」『考古学集刊3-4』 1967年
7. 小林行雄・杉原正介編「弥生式土器集成本編2」 1968年
8. 外山和夫「下仁田町阿原遺跡の弥生式土器」『群馬県立博物館12』 1969年
9. 外山和夫「北関東出土の筒形弥生式土器」『考古学ジャーナル48』 1970年
10. 「かよらの自然」 1972年
11. 石川正之助「群馬県出土のいわゆる中期弥生式土器に関する素稿」『群馬文化146号』 1973年
12. 山崎義男「先史遺跡考」 みやま文庫 1973年
13. 「吉井町誌」 吉井町誌編集委員会 1974年
14. 中村五郎「東北地方南部の弥生式土器編年」東北考古学の諸問題 1976年
15. 「群馬県地域における弥生時代の資料集」 群馬県立博物館研究報告 第14集 1978年
16. 「土倉免遺跡」 沼谷市教育委員会 1978年
17. 山内浩男「日本先史土器の縄文」 先史考古学会 1979年
18. 杉原正介「栃木県出羽原における弥生時代の墓址」明治大学文学部研究室報告 第4冊 1981年
19. 「清原・皮中塚遺跡」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1981年
20. 「辰沢遺跡」 高崎市教育委員会 1981年
21. 群馬県史 資料編3 原始古代3 古墳 群馬県史編さん委員会 1981年
22. 今村智爾「群馬県多野郡万場町岩津保宮遺跡第一次調査の概要」 武蔵野美術大学考古学研究会 1981年
23. 「黒熊遺跡群発掘調査報告書(2)」 吉井町教育委員会 1982年
24. 設楽博巳「中部地方における弥生土器の成立過程」『信濃34-4』 1982年
25. 「川内遺跡群発掘調査報告書」 吉井町教育委員会 1982年
26. 「富岡遺跡」 吉井町教育委員会 1982年
27. 「茨城鳥原遺跡」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983年
28. 第4回 三県シンポジウム「東日本における黎明期の弥生土器」 群馬県考古学談話会編集 1983年
29. 「塚原遺跡・黒熊第一遺跡」 吉井町教育委員会 1983年
30. 井上唯雄・柳沼忠介「考古学ジャーナル 入門講座 弥生土器 北関東1~4」 ニューサイエンス社 1983年
31. 杉原正介「長野県考古学協会」阿島式土器の形成 長野県考古学会 1984年
32. 葛西功「埴形土器の分布(上)一関東地方の弥生時代初期を中心に」史館 第16号 史館同人 1984年
33. 茂木山行「群馬県における埴形式土器の編年」『群馬考古通信』第9号 群馬県考古学談話会 1984年
34. 「黒熊遺跡群発掘調査報告書(3)」 吉井町教育委員会 1984年
35. 中島宏「池守・池上遺跡」埼玉県教育委員会 1984年
36. 「小川城址」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985年
37. 「黒熊遺跡群発掘調査報告書(4)」 吉井町教育委員会 1985年
38. 「黒熊遺跡群発掘調査報告書(5)」 吉井町教育委員会 1985年
39. 「入野遺跡」 吉井町教育委員会 1985年
40. 「荒砥原遺跡・赤石城址」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985年
41. 石川日出志「関東地方初期弥生式土器の一系譜」論集日本原史 P.479~506 1985年
42. 宮下健司「日本における研磨技術の系譜」(先土器・縄文時代の砥石と研磨技術を中心として)論集日本原史 1985年
43. 第7回三県シンポジウム「東日本における中期後半の弥生土器」 群馬県考古学談話会編 1986年
44. 「弥生文化の研究3」弥生土器Ⅰ 金関勉・佐原真 編集 雄山閣 1986年
45. 「道六神遺跡」 吉井町教育委員会 1986年
46. 「群馬県史 資料編2 原始古代2 弥生・土師」 1986年
47. 「弥生文化の研究4」弥生土器Ⅱ 金関勉・佐原真 編集 雄山閣 1987年
48. 「富岡市史」自然編 原始・古代・中世編 富岡市史編纂委員会 1987年
49. 「東沢遺跡・折茂東遺跡」 吉井町教育委員会 1987年
50. 「西陽館・長根・宿遺跡」 吉井町教育委員会 1987年
51. 「西陽館・長根・宿遺跡」 吉井町教育委員会 1987年
52. 工業博通「阿島式土器和式土器のなまか」弥生文化の研究 4. 弥生土器Ⅱ 雄山閣 1987年
53. 群馬県史 資料編1 原始古代1 旧石器・縄文 群馬県史編さん委員会 1988年
54. 「田代上平遺跡」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988年
55. 徳山寿樹「北関東西部における弥生前半の有文埴形土器 観区画・観区切り系土器群について」土器考古 第14号 1988年
56. 「甘楽来風遺跡」 甘楽町教育委員会 1989年
57. 「柳谷戸遺跡群発掘調査報告書」 吉井町教育委員会 1989年
58. 「矢田遺跡Ⅰ」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990年
59. 「古立東山遺跡・古立中村遺跡・八木連野沢遺跡・八木連荒沼遺跡」 妙義町教育委員会 1990年
60. 「長根羽田倉遺跡」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990年
61. 「田代中原遺跡」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990年
62. 「矢田遺跡Ⅱ」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991年

### 第3節 古墳・奈良・平安時代

63. 平野道一・相京建史 「群馬県出土の磨製石包丁」	群馬県立歴史博物館紀要 第12号	1991年
64. 「神保下墓遺跡」	群馬県埋蔵文化財調査事業団	1992年
65. 「内匠源訪前遺跡・内匠日影塚地遺跡」	群馬県埋蔵文化財調査事業団	1992年
66. 「矢田遺跡Ⅲ」	群馬県埋蔵文化財調査事業団	1992年
67. 「五日午南組遺跡」	群馬県埋蔵文化財調査事業団	1992年
68. 「群馬県出土の墨書・刻書土器集成(2)」	群馬県教育委員会	1992年
69. 若狭徹「弥生中期出流原居形成過程の一考察 榛名山南麓における新例資料を媒介に」	群馬考古学手帳	1992年
70. 「内匠源訪前遺跡・内匠日影塚地遺跡」	群馬県埋蔵文化財調査事業団	1992年
71. 「前畑遺跡・内出Ⅰ遺跡・丹生城西遺跡・五分一遺跡・千足遺跡」	富岡市教育委員会	1992年
72. 「粕川原Ⅰ・粕川原Ⅱ・西平原」	富岡市教育委員会	1992年

## 報告書抄録

フリガナ	ジンボフジツカイセキ
書名	神保富士塚遺跡
副書名	関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第18集
巻次	
シリーズ名	鉾群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第154集
編集者名	小野和之
編集機関	鉾群馬県埋蔵文化財調査事業団
編集機関所在地	〒377 群馬県勢多郡北橋村下箱田784-2
発行年	西暦1993年3月26日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ジンボフジツカイセキ 神保富士塚	タマゴノキヤウイマツノホ 多野郡吉井町神保	10363	10005 -00266	36°14'15"	138°58'25"	19871101— 19881031	26,890m <sup>2</sup>	道 路 設 計

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
神保富士塚 遺跡	居住	旧石器時代 縄文時代	竪穴住居 土坑	彫刻刀形石器 他 土器・石器	縄文時代から平安時代 にかけての集落。 弥生時代中期の土坑 群、平安時代の土器集 積2カ所。 馬歯を出土した中世の 溝等。
		弥生時代 古墳時代 奈良時代 平安時代	竪穴住居 竪穴住居 土器集積 溝	土器・石器 土器・石器 土器・石器 土器・石器 土器・石器	
	墓	中世 近世	土坑	土器・石器 土器・石器 馬歯 陶磁器類、 古銭	

群馬県埋蔵文化財調査事業団  
調査報告第154集

## 神保富士塚遺跡 (本文編)

間越自動車道(上越線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第18集

平成5年3月19日印刷

平成5年3月26日発行

編集／群馬県埋蔵文化財調査事業団  
勢多郡北碓村大字下箱田784-2  
電話(0279)52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会  
勢多郡北碓村大字下箱田784-2  
電話(0279)52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社